新潟県埋蔵文化財調査報告書　第157集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XIII

住　吉　遺　跡

２００６

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XIII

住吉（すみよし）遺跡

２００６

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市の新潟空港インターチェンジを起点に、山形県・秋田県を経て、青森市に至る高速自動車道です。現在、胎内市中条インターチェンジまで開通し、次の荒川インターチェンジに向けて工事は着々と進んでいます。また、それに伴う発掘調査も順次行われています。

日本道路公団は平成17年10月に民営化され、高速自動車道建設を取り巻く環境も厳しく、不透明な点もありますが、地元の建設要望には強いものがあります。

本書は、この高速自動車道建設に先立って、平成10・11年度に発掘調査した「住吉遺跡」の調査報告書です。この遺跡は旧紫雲寺町南部の紫雲寺潟（塩津潟）南東部潟端に位置します。調査の結果、13～14世紀、鎌倉時代の集落である事が明らかとなりました。多くの掘立柱建物や井戸跡が検出され、出土遺物では輸入陶磁器が多く出土しました。

この地域は中世加地荘・奥山荘と呼ばれ、多くの文献史料が残されており、歴史研究の進んでいるところです。今回の調査結果が、考古学研究者だけでなく、地域の歴史を知り、学ぼうとする多くの方々に活用される事を願っております。

最後に、この調査に参加された地元住民の方々や旧紫雲寺町教育委員会には、多大なご協力とご援助をいただきました。また、旧日本道路公団北陸支社（現東日本高速道路株式会社）には調査に際して格別のご配慮をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

平成18年1月

新潟県教育委員会

教育長　武藤　克己

例　　言

1　本書は、新潟県新発田市（旧紫雲寺町）中島字住吉に所在する住吉遺跡の発掘調査記録である。

2　発掘調査は日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、新潟県教育委員会（以下県教委）が日本道路公団北陸支社（当時）から受託して実施した。

3　発掘調査は県教委が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下埋文事業団）に調査を委託して、平成10・11年度に実施した。発掘調査面積は延べ8,150m^2である。

4　整理および報告書に係る作業は、平成17年度に新潟県埋蔵文化財センターにおいて埋文事業団職員がこれにあたった。

5　出土遺物および記録類は、県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。なお、遺物の注記記号は「住ヨシ」とし、出土地点・層位を併記した。

6　文中の注釈はページごとの脚注とした。また、引用文献は著者および発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に掲載した。なお、「第Ⅵ章　自然科学分析」の引用文献については、各節末に掲載した。

7　本書に掲載した遺物番号はすべて通し番号とし、本文・図面図版・写真図版の番号は一致している。

8　本書の方位はすべて真北である。ただしここでいう「真北」は日本平面国家座標のＸ軸方向を示す。

9　作成した挿図・図版のうち、既存の図を使用した場合にはそれぞれに出典を記した。

10　本書の編集・執筆は高橋保（調査課整理担当課長代理）が担当した。ただし第Ⅱ章１は県教委・埋文事業団の既刊報告書［荒川2004］を一部改変して転載した。また、第Ⅵ章自然科学分析１～３・５は、パレオ・ラボ、４は（株）九州テクノリサーチに委託した。また、６の年輪年代測定は奈良文化財研究所光谷拓実氏に依頼し、玉稿を賜った。

11　遺構等の執筆は、各年度調査者の遺構カードを基本とした。

12　本書作成・編集作業の一部は株式会社セビアスに委託した。詳細は第Ⅰ章に記す。

13　本遺跡については、『埋文にいがた』No.24（1998）No.27・28（1999）、『発掘調査報告会2000』［鹿野2000a］、『新潟考古学会第12回大会研究発表会発表要旨』［飯坂2000］、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』［杉田1999；鹿野2000b］に記載されているが、本書の記述をもって正式な報告とする。

14　遺物のうち珠洲焼については大安尚寿氏（珠洲市教育委員会）、中世土師器については鶴巻康志氏（新発田市教育委員会）・水澤幸一氏（胎内市教育委員会）、輸入陶磁器については山本信夫氏（金沢大学埋蔵文化財センター）、常滑焼については中野晴久氏（常滑市民俗資料館）、美濃瀬戸については藤澤良祐氏（愛知学院大学）、砥石については水澤幸一氏（胎内市教育委員会）からそれぞれ見方・年代観のご指導を得、報告書に反映させた。ただし、当方の聞き違え等も考えられ、文責は高橋にある。

15　発掘調査から本書の製作に至るまで、下記の方々から多大なご教示を賜った。厚く御礼申し上げる。

（敬称略　五十音順）

穴澤義功　荒川隆史　大安尚寿　坂井秀弥　汐見一夫　島田仁志　鈴木　暁　高橋一樹
竹田和夫　鶴巻康志　手塚直樹　中野晴久　藤澤良祐　前島　敏　水澤幸一　光谷拓実
文化庁

目　　次

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査の経過 …… 2
A　一次調査 …… 2
B　二次調査の経過 …… 2
C　調査体制 …… 4
D　整理および体制 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境 …… 5

2　歴史的環境 …… 7

3　中世遺跡の分布 …… 8

第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドの設定 …… 11

2　基本層序 …… 11

第Ⅳ章　遺　　構

1　遺構の概要 …… 14

2　遺構各説 …… 14
A　掘立柱建物・柵列 …… 14
B　井　　戸 …… 17
C　土　　坑 …… 21
D　溝 …… 26

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要 …… 32

2　各　　説 …… 32
A　土器・陶磁器 …… 32
B　土製品 …… 37
C　製鉄関連 …… 37
D　金属製品 …… 39
E　石製品 …… 39
F　木製品 …… 40
G　銭　　貨 …… 47

第Ⅵ章　自然科学分析

1　住吉遺跡の花粉化石群集 …… 48
A　試　　料 …… 48
B　方　　法 …… 48
C　花粉化石群集の記載 …… 48
D　考　　察 …… 51

2　堆積物中の珪藻化石群集 …… 54
A　はじめに …… 54
B　試料の処理方法 …… 54
C　珪藻化石の環境指標種群 …… 54
D　珪藻化石の特徴とその堆積環境 …… 55
E　考　　察 …… 59

3　住吉遺跡のプラント・オパール …… 61
A　試　　料 …… 61
B　分析方法 …… 62
C　分析結果 …… 62
D　稲作について …… 64
E　遺跡周辺のイネ科植物 …… 64

4　住吉遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査 …… 66
A　いきさつ …… 66
B　調査方法 …… 66
C　調査結果 …… 67
D　まとめ …… 70

5　出土木製品の樹種同定 …… 75
A　はじめに …… 75
B　試料と方法 …… 75
C　結　　果 …… 75
D　考　　察 …… 78

6　住吉遺跡出土木製品の年輪年代調査 …… 83
A　試料と方法 …… 83
B　結　　果 …… 83
C　木棺の年輪年代 …… 83
D　井筒の年輪年代 …… 84

第Ⅶ章　まとめ

1　遺構の配置 …… 85

2　遺　　物 …… 88
A　中世土師器 …… 88
B　輸入陶磁器 …… 93
C　木製品 …… 95
D　金属製品・石製品 …… 97
E　種実類 …… 97

3　遺跡の性格 …… 99

《要　　約》 …… 103

《引用・参考文献》 …… 104

《別　　表》 …… 107
別表1　遺構一覧表 …… 107
掘立柱建物
柵　　列
井　　戸
土　　坑

溝
別表２　遺物観察表……115
土器・陶磁器
土　製　品
金属製品
石　製　品
木　製　品
銭　　貨
別表３　木製品集計表……138

挿図目次

第１図　住吉遺跡の位置 …… 1
第２図　一次調査トレンチ設定図 …… 2
第３図　年度別調査範囲 …… 3
第４図　遺跡周辺の地形 …… 6
第５図　紫雲寺地域の発達概念図 …… 6
第６図　中世阿賀北の荘園・公領 …… 7
第７図　紫雲寺潟周辺中世遺跡分布図 …… 9
第８図　グリッド設定図……11
第９図　土層断面図……12
第10図　土師質土器分類図……33
第11図　鉄滓分布図……38
第12図　羽口分布図……38
第13図　砥石分布図……40
第14図　銭貨分布図……47
第15図　試料１地点（9A-17）の花粉化石分布図 50
第16図　試料２地点（12A）の花粉化石分布図‥50
第17図　試料３地点（12B）の花粉化石分布図‥51
第18図　産出した花粉化石（1）……52
第19図　産出した花粉化石（2）……53
第20図　北側遺構群堆積物中の珪藻化石分布図‥58
第21図　溝堆積物中の珪藻化石分布図……58
第22図　堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真……60
第23図　試料採取地点の地質柱状図と試料採取層準
……61
第24図　試料１地点のプラント・オパール分布図
……63
第25図　試料２地点のプラント・オパール分布図
……63
第26図　試料３地点のプラント・オパール分布図
……63
第27図　住吉遺跡のプラント・オパール……65
第28図　FeO-TiO_2 二元平衡状態図 ……70
第29図　椀形鍛冶滓・鉄素材の顕微鏡組織……71
第30図　鉄素材の EPMA 調査結果 ……72
第31図　鉄製品の顕微鏡組織……73
第32図　鉄製品の EPMA 調査結果 ……74
第33図　住吉遺跡出土木製品材組織の走査電子
顕微鏡写真（1）……80
第34図　住吉遺跡出土木製品材組織の走査電子
顕微鏡写真（2）……81
第35図　住吉遺跡出土木製品材組織の走査電子
顕微鏡写真（3）……82
第36図　住吉遺跡出土木製品の年輪年代……84
第37図　県内の中世屋敷墓とみられる遺構……86
第38図　遺構配置模式図……87
第39図　土師質土器Ａ類分布図……89
第40図　土師質土器Ｂ・Ｃ類分布図……90
第41図　土師質土器皿編年案……92
第42図　輸入陶磁器分布図……94
第43図　漆器編年案……96
第44図　曲物……97
第45図　周辺の中世遺跡 ……101

表　目　次

第１表　鎌倉期阿賀北地方の地頭 …… 7
第２表　加地荘関連史料 …… 8
第３表　土器分類表……32
第４表　花粉化石一覧表……49
第５表　堆積物中の珪藻化石産出表（1）……56
第６表　堆積物中の珪藻化石産出表（2）……57
第７表　各地点の堆積物の堆積環境……59
第８表　試料1gあたりのプラント・オパール個数
……62
第９表　供試材の履歴と調査項目……66
第10表　供試材の組成……67
第11表　出土遺物の調査結果のまとめ……70
第12表　器種別の樹種……79
第13表　大型曲物の木取り（樹種はスギ）……79
第14表　各建物跡出土礎板・柱根の樹種集計‥‥79
第15表　住吉遺跡出土木製品の年輪年代……84

第16表　土器集計表……88
第17表　土師質土器集計表……91
第18表　輸入陶磁器集計表……95
第19表　種実一覧……98

図版目次

［図　面］

図版 1　遺構全体図
図版 2　遺構分割図1
図版 3　遺構個別図1　SB15　SB16　SK1037　SE1252
図版 4　遺構個別図2　SE1005　SK1030・1035　SD1012　SD1013・1014・1016　SD1251
図版 5　遺構分割図2
図版 6　遺構個別図3　SB1
図版 7　遺構個別図4　SAエ　SB2
図版 8　遺構個別図5　SB2　SB3
図版 9　遺構個別図6　SB4　SAウ
図版10　遺構個別図7　SK1070　SK1074・1073　SD1203　SD811　SD5001　SD1264　SD1213　SD1227
図版11　遺構分割図3
図版12　遺構個別図8　SE5005　SE5038　SE5035　SK5027　SD5001　SK5021　SD5011　SD5017　SD5018
図版13　遺構分割図4
図版14　遺構個別図9　SB19　SB20　SK22　SK6001　SK6021　SK6023　SK6040　SK6037　SD6012
図版15　遺構分割図5
図版16　遺構個別図10 SB17　SB18　SB23　SE947　SE476
図版17　遺構個別図11 SK278　SK636　SK956　SK2004　SK2003　SD980・977・1012　SD2012　SD244　SD2024
図版18　遺構分割図6
図版19　遺構個別図12 SB8　SB9
図版20　遺構個別図13 SB9　SB10
図版21　遺構個別図14 SB11　SB12
図版22　遺構個別図15 SB13　SB21　SB22
図版23　遺構個別図16 SE17　SE43　SE227　SE229　SE241
図版24　遺構個別図17 SE421　SE280
図版25　遺構個別図18 SE910・911　SK235　SK16　SK39　SE2026　SK608　SK104　SK106
図版26　遺構個別図19 SK763　SK1075　SK1072　SK2091　SK2039　SK2040　SD233　SD516・234　P1095　SD2027　SD2087　SD2090　SD2094　SD2095
図版27　遺構分割図7
図版28　遺構個別図20 SB5
図版29　遺構個別図21 SB5　SB6
図版30　遺構個別図22 SB6
図版31　遺構個別図23 SB7
図版32　遺構個別図24 SB14　SE210　SE168
図版33　遺構個別図25 SE313　SE384　SE495　SE755
図版34　遺構個別図26 SE2022　SE2044　SE2049　SK7　SK6　SK328
図版35　遺構個別図27 SK5
図版36　遺構個別図28 SK2035　SK2042　SK2043　SK2070　SK2077　SK2074
図版37　遺構個別図29 SK2098　SK2101　SK2114　SD14　SD37　SD38　SD166　SD164・165　SD172・329　SD312　SD2072　SD2073　SD465・466　SD2023　SD2105・2106

図版38　遺構分割図8
図版39　遺構個別図30 SE378　SE385　SK330　SE322・349・376・359　SE496
図版40　遺構個別図31 SE2066・SD2086・2065　SE2050　SK2051　SK2059・2060　SK2048・2047
SK2062・2063　SK2121
図版41　遺構個別図32 SD2005・2006・2007
図版42　遺構個別図33 SD2056・2084　SD2110　SD2084　SD2120　SD71　SE3　SD2　SK4
図版43　遺構分割図9
図版44　遺構出土土器1
図版45　遺構出土土器2
図版46　遺構出土土器3
図版47　遺構出土土器4
図版48　遺構出土土器5
図版49　遺構出土土器6
図版50　遺構出土土器7
図版51　遺構出土土器8
図版52　遺構出土土器9
図版53　遺構出土土器10
図版54　包含層出土土器1
図版55　包含層出土土器2
図版56　土製品・金属製品・石製品1他
図版57　石製品2
図版58　石製品3
図版59　木製品1
図版60　木製品2
図版61　木製品3
図版62　木製品4
図版63　木製品5
図版64　木製品6
図版65　木製品7
図版66　木製品8
図版67　木製品9
図版68　木製品10
図版69　木製品11
図版70　木製品12
図版71　木製品13
図版72　木製品14
図版73　木製品15
図版74　木製品16
図版75　木製品17
図版76　木製品18
図版77　木製品19
図版78　木製品20
図版79　木製品21
図版80　木製品22
図版81　木製品23
図版82　木製品24
図版83　木製品25
図版84　木製品26

図版85　木製品27
図版86　木製品28
図版87　木製品29
図版88　木製品30・銭貨1
図版89　銭貨2
［写　真］
図版90　平成11年度調査区全景
図版91　平成10年度調査区　SB2・SB3
図版92　SB2～4およびSD1203　SD2
図版93　SB1
図版94　SAエ　SB2
図版95　SB2　SB3
図版96　SAウ　SB4　SB5
図版97　SB5　SB6　SB7
図版98　SB6　SB7
図版99　SB7　SB8　SB9　SB10
図版100　SB9
図版101　SB9　SB10　SB11
図版102　SB11　SB12
図版103　SB13　SB14　SB16　SB17　SB18
図版104　SB18　SB19　SB20　SB22　SB23
図版105　SE1005　SE1252　SE5005　SE5035　SE947　SE476
図版106　SE476　SE17　SE43　SE227　SE229
図版107　SE229　SE241　SE421　SE280
図版108　SE910　SE911　SE2026　SE210
図版109　SE168　SE313　SE384　SE495　SE755
図版110　SE755　SE2022　SE2044　SE2049
図版111　SE378　SE385　SE349・359　SE2066　SE349・359・376・496　SE2050　SE3
図版112　SK1037　SK1030　SK1035　SK1073　SK5027　SK5021　SK22
図版113　SK6001　SK6021　SK6023　SK6040　SK6037　SK278
図版114　SK636　SK956　SK2004　SK39　SK106
図版115　SK608　SK763　SK1072　SK1075　SK5
図版116　SK5　SK2042　SK2043　SK2077
図版117　SK2101　SK2114　SK330　SK2059
図版118　SK2059　SK2060　SK2047・2048　SK4　SD1016　SD1251
図版119　SD1203　SD811　SD5001　SD1264
図版120　SD1213　SD980・977　SD1012（SD980・977）　SD1095　SD14　SD164・165
図版121　SD172　SD312　SD465・466　SD2023（SD234）　SD2105・2106　SD348（SD2005）
図版122　SD2005（SD348）　SD2006・2007　SD2
図版123　土器1
　　青白磁・梅瓶・小椀・蓋・褐釉蓋・青磁椀
図版124　土器2
　　青磁盤・坏・椀
図版125　土器3
　　青磁椀
図版126　土器4
　　白磁壺・皿・他
図版127　土器5

図版128　土器6
図版129　土器7
図版130　土器8
図版131　土器9
図版132　土器10
図版133　土器11
図版134　土器12・土製品・金属製品・石製品1
図版135　石製品2・木製品1
図版136　木製品2
図版137　木製品3
図版138　木製品4
図版139　木製品5
図版140　木製品6
図版141　木製品7
図版142　木製品8
図版143　木製品9
図版144　木製品10
図版145　木製品11
図版146　木製品12
図版147　木製品13
図版148　木製品14
図版149　木製品15
図版150　木製品16
図版151　木製品17

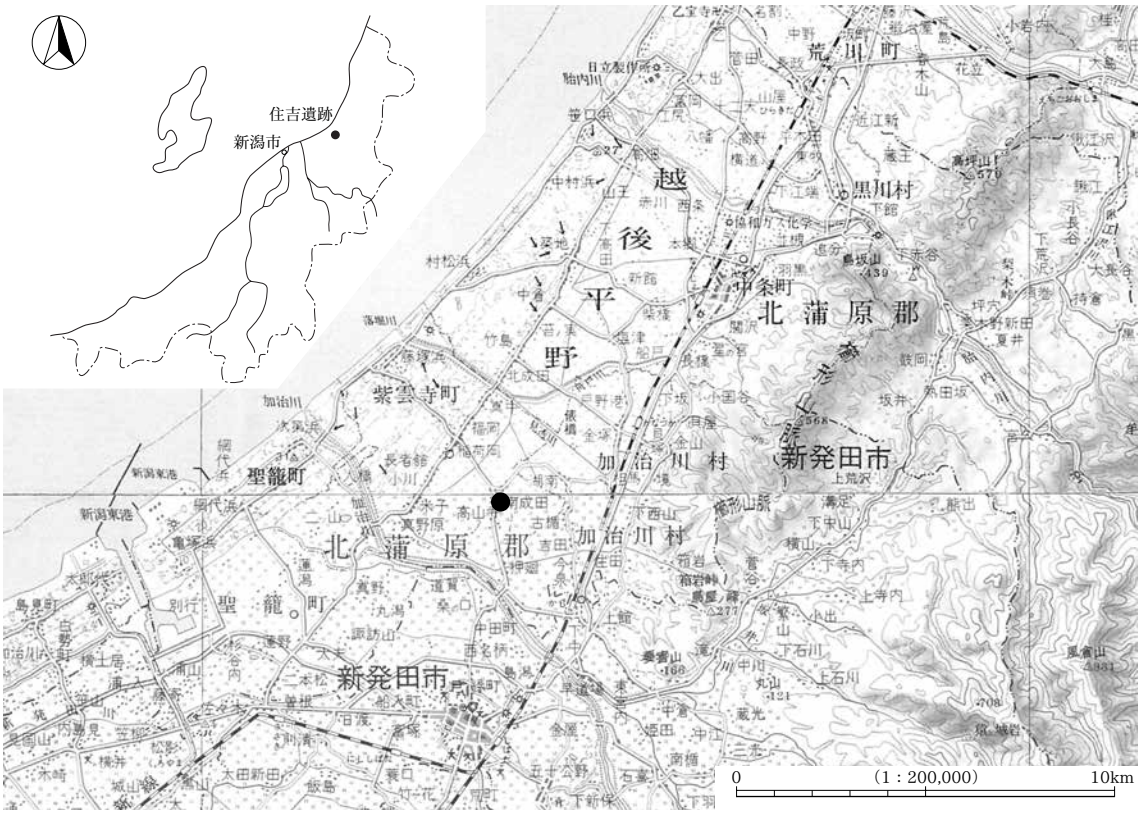
第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から青森市に至る高速自動車道である。現在胎内市の中条インターまでは開通しており、南側基点で北陸自動車道と連結している。北に向っての建設工事およびそれに伴う発掘調査は継続中である。

日本海沿岸東北自動車道の新潟空港インターチェンジ（新潟市）から中条インターチェンジ（胎内市）までの28kmは、平成元年２月に基本計画が決定された。住吉遺跡のかかる第12次施工区間は、平成５年11月に施工命令が出された。これを受けて、日本道路公団北陸支社（当時、以下道路公団と略す）と新潟県教育委員会（以下県教委）との間で、法線内の遺跡の分布調査・試掘調査に関する協議が本格化した。県教委は道路公団の依頼を受け、平成６年３月１日、11月28日から12月１日に第12次施工命令区間の踏査を行い、周知の遺跡２か所、新発見の遺跡15か所について一次調査が必要な旨道路公団に通知した。その後、遺跡推定地６か所を追加し、一次調査対象地は21か所となった。住吉遺跡は、この推定地のうちの一つである。

県教委から調査を委託された財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下埋文事業団）は、平成９～12年度に対象地21か所について一次調査を実施した。調査の結果、住吉遺跡を含む５遺跡について二次調



第１図　住吉遺跡の位置
（国土地理院発行「新潟」（H8）「村上」（H13）１：200,000原図）

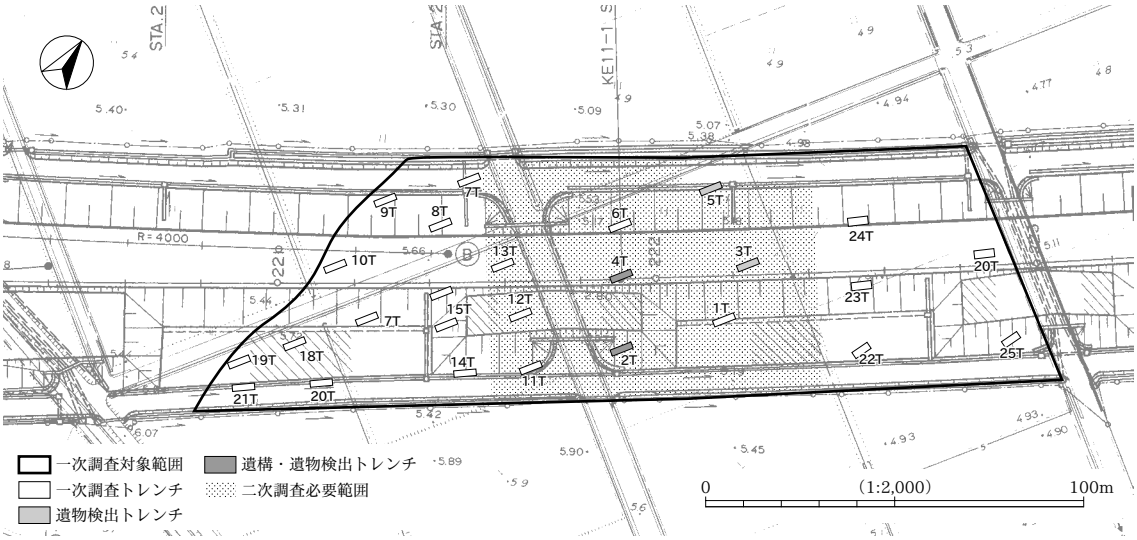
査が必要な旨報告した。

住吉遺跡の一次調査は、平成９年４月に行い、新発見の遺跡として登録された。二次調査は、平成10年・11年度の２か年に渡って行った。

2　調査の経過

A　一 次 調 査

当地点は遺跡推定地22として一次調査必要地点としたところである。調査は平成９年４月８日～11日の４日間実施した。対象範囲は微高地と観察される長さ約150m、面積は約12,000m^{2}である。26か所の試掘トレンチを設定して行った。調査面積は410m^{2}で確認率は3.4％である。現況は水田地帯で、低湿地のため耕作土の下はシルト質土となり、その下は砂層である。調査の結果、北側の４か所のトレンチで遺構・遺物が確認された。2Tで珠洲焼３点・中世土師器４点、3Tで珠洲焼１点、4Tで陶磁器（青磁、青白磁等）14点・珠洲焼５点・中世土師器52点・石器１点、5Tで青磁１点が出土し、また2T・4Tで土坑・ピットが確認された。遺物の時期は13～14世紀である。この結果、二次調査範囲は地形等を考慮して第２図とした。本調査必要面積は5,400m^{2}となった。なお、新発見遺跡であることから、遺跡名は小字名から住吉遺跡とした。



第２図　第一次調査トレンチ設定図

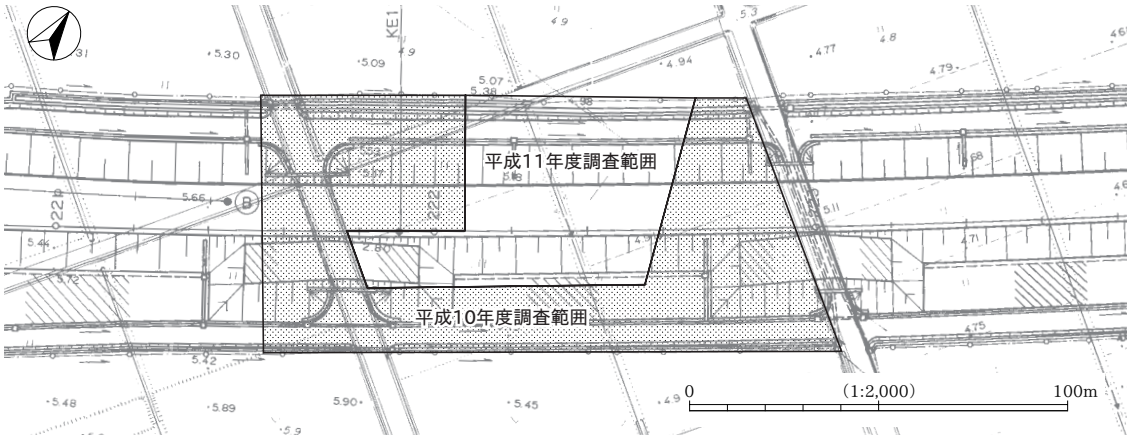
B　二次調査の経過

平成10年度

４月初めから道路公団と協議しながら諸準備に入った。公団から南側（山側）の幅10mを工事用道路として使用したいため、その部分を優先して調査してほしい旨の要望があった。その他農道の切り回し部分等も優先することで、５月連休明けから本格的な調査に着手した。工事用道路予定部分では、予想を越え多くの溝・井戸が検出され、遺物も多く出土した。東側の調査予定ラインまで遺構・遺物が検出されたため、東側調査区外に遺跡が延びていることが確実となった。そのため、６月13日に東側30～40mにわ

たってトレンチ調査を実施した。その結果、遺構・遺物はそう多くはないものの、遺跡が延びることが確認された。この南側工事用道路予定地部分は、遺構が多いため困難を極めた。また並行して調査を進めた西側部分では、井戸・溝等検出されたが比較的遺構密度は薄く、町道から西側の690m^{2}について調査を終了し、7月13日に一部終了通知を提出した。遺跡が延びるとした東側については次の農道まで調査範囲拡大とし、2,750m^{2}を追加し全体で8,150m^{2}とした。

工事用道路部分は当初9月末終了を目指して調査を継続したが困難であることが確実となり、また全体を終了することも困難となったため、9月末に県教委に対して今年度終了面積の変更を要望した。変更理由としては、遺構密度が予想をはるかに上回ったこと、当初の作業員数が少なかったこと、道路の切り回し等調査以外の要因もあったこと等である。全体面積8,150m^{2}のうち、今年度終了予定面積は4,377m^2、次年度は3,773m^{2}である。これを受けて県教委文化行政課は公団と協議を行い、次年度も調査を継続できることと次年度は8月末までに調査を終了することで了解を得た。また、今年度調査面積、次年度調査面積を図面を添えて報告するよう求めがあった。これに対して調査範囲の再検討を行い、次年度調査面積を3,050m^{2}として回答した。このような中で、南側工事用道路予定部分2,040m^{2}はようやく10月末で調査を終了し、公団に引き渡した。調査も終盤にさしかかった12月5日には現地説明会を実施し、200人近くの参加があった。調査は12月11日に終了した。最終的な調査終了面積は5,100m^{2}である。



第3図　年度別調査範囲

平成11年度

11年度は残りの3,050m^{2}で、遺跡地の中央部分にあたる。表土剥ぎ、包含層掘削はすでに昨年度ほとんど終了していたため、遺構精査から着手した。昨年度に引き続き多くの溝・土坑・井戸・柱穴が検出された。調査は予定通り進行し、8月で終了した。7月20日には現地説明会を開催し、200人近い参加者があった。なお、11年度は遺構平面測量を業者に委託し、調査促進に努めた。

C　調 査 体 制

以下のとおりである。

一次調査

	平成９年度
調 査 期 間	４月８日～11日
調 査 主 体	新潟県教育委員会（教育長　平野　清明）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　平野　清明）
総　　括	須田　益輝（事務局長）
管　　理	若槻　勝則（総務課長）
庶　　務	泉田　　誠（総務課主事）
調査総括	亀井　　功（調査課長）
調査指導	藤巻　正信（調査第一係長）
調査担当	飯坂　盛泰（同文化財調査員）
調査職員	浦部　頼之（同文化財調査員） 清水　精也（同嘱託員）

二次調査

	平成10年度	平成11年度
調 査 期 間	４月16日～12月11日	４月12日～８月31日
調 査 主 体	新潟県教育委員会（教育長 野本憲雄）	同左
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　野本　憲雄）	同左
総　　括	須田　益輝（事務局長）	同左
管　　理	若槻　勝則（総務課長）	同左
庶　　務	椎谷　久雄（総務課主事）	同左
調査総括	本間　信昭（調査課長）	同左
調査指導	寺崎　裕助（調査第一係長）	同左
調査担当	杉田　健一（同主任調査員）	飯坂　盛泰（同文化財調査員）
調査職員	齊藤　和弘（同主任調査員） 鹿野　弘之（同文化財調査員）	佐藤　敦史（同主任調査員） 鈴木　　勉（同主任調査員） 鹿野　弘之（同文化財調査員） 海津　　知（同嘱託員）

D　整理および体制

1）経　　過

遺物の水洗および注記はすでに各調査年度に済ませており、整理作業は平成17年度に埋蔵文化財センターにおいて実施した。遺物については、事業団職員が接合・復元、実測遺物の選出・図化・トレース・写真撮影を行った。なお、木製品の実測および写真撮影については、平成15年度に鈴木俊成資料担当課長代理の指導のもと、嘱託員３名（山下健・小林智美・笹川陽子）で実施している。写真撮影にはデジタルカメラ（ニコンD100）を使用した。遺構の製図作業は、原図および仮版作成を事業団職員が行い、トレース・版組は株式会社セビアスに委託した。本文・図版を含むすべての編集を行った後、編集委託業者（株式会社セビアス）からは、デジタルデータ（DTP）で納品を受けた。なお、事業団は本文・図版のレイアウトを含む編集作業を行い、以下の資料をセビアスに支給した。

本文・挿図：テキスト形式・Microsoft社Excel形式データ、貼りこみ図版

遺構図面図版：原図・測量デジタルデータ、レイアウト図案、文字データ

遺物図面図版：トレース図・レイアウト図案、拓影、文字データ

遺構写真図版：遺構写真のCDR・レイアウト図案　　遺物写真図版：MO・レイアウト図案

2）体　　制

以下のとおりである。

整 理 期 間	平成17年４月１日～平成17年12月28日
整 理 主 体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
整理実施機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　武藤　克己）
総　　括	波多　俊二（事務局長）
管　　理	長谷川二三夫（総務課長）
庶　　務	長谷川　靖（総務班長）
整理総括	藤巻　正信（調査課長）
整理担当	高橋　　保（同整理担当課長代理）
作　　業	木山　京子　渡邊　知子　渡邊　和子　小倉　睦子　小林智恵子（以上嘱託員）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

住吉遺跡は旧紫雲寺町にあり、かつての紫雲寺潟（塩津潟）の南東部に位置し、加治川の右岸に占地する（第4図）。遺跡周辺の現地表面の標高は5m前後で、周囲は水田地帯である。遺跡の北側約600mには櫛形山脈を源とする船戸川が西流し、河口から3.5km地点で見透川と合流して、落堀川と名を変える。また、遺跡の北方約10kmに胎内川、南方約3kmに加治川が西流し、日本海に注ぐ。

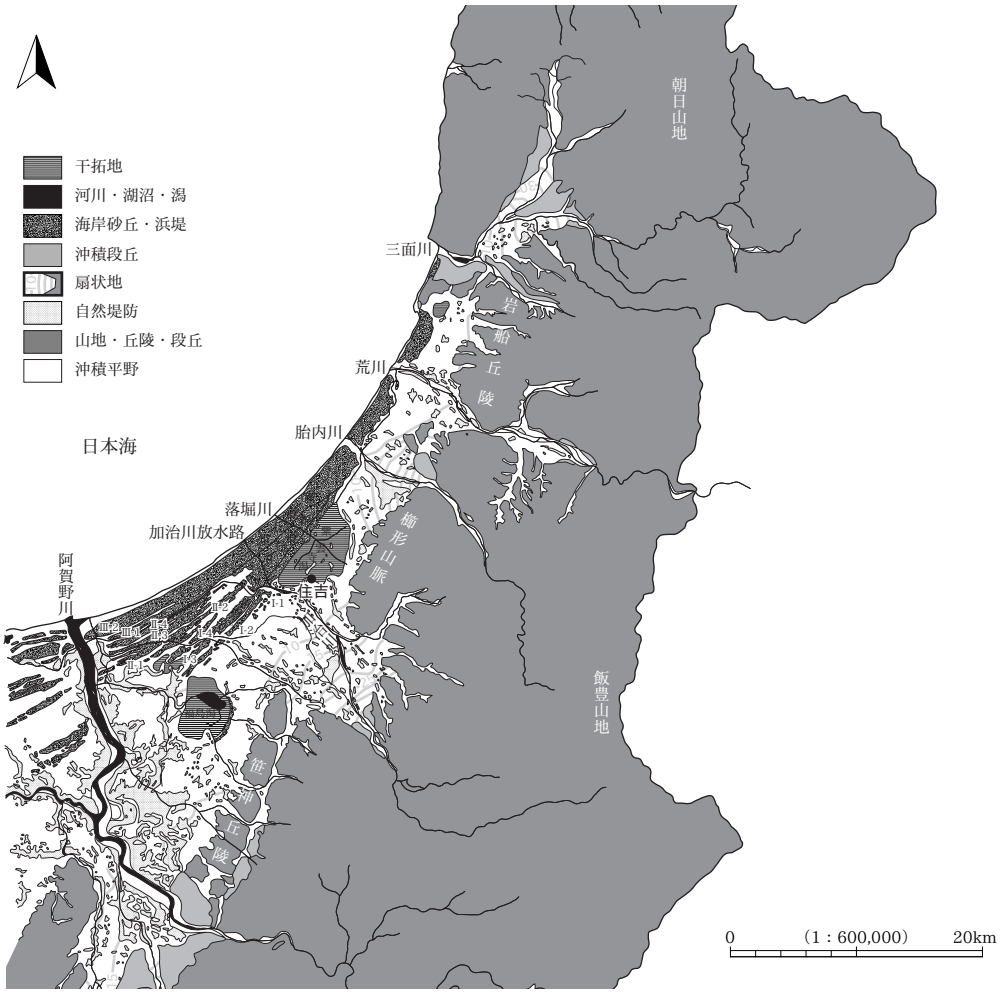
遺跡の南西約19kmには阿賀野川が北西方向に流れる。阿賀野川は福島県と新潟県にまたがる幹線流路で、延長210kmにわたる大河川である。遺跡が位置する地域は、新潟県内の下越地方と呼ばれる北部域の中でも阿賀野川の北側地域（以下阿賀北地域と呼ぶ）として括られることが多い。

東側は、最高峰1,870mの朝日岳を擁する朝日山地と、2,105mの飯豊山を擁する飯豊山地が連なり、山形県・福島県との県境となっている。この西縁に岩船丘陵・櫛形山脈・笹神丘陵が概ね北北東－南南西に列状に並ぶ。遺跡の東に位置する櫛形山脈は胎内川と加治川の間に連なる、南北約13km、最高峰568mの日本一小さい山脈であり、新第三紀白亜紀の花崗閃緑岩を基盤とする褶曲山脈である。

山地を源とする荒川・胎内川・加治川などの河川は、堆積盆地となる越後平野に流れ込み、胎内川と加治川では河川堆積物による扇状地が発達する。また、阿賀野川や加治川などの周辺には帯状の自然堤防が発達しており、流路を大きく変えながら土砂を運び、越後平野の一部を形成していったことがうかがえる。

越後平野は岩船丘陵の南側を北端とし、南は長岡市と小千谷市との境界付近まで至る面積約2,030km^{2}の国内屈指の沖積平野である。信濃川流域に比べ阿賀北地域では東西幅が狭くなり、加治川より北側では幅が3～5kmほどと特に狭い。また、胎内川両岸は扇状地の発達により標高が高く、右岸の野地遺跡では標高約11mを測る［小田2002］。これを境に北東側および南西側に向かって低くなり、加治川村での最低標高は2.6mである。越後平野は、かつて葦が生い茂る湿地帯や潟湖が点在していたことから蒲原平野とも呼ばれている。江戸時代の絵図によると、荒川は日本海に流れ出ていたものの、胎内川や加治川は新潟砂丘にぶつかって砂丘沿いを南西に向かって流れ、阿賀野川とともに信濃川に合流して日本海に流れ出ていた様子が描かれている（正保絵図等）。また、紫雲寺潟・福島潟・島見前潟などの潟湖が多数存在し、これらが河川によって結ばれていた。紫雲寺潟は、胎内川や旧坂井川が流入する面積約2,000haの広大なものであったが、享保12（1727）年に干拓事業が開始され、享保18（1733）年に砂丘を開削した落堀川により排水された。福島潟と島見前潟も、享保16（1731）年に現在の阿賀野川河口にあたる松ヶ崎放水路が開削されて干拓化が進んだ。近世以降の排水・干拓事業により、越後平野は芦沼から広大な水田地帯に様変わりした。なお、地元では平安時代後期の大津波により砂丘の土砂が流出して潟が広くなったものと推定されているが［加治川村誌編さん委員会1986］、珪藻分析［安井2004］によると紫雲寺潟の形成時期に海水の流入は認められないことが明らかとなった。

さて、日本海沿いには細く長く発達した新潟砂丘が北東－南西方向に延びている。新潟砂丘は大きく3列に区分されており、内陸側から新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと名付けられている［新潟古砂丘グループ1974］。阿賀野川付近では、砂丘列は西側で10列に枝分かれて幅が約7kmとなる。一方、胎内川河口付近ではこれ

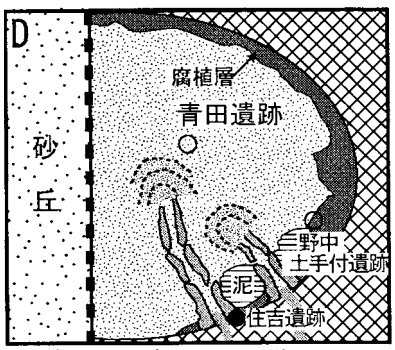


第４図　遺跡周辺の地形（荒川2004を一部改変）

らが収斂して幅1.5kmほどとなる。新潟砂丘の形成年代は、新砂丘Ⅰが縄文時代前期初頭～中期、新砂丘Ⅱが縄文時代後期～晩期、新砂丘Ⅲが古代以降とされている［新潟古砂丘グループ1974；田中ほか1996］。

紫雲寺潟の形成

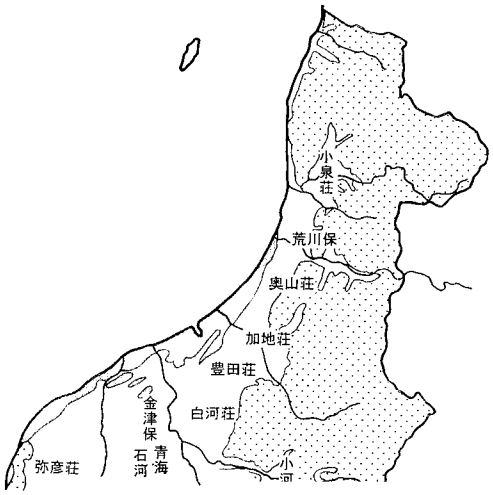
紫雲寺潟（塩津潟）の形成は、青田遺跡の発掘調査および関連調査の結果、９世紀以降であることが判明した［高濱・卜部2004］。それによると、９世紀以前のこの地域は、平野部の西縁に狭長な水域が広がり、低地部は網状河川の発達する環境であった。ボーリング調査では、砂丘列と平野の境界付近は、相対的に平野側は沈降する活断層系が確認でき、これらの断層系の活動による地震の発生とともに平野側が相対的に沈降する現象が起こり、平野西側の水域が拡大し紫雲寺潟の原形が形成されたものと判断できる。９世紀代に形成された潟は拡大・縮少を繰り返して、江戸時代の干拓前の湖岸線の位置まで拡大した。湖岸線が固定され、安定すると潟端の水深の浅い部分では葦などが繁茂し、厚い腐植土層（ガツボ）が形成されていった。また、河川営力による潟の埋積作用は、南部の加治川水系の支流において活発であり、一部では、幅の狭い鳥嘴状三角州を形成していた。住吉遺跡はちょうど潟端にあたり、このような状況に立地する。



第５図　紫雲寺地域の発達概念図
（潟の拡大とデルタによる埋積・中世）
（高濱・卜部2004）

2　歴史的環境（鎌倉期の加地荘）

住吉遺跡の所在する旧紫雲寺町は古代沼垂郡にある。当地域は一般に阿賀北地方と包括的に呼ばれている。古代末期には大荘園が展開している。福島潟の東辺（おおよそ阿賀野市）には摂関家領白河荘、旧豊浦町を中心に東大寺領豊田荘、紫雲寺潟の南部（新発田市）には皇室領加治荘、潟の北部（胎内市・関川村）には摂関家領奥山荘、その北荒川の下流域には国衙領荒河保、神林村・村上市・朝日村・山北町には皇室領小泉荘があった。



第６図　中世阿賀北の荘園・公領

越後国が頼朝の支配体制下に置かれたのは、寿永３（1184）年木曽義仲を滅亡させた後であり、その後、東国の一環と位置づけられた。東国武士団の多くは、頼朝の御家人になることにより本領を安堵され、また新恩給与として新たな地に地頭職を獲得していった。越後国の在地領主層の多くは当初平家与同人の城氏に、また義仲の影響下に置かれたため、彼らの没落後消えていったものも少なくない。その影響かどうかは明確でないが、頼朝の時代、当阿賀北地方には関東を中心とした御家人が早い時期に地頭職についている。第１表のとおりであるが、当遺跡の存在する加治荘には、佐々木盛綱が文治５（1189）年に地頭職となっている。盛綱は、一時越後守護にも任ぜられた人物である。

	所領名	地　頭	本貫	初見、確認年代	出　典
沼垂	加地荘	佐々木氏（宇多源氏）	近江	文治５（1189）	吾妻鏡
	奥山荘	三浦　和田氏	相模	建久３（1192）	1743号
	豊田荘	開瀬氏（清和源氏）	不詳	建仁２（1202）	4315号
	白河荘	大見氏	伊豆	寛喜元（1229）	1508号
	白河荘	安達時顕か	武蔵	1326～1327頃	4058号
	小川荘	名越時家	伊豆	建武４（1337）	今川古文章写
岩船	小泉荘	秩父氏	武蔵	建永頃（1206～7）	1953号
	荒河保	河村氏	相模	建長７（1255）	1941号

注）出典の号数は新潟県史資料編の整理番号

第１表　鎌倉期阿賀北地方の地頭（新潟県1987より抜粋）

加地荘の荘域については明確でないが、南の豊田荘、北の奥山荘に挟まれている。豊田荘の荘域については建保２（1214）年５月東大寺領諸庄田数所当注進状に四至が記されている。それによると「東限佐々木河　南限鹿子岡　西限下御方　北限佐々木河」となっている。佐々木河がどの川を指すのかは、２説（現加治川説と現太田川説）があり、太田川説が有力視されている［阿部ほか1980］。しかし、現太田川流路そのものが中世まで溯るとは限らない。この佐々木河から北は旧加治川村南半くらいが加地荘であろうか。

盛綱もその子息信実も加地と号しており、また信実の子８人のうち長男を除く７人が加地を号していたことから、加地荘は佐々木一族の中心的所領であり、経済的基盤であったことがわかる。ただし、それぞれがどこに居住していたかは明らかでない。

県史から加地荘関連文献を拾うと第２表のとおりである。そこに現れる地名としては次のようなものがある。「古河条」（加治川右岸旧紫雲寺町古河付近）、「桜曽祢条桑口」（加治川左岸新発田市桑の口付近）、「加地

庄高浜」（新発田市高浜）、「加地庄荻曽祢条」等である。このうち古河条が多く登場していることがわかる。文永３（1266）年７月13日の「佐々木加地重朝譲状」には、遺跡に近い「ふるかハのてう」が見られる。これには重朝の娘道信に古河の条の一部を譲り渡す事が書かれている。この道信は奥山荘地頭茂連に嫁いでおり、茂連の名は奥山荘波月条近傍絵図に登場する。現在の古川は遺跡の南側にあり、この譲り状は遺跡の存在した時代である。現在の古川と多少の位置の違いがあるにせよ、付近であることは間違いないであろう。道信の子義成は中条氏から分家して羽黒氏を名乗り、この地古河条を継いでいる。このことから、古河の条は加地氏、中条氏、羽黒氏の支配領となっていたことがわかる。新発田市史によれば、古楯館跡は当主羽黒義成の根拠地と言われ、譲り状で加地重実に譲り渡したとされる洲崎にある洲崎館跡はその重実の居館であったとされる。

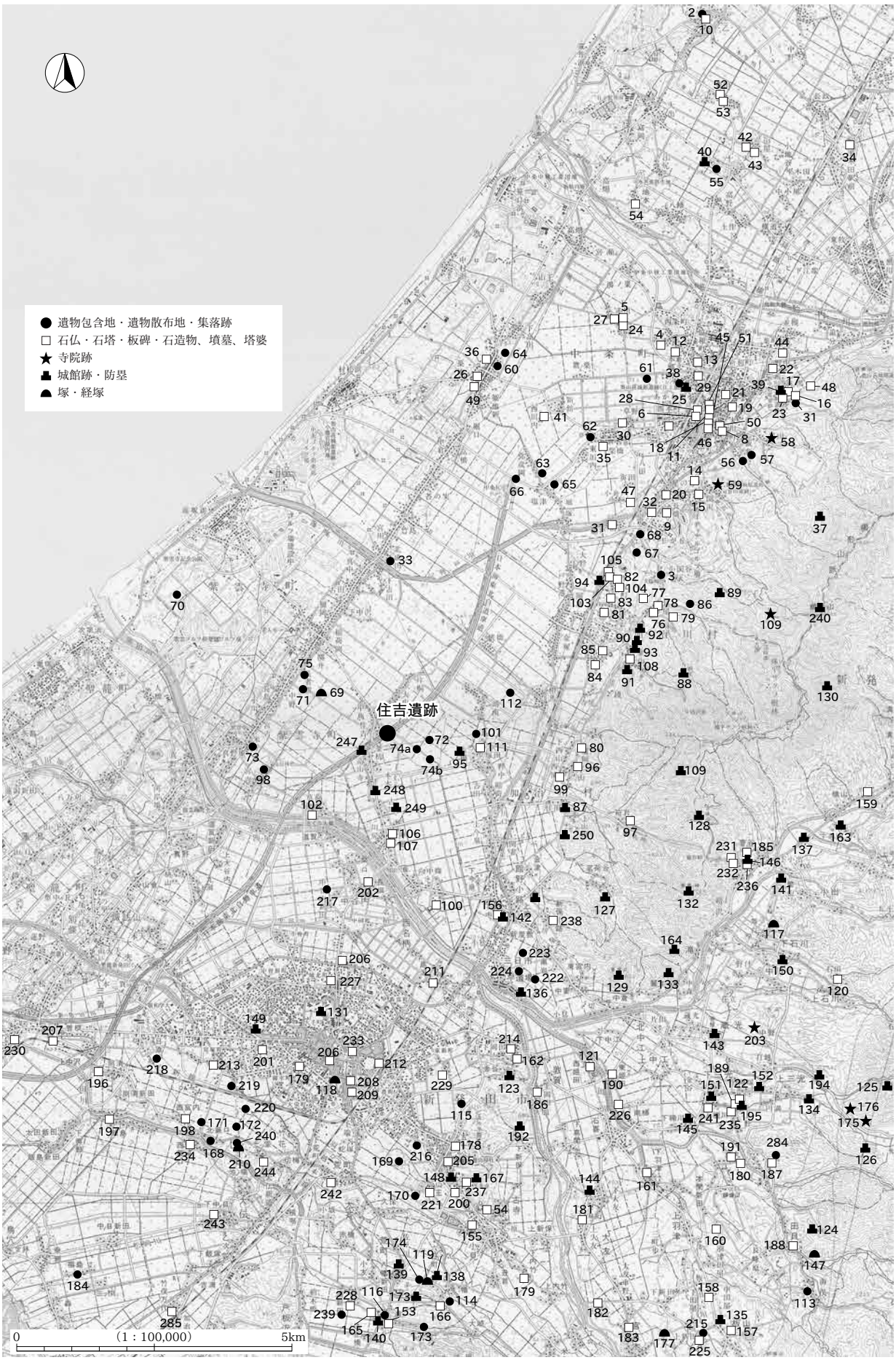
信実の後は、これら一族が庄内各地に分散居住し、領主化していったものと考えられる。室町期になるとこの一族から有力な国人が登場する。加地氏、新発田氏、竹俣氏、楠川氏である。

西暦	年　　号	資　　料　　名	人　　名	地　　名　　等	県史番号
1266	文永３年７月13日	佐々木加地重朝譲状案	佐々木加地重朝・道信・いや四郎・しかの二郎・三郎	古河条、田畑、在家、荒野	1920
1266	文永３年７月13日	佐々木加地重朝譲状		みのうらの潟端・州崎・をくやまのさかひ	1756
1305	嘉元３年２月13日	佐々木加地章氏譲状案		加地庄桜曽祢条桑口	1737
1306	嘉元４年10月２日	佐々木加地章氏譲状案	のりうちか女子ひこ松こせん	加地庄高浜のふくろのうち	
			ひこ松こせん	みなみはなかそねきたはまところみやう、西名柄への大道、にしはけた一う、四日いちのうしろにいけのはた	
				たかはまのふくろの四日いち たかはまのあかぬま	
1320	元応２年11月22日	加地庄預所孝順和与状	地頭道信	加地庄古河条内中村	1773
1321	元応３年正月７日	関東下知状	地頭佐々木太郎重朝女子尼道信	「自往古為後閑之条」	1774
1321	元応３年３月８日	佐々木加地顕信和与状写	古河条内州崎地頭源顕信		1775
			古河条内中村地頭為道信		
1343	康永２年12月８日	藤原公房打渡状	佐々木加地三郎章氏女子代惟信	加地庄桜曽祢条桑口・高浜	1782
1350	貞和６年卯月３日	藤原清時・同長時連署譲状	又五郎の在家・太郎入道か在家めいこく御せん	加地庄荻曽祢条田中の村	1787
1350	観応元年３月　日	尼明和泉代祐信重申状	佐々木三郎章氏女子明和泉代祐信重	桜曽祢条・高浜条	1788
1362	康安２年10月５日	造内宮料役夫工米請取状		古川条内中村方知行分	1800
1439	永享11年11月２日	長松院祖果書状		古河庶子分中村之事	1819
1451	宝徳３年４月	羽黒秀公訴状案		古河条之内中村之事・洲崎	1824

第２表　加地荘関連史料（新潟県史 資料編４　1983）

3　中世遺跡の分布

この地域は、中世奥山荘・加地荘と呼ばれた地域で、文献史料が多く残されているとともに、遺跡も数多い。特に奥山荘は有名で、奥山荘城館遺跡群として国史跡に指定されている。奥山荘の荘域はおよそ現胎内市（旧中条町・旧黒川村）および新発田市の一部（旧加治川村）である。これら遺跡の中心となるのが、下町・坊城遺跡、江上館および鳥坂城であろう。下町・坊城遺跡は近年の一連の発掘調査［水澤1996・1997・1999・2000・2001・2005a］で12世紀～16世紀にわたる遺跡であることが判明した。12世紀には城氏、13～15世紀には三浦和田氏の拠点であった可能性が高まった。一辺60～80mの溝で囲まれた中に、多くの建物群が検出された。また、出土遺物も輸入陶磁器をはじめとして、一般集落では見られない多くの遺物も出土した。すぐ北に位置する江上館は、その後の中条氏の居館である。土塁も含めてよく残っており、近年史跡整備が完了した。鳥坂城は彼らの居城とされる。旧中条町市街地周辺には多



第７図　紫雲寺潟周辺中世遺跡分布図

（国土地理院発行「新発田」（H15）「中条」（H14）１：50,000原図）

くの石仏・石塔等が残されている。旧加治川村の中心部は奥山荘上条の中心部であったと考えられる。この地域にも石仏・石塔等が多く残る。また低位丘陵部に城館跡が連続する。

さて、中世における紫雲寺潟（塩津潟）の状況はどうであろう。遺跡の分布は近世の潟端とされるラインに中世遺跡（63・65・66）ものっていることがわかる。海沿いの砂丘列上ではほとんど遺跡は確認されておらず、内陸側の潟端にいくつか認められるが、古代ほど多くはない。このことは、潟の拡大を意味するのであろうか。住吉遺跡や砂山中道下遺跡（112）は、潟端に一番近い場所に位置している。この砂山中道下遺跡あたりがちょうど奥山荘と加地荘の境にあたるであろう。住吉遺跡のすぐ西側の二ツ割遺跡（74a）・中住吉遺跡（74b）遺跡は近年調査［宮内ほか2004］されており、時代・出土遺物・遺構状況ともに住吉遺跡との類似性が強い。この周辺は文献に見える古河条である。その範囲は明確でなく、現加地川の右岸で北は潟端までであるが、東西は判然としない。東側にある古楯（95）は羽黒氏の居館とされる。正保国絵図では加治川の北側に現坂井川と思われる川が描かれている。今は加治川に合流しているが、この絵図では合流せず、北流して紫雲寺潟に流れ込んでいる。この川は古河条の領域を考える上で重要である。新発田市史・加治川村史によれば古川条には佐々木一族の古川氏・州崎氏がいたとされ、現在の遺跡カードでは、高山寺館跡（247）・古川館跡（248）・洲崎館跡（249)が周知化されている。高山寺館跡は、明治期の更正図で明確な堀跡が確認され、一辺約100m前後の規模が見て取れる。古川館跡・洲崎館跡の根拠はあまり明確でない。また、大字二本木付近には「上館」「下館」「館ノ上」の字名が残り、館の可能性がある。坂井川は丘陵部を巻くように北に向かうと考えられるが、その丘陵部には多くの城館が存在する。坂井川の上流小出、寺内地区でも城館跡・石仏等が目立ち、集落遺跡がほとんど確認されていない。現集落とほとんど重なっているためであろうか。また、西側の加治川や姫田川流域でも同様に、現集落付近には城館があり石仏等も見られるが集落遺跡の確認は少ない。

新発田市街地でも現集落と重なっているためか中世遺跡の確認は少ないが、近年の新発田城の発掘調査（市教委）においては、中世遺跡が確認されている。西側五十公野周辺にも遺跡の集中が見られる。

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	極楽寺	37	山居寺城跡	73	妙広寺石仏	108	金山石塔	144	大友館跡	180	虎丸神明宮石仏群	216	南光
2	乙宝寺	38	下町・坊城	74a	二ツ割	109	水ノ尾城	145	楠川館跡	181	上大友石仏	217	桑ノ口
3	大桜峠	39	羽黒城跡	74b	中住吉	110	今泉館	146	菅谷館跡	182	山立石仏群	218	宮ノ下
4	西条石造遺物群	40	古館館跡	75	ドテ下	111	小島石仏	147	田貝の塚	183	観音堂石造物群	219	荒神裏A
5	赤川石仏群	41	西川内石塔	76	法蔵寺石仏	112	砂山中道下	148	五十公野館跡	184	大坪	220	神明裏
6	地蔵堂石造遺物群	42	永徳寺石塔群	77	貝屋石仏	113	南俣	149	猿橋館跡	185	奥ノ院石塔	221	山王の石仏
7	駒込町石造遺物群	43	山野神社石塔群	78	神明社石仏	114	宮田	150	石川館跡	186	仏島板碑	222	石橋
8	大川町石造遺物群	44	本郷上河原石塔	79	貝屋板碑	115	松橋	151	三光館跡	187	新光寺板碑	223	黒岩
9	神子沢板碑	45	北本町石塔群	80	観音堂板碑	116	浦	152	岡塚館跡	188	田貝板碑	224	雀塚
10	乙宝寺石造遺物群	46	本町石塔群	81	桜ヶ丘団地板碑	117	下石川塚群	153	浦石仏	189	宝積寺墓地石造群	225	白山林石造物群
11	広厳寺石造遺物群	47	小舟戸石仏	82	下坂町石仏	118	八幡神社経塚	154	古寺板碑	190	東姫田石造物群	226	宮屋敷石仏群
12	大総寺石造遺物群	48	大日堂石仏	83	下小中山石仏	119	館屋敷経塚	155	石仏の石仏	191	虎丸石造物群	227	新井田神明社の板碑
13	鷺麻神社石造遺物群	49	経塚遺跡石仏	84	八幡社板碑	120	石田石造物群	156	常勝寺石造物群	192	升潟山城跡	228	浦新田の石仏
14	七十刈板碑	50	本宮寺石塔	85	貝塚板碑	121	西姫田石造物群	157	板山寺石仏群	193	八幡城跡	229	板敷の石仏
15	関沢板碑群	51	熊野若宮神社宝篋印塔	86	貝屋C	122	宝積寺石塔群	158	中田屋石仏	194	竹俣防塁	230	佐々木墓地石仏
16	徳岩寺石仏	52	菅田石塔A	87	住田城	123	金谷城跡	159	中山神社石仏	195	宝積寺館跡	231	伝護念上人の墓
17	庚申塚石造遺物群	53	菅田石塔B	88	宝塔山城	124	田貝城跡	160	寿福寺林石仏群	196	養福寺石仏群	232	寺境の石仏
18	観音堂石仏群	54	厳島神社石塔	89	小国谷城	125	竹俣城	161	宝昌寺石仏群	197	常福寺石造物群	233	法華寺石造物群
19	快蔵院石仏	55	古館館東	90	高館	126	竹俣新城	162	大日堂の石造物群	198	養泉寺石仏群	234	西貢口の石仏
20	長橋石造遺物群	56	倉田越	91	蛇山城	127	茗荷谷城跡	163	下寺内館跡	199	石仏神社石仏群	235	上楠川神明社石仏
21	大輪寺石造遺物群	57	飯角竹ノ花	92	ヤツ山館	128	菅谷城跡	164	滝城跡	200	七軒町墓地石造物群	236	菅谷寺五輪塔
22	野中板碑群	58	半山廃寺	93	金山城	129	加治城跡	165	正法寺石仏群	201	普門寺石仏群	237	千光寺石造物群
23	羽黒地蔵石造遺物群	59	関沢廃寺	94	下坂町館	130	溝足城跡	166	龍沢寺石仏	202	長畑の石仏	238	新保小路の板碑
24	生ぼとけ石造遺物群	60	築地館東	95	古楯	131	新発田城跡	167	上杉景勝陣所跡	203	香伝寺本山跡	239	石蔵
25	江上館・江上館板碑	61	下名倉	96	欅橋の三十層塔	132	鳥屋ヶ峯城跡	168	北貢口	204	山ノ下	240	高つむり城跡
26	築地観音堂板碑	62	野付	97	薬師山の礎石仏	133	麓城跡	169	大真木	205	外城の石造物群	241	上楠川高田石仏
27	神前寺石造遺物群	63	天野	98	山草荷	134	東城館跡	170	山王	206	中田町の石仏	242	蓮花寺墓地石仏
28	熊野若宮神社板碑	64	堂前	99	西神社石仏群	135	板山館跡	171	境田	207	佐々木神明宮の石仏群	243	下中ノ目石仏
29	六体地蔵石造遺物群	65	大塚	100	福楽寺石塔	136	箱館跡	172	蛎取橋	208	慶学院石造物群	244	二ツ堂神明宮石仏
30	草野板碑	66	福田	101	小島西	137	寺内館跡	173	助橋下	209	東町神明宮石仏	245	竹俣万代墓地石塔
31	船戸諏訪神社板碑	67	升川	102	下草荷石仏群	138	八幡館跡	174	館ノ前	210	北貢口の塚	246	上沢田
32	七所神社板碑群	68	蔵ノ坪	103	下坂町堤沢石仏	139	八幡新田館跡	175	護法山宝積寺跡	211	島潟神明社の板碑	247	高山寺館跡
33	堀切遺跡	69	薬師山	104	金沢神明社石仏	140	浦館跡	176	得伝寺跡	212	本町１丁目神明宮石仏	248	古川館跡
34	韋駄天山墳墓	70	浜山経塚	105	下坂町石塔	141	小出館跡	177	車野原の塚	213	善能寺の石仏	249	洲崎館跡
35	柴橋庵石造遺物群	71	デト山	106	養泉寺石塔群	142	加治館跡	178	龍昌寺石造物群	214	下岡田の板碑	250	下山田館跡
36	築地墨書石	72	灰塚	107	住吉神社板碑	143	蔵光館跡	179	瑞光寺石仏	215	庄道田		

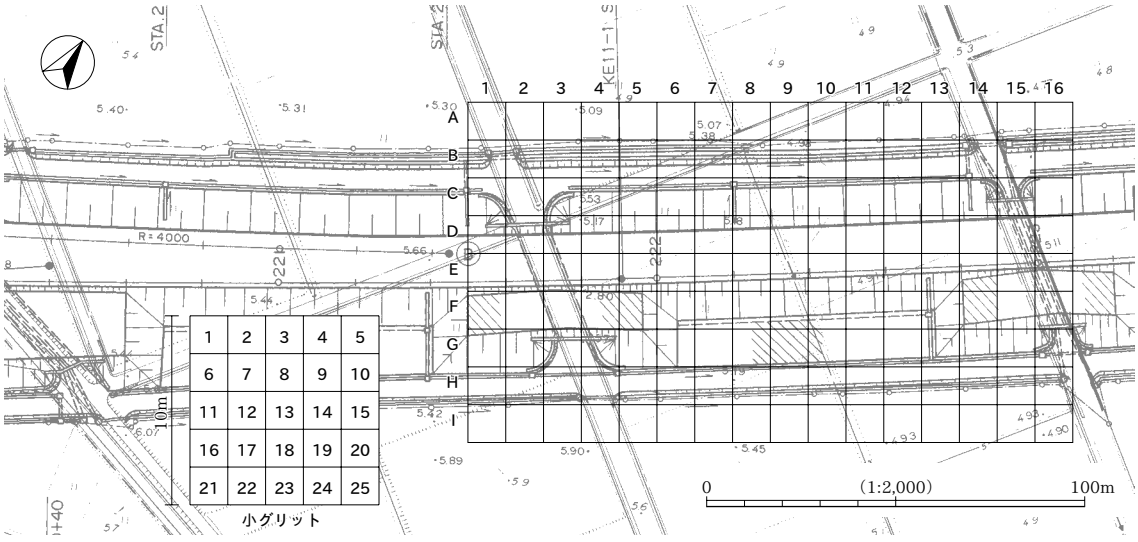
中世遺跡一覧（第７図分布図対応）

第Ⅲ章　調査の概要

1　グリッドの設定

グリッドは、道路法線に沿った形で、調査区内一番西側に任意に点を設けそこから東側に東西ライン、直交するラインを南北ラインとし、グリッドを設定した。東西ラインは東に向けて１～の数字、南北ラインは北からＡ～のローマ字とし、10m メッシュを大グリッドとした。最初の起点から 30m を 3E、調査区東側 130m を 14E、3E から直交する北側 40m を 3A、南側 40m を 3I とした。各点の座標（旧）は右のとおりである。

	X座標	Y座標
3E	222019.821	73928.383
14E	222084.069	74017.670
3A	222052.289	73905.020
3I	221987.353	73951.747



第８図　グリッド設定図

なお、南北軸は磁北から 35° 西偏する。各グリッドの呼称は、各杭の東南側を表わすこととした。また大グリッド内は 2m メッシュの小グリッドとし、北西から南東へ 25 等分した。グリッドの呼称は 5A17 のようになる。

2　基 本 層 序

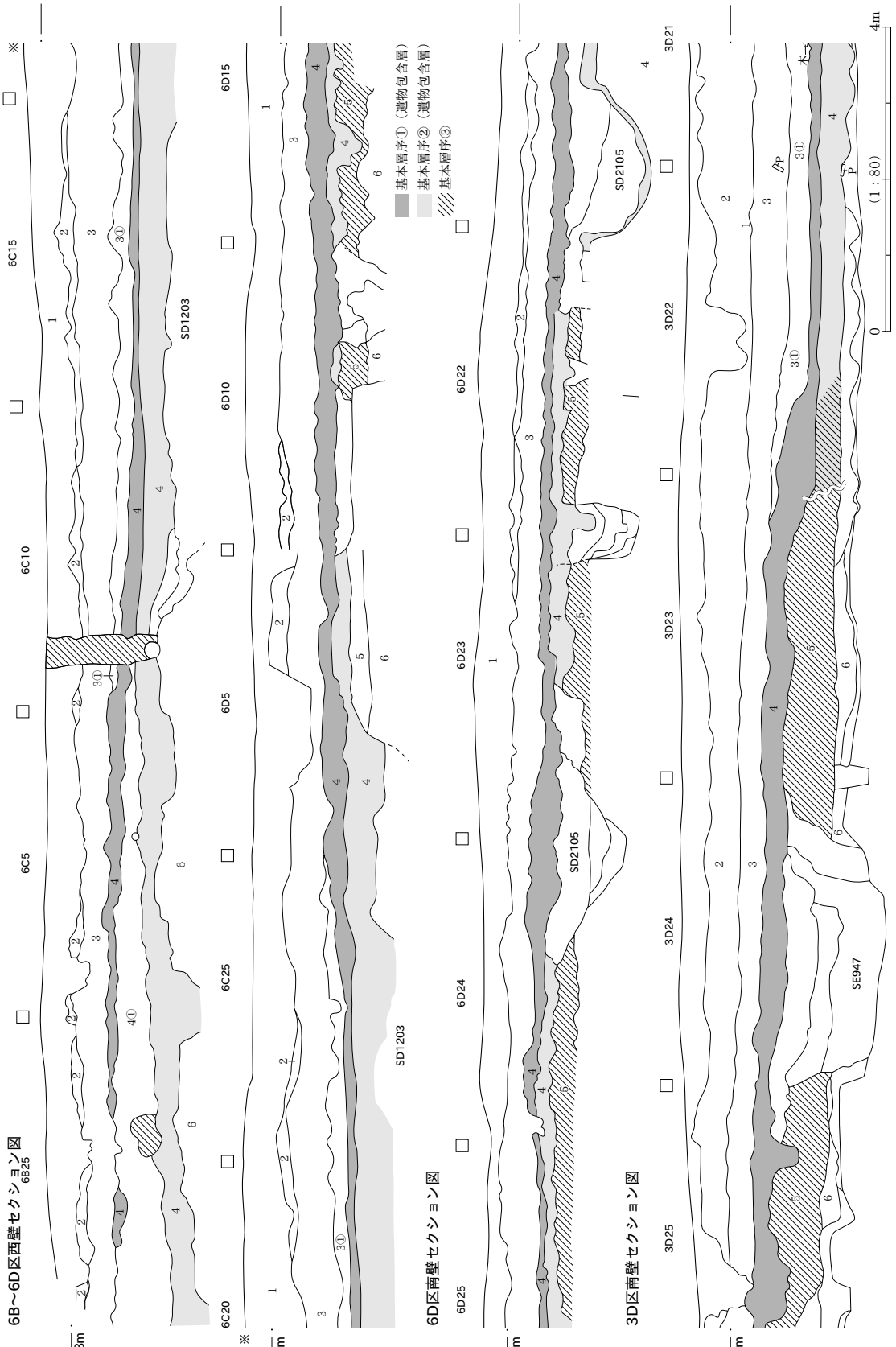
遺跡地は低湿地にあり、ほぼ水平の堆積を示している。層序は以下のとおりであるが、基準となる層を基本層序として設定した。

１層：水田耕作土。

２層：暗褐色土。しまり弱く柔らかい。洪水堆積層。

３層：オリーブ黒のシルト層。やや粘性あり。

４層：オリーブ黒のシルト層。粘性強まる。遺物包含層。この層は低い地点や沢部分では分層される。


6B~6D区西壁セクション図
6B25
6C5
6C10
6C15
6C20
6C25
6D5
6D10
6D15
SD1203
4.8m
基本層序①（遺物包含層）
基本層序②（遺物包含層）
基本層序③
6D区南壁セクション図
6D25
6D24
6D23
6D22
SD2105
4.9m
3D区南壁セクション図
3D25
3D24
3D23
3D22
3D21
SE947
4.8m
0
4m
（1：80）

第９図　土層断面図

上層を基本層序①、下層を基本層序②とした。

基本①－酸化し茶褐色を呈する。炭化物を多量に含む。

基本②－オリーブ黒で若干地山（灰色シルト）ブロックを含む。

5層：灰オリーブのシルト層。やわらかく砂質。

基本③－地山（灰色シルト）を主体に上層（基本②）のブロックを混入する。

6層：灰色シルト。地山。

このように遺物包含層である４層は低い部分では分層されるため、基本層序①②とした。まず南北方向に近い6B～6D西壁セクション北側の6B25・6C5区では基本層序①②が北にいくにしたがって開いていくのがわかる。基本層序②が下がっていくのに対して、逆に基本層序①はレベルを上げている。この高くなっている部分がSD1203に囲まれた建物SB1～SB4の存在する地点（6C10～6D5あたり）である。最初の基本層序把握段階であったため、溝としての認識がなく、下部まで掘削していない。6D10・15付近では基本層序①②ともに北に向って緩やかに傾斜する。

6D区南壁セクションではほぼ水平な堆積を示す。溝および柱穴の断面がかかっている。SD2105は円形周溝状に廻る溝で基本層序②を切って掘られていることがわかる。基本層序①は溝埋没後に堆積している。このSD2105にはSB5～7が重複する。SD2105に基本層序②の流れ込みが全く認められないことから、建物構築の直後にあるいは人為的に埋め戻している可能性もある。両溝の中間に柱穴と思われるピットがあるが、基本層序②が柱穴上部に存在することから、柱穴は古いことがわかる。

3D区南壁セクションでは、西側の3D22付近で基本層序が大きく落込んでいることがわかる。自然堤防の西側である。３層・２層の堆積でほぼ水平と化したことがわかる。3D24付近にはSE947がある。ここでは基本層序①②の分層が認められない。基本層序③を切って井戸が構築され、埋め戻された後基本層序①が堆積している。

このように、基本層序②を切り込んで構築している遺構が多い傾向にあると考えられるが、中にはそれ以前の切り込みの遺構も存在する。しかし、遺構検出段階でその区別は困難であった。

第Ⅳ章　遺　　構

1　遺構の概要

多くの遺構が検出されている。遺跡内は溝によっておおよその区画がなされ、場所により利用のされ方に違いが認められる。掘立柱建物は23基確認されている。柱穴と思われるピットは多く確認されており、ほかにも建物が存在したと考えられる。また、目隠し等の柵列も４から５確認された。なお、これら建物・柵列は整理段階で検討し直したものであり、調査時と異なっているものがある。建物の形状・規模はさまざまで、四面庇になる可能性のあるもの、両面庇のもの、総柱のものがあり、大型は東西棟が多い。多くの柱穴に礎板・柱根が残存している。井戸は37基確認された。素掘りのものは少なく、多くに曲物が伴い、また方形枠を持つものも認められる。素掘りのものには、曲物を再利用するため抜き取ったものも含まれると考えられる。土坑は55基である。方形竪穴状土坑もある。溝は40以上認められ、いずれも東西・南北方向を示す。なお、遺構略号は従来どおりであるが、調査が２か年にわたったこともあり溝（SD）については一つの遺構に複数の番号がついているものがある。番号の違いは地点の違いを表していることから、そのまま用いた。また、遺構カードに記載があるものの地点不明の遺構もあるが、別表一覧表には掲載している。

2　遺 構 各 説

A　掘立柱建物・柵列

SB1・SAエ（図版５・６・７・93・94）

５～7A・Ｂ区に位置する東西棟である。桁行５間（11.2m）、梁間２間（4.4m）で桁行両側に庇がつくものと考えられる。長軸の主軸方向はN82°Ｅである。柱穴規模は一定しないが径0.8m前後が多い。深さは0.5m前後である。礎板や柱根が残存しているものが多い。礎板材はスギ・クリ・ヒノキ科である。柱間隔は桁行、梁間ともに2.2mと一定している。庇部分は柱穴が北側で２本、南側で３本母屋に対応するように存在していたことから庇と判断した。庇の幅は1.4mである。床面積は母屋部で49m^2、庇を含めて75m^{2}である。西側には梁間柱穴列に沿ってP808・812・813が並び、これに対応するように東側にもP1168・1158、SK25が並ぶ。北側のP808・1158がいずれも大きいことも共通する。梁間からは1.2m離れており、建物に付随した柱穴で、あるいは４面庇となる可能性もある。

南側には建物東西軸に並行して2.4m離れてSAエが存在する。SB1の桁行よりやや長く11.8mであるが建物の中心軸に対して左右対称であることから、SB1に付随した柵列であると考えられる。柱穴は径0.4m前後、深さ0.25mと規模は小さい。柱間隔は2m前後である。SB1に重複するSD810・816・827はいずれも古く、これら溝が埋没した後にSB1が建てられている。

SB2（図版５・７・８・91・92・94・95）

５・6B・Ｃ区に位置する東西棟でSB1の南4mに位置する。桁行４間（9m）以上、梁間２間（3.8m）で長軸の主軸方向はN80°Ｅである。柱穴は径0.8m前後、深さ0.5m前後である。柱根の残存している

ピットが５基、礎板の残存していたピットが２基である。いずれもクリ材が多い。P1108の柱は角材である。柱間隔は桁行2.2m、梁間1.9mで、床面積は34.2m^{2}以上となる。

SB3・SAウ（図版５・８・９・91・92・95・96）

同じく５・6B・C区に位置する東西棟でSB2にほぼ重なる。桁行３間（7.4m）、梁間１間（4m）で、長軸の主軸方向はN83°Eである。柱穴は径0.6m前後、深さ0.4～0.6mである。P1087では礎板が確認されているが、ほかではすべてに柱根が残存していた。柱間隔は桁行2.4m、梁間4mである。SB1・２に比べると桁行間隔が広い。梁間はちょうど２間分である。床面積は29.6m^2。南側1.4m離れて柵列SAウがある。SB3の桁行にほぼ対応するが東側に１間分延びる。柱穴は５本４間で、規模は径0.36～0.9mと一定しない。深さも0.25～0.65mと一定でない。柱間隔は東側SD1120とP1115の間が1.5m、ほかは2.2～2.4mである。

SB4（図版５・９・92・96）

５・6B区に位置する東西棟で、SB2・３に一部重複し、その東側にある。桁行２間（4.5m）以上、梁間１間（3.9m）で長軸の主軸方向はN80°Eである。柱穴は径0.5～0.9m、深さ0.5m前後で全てに礎板が残存していた。西側の柱穴とSD827が重複するが、SD827が古い。柱間隔は桁行2.2m、梁間3.9mで２間分の広さを持つ。床面積は17.55m^{2}である。

SB5（図版27・28・29・96・97）

５～7D～F区に位置する東西棟である。ここにはSB5を含めてほぼ同規模の建物が３棟重複する。桁行６間（13.8m）、梁間１間（4.7m）で南北桁行側に庇を持つ。長軸の主軸方向はN89°Wである。柱穴規模は0.3～1mと一定しないが0.5～0.7m規模が多い。ほとんどの柱穴に礎板が残存する。柱間隔は桁行で2.2～2.4m、梁間は１間であるが２間分の広さを持つ。庇部分は母屋に対応するように柱穴が並ぶ。柱間隔は母屋と同じである。庇部分の幅は南北ともに1.4mである。建物柱穴は多くの遺構と重複関係にある。周溝状の溝SD2105はSB5より古い。床面積は64.86m^2、庇部を合わせると103.5m^{2}となる。

SB6（図版27・29・30・97・98）

SB5より１間分東側に存在する東西棟である。桁行５間（14.1m）、梁間１間（4.8m）で南北両側に庇を持つ。長軸の主軸方向はN89°Wである。桁行の柱間隔は両側で3mと広いが、中央３間は2.8mとなる。庇部分の柱穴は母屋柱穴と対応し、庇幅は約1.4mである。柱穴は径0.5～0.7m前後、深さ0.5m前後である。多くの柱穴に礎板・柱根が残存する。床面積は67.88m^2、庇部を合わせると108.6m^{2}となる。

SB7（図版27・31・97・98・99）

SB6とほとんど重複するがやや規模が小さい東西棟である。桁行５間（13.9m）、梁間１間（3.1m）で南北両側に庇部を持つ。長軸の主軸方向はN89°Wである。桁行の柱間隔は2.8m等間である。梁間はSB5・６と比べると狭い。庇部分の柱穴は母屋柱穴と対応し、庇幅は北側で1.2m、南側で1.7mと対称でない。柱穴は0.5～0.6m前後とやや小さく、深さも0.4m前後となる。多くの柱穴に礎板・柱根が残存する。床面積は43.09m^2、庇部を合わせると83.4m^{2}となる。

SB8（図版18・19・99）

５・6E・F区にある総柱建物で、上記SB5～７のすぐ南側に位置する。桁行４間（6.4m）、梁間３間（4.9m）で南北桁行方向が長い。長軸方向はN0°Wである。桁行の柱間隔は北から1.8m、2.9m、2.1m、1.7mと一定しない。梁間は西から2m、2.3m、2.2mとなる。柱穴では北側梁間の西から３本目が確認できない。柱穴は径0.5m前後の不整形で、深さは0.3～0.4mが多い。礎板・柱根の残っているものが

多い。一番北西端の5EP129ではしっかりした角柱が残存する。床面積は31.36m^{2}である。

SB9（図版18・19・20・99・100・101）

SB8に重なるように存在する総柱建物である。桁行4間（8.5m）、梁間3間（6m）で南北方向が長い。長軸方向はN0°Wである。桁行の柱間隔は約2m等間で一定している。梁の柱間隔も同じである。柱穴は径約0.6m前後が多く、深さは径0.4m前後が多い。ほとんどの柱穴に礎板が残存する。床面積は51m^{2}である。

SB10（図版18・20・99・101）

SB8・9にほぼ重なる。桁行3間（6.4m）、梁間3間（6.1m）の総柱建物。ほぼ正方形であるが南北がやや長い。長軸方向はN0°Wである。桁行の柱間隔は2.2mのほぼ等間、梁間は西側から2.3m、2.1m、1.6mと東側が狭い。柱穴は径0.4～0.7mで、深さも0.4～0.7mとなる。礎板・柱根の残存している柱穴が多い。床面積は39.04m^{2}である。

SB11（図版18・21・101・102）

4・5E・F区に所在する東西棟である。SB8～10のすぐ西側にあたる。桁行3間（7.2m）、梁間2間（4.05m）で桁行両側に庇部がつく。長軸方向はN89°Eである。桁行の柱間隔は2.4m等間、梁間2m等間であるが東側は束柱が確認できていない。柱穴は径0.25～0.6mとばらつきがあるが全体に小さい。深さは0.3m前後である。約半数の柱穴に礎板が認められる。庇部の柱穴は、母屋桁行に対応するように並ぶ。柱穴規模は母屋とほぼ同じである。庇部の幅は両側ともに約1mである。床面積は29.16m^2、庇部を合わせると43.92m^{2}となる。

SB12（図版18・21・102）

SB11にほぼ重なるように存在する東西棟である。桁行3間（6.4m）、梁間2間（4.5m）である。主軸方向はN88°Eである。桁行の柱間隔は、西側から2.3m、2.3m、1.8mである。梁間は東側で北から2.2m、2.4mである。柱穴は径0.4～0.6mで、深さは0.3～0.5mである。5本の柱穴に礎板が残存する。床面積は28.8m^{2}である。

SB13（図版18・22・103）

4E区、SB11のすぐ西隣にある総柱建物。桁行3間（4.2m）、梁間2間（2.6m）である。主軸方向はN0°Eである。桁行柱間隔は1.4m等間、梁間は1.3mである。柱穴は径0.4m前後、深さは0.25mと浅い。柱穴4本に礎板が残存する。床面積は10.92m^2。

SB14（図版27・32・103）

6F、5・6G区、SB8～10の南東側にある総柱建物。桁行3間（8.35m）、梁間2間（6.3m）である。主軸方向はN87°Eである。桁行柱間隔は、西から2.4m、3.3m、2.4mと中央が広い。梁間は3.2m等間である。柱穴は径0.4～0.9m、深さ0.25～0.5mである。ほとんどの柱穴に礎板が残存する。床面積は52.6m^{2}である。

SB15（図版2・3）

4・5C・D区に位置する南北棟である。桁行3間（6.2m）、梁間1間（3m）である。桁行柱間隔は2.1m等間である。長軸方向はN5°Wである。柱穴は径0.4m前後、深さ0.4m前後である。礎板等は残存しない。床面積は22.32m^{2}である。

SB16（図版2・3・103）

3・4D区に位置する南北棟である。桁行3間（7.2m）、梁間2間（3m）である。桁行柱間隔は2.4mほ

ぼ等間、梁間は1.5m等間である。２本の柱穴に礎板が残存する。長軸方向はN4°Wである。床面積は21.6m^{2}となる。

SB17（図版15・16・103）

3E区に位置する。南北２間（5.2m）であるが、東西は１間（4m）確認されているものの西へ延びるかどうか明確でない。南北柱間隔は2.6mである。柱穴は径0.4m前後、深さ0.4mくらいである。P945に柱根が残存する。

SB18・SAア・イ（図版15・16・103・104）

3E・F区に位置する。SB18は南北桁行３間（5.5m）であるが、主柱穴の間にも柱穴が存在しそれらも柱穴として含めたが、ほかの建物の存在する可能性もある。梁間１間（3m）の南北棟である。南北主軸方向はN7°Wである。柱穴は径0.3m前後と比較的小さく、深さは0.16～0.56mとばらつきがある。約半数の柱穴に礎板・柱根が残存する。床面積は16.5m^{2}である。SAア・イは、SB18の南側に並行して走る。いずれも３個の柱穴が直線状に確認された。全体規模は不明。

SB19（図版13・14・104）

8・9A・B区に位置する東西棟である。東西桁行３間（7.3m）以上、梁間２間（4.1m）である。主軸方向はN87°Eである。桁行柱間隔は約2.4m、梁間で2.1mである。柱穴は径0.4m前後、深さ0.3m前後である。9AP5およびSK6022に礎板が残存する。床面積は29.93m^{2}以上となる。

SB20（図版13・14・104）

8・9A・B区に位置する南北棟である。桁行５間（11.5m）、梁間２間（4.1m）で、主軸方向はN5°Wである。桁行柱間隔は2.4mのほぼ等間であるが、西側、東側で各々対応する柱が直角にならずやや歪む。柱穴は北から４本目が径0.9m前後あるほかは0.5m前後である。深さは0.5m前後である。9BP1に礎板、9CP204に柱根が残存する。床面積は47.15m^{2}である。

SB21（図版18・22）

4・5G区に位置する南北棟であるが、全体規模は不明。桁行３間（7.4m）以上、梁間２間（5m）である。桁行柱間隔は2.4m等間、梁間は溝により中柱が確認できていない。確認している柱穴４本すべてに礎板が残存している。主軸方向はN22°Eである。

SB22（図版18・22・104）

SB21にほぼ重なる。全体規模は不明。桁行３間（7m）以上、梁間２間（6.1m）である。桁行柱間隔は北から3.0m、2.0m、2.0mである。梁間も3mと広い。柱穴は径0.5～0.7mとしっかりしている。深さは0.5m前後である。P232を除いてすべてに礎板が残存する。主軸方向はN16°Eである。

SB23（図版15・16・104）

3E区に位置する。全体規模は不明。南北２間（4m）、東西１間（2.9m）が確認されている。南北柱間隔は2m等間である。柱穴は径0.28m、0.4mと小さい。

B　井　　戸

SE1005（図版2・4・105）

4D18区に位置する。集落の西はずれでSD1012埋没後に掘られている。すぐ西隣にはSB16がある。径約1.2mの円形で深さは約1mと浅い。覆土中から井戸側と考えられる板材、横桟が出土していることから、井戸側を伴っていたと考えられる。覆土はオリーブ黒のシルト質土を基本とし、灰色シルト、腐植

炭化物層が混じる。出土遺物は、井戸側材のほか珠洲焼・礫等がある。

SE1252（図版2・3・105）

4C9区に位置する。集落の西はずれで、約2m東側にSB15がある。径約0.7mで、確認面からの深さ約30cm。底部分のみが残存していた。井戸枠であったと思われる大型曲物の底部が認められる。曲物の径は約65cmである。覆土は褐色の腐植植物層である。

SE5005（図版11・12・105）

8B17・18区に位置する。調査区の北側SB19・20の西側にある。径約1.42m、深さ1mである。大型曲物の井戸枠を持つ。曲物は大小2個が入れ子状に設置してある。曲物の直径は40cmと65cmである。覆土は灰色シルト質粘土、オリーブ灰粘土等である。出土遺物は漆椀底部・箸状木製品・礫・木片等である。

SE5038（図版11・12・105）

8B8区、SE5005の北側に位置する。確認面での平面形は円形に近く径約1.2mくらいと大きいが、深さ0.3m付近で小さくなり、径0.4mで垂直に落ちる。この部分に曲物井戸枠が設置されている。曲物は直径40cm、深さ40cmである。この曲物の廻りを薄い板材を密に一周させている。

SE947（図版15・16・105）

3D23・24区、調査区の一番西側に位置する。SD1014埋没後に作られている。径約1.6mの円形で、確認面からの深さ約0.85mである。下部には曲物井戸枠が設置されている。覆土上層は黒褐色を中心としたシルト層で灰色のブロック土が混入する。下部は灰色の粘質シルト層である。底部の曲物は直径約45cmである。出土遺物はない。

SE476（図版15・16・105・106）

4G18区に位置する。SD244掘削後に確認されたことから、この井戸の方が古いと判断される。平面形は径約0.93mの円形で深さは約0.77mである。中央には井戸枠として、大小曲物が上下2段で設置されている。上段の曲物が大きく、直径約67cm、高さ40cm、下段は上段と10cmほど重なるように設置されている。下段の曲物は直径約40cm、高さ40cmである。覆土はオリーブ黒粘質シルトに灰ブロックをまばらに含む。炭化物、腐植物を多量に含む。出土遺物は漆椀片・珠洲焼・板材等である。

SE17（図版18・23・106）

5G22区に位置する。調査区の一番南側で、近くに井戸が集中する。掘形は確認面で円形に近いが、下部では方形に近い。径約1.3m、深さ1mを測る。方形の井戸側の中央に曲物が設置される。井戸側は一辺約0.8m方形である。杉板材を縦に密に並べ、内側で横桟止めされる。板材は部分的に二重、三重となる。中央の曲物は径45cm、高さ50cmである。覆土上部はオリーブ黒砂質シルトに灰色ブロックが混入し、炭化物や腐植物が混じる。曲物内部は粘質シルトである。出土遺物は珠洲焼・土師質土器・木片等である。

SE43（図版18・23・106）

5G19区にあり、SB14の南に位置する。掘形は長軸1.15m、短軸1.00mのほぼ円形で深さは約0.85mである。中央に曲物が設置される。曲物は径約45cm、高さ約50cmである。覆土は上層が灰砂質シルトで、曲物部分は灰色またはオリーブ黒で腐植物等を含む。木片等が出土している。

SE227（図版18・23・106）

5G14区に位置する。SE43のすぐ西隣である。掘形は径約1.5mの円形で、深さ0.4m付近で小さくなり径1mほどとなる。底部では径0.7mである。深さは約1.4mある。上面では、第3層で被熱した大型

の礫が数個認められる。1～3層ではオリーブ黒に灰色土がブロック状に混入する。下部には井戸枠曲物が設置されている。径約50cm、高さ40cmである。珠洲焼が出土している。

SE229（図版18・23・106・107）

5G18区に位置する。SE17・229に挟まれる。長軸1.58m、短軸1.25mとやや方形に近く、深さは0.45mである。下部に木組された井戸枠が設置されている。木組は一辺75cm方形で四隅の縦木に、横桟を配している。四隅の縦木は角状の割材で、先端を杭状に尖らせている。また、先端から0.8m付近に枘穴が穿たれる。対応する横桟は長さ70cmで枘が認められる。埋土はオリーブ黒シルトで灰色ブロックを多く含む。珠洲焼片が出土している。

SE241（図版18・23・107）

6G11・16区に位置する。長軸1.84m、短軸1.3mの楕円形で深さ1mである。中央に曲物が据えられている。曲物は径50cm、高さ56cmである。その周囲に板材が数本立った状態で検出されていることから、曲物を囲むように井戸枠が存在した可能性が大きい。埋土は灰色・オリーブ黒で灰色シルトブロックが混入する。出土遺物はない。

SE421（図版18・24・107）

5G12・13区に位置する。長軸2.3m、短軸2.1mの円形に近い。深さは約0.85mである。方形の井戸枠の中に曲物が据えられている。埋土は暗オリーブシルト、灰シルト等で炭が混じる。下部では腐植物が混じる。方形の井戸枠は、薄い縦板材を連続で並べ横桟で留めている。土圧により中央部分が押されてへこんでいる。板は縦約1m、幅30cmくらいのものを利用している。中央の曲物は大小2個入れ子状で検出された。大は径約55cm、高さ53cm、小は径約46cm、高さ59cmである。出土遺物は珠洲焼・土師質土器皿である。

SE280（図版18・24・107）

4F14・15区に位置する。上面は長軸4m、短軸2.68mと大きいが、深さは0.68mと浅い。オリーブ黒・灰シルトを基調とし、炭（炭化物）層が縞状に入る。中央には曲物が設置されている。径30cmと井戸規模からすると小型で、当初から設置されていたものかは明確でない。多くの木片、木製品が出土したほか、珠洲焼・土師質土器・青磁・白磁が出土した。

SE910・SE911（図版18・25・108）

5・6F区に位置する。2基隣接して存在し、切り合い関係からSE911が新しいことがわかる。SE910は長軸2.1m、短軸1.7m、深さ0.9mであるが、上面ではほかの柱穴等が切り合っており、平面形は明確でない。覆土は灰オリーブのシルト質で炭や腐植土が混入する。覆土上面で礎板等が見られるが、廃棄したものでなく、井戸埋没後に柱穴として掘削設置したものと思われる。井戸枠には舟が転用されている。舟は深いU字状で、縦に半割している。珠洲焼、羽口、箸等が出土している。SE911はSE910の南側にあたる。長軸約3m、短軸約2mの長方形に近い。方形の井戸枠が東側に検出されたが、西側にも井戸枠と考えられる木枠底部が残存していた。周囲には柱穴、礎板が多く認められる。総じて井戸埋没後の構築である。東側の井戸枠は、方形の木枠に板材を縦に連続設置している。一辺70～80cmである。内部には曲物が設置されている。覆土は上部が灰色シルト質土、下部がオリーブ黒で腐植質炭化物を多く含む。珠洲焼等が出土している。

SE2026（図版18・25・108）

5F6・7・11区に位置する。径約1mの素掘り井戸である。深さは約0.7m。覆土はオリーブ黒シルト

を基本に腐植物を混入する。木片が出土している。

SE210（図版27・32・108）

6F24、6G4区に位置する。長軸1.7m、短軸1.32mの楕円形で、深さは1.48mを測る。下部に曲物が設置されている。径約70cm、高さ60cmである。覆土は黒またはオリーブ黒シルトで炭化物を含む。珠洲焼、土師質土器皿が出土している。

SE168（図版27・32・109）

6G14・15・19・20区に位置する。長軸2.3m、短軸1.88mの楕円形で、深さ1.2mを測る。下部に曲物が設置される。径64cm、高さ60cmと大型である。覆土は上部が灰色シルト質土、下部は全体的に黒く、炭等を多く含む。出土遺物には、珠洲焼・土師質土器皿・箸状木製品等がある。

SE313（図版27・33・109）

7G7・8区に位置する。長軸1.6m、短軸1.4mの楕円形に近い。深さは約1.0m。下部に井戸枠部材の角材が残存する。覆土は暗灰、灰色シルトを基本とし、腐植物等を含む。山茶椀が出土している。

SE384（図版27・33・109）

7G8区に位置する。径約1.1mの円形で深さ0.68mを測る。素掘りの井戸である。覆土はオリーブ黒で、灰色シルトブロックを含む。漆塗椀片が出土している。

SE174・SE495（図版27・33・109）

6F19・20・24・25区に位置する。2基の井戸が重複していると判断される。SE174は北西よりで、長軸1.6m、短軸0.96mの隅丸方形に近く、深さは1.2mを測る。下部に曲物が設置されている。覆土は下部に腐植炭化物を多く含む。出土遺物は珠洲焼・羽口等であるが上部からは小型曲物・板材等が多く出土している。SE495は南東に重複する。径約1.85mの円形で、深さ1.15mを測る。曲物等は確認されていない。覆土はオリーブ黒を基調とし、炭や灰色ブロックを含む。箸状木製品等が出土している。

SE755（図版27・33・109・110）

6F17区に位置する。確認面での規模は長軸2.5m、短軸2.3mの楕円形で、深さは1.5mを測る。深さ0.4m以下では、長軸1.4m、短軸1.7mと小さくなり、下部では径1mほどである。下部には曲物が設置されている。覆土は黒～オリーブ黒の砂質シルト層で、炭化物や腐植物を多く含んでいる。上層からは農具の柄振、多量の箸・木片・青磁・白磁・土師質土器皿・珠洲焼等が出土している。

SE2022（図版27・34・110）

6F9・10・14・15区に位置する。平面形は径2.3mと大きく、深さは0.9m以上となる。井戸枠には丸木舟を転用している。一辺約90cmである。井戸枠は同一と思われる舟を縦に割り（3枚）、方形に近い平面形に立てているが、間隙には板材を数枚入れて補強している。この板材の間に大形の珠洲甕破片（188）が挟まれていた。舟の利用している部位は端部近くで、底面が上方へカーブし始めたあたりである。出土遺物は箸・下駄・漆塗椀等の木製品・土師質土器等である。

SE2044（図版27・34・110）

7E8区に位置する。径1mほどの円形で深さは0.9m以上となる。素掘りの井戸であるが、底部から径約22cmの小型曲物が出土した。設置してあったものか、投棄されたものかは定かでない。覆土上部は調査時崩落により失った。下部はオリーブ黒シルトで腐植物を多く含む。下層からは舟形木製品・漆器椀が出土している。

SE2049（図版27・34・110）

7E14・19区に位置する。確認面では径約1.8mの円形に近く、深さは1.5m以上となる。確認面から0.3m下で径約1.2mと小さくなり、鉛直に落ちる。そこに曲物が設置される。曲物は径70cm、高さ80cmである。曲物の廻りには南側を除き、密着して立板が据えられている。覆土はオリーブ黒シルトである。箸・しゃもじなどの木製品・土師質土器皿が出土している。

SE378（図版38・39・111）

7G20区に位置する。長軸1.66m、短軸1.28mの楕円形であるが、深さは0.5mと浅い。井戸枠と思われる板材が多数出土したことから井戸と分類した。覆土はオリーブ黒を主体とし、炭や腐植炭化物が混じる。3層では特に多くの箸が出土している。そのほか、珠洲焼や青白磁（梅瓶）片等がある。

SE385（図版38・39・111）

7F20、8F16区に位置する。長軸1.5m、短軸1.3mの楕円形で深さは0.9mを測る。井戸枠等の施設は確認されていないが、セクション図では3・4層の周囲に5・6層があることから、曲物等が抜き取られた可能性もある。覆土はオリーブ黒が基本で、炭化物や灰色シルトブロックが混じる。出土遺物はない。

SE349・SE359・SE376・SE496（図版38・39・111）

7G4・9・10・14・15区に位置する。4基の井戸が重複する。SE496は一番北側に位置する。径約0.8mの円形で深さは約0.8mである。SE349は中央西側に位置する。径約0.9mの円形で、深さ約0.6mである。曲物が残存する。SE359はSE349の東隣にある。一辺約1.4mの隅円方形で深さ0.9mを測る。SE376はその南側にある。径約1mの円形で、深さは0.7mを測る。覆土は基本的に共通で灰から青灰色で灰、オリーブシルトがブロック状に混じる。出土遺物はSE376で土師質土器皿、SE349で珠洲焼、SE359で珠洲焼・板材がある。切り合関係は新しい方からSE376、SE349、SE359、SE496となる。

SE2066（図版38・40・111）

8E8・13区に位置する。長軸2m、短軸1.5mの長円形で、深さは0.7mを測る。曲物等の付属施設は確認されていない。覆土は、灰、オリーブ黒、黒シルト質土で、炭化物・腐植物を含む。

SE2050（図版38・40・111）

8E17・18区に位置する。長軸1.4m、短軸1.1mのほぼ円形で、深さは0.8mを測る。覆土はオリーブ黒シルトに灰色シルトがブロック状に入る。土師質土器皿が出土している。

SE3（図版42・43・111）

2F18・19区に位置する。集落のはずれに設置されている。長軸1.44m、短軸1.2mの隅円方形に近い。深さは0.45mである。覆土は灰色粘質土である。下部に曲物が設置されている。曲物は径67cm、高さ25cmである。曲物内部には腐植物等が多く堆積している。珠洲焼が出土している。

C　土　　坑

SK1037（図版2・3・112）

5D16・21区に位置する。東西方向に細長く、不整形な土坑。長さ約3m、幅0.8～1.3mと一定しない。深さは最深部で0.5m。覆土はオリーブ黒シルトを基本に、下部では灰色となる。上部では炭がまばらに混じる。珠洲焼1点が出土している。

SK1030（図版2・4・112）

SK1035の西北側、5D11・16区に位置する。長軸約2.2m、短軸約1.1mと細長い。深さは約0.31m

である。上部は腐植炭化物の炭層で、下部はオリーブ黒のシルトである。遺物は青磁蓮弁文椀・土師質土器皿・珠洲焼である。

SK1035（図版2・4・112）

SK1030の南西隣、4D20、5D16区に位置する。長軸1.9m、短軸0.8～1.3mの不整形で、深さは最深部で0.35mとなる。覆土は中央に黒色の腐植炭化物層を挟んで上部にオリーブ黒、下部に灰色シルト質土がある。遺物は珠洲焼・土師質土器皿がある。

SK1070（図版5・10）

6D16区に位置する。長軸1m、短軸0.7mの楕円形で、深さは0.25mと浅い皿状である。覆土は灰色シルトで炭が混じる。土師質土器皿が出土している。

SK1073・SK1074（図版5・10・112）

6D16、5D20区に接して存在する。SK1073は径約0.9mの円形に近く断面皿状。深さは約0.2m。覆土は灰色シルトで、炭等を混入する。白磁皿が出土している。南西側に接してSK1074がある。径約0.72mの円形に近く、断面皿状。深さ約0.25m。覆土はSK1073と同様である。出土遺物はない。

SK5027（図版11・12・112）

7D15、8D11区に位置する。長軸1.1m、短軸0.9mの不整形で、深さは0.8m。下部での平面形態は瓢状である。覆土はオリーブ黒や灰色シルトを基本とし、これに近い色の土がブロック状に入る。出土遺物には箸状木製品・土師質土器皿がある。

SK5021（図版11・12・112）

7C19・24区に位置する。長軸1.28m、短軸0.95mの楕円形で、皿状を呈し、深さは0.3mとなる。覆土は灰色土で下部に炭化物を多く含む。出土遺物はない。

SK22（図版13・14・112）

8B20・25区に位置する。東西に走る水路に沿ったトレンチにより、全体規模は明確でない。東西1.8m、南北は1.24m以上である。断面はU字状に近いがややすぼまる。深さは0.7m。覆土は上部が黒褐色土、下部は黒色で炭層が厚く堆積する。箸状木製品が多く出土しているほか、珠洲焼・土師質土器皿がある。

SK6001（図版13・14・113）

9C8区に位置する。東西に走る水路に沿ったトレンチにより南側が破壊されている。径約1.1mの円形と考えられる。浅い皿状で深さ0.3mを測る。覆土はオリーブ黒、灰褐色シルトである。土器等が出土している。

SK6021（図版13・14・113）

9B5区に位置する。長軸1.48m、短軸1.24mの楕円形で、深さは0.6mを測る。断面形はU字状に近い。覆土は上面にオリーブ黒褐色土。3・4層に腐植物、炭化物層が厚く堆積する。

SK6023・SK6024（図版13・14・113）

9B4区に位置する。東側のSK6023は径約0.8mの円形に近く、深さは約0.7mを測る。SK6024もほぼ同規模であるが深さは0.3mと浅い。覆土はいずれもオリーブ黒、灰色土で、下部には腐植土が認められる。土師質土器皿が出土している。

SK6040（図版13・14・113）

9C5、10C1区に位置する。排水溝トレンチに切られ、全体は不明。東西0.9mを測る。断面U字状で

深さ0.45mを測る。覆土はオリーブ黒と灰色シルトがブロック状に互層となっている。土師質土器皿が出土している。

SK6037（図版13・14・113）

9C3区に位置する。排水溝トレンチに切られているため全体の形状・規模は不明。南北約1.1m、深さ0.65mを測る。断面は、南壁が垂直近く落ちるのに対して、北壁は緩い傾きを示す。覆土はオリーブ黒を基準に灰色シルトブロックを混入する。井戸の可能性もある。木製品・土器等が出土している。

SK278（図版15・17・113）

4G14・15区に位置する。径約0.85mの円形で、深さ0.91mを測る。壁面はほぼ垂直に落ち、底面に径30cmほどの曲物が認められる。覆土はほとんどオリーブ黒で炭化物を含む。2層から珠洲焼が出土している。井戸の可能性もある。

SK636（図版15・17・114）

3E14・15区に位置する。長軸1.15m、短軸0.8mの不整形で深さは0.1mと浅い。覆土はオリーブ黒を基調とし、炭化物を多く含む。上面に珠洲焼甕破片が多く出土している。ほかに青白磁（梅瓶）破片もある。

SK956（図版15・17・114）

4D21、4E1区に位置する。SD980の西側に重複するがSK956の方が新しい。長さ3.8m、幅0.9mのほぼ直線の溝に近い。深さは約0.3mで断面U字状。覆土はしまりのない黒色炭化物層。珠洲焼・土師質土器皿・白磁・青磁等が出土している。長軸はほぼ南北方向。

SK2004（図版15・17・114）

4E19・24区に位置する。長軸約1m、短軸0.84mの楕円形で、深さ0.28m。断面U字状。覆土はオリーブ黒で炭化物を含む。出土遺物はない。

SK2003（図版15・17）

4E15区に位置する。径約0.75mの円形に近く、深さ0.13mと浅い。覆土はほとんどオリーブ黒で炭化物を含む。銭貨2枚が出土している。SD2094と切り合うがSK2003が新しい。

SK235（図版18・25）

5G2・3区に位置する。径0.96mの円形に近い。深さは0.35m。覆土はオリーブ黒、灰オリーブで炭化物を含む。土師質土器が出土している。

SK39（図版18・25・114）

5G25、6G21区に位置する。調査区外に延びるため、全体を把握することはできない。径約1mの円形になると考えられる。深さは0.2mと浅い。覆土はオリーブ黒で炭化粒を含む。土師質土器・鉄滓・羽口が出土している。

SK16（図版18・25）

5G24区に位置する。長軸1.45m、短軸0.98mの不整形で、深さは長軸両端で0.4m、中央で0.15mとなり形状から2つの土坑が存在した可能性が高い。覆土は褐灰、黒褐である。珠洲焼甕が出土している。

SK104（図版18・25）

6F21区に位置する。長軸1.18m、短軸0.6mの隅円方形で、深さ0.45mを測る。覆土は黒褐、灰オリーブ、黒で炭化物を多く含む。出土遺物はない。

SK106（図版18・25・114）

6G1・2区に位置する。径約0.86mの円形で、深さは0.9mを測る。壁面はほぼ鉛直に落ちる。覆土は灰オリーブ黒で、下部は黒色土の腐植炭化物層である。珠洲焼が出土している。

SK608（図版18・25・115）

5F25、6F21区に位置する。長軸1.8m、短軸1.5mの楕円形に近い不整形。深さは0.8～0.9mを測る。覆土は中層に炭を多く含む黒褐色シルトがあり、下層は灰シルトを基本としている。土師質土器皿や多くの箸状木製品が出土している。また礎板も出土しているが、投棄された状態でなく、据えられた状況が認められる。この土坑の埋没後に柱穴として掘られたピットに伴うものと考えられる。SD234、SD516と重複するが、それらよりこの土坑が古い。

SK763（図版18・26・115）

5G10・15区に位置する。径約2mの円形で、深さは約0.7mを測る。覆土はオリーブ黒色のシルト質土で、全体にしまりなく柔らかい。出土遺物には板材・箸状木製品・漆塗皿・珠洲焼等がある。礎板も認められるが、この土坑の埋没後に掘削された柱穴に伴うものと考えられる。

SK1072（図版18・26・115）

5D24・25区に位置する。長軸1.92m、短軸1.38mの長円形であるが、深さは0.38mと浅い。覆土は上層が灰色シルト、下層が黒色シルトである。珠洲焼・土師質土器皿・瀬戸美濃皿等が出土している。

SK1075（図版27・26・115）

6D21区に位置する。長軸1m、短軸0.9mの円形に近い。断面形は椀形で深さは0.4mを測る。覆土は上層が灰色シルト、下層は黒色シルトで灰色ブロックを混入する。出土遺物には青磁・土師質土器皿がある。

SK2039（図版18・26）

5E13・14・19区に位置する。長軸1.84m、短軸1mの隅円方形に近い。深さは約0.25mと浅い。覆土は上層がオリーブ黒や黒色シルトで、炭化物や腐植物を含む。下層は灰色シルトである。土師質土器皿が出土している。SD2024・5EP57と重複するが、いずれもこの土坑より古い。

SK2040（図版18・26）

5E1・2・7区に位置する。長軸約1.1m、短軸0.58mの不整形で深さは0.3mを測る。覆土は上層が黒色シルト、下層が灰色シルトでいずれも炭化物を含む。土師質土器皿が出土している。

SK2091（図版18・26）

5E5、6E1区に位置する。長軸1.1m、短軸0.85mの不整形で深さ約0.27mを測る。覆土は黒およびオリーブ黒で腐植物や炭を含む。出土遺物はない。

SK2019（図版27・30）

6F3・4・8・9区に位置する。径約0.7mの円形で深さは0.4mとなる。周囲に多くのピットがあるが新旧関係は明確でない。覆土はオリーブ黒を中心に灰色ブロックを混入する。出土遺物はない。

SK7（図版27・34）

6G20・25、7G16・21区に位置する。長軸1.63m、短軸1.22mの不整形で深さは0.35mを測る。覆土はオリーブ黒シルトを主体とし、炭化物が混入する。青磁・土師質土器皿等が出土している。

SK6（図版27・34）

7G21・22区に位置する。長軸2.1m、短軸1.22mのやや細長い不整形で、深さは0.2mである。覆

土は黒褐色土で腐植物を多く含む。土師質土器が出土している。

SK328（図版27・34）

7G6・11区に位置する。径約0.7mの円形で深さ0.3mを測る。覆土はオリーブ黒シルトで全体に炭が混じる。珠洲焼が出土している。

SK5（図版27・35・115・116）

7G17～19・22～24区に位置する。長軸4.9m、短軸3.7mの楕円形で深さは0.4mほどである。覆土は黒・黒褐色土で多量の腐植物・炭を含んでいる。出土遺物は木製品を中心に多い。特に箸状木製品が多く、255本確認している。そのほか土師質土器皿・珠洲焼・白磁等が出土している。

SK2035（図版27・36）

6E22・23、6F2・3区に位置する。径約1.2mの略円形であるが、段も認められる。覆土は茶褐色土、灰色土、オリーブ黒で腐植物、炭化物が混じる。規模から井戸の可能性もある。

SK2042（図版27・36・116）

7E6・7・11・12区に位置する。長軸2.4m、短軸2.1mの方形に近いが不整形である。深さは0.3mと浅い。覆土はオリーブ黒、黒色土を基本に灰色シルトブロック、炭化物を混入する。出土遺物は多く、土師質土器皿・青磁・白磁・板材等がある。

SK2043（図版27・36・116）

7E12・13・17・18区に位置する。長軸2.8m、短軸2mの不整形で、2つの土坑が重複しているようにも見える。深さは0.2mと浅い。覆土はオリーブ黒である。セクション図を見る限り土坑を2つに分けることはできない。土師質土器皿・珠洲焼が出土している。SD2084と重複するが、この土坑が新しい。

SK2070（図版27・36）

7E24区に位置する。長軸0.9m、短軸0.7m、深さ35cmの小型土坑。覆土はオリーブ黒シルトである。柱穴の可能性もある。SD2073と重複するが、この土坑が新しい。

SK2074（図版27・36）

7F7・8・12・13区に位置する。長軸1.1m、短軸0.85mの楕円形で深さは0.4mを測る。覆土はオリーブ黒に灰色・黒色シルトブロックが混入する。出土遺物はない。

SK2077（図版27・36・116）

7F6・11区に位置する。西隣にSE2022がある。長軸1.5m、短軸1.2mのほぼ円形となる。深さは0.7mで円錐状にすぼまる。覆土はオリーブ黒と灰色シルトの互層またはブロック状で上層に炭層、下層に腐植物層がある。箸・板材・礎板が出土している。

SK2098（図版27・37）

5E5区に位置する。長軸0.9m、短軸0.65mの不整形で深さ0.37mである。覆土は黒色で灰色ブロックを混入する。下部には炭化物が含まれる。出土遺物はない。

SK2101（図版27・37・117）

6E10、7E6区に位置する。長軸2.46m、短軸1.46mの細長い不整形で深さ0.5mを測る。覆土は炭化物を多く含む黒または黒褐色土で、灰色シルトブロックを混入する。珠洲焼や木片が出土している。

SK2114（図版27・37・117）

6D24・25、6E5、7D21、7E1区に位置する。長軸1.33m、短軸0.83mの長方形で深さ0.6mを測る。覆土は灰色シルトに黒褐色シルトがブロック状に混じる。また、腐植土層も見られる。底面はほぼ平

らである。出土遺物はないが、土壌水洗では炭化米が少量出土している。西側にピットがあるが関係は不明。また、東側にSD2084が延びるがこれも関係は明確でない。

SK330（図版38・39・117）

7G14区に位置し、SE396の南側にある。長軸1.8m、短軸1mの楕円形で深さは約0.7mを測る。覆土はオリーブ黒を基本とし、灰色シルトブロック、炭化物を混入する。珠洲焼・土師質土器皿が出土している。SE396より新しい。

SK2059・SK2060（図版38・40・117・118）

8E17・22区に位置し、連続している。SK2059は長軸1.4m、短軸0.85mで南北に細長い。深さ0.45mを測る。覆土は上層が黒またはオリーブ黒で下層はやや灰色となる。底面は中央が窪む。土師質土器皿が出土している。SK2060は北隣に位置する。長軸1.5m、短軸0.6mの細長い不整形である。深さは0.3mと浅い。覆土はSK2059と同じである。出土遺物はない。SK2059が新しい。

SK2047・SK2048（図版38・40・118）

7E15・20区に位置する。北側にSK2047がある。約1m四方の方形に近い。深さ0.65mを測る。覆土は、オリーブ黒シルト質土を基本に、灰色シルトがブロック状に混入する。木片が出土している。SK2048は長軸0.8m、短軸0.65mの隅円長方形で深さ0.3mと浅い。覆土はSK2047と同じであるが、炭化物が多い。出土遺物はない。この2つの土坑の間に7EP70と7EP71が重複する。切り合いから、新しい順にSK2048→SK2047→7EP70→7EP71となる。

SK2062・SK2063（図版38・40）

8E16・17区に位置する。東側SK2062は長軸0.9m、短軸0.7mの不整形で深さ0.2mと浅い。覆土は灰色土にオリーブ黒がブロック状に入る。SK2063は長軸0.6m、短軸0.4mの不整形で深さは0.15mと浅い。覆土はSK2062と同じである。両土坑とも出土遺物はない。SK2062が新しい。

SK2121（図版38・40）

7D25、7E5区に位置する。径約1.75mの円形に近い。深さは約0.83mで底面がすぼまる。覆土は上面がオリーブ黒に灰色シルトがブロック状に混入する。下層は灰色シルトを基調とする。箸・曲物側板・板材等が出土している。SD5018と重複するがSK2121が古い。

SK4（図版42・43・118）

調査区の最南西側2E19区に位置する。長軸1.14m、短軸0.73mの略楕円形を呈する。深さは約0.5mを測る。覆土はオリーブ黒、黒褐色土で腐植炭化物を含む。青磁・土師質土器皿が出土している。

D　溝

SD1013・SD1014・SD1016・SD1251（図版2・4・118）

いずれも遺跡西側を南北に走る溝である。SD1013は3D～4C区にかけて確認された。延長約20m、幅0.6～1m、断面U字状である。覆土は灰色シルトでしまりはない。炭がわずかに混じる。珠洲焼が出土している。この溝の北延長上にSD1251がある。ほぼ同規模の溝であることから同一の溝の可能性が高い。SD1014はSD1013と東側を並行して走り、北側でSD1013に合流する。幅約1.8m、深さ0.15～0.20mで延長約18mである。南側は確認できず3E9付近で消える。溝中にSE947があるがSE947の方が新しい。方位はSD1013と同じ。SD1016はSD1013の西側にあるが、浅いため規模がうまく確認できない。セクション部分では幅約0.8m、深さ0.1mである。SD1013とほぼ並行して走るが、確認

した延長は10mくらいである。北側で幅が大きくなる。珠洲焼甕が出土している。

SD1203（SD811・SD5001・SD1165）（図版5・10・92・119）

5～7A～C区に位置する大形の溝で方形にまわる可能性もあるが、調査区外に延びるため、確定はできない。調査事情により遺構番号が地点により異なった数字がついているが同一の溝である。溝幅は西側で3.2m、深さ0.5mを測る。断面は皿状を呈する。覆土は上層が灰、下層がオリーブ黒の粘質シルト層で褐色の植物層が混じる比較的単純な層である。西側での出土遺物はほとんどない。南側SD1203は、幅3～3.4m、深さ0.6mである。断面は皿状で、覆土はオリーブ黒を基本に、4～7層ではかなり炭や腐植物が混じる。この南側では比較的出土遺物が多く、青磁・白磁・珠洲焼・土師質土器皿・砥石・木皿・漆塗椀等が出土している。東側SD5001は、幅4～6m、深さ0.5～0.6mを測る。覆土はSD1203に共通し、植物遺体の炭化物層も認められる。出土遺物は少なく、板材2点が出土したに過ぎない。北側SD1165は東側からのカーブを確認できたのみである。東側からのカーブ付近で幅3mとやや狭くなる。覆土は基本的にほかと同様である。出土遺物には、青磁・珠洲焼・木椀・木皿・銭貨・土師質土器皿・鉄製品等がある。出土遺物は、南北両側で目立つ。この4本の溝で囲まれた方形区画の規模・形状を見ると、きれいな方形を示していない。南側SD1203の長さは溝中心で18mを測る。これに対してSD811は、北に行くにしたがい次第に西側に逃げるようにカーブをとる。その内側にちょうど収まるように建物が建てられている。したがってこのカーブは建物を意識したのもであると言える。一方東側は、SD1203に対して直角でなく、やや鋭角である。北側は一部しか確認できず明確でないが、SD5001に対しては直角となるようである。SD1203溝中心からSD1165溝中心までの長さは23mとなり、東西より長い。

SD1221・SD1222・SD1223（図版5）

前記方形区画に沿ったSD1203からSD5001にかけてL字に確認された溝で、内側と外側にある。SD1221は外側を廻る。幅0.3～0.4m、深さ10cm前後である。西側はSD977あたりまで、北側は長さ7mくらいまで確認できるがその先は明確でない。SD1222・1223は内側を並行して走る。地点によって溝幅、深さは異なるがおおよそSD1221と同じである。西側は両溝ともにSAウ付近まで確認できる。北側は2本ともSD810まで延びるが、途中連続性が確認できなくなる。

SD1264（図版5・10・119）

方形区画内、SD1203の溝中央から約11m北、6B区を東西に走る溝。西側はSD827（SD977）に交わり、東側はSB2・3をゆるく巻くようにSD5001の手前で南側にカーブし、約5.5mで消える。溝幅は西側で1.2m、中央最大幅2.7m、東側で0.5mと一定でない。断面形はU字状で深さは西側で深く0.5m、東側では0.3mである。覆土は灰色オリーブシルトで中層に腐植炭化物が見られる。流木や礎板が出土している。

SD1213（図版5・10・120）

6D区を南北に走る溝。北側はSD1203に入り、南側は円形に廻るSD2105と連続する。確認延長約10m、溝幅0.7～0.8m、深さ0.3m前後、断面U字状を呈する。覆土はオリーブ黒シルトで炭を含む。いくつかの溝と切り合いがあるが、SD1203・2105とは不明。SD1057の方が新しい。SK1237とは不明。出土遺物には、珠洲焼・土師質土器皿・刀子等がある。

SD1227（図版5・10）

6C・D区に位置する南北の短い溝。北側はSD1203に交わる。溝幅0.8～1.25m、深さ約0.2m、確認延長約3.8mである。覆土はオリーブ黒シルトで炭が混じる。SD1203・1221より古く、SK1220よ

り新しい。土師質土器皿が出土している。

SD5011（図版11・12）

7D区に位置する南北に延びる溝。溝幅約1m前後、深さ0.3～0.4m、断面U字状である。延長約8.5mを測る。覆土は上層に炭の混じった黒色粘土、下層にオリーブ灰色シルトがある。SD5017・5018が直交して走るが新旧関係は不明。

SD5017（図版11・12）

7D区を東西に走り西側はSD5001に、東側はSD5011に交わる。溝幅0.5～0.6m、深さ0.23m、断面U字状で浅い。延長約7m。出土遺物はない。

SD5018（SD2065）（図版11・12）

7・8D・E区を東西に走る溝。溝幅0.9m、深さ0.35m前後、覆土はオリーブ灰色である。断面形U字状。延長は約22mで、東側ではSD348に交わる。出土遺物は土師質土器皿・珠洲焼がある。SK2121と切り合うが、SD5018の方が新しい。

SD980（SD977・SD1012）（図版15・17・120）

3F～5B区に向って南北に走る溝。溝幅1～2m、深さ0.3m、延長約50mである。方形区画の溝SD1203で切れるが、直線状に北へ延びている。断面図を見ると新旧3つの溝が確認でき、西側から東に向けて順次移動したことがわかる。溝は各々埋没してから新しい溝が掘られたことがわかる。古い方からSD980・SD977・SD1012とした。部分的に各土坑の底面が確認できる場所がある。一番新しい溝SD1012では溝幅約0.7m、深さ0.2mで断面半円状である。ほかの溝は底面が水平で溝幅はやや大きいようである。この溝と重複する遺構は多くある。北側ではSB1～4の柱穴と重複し、いずれも埋没後に掘られていることがわかり、溝が古いことがわかる。またSD1203にも切られている。そのほかSE1005、SB15・16・18およびSK956はいずれも新しい。したがって、建物群が存在した時点で、溝は埋没していた可能性が高い。出土遺物にはSD977で羽口・鉄滓、SD1012で土師質土器皿・珠洲焼・羽口・鉄滓等がある。

SD244（図版15・17）

4G区にある南北に延びる溝。北側はSD248に交わり、南側は調査区外に延びる。幅約1.2m、断面U字状で、覆土は灰色およびオリーブ黒シルトである。深さは0.3m前後。確認延長は6m。SD248との切り合いは不明。出土遺物は青磁・土師質土器皿である。

SD2012（図版15・17）

4D25、4E4・5区に位置する細い溝。東西に走る細い溝に対してT字状に交わる。幅約0.2m、深さ7cmと浅く、延長は約3mであるがやや西側にカーブする。覆土はオリーブ黒シルト。SD2024との切り合いは不明。

SD2024（図版18・17）

4・5E区を東西に走る細い溝。東側はSD2095から始まり、西側はSD2012まで延びる。溝幅約0.34m、深さ5cm前後。延長約12mである。SD2095との新旧は不明。

SD233（図版18・26）

5G区に位置し、南北に延びる溝。長さ約2.8mで東側に緩くカーブする。幅は北側で広く約0.75m、南側で約0.4mである。底面は平坦でなく、両端にピット状の凹がある。深さは深い部分で0.35mである。覆土はオリーブ黒を基本に炭化物が全体に混じる。

SD234（SD164・SD2023・SD312）・**SD516**（図版18・26）

SD234は調査区の南東側にあるL字状の溝。溝幅約1m前後、深さ0.4～0.5mを測る。覆土はオリーブ黒を主体に炭層が混じる。確認した延長は南北20m、東西18mを測る。南北では南側で西側に緩くカーブし、調査区外に延びる。また東西では東側で北側に緩くカーブし、SD348に合流する。SE421・755・174と重複するが、いずれもSD234より新しい。珠洲焼・土師質土器皿が出土している。L字の区画内にはSB14がある。SD516はSD234に並行して南北に走る溝。SD234とほぼ同規模の溝。延長8mで北側はSE911にぶつかる。

SD1095（図版18・26・120）

5D25区にある南北に走る短い溝。幅0.4～0.5m、深さ0.4m、確認延長1.8mを測る。覆土は黒褐色シルトで炭を多量に含む。青磁・瀬戸美濃焼が出土している。

SD2027（図版18・26）

5E・F区に位置する南北に延びる溝。溝幅0.2～0.4m、深さ約0.12m、覆土は灰色を基本とし、黒シルトブロックを含む。確認延長約9mであるが、緩く蛇行し直線とはならない。北側で東西に走るSD2094とT字状に交わるが新旧は不明。

SD2087（SD2088）（図版18・26）

5・6F区に位置する東西に延びる溝。幅約0.2m、深さ5cm前後、確認延長約3.5mとなる。覆土は灰色シルト。

SD2090（図版18・26）

5D～5E区にかけて東西に走る溝。幅0.2m、深さ約8cmの細い溝。確認延長約5.5m。覆土はオリーブ黒シルト。

SD2095（図版18・26）

5EF・6E区にかけて南北に走る溝。北側はSD1204に交わる。幅は一定せず0.15m前後の細い部分から北側では0.6mくらいまである。きれいな直線を示さず細かく蛇行する。覆土は灰色またはオリーブ黒である。切り合い関係にあるピット等はすべて溝より新しい。

SD2094（図版18・26）

4・5E区、SD2024の南側を東西に並行して走る溝。幅は0.22～0.42m、深さ約6cmで確認延長約6.6mを測る。切り合い関係にあるピットはすべて新しい。

SD14（図版27・37・120）

5・6G区に位置する南北に走る溝。溝幅0.4～0.7m、深さ0.12m前後で確認延長約2.4mとなる。覆土はオリーブ黒で炭化物を多く混入する。珠洲焼・土師質土器皿が出土している。

SD37（図版37・38）

7G・H区に位置する南北に走る溝。溝幅0.7～0.8m、深さは約0.43m、覆土は黒または黒褐色で粘性が強い。SD348（SD61・62）の延長上にあり、SD61の可能性もある。出土遺物には山茶碗・珠洲焼・土師質土器皿・白磁・砥石等がある。

SD38（図版37）

地点が明確でない。南北方向の溝で、幅約0.7m、深さ0.16mを測る。珠州焼・土師質土器が出土している。

SD166（図版27・37）

6G区に位置し東西方向に延びる溝。幅約0.63m、深さ約0.36mで確認延長は2m。東側でSE168と交わる。覆土はオリーブ黒で炭が混じる。土師質土器皿が出土している。

SD164・165（図版27・37・120）

6F区に位置する。東側で両溝が合流するが、SD165の方が古い。SD165は南西側でSE755に重複し、SE755が新しい。

SD172・SD329（図版27・37・121）

6・7G区に位置し、東西に並行して走る溝。いずれも溝幅0.8m前後。断面U字状で、深さ0.22m前後。覆土はオリーブ黒で炭・炭化物を含む。北側のSD329は確認延長約5m、南側のSD172は約4mである。SD329からは珠洲焼、SD172からは土師質土器皿が出土している。

SD312（図版27・37・121）

7F・G区に位置する。SD2023の続きと考えられるが、ここでは南側にもう1本浅い溝が存在するようである。珠洲焼、土師質土器皿が出土している。

SD2072（図版27・37）

7F区に位置するL字状の溝。溝幅約0.3m、深さ0.1m前後で、確認延長は南北約6m、東西約2mである。

SD2073（図版27・37）

7E・F区に位置するL字状の溝。SD2072とは逆方向となる。規模はSD2072とほぼ同じ。南北延長5m、東西3.5mを測る。位置的にはSB5～7と同一方向で囲むような形をとる。

SD465・SD466（図版27・37・121）

6F・G区に位置する東西に走る溝。幅約0.6m、深さ0.15mくらいである。覆土はオリーブ黒で炭を多く含む。確認延長は約10mで、西側延長上にはSD329がある。出土遺物には珠洲焼がある。南側に接してSD466がある。幅約0.9m、深さ0.8mで断面U字状を呈する。覆土はSD465と全く同じである。発掘の結果延長は明確でなく、土坑が連なっていた可能性もある。

SD2105・SD2106（図版27・37・121）

6E区に位置する。環状に廻る溝が2つ連結して確認された。SD2105は溝幅約0.8m、深さ約0.2mで、断面U字状。覆土は上層にオリーブ黒シルトブロック、下層に灰シルトで炭化物を含む。環状の内側での径は約4mである。この溝は西側でまっすぐ北側に延び、SD1203にぶつかる。SD1213と同一溝かどうか明確でない。もう1つのSD2106は東側にあり、やや規模が小さい。溝幅約0.4mでほかはSD2105と同様である。環状内側での径は約3mである。セクション観察ではSD2105が古い。出土遺物はない。この2つの溝およびその内側にはSB5～7の柱穴が重複しており、いずれも柱穴が新しい。よって建物構築以前の施設であることがわかる。

SD2005（SD348）・**SD2006**（SD61）・**SD2007**（SD62）（図版38・41・121・122）

調査区の東側を南北に走る溝。大きな溝（SD2005）の中に小さな溝が2つ（SD2006・SD2007）が確認できる。セクション図で見る限り、大きな溝が埋没後に小さな溝ができたことがわかる。SD2005（SD348）は溝幅5～6m、深さ1m前後である。覆土はオリーブ黒シルトを中心に、炭化物も混入する。また、下層では砂層となるところもある。ほぼ直線状に北に延びるが北側ではやや西寄りに曲がり、幅も少し小さくなる。SD2006はSD2005が埋没後に溝中の西側を走る。溝幅1～2m、深さ0.6m前後であ

る。覆土は灰色砂層で下部に炭層が認められる。SD2005と同一方向に流れる。SD2007は、SD2005埋没後に溝中の東側を流れる。溝幅１～3m、深さ0.4m前後となる。覆土はSD2005に類似する。SD2007は10C付近で東側に方向を変える。これらの溝からは多くの遺物が出土している。SD2005では珠洲焼・土師質土器皿・青磁・白磁・羽口・金属製品、SD2006では、珠洲焼・土師質土器皿・白磁、SD2007では山茶椀・珠洲焼・土師質土器皿・砥石などがある。断面観察から新旧関係は古い順にSD2005→SD2007→SD2006となる。

SD2065（図版38）

SD5018と同一の溝。

SD2056・SD2084（図版38・42）

７・8E・F区に位置する東西溝。SD2056は溝幅0.8m、深さ0.3m、覆土はオリーブ黒である。東側はSD2005から始まり、西側約7mまで確認される。SD2084と東側で交錯する。SD2084が新しい。SD2084は溝幅0.2～0.3mと細く、深さも0.1m前後である。東側はSD2005から始まり、東に向って約19m延び、SK2114にぶつかる。各遺構と切り合っているがいずれも溝の方が古い。

SD2110（図版38・42）

9F区に位置する短い溝。SD2005の東側にあたるがこの東側にはほとんど遺構は存在しない。溝幅約0.4m、深さ0.06mと浅い。出土遺物はない。

SD2120（図版38・42）

8D区にある南北に延びる溝。SD2005の西側でほぼ並行して走る。幅約0.25m前後、深さ約0.1mと小さい。確認延長は5.4mである。約2m西側にも同規模の溝が並行して走る。

SD71（図版27・42）

7Fに位置し、東西に走る溝。幅1.3～1.7m、深さ0.3～0.5m、覆土はオリーブ黒で炭を混入する。確認延長は約11m。土師質土器皿・青磁・白磁が出土している。

SD2（図版42・43・92・122）

1G25区、調査区の一番南側に位置する長方形の土坑。調査時に溝として処理したことから、このままSDとして扱う。掘り込みの長さ約2m、幅0.9mの隅円長方形である。方位はN17°Wとなる。深さは約0.5～0.6mで断面はU字状である。この土坑の中に棺とみられる木組遺構がある。７層の灰色シルト質土からである。覆土は上面にオリーブ黒シルト質土で、木組内には、灰色土、オリーブ黒土が水平に堆積する。木組は長軸側板が長さ1.8m、幅約30cm、厚さ約2cmである。短軸側板は両側に枘がつくもので、枘までの長さ69cm、枘部を除いた長さ50cmで、幅・厚さは長軸と同じである。長軸側板にはそれに合うように枘穴が穿たれる。両枘穴の距離は1.65mである。底面には長さ1.4m、2cm角の角棒が２本置かれ、それに対して長さ59cmの横角棒が４本置かれている。上部には同様の横角棒が３本残存している。長軸側板の上部にはそれに対応する枘穴が４個穿たれているが、その間隔は37cm、47cm、70cmと一定しない。木組内北側からは漆塗椀２・同皿２・盆？が出土している。

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要

出土遺物はすべて中世で、土器・陶磁器・鉄製品・土製品・木製品・石製品等がある。遺物量は木製品を除いて平箱約40箱である。土器は、珠洲焼およびその系統（在地北沢窯）・瀬戸美濃・常滑・在地瓷器系窯（権兵衛沢・赤坂山・狼沢）・中世土師器皿・輸入陶磁器（青磁・青白磁・白磁）等がある。特に輸入陶磁器の割合が高く、総点数は約500点を数える。珠洲焼と在地北沢窯［川上1992］との区別は難しく、今回は珠洲焼として扱う。瀬戸美濃・常滑はほとんどなく、数点に過ぎない。木製品は非常に多く、総点数約2,700点を数える。土器・木製品は遺構・包含層別に、そのほかは器種別に説明を加える。

2　各　　説

A　土器・陶磁器

1）分　　類（第3表）

珠洲焼－珠州焼とした中には、在地北沢窯［川上1992］の製品もあると考えられるが、珠洲焼と区別

土師質土器皿

A（ロクロヘラ切り）	Ⅰ（小皿）	a	口縁端部に丸み。見込み中央に膨らみ。
		b	口縁からすぐ底部となり、体部を持たない。
		c	体部外反し、口縁端部が薄く尖る。
	Ⅱ（皿）	a	小皿ｃを大きくした形で、底部からの立ち上がり部に面取りまたは丸み。
		b	ａと同様であるが、底部立ち上がりが角張る。
		c	底部外方に向かって張り出しくびれる。体部は開き気味に立ち上がるが端部細くなるものと、丸みを持つものとがある。体部ロクロ目が明瞭で断面厚味の凹凸が目立つ。
		d	ｃのうち底部が小さいもの。
		e	ｃ器形の底部張り出しがなく、そこに数条のナデ線が入る。
		f	底部からの立ち上がりが甘く、体部に丸みを持つ。
B（ロクロ糸切り）	Ⅰ（小皿）	a	いずれも端部に丸みを持つ。
	Ⅱ（皿）	a	器高指数0.22以下と浅いもの。
		b	器高指数0.22以上で体部に丸みを持つ。ナデが２段となるものもある。
		c	器高指数0.3以上、底部から外反または直線状に開く。
C（手づくね）	Ⅰ（小皿）	a	浅く、開きが大きいもの。
		b	同じく開きが大きいが、口縁端部まで厚手。
		c	やや直立し、強いナデ、端部薄くなる。
	Ⅱ（皿）	a	口縁２段ナデ、稜が残る。
		b	稜がなく、口縁外反する。

珠洲焼

甕	a	口縁短く、丸く外反。
	b	口縁水平に大きく開く。
	c	口縁くの字に近く外反、端部丸み。
壺Ｒ	a	頸部長く、端部外反。
	b	頸短い。
壺Ｔ	a	口縁小さく外反し、球体の体部。
	b	頸部丸く外反し、端部下方に少し垂れる。球体の体部。
	c	頸部丸く外反し、端部下方に少し垂れる。胴長の体部。
	d	頸部直立し、口縁端部水平に外に延びる。
水瓶・水注		
鉢・片口鉢		

その他

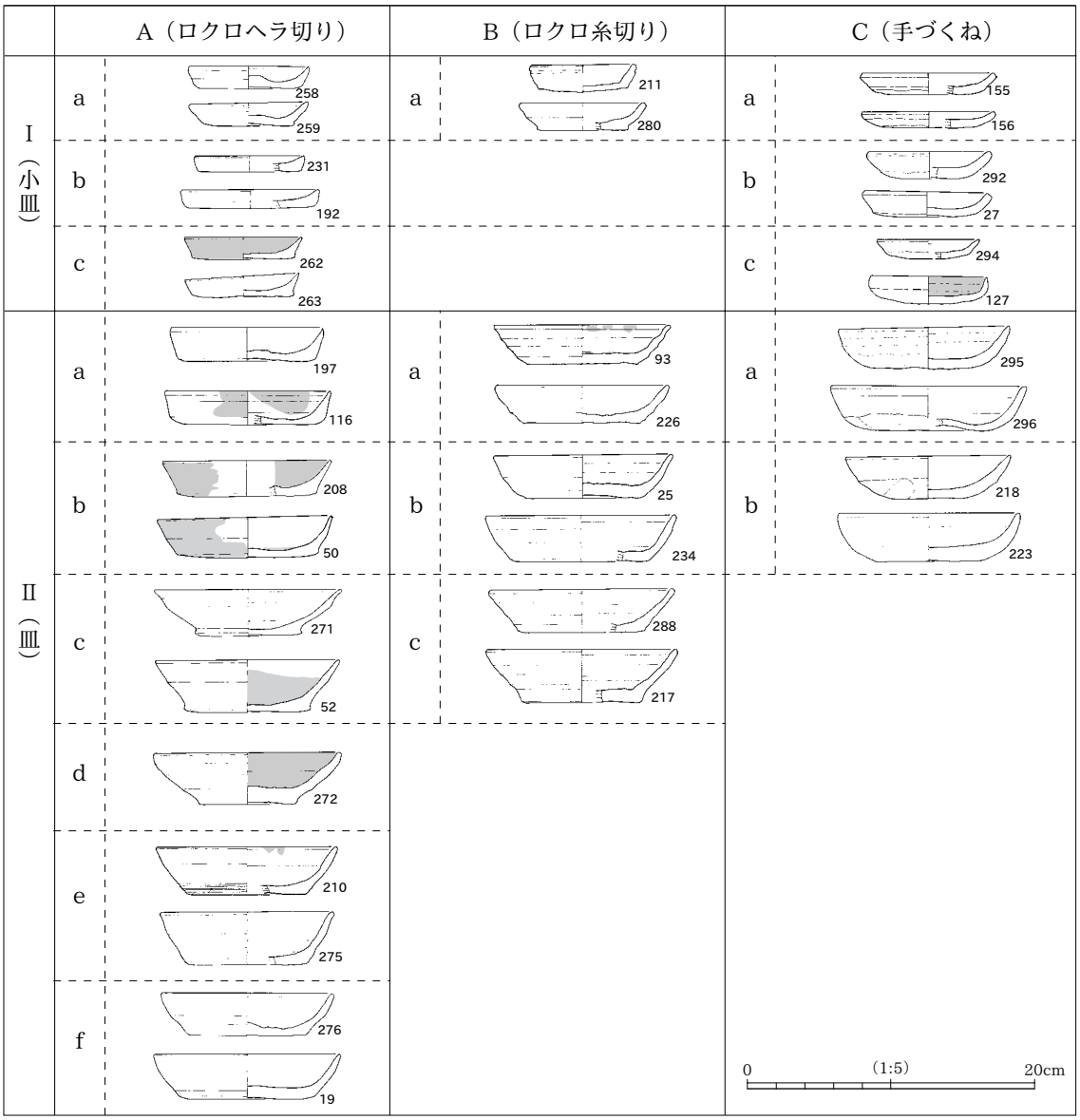
輸入陶磁器	
常　　滑	
瀬戸美濃	
在地瓷器系	権兵衛沢
	赤坂山
	狼沢

第3表　土器分類表

がつかないものがある。研究者により産地の判断が異なり、断定が難しいため、北沢窯の可能性のあるものについて観察表に明記した。甕は口縁部形態によりａ～ｃの３分類した。壺Ｒ種は口縁部の長さでａ・ｂの２分類。壺Ｔは口縁部および胴部形態により４分類した。そのほか水注・水瓶、鉢・片口鉢がある。鉢・片口鉢は全体をうかがえるものが少なく、片口鉢になるか不明なものが多いため、鉢・片口鉢とした。

土師質土器皿：整形技法・底部切り離し技法と大きさにより以下のように分類した。まず大きさは、口径７～９cmの小型のものをⅠ（小皿）類、口径11～14cmくらいのものをⅡ（皿）類とした。ロクロ成形のうち底部切り離しがヘラ切りのものをＡ類、糸切りのものをＢ類、手づくねのものをＣ類とした。AIはロクロヘラ切りの小皿である。その中を器形の特徴により細分した。第３表のとおりである。そのほかの土器については、出土量が少ないため細分しない。

なお、各土器の分類・年代観は珠洲焼［吉岡1994］、輸入陶磁器［山本2000］、常滑［中野2005］、瀬戸美濃［藤澤2005］、在地瓷器系［鶴巻1997b・2005］によった。観察表による表記もそれにしたがった。



第10図　土師質土器分類図

2）遺構出土土器（図版44～53）

SD38（1）・**SD67**（2）

各々土師質土器皿が出土している。

SD71（3～11）

3は珠洲焼甕のC類。4～11が土師質土器皿である。4・5がAⅡe類、11がCⅡb類のほかはAⅡf類がまとまった出土をみている。

SD166（12）・**SD172**（13）・**SD306**（14）

各々土師質土器皿が出土している。

SD312（15～17）

15は珠洲焼壺T種底部である。無文部分が比較的広い。

SD329（18）

青磁椀Ⅱ類である。

SD336（19）・**SD465**（20）・**SD516**（21・22）・**SD711**（23・24）

各遺構1～2点の出土である。SD711では白磁皿Ⅸ類（24）と手づくね土師質土器CⅡb類が伴っている。

SD1012（25～27）

土師質土器皿糸切りBⅡb類（25・26）と手づくねCⅠb類（27）が出土している。

SD1013（28）

珠洲焼壺T類である。やや外反気味の口縁で端部が下方に延びる。口縁端部に波状文を施す。体部は面をなす山形の平行叩き。

SD1016（29～31）

29は珠洲焼甕C類。頸部強いナデ。口縁端部は丸み。30の青磁椀はⅡc類。鎬蓮弁に見込みに細い草花文様。31は大形の盤。外面大形の蓮弁、見込みに双魚文。

SK1072（32）

やや胴長の珠洲焼壺T類。頸部緩やかに外反し、端部外方に延びる。体部面取り山形平行叩き。

SD1095（33・34）

33は古瀬戸卸皿。全面に釉がかかる。片口である。34は青白磁梅瓶であるが、被熱により文様がとんでいる。

SD1203（35～62）

北西側で建物を囲繞する方形に廻る溝である。SD1203とした土器は溝の南側、SD5001とした土器は溝の東側、SD1165とした土器は溝の北側で出土している。35は珠洲焼壺T類である。口縁は緩く外反し、口縁端部は溝状にへこむ。体部外面山形平行叩き。36は在地瓷器系土器壺である。口縁はN字状で、体部型が張る。口縁形態から赤坂窯と考えられる。37～58が土師質土器皿である。すべてが底部ヘラ切りのA類であることが注目される。37～49までが小皿AIc類でありまとまった出土を見ている。50はAⅡb類、51～53がAⅡc類でこの4点はいずれも口縁端部が薄くなる共通性を持つ。55～58がAⅡf類である。59～61は青磁椀Ⅱ類である。62は白磁皿ⅧIc類である。

SD2005（63～110）

遺跡東側を南北に走る大きな溝である。この溝埋没後にSD2006・2007が形成される。多くの土器

が出土しているが、SD348としたものは平成10年度発掘区（南側）で、SD2005としたものは平成11年度発掘区（北側）である。63は珠洲焼甕で口縁端部は丸みを持つ。64・65は壺T類である。64は叩き目が比較的細く、胎土から北沢窯の可能性がある。65は緩やかに外反する口縁で端部が溝状となる。叩きは比較的浅い。66は壺R種。体部はやや肩が張り、肩部に櫛描小波状文と大きな連続弧状文が2段施される。67～75が鉢・片口鉢である。67・68は胎土から北沢窯の可能性がある。68は体部に丸みを持ち、口縁部が細くなるⅡ期の典型である。69～71は体部直線的に延びるが端部は丸みを持つものと肥厚するものとがある。72は体部に丸み。76は在地瓷器系陶器でスタンプ文様から狼沢窯と考えられる。77～100が土師質土器皿である。A・B・C類の3者が認められる。77～82はAⅠ類、83～91がAⅡ類、92はBⅠ類、93～97がBⅡ類、98～100がCⅠ類となる。輸入陶磁器も多く出土している。青白磁梅瓶・青磁椀Ⅱb類・椀Ⅲ2c類・小椀Ⅲ2c類・杯Ⅲ3b類・白磁四耳壺Ⅲ1類・皿Ⅸ類・褐釉合子蓋である。

SD2006（111～129）

SD2005埋没後に形成された溝である。珠洲焼と土師質土器皿で輸入陶磁器は出土していない。珠洲焼は鉢・片口鉢で口縁部形態からⅣ期、土師質土器皿はAⅠ類・AⅡ類・BⅡ類・CⅠ類がある。SD2005で認められたBⅠ類が認められない。

SD2007（130～146）

やはりSD2005埋没後に形成された溝である。珠洲焼・土師質土器皿・山茶椀が出土している。130・131は壺T種b類で、口縁が大きく外反していることからⅡ期と考えられる。130は外面叩き目が細かく、胎土も緻密さを欠く。土師質土器皿はAⅠc類が多いのが目立つがB・C類ともに出土している。146の山茶椀は古瀬戸で13世紀初頭である。

SE2022（147～149）

147は在地瓷器系の鉢で、長石粒を多く含む。149は白磁皿Ⅸ1類である。

SD2065（150）・**SD2100**（151）・**SD2103**（152）

いずれも1点の出土。151は古瀬戸の入子。

SE24（153）・**SE155**（154）・**SE168**（155・156）

154は白磁椀Ⅳ1類。155・156は類似の土師質土器皿CⅠa類。この類はこれのみである。

SE280（157～159）・**SE378**（160）

157は珠洲焼甕b類でⅡ期。158は青磁椀Ⅲ2c類、159は白磁小壺X類であろう。160は珠洲焼壺R種でⅡ期。

SE910・911（161～163）

珠洲焼のみである。161は壺T種である。叩きが頸部まで達していない。162は口縁端部を内側に少しつまむ。口縁端部および内面に波状文を持つ。外面叩きは強く山形となる。163の片口鉢は内湾する口縁からⅡ期と判断される。

SE1005（164）・**SE2049**（165・166）・**SE2050**（167）・**SE3131**（168）・**SE5005**（169）

いずれの井戸も一括遺物に恵まれない。169は青磁椀Ⅱb類。

SK5（170～176）

箸等木製品が多量に出土した土坑である。170は珠洲焼壺類で底部回転糸切りであることからⅠ期と考えられる。172～174は土師質土器皿である。174は手づくね。175は白磁皿Ⅸ類。176は青白磁小

椀である。

SK6（177）・**SK56**（178）・**SK133**（179）・**SK173**（180）・**SK235**（181）・**SK518**（182・183）・**SK763**（184）・**SK938**（185）

図示できたものはいずれも１～２点と少ない。173は青磁椀Ⅱb類。184は珠洲焼壺類で、口縁部および波状文からⅠ期の可能性がある。

SK1030（186・187）

186は土師質土器皿ＢⅠａ類。187は青磁椀Ⅱｂ類である。

SE2022（188～191）

188の珠洲焼甕は井戸枠に挟まっていたものである。189・190は皿ＡⅠｃ類。

SK1035（192）・**SK1073**（193）・**SK2077**（194～196）・**SK2015**（197・198）・**SK308**（199・200）

SK2077の194は土師質土器皿Ｂ類。195は青磁椀Ⅱb類。196は白磁皿Ⅸ1類である。

SK636（201～203）

201は珠洲焼壺Ｔ類。直立する頸部で口縁は水平に開く。202は片口鉢で口縁端部水平。203は青白磁梅瓶である。

SK16（204）・**SK2025**（205）・**SK2032**（206）・**SK2038**（207）

いずれも図示したものは１点ずつである。206は古瀬戸で内面沈線が縦に入る。東濃明和窯である。

SK2039（208～210）・**SK2040**（211）

208～210はいずれもAⅡ類である。211もAⅡ類である。

SK2042（212～221）

土師質土器皿（212～218）には、ＡⅠ類（212～214）・AⅡ類（215）・BⅡ類（216・217）・CⅡ類（218）がある。小皿はＡ類のみである。219は青磁椀Ⅲ1Aa類である。高台は小さく、釉が削り取られる。220は杯Ⅲ５類になると考えられる。見込みにはヘラ彫り花文がある。221は白磁椀Ⅸ類である。

SK2043（222・223）

222は水注または水瓶であろう。注口と反対側に把手がつくと考えられる。223は手づくねである。

SK2044（224～226）

224はＡⅠ類小皿、225・226はBⅡ類である。

SK2055（227）・**SK2059**（228）・**SK2061**（229）・**SK2101**（230・231）・**SK5027**（232）・**SK6005**（233）・**SK6023**（234）・**SK6040**（235）

230は在地瓷器系陶器で口縁部形態と刻印から権兵衛沢窯と考えられる。

各ピット（236～241）

239は椀Ⅱａ類である。蓮弁はヘラ描である。

3）包含層出土土器（図版54～55）

珠洲焼（242～245）

甕（242・243）　242は頸部短く、端部外反する。Ⅰ期と考えられる。243は底部破片。

壺（244～247）　244は壺Ｔで口縁端部が外方に延びる。Ⅱ期であろう。245～246が壺Ｒ。245は肩部に波状文がめぐる。247は頸部短い。

水瓶・水注（248・249）　248は口縁部であるが、体部は不明。249は体部上半で波状文、把手が認められる。

鉢・片口鉢（250～254）　250は口縁部断面三角形である。251は小型の鉢。

瓷器系陶器（255）　常滑系の甕と考えられる。口縁が大きく水平に開く。端部が少し上向く。甕Ⅲ型式。

土師質土器皿（256～300）

AIa類（256～259）　この４点には、タール状の付着は認められない。

AIc類（260～267）　土師質土器皿の中で最も個体数が多い。一部炭化物の付着が認められる。

AⅡa類（268・269）　AIc類の相似形。出土量は少ない。

AⅡc類（270・271）　口縁の開きが大きくなるもので特徴的である。

AⅡd類（272）　C類のうち底部の小さいもの。これのみである。

AⅡe類（273～275）　下部にナデが加えられる。

AⅡf類（276～279）　体部丸みを持つ皿である。

BIa類（280・281）　AIa類に類似する。

BⅡa類（282～284）　AⅡf類に類似する。

BⅡb類（285～287）　AⅡe類に類似する。

BⅡc類（288～290）　深みのあるもの。

CI類（291～294）　各々形態が異なる。

CⅡ類（295～298）　いずれも体部に明確な稜を持たない。

そのほか299は口のすぼまるタイプ。300は蓋であろう。

古瀬戸（301）

入子である。

青磁・青白磁（302～321）

302～313は椀Ⅱb類である。いずれも大ぶりな鎬の蓮弁を持つ。314は無文のI1類。315は小椀Ⅲ2c類、316は口径大きく盤Ⅲ類になると考えられる。317～320は杯Ⅲ類である。321は青白磁壺蓋である。

白磁（322～341）

322・323は内面に型文浮文の草花文を持つ椀X類である。324は同じく椀であるが分類は明確でない。325は高台部である。V類と考えられる。326は小椀X類。327～334・336は皿Ⅸ類である。335は口径が大きいことから椀になるであろう。337は細い頸であるが器種は明確でない。338は小水注、339は合子蓋、340は小壺、341は合子であろう。いずれも型文浮文。

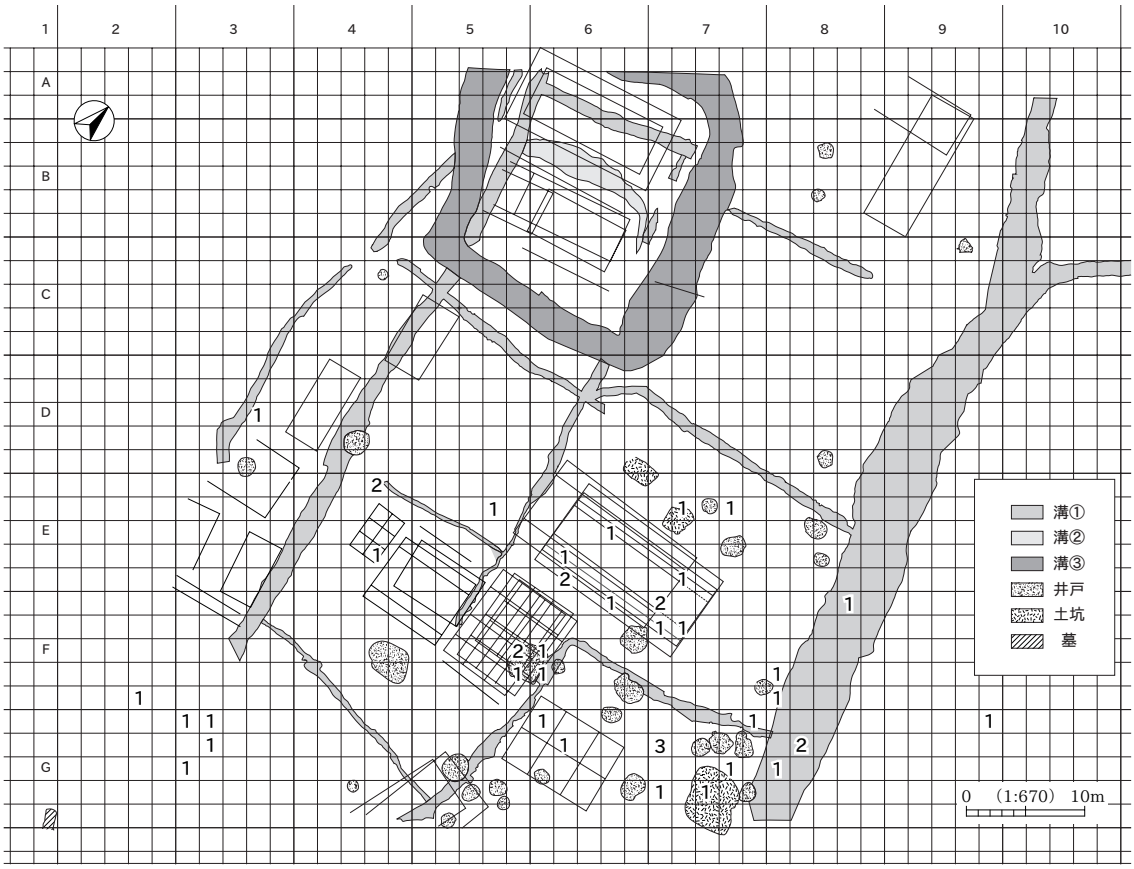
B　土　製　品（図版56）

土錘（342～344）

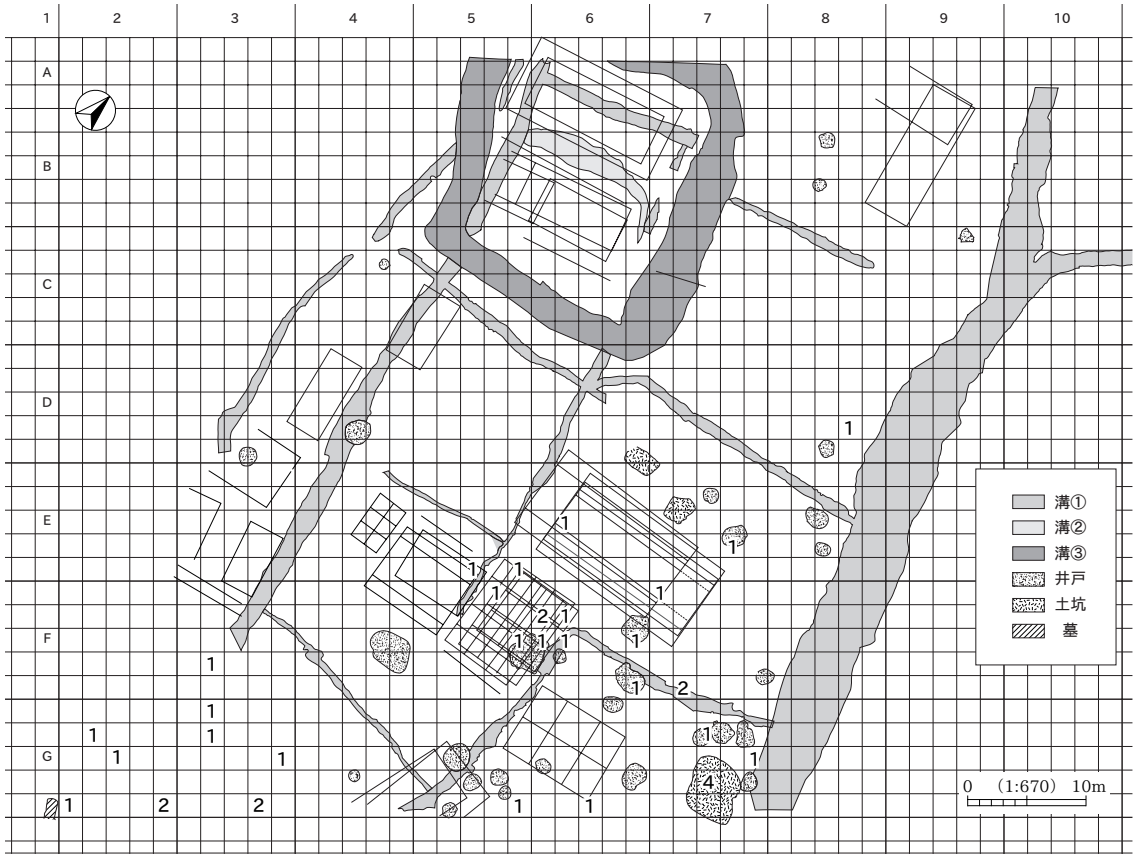
342・343は長さ７～7.5cmで中央最大径5cm前後で両端がすぼまる。穴径1cm前後である。

C　製 鉄 関 連（図版56）

製鉄関連では、鉄製品・鉄滓・羽口がある。鉄滓の出土分布（第11図）を見ると、１か所に集中することはなく散在するが、建物のあるＥ・Ｇ区も比較的多い。また建物から離れた２・3F・Ｇ区にも少しあ



第11図　鉄滓分布図（溝を除く）　（破片数）



第12図　羽口分布図（溝を除く）　（破片数）

る。羽口も同じような在り方を示す（第12図）。2・3F・G区に比較的多いが、遺構も存在しないことから、廃棄の結果と思われる。

羽口（345～350）

345は現長16cmあることから、全長は30cmくらいになると考えられる。穴径は9.2cmで、346・347も同規模と考えられる。348・349・350は穴径が少し小さい。

その他（351～353）

351は椀形鍛冶滓、352は鉄塊系遺物でメタル反応を示す。353は板状鉄製品。以上3点は成分分析を行った（第Ⅵ章4）。

D　金属製品（図版56）

354は和鏡。径8.8cmと小ぶり。双鳥鏡である。355は鉄斧。長さ8.2cm、刃部幅8.2cmで重さ92gを測る。着柄部は四角に折り曲げることにより袋状としているが、両端が連結していない。刃部から基部まで直線状とならず、着柄部は膨らむ。356は鎌。刃部と柄部は鈍角となる。357～362は断面四角形のいわゆる和釘である。357・358は大きく、長さ20cm前後である。363・364は刀子。365はL字状の鉄板で穴がいくつか認められる。扉等の建築材の飾り金具と考えられる。366は形状から引戸や箪笥類の引き把手と考えられる。全長5.2cm、円環径は2.75cmを測る。367は円筒状であるが品名不明。径は約3cm、長さ10.5cmである。368～371は鉄製品であるが製品名は不明。372～376は銅製品と考えられるが製品名は不明。377は黒く薄い板状。金属と考えられるが分析しないと詳細は不明。

E　石　製　品（図版56～58）

石鍋（378）

鍔付の滑石製石鍋である。口径約17.6cm、体部に丸みを持つ。内外面ともに成形痕を明瞭に残す。外面にはススが多く付着。木戸［1995］分類のⅢ類bにあたるであろう。

硯（379）

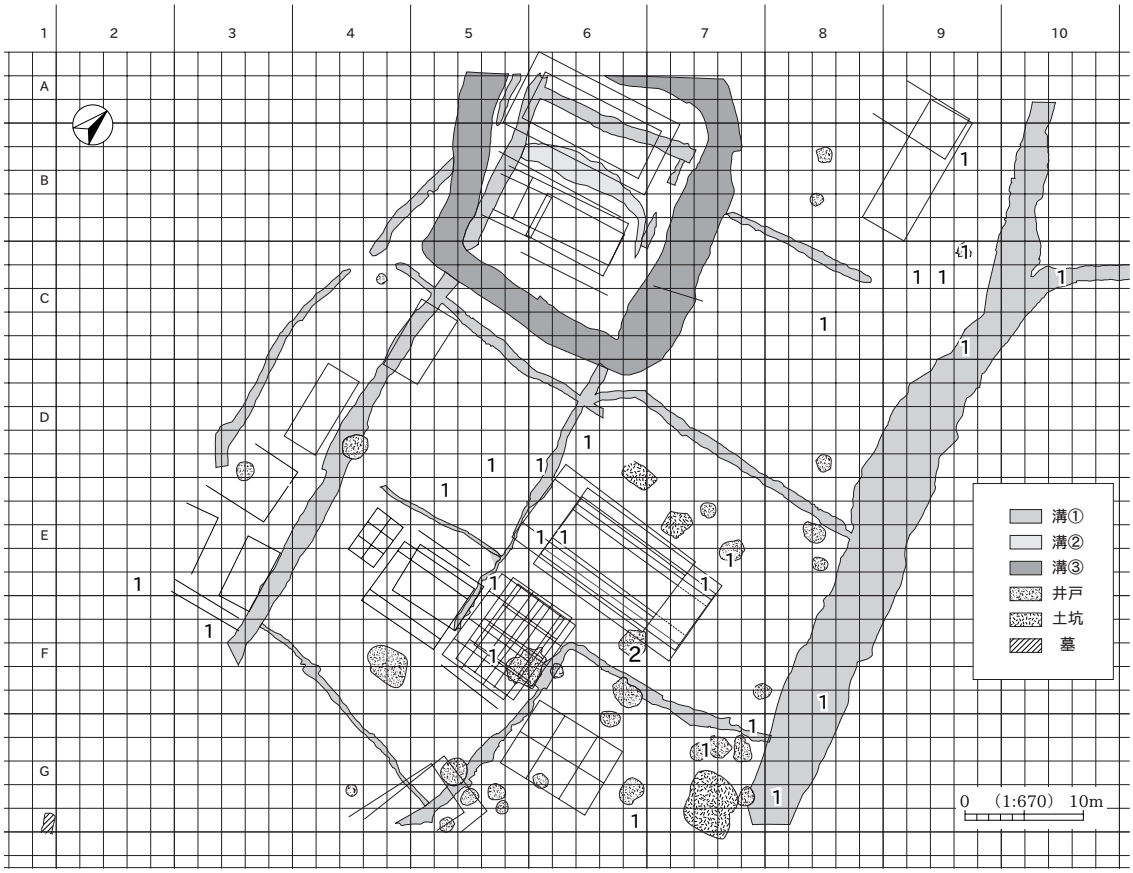
端部のみ残存。幅4.9cm。粘板岩製。

温石（380）

蛇紋岩製で、全面が研磨されていることから温石と考えた。縦8.3cm、幅4.4cmを測る。

砥石（381～410）

約52点の出土がある。分布を見ると（第13図）特に集中することなく、溝・土坑や包含層各地点に散在するが、建物の分布とほぼ重なる。ほとんどが凝灰岩質であるが、砂岩質のものもある。多くが方形の4面を使っている。金属の刃によると考えられる筋状痕が残るものもある（381・382・387～389・391等）。403～406はともに扁平礫を使用している。面が緻密で滑らかなことから、仕上げ砥石と考えられる。鳴滝産である。407～410は比較的大型である。411は軽石で全面擦られている。



第13図　砥石分布図（溝を除く）　　（破片数）

F　木　製　品（図版59～88）

SB1（412～423）

すべて礎板および柱根である。413のみ柱根である。割材で、材質はクリ・スギ・ヒノキ科である。礎板のうち、414・418・423のように板目を利用しているものは断面四角で扁平なのに対して、415・416・417等は柾目であるが断面不揃いで、柱根を再利用している可能性がある。長さは30cm前後である。417・419・423等はきれいな加工が施されている。

SB2（424～431）

やはり柱根と礎板である。425・427・428・431が柱根で、割材を利用した角柱である。いずれも一辺が13.5cm前後である。底面は平らに加工している。P1122には2個の礎板（429・430）が認められたが、柱根は出土していない。礎板・柱ともに再利用が考えられ、柱穴により残り方はまちまちである。

SB3（432～439）

礎板および柱根である。434・437・438が柱根である。いずれも角柱と考えられ、規模はSB2とほぼ同じである。やはり割材を利用している。

SB4（440～444）

すべて礎板である。縦方向に割っているが加工は施さず、両端を切断加工しているのみである。

SB5（445～458）

457が柱根と考えられるほかは礎板である。礎板は大きさがまちまちで画一的なものはない。柱根作

出の際の廃材を利用したと考えられる。457の柱根は角柱である。底面は平らに加工されている。

SB6（459・460）

459には貫通しない枘穴が確認され、建築部材を再利用したことがわかる。460は角柱であるが、やや扁平で丸みを持つ。底面は平ら。

SB7（461～469）

469のみ柱根で、丸材を利用した丸柱である。ほかの礎板のうち465は形状から柱根を再利用した可能性がある。

SB9（470）

柱根である。割材を利用した角柱であるが四隅を落としている。底面は平ら。

SB10（471～473）

473は割材利用の角柱。一辺約15.5cmでほかの柱根とほぼ同規模である。

SB11（474～484）

すべて礎板と考えられるが、大きさ、木取りはさまざまである。476は柱根を再利用した可能性が強い。483・484は礎板としては小さい。

SB13（485）

扁平。大型の礎板である。

SB16（486）

丸木を半割した礎板であるが、もとは柱根であったと考えられる。

SB18（487～492）

487・488は丸材を利用した丸柱。径約16.5cm。底面は平らに面取りされる。489は割材を利用した角柱である。1つの建物に丸材と割材を利用したのか、あるいは489の角柱は再利用されたことも考えられる。

SB19（493・494）

493は礎板で、両端が亀甲状となる。494は割材利用の角柱。一辺約14.2cm。

SB20（495）

礎板である。

その他の柱根・礎板（496～526）

建物を構成する柱穴であるが、建物として認識できなかった柱穴等から出土したものである。礎板はさまざまな形状・加工が見られる。497は枘が認められ、建築部材を再利用したことがわかる。柱根では丸柱（498・500・501・513・519～521・525）と角柱（506・507・510・517・518・524）がある。丸柱は丸材を、角柱は割材を利用している。

SE17（527～539）

527～529・532・534・538・539は井戸枠部材と考えられ、角材で先端を尖らせている。周囲に打ち込んだ縦杭と思われる。およそ4cm角で、長さは527で約80cmである。527～529・532は上部が合欠状に加工されているが、527・528と529・532とでは杭の長さが異なる。534は中央に貫通していない枘穴がある。533・536は両端に合欠が認められることから横桟と考えられる。長さは533が81.6cm、536が80.2cmである。合欠は反対側につけられる。530・531・535は井戸側の縦板と考えられる。537は曲物側板部分の可能性がある。

SE147（540）

井戸枠曲物である。直径約66.8cm、高さ35cmを測る。側板は二重構造となっている。内側は厚さ1cmのやや厚みのある板目材を１重させて樺皮で留め、外側には薄い柾目材を１重にまわして樺皮で留めている。

SE168（541～551）

541は中央に据えられていた大型曲物である。径約67cm、高さ約61.5cmである。側板二重構造で、下部に箍が１枚巻かれている。内側にはやや厚手の板目材を１周させ、樺皮で留めている。外側は幅約20cmの柾目材を３段重ねて１体としている。やはり樺皮で留めている。箍を含めた３重枠の樺皮の留め位置は意識的にずらしている。542・543は外側の方形井戸側の縦板材と考えられる。544は先端を尖らせ、上部に合欠が見られることから、桟を固定する縦杭と考えられる。545～549は井戸内から出土した箸状木製品である。550は丸く加工した棒を切断している。551は下駄の歯である。

SE169（552）

こもづちである。長さ13cm、径約4cmである。中央に抉りがある。

SE174（553～567）

曲物井戸枠が２個入れ子状に確認された。553は大きい方で、径約57cm、高さ46cmを測る。側板二重構造で、内側には厚い板目材を利用している。外側は均等幅の３枚の柾目材を３段重ねで１周させている。内側と外側の側板の間には先端が丸く尖った薄い板が挟み込まれている。確認できたのは１枚であるが数枚が挟み込まれていたものと考えられる。隙間を埋めるためのものである。下部には小さい穴が数個あいている。554はやや小さく、直径約57cm、高さ46cmを測る。側板は１枚で、上下に幅の狭い箍がめぐっている。側板には内側に縦、外側に格子目の「けびき」が認められる。下部には３個ずつの穴が対になるように穿たれている。棒をさして歪まないようにしたものと考えられる。555～557は薄い板で３枚ともに端部に抉りが認められる。井戸枠部材と考えられる。559は礎板である。廃棄されたものか井戸埋没後に柱穴が掘られそこに据えられたものかのどちらかである。560は曲物底板と考えられる。561～567は箸状木製品である。

出土地点不明（568）

出土地点が明確でないが、井戸に使われた曲物と考えられる。径約39cm、高さ28cmを測る。１重であるが、下部に箍が巻かれている。下部にはいくつかの穴が穿たれ、上部にも穴の痕跡がある。554と類似することから、上部にも箍が巻かれていた可能性がある。

SE227（569）

大型曲物である。直径約54cm、高さ41cmを測る。二重の側板の外側に上・中・下段に箍を巻いているが下部にはもう１重箍がめぐる。下部には小さい穴が連続する。

SE229（570～576）

井戸枠部材のみが確認された。572～575が四隅に打たれた隅柱と考えられる。先端は杭状に尖らせている。572は上部に抉り、573は下部に枘穴、575では上部に斜めに貫通する穴が認められる。570は両端枘状になっていることから横桟と考えられる。571は縦板材。

SE241（577～580）

577・578は井戸枠部材と考えられる。579は方形の板と考えられるが約半分が折損している。折損していない両隅の角が面取られている。両面ともに二次的に削られ、もとの面を残していない。円形の焼

印が認められるが判読はできない。580は箸状木製品。

SE280（581～585）

581・582は棒状、583～585は箸状木製品である。

SE313（586～592）

いずれも断面四角形の棒で、片端に枘、もう一端に切り欠きがある。長さ73cm前後と一定している。横桟と考えられる。

SE376（593～596）

593は幅4.8cmの板材。上部に穿孔があり、そこに差し込んだ木を木釘で留めている。下部は折損していると考えられるが、穿孔が認められる。594～596は箸状木製品。

SE378（597～604）

いずれも箸状木製品である。

SE384（605～609）

605は薄い板材。606～609は箸状木製品。

SE421（610～641）

大型の曲物2個と井戸枠部材がたくさん出土している。610は径53.5cm、高さ55cmを測る。ほかの出土曲物に比べると高さがある。側板は二重構造となる。内側はやや厚手の板目材、外側は柾目材の2段構成である。内側の側板は下部の内側を薄く削いでいる。下部外側には2重に箍が巻かれており4重構造となる。また、小穿孔がいくつか認められる。611は径59cm、高さ46cmを測る。やはり側板は二重構造で外側は3段構成となる。下部に箍が巻かれている。612～627は両端に抉りや枘があり横桟と考えられる。長さは83cm前後、断面4～5cm角である。618のみ両端が合欠となっている。628～635は縦板材で、630のほかは柾目材である。板状に裂いたのみで加工はあまり認められない。636は井戸側板材であろうか。637は板状であるが穿孔が6個認められる。638は曲物底板。側縁部に木釘穴がある。639は折敷であろうか。640・641は箸状木製品。

SE476（642・643）

642は円盤状の板。周りに1、2個の穿孔がある。643は箸状木製品。

SE755（644～659）

644・645は杭状であることから隅柱の可能性がある。646はきれいな円形をなさないが、曲物底板の可能性がある。648は杓子状である。649は柄振である。長さ約60cm、高さ14cm、厚さ3cmの柾目板を利用している。全体に加工痕が認められる。中央に2個の方形の穴があく。Y字状に柄がつけられたと考えられる。650～659は箸状木製品である。

SE910（660～663）

660は丸木舟を再利用した井戸枠である。舟底部に「ちきり」が認められることから、その部分が舟幅のほぼ中央と考えられる。このことから舟の幅は約88cmと推測される。また、深さは約40cmである。底部の「ちきり」から舟先端に近いほうを利用していると考えられる。加工は明確でないが、節を削り取っている。左側には縦に穴が認められる。底部の横切断面はきれいで脇に刃物疵等が見られないことから、鋸が利用された可能性がある。

SE911（664～689）

664は曲物。側板二重構造で、外側は3段構成。下部に小穴が認められる。665～670は横桟と考え

られる。長さ81cm前後、5～6cm角である。いずれも両端に枘が作り出されている。671～680が縦板材である。ほとんどが柾目材である。厚さはさまざまであるが、厚いもの（674・675）は厚み調整のための加工痕がある。681～684は隅柱と考えられる。下部は杭状にならず平らである。下から約24cmと約30cmのところに直角になる位置に2つの枘穴がある。横桟を差し込む穴と思われる。687は曲物底板。688・689は漆塗り皿である。横木取りの柾目。底部にはロクロツメと考えられる疵がある。688は輪高台風、689は総高台風である。

SE930（690～693）

690・691は横桟である。長さ約80cm、6.5cm角。両端は合欠となっている。

SE947（694）

大型曲物で二重構造である。径44cm、高さ19cmを測る。外側は2段構成。上部に穴が連続する。穴のある方が底の可能性がある。底板のあった従来の曲物を再利用したものであろう。

SE1005（695～699）

695・696は井戸枠横桟と考えられる。両端を杭状に細くし、枘状にしている。697は縦板材。698は小型曲物底板である。699は杓子状である。

SE2022（700～718）

700～702は舟を再利用した井戸枠である。いずれも舟端部のカーブが始まったあたりを利用している。接合はしないが701・702は断面カーブの共通性から同一舟の可能性が高い。700は内面の加工痕を明瞭に残す。701はほぼ底面が水平。側面に縦方向に幅2cmほどの抉りがあり、舟構造を示すものかもしれない。また、上部に穴や抉りが認められる。703～706は横桟。両端に枘・抉りが認められる。707は板材で刃物疵が多く残る。709は円筒形で端がややすぼまる。中央に縦に切り込みがある。柄を切断したものかまたは栓のようなものと思われる。710は丁寧に加工されている扁平な板であるが使途は不明。712は連歯下駄である。713は大型の漆塗椀。体部中央に稜を持つ。

SE2026（719・720）

小型曲物の底板である。

SE2044（721）

曲物で底板が残存する。

SE2049（722～734）

722は大型曲物。底部で径75cm、高さ78cmを測る。側板は二重構造で外側は二段構成となる。また上下端には箍をはめ込む。723～725は先端が杭状に尖る板で、井戸枠縦板と考えられる。730は先端の尖るきれいな札状のもの。木簡や斎串の類と考えられる。731は杓子。

SE2050（735）

浅い曲物であるが上部が欠損している可能性もある。径55cm、高さ17cmを測る。側板二重構造で底部にもう1枚巻かれる。

SE2044（736～739）

736は漆塗り皿。底部総高台。737は舟形である。片端部を欠損する。側面および周囲に穿孔がみられ、いくつかには木釘が打たれている。舟構造をあらわしているものと思われる。

SE2066（740～743）

いずれも箸状木製品。

SE2080（744）

高さのない曲物である。径48.2cm、高さ19.2cmを測る。側板は二重構造で、下部には小さい穿孔痕がある。

SE5005（745～747）

745は大型の曲物。径55.3cm、高さ47.2cmを測る。側板は1枚構造で上下端に箍が巻かれる。下部にはもう1枚巻き3重となっている。747は漆塗椀で小さい高台がつく。

SE5035（748）

径40.1cm、高さ29.3cmを測る。側板は一重構造で上下端に箍が巻かれている。下部には小さい穿孔痕が認められる。

SE5055（749）

箸状木製品である。

SE6036（750～754）

750は大型曲物。直径56cm、高さ54cmを測る。側板は1枚で、上下端に箍が巻かれる。また、下部にはもう1枚巻いている。751は井戸枠縦板。752・753は杭。

出土地点不明曲物（755）

出土井戸が明確でない。側板は二重構造で外側は二段構成。上部を欠損する。下部には箍が巻かれている。

SE6039（756～758）

756は板草履である。長さ24.4cmある。

SK5（759～804）

多くの木製品が出土した。761～764は曲物である。771は漆塗椀で中央部に稜を持つ。772は皿。底部にロクロツメ痕がある。773も漆塗り皿。774は糸巻き軸部分。778・779は櫛であるが、歯はほとんど残っていない。782～797は箸状木製品。約255本出土している。798は鳥形。800は刀形に類似。801～804は先端が尖るもの、抉りのあるもの、穿孔のあるもの等であるが、製品名は不明。

SK22（805～807）

805は棒状。806・807は箸状である。

SK97（808）・**SK210**（809）・**SK263**（810）・**SK278**（811）

808・809は箸状木製品。810は黒漆塗椀。内面に赤漆による鳥が描かれる。811は小型曲物。

SK608（812～819）

812は両端が尖る棒。813は扁平で先端が尖る。814～819は箸状木製品である。

SK763（820～826）

820～822は漆塗皿。820は底部厚い。823～826は箸状木製品。

SK1072（827）・**SD2005**（828～830）

いずれも箸状木製品。

SK2047（831）

漆塗り椀底部。

SK2049（832～834）・**SK2050**（835・836）

833は両端に穿孔がある。

SK2066（837～839）・**SK2077**（840・841）・**SK2101**（842・843）・**SK2122**（844・845）

837～841は箸状木製品。842は折敷の可能性がある。844・845は類似の漆塗皿。底部総高台である。

SK6021（846～851）

851は弧状に加工されているが用途は不明。

SK6024（852～854）・**SK6037**（855）

852は折敷であろうか。上下右に穿孔がある。また刃物疵が多数ある。853は短冊状で上部に穿孔がある。刃物疵多数。

SD2（856～868）

856～863が長方形に組まれた板材である。856・857が左右長辺の対となる。長さ1.8m、幅約30cmを測る。両端には、小口板を受ける枘穴がある。枘穴までの長さは1.65mとなる。同一木を縦に裂いて作っている。上部には4か所枘穴があけられている。860から863の4本の棒が組まれていた。859・858は小口の板。左右枘があり、枘の中には抑え杭をさすための穴がある。枘部分を除く長さは50cmとなり、箱部分の長さは1.65cm、幅50cmとなる。この木組板4枚については、年輪年代測定を実施している（第Ⅵ章6）。その結果、この4枚の板は同一木から作られていることが判明した。また、年代は辺材の残存していた858等から1228年以降に伐採された木であることがわかり、木棺として利用された年代もこれに近い年代である可能性が高まった。864～867は木枠の北側隅から出土した漆塗り椀・皿である。864は中央に稜を持ち、口縁が外反する。868は膳の部分と考えられる。

SD977（869）・**SD1103**（870・871）

869は連歯下駄である。870・871は短冊状で類似の形状を持つ板材である。

SD1203（872～897）

873は黒漆塗椀で、内外面に赤漆による文様がある。874・875は黒漆塗椀、876～878は皿である。879は漆塗りの脚部と考えられる。880・881は板草履。長さ24cmくらいである。893は棒状で穿孔がある。897は板状で下部に穿孔がある。

SD2005（898～916）

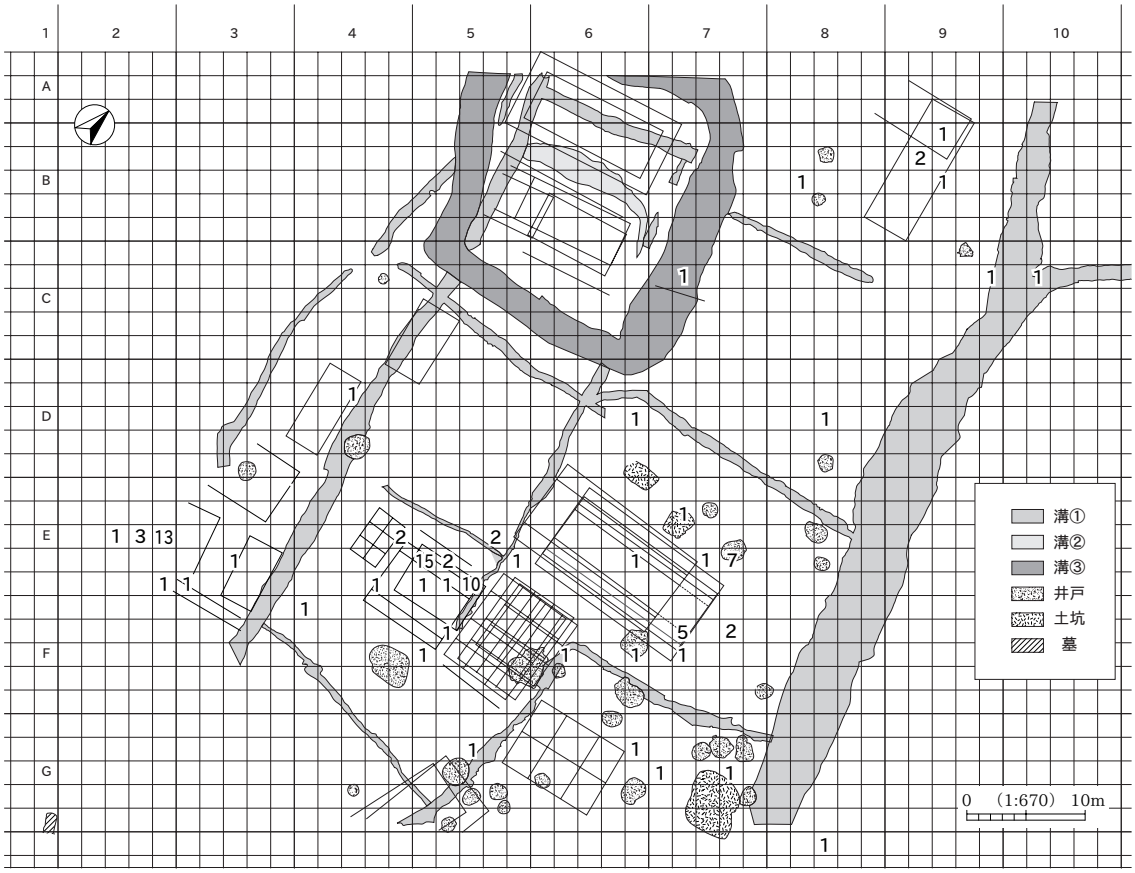
898・899は曲物底板。900は漆塗りの皿。わずかに赤漆が残る。901・902は丸い棒状で柄等と考えられる。903は端部枘状で栓であろう。904は端部細くなる棒状で端部に切り込みが見られることから浮子と考えられる。905は下駄の歯。906～912は棒または箸状木製品。913～916は各々加工が施されるが、用途は明確でない。

SD2006（917～924）

917・920・921は曲物底板。918は露卵下駄で歯を欠損。926は板草履であろう。925は漆塗皿。

その他（931～935）

931・932は曲物。931は底板を有する曲物。一重構造で上下に箍が巻かれる。932は井戸水溜に利用したと考えられる。側板は一重構造で下部に箍が巻かれる。933・934は漆塗皿。935は有頭状で、両端も加工がなされていることから栓と考えられる。



第14図　銭貨分布図（溝を除く）　　（破片数）

G　銭　　貨（図版88・89）

119枚の銭貨が出土している。分布を見てみると（第14図）5E-P6・23で比較的まとまって出土しているほか、2E15で13枚が一括で出土している。全体としては、建物のある地点に分布がある。初鋳年の一番古いのが開元通寶（960年）で、一番新しいのが紹定通寶（1228年）である。14世紀以降のものは存在しない。ほとんどが包含層や遺構から単品で出土しているものが多い。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　住吉遺跡の花粉化石群集

新山　雅広（パレオ・ラボ）

A　試　　料

花粉化石群集の検討は、9A17（北側遺構群）、12A（北側）および12B（調査区東端）の３地点より採取された合計15試料について行った。以下に、各試料の簡単な記載を示す。

9A17（北側遺構群）：試料1-1（Ⅳａ層）は暗灰黄褐色シルト質粘土で褐鉄鉱が縦方向に散在する。Ⅳａ層は、中世（13～14世紀）の遺物包含層である。試料1-2（Ⅳｂ層）はオリーブ黒色砂質シルト質粘土で炭化物を多量に含む。試料1-3（Ⅵ層上部）、試料1-4（Ⅵ層下部）はオリーブ灰色砂質シルトで炭化物を微量含み、植物遺体が散在する。試料1-5（Ⅶ層）はオリーブ灰色砂質シルト～シルト質砂で植物遺体が散在する。

12A（北側）：試料2-1（Ⅲ層）は暗オリーブ褐色シルト質粘土で褐鉄鉱が散在し、植物遺体を含む。試料2-2（Ⅳａ層）は黒褐色シルト質粘土で褐鉄鉱が散在する。試料2-3（Ⅵ層）はオリーブ灰色砂質シルトで細かな植物遺体を含む。

12B（調査区東端）：試料3-1（1層）は黒褐色シルト質粘土で褐鉄鉱が少し認められる。試料3-2（2層）は暗オリーブ褐色粘土。試料3-3（3層）は黒褐色シルト質粘土で植物遺体を多く含み、炭化物片が点在する。試料3-4（4層）は黒褐色ややシルト質粘土で植物遺体を含む。試料3-5（5層）は黒褐色シルト質粘土で植物遺体が散在する。試料3-6（6層）は黒褐色シルト質粘土で細かな植物遺体が散在する。試料3-7（7層）は暗オリーブ褐色粘土質シルトで植物遺体が点在し、褐鉄鉱が縦方向に認められる。

B　方　　法

花粉化石の抽出は、試料約２～4gを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物等の溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸１に対して無水酢酸９の混液で湯煎約５分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現したすべての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科、バラ科、マメ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

C　花粉化石群集の記載

全試料で同定された分類群数は、樹木花粉36、草本花粉34、形態分類を含むシダ植物胞子３である。

以下に、各地点ごとに花粉化石群集を記載する。

9A17（北側遺構群）：試料1-1以外は、十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。試料1-1は樹木花粉の占める割合は、約32％と低率である。その中でハンノキ属が約33％で最優占し、次いでスギ属（約13％）、コナラ亜属（約12％）が多産する。その他、マツ属複維管束亜属、ブナ属、アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ属、カエデ属、ツツジ科、タニウツギ属が約2～7％で比較的目立つ。草本花粉では、イネ科が約27％で最優占し、カヤツリグサ科（約8％）、ヨモギ属（約7％）も比較的高率である。その他、サジオモダカ属、ツユクサ属、イボクサ属、ミズアオイ属、セリ科等が低

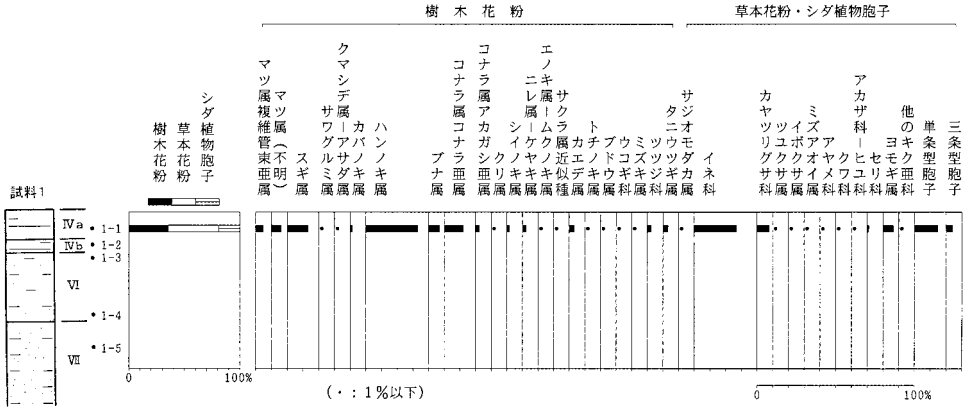
和名	学名	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7
樹木																
ツガ属	*Tsuga*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
マツ属単維管束亜属	*Pinus* subgen. *Haploxylon*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2	–	–	–
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	12	–	–	–	–	–	–	1	6	–	5	6	4	4	–
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	15	–	–	–	1	–	1	2	1	4	15	12	7	9	8
スギ属	*Cryptomeria*	32	1	1	2	8	–	1	24	38	21	52	52	80	103	90
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	2	1	1	4	–
ヤナギ属	*Salix*	–	1	1	–	–	–	–	–	2	3	4	5	10	13	16
サワグルミ属	*Pterocarya*	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クルミ属	*Juglans*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	2
サワグルミ属－クルミ属	*Pterocarya-Juglans*	–	–	–	–	–	–	–	10	3	–	3	1	2	4	2
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	2	–	–	–	–	–	–	–	4	5	2	3	2	8	–
ハシバミ属	*Corylus*	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	2	–	–	–
カバノキ属	*Betula*	3	–	–	–	–	–	–	–	2	1	2	3	–	5	–
ハンノキ属	*Alnus*	80	1	2	1	6	–	2	80	88	106	74	36	50	32	65
ブナ属	*Fagus*	17	–	–	–	–	–	–	2	19	16	16	22	10	19	28
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	29	–	–	–	3	–	1	15	33	42	63	35	13	25	25
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	6	–	–	–	1	–	–	–	–	3	1	1	–	3	2
クリ属	*Castanea*	1	–	–	2	1	–	–	–	7	4	6	2	–	2	3
シイノキ属	*Castanopsis*	4	–	–	–	–	1	–	–	5	2	–	2	–	–	2
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	6	–	–	–	1	–	–	1	–	2	–	–	4	6	7
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–
サクラ属近似種	cf. *Prunus*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
サンショウ属	*Zanthoxylum*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
キハダ属	*Phellodendron*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–
アカメガシワ属	*Mallotus*	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–
ウルシ属	*Rhus*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–
カエデ属	*Acer*	8	–	–	–	1	–	–	4	10	6	2	–	4	–	4
トチノキ属	*Aesculus*	2	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	2	2	–	7
ブドウ属	*Vitis*	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヒサカキ属近似種	cf. *Eurya*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
ウコギ科	Araliaceae	2	–	–	–	–	–	–	–	2	2	2	2	–	–	–
ミズキ属	*Cornus*	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ツツジ科	Ericaceae	6	–	–	–	–	–	–	5	3	3	–	2	2	–	1
イボタノキ属	*Ligustrum*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–
トネリコ属	*Fraxinus*	–	–	–	–	–	–	–	–	1	2	3	6	4	–	–
タニウツギ属	*Weigela*	8	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	3
草本																
ミクリ属	*Sparganium*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–
サジオモダカ属	*Alisma*	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	2	2	–
オモダカ属	*Sagittaria*	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	2	7	11	8	–
スブタ属－ミズオオバコ属	*Blyxa - Ottelia*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
イネ科	Gramineae	186	2	2	1	3	1	10	12	74	30	111	299	142	126	2
カヤツリグサ科	Cyperaceae	54	–	–	–	–	–	2	2	38	27	72	64	2	6	3
ツユクサ属	*Commelina*	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
イボクサ属	*Aneilema*	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	1	–
ミズアオイ属	*Monochoria*	2	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	4	4	5	–
アヤメ科	Iridaceae	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クワ科	Moraceae	4	–	–	–	–	–	1	–	2	–	4	28	22	42	–
ギシギシ属	*Rumex*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	2	–
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2	–
他のタデ属	other Polygonum	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	1
ソバ属	*Fagopyrum*	–	–	–	–	–	–	2	–	–	1	–	–	–	–	–
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	6	5	1	–	–	–	1	1	2	1	2	–	16	6	–
ナデシコ科	Caryophyllaceae	–	1	2	–	–	1	4	–	2	–	–	2	5	2	–
カラマツソウ属	*Thalictrum*	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	2	–	–
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	–	–	–	–	–	–	–	4	2	–	–	–	–	–	1
アブラナ科	Cruciferae	–	–	–	4	–	–	–	–	2	–	–	–	–	5	–
キジムシロ属近似種	cf. *Potentilla*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
他のバラ科	other Rosaceae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	–	–
マメ科	Leguminosae	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	2	–	–	–
ツリフネソウ属	*Impatiens*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
ミソハギ属	*Lythrum*	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–
アリノトウグサ属	*Haloragis*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2
セリ科	Umbelliferae	7	–	–	1	1	1	1	9	5	10	6	–	2	–	4
ナス属近似種	cf. *Solanum*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
オオバコ属	*Plantago*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2	4	–
ゴキヅル属	*Actinostemma*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
ホタルブクロ属－ツリガネニンジン属	*Campanula - Adenophora*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	4	–	2	–
ヨモギ属	*Artemisia*	45	1	2	–	3	–	6	9	28	17	32	61	23	33	14
他のキク亜科	other Tubuliflorae	2	–	–	–	–	–	–	–	4	2	4	4	2	–	–
タンポポ亜科	Liguliflorae	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–	2	2
シダ植物																
サンショウモ	*Salvinia natans* All.	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
単条型胞子	Monolete spore	102	7	11	2	6	3	38	78	75	30	22	18	16	17	29
三条型胞子	Trilete spore	28	–	2	–	1	2	8	10	17	7	15	15	3	9	5
樹木花粉	Arboreal pollen	242	3	4	5	22	1	5	144	232	224	254	212	199	239	265
草本花粉	Nonarboreal pollen	315	9	7	6	7	3	27	37	172	91	237	495	239	250	30
シダ植物胞子	Spores	130	7	13	2	7	5	46	88	92	37	37	34	19	26	34
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	687	19	24	13	36	9	78	269	496	352	528	741	457	515	329
不明花粉	Unknown pollen	16	3	1	4	7	5	1	22	14	19	26	12	26	37	2

第4表　花粉化石一覧表

率で出現する。シダ植物胞子は、約19％で単条型胞子が約15％と特に目立つ。

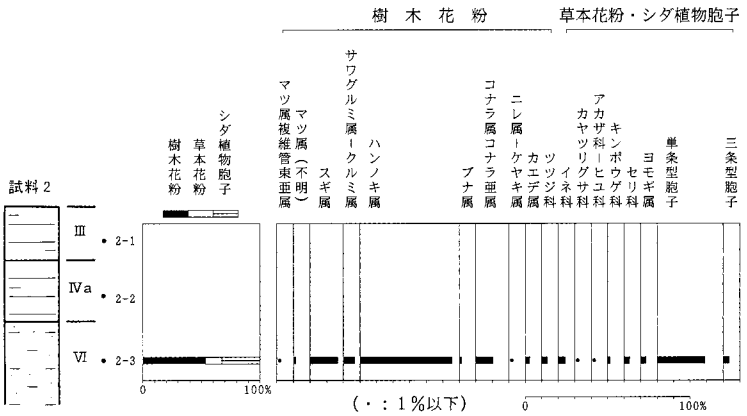
12A（北側）：試料2-3以外は、十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。また、試料2-3も花粉化石の保存状態があまり良好でなく、やや樹木花粉の産出個数が少なく、分類群数も乏しかった。試料2-3は樹木花粉の占める割合は、約54％である。その中でハンノキ属が約56％で最優占し、次いでスギ属（約17％）、コナラ亜属（約10％）が多産する。その他、サワグルミ属－クルミ属、カエデ属、ツツジ科が約3～7％で比較的目立つ。草本花粉では、イネ科、キンポウゲ科、セリ科、ヨモギ属等が低率で出現する程度である。シダ植物胞子は、約33％を占め、特に単条型胞子は約29％と高率である。なお、十分な花粉化石が産出しなかったが、試料2-2では、ソバ属が産出している。

12B（調査区東端）：12Bの花粉化石群集は、その種構成や各分類群の出現率により、下位より2つの花粉化石群集帯を設定することができる（Ⅰ・Ⅱ帯）。Ⅰ帯（試料3-4～7）は、樹木花粉の占める割合は、約29～81％で最下部試料は高率であるが、上部に向かうにつれて減少する傾向がある。スギ属が約25～43％で最優占し、次いでハンノキ属が約13～25％で多産する。ブナ属、コナラ亜属も比較的高率であり、マツ属、ヤナギ属、ニレ属－ケヤキ属も比較的目立つ。その他、カエデ属、トチノキ属、ツツジ科、トネリコ属、タニウツギ属等が低率で出現する。草本花粉では、最下部試料を除いてイネ科が約24～40％で最優占し、上部に向かい増加する。クワ科、ヨモギ属も約4～8％で比較的目立ち、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、アカザ科－ヒユ科、オオバコ属が低率であるが、最下部試料を除いて



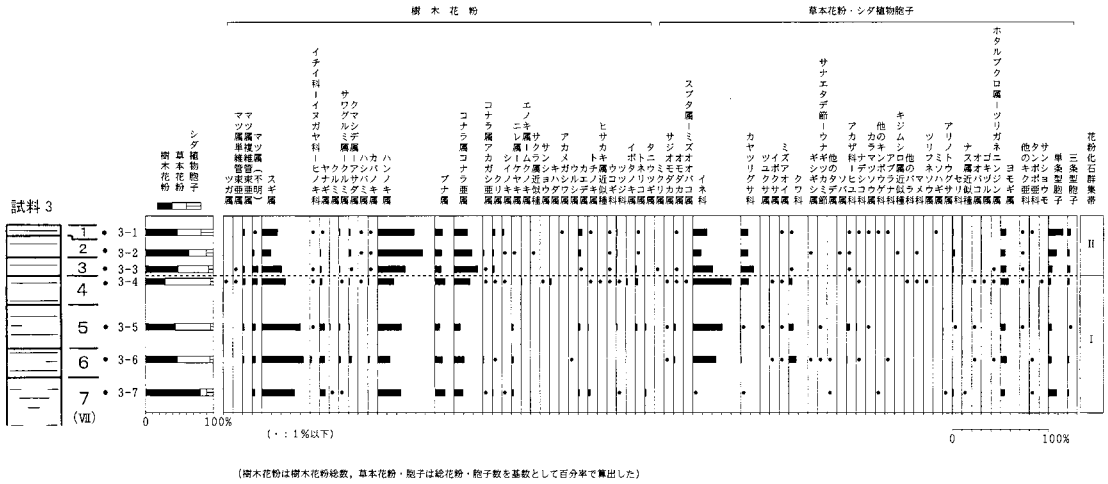
（樹木花粉は樹木花粉総数，草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した）

第15図　試料1地点（9A-17）**の花粉化石分布図**



（樹木花粉は樹木花粉総数，草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した）

第16図　試料2地点（12A）**の花粉化石分布図**



第17図　試料３地点（12B）の花粉化石分布図

出現する。Ⅱ帯（試料3-1～3）は樹木花粉の占める割合は、約47～64％である。Ⅰ帯に比べ、最優占していたスギ属が減少し、ハンノキ属、コナラ亜属は増加する。ハンノキ属は約29～47％で最優占し、コナラ亜属（約14～25％）、スギ属（約9～20％）、ブナ属（約6～8％）の順に高率である。その他、マツ属複維管束亜属、ヤナギ属、ハシバミ属、カバノキ属、クリ属、シイノキ属、カエデ属、ウコギ科、ツツジ科、トネリコ属等が低率で出現する。草本花粉では、イネ科（約9～21％）、カヤツリグサ科（約8～14％）、ヨモギ属（約5～6％）が比較的高率であり、オモダカ属、クワ科、アカザ科－ヒユ科、セリ科、他のキク亜科が低率で出現する。その他、試料3-2ではソバ属が出現する。シダ植物胞子は、やや目立ち、上部に向かい増加する。

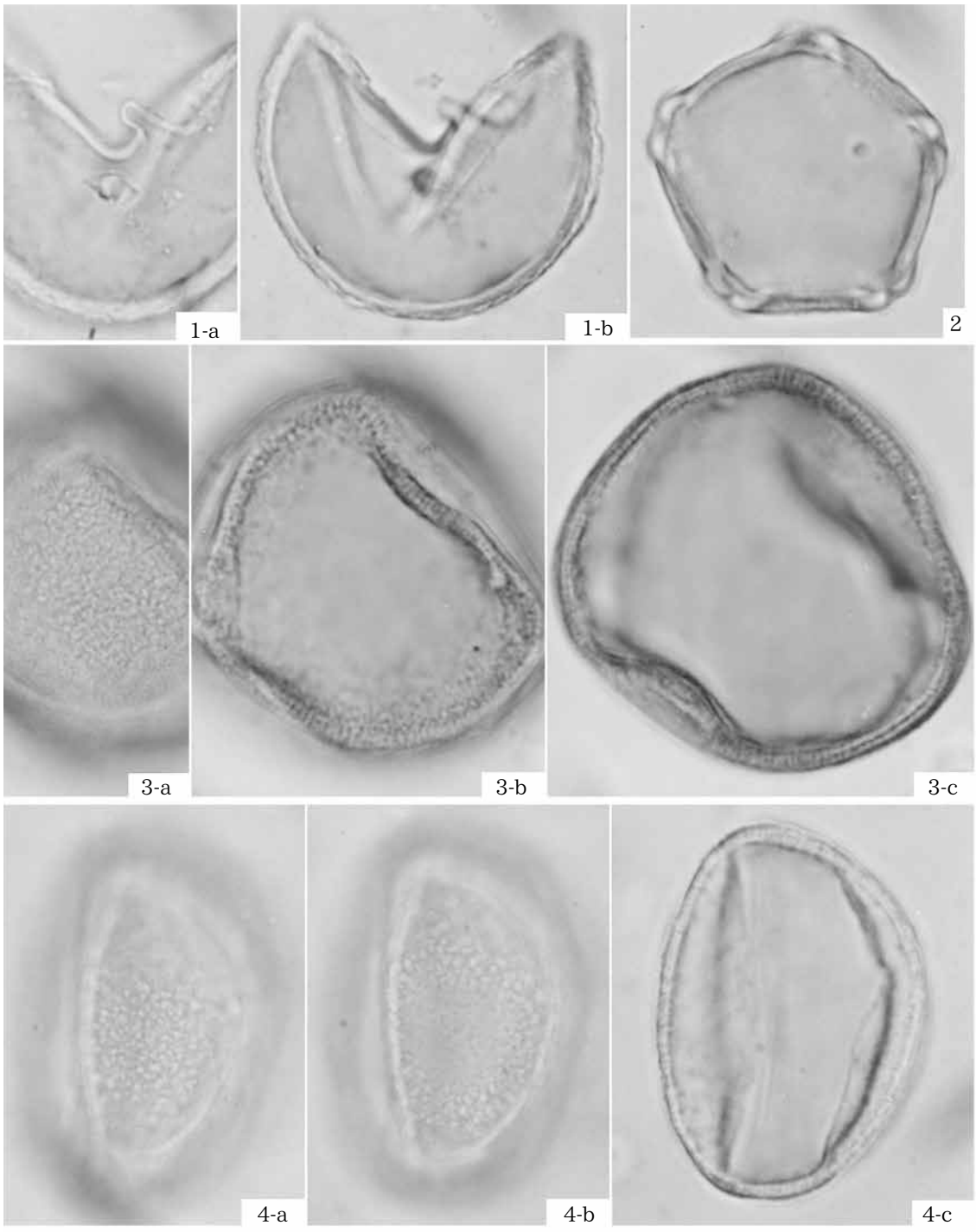
D　考　　察

1）周辺植生について

中世頃の遺跡周辺の主要な森林構成要素は、針葉樹のスギ属、落葉広葉樹のハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属であったと予想される。12B地点の組成から、４層堆積期（Ⅰ帯）までは、スギ属が優勢な森林が成立していたが、それ以降（Ⅱ帯）はハンノキ属、コナラ亜属を主とした落葉広葉樹が優勢な森林に変わったことが予想される。ハンノキ属は、低地部でヤナギ属、トネリコ属等を混じえて湿地林を形成していたのであろう。その他、森林にはマツ属複維管束亜属、カエデ属等も混じっており、クリ属、ウコギ科、ツツジ科等も比較的近辺にみられたであろう。

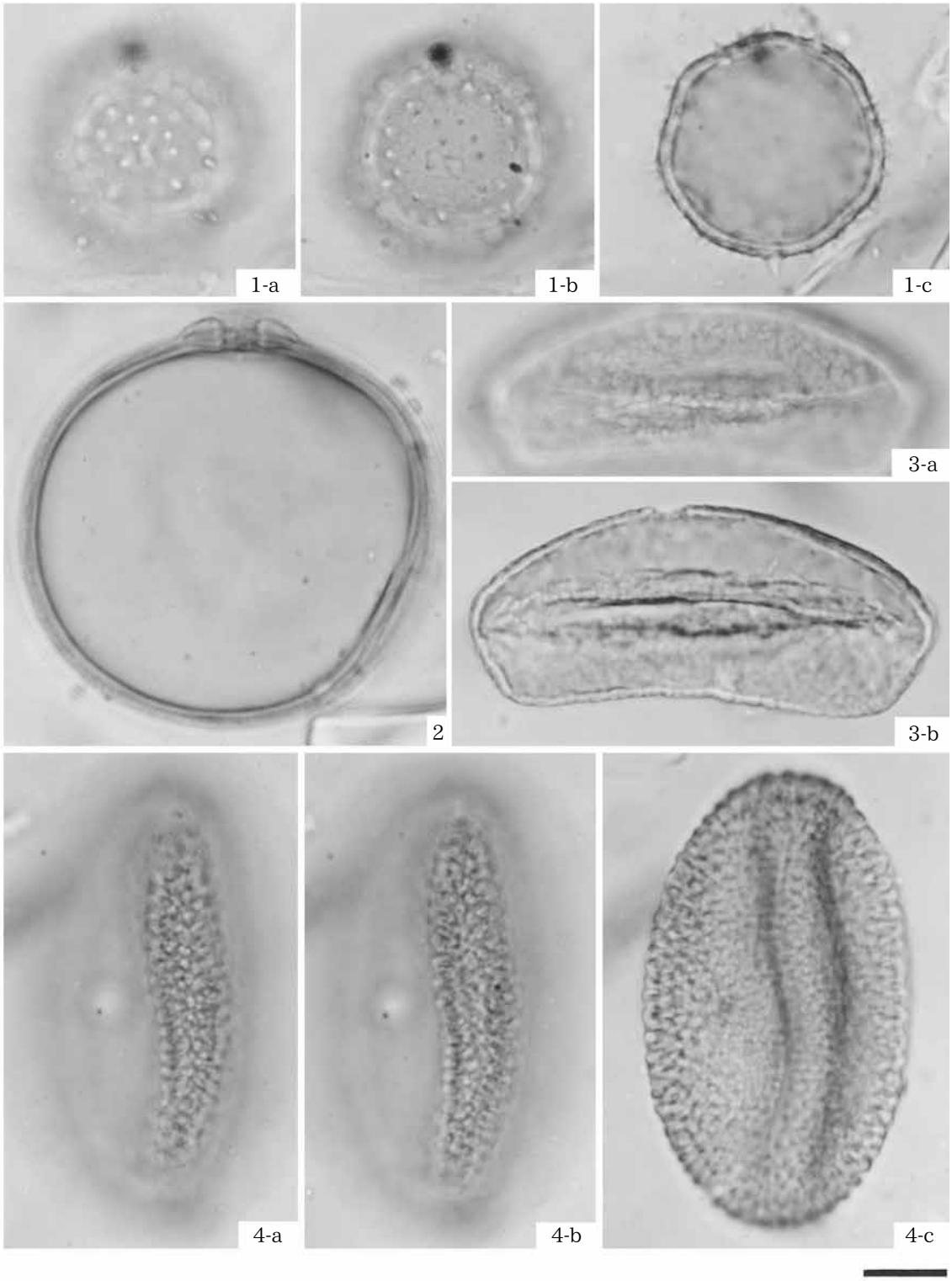
2）栽培状況について

イネ、ソバの栽培の可能性が考えられる。花粉化石群集からみた場合、イネ科が高率でサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属等のいわゆる水田雑草が随伴した組成であれば、水田稲作が行われていた可能性があると考えられる。12B地点においては、そのような組成であるのは、試料3-1～６であり、６層堆積期以降水田稲作が行われていたと予想される。ソバ栽培については、12A（北側）地点の試料2-2、12B地点の試料3-2でソバ属花粉が産出しており、稲作より少し時期が遅れて栽培されるようになったと予想される。ソバ栽培は、水田脇で栽培されていたことや水田の裏作として栽培されていた可能性も考えられよう。



1．スギ属　　試料3-6　PAL.MN　1346
2．ハンノキ属　　試料3-2　PAL.MN　1339
3．ブナ属　　試料3-7　PAL.MN　1345
4．コナラ属コナラ亜属　試料3-3　PAL.MN　1340

第18図　産出した花粉化石（1）（scale bar:10μm）



1．オモダカ属　　試料3-5　PAL.MN　1342
2．イネ科　　試料3-5　PAL.MN　1343
3．ミズアオイ属　試料3-6　PAL.MN　1344
4．ソバ属　　試料2-2　PAL.MN　1341

第19図　産出した花粉化石（2）（scale bar:10μm）

2　堆積物中の珪藻化石群集

藤根　久（パレオ・ラボ）

A　はじめに

珪藻は、10～500μmほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様等から多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている［小杉1988；安藤1990］。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲におよび、中には河川や沼地等の水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面等で生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

住吉遺跡は、新発田市（旧紫雲寺町大字中島ほか）に所在する鎌倉時代の集落跡等からなる遺跡である。調査では、南北方向に延びる溝が検出され、この溝を境として西側には集落跡、東側には紫雲寺潟（塩津潟）域と思われる低湿地が広がっている。調査区内からは、鎌倉時代の溝や井戸あるいはピット等が検出され、木製品として箸や下駄等が出土している。

ここでは、北側遺構群・北側地区の堆積物と東側の東西に延びる溝内堆積物について、含まれる珪藻化石を調べ堆積環境等について検討した。

B　試料の処理方法

試料は、9A17グリッドの遺構群を埋積する堆積物5試料、12Aグリッドの北側地点堆積物3試料、12Bグリッドの溝内堆積物7試料である。これらの試料は、以下の方法で処理し、珪藻用プレパラートを作成した。

①湿潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。②反応終了後、水を加え1時間ほどしてから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。③残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥した。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作成した。

作成したプレパラートは顕微鏡下1,000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻化石が少ない試料は、プレパラート全面について精査した。

C　珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉［1988］および安藤［1990］が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、海水～汽水種は不明種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。以下に、小杉［1988］が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤［1990］が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

外洋指標種群（A）：塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

内湾指標種群（B）：塩分濃度が26～35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

海水藻場指標種群（C1）：塩分濃度が12～35パーミルの水域の海藻や海草（アマモ等）に付着生活する種群である。

海水砂質干潟指標種群（D1）：塩分濃度が26～35パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類等の貝類が生活する。

海水泥質干潟指標種群（E1）：塩分濃度が12～30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニ等の甲殻類相が見られる。

汽水藻場指標種群（C2）：塩分濃度が4～12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

汽水砂質干潟指標種群（D2）：塩分濃度が5～26パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。

汽水泥質干潟指標種群（E2）：塩分濃度が2～12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

上流性河川指標種群（J）：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらには*Achnanthes*属が多く含まれるが、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

中～下流性河川指標種群（K）：中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

最下流性河川指標種群（L）：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

湖沼浮遊生指標種群（M）：水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

湖沼沼沢湿地指標種群（N）：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

沼沢湿地付着生指標種群（O）：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

高層湿原指標種群（P）：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原等のように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

陸域指標種群（Q）：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

D　珪藻化石の特徴とその堆積環境

全試料から検出された珪藻化石は、海水～汽水種が8分類群7属6種、淡水種が87分類群27属70種6亜種それぞれ検出された。これらの珪藻化石は、海水～汽水域が2環境指標種群、淡水域が5環境指標種群に分類された（第5・6表）。以下では、各地点の遺構堆積物について珪藻分帯にしたがって述べる。

分類群	種群	9A17 北側遺構群					12A 北側地点			12B 溝堆積物						
		1	2	3	4	5	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
Actinocyclus spp.	?	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
Actinoptychus senarius	?	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coscinodiscus marginatus	A	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2
C. spp.	?	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-
Grammatophora macilenta	B	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Thalassionema nitzschioides	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Diploneis interrupta	?	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
Achnanthes brevipes	?	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4
A. *inflata*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
A. *lanceolata*	K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
A. *minutissima*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
A. spp.	?	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Actinella brasiliensis	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Amphora ovalis	W	9	-	-	-	-	-	-	-	7	3	1	-	6	6	-
Anomoeoneis spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Caloneis bacillum	W	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
C. *lauta*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
C. *silicula*	W	2	-	-	-	-	-	-	-	5	2	1	-	1	3	-
Cocconeis placentula	W	4	-	1	-	-	-	-	-	1	2	3	1	1	-	1
Cyclotella comta	M	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Cymbella aspera	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
C. *cuspidata*	W	2	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	1	4	5	-
C. *gracilis*	W	2	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-
C. *minuta*	W	7	-	-	-	-	-	-	-	6	2	3	4	7	11	-
C. *naviculiformis*	O	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2	-
C. *tumida*	W	2	-	-	-	-	-	-	-	1	5	1	-	6	3	-
C. *turgidula*	K	1	-	-	-	-	-	-	-	4	1	2	1	1	1	-
C. spp.	?	-	-	1	1	1	-	-	-	5	-	4	-	6	3	3
Diatoma hiemale var.quadratum	K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis	W	2	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	3	3	1
Epithemia adnata	W	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
Eunotia arcus	W	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	2	-	-	-
E. *biareofera*	W	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
E. *flexuosa*	O	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2	-	-	-
E. *formica*	W	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
E. *lunaris*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	7	-	-	-
E. *monodon*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
E. *pectinalis var.minor*	O	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	6	4	2	-	-
E. *pectinalis var.undulata*	O	1	-	-	-	-	1	-	-	-	6	6	17	-	-	-
E. *praerupta*	W	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	10	-	-	-
E. *praerupta var.bidens*	O	-	-	-	-	-	2	-	-	5	10	12	22	-	2	-
E. spp.	?	3	-	-	-	-	4	-	1	2	5	9	16	7	4	-
Frustulia rhomboides var.saxonica	O	-	-	-	-	1	-	-	-	4	5	2	3	-	-	-
F. *vulgaris*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
F. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-
Gomphonema acuminatum	O	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	2	1	1	-
G. *augur*	W	-	-	-	-	-	-	2	-	1	3	-	3	-	1	3
G. *gracile*	O	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	3	-	-	-
G. *parvulum*	W	1	-	-	-	-	-	-	-	6	2	3	2	2	-	-
G. *sphaerophorum*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
G. *truncatum*	W	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
G. spp.	?	2	-	-	-	-	-	-	1	4	6	5	4	6	2	4
Gyrosigma spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	3	1	1	-	-
Hantzschia amphioxys	Q	13	4	-	-	-	2	1	-	7	7	4	3	2	8	1
Melosira italica	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Meridion circulae var.constrictum	K	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	1	-	-	-
Navicula americana	W	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-
N. *bacillum*	W	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-
N. *contenta*	Q	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-
N. *cuspidata*	W	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5	1	-
N. *elginensis*	O	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-
N. *goeppertiana*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
N. *mutica*	Q	2	-	-	-	-	1	-	-	2	-	1	3	-	-	-
N. *pupula*	W	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-
N. *radiosa*	W	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
N. *tokyoensis*	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
N. *viridula*	W	3	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
N. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	1	2	-
Neidium affine	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
N. *hitchcokii*	W	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	3	-
N. *iridis*	O	19	-	-	-	-	1	-	-	10	15	10	6	12	13	-
N. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3	1	-
Nitzschia parvula	W	3	-	-	-	-	1	-	-	2	5	9	3	-	-	-
N. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	6	2	-	2	-

第5表　堆積物中の珪藻化石産出表（1）

（種群は、小杉［1998］および安藤［1990］による）

分類群	種群	9A17 北側遺構群 1	2	3	4	5	12A 北側地点 1	2	3	12B 溝堆積物 1	2	3	4	5	6	7
Pinnularia acrosphaeria	O	6	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	6	2	-
P. borealis	Q	2	2	-	-	-	3	-	-	1	-	-	1	-	-	-
P. braunii	W	1	-	-	-	-	-	-	-	3	1	2	-	-	-	-
P. divergens	W	3	-	-	-	-	-	-	-	3	3	1	1	5	1	-
P. gibba	O	7	-	-	-	-	1	-	-	7	4	4	1	7	6	-
P. hemiptera	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	5	-
P. interrupta	W	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P. microstauron	W	2	-	-	-	-	-	-	-	3	5	2	1	5	4	-
P. nodosa	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
P. subcapitata	O	-	1	1	-	-	-	-	-	2	4	1	2	-	-	-
P. viridis	O	14	-	-	-	-	-	-	-	2	8	3	7	12	17	-
P. spp.	?	21	1	1	-	1	1	1	1	24	37	30	25	21	32	1
Rhopalodia gibberula	W	7	-	-	-	-	-	1	-	4	2	8	3	9	6	-
Stauroneis phoenicenteron	O	19	-	-	-	-	-	-	-	17	6	7	11	35	21	-
S. smithii	W	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Surirella ovata	W	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
S. tenera	W	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	-
S. spp.	?	11	-	-	-	-	-	-	-	3	7	7	1	11	13	-
Synedra arcus	K	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	9	-	-	-	2
S. inaequalis	K	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
S. ulna	W	4	-	-	-	2	-	2	-	5	7	6	1	4	6	3
S. spp.	?	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
Tabellaria fenestrata	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6	12	1	-	-
Unknown	?	7	2	-	-	-	-	-	-	6	3	4	4	2	3	-
外洋 (A)		-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	3
内湾 (B)		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
海水不定・不明種 (?)		1	-	-	1	1	-	2	-	-	1	1	1	-	-	4
汽水不定・不明種 (?)		2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4
中～下流性河川 (K)		1	-	-	-	-	-	-	-	8	9	11	2	1	1	3
湖沼浮遊生 (M)		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
湖沼沼沢湿地 (N)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
沼沢湿地付着生 (O)		68	1	1	-	1	5	-	-	56	66	62	99	77	66	-
陸域 (Q)		18	6	-	-	-	6	1	-	10	7	7	8	2	8	1
広布 (W)		68	-	2	2	4	2	6	1	74	55	53	43	70	60	10
淡水不定・不明種 (?)		44	3	2	1	3	5	1	3	52	71	69	54	59	62	9
珪藻殻数		202	10	7	5	10	19	10	4	201	209	203	207	210	202	34

第６表　堆積物中の珪藻化石産出表（2）

（種群は、小杉［1998］および安藤［1990］による）

1）9A17グリッド北側遺構群堆積物５試料

主に、淡水種珪藻化石から構成され、これら珪藻化石環境指標種群の出現傾向から２帯に分帯された。

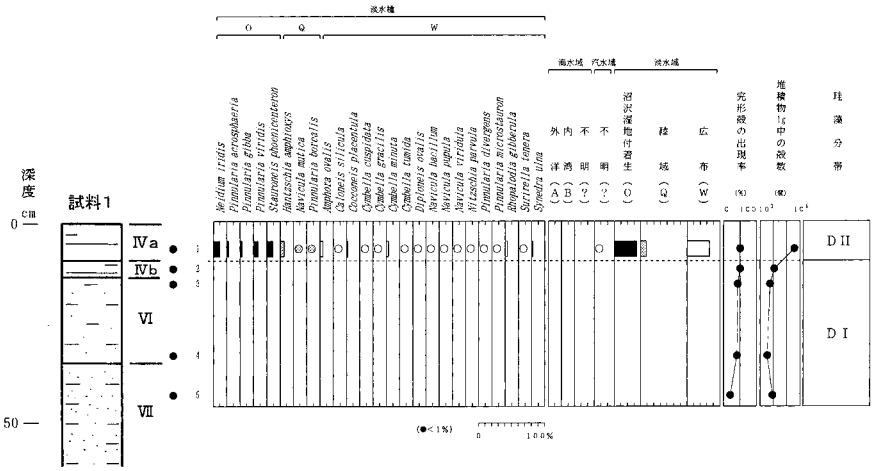
ＤⅠ帯（No.2～5）

全体的に、珪藻化石は非常に少ない。プレパラート全面の精査では５～10個体検出されたのみであった。なお、堆積物1gあたりの殻数は約3.37×10^3～1.17×10^4個、完形殻の出現率は約20～50％である。

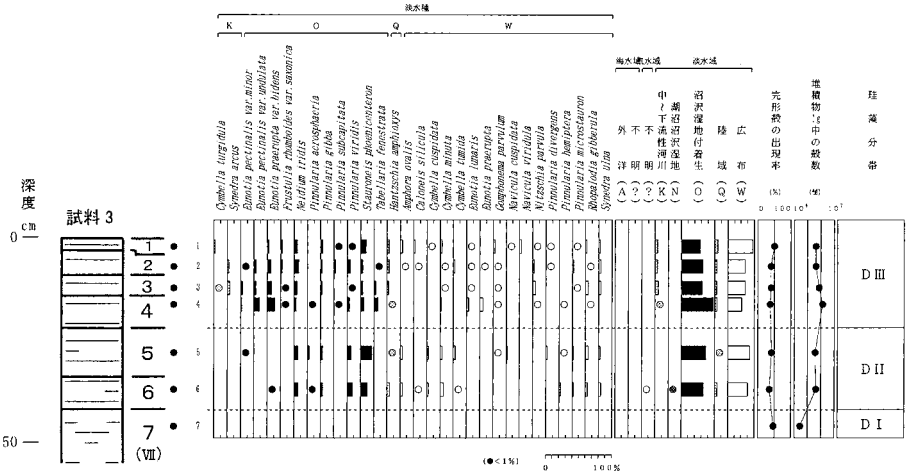
堆積物は、オリーブ黒色土やオリーブ灰色砂質シルトまたは砂質シルト～シルト質砂等から構成される。一般的に砂質堆積物では、珪藻化石はこれら構成粒子よりサイズが小さいため、珪藻化石が捕獲されないことが多いが、対象とした堆積物が遺構群覆土であるため本来含まれないものと推定される。なお、最上部Ⅳb層では、陸域のジメジメとした場所で生育する陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*等がわずかながら出現することから、こうした環境が存在したことが予想される。

ＤⅡ帯（No.1）

堆積物1gあたりの殻数は約3.75×10^5個、完形殻の出現率は約50％である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の*Pinnularia viridis*や*Stauroneis phoenicenteron*あるいは*Neidium iridis*が特徴的に出現す



第20図　北側遺構群堆積物中の珪藻化石分布図（1％以上の分類群を表示）



第21図　溝堆積物中の珪藻化石分布図（1.5％以上の分類群を表示）

る。また、陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*等も出現する。

こうしたことから、ジメジメとした陸域を伴う沼沢湿地環境が推定される。

2）12Aグリッド北側地点堆積物3試料

珪藻化石は非常に少ない。なお、堆積物1gあたりの殻数は約2.89×10^3～1.28×10^4個、完形殻の出現率は最大約30％である。堆積物は、暗オリーブ褐色あるいは黒褐色の粘質土からオリーブ灰色砂質シルトである。なお、上部Ⅳ層やⅣa層では、陸域のジメジメとした環境で生育する陸域指標種群の*Hantzschia amphioxys*等が出現する。こうしたことから、基本的には珪藻が生育するような環境ではないが、上部ではジメジメとした陸域であったことが推定される。

3）12Bグリッド溝堆積物7試料

主に淡水種珪藻化石から構成され、これら珪藻化石の環境指標種群の出現傾向から3帯に分帯された。なお、7層は北側遺構群Ⅶ層に対応すると考えられている。

ＤⅠ帯（No.7）

珪藻化石は非常に少ない。なお、堆積物1gあたりの殻数は約2.78×10^4個、完形殻の出現率は約47％である。堆積物は、灰色シルトであるが、珪藻は生育していなかったか、あるいは堆積物の粒度が粗いために捕獲されなかったことが予想される。

ＤⅡ帯（No.5・6）

堆積物1gあたりの殻数は約3.67×10^5個および4.08×10^5個、完形殻の出現率は約42および35％である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の*Pinnularia viridis*や*Stauroneis phoenicenteron*あるいは*Neidium iridis*が特徴的に出現する。

こうしたことから、流れのない沼沢湿地環境が推定される。

ＤⅢ帯（No.1～4）

堆積物1gあたりの殻数は約4.27×10^5個～1.37×10^6個、完形殻の出現率は約37～50％である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の*Stauroneis phoenicenteron*や*Eunotia praerupta var.bidens*等が特徴的に出現する。また、中～下流性河川指標種群の*Cymbella turgidula*等が出現している。

こうしたことから、流れを伴う沼沢湿地環境が推定される。

E　考　　察

第7表に、各地点堆積物の推定環境等を示す。

北側遺構群あるいは北側地点では、堆積物がシルトや砂質シルト等から構成され、堆積物中の珪藻化石は非常に少ない。これは、遺構等が見られる等居住域であり、水成植物の珪藻は繁茂していないものと推定される。なお、堆積物が粗い粒子から構成され堆積物中に珪藻化石が捕獲されないことも考えられる。なお、北側遺構群の最上部層では、ジメジメとした沼沢地が推定され、地下水位の上昇等により水域に変化したことが予想される。

地点	層　位	堆積物	環　境
北側遺構群	Ⅳａ層	シルト質粘土	ジメジメとした沼沢湿地
	Ⅳｂ層（遺構覆土）	黒色土～砂質シルト	（ジメジメとした環境）
	Ⅵ層		珪藻化石少ない
	Ⅶ層		
北側地点	Ⅲ層	シルト質粘土～砂質シルト	珪藻化石少ない
	Ⅳａ層（遺構覆土）		
	Ⅵ層		
溝堆積物	１層	粘質土	流れを伴う沼沢湿地
	２層		
	３層		
	４層		
	５層	シルト質粘土（植物遺体含む）	沼沢湿地
	６層		
	７層（Ⅶ層対比）	シルト	珪藻化石少ない

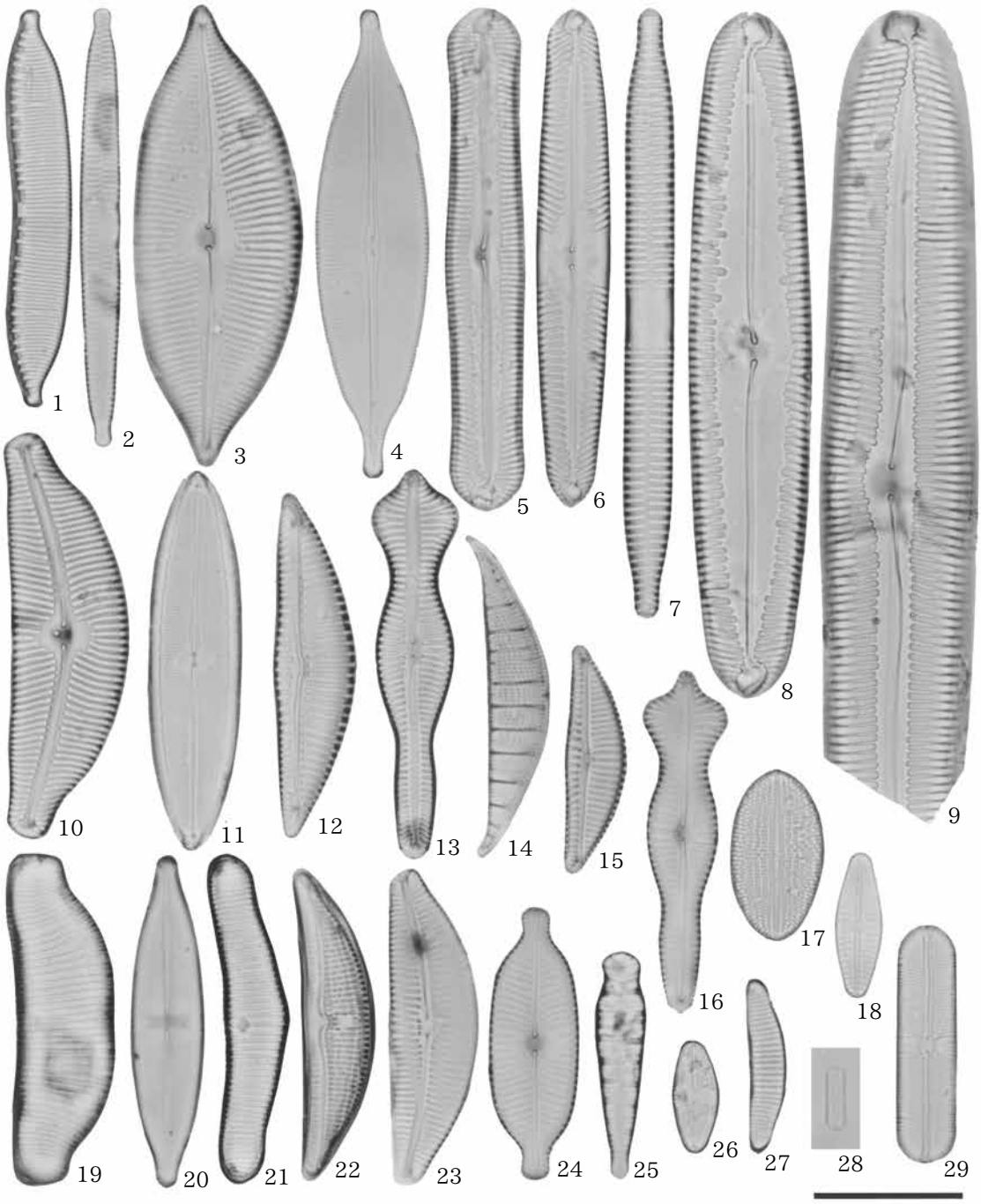
第７表　各地点の堆積物の堆積環境

一方、溝堆積物は、当初珪藻化石が少ないシルト質堆積物が堆積するが、その後沼沢湿地環境から流れを伴う沼沢湿地へと変化したことが推定された。

引用文献

安藤　一男　1990　「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42　p.73-88

小杉　正人　1988　「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27　p.1-20



1.*Hantzschia amphioxys* No.1-1
2.*Synedra arcus* No.3-3
3.*Cymbella cuspidate* No.3-1
4.*Navicula cuspidate* No.3-1
5.*Pinnularia acrosphaeria* No.1-1
6.*Pinnularia gibba* No.1-1
7.*Synedra ulna* No.3-6
8.*Pinnularia hemiptera* No.3-6
9.*Pinnularia viridis* No.3-6
10.*Cymbella tumida* No.3-2
11.*Neidium iridis* No.3-2
12.*Cymbella minuta* No.3-1
13.*Gomphonema acuminatum* No.3-1
14.*Rhopalodia gibberurla* No.3-3
15.*Cymbella minuta* No.1-1
16.*Gomphonema acuminatum* No.3-6
17.*Coccon placentula* No.3-2
18.*Achnanthes lanceolata* No.3-2
19.*Eunotia praerupta* ver. *bidens* No.3-1
20.*Stauroneis phoenicenteron* No.1-1
21.*Eunotia pectinalis* ver. *undulata* No.3-2
22.*Amphora ovalis* No.3-1
23.*Cymbella turgidula* No.3-1
24.*Navicula elginensis* No.3-6
25.*Meridion circulae* ver. *constrictum* No.3-1
26.*Navicula mutica* No.3-1
27.*Eunotia pectinalis* ver. *minor* No.3-2
28.*Navicula contenta* No.3-3
29.*Navicula bacillum* No.3-1

第 22 図　堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真（スケール：20 ミクロン）

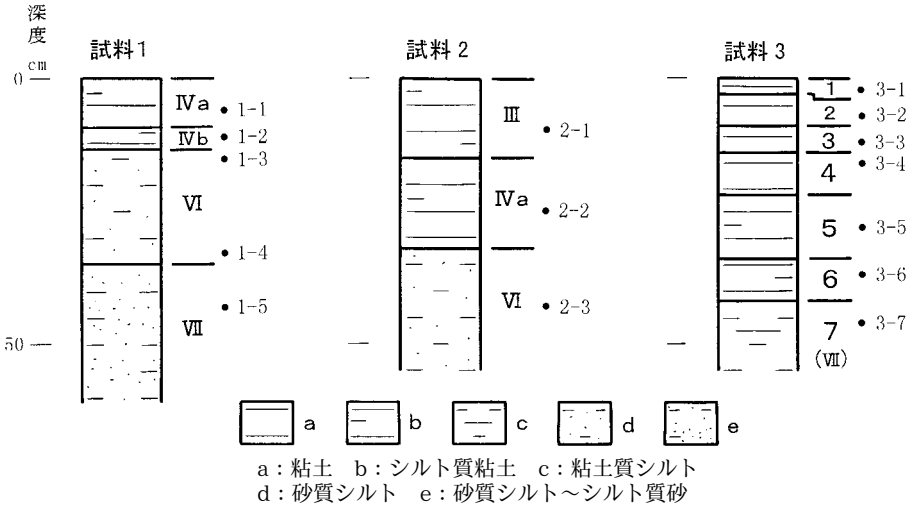
3　住吉遺跡のプラント・オパール

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

根より吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積・形成されたもの（機動細胞珪酸体や短細胞珪酸体等の植物珪酸体）が、植物が枯れる等して土壌中に混入して土粒子となったものをプラント・オパールと言い、機動細胞珪酸体については藤原［1976］や藤原・佐々木［1978］等、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壌中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稲作の有無についての検討も行われている［藤原1984］。このような研究成果から、近年プラント・オパール分析を用いて稲作の検討が各地・各遺跡で行われている。住吉遺跡においては遺跡周辺のイネ科植物について検討する目的でプラント・オパール分析を行い、その結果・考察を以下に示す。

A　試　　料

分析用試料は調査区北壁の遺構群が検出された地点１と検出されなかった試料２地点、および東壁の溝部試料３地点の３地点より採取された15試料である（第23図）。各試料について、北側遺構群の試料１地点（9A17）の試料1-1（Ⅳａ層：中世遺物包含層）は暗灰黄褐色のシルト質粘土で、赤褐色酸化鉄の集積が縦方向に散在しており、下位のⅣｂ層からⅥ層に達している。1-2（Ⅳｂ層）はオリーブ黒色のシルト質粘土で、下位層が火炎状にはいり、炭化物が多量に認められる。1-3（Ⅵ層上部）および1-4（Ⅵ層下部）はオリーブ灰色の砂質シルトで、酸化して褐色を呈する植物遺体（ヨシ？）が散在している。1-5（Ⅶ層）はオリーブ灰色の砂質シルト～シルト質砂で、やはり酸化して褐色を呈する細かな植物遺体（ヨシの根？）が散在している。試料２地点（北側12A）の試料2-1（Ⅲ層）は暗オリーブ褐色のシルト質粘土で、赤褐色酸化鉄集積が根状に散在し、植物遺体も認められる。2-2（Ⅳａ層）は黒褐色のシルト質粘土で、やはり赤褐色酸化鉄集積が根状に散在している。また、黄灰色を帯びた砂が下部で多く認められる。2-3（Ⅵ層）はオリーブ灰色の砂質シルトで、一部酸化した細かな植物遺体がやや多く含まれている。調査区東端の試料３地点（12B）の試料3-1（１層）はややシルト質の黒褐色粘土で、赤褐色の酸化鉄集積が少し認められる。



a：粘土　b：シルト質粘土　c：粘土質シルト
d：砂質シルト　e：砂質シルト～シルト質砂

第23図　試料採取地点の地質柱状図と試料採取層準

試料番号	イネ（個/g）	ネザサ節型（個/g）	クマザサ属型（個/g）	ヨシ属（個/g）	キビ族（個/g）	ウシクサ族（個/g）	不明（個/g）
1－1	21,500	5,400	9,400	10,700	6,700	9,400	12,100
1－2	14,000	0	3,500	1,200	1,200	1,200	3,500
1－3	6,100	1,200	4,900	2,400	0	1,200	2,400
1－4	0	0	8,800	1,300	0	0	1,300
1－5	2,500	0	6,300	0	0	1,300	3,800
2－1	6,100	3,600	19,400	7,300	3,600	2,400	6,100
2－2	3,800	0	21,600	5,100	1,300	0	0
2－3	0	0	16,300	2,500	0	0	1,300
3－1	4,100	2,700	16,500	5,500	1,400	1,400	5,500
3－2	4,400	1,500	10,200	30,500	1,500	10,200	7,300
3－3	9,400	0	32,800	53,100	0	4,700	9,400
3－4	13,700	3,400	3,400	29,100	1,700	5,100	10,300
3－5	9,600	2,700	15,100	9,600	0	2,700	5,500
3－6	7,900	5,300	23,800	10,600	1,300	4,000	7,900
3－7	0	0	12,000	1,300	1,300	0	1,300

第８表　試料1gあたりのプラント・オパール個数

3-2（2層）は暗オリーブ褐色の粘土で、上部は黄灰色シルトが多く混入している。また、植物遺体や酸化鉄が少し認められる。3-3（3層）は黒褐色粘土で、上半部はシルト分が多く入り灰色を帯びている。また、炭片が点在している。3-4（4層）はややシルト質の上位より明るい黒褐色粘土で、酸化した植物遺体が認められる。3-5（5層）は上位よりやや暗い黒褐色のシルト質粘土で、植物遺体（ヨシ？）が散在している。3-6（6層）も上位の５層と同様であるがやや堅くしまっている。また、細かな植物遺体（ヨシ？）が認められる。3-7（7層）は暗オリーブ褐色の粘土質シルトで、植物遺体が点在しており、縦方向に集積した赤褐色酸化鉄が散在している。

B　分析方法

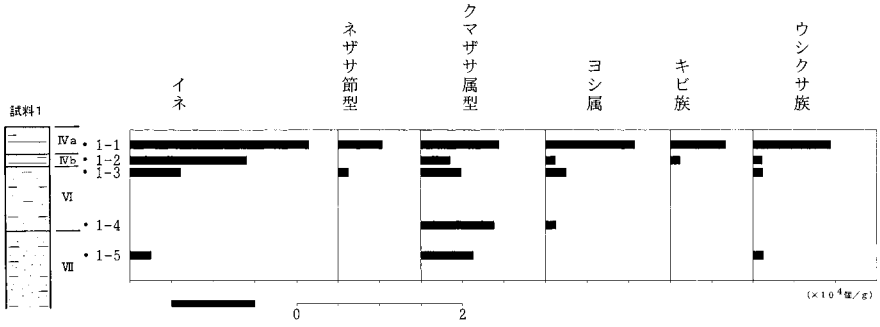
上記したように試料１地点が５点、試料２地点が３点、試料３地点が７点の計15試料について下記の方法にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約40μm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10μm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。

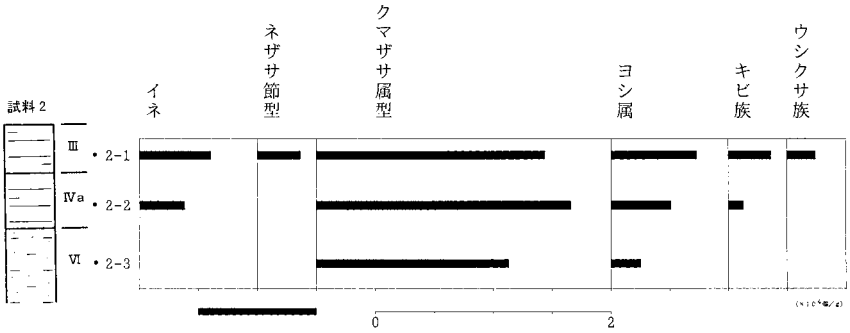
C　分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1gあたりの各プラント・オパール個数を求め（第８表）、それらの分布を第24図（試料１地点）・第25図（試料２地点）・第26図（試料３地点）に示した。以下に示す各分類群の機動細胞珪酸体個数は試料1gあたりの検出個数である。

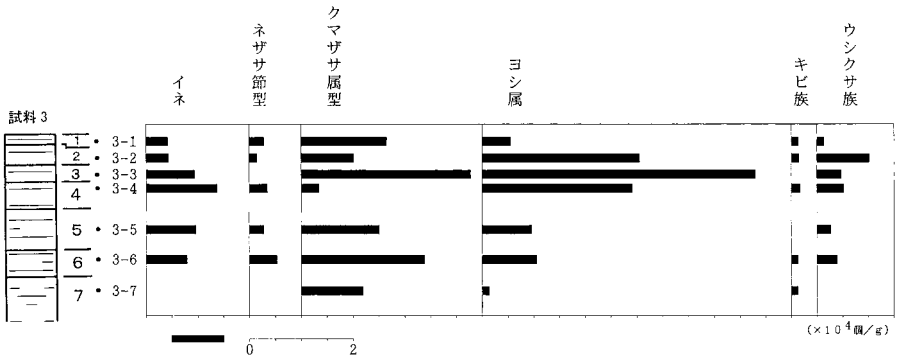
試料１地点：検鏡の結果、1-4を除く４試料よりイネのプラント・オパールが検出され、上部２試料では10,000個を越えている。また、最下部の1-5（Ⅶ層）からもイネが認められたが、2,500個と数的にはそれほど多くはない。なお、図表には示していないがイネの穎（籾殻）に形成される植物珪酸体の一部破片が上部２試料より検出され、特に1-1では多く認められている。イネ以外について、全体を通してはク



第24図　試料1地点（9A17）**のプラント・オパール分布図**



第25図　試料2地点（12A）**のプラント・オパール分布図**



第26図　試料3地点（12B）**のプラント・オパール分布図**

マザサ属型が最も多く、約4,000個～9,000個を示している。その他、ネザサ節型、ヨシ属、キビ族、ウシクサ族が得られており、イネやクマザサ属型を含め最上位試料1-1が最も高い数値を示し、特にヨシ属は10,000個を越え、ヨシ属としては多く検出されている。

試料2地点：上部2試料よりイネが検出され、個数的には5,000個前後である。また、イネ穎部破片が2-1で少し認められる。イネ以外ではやはりクマザサ属型が最も多く、次いでヨシ属が5,000個前後とやや多く得られている。その他、ネザサ節型、キビ族、ウシクサ族が上部試料で若干検出されている。

試料3地点：最下部の3-7を除く6試料よりイネが検出されており、上部2試料は約4,000個とやや少なく、他は10,000個前後を示している。また、イネ穎部破片が3-2～6の5試料より若干得られている。イネ以外ではクマザサ属型とヨシ属が多く、特にヨシ属は最上部・最下部を除きほぼ10,000個以上、3-3では50,000個を越える等非常に多く検出されている。その他、ネザサ節型、キビ族、ウシクサ族が若干検出されており、そのなかでウシクサ族が3-2で約10,000個とやや高い数値を示している。

D　稲作について

上記したように、下部試料を除き多くの試料よりイネのプラント・オパールが検出された。検出個数の目安として水田址の検証例を示すと、福岡市の板付北遺跡では、イネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている［藤原1984］。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。付近より掘立柱建物跡が検出されている住吉遺跡の試料１地点においては多くのイネが検出されている。建物跡の検出から本地点は居住空間に位置していると推察され、稲作地とは考え難い。こうしたことから、点火材等その他生活に用いられた稲藁から試料１地点付近にイネのプラント・オパールが大量に供給されたものと思われ、そうした影響が下位のⅥ層上部にまでおよんでいると考えられよう。なお、最下部試料1-5（Ⅶ層）からも若干ではあるがイネが検出されており、この当時においても周辺部において稲作が行われていた可能性を示していると思われる。

試料２地点をみると2-1では6,100個と5,000個を越えており、2-2もそれに近い数値を示していることから稲作が行われていた可能性は高いとプラント・オパール分析からは判断されよう。しかしながら、花粉分析結果をみると花粉化石はこの２試料からはほとんど得られておらず、稲作が行われていたとは考え難い結果を示している。こうしたことから試料２地点においても小さいながら試料１地点と同様の影響をうけた結果、イネのプラント・オパールが供給されたと推察されよう。

試料３地点においても多くのイネが検出されている。本地点試料は溝の埋積土であることから、イネのプラント・オパールは溝周辺の稲作地より供給され堆積したことが考えられる。一方、試料１地点や試料２地点と同様に生活域からイネのプラント・オパールが溝に供給され埋積したことも考えられよう。

このように、各地点においてイネのプラント・オパールは多く検出されており、検出個数のみから判断すると稲作が行われていたことが推察される。しかしながら、花粉分析結果や珪藻分析結果および遺構の分布等を考え合わせると稲作については判断しかねる状況である。住吉遺跡は鎌倉時代の集落跡であり、多くの遺構・遺物が検出されている。今回分析をした各地点ともこうした居住空間に近く、古代人の生活の影響をうけ稲作の有無については不明瞭になってしまったのではないかと思われる。今後の、さらに周辺域における発掘調査による稲作に伴う、あるいはそれらしき遺構・遺物の検出および土壌分析に期待したい。

E　遺跡周辺のイネ科植物

クマザサ属型が多く検出されており、このクマザサ属型のササ類（チシマザサ、チマキザサ、ミヤコザサ等）は主に林下での生育が予想され、遺跡周辺に成立していたであろう森林（主に落葉広葉樹林：花粉分析参照）の下草的存在で分布を広げていたと推測される。一方、ネザサ節型のササ類（アズマネザサ、ゴキダケ、ケネザサ（ミヤコネザサ）等）については日のあたる開けたところでの生育が考えられ、切り開かれた居住地周辺や林縁部等に生育するようになったと推測される。また、ウシクサ族（ススキ、チガヤ等）も同様のところでの分布が考えられ、ネザサ節型のササ類とともに草地を形成していたと推測される。

試料３地点は溝部に位置しており、この溝内にヨシやツルヨシ等のヨシ属が群落を形成していたとみられる。また、試料２地点においては、珪藻分析から上部ではジメジメとした陸域が推定されており、こう

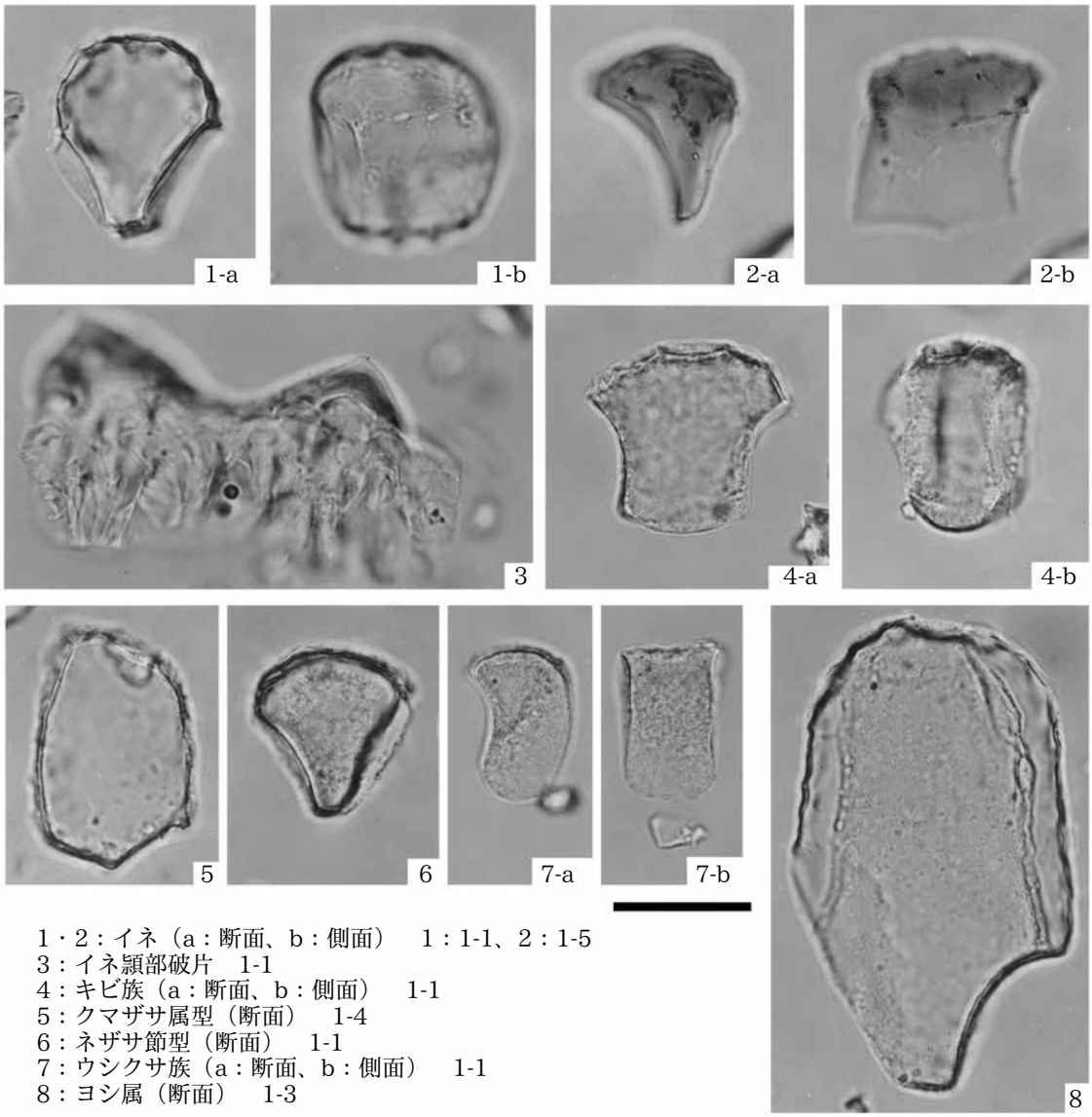
した地下水位の高い環境が広がることによりヨシ属の生育地が広がり増加したものと思われる。試料１地点の最上部におけるヨシ属の急増についてはイネと同様に生活にヨシ属が用いられることに要因があると推察される。これについては他の分類群についても同様と考える。なおキビ族については、その形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、タイヌビエ等の雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明であるが、イネと呼応するように検出され、上記したように稲作地の存在が予想されていることからここではエノコログサやタイヌビエ等の稲作地雑草に由来するキビ族と推察される。

引用文献

藤原　宏志　1976　「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』9　p.15-29

藤原　宏志　1984　「プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－」『考古学ジャーナル』227　p.2-7

藤原宏志・佐々木彰　1978　「プラント・オパール分析法の基礎的研究（2）－イネ（Oryza）属植物における機動細胞珪酸体の形状－」『考古学と自然科学』11　p.9-20



1・2：イネ（a：断面、b：側面）　1：1-1、2：1-5
3：イネ頴部破片　1-1
4：キビ族（a：断面、b：側面）　1-1
5：クマザサ属型（断面）　1-4
6：ネザサ節型（断面）　1-1
7：ウシクサ族（a：断面、b：側面）　1-1
8：ヨシ属（断面）　1-3

第 27 図　住吉遺跡のプラント・オパール（scale bar:30μm）

4　住吉遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査

大澤　正己・鈴木　瑞穂
（九州テクノリサーチ・TACセンター）

A　いきさつ

住吉遺跡は新潟県新発田市中島字住吉に所在する、13世紀代の集落跡である。鉄滓・羽口などの鍛冶関連遺物が出土しているため、遺跡内の鉄器生産の実態を検討する目的から金属学的調査を実施する運びとなった。

B　調査方法

1）供　試　材

第９表に示す。鍛冶関連遺物３点の調査を行った。

2）調査項目

a　肉眼観察

遺物の外観上の観察所見を記載した。この所見をもとに分析試料の採取位置を決定した。

b　マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では分析試料の断面全体を、低倍率で撮影したものを指す。

c　顕微鏡組織

滓中の晶出物および金属鉄部の調査を目的として、光学顕微鏡を用い観察を行った。なお金属組織の調査では、腐食（Etching）液に５％ナイタル（硝酸アルコール液）を用いた。

d　ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角を持ったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用、荷重は200gfで測定した。

e　EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）調査

化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定を目的とする。

真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性Ｘ線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。さらに標準試料とＸ線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		メタル度	調査項目								備考
					大きさ（mm）	重量（g）		マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	カロリー	
SAI-1	住吉	3G11	椀形鍛冶滓	13c	78×74×45	208.38	なし		○				○	○		
SAI-2		表土	鉄塊系遺物		84×67×23	301.43	L（●）	○	○			○		○		
SAI-3		不明	鉄製品（板状）		53×32×10	39.89	L（●）	○	○	○		○		○		

第９表　供試材の履歴と調査項目

f　化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

C　調査結果

1）SAI－1：椀形鍛冶滓（351）

a　肉眼観察

ほぼ完形の椀形鍛冶滓である。地の色調は黒褐色で、表面は風化気味である。上面は中央が瘤状に突出しており、細かい木炭を多数噛み込んでいる。側面から下面には、最大10mmほどの木炭痕が散在する。また表面には中小の気孔がみられるが、全体に重量感のある滓である。

b　顕微鏡組織

第29図①～③に示す。試料表層部は風化が進んでいるが、内部では全体に白色粒状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite：2FeO・SiO_2）が確認される。これは鍛錬鍛冶滓に最も一般的な組成である。

c　化学組成分析

第10表に示す。全鉄分（Total Fe）が57.35％と高値である。金属鉄（Metallic Fe）は＜0.01％、酸化第1鉄（FeO）42.03％、酸化第2鉄（Fe_2O_3）35.29％の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は15.67％と低めで、塩基性成分（CaO＋MgO）も1.20％と低い。また主に製鉄原料の砂鉄に由来する二酸化チタン（TiO_2）は0.66％、バナジウム（V）が0.03％と低値であった。酸化マンガン（MnO）は0.28％、銅（Cu）0.01％と低めである。鉄分（酸化鉄）主体の滓であり、鉄素材を鍛冶（熱間）加工した時に、その表層が再酸化して生じたものと判断される。

当試料は鉱物・化学組成の特徴から、鉄器製作の鍛錬鍛冶工程での派生物に分類される。また微量砂鉄由来の脈石成分（TiO_2、V、MnO）の数値から、鉄素材の始発原料は砂鉄の可能性が高いと考えられる。

2）SAI－2：鉄素材（352）

a　肉眼観察

やや扁平な不定形で306g強の鉄素材である。表面は部分的に灰黒色の滓が固着するが、鉄主体の遺物

									*	*	*	*	*	*										Σ*		
符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分（Total Fe）	金属鉄（Metallic Fe）	酸化第1鉄（FeO）	酸化第2鉄（Fe_2O_3）	二酸化珪素（SiO_2）	酸化アルミニウム（Al_2O_3）	酸化カルシウム（CaO）	酸化マグネシウム（MgO）	酸化カリウム（K_2O）	酸化ナトリウム（Na_2O）	酸化マンガン（MnO）	二酸化チタン（TiO_2）	酸化クロム（Cr_2O_3）	硫黄（S）	五酸化燐（P_2O_5）	炭素（C）	バナジウム（V）	銅（Cu）	ジルコニューム（ZrO_2）	造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO_2 Total Fe	注
SAI-1	住吉	3G11	椀形鍛冶滓	13c	57.35	<0.01	42.03	35.29	10.84	3.43	0.68	0.52	0.14	0.06	0.28	0.66	0.06	0.05	0.99	0.26	0.03	0.01	<0.01	15.67	0.273	0.012	

第10表　供試材の組成

と推定される。下面はほぼ暗褐色の鉄錆化物で覆われ、一部錆化のため表層が剥落している。非常に重量感があり、全体が特殊金属探知機のＬ（●）で反応があり、内部には金属鉄が良好に残る。

b　マクロ組織

第29図④に示す。表層に若干滓が固着しているが、ほぼ鉄主体の遺物である。なお金属鉄部は５％ナイタルで腐食している。全体的に炭素（C）含有量の低い軟鉄であった。ただし写真左上には、やや炭素含有量の高い領域（最大Ｃ：0.5％程度）がある。

c　顕微鏡組織

第29図⑤～⑧に示す。⑤⑥は高炭素域の拡大である。黒色層状のパーライト（Pearlite）素地に、白色のフェライト（Ferrite：純鉄、もしくはα鉄）結晶が晶出する亜共析組織を呈する。また⑤の写真左側のフェライト粗大粒には燐（P）の偏析が確認された。さらに粒状・不定形の硫化鉄（FeS）が複数点在するなど、燐（P）、硫黄の影響がみられる。

⑦⑧は低炭素域の拡大である。ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織を呈する。また⑦中央の暗色部は、展伸状の非金属介在物である。同様の展伸状介在物が多数確認されるため、当試料は粗い鍛打が施された鉄素材と判断される。さらに⑧の右側の暗色部は試料表層に固着する滓で、白色粒状結晶ウスタイトが凝集気味に晶出する。

d　EPMA調査

第30図①に金属鉄中の燐偏析部と硫化物の反射電子像（COMP）および特性Ｘ線像（P、S）を示す。18の定量分析値は149.9％FeO－2.7％P_2O_5であった。酸化物定量での測定のため、総計が100％を大きく超える値となっているが、金属鉄（Metallic Fe）中に燐（P）がかなり固溶することが確認できた。特性Ｘ線像をみても、金属鉄（外周）と対応して、燐（P）が分布している。また19の定量分析値は90.2％FeO－35.6％Ｓで、硫化鉄（FeS）に同定される。さらに20の番号をつけた、硫化鉄中の暗色部の定量分析値は23.9％FeO－68.6％SiO_2であった。鉄珪酸化合物である。

第30図②には鉄中非金属介在物の反射電子像（COMP）および特性Ｘ線像（Fe、Ti）を示した。12の番号をつけたガラス質滓部分の定量分析値は51.8％SiO_2－21.1％Al_2O_3－8.7％CaO－2.1％MgO－5.3％K_2O－9.1％FeO－3.4％TiO_2である。また13の明色部の定量分析値は39.4％FeO－5.1％MgO－3.2％Al_2O_3－50.4％TiO_2であった。Mg、Alを微量固溶するが、イルミナイト（Ilmenite：FeO・TiO_2）に近い組成といえる。さらに14の暗色部の定量分析値は20.0％FeO－4.9％MgO－5.4％Al_2O_3－75.6％TiO_2であった。チタン酸化物主体で、ルチル（Rutile：TiO_2）に近い組成である。また特性Ｘ線像をみると、晶出物と対応するようにTiが分布している。

この介在物中の晶出物は、高チタン（TiO_2）砂鉄を高温製錬[1]した派生物であり、製錬履歴を示すものといえる。

第30図③には試料表層付着滓の反射電子像（COMP）および特性Ｘ線像（Fe、Ti）を示した。

15の微小淡褐色晶出物の定量分析値は84.7％FeO－14.4％TiO_2－5.5％Al_2O_3であった。マグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4）、ウルボスピネル（Ulvöspinel：2FeO・TiO_2）、ヘーシナイト（Hercynite：

1）J.B.Mac chesney and A. Murau：American Mineralogist，46（1961），572
イルミナイト（Ilmenite：FeO・TiO_2）、シュードブルーカイト（Pseudobrookite：Fe_2O_3・TiO_2）、ルチル（Rutile：TiO_2）の晶出はFeO－TiO_2二元平衡状態図から高温化操業が推定される。

$FeO \cdot Al_2O_3$）を端成分とする固溶体[2]に同定される。また16の白色不定形結晶の定量分析値は103.7％FeOで、ウスタイト（Wustite：FeO）に同定される。さらに17の番号をつけた淡灰色結晶の定量分析値は68.1％FeO－31.9％SiO_2で、ファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）に同定される。

付着滓は鉄酸化物（FeO）主体で、鍛冶加工時に鉄素材表層が再酸化したものと判断される。また滓中には若干チタン（TiO_2）の影響が残る。

以上の調査の結果、当試料は製錬滓の固着した鍛冶原料鉄（製錬鉄塊系遺物）に、粗い鍛打を施した鉄素材（未成品）と推定される。炭素含有量は全体に低めで軟鉄材といえる。

また始発原料は高チタン砂鉄であり、周辺地域の製鉄遺跡から搬入されたと仮定しても矛盾のないものであった。なお高温で製錬された鉄塊のため、金属鉄中には燐（P）、硫黄（S）の影響が部分的にみられる。

3）SAI－3：鉄製品（353）

a　肉眼観察

平面不整長方形状を呈し、40g弱を測る。板状の鉄製品である。表層は錆化による割れや、剥落が著しい。厚みは現存で最大7mmほどである。特殊金属探知機のL（●）で反応があり、内部には金属鉄が良好に残る。

b　マクロ組織

第31図①に示す。明色部は金属鉄部である。展伸状の介在物が多数分布しており、折り返し鍛錬が施された鍛造品と判断される。また金属鉄は5％ナイタルで腐食している。フェライト単相～亜共析組織の軟鉄材であった。

c　顕微鏡組織

第31図②～⑧に示す。白色多角形状のフェライト単相の箇所（⑦⑧）と黒色のパーライトが少量析出する亜共析組織箇所（③～⑥）とが層状に確認される。パーライトの面積率から、炭素含有量は最大でも0.15％程度の軟鉄と判断される。

d　ビッカース断面硬度

第31図②の金属鉄部の硬度を0.2mm間隔で測定した。硬度値は107～135Hvであった。フェライト単相の箇所の硬度が若干高めで、燐（P）を微量固溶している可能性があるが、さほど大きな影響ではない。

e　EPMA調査

第32図①に非金属介在物の反射電子像（COMP）および特性X線像（Fe、Ti）を示す。8の淡茶褐色多角形結晶の定量分析値は69.2％FeO－24.8％TiO_2－6.3％Al_2O_3であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO \cdot TiO_2$）とヘーシナイト（Hercynite：$FeO \cdot Al_2O_3$）の固溶体に同定される。特性X線像をみても、多角形結晶と対応してTiが分布している。また9の淡灰色木ずれ状結晶の定量分析値は52.9％FeO－36.9％SiO_2で、ファイヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）に同定される。

さらにもう1か所第32図②に非金属介在物の反射電子像（COMP）および特性X線像（Fe、Ti）を示す。10の淡灰色不定形結晶の定量分析値は64.8％FeO－32.1％SiO_2で、ファイヤライト（Fayalite：

2）黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と造岩鉱物［第2版］』共立出版株式会社　1983　「第5章鉱物各論　D.尖晶石類・スピネル類（Spinel Group）」の記載に加筆。
尖晶石類の化学組成の一般式はXY2O4と表記できる。Xは2価の金属イオン、Yは3価の金属イオンである。その組み合わせでいろいろの種類のものがあり、またそれらは固溶体をつくる。

2FeO・SiO_2）に同定される。また1.5％P_2O_5と燐（P）がやや高値傾向を示す。11の白色粒状結晶の定量値は106.4％FeOで、ウスタイト（Wustite：FeO）に同定される。

以上の調査の結果、当試料は軟鉄を折り返し鍛錬して作られた鍛造製品である。また介在物中にチタン（Ti）の影響がみられて、やはり高チタン砂鉄が始発原料と推定される。

D　ま　と　め

13世紀代に推定される、住吉遺跡出土鍛冶関連遺物を調査した結果、次の点が明らかになった。

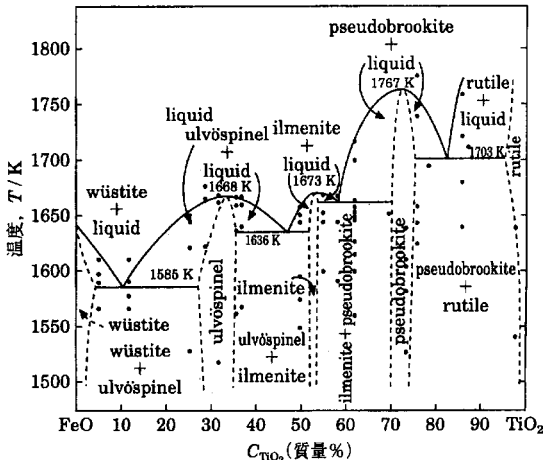
〈1〉　鉄素材（SAI－2：352）、鉄製品（SAI－3：353）中の非金属介在物の鉱物組成から、当遺跡には火山岩起源の高チタン（TiO_2）砂鉄を製錬した鉄塊系遺物が、鍛冶原料として搬入されたと推定される。

新潟県下では古代から中世前半にかけて、地域に分布する高チタン砂鉄を製鉄原料とした鉄生産が行われており[3)]、こうした製鉄遺跡から鍛冶原料が供給されたと想定しても矛盾しない遺物群が確認された。

〈2〉　鉄素材（SAI－2：352）はごく粗い鍛打が施された未成品である。当遺跡では、鍛冶原料（製錬鉄塊系遺物）を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器が製作されたものと推定される。

椀形鍛冶滓（SAI－1：351）も、こうした鍛冶作業時の鉄材の吹減り（酸化による損失）で生じた鍛錬鍛冶滓に分類される。

〈3〉　鉄素材（SAI－2：352）、鉄製品（SAI－3：353）とも、全体に炭素含有量の低い軟鉄であった。分析点数が少ないため、製作された鉄器全般の性状を示すものとはいえないが、軟鉄材を加工して鉄器を製作していた状況がうかがえる。



第28図　FeO-TiO_2二元平衡状態図

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成（%） Total Fe	Fe_2O_3	塩基性成分	TiO_2	V	MnO	ガラス質成分	Cu	所見
SAI-1（351）	住吉	3G11	椀形鍛冶滓	13c	W+F	57.35	35.29	1.20	0.66	0.03	0.28	15.67	0.01	鍛錬鍛冶滓（始発原料：砂鉄）
SAI-2（352）		表土	鉄塊系遺物		滓部：W（UとHの固溶体）、I+R 金属鉄：フェライト単相～亜共析組織（P偏析）、硫化鉄	－	－	－	－	－	－	－	－	粗く鍛打が施された鉄素材（軟鉄） 始発原料：高チタン（TiO_2）砂鉄、高温製錬
SAI-3（353）		不明	鉄製品（板状）		介在物：UとHの固溶体+F、W+F 金属鉄：フェライト単相～亜共析組織	－	－	－	－	－	－	－	－	軟鉄材を折返し鍛錬した鍛造品（軟鉄） 始発原料：高チタン（TiO_2）砂鉄

W:Wustite（2FeO・SiO_2）、U:Ulvöspinel（2FeO・TiO_2）、H:Hercynite（FeO・Al_2O_3）、I:ilmenite（FeO・TiO_2）、R:Rutile（TiO_2）

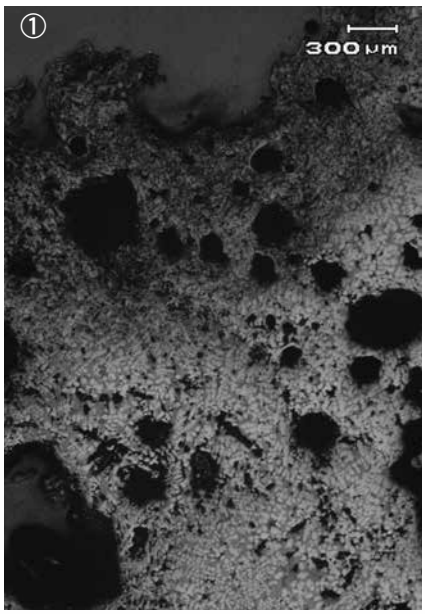
第11表　出土遺物の調査結果のまとめ

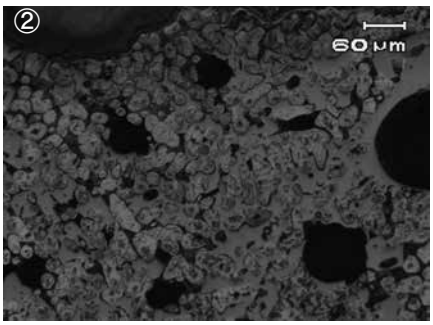
3）新潟県下の主な製鉄遺跡の発掘・分析調査事例として、以下の報告書を参照した。
①『真木山製鉄遺跡』新潟県豊浦町教育委員会　1981
②『北沢遺跡群』新潟県豊浦町教育委員会　1992
③『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ・Ⅲ』新潟県新津市教育委員会　1997・1998

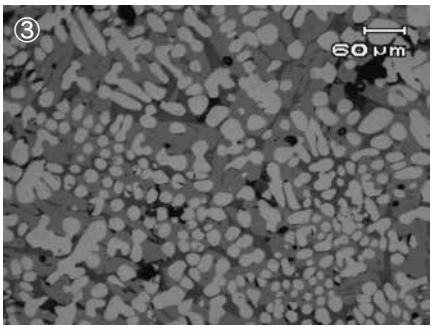
SAI - 1（351）
椀形鍛冶滓

①試料上面表層
②③　①の拡大
②：最表層部、風化進行
③：内側、ウスタイト・
　　ファイヤライト

外観写真：試料上面



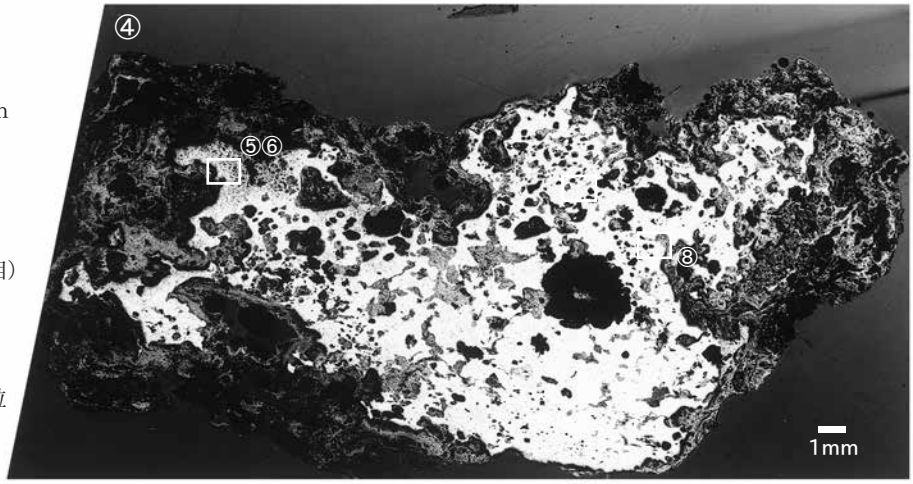


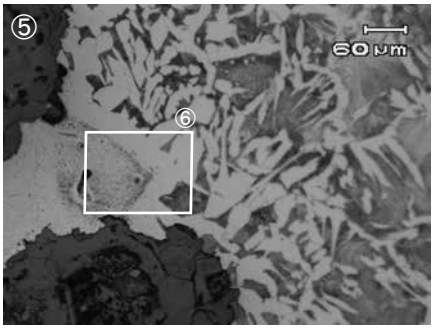


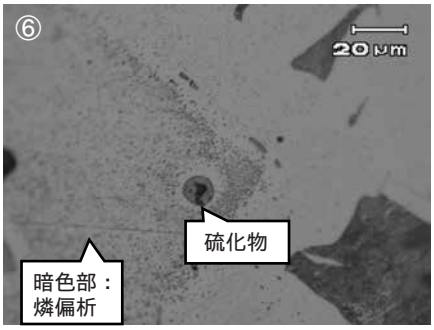
SAI - 2（352）
鉄素材

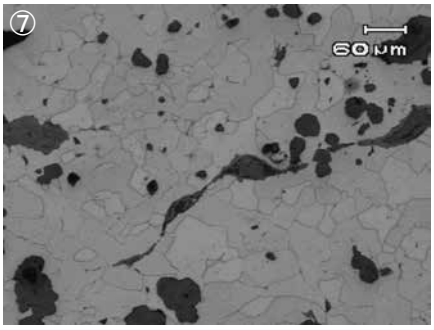
④マクロ組織、
明色部：金属鉄、ナイタルetch
フェライト単相～亜共析組織
⑤～⑧　④の拡大
⑤⑥：高炭素域（亜共析組織）
　　燐偏析・硫化物散在
⑦：低炭素域（フェライト単相）
中央、展伸状非金属介在物
⑧：左側、金属鉄
低炭素域（フェライト単相）
右側、付着滓、ウスタイト（粒
内：微細なウルボスピネルと
ヘーシナイトの固溶体点在）・
ファイヤライト

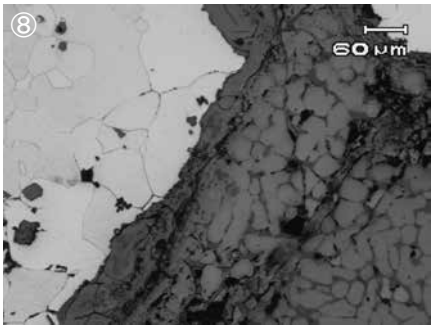
外観写真：試料上面



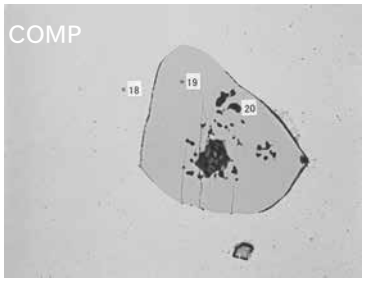




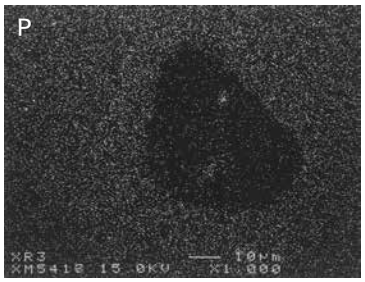


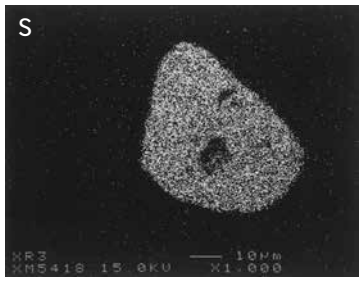


第 29 図　椀形鍛冶滓・鉄素材の顕微鏡組織

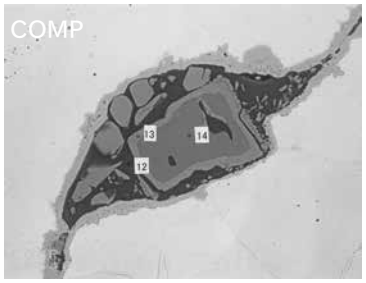


Element	18	19	20
MgO	−	−	−
Al_2O_3	−	−	0.014
SiO_2	0.030	−	68.568
P_2O_5	2.679	−	0.146
S	0.061	35.579	11.341
K_2O	−	−	0.139
CaO	−	−	0.038
TiO_2	0.054	−	0.181
MnO	0.027	0.583	0.515
FeO	149.946	90.191	23.885
ZrO_2	0.041	0.066	0.045
CuO	−	0.125	−
V_2O_3	0.036	0.231	0.500
As_2O_5	0.014	−	−
Total	152.873	117.897	102.542

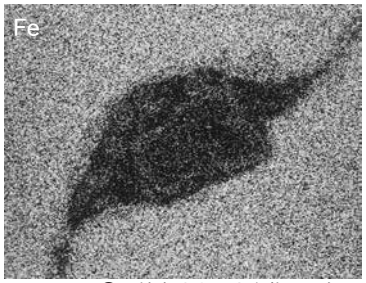


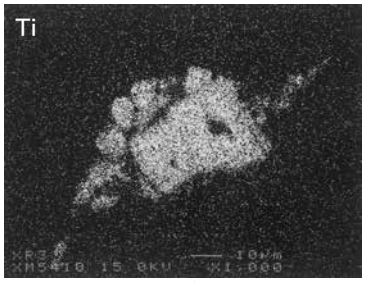


①　鉄中非金属介在物の反射電子像・特性X線像および定量分析値

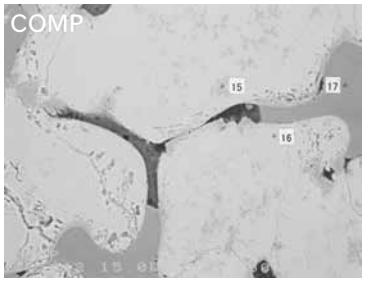


Element	12	13	14
MgO	2.122	5.122	4.897
Al_2O_3	21.125	3.232	5.370
SiO_2	51.804	7.106	0.024
P_2O_5	0.749	0.079	−
S	0.076	−	−
K_2O	5.255	0.793	0.007
CaO	8.681	0.760	0.016
TiO_2	3.404	50.446	75.626
MnO	0.103	0.222	0.050
FeO	9.117	39.357	19.976
ZrO_2	0.348	0.336	0.391
CuO	0.027	−	-
V_2O_3	−	0.268	0.363
As_2O_5	0.027	−	0.089
Total	102.819	107.721	106.809

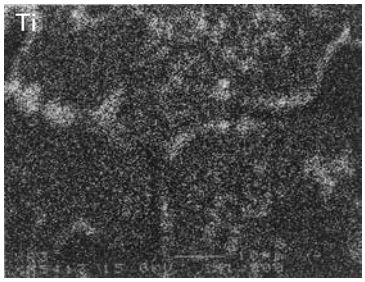




②　鉄中非金属介在物の反射電子像・特性X線像および定量分析値



Element	15	16	17
MgO	0.306	0.373	3.732
Al_2O_3	5.521	0.540	0.300
SiO_2	0.329	0.291	31.92
P_2O_5	−	0.003	0.073
S	−	−	0.013
K_2O	0.005	−	−
CaO	−	−	0.760
TiO_2	14.387	0.967	0.217
MnO	0.263	0.186	0.541
FeO	84.719	103.704	68.051
ZrO_2	0.020	0.184	0.087
CuO	−	0.015	−
V_2O_3	0.202	0.024	0.046
As_2O_5	0.036	0.087	0.009
Total	105.788	106.374	105.746

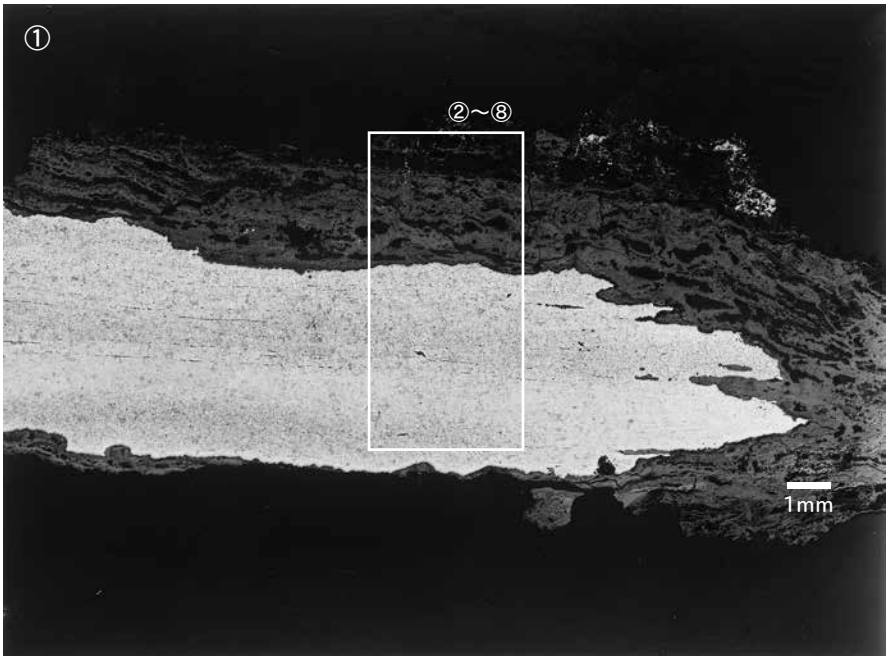


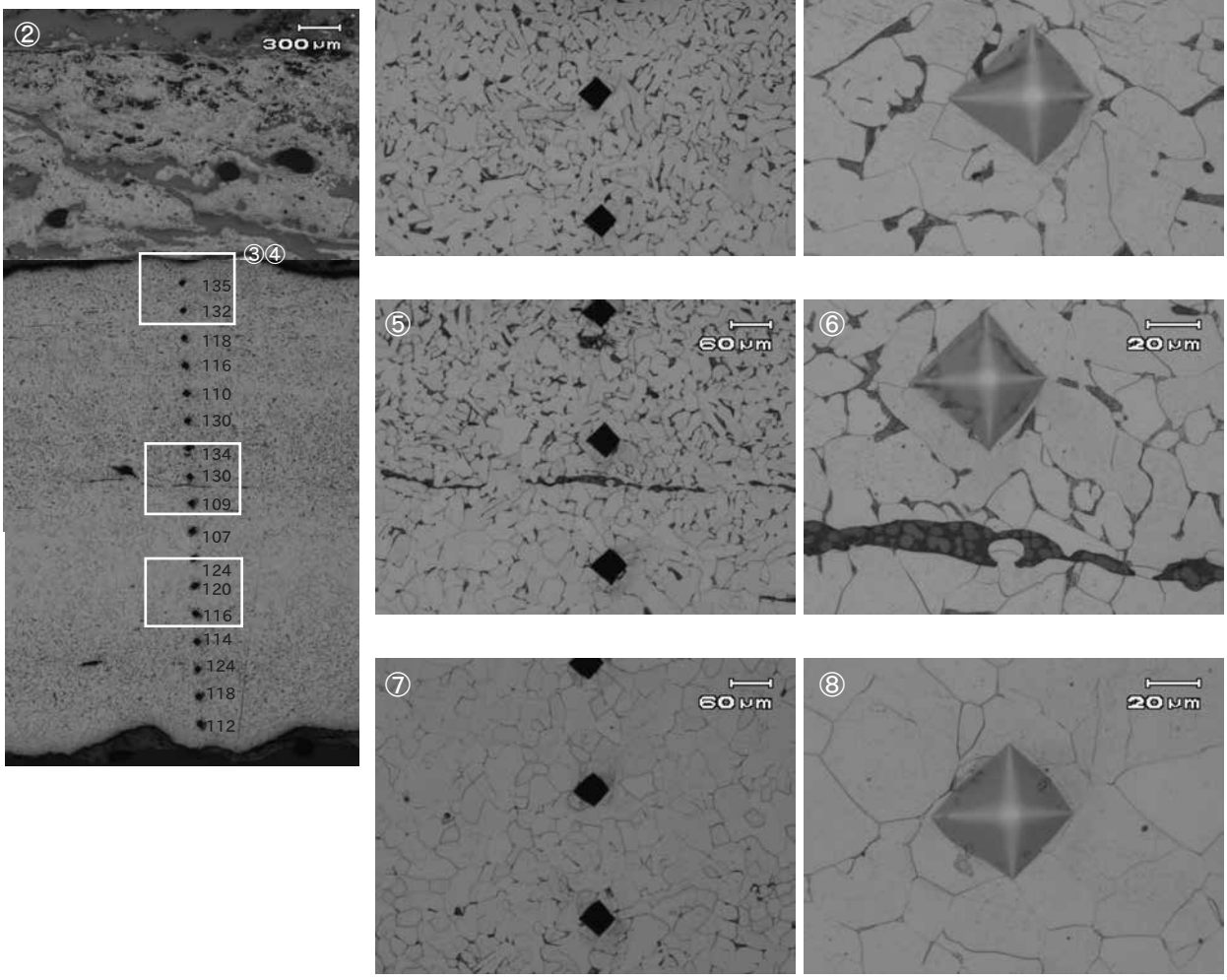
③　付着滓の反射電子像・特性X線像および定量分析値

第30図　鉄素材のEPMA調査結果

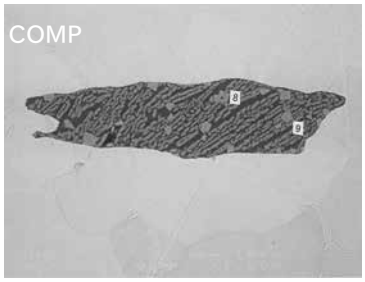
SAI - 3（353）
鉄製品
①マクロ組織、
明色部：金属鉄、ナイタルetch
フェライト単相～亜共析組織
②～⑧　①の拡大
②ビッカース断面硬度測定：
107～135Hv
（荷重：200gr/Hv）
③④：亜共析組織
⑤⑥：亜共析組織
中央、展伸状非金属介在物
⑦⑧：フェライト単相

外観写真

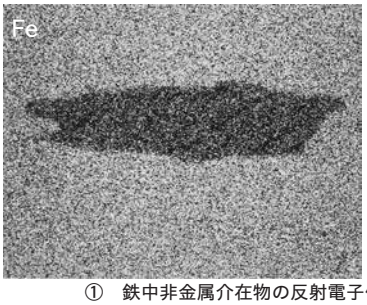


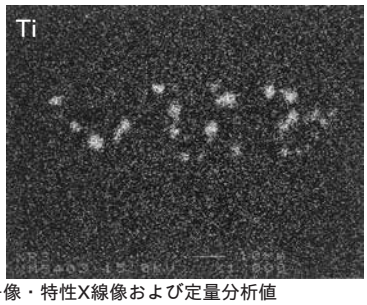


第31図　鉄製品の顕微鏡組織

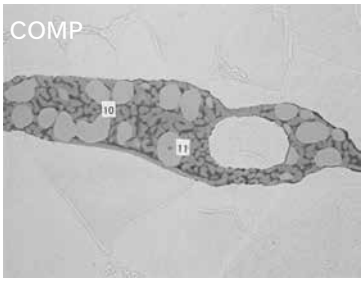


Element	8	9
MgO	0.609	1.783
Al_2O_3	6.284	6.862
SiO_2	2.003	36.926
P_2O_5	0.030	0.413
S	0.004	0.023
K_2O	0.344	3.213
CaO	0.157	2.551
TiO_2	24.758	0.379
MnO	0.179	0.250
FeO	69.197	52.850
ZrO_2	0.010	0.109
CuO	0.085	0.019
V_2O_3	0.730	0.131
As_2O_5	−	−
Total	104.389	105.503

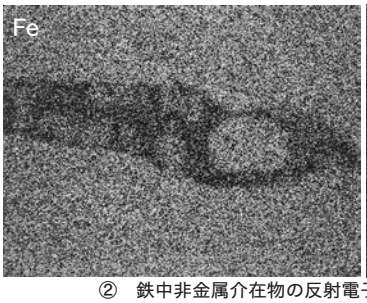


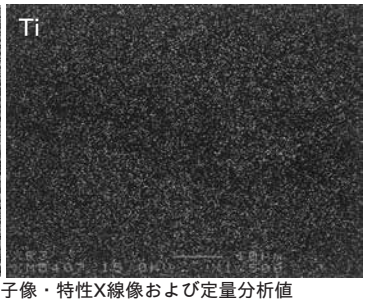


①　鉄中非金属介在物の反射電子像・特性X線像および定量分析値



Element	10	11
MgO	1.102	0.099
Al_2O_3	3.492	0.617
SiO_2	32.114	0.295
P_2O_5	1.527	0.003
S	0.028	−
K_2O	1.585	−
CaO	1.770	−
TiO_2	0.018	0.259
MnO	0.275	0.027
FeO	64.768	106.442
ZrO_2	−	0.020
CuO	−	0.099
V_2O_3	0.040	−
As_2O_5	−	−
Total	106.712	107.861





②　鉄中非金属介在物の反射電子像・特性X線像および定量分析値

第32図　鉄製品のEPMA調査結果

5　出土木製品の樹種同定

植田　弥生（パレオ・ラボ）

A　はじめに

当遺跡は旧紫雲寺潟（塩津潟）に近い加治川右岸の標高５～6mの沖積地に立地し、13世紀前後（中世）の集落跡である。または、出土遺物の特徴から階層の高い人物が居住していた武家屋敷の可能性も考えられている。ここでは、井戸側や水溜めの大型曲物、箸状、漆塗椀・皿、礎板・柱根、下駄・板草履、祭祀具（斎串か・刀子形・鳥形・舟形）等、合計275点の木製品の樹種同定結果を報告する。ただし井戸底の水溜めに使用されていた大型曲物・水溜は、側板が複層で縦木が添えられている構造をなし、これらは部位ごとに材の樹種同定を実施した。したがって、実際に樹種同定を行った試料点数は317点となっている。

B　試料と方法

剃刀を用いて、木製品から材の３方向（横断面・接線断面・放射断面）の薄片を採取し、スライドガラスに並べ、ガムクロラールで封入し、永久プレパラート（材組織標本）を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で40～400倍に拡大し、材組織の特徴を観察し、同定を行った。

材組織標本は、埋文事業団に保管されている。

C　結　　果

各試料の同定結果の一覧を別表３（木製品）に示した。第12表では、木製品器種ごとの検出樹種を集計した。

検出された分類群は、マツ属複維管束亜属（1点）・スギ（239点）・ヒノキ（2点）・ヒノキ属（1点）・ヒノキ科（3点）・サワラ（1点）・ネズコ（1点）の針葉樹７分類群、クリ（28点）・ケヤキ（28点）・ブナ属（3点）・トチノキ（1点）・カツラ（1点）・キハダ（1点）・コナラ亜属（1点）・ヌルデ（1点）・モクレン属（1点）・ヤナギ属？（1点）の落葉広葉樹10分類群、イスノキ（2点）の常緑広葉樹、当年枝材で分類群は特定できない広葉樹（1点）であった。

スギが全体の約75％を占め、井戸側・大型曲物、礎板・柱根の建築材、下駄・板草履、指物、箸状木製品、斎串か、刀子形、鳥形、舟形、糸巻、浮子、エブリ、杓子形木製品等、さまざまな木製品に利用されていた。

大型曲物・水溜は、側板が複層で縦木が添えられている構造であり、最外部に巻かれていたバンド、外の側板、内の側板、縦木を調べた結果、すべてスギが使われていた。木取りは、外の側板は柾目で、内の側板が板目の組み合わせが最も多い。外側と内側のいずれも板目取り、または柾目取りのものも、少ないがあった（第13表）。

漆器容器・白木皿は、ケヤキが25点で最も多く、スギは２点と少なく、他にはトチノキ１点が検出された。

木錘は、コナラ節とクヌギ節が属するコナラ属コナラ亜属であるが、切片が小さいため、これ以上は特定できない。

櫛（梳櫛）２点は、暖地に生育分布するイスノキであった。

礎板と柱根には、スギとクリが多く、これ以外にも複数種類が検出された。礎板は特に利用種類数が多く、スギとクリ以外にヒノキ・ヒノキ属・ヒノキ科・ブナ属・カツラ・モクレン属が検出された。柱根からも、ケヤキ・ブナ属・キハダ・ヌルデが検出された。住居跡による利用樹種の差はみられず、礎板または柱根のいずれかに、クリとスギが多く利用されていた（第14表）。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を簡単に記載し、材の３方向の組織写真を提示した。なお、針葉樹材については、早材部の分野壁孔を重点的に観察し判断した。

・マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. *Diploxylon*　マツ科　第33図1a～1c.（報告No.486）

垂直と水平の樹脂があり、早材から晩材への移行は緩やかで、分野壁孔は窓状、内壁が鋸歯状に肥厚した放射仮道管がある。放射仮道管内壁の鋸歯状肥厚は、保存が悪く肥厚の形状が不鮮明なため、マツ属複維管束亜属とし、アカマツとクロマツの特定はできていない。

・スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don　スギ科　第33図2a～2c（報告No.671）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部の仮道管壁は厚い。晩材部の量は多い材と少なく狭い材がある。分野壁孔は大型、孔口は水平に大きく楕円形に開き、１分野にスギ型が２～３個ある。仮道管径は、ヒノキ科の材に比べ太く、分野壁孔も広く大きい。

・ネズコ（クロベ）　*Thuja standishii* Carr.　ヒノキ科　第33図3a～3c（報告No.920）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少なく、分野壁孔はやや小さいスギ型または孔口が広く開いたヒノキ型、１分野に２～５個、３個ある分野も多い。

・ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* Endl.　ヒノキ科　第33図4a～4c（報告No.763）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量が極めて少ない。分野壁孔は孔口がやや斜めに細く開いたヒノキ型、１分野に２～３個あり、主に２個が水平に整然と配列する。

・サワラ　*Chamaecyparis pisifera*（Sieb. et Zucc.）Endl.　ヒノキ科　第33図5a～5c（報告No.546）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。分野壁孔は大きく、孔口は大きく開いているが壁孔縁は厚いヒノキ型であり、１分野に２～３個ある。

・ヒノキ属　*Chamaecyparis*　ヒノキ科　第33図6a・6c（報告No.450）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は多く仮道管壁も厚い。分野壁孔は小さく外形は丸く、孔口は狭くヒノキ的な部分と、広く開孔してサワラ的な部分が混在していた。そのため、ヒノキかサワラかを特定できず、ヒノキ属の同定レベルに留めた。

・ヒノキ科　Cupressaceae　第33図7c（報告No.414）

仮道管・放射組織・樹脂細胞からなる針葉樹材。分野壁孔は１分野に主に２個、壁孔の外形は丸い。細胞壁が腐朽しており分野壁孔の型はこれ以上は確認できず、分類群を絞ることができなかった。

・ヤナギ属？　*Salix*？　ヤナギ科　第34図8a～8c（報告No.568）

中心部に大きな円形の髄を持ち、１年輪に満たない枝材である。小型の管孔が散在し、道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、放射組織は単列異性、道管との壁孔は大きく交互状に密在にする。ヤナギ属に最も類似するが、１年輪に満たない当年枝部分で有り断定はできなかった。

・ブナ属　*Fagus*　ブナ科　第34図9a～9c（報告No.474）

丸みをおびた小型の管孔が密在し除々に径を減じてゆき、年輪界では極めて小型となり分布数も減る散孔材、道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は単穿孔と階段数が10～20本の階段穿孔があり、放射組

織は異性、1～3細胞幅のものと幅が広く背の高い広放射組織がある。

・クリ　*Castanea-crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科　第34図10a～10c（報告No.436）

年輪の始めに大型の管孔が配列し除々に径を減じ、または急に径を減じて晩材は非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材、道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがあり、放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

・コナラ属コナラ亜属　*Quercus* subgen. *Quercus*　ブナ科　第34図11a-1・11a-2・11b（報告No.552）

細胞幅の広い集合放射組織を持つ環孔材である。しかし、連続して1年輪が観察できる切片が得られていないので、晩材部の管孔配列が未確認のためコナラ節とクヌギ節の識別ができず、コナラ亜属の同定に留めた。

・ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　ニレ科　第34図12a～12c（報告No.747）

年輪の始めに大型の管孔が1～2層配列し、その後は小型の管孔が多数集合して接線状・斜状・塊状に配列する環孔材、道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚があり、放射組織は異性、1～5細胞幅の紡錘形で上下端や縁に大型結晶細胞があり、道管との壁孔は交互状である。

・カツラ　*Cercidiphyllum japonicum* Sieb.et Zucc.　カツラ科　第34図13a～13c（報告No.497）

小型で多角形の管孔が年輪内に密在し、管孔の占有面積は多い散孔材、道管の壁孔は交互状～孔口の長さが不揃いの階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔、放射組織は1～2細胞幅で異性、多列部の上下端に方形細胞や直立細胞が単列で1～3細胞層ある。

・モクレン属　*Magnolia*　モクレン属　第35図14a～14c（報告No.424）

小型の管孔が単独または2～数個が複合して分布する散孔材、道管の壁孔は階段状、穿孔は単穿孔、内腔には水平や弧状のチロースがあり、放射組織は同性に近い異性、主に2細胞幅、道管との壁孔は階段状または対列状に整然と配列している。

・イスノキ　Distylium racemosum Sieb. et Zucc.　マンサク科　第35図15a～15c（報告No.778）

非常に小型で多角形の管孔が一様に分布し、1層で接線状に分布する軸方向柔細胞があり、年輪界は不明瞭な散孔材、道管内には褐色の内容物は多く、穿孔は階段数が少ない階段穿孔、多室結晶細胞があり、放射組織は異性、1～2細胞幅である。

・キハダ　*Phellodendron amurense* Rupr.　ミカン科　第35図16a～16c（報告No.488）

年輪の始めに大型の管孔が層配列し、孔圏外は多数の管孔が複合し年輪界に向かい徐々に径を減じ塊状・斜状・接線状に配列する環孔材、道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚があり、放射組織は同性、主に3～4細胞幅で整った紡錘形、細胞高も15細胞高前後でほぼ同じ高さである。

・ヌルデ　*Rhus javanica* L.　ウルシ科　第35図17a～17c（報告No.487）

年輪の始めに大型の管孔が配列し徐々に径を減じ、年輪界では非常に小型の管孔が塊状に集合して接線状・斜状に分布する環孔材、木部柔組織は周囲状で特に晩材部では集合管孔の周囲に多く、道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、放射組織は異性、1～3細胞幅、輪郭はやや不整である。

・トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科　第35図18a～18c（報告No.845）

小型の管孔が単独または2～数個が複合して分布する散孔材、道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にらせん肥厚があり、放射組織は単列同性で層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔は交互状に密在する。

・広葉樹　broad-leaved tree　第35図19a～19c（報告No.554）

1年輪に満たない小枝で、前述のヤナギ属？の横断面組織と非常に類似性が高い。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔のようであるが保存が悪い。放射組織は異性で1～2細胞幅、細胞高は高い。若い枝材で材組織が未発達なため、分類群は特定できない。

D 考　　察

日本海側では、スギが木製品に多く利用されている傾向が知られているが［山田1993］、当遺跡においてもその特徴が明瞭に見られた。一般的に曲物用材は針葉樹材が多く、特に年輪幅が緻密なヒノキの柾目板材が側板に使用されているものが多い。大武遺跡（三島郡和島村）から出土した中世の曲物は、スギ・ヒノキ・針葉樹で、スギ（16点）よりもヒノキ（22点）が多く検出されている［松葉2000］。そしてヒノキの製品はスギよりも側板が薄く、外形的特徴や製作方法の差異があると記されている。当遺跡で樹種同定を実施した曲物の多くは井戸底の水溜容器で、そのために強度的に厚い側板が必要であり、ヒノキよりも入手が容易で、厚い側板が製作できるスギ材が選択的に使用された可能性がある。大型曲物・水溜の側板は、外側が柾目板で内側が板目板の組み合わせが多くみられたが、この点も強度や耐水性と関連しているのかも知れない。

漆塗椀や漆塗皿の樹種は、ブナ属・ケヤキ・クリ・トチノキ等複数種類が検出されることが多いが、当遺跡ではケヤキがほとんどであった。一方、大武遺跡ではブナ属が圧倒的に多い。同じ県内でも地域により検出樹種に違いがあるのは、生産地の違いか、容器の種類によるのか、住人階層の違いなのか、資料を蓄積して検討する必要があるのではないだろうか。

中世になると建築材にクリの利用が多くなり、礎板や柱根の樹種も多様化する傾向も知られているが、やはり当遺跡においてもスギとともにクリが多く利用されていたことがわかった。また検出点数は少ないが、礎板からはブナ属・カツラモクレン属等が、柱根からはケヤキ・ブナ属・キハダ・ヌルデの複数の落葉広葉樹材が検出され、樹種選択が多様化している。ヒノキ・ヒノキ属・ヒノキ科も礎板から検出された。ヒノキ・ヒノキ属・ヒノキ科の材は、スギよりも耐久性・耐水性に優れた有用材であるが、当遺跡ではこの礎板以外の製品からは検出されていない。当遺跡ではヒノキ等ヒノキ科の材はスギほど入手が容易ではなかったと思われる。ヒノキが多く用いられる箸状木製品もほとんどがスギであり、樹種同定した祭祀具もすべてスギであった。しかし、ヒノキの代用としてスギを使用したのではなく、地域の有用資源材であるスギの特性を積極的に有効利用していた結果かもしれない。

櫛2点は、イスノキで中世の櫛用材として最も良く利用されているものであった。新潟県にイスノキが生育しているかは知らないが、暖地の山地に成育する樹木であることから搬入品の可能性もあるのではないだろうか。

引用文献

山田昌久　1993　「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別第1号　p.1-242

松葉礼子　2000　「大武遺跡出土木製品の樹種同定『大武遺跡Ⅰ（中世編）』 p.42-47 図版83-90 （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

器種 / 樹種	礎板	柱根	木錘	櫛（梳櫛）	漆塗皿	漆塗稜椀	漆塗椀	白木皿	用途不明塗装製品	下駄・下駄歯	板草履	箸状木製品	斎串か	刀子形	鳥形	舟形	糸巻	浮子	栓・栓か	膳	柄	エブリ	円形板	折敷・折敷か	指物（板材・部材）	杓子形木製品	井戸側 板材	井戸側 横桟	井戸側 隅柱	井戸側 部材	井戸側 丸木舟	大型曲物水溜 外	大型曲物水溜 内	大型曲物水溜 縦	大型曲物水溜 箍	大型曲物水溜 木釘	曲物 曲物	曲物 側板	曲物 底板	合計
マツ属複維管束亜属	1																																					1
スギ	24	5			1	1				4	4	69	1	1	1	1	1	1	2	1	3	1	1	4	2	4	10	14	2	2	4	18	19	4	12	1	6	2	13	239
ヒノキ	1																																				1	2
ヒノキ属	1																																					1
ヒノキ科	3																																					3
サワラ												1																										1
ネズコ																																					1	1
クリ	22	6																																				28
ケヤキ		1			17	3	4	1	1	1																												28
ブナ属	2	1																																				3
トチノキ					1																																	1
イスノキ				2																																		2
カツラ	1																																					1
キハダ		1																																				1
コナラ属コナラ亜属			1																																			1
ヌルデ		1																																				1
モクレン属	1																																					1
ヤナギ属？																																	1					1
広葉樹																																			1			1
合計	56	15	1	2	19	4	4	1	1	5	4	70	1	1	1	1	1	1	2	1	3	1	1	4	2	4	10	14	2	2	4	18	19	5	12	2	6	2	15	

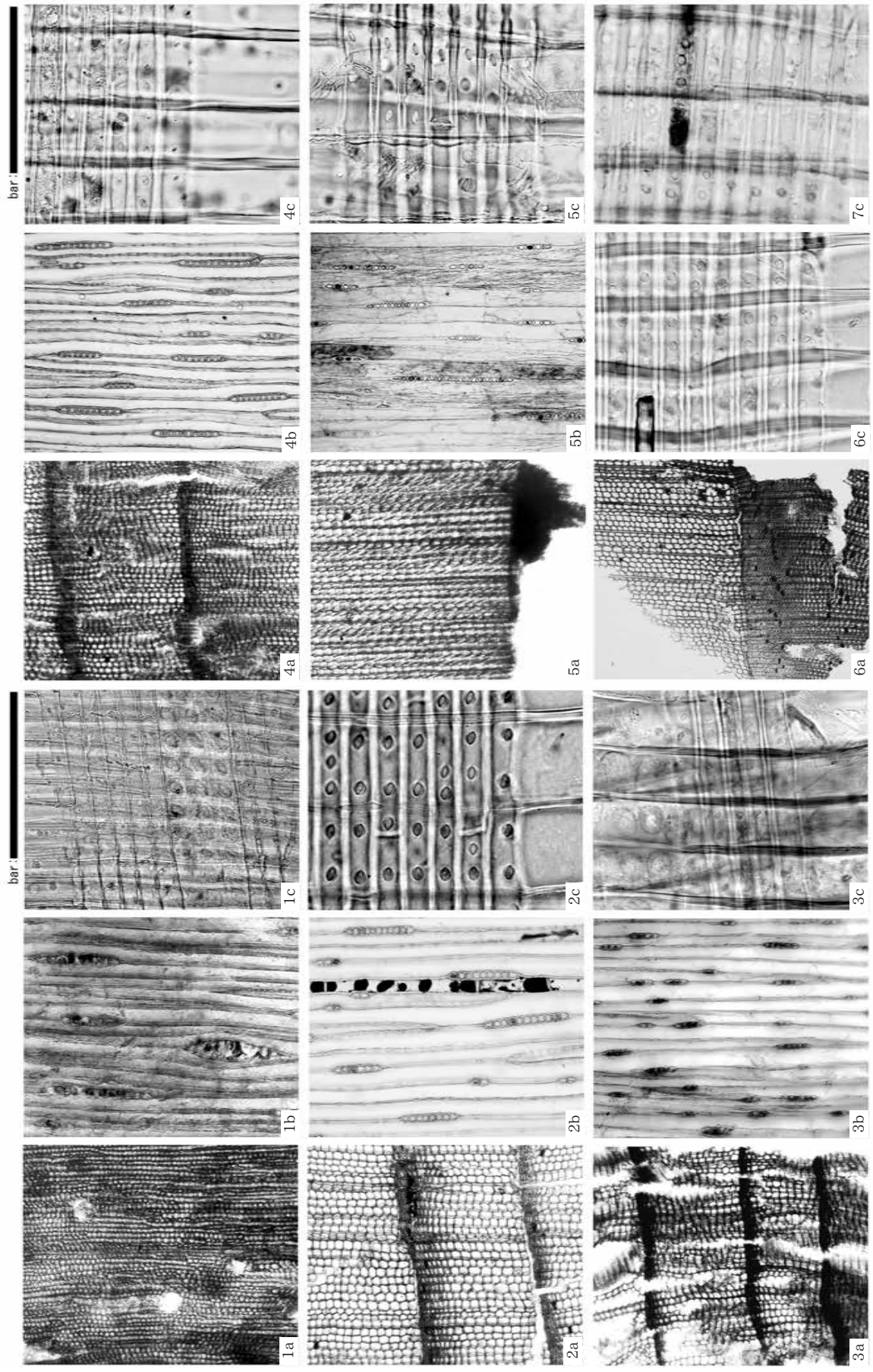
第12表　器種別の樹種

報告No.	遺構	各部位の木取り							
		箍		外側		内側		縦木	
		柾目	板目	柾目	板目	柾目	板目	柾目	板目
540	SE147-3			○			○		
541	SE168-1	○		○			○		
553	SE174-2	○		○			○	○	
569	SE227-1	○		○			○		
610	SE421-1	○		○			○		
611	SE421			○			○	○	
755	?	○		○			○		
745	SE5005	○		○			○		
報告外	?			○			○		
744	SE2080			○			○		
554	SE174-3			○		○			
664	SE911-146			○		○			○
694	SE947			○		○			
748	SE5035			○		○			
568	SE208	○				○		○	
722	SE2049		○		○		○		
735	SE2050		○		○		○		
750	SE6036		○		○		○		

第13表　大型曲物の木取り（樹種はスギ）

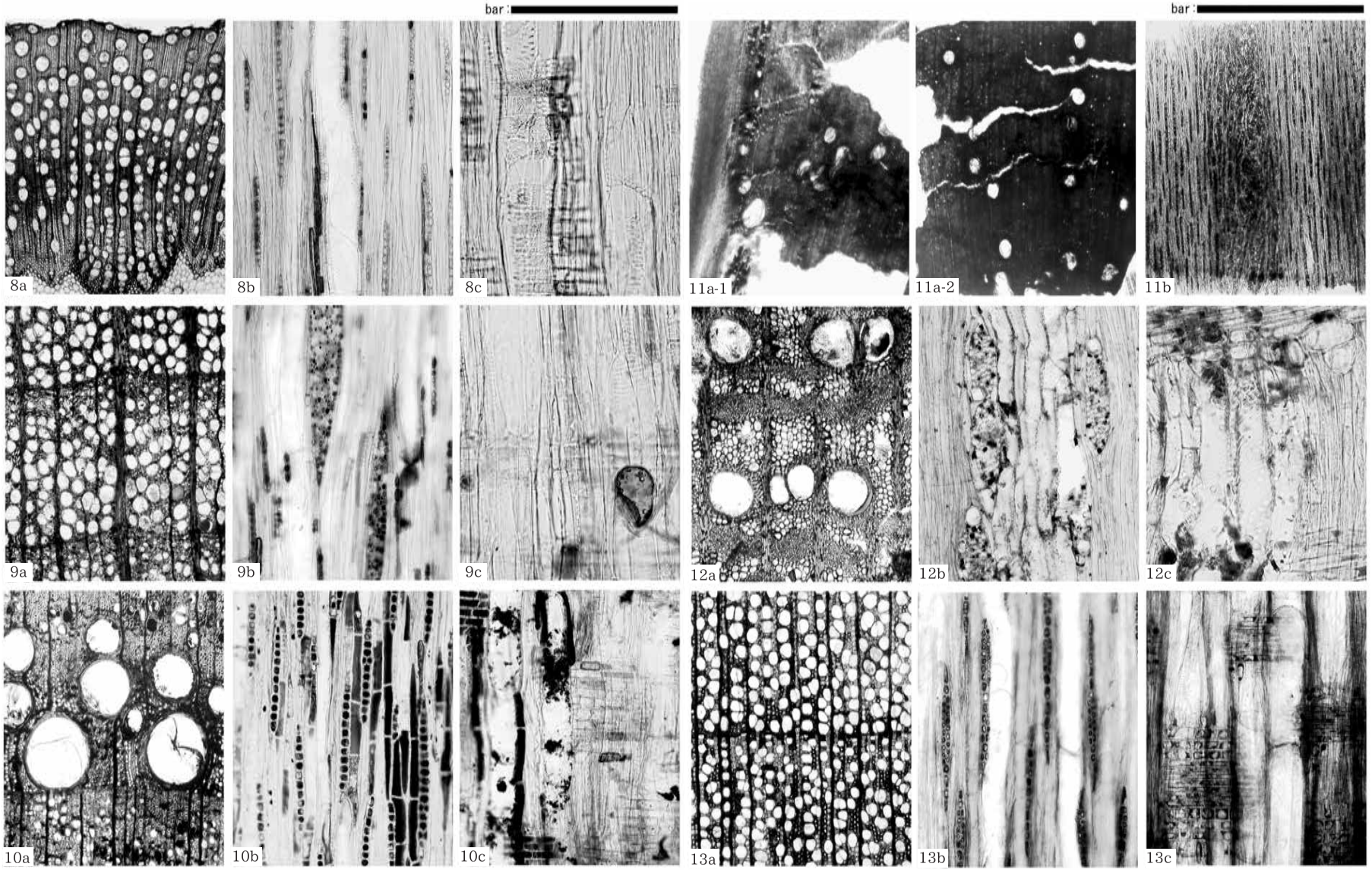
遺構 / 樹種	SB2		SB3		SB5・7		SB7		SB10		SB18		SB1	SB4	SB5	SB6	SB9	SB11	SB13	SB16	SB19	SB20	－	合計
	礎板	柱根	礎板	柱根	礎板	柱根	礎板	柱根	礎板	柱根	礎板	柱根	礎板	礎板	礎板	礎板	柱根	礎板	礎板	礎板	礎板	礎板	柱根	
スギ			1	3	2		4						3	1	7		1	4			1	1		28
クリ	1	3	3			1	2		2	1	2	1	3	2	1	1		5						28
ヒノキ											1													1
ヒノキ属															1									1
ヒノキ科													3											3
マツ属複維管束亜属																				1				1
モクレン属	1																							1
ブナ属								1										1	1					3
キハダ												1												1
ヌルデ												1												1
カツラ																							1	1
合計	2	3	4	3	2	1	6	1	2	1	3	3	9	3	9	1	1	10	1	1	1	1	1	69

第14表　各建物跡出土礎板・柱根の樹種集計



1a～1c：マツ属複維管束亜属（報告No.486）、2a～2c：スギ（報告No.671）、3a～3c：ネズコ（報告No.920）4a～4c：ヒノキ（報告No.763）、5a～5c：サワラ（報告No.546）、6a・6c：ヒノキ属（報告No.450）、7c：ヒノキ科（報告No.414）　a：横断面、b：接線断面、c：放射断面　bar：a=1.0mm、b=0.4mm：c=0.1mm
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面　bar：a=1.0mm、b=0.4mm、1c=0.2mm、2c・3c=0.1mm

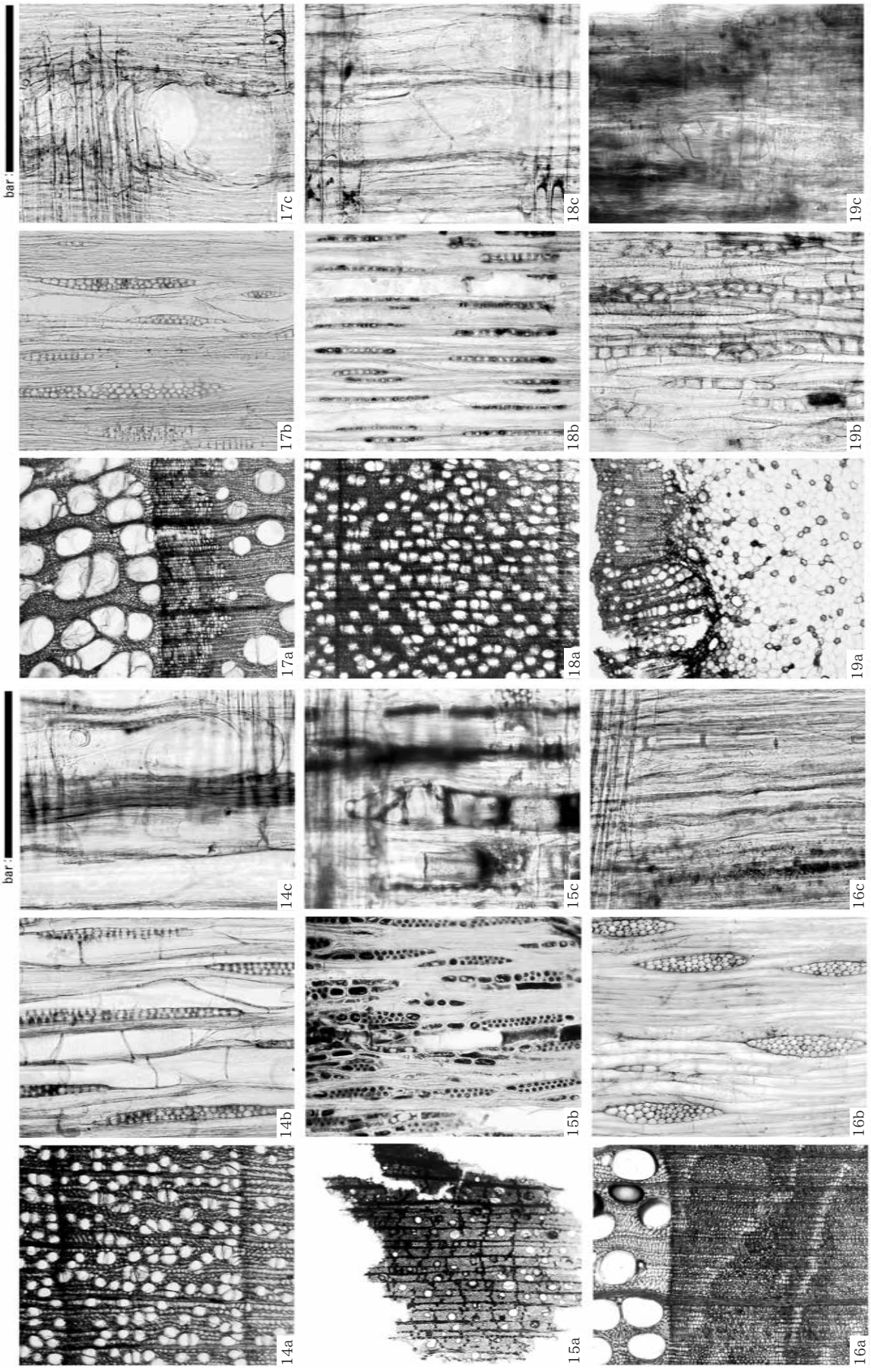
第33図　住吉遺跡出土木製品材組織の走査電子顕微鏡写真（1）



8a～8c：ヤナギ属（報告No.568）、9a～9c：ブナ属（報告No.474）、10a～10c：クリ（報告No.436）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面　bar：a=1.0mm、b・9c・10c=0.4mm、8c=0.2mm

11a-1・11a-2・11b：コナラ属コナラ亜属（報告No.552）、12a～12c：ケヤキ（報告No.747）、13a～13c：カツラ（報告No.497）　a：横断面、b：接線断面、c：放射断面　bar：a・11b=1.0mm、12b・13b・c=0.4mm

第34図　住吉遺跡出土木製品材組織の走査電子顕微鏡写真（2）



14a～14c：モクレン属（報告No.424）、15a～15c：イスノキ（報告No.778）、16a～16c：キハダ（報告No.488）　17a～17c：ヌルデ（報告No.487）、18a～18c：トチノキ（報告No.845）、19a～19c：広葉樹（報告No.554）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面　bar：a=1.0mm、b=0.4mm、c=0.2mm　bar：a=1.0mm、b=0.4mm、c=0.2mm

第35図　住吉遺跡出土木製品材組織の走査電子顕微鏡写真（3）

6　住吉遺跡出土木製品の年輪年代調査

奈良文化財研究所　光谷　拓実

住吉遺跡の発掘調査では、スギの井筒を使った井戸跡が17基発見された。この他にも、スギの木棺と思われる木製品（SD2）などが出土した。こうした出土木製品について、(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団から、年輪年代法による年代調査の申し入れがあり、調査を実施する運びとなった。

調査にあたっては、あらかじめ現地にて年代測定が可能と思われる木製品（樹種はスギ材、木取りは柾目、年輪数はおよそ100層以上）を選定し、つぎには高精細なデジタルカメラ（1100万画素）を使って、計測箇所の年輪画像を接写し、研究室に持ち帰り、コンピュータに入力後、その出力画像をもとに年輪データを計測、収集する方法を採用した。また、木棺の小口板と思われる２枚の板材（柾目板）は保存状態があまり良好ではなかったので、現地でのデジタルカメラによる撮影は断念し、研究室に搬送してもらい、年輪読取器で年輪データを収集することとした。以下に、結果についての概略を報告する。

A　試料と方法

現地で選定した木製品は、井戸に使われていた井筒を４点選定した。これ以外に、木棺を構成する部材と思われる板材（部材Ａ～Ｄ）を４点選び、年代調査を実施した。年代を割り出す基準パターンには東北地方のスギで作成した暦年標準パターン（436年～1285年）を使用することとした。コンピュータによる年輪パターン照合には、ヨーロッパの年輪年代研究者が広く使っている相関分析手法によった。

B　結　　果

井筒４点と部材４点の計測年輪数と得られた年輪年代は第15表と第36図に示したとおりである。選定した８点の計測年輪数は、部材Ａが150層と他の物に比べてやや少ないものの、いずれも年輪パターン照合の際に必要とする100層以上の年輪が計測された。

暦年標準パターンとの照合においては、部材Ｃ（t=6.1）、井筒SE911（t=7.1）、井筒SE744（t=7.0）、井筒ＳＥ421（t=5.0）がそれぞれ高いｔ値で合致し、年輪年代がそれぞれ部材Ｃ：1226年、井筒SE911：1189年、井筒SE744：1194年、井筒SE421：1113年と確定した。

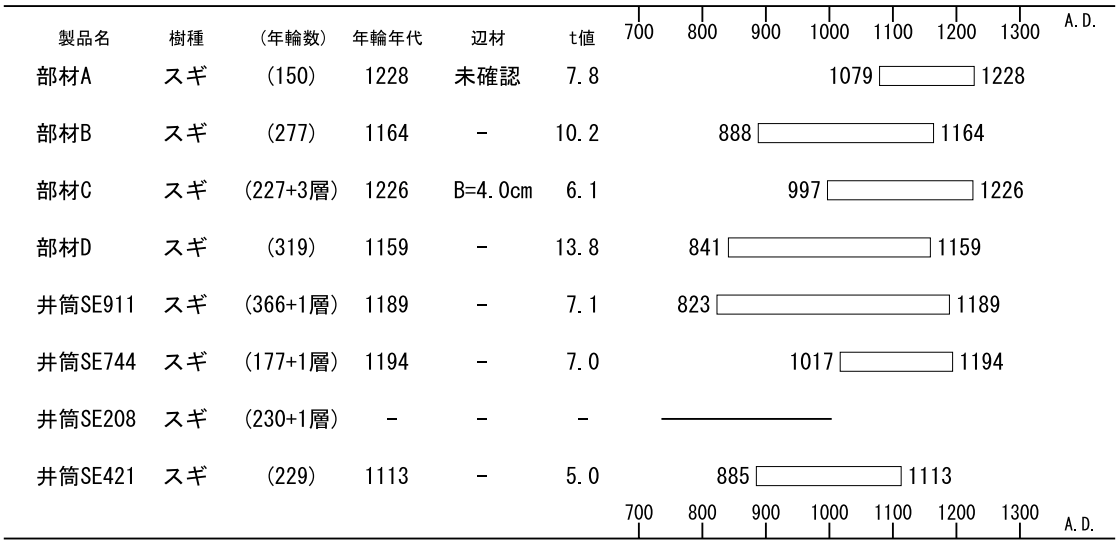
C　木棺の年輪年代

部材Ａ（856）、Ｂ（857）、Ｄ（859）の３点は、暦年標準パターンとの照合においてｔ値が5.0前後以上となるところが検出されなかったので、年輪年代を確定するにはいたらなかった。そこで、部材Ａ、Ｂ、Ｄの３点については、さきに年輪年代の確定した部材Ｃの年輪パターンデータをベースにして、それぞれ個別に年輪パターン照合を行ったところ高いｔ値（類似度）で照合が成立し、部材Ａ（t=7.8）：1228年、部材Ｂ（t=10.2）：1164年、部材Ｄ（t=13.8）：1159年とそれぞれ年輪年代が確定した。このなかで、部材Ｃ（858）の年輪パターンとの間で高いｔ値の得られた部材Ｄは、相方の年輪パターングラフを目視で詳細に確認したところ、細部にわたって酷似しており、部材Ｃと同材であることがわかった。同様に部材Ｃと部材Ａ、部材Ｂとについても相互に比較したところ、同材であることが判明した。したがって、

製品名	樹種	年輪数	年輪年代	辺材	t値	出土遺構	報告No.	備　考
部材A	スギ	150	1228	未確認	7.8（:D）	SD2	856	デジカメ写真
部材B	スギ	277	1164	-	10.2（:D）	SD2	857	デジカメ写真
部材C	スギ	227+3層	1226	B=4.0cm	6.1	SD2	858	実物
部材D	スギ	319	1159	-	13.8（:C）	SD2	859	実物
井筒	スギ	366+1層	1189	-	7.1	SE911	664	デジカメ写真
井筒	スギ	177+1層	1194	-	7.0	SE744	744	デジカメ写真
井筒	スギ	230+1層	-	-	-	SE208	568	デジカメ写真
井筒	スギ	229	1113	-	5.0	SE421	610	デジカメ写真

同材

第15表　住吉遺跡出土木製品の年輪年代



第36図　住吉遺跡出土木製品の年輪年代

木棺を構成する４点の板材は同一材から木取りされていたことがわかった。ここで、部材４点のなかで辺材が残存していたのは部材Ｃのみで、その幅は4.0cmであった。スギの平均辺材幅は4.5～5.0cmあるので、この場合かなり樹皮に近いところまで残っているものと見てよかろう。とすると、この原木の伐採年は1226年以降で、この年輪年代にかなり近い年代が推定される。さらに、部材Ａの年輪年代は部材Ｃよりさらに２年分新しい年代であることがわかった。このことは、辺材部が残っていたにもかかわらず、肉眼的にはっきりと区別できなかったものと思われるので、この部材もまた伐採年に近い年代とみてよかろう。したがって、この木棺と思われる遺構・遺物は、1228年以降のものであることが判明した。

D　井筒の年輪年代

４基の井戸に使われていた井筒のうち、SE208（568）の年輪年代は確定しなかったが、他の３基の井筒の年輪年代からみて、これまた1200年代の前半代に伐採されたスギ材を使って作られた井戸の可能性が高い。このように辺材が確認できない木製品から得られた年輪年代は、実際の伐採年よりかなり古い年代を示す。このことは原木の中心部分で木取りされたものか、あるいは原木の外周部で木取りされたものかによっても得られた年輪年代は大きく異なる。今回の調査例では、SE421（610）の井筒から得られた年輪年代1113年が他の２点の井筒の年輪年代よりかなり古い年代が出ているのは、木取りによるものなのか、あるいは外周部を大きく削り取られたために古く出たものと思われる。いずれにしても今回の調査結果からみて、住吉遺跡は1200年代の前半代から機能しはじめた遺跡であることが推察できる。

第Ⅶ章　ま　と　め

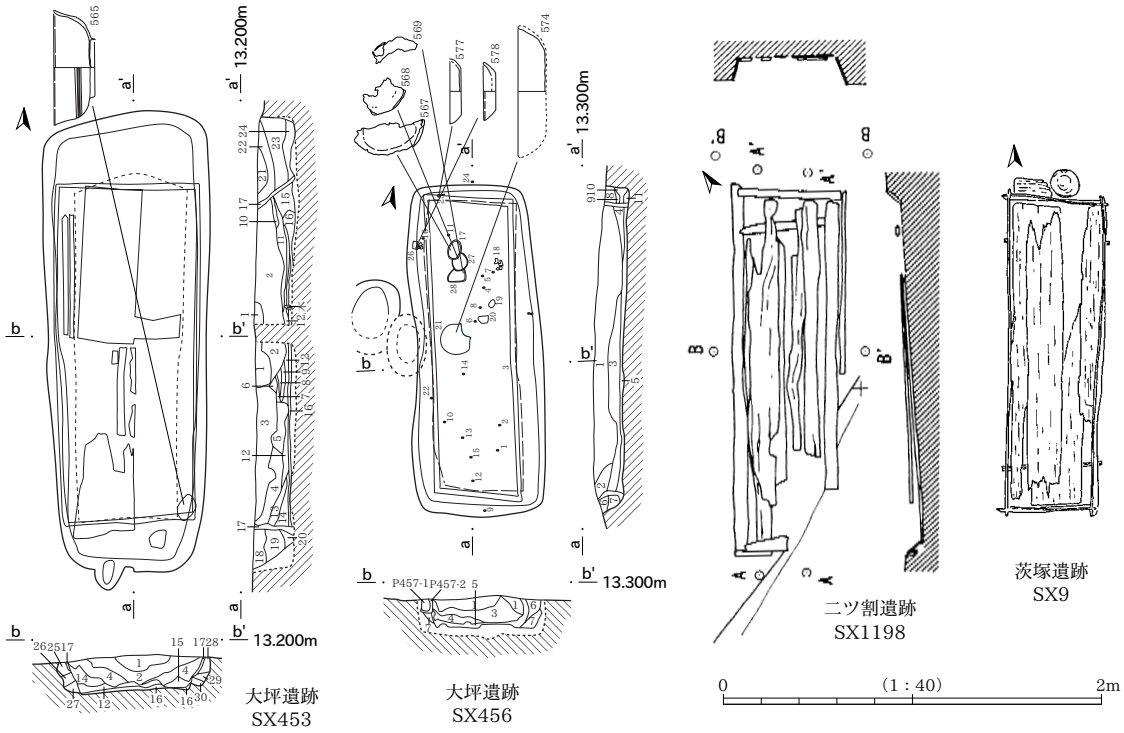
1　遺構の配置

遺構は南北に延びる自然堤防上に位置する。東西両側は低くなっており溝が南北に流れ、それに挟まれた中に遺構は整然と配置される。溝の外側には遺構は全く確認されておらず、その計画性がうかがわれる。自然堤防の幅は約60mである。その中も南北に走る溝で区画される。主要な区画溝を見ると、まず南北に走る溝SD2005からSD1012までの間が約45m、SD1012からSD1215までが約15mで東西幅は西側1に対して東側2の割合となる。南北区画はSD00からSD5018までが18m、SD5018からSD2023までが約20mと等間に近い。方形区画溝SD1203は切りあい関係からこれら区画溝より新しいことがわかる。

これら区画内を便宜的にA区からI区に分けて説明する（第38図）。A区は北側調査区外に延びるが、SD2005がやや西よりに方向を変えている。大型建物SB19・20があるが、ほかにも存在したと考えられる。周りに井戸が3基確認されている。SB20は大型の南北棟で、当遺跡での大型南北棟はこれのみである。C区は遺構がほとんどない区域である。B区の西側で意識的な空間と考えられる。D区も基本的に遺構の少ない区域。土坑が数基あるに過ぎない。やはりD区の南側で意識的な空間である。E区は最も遺構の集中している区域である。SB5～7はいずれも大型東西棟両面庇建物で、ほぼ同じ地点に建替を行っていたことがわかる。SB5・6は庇部分を含めて100m^{2}を超える。これらSB5～7を含め、当遺跡の大形建物には総柱構造は存在しない。周囲には井戸および土坑がある。SK2114は方形竪穴状土坑で、建物と同じ方位を示す。またSK2042では青磁Ⅲ類（219・220）の出土がある。これらの南側にはSB8～10がほぼ同じ地点に重複して存在する。3×3間の総柱（1棟は3×4間）である。すぐ南側には平行して目隠しと考えられる柱列がある。SB5～7とそれぞれセットとなる可能性が高い。ここの地区が当遺跡の中心部で同規模の建物が建て替えられていることは、機能の継続性を示している。すぐ西側のF区にも建物が3棟ある。建物方位はE区とほぼ同じであるが、各々建物規模・構造が異なることから、やや異なった性格がうかがえる。G区はL字状の区画で総柱の建物SB14が確認されたが、ここも柱穴が集中した地点であり、ほかにいくつか建物が重複していることは間違いない。やはり周りに井戸・土坑が多く確認されている。西側のSK5では、箸状木製品が非常に多く出土しており、祭祀の場である。近くの中住吉遺跡SK535でも類似の出土状況が見られる［宮内ほか2004］。このG区は南側調査区外に延びる。H区ではまた遺構の少ない地点である。I区は2×3間の単純な南北で占められる。井戸が数基あるが、ここもほかと異なる性格の場所であろう。

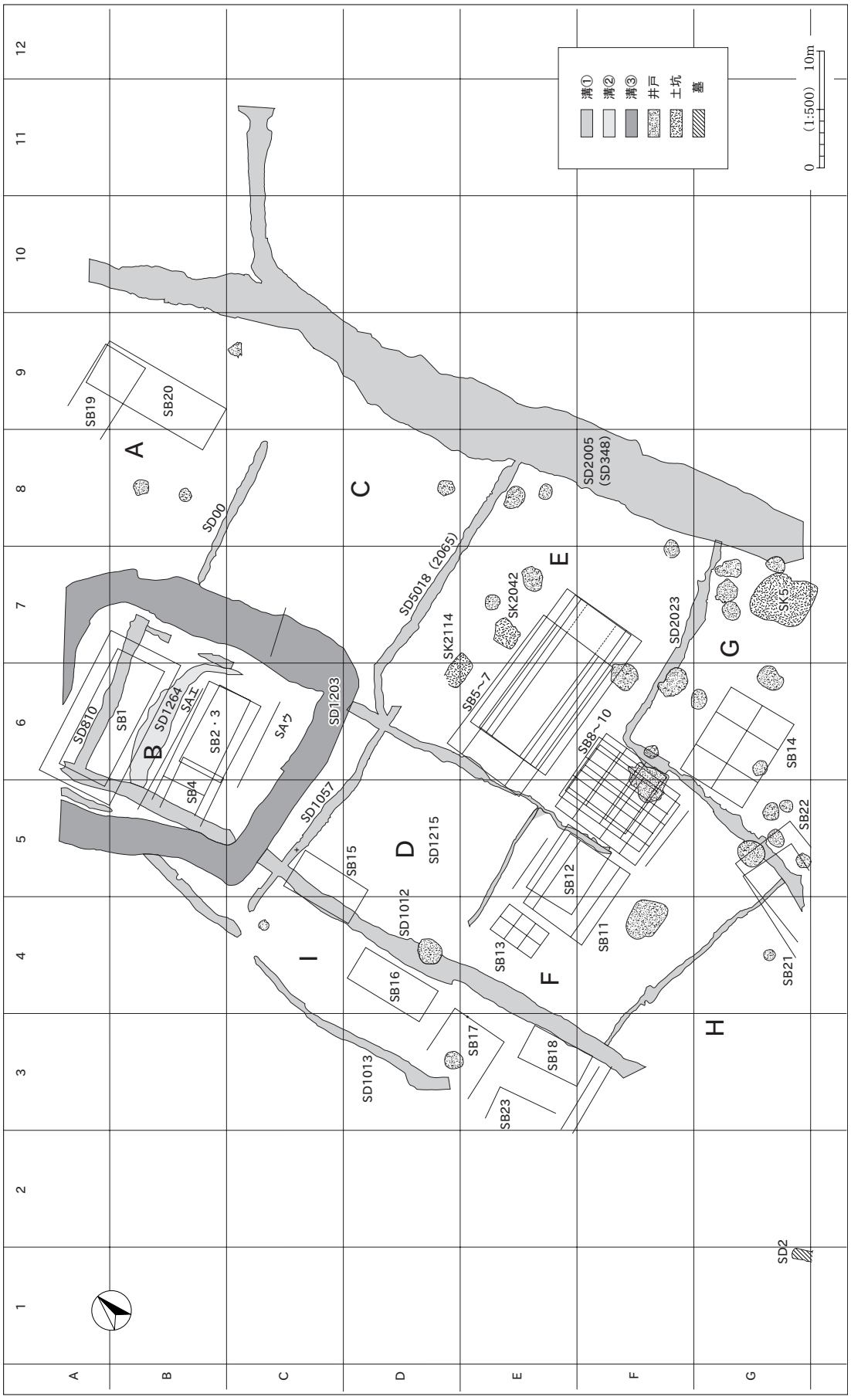
1G区のSD2であるが、調査当時はトイレ遺構と呼ばれていたものである。形態からして、墳墓・木棺であろう。方位はN17°Wで、建物方位とは合わない。木組の年輪年代は辺材の確認されたもので1228年（第Ⅵ章6）と出ており、墓自体もその年代に近いと考えて良い。出土遺物は漆椀・皿4点と膳様の板で、棺の北隅に存在した。集落に付随して存在する墓を屋敷墓といい、西日本で多い形態で、北陸方面でも確認されている［島田1994］。土葬伸展葬である。県内での類例は少なく、12世紀後半とされる阿賀野市大坪遺跡［荒川2006］に3基確認されている。ここでも副葬として住吉遺跡類似の稜を有する漆器

椀が出土している。ほかに時期は明確でないが、旧村松町茨塚遺跡［小鍛冶1999］でも類似の木枠（SX7）とその外側に漆椀が出土しており、墓の可能性が高い。また、隣の二ツ割遺跡［宮内ほか2004］でも類似の木枠（SX1198）が検出されている。集落のはずれにあり、建物の方位とは合わない。ここでは骨片の出土がある。木枠の大きさは、住吉遺跡が1.6×0.5m、茨塚遺跡が1.6×0.5m、二ツ割遺跡が1.9×0.6mでほぼ同規模である。大坪遺跡の墓が建物のすぐ脇にあるのに対して、住吉・二ツ割遺跡例は集落のはずれにあり橘田分類［橘田2004］の墓地Ⅲ類（数基の土葬墓が地目・地形の境界上に作られ、直線的に展開するが、個別の建物群との対応性が認識できないもの－12世紀後半から13世紀前半にかけて見られる）にあたるであろう。



第37図　県内の中世屋敷墓とみられる遺構

さてB区であるが、ここはSD1203で囲まれた区域で、ほかとは区別される。SD1203は当初より存在した溝でなく、当初SD1012・1215・5018・810が方形に区画していたと考えられる。このB区では4棟の建物が確認されたが、柱穴の重複関係がなく、切り合いによる前後関係を見ることはできない。遺構の配置状況から見ると区画内に最初にSB2が存在したと考えられる。その時の北側を区画する溝がSD1264である。その後に拡大する形でSB1が構築されたと思われる。このSB1は四面庇建物となる可能性の高い建物である。桁行は13.8mとSB5・6・7と同じである。総面積は92.5m^{2}と大きい。SD1203の西側がSB1を廻るように西側に曲がっているのは建物が建てられた後に溝を掘った結果であろう。このSD1203は北東隅のカーブが緩く、全体として方形区画の企画性が薄い。SB1の西側妻はSB2の妻列と同一線上であり、SB2の拡大がSB1で、西側に拡大したことをうかがわせる。SB1と同時存在したと考えられる建物は2×3間のSB3である。やはり西側妻を揃えている。SB1に対して柵列SAエ、SB3に対してSAウが対応すると考えられる。いずれも建物の南側にあり、こちらが裏側で、正面は紫雲寺潟に面した北側であったのであろう。南側の溝（SD1203）の中央部分両側にP241ほかがあり



第38図　遺構配置模式図

(図版5)、ここに渡り橋が存在した可能性がある。B区の特異性は、区画内および周囲に井戸が存在しないことにある。遺物は溝の南東側で土器がまとまって出土したが、東西両側では少ない状況にある。また、区画内からもほとんど遺物の出土は見られない。このB区でも建物の変遷があることが明らかであり、おそらく大型建物の存在するB・E区は同時存在し、各々異なった機能を有していたものと考えられる。E区は井戸土坑の存在から生活域、B区は別の機能を有していたのであろう。このように遺構配置・規模・遺物出土状況から、当遺跡は機能別に地区割され、建替により存続したことをうかがうことができる。

2 遺　　物

遺物は前述の通りであるが、土器類では、珠洲焼・輸入陶磁器・土師器・在地瓷器系陶器・美濃瀬戸・常滑である。その内訳は第16表の通りである。破片数の合計であるので多いように感じるが、個体数としては多くない。珠洲焼は各器種が揃っており、鉢類が多いのは通常の在り方である。在地瓷器系陶器産地が近い割にはほとんど入っていない。珠洲系の北沢窯も見られるが数は少ない。このことは鶴巻氏も指摘しているところである［鶴巻2005］。美濃瀬戸、常滑はそれぞれ数点に過ぎず、また瓦器は出土していない。輸入陶磁器の割合は比較的多いと考えられ、青白磁梅瓶・青磁椀Ⅲ類、青磁盤等も見られる。細かい内容は後述する。土師質土器は多く出土している。

	土師質土器	珠洲焼	在地瓷器系				美濃瀬戸	常滑	輸入陶磁器			
			赤坂山	権兵衛沢	狼沢	不明			青磁	白磁	青白磁	褐釉
甕		308（9）	24（1）	135（1）	2（1）			1（1）				
壺（蓋）		87（R）（6）								45	3	
		517（T）（12）										
梅瓶											82	
小壺等										6		
鉢・片口鉢		314（30前後）				5（1）						
水注・水瓶		38（4）									1	
椀							20（2）		240	19		
小椀									13	2	2	
皿	1475									41		
杯									21			
大杯									2			
盤									40			
合子（蓋）										8	3	1
卸皿							8（2）					
入子							10（3）					
合計	1475(237以上)	1264(61以上)	24（1）	135（1）	2（1）	5（1）	36（7）	1（1）	316	121	91	

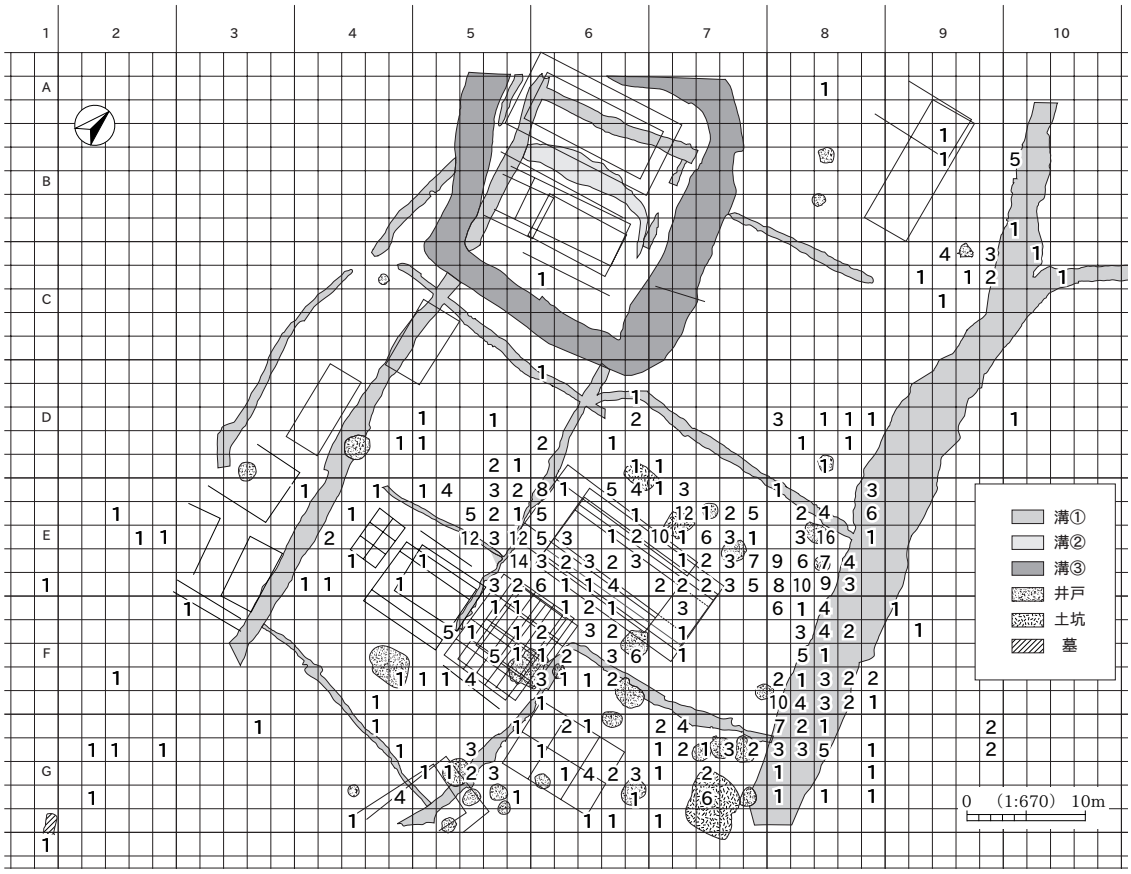
第16表　土器集計表（破片数）　　（　）内はおよその個体数

A　中世土師器

中世土師器は当遺跡でも多くの出土を見ている。伴出する珠洲焼は珠洲Ⅰ期～Ⅳ期でⅡ・Ⅲ期が中心となることから、およそ13世紀を中心とした時代で、13世紀初頭から14世紀前半にほぼ収まることは間違いない。中世土師器の分類の基本はその製作技法であり、今回もそれにしたがった。ロクロ成形ヘラ切りをA類、ロクロ成形糸切りをB類、手づくねをC類とした。集計は第17表のとおりである。この表の総点数は底部および口縁部（細片は除く）破片の合計である。そのうちの底部切り離し観察可能点数がA・B・Cそれぞれの数字である。全体では総数1,475点のうち1,159点について観察できた。それによると1,159点のうちなんと86％にあたる994点がヘラ切りであった。それに対して糸切りは11％、手づくねは4％である。同じ阿賀北地域の奥山荘では手づくねが主体であるのと全くの対称をなしている

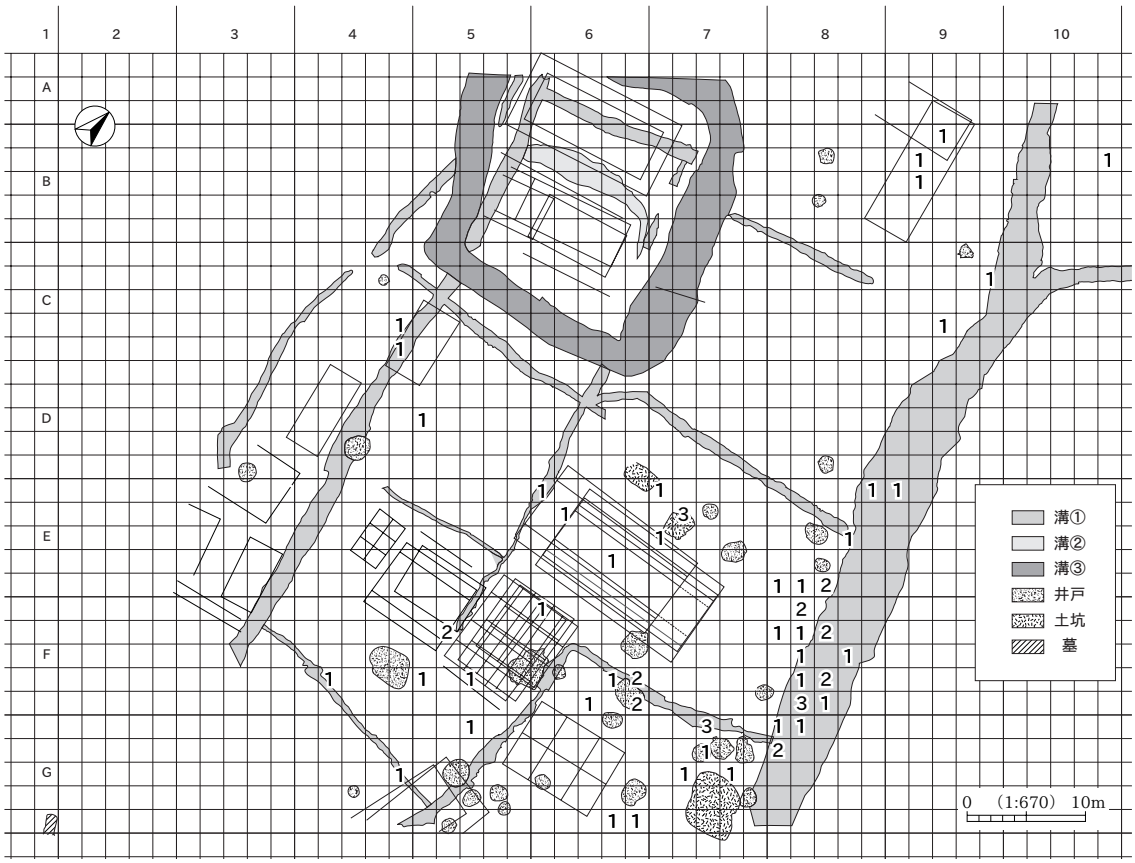
ことは興味深い。ヘラ切り技法の分布範囲は狭く阿賀北地方に限られ、その特異性がうかがわれる。このことについては、鶴巻［2003・2004］にすぐれた論考がある。他県内中世土師器の論考には［品田1999］、［水澤2005c］等がある。

出土地点を見ると、大きな溝がほとんどで、土坑や井戸での一括出土は認められない。溝以外の出土分布を見ると、各類ともに大型建物の存在するＥ～Ｇ区に多いことがわかる。小型南北棟建物の存在するＩ区では少ない。大きな溝で囲まれたＢ区では全く出土がない。このように建物群が存在する地域でも出土に偏りがあり、建物群の性格が各々異なっていたことがうかがわれる。全体としては約２／３が包含層出土で、１／３が遺構出土である。このことは、祭祀等による多量の一括使用・廃棄が少なく、日常生活による使用がより多かったことを示すのであろう。

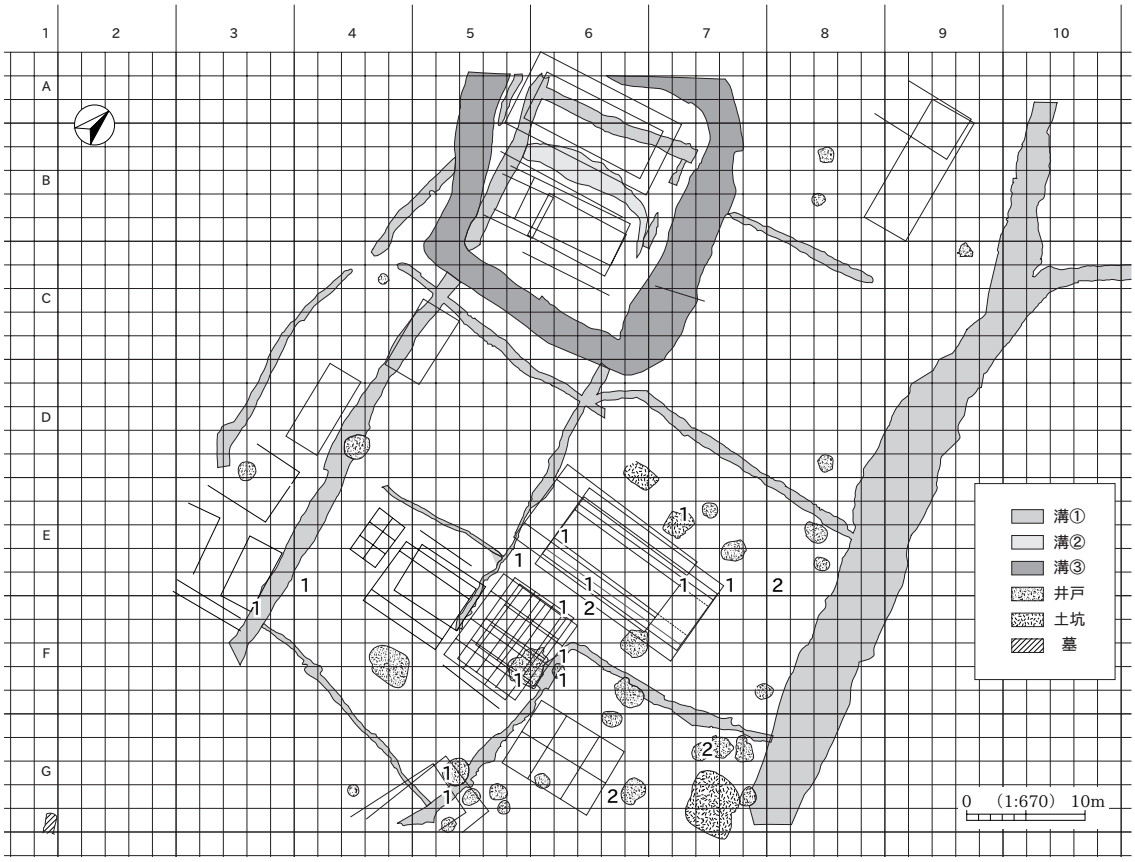


第39図　土師質土器Ａ類分布図（溝を除く）　（破片数）

ここでは、切り合い関係が明瞭な溝出土土器を中心にその変遷を検討したい。検討する溝は、SD2005～2007・1203、SK2042である。SD2005が一番古くから存在する溝で、この溝の埋没後にSD2007が出現するが、両溝の覆土は類似性が高く、SD2005とSD2007の時間差はそうないと判断される。SD2006はSD2007より新しい溝で、覆土にも違いが認められる。SD1203は大きな方形区画溝で、切り合うほかの溝より新しいが前述のSD2005～2007との新旧は明確でない。なお、SD2005については、地点によりSD2006・2007を峻別できずにSD2005として遺物を取り上げた地点があるため、その範囲は除外して検討する。伴出した珠洲焼きはSD2005がⅡ～Ⅲ期、SD2007がⅡ期、SD2006がⅣ期である。SD1203はⅡ期および赤坂窯で13世紀後半である。SD2005では小皿はＡＩｃ類が多く、Ｂ・Ｃ類も認め



土師質土器Ｂ類



土師質土器Ｃ類

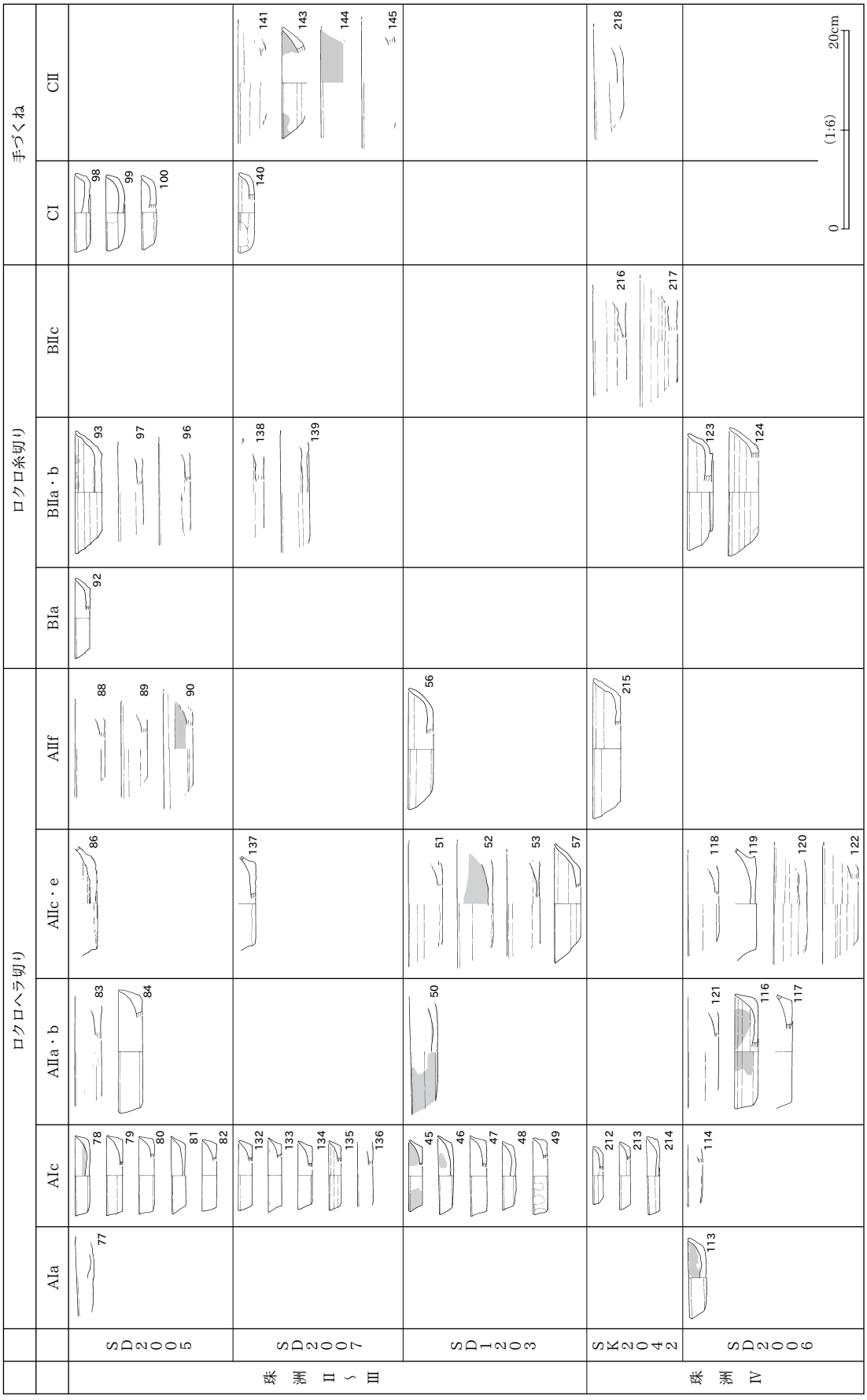
第40図　土師質土器Ｂ・Ｃ類分布図（溝を除く）　　（破片数）

	総点数	残存率（　/36）		底部切り離し		
		口縁部	底部	A	B	C
SD38	3	7	3			
SD67	1	6	1		1	
SD71	17	45	130	8		2
SD312	3	7	43	3		
SD166	1	5				
SD172	1	22	21		1	
SD244	1		4	1		
SD336	2	6	42	2		
SD61	15	80	165	8	4	1
SD62	13	46	73	6	1	
SD234	3	3				
SD306	1	18	36	1		
SD337	1		11			
SD348	52	191	319	25	9	6
SD516	6	10	52	6		
SD1165	3	16	10	1		
SD2005	46	107	209	19	6	
SD2006	26	55	166	17	1	
SD2022	2	11	9	1		
SD2023	4	15	4	1		
SD2065	2	5	12	1	1	
SD1203	43	179	368	37	2	
SD2056	1	3	3			
SD2103	1		12	1		
SD5001	7	13	21	3		
SD5017	3	19	34	3		
SD5019	1	4				
SD2007	22	20	141	17	3	1
SD1012	8	64	76		3	2
SK5	6	38	59	5		1
SK235	1	3	5		1	
SK280	1	4				
SK308	1	12	36	1		
SK330	1	6				
SK342	1	5		1		
SK6	2	10				
SK7	2	3	5	1		
SK56	1	11	14	1		
SK63	1		7		1	
SK74	1	2	6	1		
SK82	1	4				
SK105	1	4				
SK133	1	6	8			1
SK210	3	2	17	1	1	
SK263	1	2				
SK2007	1	28	27		1	
SK469	1		10	1		
SK518	3	13	19	3		
SK938	2	12	6	1		1
SK956	1	4	4	1		
SK1030	1	4	10		1	
SK1035	1	6	3	1		
SK1072	2		15	2		
SK1075	1	8	7	1		
SK2014	1		10	1		
SK2015	4	18	52	4		

	総点数	残存率（　/36）		底部切り離し		
		口縁部	底部	A	B	C
SK2025	3	7	14	2		
SK2032	1	2				
SK2038	5	11	40	5		
SK2039	4	16	41	4		
SK2040	2	19	16		1	
SK2042	12	77	79	6	2	1
SK2043	5	18	22	2		1
SK2044	4	21	44	1	3	
SK2047	1	4	4	1		
SK2055	4	3	29	3		
SK2059	3	26	27	2		
SK2060	1	13	13	1		
SK2061	1	30	30		1	
SK2070	1		10	1		
SK2071	1		5	1		
SK2082	1	3				
SK2101	6	8	36	5		
SK2102	3	2	19	2		
SK2114	1	3				
SK5027	1	8	15	1		
SK6023	1	14	11		1	
SK6037	4	3	5	3		
SK6039	2		14	1	1	
SK6040	2		7	2		
SE168	2	12	15			2
不明	2		56	2		
SE2022	5	9	31	4	1	
SE2049	7	14	20	2		
SE2050	3	6	10	2		
SE24	1	19	36	1		
7EP2	1		9	1		
8FP6	1	4	4			
5EP24	2	5	16	2		
6EP29	1	7	6	1		
9BP52	1		6		1	
9BP55	1	3				
9BP80	1	3				
5EP86	1		4	1		
5EP101	1	10	13	1		
6EP115	1	6	8	1		
6EP127	1	6	7	1		
6EP135	1		6	1		
9CP200	1		6	1		
P231	1		11	1		
P270	1	7	6	1		
P284	1		12	1		
P445	1		18		1	
P532	1	3	2	1		
P573	1	6	12		1	
P724	1	4				
P1070	1		6	1		
P440	1		15	1		
遺構合計	444	1,574(44)	3,101(86)	257	50	19
包含層	1,031	1,585(44)	5,414(151)	737	74	22
総計	1,475	3,159(88)	8,515(237)	994	124	41

（ ）残存率による個体数

第17表　土師質土器集計表（破片数）



第41図　土師質土器皿編年案

られる。皿ではAⅡf類が主体で、AⅡa類が少し認められるがⅡc・e類は明確でない。B類ではⅡa・b類とも認められる。次のSD2007では、小皿はAⅠc類が多く、C類もある。皿はBⅡb・CⅡ類があり、A類はほとんどない。SD2006では、小皿ではA・C類があり、皿ではAⅡa・b・c・e類で占め、Ⅱf類がほとんど認められなくなる。B類ではⅡa・b類ともにある。SD1203では、小皿はすべてAⅠc類、皿ではAⅡb・c・e類が多くⅡf類が少ないことがわかる。これらのことから次のような傾向をつかむことができる。

① 各段階ともA・B・C類が継続するが、A類が圧倒的に多く、C類は減少傾向が認められる。

② 小皿については、各類ともに変化の傾向をつかむことができない。

③ 皿B類はⅡa・bともに認められるが、Ⅱc類がない。BⅡc類は、SK2042で青磁椀Ⅲ類、白磁Ⅸ類と伴って出土しており、より新しい傾向と言える。このⅡc類は深みがあり、口縁の開きが大きいものである。

④ 皿A類についてはⅡa・b類（小皿の相似形）は各段階に認められる。Ⅱf類は存続するものの少なくなる傾向にあり、かわってⅡc・e類が増加する。

⑤ 全体傾向としては、体部は丸みのあるものから直線的に開くものに変化する。

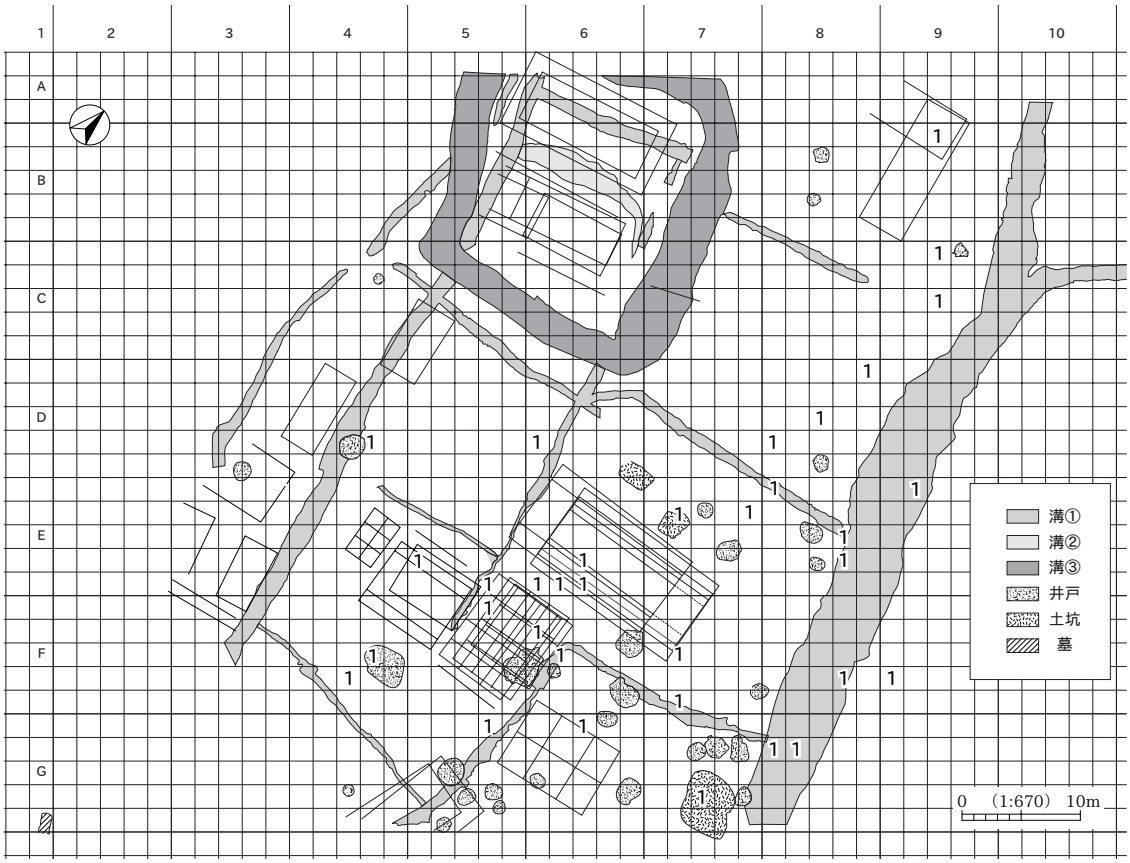
住吉遺跡においては、このような傾向をつかむことができるが、中世土師器は地域色の非常に強いものであり、この傾向がどの範囲に通用するかはわからない。この中でAⅡc・e類は新しい傾向としたが、胎内市下町坊城遺跡では、珠洲Ⅱ期と共伴しており、13世紀初頭としている。しかし、近くの中住吉・二ツ割遺跡でも認められ、新発田城第8地点堀2・3［鶴巻ほか1997a］、水原城館址［川上1977］、小島西遺跡［川上1984］にもある。いずれも14～15世紀前半とされる範囲にあり、器形としては新しい傾向を示すものである。

さて、これら分類したものが年代的にどうかといえば、なかなか困難である。珠洲焼Ⅱ・Ⅲ期が主体的であることから、土師器も13世紀初頭から存在したと見て良い。SD2005は古い溝であり、この中のAⅡf類に13世紀初めまで溯るものがあるであろう。

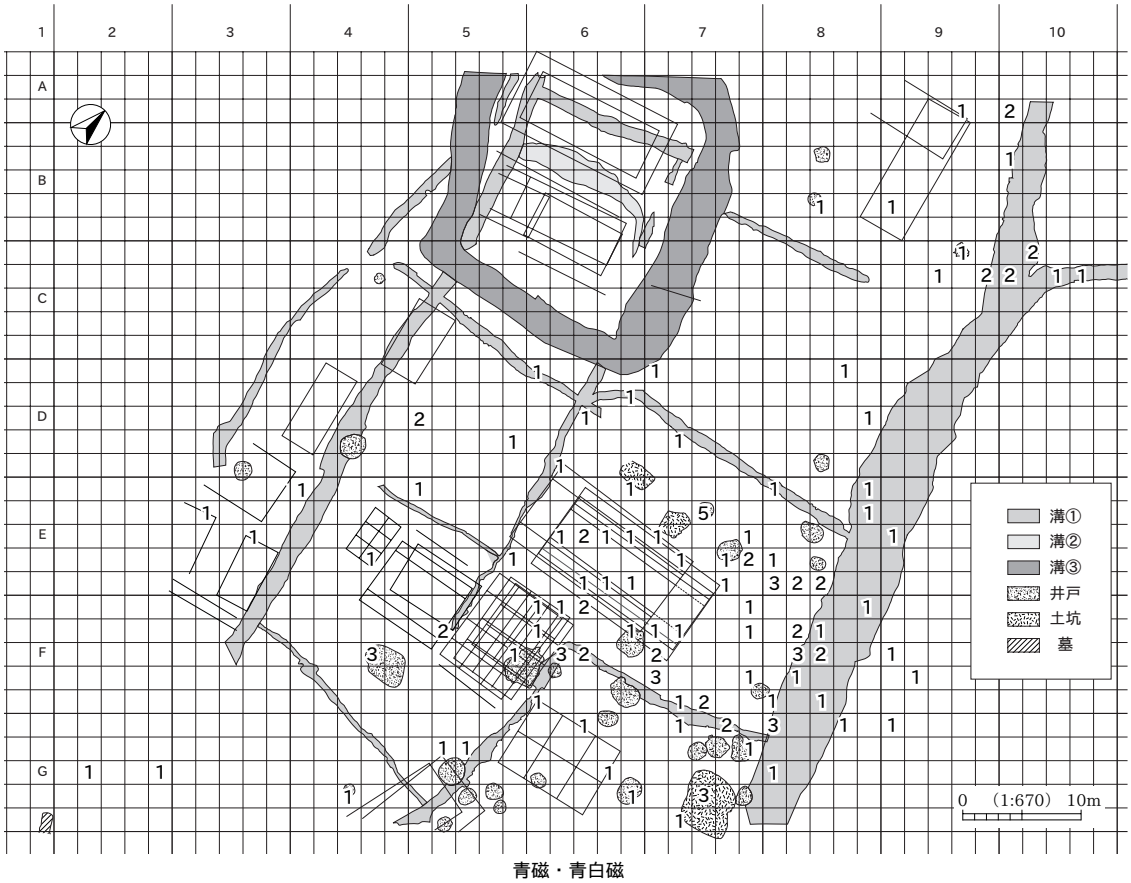
AⅠ類、AⅡa・b類は関東地方に共通性の高いものである。また、A・B・C種ともに器形には共通性が強い。小皿ではAⅠa類・BⅠa類・CⅠb類、皿ではAⅡf類・BⅡb類・CⅡa類である。特にA・B類は同じロクロ成形であるため、図だけでは判断がつかない。ロクロ土師器は関東を中心として東日本の太平洋岸に分布する。中世前期におけるロクロ土師器の器形は関東に近い。特に小皿の共通性が高い。ヘラ切り土師器について、器形の特徴は手づくね等の別系統の土器製作の影響を受けて出現した［鶴巻2004］とされるが、同じロクロ土師器で器形の類似性は、関東地方の土器が強いように思える。ヘラ切り技法がどのように採用されたのかは依然として不明であるが、13世紀初頭においてすでに存在したことは明らかであろう。この時期の土師器皿類は、漆器製品とも器形の類似性が指摘されており［鶴巻1992］、ヘラ切り技法は同じくロクロを使用する木地師集団の技法と関連があるのかも知れない。

B　輸入陶磁器

当遺跡においては、輸入陶磁器が多いことも特徴の1つである。総点数で529点を数える。内訳は、白磁121点、青磁316点、青白磁91点である。同一個体が多く存在することから、個体数は数分の一ということになる。出土分布を見ると白磁・青磁・青白磁ともに同じような分布を示す。大型建物の存在するE区周辺に分布することがわかる。ただし、SD1203で囲まれた内側（SB1～4）では、全く出土が無い。陶磁器の年代的には山本分類［山本2000］のC期～F期（12世紀～14世紀前半）までである。まず、



白磁



青磁・青白磁

第42図　輸入陶磁器分布図（溝を除く）　　（破片数）

白磁では四耳壺が１個体ある。椀は数が少なくＣからＦ期で18点、最も多いのが皿のⅨ類、いわゆる口禿である。このほか、特徴的なのは小壺等Ｘ類が６点見られるということである。一般的にはあまり出土しないものであり、特にこの類の出土は鎌倉との類似が指摘できる。

青磁では、椀Ⅱ類が圧倒的に多いが、高級品とされるⅢ類もかなり出土しており、遺跡の性格がうかがわれる。31の大型盤は一般集落では出土しない。青白磁では梅瓶が３個体以上出土している。また、小椀・合子、瓶、水注把手等も数点ある。

このように、輸入陶磁器類は当時の器種が揃っており、その在り方は鎌倉と変わらないという指摘を手塚直樹氏から受けた（平成11年）。なお、中住吉遺跡・二ツ割遺跡も同じような在り方を示す。

種別	産地	器種		分類	点数	時期
白磁		壺類	四耳壺	Ⅲ	42	C～D
				Ⅲ	3	
		椀		Ⅳ	1	C
				Ⅴ	3	D
				Ⅸ	4	F
				Ⅹ	10	F
			（福建）		1	
		皿		Ⅷ	2	D
				Ⅸ	39	F
		小椀			2	
		合子・合子蓋等			8	
		その他小壺等		Ⅹ	6	F
		小計			121	
青磁	同安窯	椀		Ⅰ	4	D
	龍泉窯	椀		Ⅰor Ⅱ	14	D
				Ⅱa	3	E
				Ⅱb	167	E
				Ⅱc	14	
				Ⅲ	34	F
				Ⅳ？	1	G
					3	
		小椀		Ⅲ	13	F
		杯		Ⅲ	20	F
		杯？			1	
		大杯		Ⅲ	2	F
		盤		Ⅲ	40	F
		小計			316	
青白磁		梅瓶			81	
		小椀			2	
		合子・合子蓋			3	
		壺蓋			3	
		瓶			1	
		水注把手			1	
		小計			91	
褐釉		合子蓋			1	
		総　計			529	

第18表　輸入陶磁器集計表

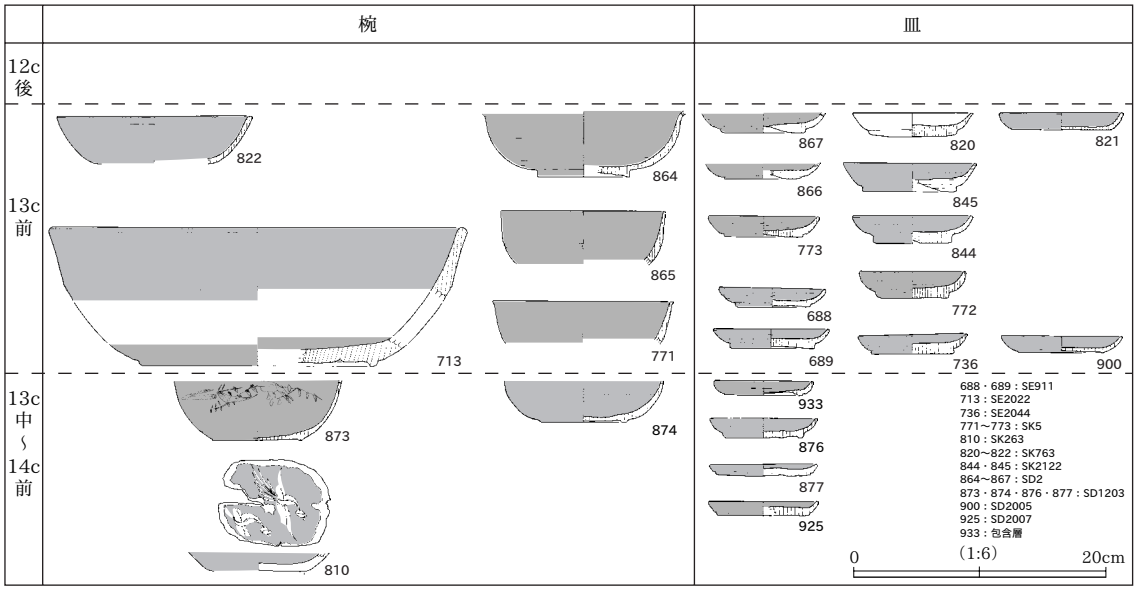
Ｃ　木　製　品

1）漆　　器

多くの漆器が出土しているが、製品のみで製作途中の白木・漆道具は出土していない。したがって、当遺跡で製作は行われていなかったと考えられる。

さて、主なものは第43図に示したが、年代のメルクマールとなるのはSD2出土のものである。ここの木組板材の年輪年代が1228年であることから、864・865・866・867の４点は、13世紀前半に位置づけることができる。864・865はいずれも椀で、体部に稜を有する。高台部は厚く、輪高台となる。864では口縁がやや外反する。類似の形態は、12世紀後半とされる阿賀野市大坪遺跡出土がある［荒川2006］。ここの椀は、口縁がやや外反し、やはり体部に稜を持つ。また、下町坊城遺跡［水澤2001］でも見られる。したがって、12世紀から継続する形態であることがわかる。ただし大坪出土より稜位置が高くなっていることに違いがある。同様に稜を持つものに771がある。713にも稜があるが大型である。類似の形態であるが、高台部が低く、輪高台部分がやや内側を向き、新しい傾向を示す。822の椀は口縁の開きが大きいが、SK763では珠洲Ⅰ期の可能性のある壺が出土しており、古い可能性がある。赤漆による文様を持つ873・810では、873が底部薄く、輪高台も内側を向いている。873はSD1203の出土で13世紀後半に考えられる。同じSD1203の874も同様であろう。

皿では、866・867を基準にすれば、773も同時期といえる。これらと同形態で、より高台部が高いのが、844・772・736・689・845・820である。この形態は12世紀後半とされ［水澤1997；春日2001］るが、13世紀まで継続することがわかる。689はSE911で珠洲Ⅰ・Ⅱ期と伴う。820はSK763でやはり珠洲Ⅰ期の可能性が高い。高台部がより低くなる688も13世紀前半になろう。高台のつかない925・877・821は体部に丸みを持つが、このうち821はSK763出土で13世紀前半まで遡る可能性がある。925・877は後半であろうか。



第43図　漆器編年案

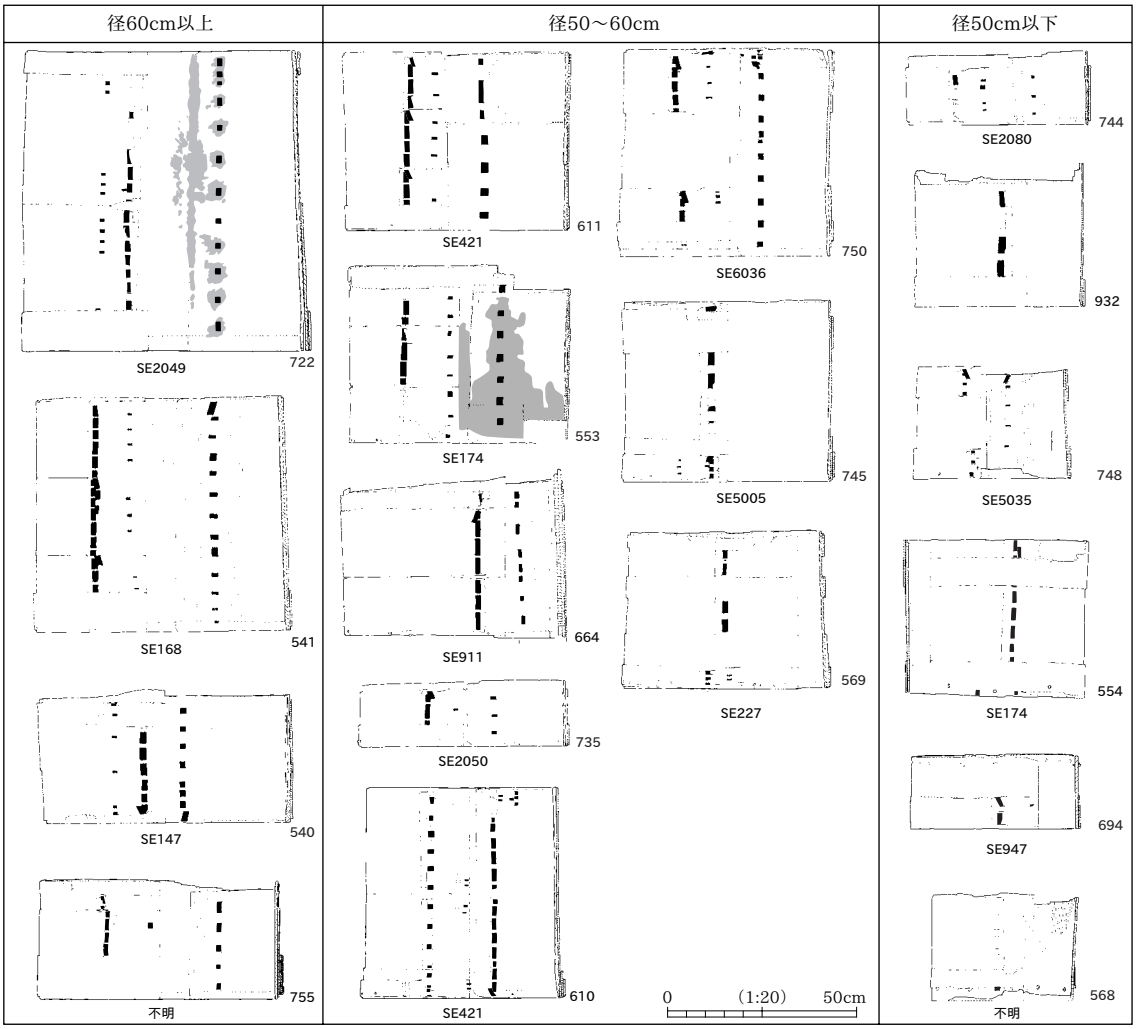
形態から大きく傾向をつかんだが、第43図のように、椀で稜を持つものは13世紀前半～中葉に、赤漆文様を持つものは13世紀後半から14世紀前半に位置づけることができよう。皿では、厚い高台を持つものが13世紀前半～中葉にくると考えられる。

2）曲　　物

木製品のうち井戸の水溜に利用された曲物は26を数える。口径を基準にすると、径60cmを超えるもの（大型）、径50～60cm（中型）、径50cm以下（小型）に分類できる。一番大きいものは722で径75.5cmを測る。形状は底部がやや大きく、上部がすぼまる形をとる。高さ78.3cmで側板は二重構造で内側は板目の1枚板、外側は柾目の板2枚を用いている。2枚の板の接続部がY字状になっているのが特徴で、610が全く同じ形態である。同一生産地と考えられる。上下両端には、箍がつけられる。底部内側がそがれているのも特徴である。大型品はほぼ同じ形態をとるが、671では外側側板が3枚構成となっている。中型品もほぼ同じ構成であるが、外側側板が3枚構成のもの（611・553・664）と2枚構成のもの（610）、1枚構成のもの（750・745・569）とがある。箍は下のみのもの、上下2か所のもの、中央を加えた3か所のものがあり、一部下が2重となるもの（610・750・569）もある。小型品の側板はすべて一重構造である。554・694・568では下部に比較的大きな穴が穿たれている。歪みが出ないように車輪状に棒をさしたものと考えられる。底部に釘穴痕跡のない大型品・中型品の多くは、もともと井戸専用として作られたものであろう。逆に通常の曲物は5点、底板で18点と少ない。廃棄後燃料として利用された可能性もあり、実数を反映しているとは限らない。

井戸の水溜に利用された曲物のうち4点（664・744・568・610）は、年輪年代測定を実施している（第Ⅵ章6）。いずれも辺材部分が確認できなかったため、確実性は低いが、664で1189年、744で1194年の年代が出ていることから、およそ13世紀前半代の伐採が考えられる。

そのほかの木製品では、箸状木製品が592点と目立つ。このうち255点がSK5出土であり、この遺構の祭祀性がうかがわれる。祭祀遺物としては、斎串と考えられる物（730）、鳥形（798）、舟形（737）等がある。農具として柄振、漁具として網針の可能性のあるもの等がある。



第44図　曲物

D　金属製品・石製品

大型の和釘は舟釘と考えられる。井戸枠に転用された丸木舟もあることから、舟の利用が当然考えられる。工具として鎌・斧がある。斧（355）は側面形態が、神奈川県佐助ヶ谷遺跡出土［斎木ほか1993］に類似する。形態から横斧で、曲木斧柄の先端を斧身袋部に装着した構造（袋式）［渡邉2004］であろう。365は釘穴が多数あることから、扉や家具等の飾り金具と考えられ、366は引戸等の把手と思われる。類似の製品は今小路西遺跡［鎌倉市教育委員会1990］北谷３面や一乗谷朝倉遺跡第29次調査［福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館1995］でも出土している。家具類の少ない中世での出土は多くない。また、製品名は不明であるが、銅製品もいくつか認められる。石製品はほとんどが砥石で、流通品が多く天草産と考えられる中砥石が４点、仕上げ砥石では鳴滝産が14点確認されている。そのほかの砥石の明確な産地は不明である。その在り方は周辺の中世遺跡と共通する。

E　種　実　類

第19表のように多くの種実が出土している。圧倒的に多いのが炭化米およびウリ類である。出土地点は土坑・井戸が圧倒的に多いが、大量に出土した遺構はない。そのほか、モモ・ヒョウタン・ソバ・カ

遺構	層位	遺物種類										
		ウリ	炭化物	トチ	米	モモ	ヒョウタン	クルミ	ソバ	カヤ	カボチャ	不明
SD1013	底部	2,000										
SD1203	6	30,000			55		1					
SD1251		3,435			50							
SD2005	覆土			1		4		1				
SD2006						1		2		1		
SD2007				1				2				
SD2023	覆土					1						
SD348				1		1		3				
SD5016						1						
SD516				1		6						1
SD71	Ⅰ							1				
SD811		366										
SE1252		135			8							
SE2022		20			102	13		1		15		
SE2026		52			500	5		2		4		
SE2036					1,000						3	
SE2044		5			232			1		1	1	
SE2049		156			552	5	1	2		1		
SE2050					196			1			2	
SE2066		62			176		4					
SE5005		6			100							
SE5007		2			2,000							
SE6036	覆土				22							
SE755				1								
SE910				5								
SK174					5,000							
SK2011					3,000							
SK2042		1			32			1				
SK2101					21							
SK2114		10			3,177	1						
SK2121		1			90						2	
SK25					114							
SK28	2				12,000							
SK29	1				8,851							
SK30	2				809							
SK34	2				6,000							
SK5		2,567		6	898	5	5					
SK5009	井戸1	1		1	10							
SK5027								1				
SK6021					1,514			1				
SK6022								1				
SK6039						1						
SK636		24			8,000							
SK7								1				
SK763									64			
SK78	1	35										
SK956	1					1						
4F P18						1						
5E P15	覆土					1						
5F P23	覆土					1						
5F P44						1						
6E P15			1		5,000	1					1	
6E P84						1		1				
6F P29	覆土			3								
P1159	1	2			1,000							
P1160	1	1			250							
P1161	1				80							
P1168					1,000							
P804	2		2									
P805	最下				53							
包含層・不明		1,500			21,100	5		3				12
合　計		40,381	3	20	82,992	56	11	25	64	22	9	13

第19表　種実一覧（点数）

ヤ・カボチャ等があるが、トチノキ・クルミといった前時代貯蔵種が少ないのも特徴である。

3　遺跡の性格

住吉遺跡は、掘立柱建物の規模や井戸の在り方、出土遺物からある程度の階層の人の居住地と考えられるが、どの程度の階層であったであろうか。当該期の文献からみると、まず在地領主的存在がある。この地域を支配していたのは地頭である。文献で見てきたように関東の御家人である。地頭がどの程度の範囲を統括していたかは明確でないが、村を単位として数か村～十か村（県史番号1233）である。佐々木加地顕信和与状写（県史番号1775）では、「越後国加地庄古河条内中村地頭為道信」「越後国加地庄古河条内洲崎地頭源顕信」とあり、１つの条内でも複数の地頭の支配がうかがわれる。地頭は地域の権力者であり、政治経済的にも地域を治めていたことから、その居住地はかなりの規模が予想される。胎内市下町坊城遺跡はこの地頭の居館とされる［水澤2005a・b］。報告によれば当遺跡は12世紀から16世紀まで存続した遺跡で、総柱建物やＬ字状に回廊を持つ建物等70～90m^{2}以上の規模の大きい建物が存在する。これら大規模な建物が現れるのはⅡ期（13世紀中葉～14世紀中葉）とされる時期であり、この段階では周りに区画溝を有する。南北60m、東西70～80mの4,500m^{2}前後の規模である。この溝はいわゆる堀と土塁を持つ方形居館の堀とは規模が異なり、小さい。また井戸では石組側も存在する。遺物では多くの輸入陶磁器があり、とりわけ高級品とされる青磁Ⅲ類、青白磁梅瓶等が特徴的である。また滑石製石鍋、山茶椀、瓦質擂鉢等の存在も有力者にふさわしい。注目されるのは土師質土器皿が関東系（ロクロ仕上げ）でなく京都系（手づくね）であることである。ここが地頭の居館であれば、周辺にその一族が居住したであろうし、遺跡からは鍛冶関連遺構、木地製作、機織部材等の出土もあり、手工業職人を抱えていた事もわかる。このことから調査区の周辺に広く遺跡が分布していることが考えられ、市等の存在も想像できるとしている。金沢市堅田Ｂ遺跡は、河北潟に流れ込む森下川の右岸丘陵裾部にある遺跡で、「荘官や地頭といった荘園を管理していたような人物および、一定地域の流通や交通の統括者」を居住者と想定している［向井2003・2004］。この遺跡は13～15世紀にわたる遺跡で、片側を方形に堀が廻り、内側に大型の建物群が存在する。13世紀中葉の年紀の記された木簡が出土しており、出土遺物のうち輸入陶磁器は、住吉遺跡と類似性が高い。しっかりした方形区画と大規模な建物群は地頭クラスにふさわしい。

地頭が居ればその一族、庶子も周辺に居住したであろう。加地荘地頭佐々木信実の子８人のうち７人が加地を号していたことから、多くが加地荘に居住していたことが予想される［阿部・田村1987］。彼らは武士であり、御家人である。彼らの居住地でも地頭に匹敵する遺構・遺物が考えられる。

在地の住民は多くが農民であった。集落にはまず、そこをまとめる有力農民である名主層がいる。その下に一般農民と考えられる在家百姓、領主や百姓に従属する下人がいる。正応５（1292）年「荒河新保源新大夫在家南堀口」とある在家は周囲に大きな堀を有していた［阿部・田村1987］。在家、名主といっても一様でなく規模はさまざまであったと考えられ、これらを単純に遺跡に当てはめるのは困難である。

新潟県内の13世紀から14世紀前半において堀・土塁を伴う方形居館は存在しないが、区画溝を有する遺跡は多く存在する。先述の下町坊城遺跡、出雲崎町寺前遺跡［坂井1990］、旧吉川町樋田遺跡［室岡・戸根1989・1990・1991］、上越市下割遺跡［山崎ほか2003］、柏崎市下沖北遺跡［山本ほか2003］、東原町遺跡［山崎ほか2005］等があるが遺跡規模はさまざまである。基本的にはほとんどの集落が溝等で区画される。出雲崎町番場遺跡［坂井1987］は12世紀末～15世紀前半にわたる遺跡で、溝等の区画は

ないが、山裾に立地する広さ約2,100m^{2}の遺跡である。数棟の建物・井戸等が確認され、建物では平面積100m^{2}近いものがあり、また70～90m^{2}の建物もいくつか見られる。遺物では中国製陶磁器が多く出土したほか、高級な緑釉盤や青白磁梅瓶・合子、国産古瀬戸水差し、四耳壺等も出土していることから有力農民の屋敷地と想定している［坂井1999］。

さて、住吉遺跡は低湿地の自然堤防上に位置している。遺構群は自然堤防である微高地上に細長く延び、調査区外に連続する。微高地と両側の低地との境には水の流れる溝が存在する。ここで住吉遺跡の特徴を挙げると以下のようになる。

①　遺跡の存続時期は遺物から12世紀末～14世紀前半である。

②　遺跡の中は溝で区画され、建物の存在する場所と遺構のほとんど存在しない場所が明確に区別される。

③　建物は20数棟確認された。両面に庇のつくものや四面庇の可能性のあるものがあり、平面積100m^{2}を超えるもの２棟、80m^{2}を超えるもの２棟、また総柱建物もあり同じ位置でほぼ同規模の建物が建て替えられている。大きな堀で囲まれた特異な建物がある（SB1～4）。

④　建物の周辺に井戸も多く確認され、方形木枠に大きな曲物を据える立派な井戸が多い。

⑤　方形竪穴土坑がある。

⑥　県内では確認例の少ない、屋敷に隣接する墓（屋敷墓）がある。

⑦　青磁・白磁といった輸入陶磁器が多い。中でも高級品とされる青磁椀Ⅲ類の出土が多く、ほかに双魚文の盤、青白磁の梅瓶、合子蓋、水柱等の白磁Ⅹ類等一般ではあまり出土しないものがある。

⑧　和鏡や、調度類の引き戸把手と考えられる金具、飾り金具等がある。

⑨　石鍋や砥石といった流通品がある。

⑩　祭祀用と考えられる多くの箸状木製品や鳥形・舟形・斎串等がある。

先述の有力農民の屋敷地とされる番場遺跡と比較すると、ランクは住吉遺跡の方が上であるといえよう。

住吉遺跡から西側600mには二ツ割遺跡、800mには中住吉遺跡がある。いずれもほぼ同時期の遺跡で自然堤防上にあり、溝、建物の方向は住吉遺跡と同様、ほぼ東西南北を示す。出土遺物の内容もほとんど同じといってよく、二ツ割遺跡では木棺と考えられる木組が確認されている。３遺跡ともに自然堤防上の南北方向に遺跡が広がり、その間を北に向かって川が流れ、紫雲寺潟に至っている。

このような状況を示す史料がある。「佐々木加地重朝譲状」である。文永三年七月十三日（1266年）とあり、ちょうど遺跡の存在した時代である。県史番号1756では次のようになっている。『ゆつりあたふ光女こせむかところに、かちのしやう」ふるかハのてうのうちの田畠ならひ二」さいけくわうやの事　右、さかひをかきる、いや四郎かいゑのうし」ろのゑのミなかミよりなかれをくたりに、」しかの二郎かいゑのきたなるみちのつし」にいたるへし、それより又かのゑのなかれを」くたりに、みのうらのかたはたにいたるへし、」かたハゑのくちよりかたのをきへむけて」をくやまのさかひにいたるへし、この」さかひよりひんかしにをきてハ、しし」そむそむにいたるまて、さをいなくちき」やうすへし、たたしすさきのむらハふ」るかハのてうのうちなりといへとも、さきわ」かちて三郎にゆつり了、のちのために」しひつのゆつりしやうかくのこ」とし、』。これは、加地荘古河条のうちの田畠並びに在家荒野を譲り渡す書状である。その範囲として「四郎の家の後ろの江の水上より流れを下りに、下の二郎の家の北の道の辻に至る。それよりまたこの江の流れを下りにみのうらの潟端に至る。潟は江の口より潟の沖へ向けて、奥山の境に至る」。この境より東がその範囲である。ただし洲崎の村は古河条であるが、すでに三郎に譲り渡してい

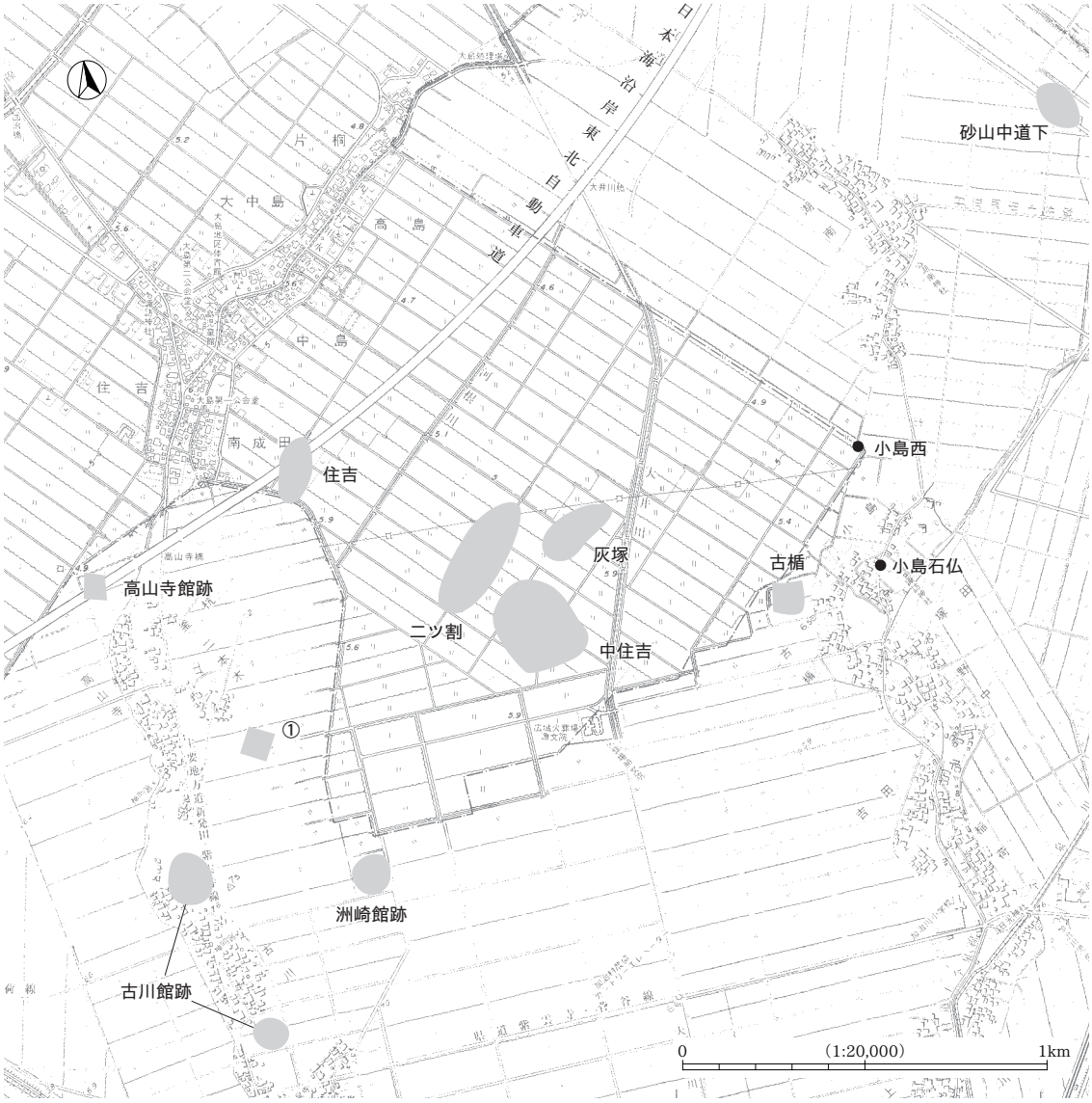
る。北に向かって川が流れており、その脇に四郎の家・二郎の家があり、また三郎も登場する。川は潟に流れ込み、その沖に奥山庄との境がある。この状況は、住吉遺跡・中住吉遺跡・二ツ割遺跡の地理的状況に一致する。ここに登場する二郎・三郎・四郎はいずれも重朝の兄弟または一族に間違いなく、二郎・四郎の家はこの江の流域にあったと思われる。二郎・四郎はこの河川を利用していたことがうかがわれ、特に二郎の家はより潟に近い道と川の交差地点の要衝にあったことが考えられる。

さて、この文献に登場する洲崎の村、二郎、四郎の家、譲り渡した範囲および住吉遺跡の位置関係はどうであろうか。状況的には以下のことが考えられる。

①　地名「古川・州崎」は現在も残っており、史料で示す地点もこの周辺である。

②　潟に至る状況を示す記述に一致するのもこの周辺である。

③　境を限った「ゑ」の特定は困難であるが、当時、潟に流れ込んでいた「ゑ」は大小無数にあったと



①は周知化されていないが、この付近の明治期更正図に「下館」「上館」「館ノ上」の地名があり、昭和 24 年撮影の米軍撮影空中写真で方形区画が確認できることおよびその位置を、新発田市教育委員会生涯学習課鈴木文化財技師から教えていただいた。

第 45 図　周辺の中世遺跡
（紫雲寺町全図　1：10,000 原図）

考えられる。享保絵図では、東側山地から北に向かって潟に流れ込む川が２～３本描かれる。今日の河川名では今泉川・大井川・見通川などである。

④　「みのうらのかたはた」の位置について、大字川尻にある小字「ミノワ」であるとの意見がある［飯田2005］が、史料の解釈とは方位が異なるのではないかと考えられる。

⑤　譲り渡した地域は「田畠並びに在家荒野」[1]である。この範囲には加地氏一族の居住した屋敷は当初存在していないと考えられる。時代的にどこまで溯るかは明確でない（おそらく14世紀以降）が、加地氏関連と考えられる館跡が現在の集落の連なる自然堤防上に並ぶ（州崎館・古川館・高山寺館）。このような状況から、譲り渡した範囲は現在の集落の連なる自然堤防の東側であった可能性が高い。したがって住吉遺跡はその範囲に入っていなかった可能性がある。

⑥　県史番号1775に「古川条内中村地頭為道信」とあり、この道信は前述の譲状の道信と同一人物であり、「古川条内中村」はこの譲り渡された地域に入っていると考えられる。「中村」は旧加治川村の下中に比定されている。

以上のことから検討すると、境とされる「忞」は現在の古川・高山寺集落ののる自然堤防と今泉・古楯集落ののる自然堤防とにはさまれた範囲にあったと考えられないだろうか。住吉遺跡をはじめ各館は紫雲寺潟の南東部潟端にあり、「紫雲寺潟から旧加治川を利用した沼垂湊への水運ルート」［高橋2004］であり、内水面交通をおさえる拠点にある。二ツ割遺跡を水澤幸一氏は「加地荘古川条の集散地にあたり、土器が多量に消費される市庭を含む都市的な場」と捉え、「潟に流入する河口の潟端で交通・売買を差配する流通拠点という位置づけが可能」［水澤2005b］としている。

今回確認された屋敷墓（SD2）は隣の二ツ割遺跡でも確認されているが、県内での確認例はほとんどない。この屋敷墓について橘田正徳氏は、13世紀後半には、「さらにそれより離れた地域では、流通拠点以外の商工業者の屋敷地（…）や領主館跡（…）に偏るように、屋敷墓に関する情報の伝達が商工業者によって行われ、その情報の受け手が領主層に限定される。」［橘田2004］としており、住吉遺跡・二ツ割遺跡の流通拠点としての立地や遺跡の性格を考える上で重要な要素である。

住吉遺跡は南東部潟端では今のところ中世の古い段階の遺跡であり、古川条の開発に深く関与したことがうかがえる。名主・在家といった農民層や商工業者がどの程度の家を構えたのか明確でないが、彼ら以上であるとすれば、加地氏一族関連の遺跡の可能性も否定できない。

1）「田畠及び在家荒野」……県内の在家について概観したものに「鎌倉～室町期における在家の様相」［竹田1987］がある。その中でも当譲り状にふれており『いや四郎、しかの二郎の「いえ」を取り囲む田畠が河川湖沼に接するまでに広がっていた様相がうかがわれる』としている。また、在家史料は土地譲渡証文、特に譲状が多い。在家には田畠、荒野、山、湊など地目を伴うことが多く、それらが一体的に把握されていた。これらの把握は、田在家の本質が在家役の賦課、納入にあったことを表していると結論している。ただ、在家そのものがどのような人たちを指し、どのような生活レベルにあったのかはふれられていない。

要　　約

1　住吉遺跡は、新潟県新発田市（旧紫雲寺町）中島字住吉に所在する。遺跡は旧紫雲寺潟（塩津潟）南東部潟端の標高約５～6mの沖積地自然堤防上にあり、現況は水田であった。

2　調査は日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、平成10・11年度に実施した。調査面積は延べ8,150m^{2}である。

3　調査の結果中世前期（13～14世紀前半）の集落跡であることが明らかとなった。検出された遺構には掘立柱建物23基、井戸37基、土坑55基、溝40以上、ピット多数がある。

4　掘立柱建物には面積100m^{2}を超えるものや総柱の建物があり、同一場所での建替が行われている。多くの柱穴には礎板が伴い、柱根も多く残存する。柱は角柱と丸柱の両者がある。井戸には井戸枠を伴うのが多く、大型の曲物も設置される。土坑の中には方形竪穴状土坑もある。また、県内での検出例の少ない木棺を伴う墓と考えられる土坑（屋敷墓）が検出された。溝は遺跡内をいくつかのエリアに区画している。

5　遺物は、木製品を除いて平箱約40箱が出土した。土器・陶磁器・金属製品・木製品・石製品がある。

6　土器・陶磁器には、珠洲焼およびその系統（北沢窯）・中世土師器・在地瓷器系陶器（権兵衛沢・赤坂山・狼沢）・瀬戸美濃・常滑・輸入陶磁器（青磁・青白磁・白磁）がある。特に輸入陶磁器の割合が高く、529点を数える。中には青白磁の梅瓶、青磁盤・青磁椀Ⅲ類、小壺・水注といった白磁Ⅹ類等いわゆる高級品と呼ばれるものがある。土師質土器はその８割以上がロクロヘラ切りで、当地域の特徴となっている。在地瓷器系陶器・瀬戸美濃・常滑は数点に過ぎない。

7　木製品も多く約2,700点を数える。礎板や柱根といった建築部材、井戸枠関係部材が多いが、ほかに漆塗椀、農具の柄振、祭祀具の箸状木製品・鳥形・舟形等がある。金属製品では和鏡、農工具の斧、鎌、飾り金具等がある。石製品では砥石が多く、他地域からの流通品である。ほかに石鍋・硯・温石がある。製鉄関連では鉄滓・羽口がある。

8　当地は中世加地荘古河条にあたり、文献史料にも登場する場所である。自然科学分析では、遺跡地は当初針葉樹のスギ属が優勢であったと考えられ、その後、落葉広葉樹のハンノキ属・コナラ亜属を主とした湿地林に変わったとされる。その周辺は低湿地で水田・荒地が広がっていたと考えられ、この風景は文献に現れる「田畠ならびに在家荒野」そのものである。

9　住吉遺跡は内水面交通を押さえる重要な地点にあり、その居住者は遺構・遺物の検討から有力農民層以上であり、古河条開発に深く関与したことがうかがえ、12世紀末に当地の地頭となった佐々木加地氏一族に関連した人物であった可能性も否定できない。

引用・参考文献

阿部洋輔・木村宗文・荻野正博・桑原正史　1980　「第二編中世の新発田 第一・二・三章」『新発田市史上巻』　新潟県新発田市

阿部洋輔・田村　裕　1987　「第一章鎌倉武士と荘園 第一・二節」『新潟県史』通史編２中世

荒川隆史　2004　「第Ⅱ章遺跡の位置と環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡 本文・観察表編』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第153集 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛康　2000　「紫雲寺町住吉遺跡の鎌倉時代集落跡」『新潟県考古学会第12回大会研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会

飯田素州　2005　『越後加地氏 新発田氏の系譜』 新潟日報事業社

小田由美子　1999　「第５章 第３節 第２項五頭山麓古窯跡群」『新潟県の考古学』 高志書院

小田由美子　2002　「野地遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成13年度』（財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野正敏編　2001　『図解・日本の中世遺跡』 東京大学出版会

加治川村誌編さん委員会　1986　『加治川村誌』 新潟県加治川村役場総務課

春日真実　2001　「柏崎市鶴巻田遺跡出土漆器の編年的位置」『新潟考古学談話会会報』第23号 新潟考古学談話会

鎌倉市教育委員会　1990　『今小路遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』

川上貞雄　1977　『水原城館址及び水原代官所址発掘調査報告書』 新潟県水原町教育委員会

川上貞雄　1984　『小島西遺跡』加治川村文化財調査報告（2） 新潟県加治川村教育委員会

川上貞雄　1992　『北沢遺跡群』 新潟県豊浦町教育委員会

橘田正徳　2004　「中世前期の墓制－墓地・屋敷墓からみた中世前期の家・集落・社会－」『大谷女子大学文化財学科 公開講座 考古学の語る「中世墓地物語」』 大谷女子大学

木戸雅寿　1995　「石鍋」『概説中世の土器・陶磁器』 真陽社

小鍛冶快弘　1999　『村松町埋蔵文化財調査報告書 第６集 茨塚遺跡』 新潟県村松町教育委員会

斎木秀雄ほか　1993　『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』 佐助ヶ谷遺跡発掘調査団

坂井秀弥　1987　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第48集 番場遺跡』 新潟県教育委員会

坂井秀弥　1990　「出雲崎町寺前中世遺跡の調査」『新潟県考古学会第２回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会

坂井秀弥　1999　「中世越後の村・家・住まい」『中世の越後と佐渡』(田村裕・坂井秀弥編） 高志書院

鹿野弘之　1999　「住吉遺跡」『埋文にいがた』第26号 （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

鹿野弘之　2000a　「住吉遺跡」『発掘調査報告会2000』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

鹿野弘之　2000b　「住吉遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成11年度』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

紫雲寺町史編さん委員会　1987　『紫雲寺町誌』 新潟県紫雲寺町役場

島田美佐子　1994　「第Ⅳ章まとめ ５墓」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告書（遺構編)』（財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

品田高志　1999　「第５章 第３節 第１項中世土師器」『新潟県の考古学』 高志書院

杉田健一　1998　「住吉遺跡」『埋文にいがた』第24号 （財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

杉田健一　1999　「住吉遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成10年度』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

鈴木　勉　1999　「住吉遺跡」『埋文にいがた』第28号　（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋一樹　1999　「平安末・鎌倉期の越後と佐渡」『中世の越後と佐渡』（田村裕・坂井秀弥編）　高志書院
高橋一樹　2004　「第６章 第２節「観音堀」出土十一面観音像と中世の紫雲寺潟周辺－北越後の内水面交通と日吉白山神人の展開－」『二ッ割遺跡・中住吉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新潟県紫雲寺町教育委員会
高濱信行・卜部厚志　2004　「第Ⅰ章立地・地表環境 １青田遺跡の立地環境と紫雲寺地域の沖積低地の発達過程」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡 関連諸科学・写真図版編』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
竹田和夫　1987　「鎌倉～室町期における在家の様相ー越後国在家史料概観ー」『越佐研究』第44集　新潟県人文研究会
田中久夫ほか 1996　「新潟砂丘の形成史」『第四紀研究』第35巻第３号　日本第四紀学会
鶴巻康志　1992　「越後における中世土師器の動向」『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』 北陸中世土器研究会
鶴巻康志ほか 1997a　『新発田市埋蔵文化財調査報告第17 新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ（第７～10地点）』 新潟県新発田市教育委員会
鶴巻康志　1997b　「第５章 第４節 Ⅰ北陸窯の年代と技術系譜」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』 桂書房
鶴巻康志　1999　「第５章 第２節 第２項中世後期」『新潟県の考古学』 高志書院
鶴巻康志　2003　「土師器からみた中世の小地域圏－新潟県阿賀北地方を中心に－」『第22回中世土師器研究会シンポジウム 中世土師研究の今日的課題－土師編年と中世史研究－』 日本中世土器研究会
鶴巻康志　2004　「土師器からみた中世の小地域圏－新潟県北部阿賀北地方を中心に－」『中近世土器の基礎研究ⅩⅦ』 日本中世土器研究会
鶴巻康志　2005　「新潟県北部の中世陶器窯」『平成17年度 環日本海交流史研究集会 中世日本海域の土器・陶磁器流通－甕・壺・擂鉢を中心に－』（財）石川県埋蔵文化財センター
中野晴久　2005　「常滑・渥美」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』
新潟県　1987　『新潟県史』通史編２ 中世
新潟県　1983　『新潟県史』資料編４ 中世二 文書編Ⅱ
新潟古砂丘グループ　1974　「新潟砂丘と人類遺跡－新潟砂丘の形成史Ⅰ」『第四紀研究』第３巻第２号　日本第四紀学会
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館　1995　『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告書Ⅴ 第29次 第77・78次調査』
藤澤良祐　2005　「施釉陶器生産技術の伝播」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』
前島　敏　2004　「第２章 第３節遺跡をめぐる中世」『二ッ割遺跡・中住吉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新潟県紫雲寺町教育委員会
水澤幸一　1996　『埋蔵文化財調査報告 第９集 下町・坊城遺跡・中倉遺跡ほか』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　1997　『埋蔵文化財調査報告 第12集 下町・坊城遺跡Ⅱ～川跡出土の遺物～』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　1999　『埋蔵文化財調査報告 第18集 下町・坊城遺跡Ⅲ～Ａ地点の調査～』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　2000　『埋蔵文化財調査報告 第20集 下町・坊城遺跡Ⅳ－Ｂ地点－』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　2001　『埋蔵文化財調査報告 第21集 下町・坊城遺跡Ⅴ－Ｃ地点・政所条遺跡群』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　2005a　『埋蔵文化財調査報告 第22集 下町・坊城遺跡Ⅵ』 新潟県中条町教育委員会
水澤幸一　2005b　「奥山荘政所条遺跡群の展開」『中世の城館と集散地』 高志書院
水澤幸一　2005c　「越後の中世土器」『新潟考古』第16号　新潟県考古学会
宮内信雄ほか 2004　『二ッ割遺跡・中住吉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新潟県紫雲寺町教育委員会
向井裕知　2003　『金沢市文化財紀要199 堅田Ｂ遺跡Ⅰ（遺構図版編）』 金沢市埋蔵文化財センター

向井裕知　2004　『金沢市文化財紀要213 堅田Ｂ遺跡Ⅱ（本文・遺物編)』 金沢市埋蔵文化財センター
室岡　博・戸根与八郎　1989・1990・1991 『樋田遺跡発掘調査概報』 新潟県吉川町教育委員会
安井　賢　2004　「第Ⅱ章植物学的調査 5珪藻分析」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡 関連諸科学・写真図版編』 新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
山崎忠良ほか 2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第120集 下割遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
山崎忠良ほか 2005　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第140集 東原町遺跡・下沖北遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
山本信夫　2000　『大宰府条坊跡ＸⅤ－陶磁器分類編－』大宰府市の文化財 第49集　大宰府市教育委員会
山本　肇ほか 2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第125集 下沖北遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
渡邉　晶　2004　『日本建築技術史の研究－大工道具の発達史』 中央公論美術出版

別表1　遺構一覧（1）

掘立柱建物（SB）(1)

単位：m、面積：m²（ ）内は庇部分を含めたもの、方位は長軸に対するもの

SB1	梁間	4.4（6.7）	面積	49（92.46）	
両面庇	桁行	11.2（13.8）	主軸	N82°E	
5×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P807	0.70	0.70	0.50	○	○
P802	0.60	0.50	0.55		
P821	0.90	0.70	0.25	○	
P801	0.90	0.60	0.50	○	
P1130	1.10	0.70	0.65	○	
P1153	0.50	0.35	0.35	○	
P1141	0.60	0.45	0.30		
P1164	0.80	0.50	0.60		
P1155	0.65	0.55	0.50		
P1154	0.70	0.60	0.50		
P804	0.60	0.40	0.40	○	○
P805	0.60	0.60	0.50	○	
P806	0.90	0.60	0.70	○	
P1144	0.30	0.30	0.50		○
P1163	0.45	0.40	0.40		○
P1117	0.65	0.50	0.40		○

SB3	梁間	4.00	面積	29.60	
	桁行	7.40	主軸	N83°E	
3×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P1125	0.65	0.50	0.55		○
SK34	0.70	0.55	0.55		○
P1103	0.70	0.55	0.40	○	○
P1102	0.65	0.55	0.40	○	○
P1101	0.75	0.60	0.45	○	○
P1087	0.70	0.55	0.40	○	
SK28	0.50	0.35	0.70		○
SK29	0.55	0.40	0.60		○

SB5	梁間	4.7（7.5）	面積	64.86（103.5）	
両面庇	桁行	13.80	主軸	N89°W	
6×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
6EP3	0.45	0.45	0.40	○	
SK2017	0.90	0.70	0.35	○	
5EP84	0.40	0.30	0.25		
6EP16	0.35	0.35	0.30	○	
6EP125	0.30	0.30	0.30	○	
6FP27	0.40	0.40	0.30	○	
6FP35	0.60	0.40	0.20	○	
SK2075	0.90	0.50	0.50	○	
7EP34	0.50	0.40	0.40	○	
7EP55	0.70	0.30	0.20	○	
7EP60	1.00	0.40	0.40	○	
7EP41	0.50	0.45	0.30	○	
6EP78	0.40	0.35	0.20	○	
6EP75	0.80	0.40	0.30	○	
6EP141	0.45	0.30		○	
6EP42	0.60	0.50	0.50	○	
6EP47	0.70	0.50	0.50	○	
6EP119	0.55	0.40	0.60	○	
6EP121	0.70	0.60	0.60	○	
7EP75		0.55		○	
SK2033	0.70	0.60	0.50	○	
6EP82	0.70	0.60	0.60	○	
6EP92	0.60	0.50	0.40		
6EP94	0.55	0.40	0.40		
6FP32	0.45	0.40	0.40	○	

SB2	梁間	3.80	面積	34.2以上	
	桁行	9.00	主軸	N80°E	
4以上×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P1150	0.40	0.30	0.40	○	
P1148	0.40	0.25	0.40		○
P1261	0.20	0.20	0.50		
P1134	0.45	0.30	0.50		○
P1112	0.60	0.50	0.65		○
P1113	0.80	0.60	0.40		
P1108	0.60	0.50	0.65		○
P1118	0.80	0.50	0.60	○	
P1122	0.60	0.40	0.40	○	
P1109	0.80	0.50	0.40		○
P1140	0.50	0.30	0.55		
P1133	0.40	0.30	0.55		

SB4	梁間	3.90	面積	17.55以上	
	桁行	4.5以上	主軸	N80°E	
2以上×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P1129	0.90	0.60	0.50	○	
P1128	0.55	0.40	0.40	○	
SK30	0.90	0.70	0.60	○	
P1131	0.70	0.70	0.50	○	
P1126	0.60	0.45	0.40	○	
P1124	0.60	0.55	0.45	○	

SB6	梁間	4.8（7.7）	面積	67.68（108.6）	
両面庇	桁行	14.10	主軸	N89°W	
5×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
6EP120		0.50	0.55		○
6EP40	0.50	0.40	0.35		
6EP14	0.55	0.40	0.40	○	
6EP123	0.50	0.40	0.30	○	
SK2032	1.00	0.50	0.50	○	
6FP55	0.70	0.50	0.50		○
7FP71	0.50	0.40	0.30	○	
7FP22	0.65	0.50	0.65	○	
7EP20	0.70	0.45	0.50	○	
P7003	0.40	0.25	0.40	○	
7EP24	0.50	0.40	0.40		
6EP79	0.60	0.30	0.35		
6EP74	0.50	0.50	0.40	○	
6EP49	0.70	0.40	0.45	○	
7EP27	0.70	0.55	0.35		○
7EP33	0.70	0.50	0.65		
6EP84	0.80	0.50	0.40		
6EP99	0.40	0.40	0.40	○	
6FP45	0.80	0.70	0.10		
SK2076	0.40	0.40	0.40	○	

別表1　遺構一覧（2）

掘立柱建物（SB)(2)

SB7	梁間	3.1（6.0）	面積	43.09（83.4）	
両面庇	桁行	13.90	主軸	N89°W	
5×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
6EP113	0.30	0.30	0.25		
6EP41	0.60	0.40	0.60	○	
6EP124	0.55	0.30	0.60	○	
6EP15	0.60	0.40	0.40	○	
6EP89	0.60	0.50	0.55	○	
6EP98	0.70	0.50	0.50		○
6FP44	0.40	0.30	0.40		○
7FP49	0.50	0.30	0.60		
P357	0.40	0.40	0.20		
7FP12	0.40	0.40	0.25		
7FP23	0.40	0.30	0.30	○	
7EP35	0.35	0.35	0.50		
7EP38	0.50	0.40	0.45		○
6EP118	0.40	0.35	0.25		
6EP73	0.45	0.40	0.30		
6EP50	0.50	0.55	0.40		
6EP107	0.45	0.40	0.40	○	
7EP45	0.60	0.45	0.45	○	
7EP32	0.60	0.45	0.50	○	
6EP86	0.55	0.40	0.50		
6EP93	0.50	0.50	0.70	○	○
SK31	0.50	0.35	0.60	○	
SK2075	0.90	0.50	0.50	○	

SB9	梁間	6.00	面積	51.00	
総柱	桁行	8.50	主軸	N0°W	
4×3	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
5EP116	0.60	0.50	0.40	○	
5EP107	0.60	0.50	0.30	○	
5FP39	0.50	0.50	0.40	○	
5FP32	0.50	0.45	0.40	○	
P424	0.55	0.45	0.40	○	
P425	0.60	0.55	0.50	○	
5FP93	0.90	0.60		○	
P239	0.40	0.20	0.25		
SK2030	0.45	0.40	0.45	○	
6FP15	0.55	0.40	0.40	○	
6EP1	0.50	0.40	0.40	○	
5FP51	0.50	0.45		○	
P609	0.50	0.40	0.50	○	
SK916	0.85	0.50	0.45	○	○
P484	0.40	0.40	0.20		

SB11	梁間	4.05（6.1）	面積	29.16（43.92）	
両面庇	桁行	7.20	主軸	N89°E	
3×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
4EP4	0.25	0.25	0.15		
4EP20	0.35	0.35	0.30	○	
4EP12	0.30	0.30	0.15		
4EP1	0.35	0.35	0.28	○	○
4FP16	0.28	0.28	0.40	○	
4FP18	0.40	0.30	0.40	○	
5FP5	0.40	0.40	0.40	○	
5FP14	0.35	0.35	0.40	○	
5FP17	0.30	0.30	0.40	○	
5FP44	0.35	0.30	0.30		
5EP135	0.30	0.25	0.30		
5EP29	0.30	0.25			
5EP10	0.50	0.35	0.55		
5EP18	0.50	0.40	0.40	○	
5EP11	0.60	0.30	0.20	○	
4FP11	0.35	0.35		○	
5FP4	0.50	0.40	0.40	○	

SB8	梁間	4.90	面積	31.36	
総柱	桁行	6.40	主軸	N0°W	
4×3	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
5EP129	0.30	0.30	0.40	○	○
5EP111	0.55	0.40	0.40		○
5FP38	0.40	0.40	0.40		
5FP16	0.50	0.45	0.45		
P290	0.55	0.40	0.30		
P167	0.50	0.30	0.35	○	
SK94	0.50	0.45	0.60	○	
SK92	0.60	0.55	0.45	○	
SK2025	0.50	0.40	0.45		○
6FP43	0.50	0.50	0.25	○	
5EP98	0.70	0.50	0.30		
5FP45	0.50	0.40	0.25	○	
6FP17	0.45	0.35			
5FP47	0.50	0.40	0.20		
P618	0.50	0.50	0.35	○	
5FP28	0.65	0.45			
P479	0.35	0.30	0.50		

SB10	梁間	6.10	面積	39.04	
総柱	桁行	6.40	主軸	N0°W	
3×3	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
5EP99	0.60	0.40	0.40	○	
5FP55	0.40	0.40	0.40	○	
5FP46	0.40	0.35	0.40		
5FP30	0.40	0.40	0.40	○	
P483	0.50	0.50	0.45		
P139	0.50	0.40	0.45		
6FP40	0.40	0.40	0.60	○	○
SK2029	0.60	0.35	0.45		○
SK2020	0.70	0.70	0.50	○	
5FP53	0.45	0.40	0.40	○	○
6FP38	0.40	0.40	0.40	○	
SK98	0.40	0.40	0.40	○	

SB12	梁間	4.50	面積	28.80	
	桁行	6.40	主軸	N88°E	
3×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
5EP5	0.40	0.35	0.35	○	
4EP34	0.60	0.40	0.40		
5FP56	0.40	0.30	0.30	○	
5FP20	0.60	0.50	0.40	○	
5FP18	0.50	0.40	0.35		
5FP33	0.40	0.40			
5EP24	0.50	0.40	0.30		
5EP15	0.80	0.50	0.30	○	
5EP32	0.40	0.30	0.55	○	

SB13	梁間	2.60	面積	10.92	
総柱	桁行	4.20	主軸	N0°E	
3×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
4EP40	0.60	0.35	0.30	○	
4EP17	0.15	0.10	0.05		
4EP19	0.40	0.35	0.20		
4EP11	0.45	0.30	0.25	○	
4EP39	0.30	0.30	0.25	○	
4EP9	0.40	0.35	0.15		
4EP6	0.40	0.35	0.20		○
4EP19	0.40	0.30	0.20		
4EP29	0.40	0.35	0.15	○	
4EP25	0.40	0.35	0.10		
4EP15	0.40	0.40	0.35		

別表1　遺構一覧（3）

掘立柱建物（SB)(3)・柵列（SA）(1)

SB14	梁間	6.30	面積	52.60	
総柱	桁行	8.35	主軸	N87°E	
3×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P632	0.45	0.40	0.25	○	
P532	0.60	0.50	0.45	○	
P764	0.40	0.40	0.25	○	
P580	0.60	0.50	0.40	○	
P563	0.50	0.30	0.15	○	
P551	0.50	0.40	0.50	○	
P387	0.50	0.30	0.30	○	
P163	0.90	0.60	0.30	○	
P614	0.40	0.40	0.35	○	
SK110	0.75	0.65	0.35	○	
SK74	2.05	1.10	0.37	○	

SB16	梁間	3.00	面積	21.6	
	桁行	7.20	主軸	N4°W	
3×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P1015	0.30	0.30	0.20		
P1006	0.50	0.40	0.30	○	
P1002	0.30	0.30	0.35		
P1001	0.35	0.35	0.30		
P1004	0.30	0.30	0.15		
P978	0.55	0.40	0.30		
P1003	0.50	0.40	0.50		
P1010	0.35	0.30	0.30		
P1009	0.30	0.30	0.35	○	
P1008	0.30	0.20	0.20		

SB19	梁間	4.10	面積		
	桁行	7.30	主軸	N87°E	
	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
9AP14	0.65	0.40			
9AP5	0.55	0.50	0.45	○	○
P7032	0.70	0.40	0.16	○	
P7033	0.30	0.30	0.30		
9BP34	0.25	0.25			
9BP4	0.60	0.30	0.40		
SK6022	0.80	0.50	0.45	○	
9BP24	0.40	0.35	0.26		
9BP19	0.25	0.20			

SB21	梁間		面積		
	桁行		主軸	N22°E	
2×3以上	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P231	0.70	0.60	0.50	○	
P240	0.50	0.35	0.50	○	
P270	0.45	0.40	0.45	○	
P714	0.55	0.45	0.30	○	

SB23	梁間		面積		
	桁行		主軸		
	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P961	0.40	0.30	0.50	○	
P948	0.40	0.28	0.35	○	
P955	0.28	0.28	0.40		○
P975	0.28	0.20	0.36		

SAア	桁行		主軸	N85°E	
	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
SB1P2	0.25	0.25	0.10		
P958	0.35	0.30	0.20		
P934	0.40	0.40	0.25	○	

SB15	梁間	3.60	面積	22.32	
	桁行	6.20	主軸	N5°W	
3×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P1053	0.40	0.30	0.40		
P1209	0.35	0.30	0.40		
P1052	0.35	0.35	0.25		
P1210	0.35	0.30	0.45		
P1023	0.40	0.40	0.55		
P1206	0.45	0.45	0.50		
P1207	0.45	0.40	0.40		
P1098	0.45	0.30	0.40		

SB17	梁間		面積		
	桁行		主軸		
	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P945	0.35	0.35	0.40	○	○
P942	0.45	0.35	0.35		
P952	0.40	0.38			

SB18	梁間	3.00	面積	16.50	
	桁行	5.50	主軸	N7°W	
3×1	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P949	0.34	0.34	0.40		○
P954	0.35	0.30	0.16	○	
P966	0.30	0.20	0.20		
P960	0.26	0.22	0.50		○
P967	0.25	0.25	0.30		○
P968	0.30	0.20	0.18		
P959	0.30	0.25		○	
P969	0.36	0.36	0.43		○
P638	0.50	0.40	0.56		○
P936	0.40	0.40	0.15		
P937	0.40	0.40	0.25		○
P965	0.40	0.20	0.40		

SB20	梁間	4.10	面積	47.15	
	桁行	11.50	主軸	N5°W	
5×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P7042	0.30	0.30	0.50		
9BP6	0.50	0.50			
9BP1	0.50	0.40	0.20	○	
9CP204	0.90	0.65			○
8BP40	(0.5)	0.30	0.50		
9BP212	0.50	0.40	0.40		
9BP208	?	0.50	0.40		
9BP42	0.80	0.60	0.40		
P6039A	0.60	0.40	0.55		
SK6019	0.50	0.45	0.45		
9AP15	0.40	0.40			

SB22	梁間		面積		
	桁行		主軸	N 16°E	
3以上×2	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P232	0.60	0.50	0.50		
P250	0.56	0.40	0.50	○	
P277	0.50	0.45	0.60	○	
P275	0.50	0.40	0.60	○	
P438	0.50	0.40	0.45	○	
P228	0.70	0.50	0.30	○	
P230	0.60	0.50	0.32	○	

SAイ	桁行		主軸	N86°E	
	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
SB1P1	0.30	0.30	0.20	○	
P973	0.38	0.30	0.30	○	

別表1　遺構一覧（4）

柵列（SA）（2）

SAウ	桁行		主軸	N81°E	
	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P1104	0.90	0.60	0.50	○	
P1105	0.70	0.60	0.65		
P1107	0.55	0.40	0.25	○	
SD1120	0.36	0.30	0.15		
P1116	0.40	0.40	0.30		

SAエ	桁行		主軸	N83°E	
	長軸	短軸	深さ	礎板	柱根
P1142	0.35	0.20	0.15	○	
P1147	0.40	0.40	0.25	○	
P1149	0.40	0.35	0.35		
P1139	0.40	0.40	0.30		
P1084	0.40	0.40	0.55	○	
P1123	0.40	0.35	0.30	○	

井戸（SE）（1）

遺構No.	グリッド	長軸（径）（m）	短軸（m）	深さ（m）	井戸施設		出　土　遺　物	他遺構との切り合い
3	2F18・19	1.4	1.2	0.5以上		曲物	珠洲、部材、箸	
10							曲物	
17	5G22	1.3		1以上	方形枠	曲物	部材	
24							土師器	
43	5G19	1.2	1.0	0.85以上		曲物	部材	
124							部材	
147							部材、曲物、箸	
155							白磁	
166							部材	
168	6G14・15・19・20	2.3	1.9	1.2以上		曲物	土師器、柱痕、杭、部材、丸木材、曲物、棒状製品、炭化材、箸、柄、櫛	
169							こもずち	
174	6F19	1.6	1.0	1.2以上		曲物	部材、曲物、棒状製品、炭化材、折敷、箸、形代、下駄、羽口	
210	6G4、6F24	1.7	1.3	1.48以上		曲物	土師器、部材、箸、鉄滓	
221							部材	
227	5G19	1.5		1.35以上		曲物	曲物	
229	5G18	1.6	1.3	0.45以上	方形枠		部材、井戸枠部材、曲物、箸	
241	6G11・16	1.8	1.3	1以上	方形枠	曲物	部材、曲物、棒状製品、折敷、箸、和釘、鉄滓	
279							部材、曲物、棒状製品、こもずち、漆塗椀、箸	
280	4F14・15・19・20	4.0	2.7	0.68以上		曲物	珠洲、土師器、青磁、白磁、杭、部材、曲物、棒状製品、箸	
313	7G7・8	1.6	1.4	1以上	方形枠		部材、井戸枠部材、箸	SE349・359・376・496
349	7G9	0.9		0.6以上		曲物		
359	7G9・10	1.4		0.9以上				
376	7G9・10	1.0	1.0	0.7			部材、曲物、箸	
378	7G20	1.7	1.3	0.5以上			珠洲、部材、丸木材、曲物、棒状製品、炭化材、漆塗椀、漆塗皿、箸	
384	7G8・9	1.1		0.7				
385	7F20・25 8F16・21	0.9	0.6	0.9				
421	5G12・13	2.3	2.1	0.85以上	方形枠	曲物	柱痕、部材、井戸枠部材、曲物、円形板、棒状製品、炭化材、漆器片、箸、形代	
462							部材	
476	4G18	0.9		0.77以上		曲物2	部材、曲物、漆塗皿、箸	
495	6F20・25	1.9		1.15以上				
496	7G4・5	0.8		0.8以上				
620							部材	
621							部材	
738							部材	
755	6F11・12・16・17	2.5	2.3	1.5以上	？	曲物	青磁、杭、部材、丸木材、曲物、円形板、棒状製品、炭化材、箸、エブリ、しゃもじ形木製品	
910	5F15 6F11	2.1	1.7	0.9以上	舟		珠洲、部材、井戸枠部材、曲物、棒状製品、漆塗椀、箸、羽口	SE911
911	5F15・20	3.0	2.0	1.2以上	方形枠	曲物	珠洲、部材、曲物、漆塗皿	SE910
930	5F15・20 6F16	1.2		1.2以上	方形枠		部材、曲物、形代	
947	3D23・24	1.6		0.85以上		曲物	曲物	
1005	4D18	2.1		1以上	方形枠？		珠洲、部材、曲物、棒状製品、箸	
1252	4C7	0.7		0.3以上		曲物	部材、曲物	
2022	6F9・10・14・15	2.3		0.9以上	舟		珠洲、土師器、白磁、部材、井戸枠部材、曲物、棒状製品、漆塗椀、漆器片、箸、柄、栓、ヘラ状製品、下駄、羽口、軽石、砥石、銭貨	
2026	5F6・7・11	1.0		0.7			部材、曲物、棒状製品、漆塗椀、箸	
2044	7E8	1.0		0.9以上		曲物	土師器、部材、曲物、棒状製品、折敷、漆塗皿、箸、舟形	

別表1　遺構一覧（5）

井戸（SE）（2）

遺構№	グリッド	長軸（径）（m）	短軸（m）	深さ（m）	井戸施設		出　土　遺　物	他遺構との切り合い
2049	7E14・19	1.8		1.5以上	板材	曲物	土師器、部材、曲物、棒状製品、折敷、箸、しゃもじ型木製品、斎串、人形、羽口、開元通寶、天聖元寶、明道元寶、元祐通寶、元符通寶、聖宋元寶、正隆元寶	
2050	8E17・18	1.4	1.1	0.8			土師器、部材、曲物	
2066	8E7・8・12・13	2.0	1.5	0.7			部材、曲物、棒状製品、こもずち、箸、櫛	
3131							古瀬戸	
4217							部材	
5005	8B17・18	1.4	1.2			曲物	青磁、部材、曲物、漆塗皿、箸	
5035	8D23	1.4	1.2			曲物	部材、曲物	
5038	8B8	1.4	1.2			曲物		
6036	9C4		1.1	0.7以上		曲物	部材、曲物、砥石	
不明							土師器	

土坑（SK）（1）

遺構№	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	出　土　遺　物	他遺構との切り合い
4	2E19	1.14		0.5～0.6		
5	7G12～14・17～19・22～24	4.90	3.70	0.20	珠洲、土師器、白磁、青白磁、青磁、杭、部材、曲物、棒状製品、漆塗椀、漆塗皿、白木椀、箸、鳥形、人形、櫛、糸巻、火鑽棒、鉄滓、羽口、砥石	
6	7G 21・22	2.10	12.20	0.25	土師器、部材	
7	6G・7G20～	1.63	1.22	0.35	土師器、部材、曲物、棒状製品、箸	
16	5G24	1.45	0.98	0.38	珠洲	
22	8B25	1.79	1.24	0.70	部材、棒状製品、箸、火鑽棒、	
25	6B、7B15～	0.60		0.20		
39	5G25、6G21	0.95	0.59	0.20	羽口	
40					部材	
53	7F15、8F11	1.40	1.20		青磁	
56	7F2・7	0.76	0.76	0.25	土師器	
63					土師器	
72		1.25		0.43	杭	
73	6G12	0.70	0.50		礎板	
74	6G13	0.25	0.25		土師器	
82	5G15	0.42	0.42	0.31	土師器	
87	5G5	0.61	0.48		柱痕、部材	
88	5G5	0.35	0.35	0.57	礎板、柱痕	
93	5F19	0.67	0.36	0.40	礎板、部材、箸	
97					砥石	
104	6F21	1.18	0.60	0.45		
105	5G5、6G1	0.55	0.50		土師器	
106	6G1・2	0.86		0.90		
110	6G6	0.22	0.22	0.20	礎板、部材	
113					杭、部材	
114	6G2	0.60		0.52	礎板	
117	6G6	0.35	0.35		礎板、部材	
122	5G20	0.50		0.25	鉄滓	
132	6G10	0.45		0.26	元豊通寶	
133		1.10		0.23	土師器	
173	7F16	1.20	0.79	0.30	青磁	
227					部材、箸	
235	5G2・3	0.96		0.35	土師器	
263	3G15・20	3.20		0.40	土師器、部材、漆塗皿	
278	4G14・15	0.85	0.82	0.91	部材、曲物、棒状製品、漆塗皿	
284					部材	
308					珠洲、土師器	
311	7G8	1.10	0.90		部材	
328	7G6・11	0.70		0.30		
330	7G14	1.80	1.00	0.70	土師器、棒状製品、箸	
342	7F12・17	1.15	1.15	0.34	土師器、白磁	
386		0.83		0.20	礎板	
420	5F18・23	0.85	0.85	0.45	柱痕、部材	SD2006
423	5F17	0.80	0.50	0.55	礎板	
469					土師器	SK6024
513					部材、棒状製品、箸	

別表1　遺構一覧（6）

土坑（SK）（2）

遺構№	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	出　土　遺　物	他遺構との切り合い
518	6G10・15	0.95	0.95	1.10	土師器、部材	
538		2.00	2.00	0.40	礎板	
603					部材	
607	5G25	0.65	0.50		礎板	
608	5F25、6F21	1.80	1.50	0.8～0.9	礎板、部材、曲物、棒状製品、箸	
623					鉄斧	
636	3E14・15	1.15	0.80	0.10	珠洲、青磁	
763	5G10・15	2.00		0.70	珠洲、礎板、部材、棒状製品、漆塗皿、白木皿、箸	
813					部材	
815					礎板、部材、棒状製品	
916	5F15	0.95	0.50		青磁	
938					土師器	
953					青磁	
956	4D21～・ 4E1～	3.80	0.90	0.30	土師器、青磁	
1030	5D11・16	2.20	1.10	0.31	土師器、青磁	
1035	4D20～5D	1.90	0.8～1.3	0.35	土師器	
1037	5D16～	3.00	0.8～1.3	0.50		
1070	6D16	1.00	0.70	0.25		
1072	5D24・25	1.50	1.30	0.50	珠洲、土師器、箸	
1073	6D16	0.90		0.20	白磁、部材	
1074	5D20～6D	0.72		0.25		
1075	6D21	1.00	0.90	0.40	土師器	
1168	7A22、7B2	0.71	0.55	0.25		
1256	5C19・24～	2.00	0.65	0.35	礎板	
2001	4F5・10、 5F1・6	2.14	0.49	0.45	柱根、部材	
2003	4E15	0.77	0.74	0.13	元豊通寶、元祐通寶	
2004	4E19・24	1.02	0.84	0.28		
2005					部材、箸	
2011					部材、箸	
2012					青磁、部材	
2014					土師器、鉄滓	
2015	5E20	0.97	0.88	0.15	土師器、漆器片、箸	
2019	6F3・4・8・9	0.70		0.40		
2020	6F2	0.40	0.25		青磁	
2025	6F7	0.30	0.25		土師器、白磁、青磁、部材、箸	
2029					部材、礎板、箸	
2031	6F7	0.40	0.30		羽口	
2032	6E21・22	1.00	0.50		古瀬戸、土師器	
2033	6E11	0.65	0.45		青磁	
2034	6E9・10・14・ 15	1.00	0.50		礎板	
2035	6E22・23 6F2・3	1.20	1.20	0.45	青磁、礎板、柱痕、部材、鉄滓	
2038	5E8・13	0.65	0.50		土師器、部材	
2039	5E13・14・19	1.84	1.00	0.25	土師器、炭化材	
2040	5E1・2・7	1.10	0.58	0.30	土師器、部材、砥石	
2041	7E22、7F2	0.65	0.45	0.30	礎板	
2042	7E6・7・11・12	2.7以上	2.1以上	0.30	土師器、青磁、白磁、礎板、部材、棒状製品、鉄、銭貨	
2043	7E12・13・ 17・18	2.80	2.00	0.20	珠洲、土師器	
2047	7E15・20	1.00	1.00	0.65	土師器、部材、漆塗椀	
2048	7E20	0.80	0.65	0.30		
2052	7E18・19	1.30	0.90	0.55	砥石	
2055	7F2・3	1.80	1.20		土師器	
2059	8E 17・22	1.40	0.85	0.45	土師器、部材	
2060	8E 17・22	1.50	0.60	0.30	土師器、青磁	
2061	8E22	1.70	0.80	0.30	土師器	
2062	8E16・17	0.90	0.70	0.20		
2063	8E16・17	0.60	0.40	0.15		
2064	8E11・12	0.75	0.70	0.35	部材、火鑽棒	
2070	7E24	0.90	0.70	0.35	土師器	
2071	7E25	0.50	0.50	0.10	土師器	
2074	7F7・8・12・13	1.10	0.85	0.40		

別表1　遺構一覧（7）

土坑（SK）（3）

遺構№	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	出　土　遺　物	他遺構との切り合い
2077	7F6～11	1.50	1.20	0.70	土師器、青磁、白磁、礎板、部材、箸	
2082	7E15	0.65	0.40	0.10	土師器	
2091	5E5、6E1	1.10	0.85	0.27		
2096	5D24・25	1.92	1.38	0.38	砥石	
2098	5E5	0.90	0.65	0.37		
2101	6E10、7E6	2.46	1.46	0.50	権丘衛沢、土師器、部材、折敷、漆器片、箸	
2102	6F9	1.20	0.76	0.27	土師器	
2114	6D24・25、6E5、7D21、7E1	1.33	0.83	0.30	土師器、礎板、部材、曲物、棒状製品、箸	
2121	7D25、7E5	1.75	1.74	0.83	部材、曲物、棒状製品、箸	
2122	8E2	1.07	0.70	0.61	珠洲、漆塗皿、箸	
5003	8B13	1.00	1.00	0.46	部材	
5006		1.23	1.12		部材、漆器片	
5009	8B8		0.60		部材、箸、曲物	
5012					硯	
5021	7C19・24	1.35		0.28		
5027	8D11				土師器、部材、箸	
6001	9C8	1.08		0.30		
6005	9C14	0.92		0.26	白磁	
6021	9B5	1.48	1.24	0.60	部材、曲物、棒状製品、漆器片、箸	
6023	9B4	1.00	0.90		土師器、青磁、部材、箸	
6024	9B4	1.00	1.00		部材、棒状製品、折敷、箸	
6026	9B10	0.80	0.45		部材	
6027	9B10	0.90	0.80		部材	
6032					部材	
6037	9C3		1.30	0.67	土師器、部材、折敷、箸	
6039	9B8・9・13・14	1.20	0.90		土師器、部材	
6040	9C5、10C1		1.00	0.43	土師器	

溝（SD）（1）

遺構№	グリッド	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	出　土　遺　物	他遺構との切り合い
2	1G25	1.95	0.8～0.9	1.3	柱根、部材、漆塗盆、漆塗椀、漆塗皿、箸	
14	5G・6G25	0.43～0.76	2.4	0.12		
37	7G・7H24		0.7～0.8	0.43	白磁、部材、箸、砥石	
38		7		0.16	土師器	
61	8F・G				土師器、青白磁	
62	8F・G				土師器	
67					土師器	
71	7F・8G24	4.8	1.3～1.7	0.3～0.5	珠洲、土師器、漆器片	
164	6F19・20		0.67	0.3		SD165
166	6G4		0.63	0.36	土師器	
172	6G15・7G11		0.8	0.22	土師器	
233	5G2・6・7		0.75		鉄滓	
234	5G5・9・13・17・21		0.89	0.45	土師器	
244	4G14・18・22・23		2.03	0.25～0.3	土師器	
306					土師器	
312	7F22・23 7G2・3・4	10	1.1～1.6	0.2	珠洲、土師器	
329	6G・7G				青磁	
336					土師器	
337	7G				土師器	
348	8F・G				白磁、青磁、柱根、杭、部材、竹材、曲物、漆塗皿、漆器片、箸、柄、下駄、火鑽棒、把手、羽口、砥石	
465	6G3・8	10	0.6	0.3	珠洲	SD466
516	5G5・9・13・17・21		47～105	0.55	土師器、部材、箸	
711					土師器、白磁、砥石	
811	5A13～5B7～	15	2.6～3.2	0.5	部材、箸	SD1203・SD1165
977	3E・3F・4E・4C・4D	35	1.1～2.0	0.3	下駄、鉄滓、土錘	
980	3・4・5B～F				木	
1012	3・4・5B～F				土師器、鉄滓	

別表1　遺構一覧（8）

溝（SD）（2）

遺構№	グリッド	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	出　土　遺　物	他遺構との切り合い
1013	3C・3D・4C	20	0.6～1	0.25	珠洲、部材、曲物	
1016	3C・3D	11	1.5～2.8	0.15	珠洲、青磁、部材	
1057	5C・6D				青磁	
1095	5D25	1.8	0.4～0.5	0.4	古瀬戸、青白磁	
1103					折敷	
1156					部材、曲物	
1165					土師器、部材、曲物、漆塗皿、箸、円管、和釘、元豊通寶	
1203	5C13～6C	21	3～3.4	0.6	珠洲、赤坂、土師器、白磁、青磁、部材、曲物、円形板、棒状製品、炭化材、漆塗椀、漆塗皿、箸、網針、砥石	
1213	6D3～23	8.5	0.7～0.8	0.26～0.35	刀子	
1227	6D7・8	3.8	0.8～1.25	0.18		SD1203・SD1221
1251	4B・5B	10	0.8～0.9	0.2		
1264	5B10～6B	10	1.5～2.5	0.5	礎板	
2005	8E ～8F	55以上	5.8	0.9	珠洲、狼沢、土師器、白磁、青磁、褐釉、杭、部材、曲物、円形板、漆塗椀、箸、錘、銅？、砥石、天聖元寶	
2006	8E ～8F	45以上	1.2以上	0.6	珠洲、土師器、青磁、部材、曲物、円形板、白木椀、箸、柄、下駄、和釘、鉄滓、砥石	
2007	8E ～8F	45以上	2以上	0.4	珠洲、古瀬戸、土師器、青磁、部材、曲物、漆塗椀、漆塗皿、箸、柄、鉄滓、羽口、砥石、治平元寶	
2012	4D25、4E4・5	3.15	0.2	0.07		SD2024
2023	6F12・13・14				土師器	6FP41
2024	4E4・5・10 5E6・7・12・13	11.7	0.34	0.04～0.06		SD2012
2027	5E17・22 5F1・2・6・11	8.7	0.12～0.4	0.12		SD2094
2056	7F5～8F1・2	6	0.8	0.3	土師器	SD2005
2065	8E2・3・8・9	14.5	1	0.4	土師器、漆器片	SD2005
2072	7F2・7・12	7.5		0.1		SD2073・SD2111
2073	7F4・8・9・13	8.5		0.15		
2084	7E20～25	18.5	0.2～0.3	0.1		SD2114・SD2005・SD2056
2087	5F3・4・9・10 6F6	2.16	0.4	0.07		SD2088
2090	5D22 5E3・9	5.5	0.2	0.08		
2094	4E15、5E11・16・17・18	6.6	0.22～0.42	0.06		
2095	5E10・15・19・20・23・24 5F3・7・8 6E1・6	6.14	0.12～0.24	0.08～0.1		
2100					古瀬戸	
2103					土師器	
2105	6D24 6E2・3・5・7・8・10・13・14		0.68～0.92	0.26	木	
2106	6E14・19・20 7E11・16		0.4	0.24		
2110	9F14・15	2.5	0.4	0.06		
2120	8D23・24 8E3	16.5	0.22～0.25	0.11		
2222					青磁	
2605					青磁	
5001	7B			0.42～0.6	土師器、礎板、杭、部材、円形板、炭化材、漆器片、箸、柄	
5011	7D		0.94	0.42～0.6		SD5018・SD5017
5016					杭、部材	
5017	7D	6.95	0.63～0.52	0.21～0.23	箸	
5018	7D	10.6（21.6）	0.88～0.92	0.32～0.38		
5019					土師器	
5037					漆器片	
6012	10C3・8・13		2.2	0.35	土錘	
不明					礎板、部材、漆器片、箸	
不明					祥符通寶	
不明					元祐通寶	

別表2　遺物観察表（1）

土器・陶磁器（1）

＊分類・時期は珠洲焼（吉岡1994）、輸入陶磁器（山本2000）、常滑（中野2005）、瀬戸美濃（藤澤2005）、在地窯器系（鶴巻1997）によった。

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
1	SD38			7.7	6.6	1.3		0.17	3	3	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			橙	
2	SD67			12.2	8.0	3.1		0.25	6	1	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			にぶい黄橙	
3	SD71			43.4					2		珠洲焼	甕	C	Ⅳ	平行叩き、海綿骨針、スタンプ	灰	
4	SD71				8.4					17	土師質土器	Ⅲ	AⅡe			浅黄橙	
5	SD71				8.0					18	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		廃棄後内外面炭化物付着	黒褐	
6	SD71			12.4	8.5	3.3		0.26	12	36	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		廃棄後全面炭化物付着	黒褐	
7	SD71				8.8					10	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内面スス付着	にぶい黄橙	
8	SD71			11.6	7.2	2.7		0.23	3	6	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			にぶい橙	
9	SD71			12.8				0.00	5		土師質土器	Ⅲ	AⅡf			橙	
10	SD71				7.5					19	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		見込み中央やや膨らみ	にぶい黄橙	
11	SD71			11.6		3.4		0.29	12	13	土師質土器	Ⅲ	CⅡb		赤色粒目立つ	橙	
12	SD166			12.4				0.00	5		土師質土器	Ⅲ	不明		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
13	SD172			12.3	8.0	3.1		0.25	22	21	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			橙	
14	SD306			7.4	6.8	1.2		0.16	18	36	土師質土器	Ⅲ	AⅠa		口縁部タール付着	にぶい黄橙	
15	SD312				12.4					19	珠洲焼	壺T		Ⅱ	平行叩き、静止糸切り	灰	SD348-31、3E5Ⅳ、5F5Ⅳ、SK5、SK90、SK2097、SD234-2、SD2007、2F18、5F4Ⅳ、5F20Ⅳ、6E11Ⅳ、6E19Ⅳ、6G5Ⅳ、8G8
16	SD312			8.0	6.4	1.2		0.15	7	7	土師質土器	Ⅲ	AⅠa			にぶい橙	
17	SD312				6.3					31	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			浅黄橙	
18	SD329		Ⅳ	13.3					3		青磁（龍）	小椀	Ⅲ2c直	13中～14初	蓮弁	灰白	SK104、5F7、5FP37
19	SD336			12.8	8.7	3.2		0.25	6	36	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		全面炭化物付着	褐灰	
20	SD465				13.0					7	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ～Ⅲ	櫛目、静止糸切り	灰	
21	SD516			11.0	8.4	2.6		0.24	5	5	土師質土器	Ⅲ	AⅡc		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
22	SD516				8.3					27	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		内面炭化物付着	浅黄橙	
23	SD711			11.2				0.00	7		土師質土器	Ⅲ	CⅡb			浅黄橙	
24	SD711			11.0					4		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
25	SD1012			12.3	7.8	3.1		0.25	21	36	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
26	SD1012			13.2	8.4	3.1		0.23	4	6	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		内面炭化物付着	黒褐	
27	SD1012			8.5	7.3	1.8		0.21	23	23	土師質土器	Ⅲ	CⅠb			にぶい橙	
28	SD1013		Ⅳ	23.0					8	3	珠洲焼	壺T	b	Ⅱ～Ⅲ	口唇波状文、山形面取叩き、海綿骨針	暗灰	8G20Ⅳ、5E24Ⅳ、5F7Ⅳ、5E19Ⅳ、4E15Ⅳ、3D9Ⅳ、2F14、6F12Ⅳ、7E11Ⅳ、5E11Ⅳ、4E19Ⅳ、8G20、8E10Ⅳ、3F2Ⅳ、2E10、3F21、4C12Ⅰ、4E10Ⅳ・20Ⅳ・4Ⅳ・9Ⅳ、4F18Ⅳ、5G8Ⅳ、5E18Ⅳ、5F2Ⅳ、8E13Ⅳ、SK2003フク土、SD1013-6、6E378、SD348-130、SD1016-2、SD1013-7、SD1203、SD61-114、SD1203-93-6
29	SD1016			64.2					8		珠洲焼	甕	C	Ⅲ	平行叩き、海綿骨針	灰	SD1016-6、2D23、5D5Ⅰ、SD2005、SK2044、3D9Ⅳ、3F1、5G8Ⅳ、9C10、10C12・16フク土、
30	SD1016		Ⅳ	15.6	5.2	6.6			8	18	青磁（龍）	椀	Ⅱc	13前	鎬蓮弁、見込み草花文	灰	7F3Ⅳ、9F13Ⅳ、9G1、表土、7F4、4E11Ⅳ、7F11、7F17
31	SD1016		Ⅳ	28.2	14.4	6.4			11	11	青磁（龍）	盤	Ⅲ	13中～14初	外連弁、見込双魚	灰	4E25Ⅳ、4区地点不明、5G8Ⅳ、6E11Ⅳ、6E18Ⅳ、6E20、6E23Ⅳ、6F17Ⅳ、8F8Ⅳ、9B24、6EP90、6E22、SD2006フク土、SK2032
32	SK1072			21.0			33.2		8		珠洲焼	壺T	C	Ⅳ	山形面取叩き	暗灰	5E24Ⅳ、5F11Ⅳ、5F16、6F19Ⅳ、7F1Ⅳ、表土、2D23、3D22、4E4Ⅳ・10Ⅳ・12Ⅳ・13Ⅳ・14Ⅳ・22Ⅳ、4F9Ⅳ、5E9Ⅳ・10Ⅳ・12Ⅳ・19Ⅳ・21Ⅳ・24Ⅳ・25Ⅳ、5EP10、5EP31フク土、5F3Ⅳ・7Ⅳ・8Ⅳ・15Ⅳ、7F11、8G2Ⅳ、2F13・20、4C16、SD1013-8、SK280-40、SK2002、SE476、EWメインベルト2区Ⅳ、1区EWベルトⅣ、排水路
33	SD1095			14.8	3.2	7.0			10	23	古瀬戸	卸皿	Ⅲ	中期Ⅲ	糸切り、内外面釉、片口	灰白	SK1072、SD2005、SE378、5F7、5E15Ⅳ、5E24Ⅳ
34	SD1095						18.0				青白磁	梅瓶			刻花唐草文、被熱	灰白	11A23、4区不明、SD1203-2402、7F13Ⅳ、6D10Ⅱ、5D15Ⅰ、P1228、5E24Ⅳ、5FⅣ、SD2441、SD348-122、SD1203-176-2、SD2007、SD5019、SK2074フク土、P525-1、4E14Ⅳ、4F19Ⅳ、5E2Ⅳ、5E13Ⅳ、5E19Ⅳ、5E24Ⅳ、5F3Ⅳ、5F7Ⅳ、6G4、6G5、6G20、6F1、6F3、7E7Ⅳ、7E20Ⅳ、7F21、7G5、7F1Ⅳ、8F21、9C20、9E11Ⅳ、10C17Ⅳ、表土、4区不明

別表2　遺物観察表（2）

土器・陶磁器（2）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
35	SD1203（SD1165）			24.0			36.2		5	4	珠洲焼	壺T	C	Ⅱ	山形面取叩き	灰	排水路、9B11Ⅳ、SD2006、4区SNトレンチ、SD2005、SD5001-7B、SD2007、SD1203、SD348-145、SD2005、表土、11C20、2区Ⅳ
36	SD1203			42.8	15.0				11	10	赤坂	甕		13後	N字口縁、長石粒	灰	SD438- 88、SK2040、5E1Ⅳ、5F16、4G20Ⅳ、5F7Ⅶ、5F8Ⅳ、5F14Ⅳ、6D15Ⅲ、SD1016-10、5E12Ⅳ、5E19Ⅳ、5F7Ⅶ
37	SD1203			7.0	6.0	1.5		0.21	2	5	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		口縁内面炭化物付着	にぶい黄橙	
38	SD1203			7.2	5.6	1.5		0.21	2	9	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			灰褐	
39	SD1203			7.4	6.2	1.4		0.19	6	6	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
40	SD1203			6.8	5.8	1.3		0.19	22	22	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい黄橙	SD1203-218-4
41	SD1203			7.0	5.2	1.1		0.16	5	11	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい黄橙	
42	SD1203				5.5					12	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			橙	
43	SD1203			8.0	7.0	1.2		0.15	9	9	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内外面炭化物付着	にぶい橙	
44	SD1203			7.4	6.0	1.2		0.16	7	11	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
45	SD1203			7.2	5.8	1.3		0.18	8	11	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内外面炭化物付着	橙	
46	SD1203			7.8	6.5	1.6		0.21	30	36	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内面炭化物付着	にぶい黄橙	SD1203-203-6、SD2005
47	SD1203（SD5001）			8.0	7.0	1.5		0.19	8	8	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
48	SD1203（SD5001）			6.8	5.8	1.3		0.19	5	19	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			黄橙	
49	SD1203（SD5001）			7.5	6.9	1.4		0.19	6	7	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
50	SD1203			12.0	9.8	2.9		0.24	18	36	土師質土器	Ⅲ	AⅡb		内外面タール・炭化物付着	にぶい橙	
51	SD1203（SD1165）			12.4	7.0	3.4		0.27	12	10	土師質土器	Ⅲ	AⅡc			にぶい橙	
52	SD1203			12.8	8.0	3.5		0.27	2	11	土師質土器	Ⅲ	AⅡc		内外面炭化物付着	にぶい橙	
53	SD1203			10.4	8.0	3.2		0.31	12	5	土師質土器	Ⅲ	AⅡc			にぶい橙	
54	SD1203				8.0					25	土師質土器	Ⅲ	AⅡe			にぶい黄橙	SD1203-96-5
55	SD1203			11.8				0.00	23		土師質土器	Ⅲ	AまたはB		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
56	SD1203			12.0	8.2	2.5		0.21	8	8	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		廃棄後全面タール付着	にぶい黄橙	
57	SD1203			12.0	6.8	2.6		0.22	5	4	土師質土器	Ⅲ	Ⅱe			にぶい黄橙	
58	SD1203				8.2					22	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内面炭化物付着	浅黄橙	SD1203、SD1203 SD1203-146-2
59	SD1203（SD1165）			14.3					2		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	7A24
60	SD1203				5.2					36	青磁（龍）	椀	Ⅱb	？		灰白	
61	SD1203				4.0					8	青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
62	SD1203			15.4					6		白磁	Ⅲ	Ⅷ2b	12中～12後		浅黄	
63	SD2005			53.0			62.0		11		珠洲焼	甕	C	Ⅳ	頸部ナデ弱い、海綿骨針、平行叩き	暗灰	SK227-4、A・C16Ⅳ、2E23・24、2F3・4・23、5E19Ⅳ、7F12Ⅳ、9B4Ⅳ、SD62、SD348・46・134、SD1203-88・134・210・5、SD1203-6・5、SD2006・2007・5001、SK5・6・1203・2017・2040、1D25、1E24、1F4・5、2E2・4・8・13・16・18・19・20・22・23・24、2F1・2・3・5・6・7・9・11・15、2G13、3E21、3F2Ⅳ、3F8・11・17、3G7・20、4E19、5E2Ⅳ・19Ⅳ・23Ⅳ、5F16、5F21Ⅳ、6C14、6D1Ⅰ、6E17Ⅳ、6F15Ⅳ、7F25Ⅳ、8D18Ⅳ・25Ⅳ、8E13Ⅳ、9E11Ⅳ、11C
64	SD2005（SD348-111）				14.4					3	珠洲焼	甕		？	平行叩き、長石粒、砂底	灰	SD2023、6F12Ⅳ、5F21Ⅳ、6E6Ⅳ、6G19、11C9、5F14、SD329、4E2Ⅳ、7F5Ⅳ、3G1
65	SD2005			24.0			33.6		2		珠洲焼	壺T	C	Ⅱ	山形面取叩き	灰	4F、8G12、9C排水路、4FP18、4E地点不明、8C3、8E16Ⅳ、8F19、9E12
66	SD2005			9.0			18.0		10		珠洲焼	壺R	a	Ⅱ	肩波状文2段、海綿骨針	灰	4D8Ⅰ、5E19Ⅳ、SD62-151、表土、4C24Ⅰ、4D8Ⅰ、7F17、7F20、7F24Ⅳ、8C15Ⅳ、8G11

別表2　遺物観察表（3）

土器・陶磁器（3）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種　別	器　種	分　類	時　期	調整・文様等	色　調（外）	同　一　個　体
67	SD2005（SD348）				11.0					18	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ	静止糸切り	暗灰	SK328
68	SD2005			30.4					23		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ	長石粒多 不規則な波状櫛目 北沢窯？	暗灰	2区EWベルトⅣ、9E11Ⅳ、SD1203-243-8、SD2005フク土8E、2区、8D21Ⅳ、SE2049、4E20Ⅳ、7F10Ⅳ、8E13Ⅳ、7E5Ⅳ、5G9Ⅳ、5G5Ⅳ、SE2022、SD2007-8F、8E13Ⅳ、8E9Ⅳ、5F21Ⅳ、8F24、2F18、2区、表土、6G14Ⅳ、SD2007、7E20Ⅳ、5E、4G18Ⅳ
69	SD2005			34.6					22		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ	細い櫛目15本、海綿骨針	灰	SD2007、SD61-17、6G25、7F15Ⅳ、8F7Ⅳ、8F12Ⅳ、表土
70	SD2005（SD348）			34.3	15.0	12.6			17	22	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ～Ⅲ	浅くて細い櫛目、静止糸切り	灰白	6F10Ⅳ、SD1057-2、4E24Ⅳ、7G10、7G5、8F22、8G7Ⅲ、8F17、P1105、P268、8C7、8E22Ⅳ
71	SD2005			32.2	12.0	13.2			18	17	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅲ	櫛目14本、海綿骨針	灰白	SD2007、SD2006、7C12Ⅳ、8F14Ⅳ、8F17Ⅳ、9C8Ⅳ、9C18Ⅳ、9D17Ⅳ、10C7、11A23、SD2005、SD2006、SD348-134、SE378、5F18Ⅳ、9CP209、11C1
72	SD2005（SD348）			29.8	10.8	12.9			14	26	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅲ	太い櫛目10本、海綿骨針、静止糸切り	灰	7G3、7G13、8F23、8F2Ⅲ、3G25、SD6、7G15、SD348-25、7G10、6E20Ⅳ、7E15Ⅳ、6E20Ⅳ、表土
73	SD2005（SD348）			38.5	15.0	12.2			14	18	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅲ	櫛目9本	灰白	2G6、4E24Ⅳ、SD6Ⅳ、7E7Ⅳ、SD20058E、EWベルト6E4・5、11A23、SD1203-177-2、6E11Ⅳ、9A24Ⅳ、SD1165、6G9Ⅳ
74	SD2005				13.0					9	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅲ～Ⅳ	櫛目13本、静止糸切り	暗灰	
75	SD2005			30.2	12.0	12.5			28	14	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅳ	太い櫛目6本、静止糸切り	灰黄褐	SK1213、SK6102、SD2073、SD2007、SD5001-7C9、SD2005、SD2007、SD2005、SK2223、SK27、SD2005-4区、9B3、10B21、10B13、2F8、10B2、7F12Ⅳ
76	SD2005（SD348）										狼沢	甕		13後～14	スタンプ、長石粒	灰黄褐	
77	SD2005（SD348）			7.9	7.2	1.7		0.22	32	36	土師質土器	Ⅲ	AⅠa			にぶい橙	
78	SD2005（SD348）			8.0	7.2	1.5		0.19	7	10	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内面炭化物付着	にぶい橙	
79	SD2005（SD348）			8.0	7.2	1.5		0.19	10	10	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内面炭化物付着	褐灰	
80	SD2005（SD348）			7.8	7.2	1.5		0.19	6	6	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
81	SD2005			7.6	5.9	1.4		0.18	21	27	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい黄橙	SD2006フク土
82	SD2005			7.0	6.2	1.4		0.20	9	9	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
83	SD2005（SD348）			10.8	8.8	2.6		0.24	2	9	土師質土器	Ⅲ	AⅡa			橙	
84	SD2005（SD348）			12.2	10.0	2.4		0.20	3	7	土師質土器	Ⅲ	AⅡa			橙	
85	SD2005				6.0					21	土師質土器	Ⅲ	AⅡc			にぶい橙	SD2007
86	SD2005（SD348）				9.0					23	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	SD348-62
87	SD2005			12.4	8.6	3.0		0.24	16	31	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		口縁部炭化物付着	にぶい黄橙	
88	SD2005（SD348）			9.6	5.6	2.9		0.30	7	7	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			にぶい黄橙	
89	SD2005（SD348）			9.7	5.6	2.6		0.27	3	5	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			にぶい橙	
90	SD2005（SD348）			11.8	7.4	2.8		0.24	5	7	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内面炭化物付着	にぶい橙	
91	SD2005			12.4	8.0	2.7		0.22	1	9	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			にぶい橙	
92	SD2005（SD348）			8.0	6.0	1.4		0.18	11	13	土師質土器	Ⅲ	BⅠa		軽い	浅黄橙	
93	SD2005（SD348）			12.3	7.7	2.6		0.21	9	9	土師質土器	Ⅲ	BⅡa		内外面タール付着	にぶい黄橙	

別表2　遺物観察表（4）

土器・陶磁器（4）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
94	SD2005			12.6	8.4	1.9		0.15	1	9	土師質土器	Ⅲ	BⅡa		廃棄後内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
95	SD2005（SD348）				8.0					20	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		見込み炭化物付着	浅黄橙	SD348-159
96	SD2005（SD348）			10.6	7.4	3.1		0.29	4	9	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			浅黄橙	
97	SD2005（SD348）			9.9	6.0	2.4		0.24	2	5	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			にぶい黄橙	
98	SD2005（SD348）			7.7	6.0	1.5		0.19	6	6	土師質土器	Ⅲ	CⅠc			にぶい橙	
99	SD2005（SD348）			7.5		1.8		0.24	4	4	土師質土器	Ⅲ	CⅠc			橙	
100	SD2005（SD348）			7.3	5.8	1.3		0.18	7	7	土師質土器	Ⅲ	CⅠc			明褐灰	
101	SD2005				9.0		18.0			16	青白磁	梅瓶	13c		刻花唐草文、被熱	灰白	5E24Ⅳ、8F20Ⅲ、6F17Ⅳ、4F18Ⅳ、5F6Ⅳ、5E、7B17Ⅳ、8E4、表土
102	SD2005（SD348）			17.6					4		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	SD222-1-9
103	SD2005		Ⅰ	12.4					4		青磁（龍）	小椀	Ⅲ2c直	13中～14初	蓮弁	灰白	7G15Ⅳ、6D19
104	SD2005（SD348）				2.6					21	青磁（龍）	小椀	Ⅲ2	13中～14初？	鎬蓮弁	灰白	4区地点不明
105	SD2005			12.2	5.2	3.9			10	14	青磁（龍）	杯	Ⅲ3b	13中～14初	見込み蓮弁	灰	
106	SD2005（SD348）				7.0		17.2			18	白磁	四耳壺	Ⅲ1	12後～13前		灰	表土、1D24、2F4、2G10、3F7、3G3、4E8Ⅳ、5E24Ⅳ、5F7Ⅳ、5F16フク土、6F1Ⅳ、8D22Ⅳ、8E22Ⅳ、SK72、SD516、2D24、2F8、2F13、3F21、4E4Ⅳ、4E8Ⅳ、4E18Ⅳ、4F21Ⅳ、5E19Ⅳ、5F4Ⅳ、5F6Ⅳ、5F7Ⅳ
107	SD2005（SD348）				6.6					18	白磁	Ⅲ	Ⅸ1	13後～14前	全面釉	灰白	
108	SD2005			11.0					5		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	10C16・12フク土
109	SD2005		Ⅳ	10.8	6.0	3.0			8	2	白磁	Ⅲ	Ⅸ1d	13後～14前	口禿	灰白	排水路、SK956-2、ハイド、9B
110	SD2005			6.9		2.0			26		褐釉	合子蓋			花	浅黄橙	
111	SD2006			34.0					9		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅳ	太くて深い櫛10本、海面骨針	暗灰	SD62-155、8E10Ⅳ、表土、6E4Ⅳ
112	SD2006			29.5	12.0	13.5			5	13	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅳ	櫛目10本、海綿骨針	灰	2F2Ⅳ、2区EW、7E10（？）
113	SD2006			7.8	6.4	1.9		0.24	23	28	土師質土器	Ⅲ	AⅠa		内面炭化物付着	橙	
114	SD2006（SD61）			6.0	5.2	1.4		0.23	4	5	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			浅黄橙	
115	SD2006（SD61）				5.8					5	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			橙	
116	SD2006（SD61）			11.4	10.0	2.3		0.20	5	14	土師質土器	Ⅲ	AⅡa		内外面炭化物付着	橙	
117	SD2006（SD61）				10.2					10	土師質土器	Ⅲ	AⅡb		廃棄後内外面炭化物付着	にぶい橙	
118	SD2006			10.4	7.6	3.0		0.29	2	4	土師質土器	Ⅲ	AⅡc		内外面炭化物付着	にぶい橙	
119	SD2006				7.4					28	土師質土器	Ⅲ	AⅡc			にぶい橙	8E5Ⅳ
120	SD2006（SD61）			12.0	8.6	3.3		0.28	35	36	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
121	SD2006			11.0	7.2	3.0		0.27	3	6	土師質土器	Ⅲ	AⅡa			にぶい橙	
122	SD2006（SD61）			12.0	7.0	3.5		0.29	1	6	土師質土器	Ⅲ	AⅡe			にぶい黄橙	
123	SD2006（SD61）			11.6	7.0	2.4		0.21	9	12	土師質土器	Ⅲ	BⅡa			橙	
124	SD2006（SD61）			12.8	8.4	2.8		0.22	9	1	土師質土器	Ⅲ	BⅡa			にぶい黄橙	SD61-166

別表2　遺物観察表（5）

土器・陶磁器（5）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
125	SD2006				8.4					18	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			にぶい橙	
126	SD2006（SD61）				7.0					36	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		廃棄後内外面炭化物付着	浅黄橙	
127	SD2006（SD61）			8.0	7.0	1.9		0.24	8	18	土師質土器	Ⅲ	CⅠc		内面タール付着	にぶい橙	
128	SD2006			13.2	10.0	2.9		0.22	1	4	土師質土器	Ⅲ	不明		内面炭化物付着	浅黄橙	
129	SD2006（SD61）			13.0					6		土師質土器	Ⅲ	不明		内面炭化物付着	にぶい橙	
130	SD2007			21.8			35.4		26		珠洲焼	壺T	b	Ⅱ	細い平行叩き、北沢窯？	灰	SD2007、SD1203-80、SD2005、SD2109、SD2006、SD24、SE2049、SK2122-2、SK2007、SK2122、8D・8EⅣ、8D24Ⅳ、6G5Ⅳ、2区トレンチ、2・3区、2区Ⅳ、8F22、5E13Ⅳ
131	SD2007（SD62）			30.0			39.4		11		珠洲焼	壺T	b	Ⅱ	平行叩き、海綿骨針	暗灰	SK423-2、SK37、5E19Ⅳ、5F14Ⅲ、5E23Ⅳ、6E11Ⅳ、6G8Ⅳ、SK97、5F6Ⅳ、2G24、2G18、5P19Ⅳ、5F6Ⅳ、6F21Ⅳ、SK2020、SD71・234・329・2005、SK2040、SE755-27、P167、3F12Ⅳ、3G4Ⅳ、3F8、4C6、4F18Ⅳ、5D16、5E2Ⅳ、5E23Ⅳ、5F19Ⅳ、5F24Ⅳ、5G2Ⅳ、5F17Ⅳ、6F2Ⅳ、6F12Ⅳ、6F19Ⅳ、6F23Ⅳ、6G7Ⅳ、6G8Ⅳ、7E17Ⅳ、7E6Ⅳ、7F19Ⅳ、7G2Ⅳ、7G3、8D13Ⅳ、8G2、8E22Ⅳ、8G8、8G17Ⅲ、9E11Ⅳ、2区EWベルト表土、4区、表土
132	SD2007			6.9	6.0	1.3		0.19	4	5	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			褐灰	
133	SD2007			8.2	6.2	1.3		0.16	2	7	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		口縁部タール付着	にぶい黄橙	
134	SD2007			6.8	5.5	1.4		0.21	2	9	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	SD2007フク土
135	SD2007			6.9	5.8	1.7		0.25	6	8	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
136	SD2007（SD62）			6.4	6.0	1.5		0.23	4	7	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
137	SD2007（SD62）				8.0					19	土師質土器	Ⅲ	AⅡb		内面炭化物付着	浅黄橙	SD62-15
138	SD2007				7.0					7	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			にぶい橙	
139	SD2007（SD62）			12.0	8.4	2.8		0.23	15	19	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		内面炭化物付着	にぶい黄橙	SD61-132、SD61-127
140	SD2007			7.8	5.0	15.0		1.92	12	20	土師質土器	Ⅲ	CⅠc		口縁部タール付着	褐灰	8F1Ⅳ
141	SD2007			11.8					3		土師質土器	Ⅲ	CⅡb			にぶい橙	
142	SD2007				7.0					5	土師質土器	Ⅲ	不明		内面炭化物付着	褐灰	
143	SD2007（SD62）			11.0					5		土師質土器	Ⅲ	不明		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
144	SD2007（SD62）			11.0					7		土師質土器	Ⅲ	不明		内面炭化物付着	にぶい橙	
145	SD2007（SD62）			13.0					3		土師質土器	Ⅲ	不明			にぶい黄橙	
146	SD2007（SD62）			13.0	6.1	6.0			15	36	古瀬戸（東濃窯洞）	山茶椀	椀	13初	糸切り、高台モミガラ	灰白	SD2007-8Fフク土、9F1Ⅲ、8E23Ⅳ、8F18
147	SE2022			15.0					4		？	鉢			長石粒多	褐灰	7G1、7G2、7G2Ⅳ、表土
148	SE2022			8.4	6.4	0.9		0.11	9	9	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			明褐	
149	SE2022				6.0					7	白磁	Ⅲ	Ⅸ1	13後～14前	全面釉	灰白	
150	SD2065			7.1	5.1	1.4		0.20	5	6	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
151	SD2100			6.3	2.1	3.6			8	36	古瀬戸	Ⅲ	入子	前2～中	（コロシ）	灰白	7F12Ⅳ
152	SD2103				8.4					12	土師質土器	Ⅲ	AⅡb		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
153	SE24			7.2	5.8	1.5		0.21	19	36	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
154	SE155			14.5					3		白磁	椀	Ⅳ1	12		灰白	
155	SE168			9.0	7.8	1.5		0.17	4	6	土師質土器	Ⅲ	CⅠa			にぶい橙	
156	SE168			9.0	6.7	1.1		0.12	8	9	土師質土器	Ⅲ	CⅠa		内面タール付着	にぶい橙	

別表2　遺物観察表（6）

土器・陶磁器（6）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
157	SE280			48.0					8		珠洲焼	甕	b	Ⅱ	平行叩き	灰	SE1005、3G16、4E4Ⅳ、5F14Ⅳ、5F16Ⅳ、SD2005-10C16・12、2E20、4F18Ⅳ、5E19Ⅳ、5G8Ⅳ、SK2002、SK2002-4E23、5E24Ⅳ、6F12Ⅳ、SD1203-151、9C排水路、SD348-137、5F21Ⅳ、表土、2F24、3F21、3F22、4F8Ⅳ、4F18Ⅳ、5E4Ⅳ、5E20Ⅳ、5F4Ⅳ、6G5、8F9Ⅳ、8F23
158	SE280		Ⅳ	15.4	3.0	6.6			7	5	青磁（龍）	椀	Ⅲ2c	13中～14初	連弁	灰白	5FP40、5F16、9B2Ⅳ、9C18、6F9Ⅳ、8F23、8F24、表土
159	SE280										白磁	小壺	X		型文浮文	灰白	
160	SE378			10.6			18.3		9		珠洲焼	壺R	a	Ⅱ	長石粒多、北沢窯？	灰	SD348-57、SE359、SE378-80、7E13Ⅳ、7F17、7G2、7G10、8G12、7E10Ⅲ、7G3、7G5Ⅲ、7G9、7G10、7G15、
161	SE911・SE910			31.4					3		珠洲焼	壺T	a	Ⅰ	短い口縁、平行叩き、気泡多い	暗灰	SE910-21、5E7Ⅳ、5F4Ⅲ、5F8Ⅳ、6F12Ⅳ、7F11Ⅳ、P552、4G10Ⅳ、5F19Ⅳ、5F20Ⅳ
162	SE911・SE910			28.0					6	3	珠洲焼	壺T	C	Ⅱ～Ⅲ	口唇・内面波状文、山形面取叩き、海綿骨針	灰	3G3、5F9Ⅳ、7G9、5E5Ⅳ、3G12、8G3、6F2Ⅳ、SD5001、5E20Ⅳ、SD312-1、SD348-8、SD1203、SD2007、SD2056、SD516、SD1012、SD2005、SD1203、4FP1、P638、5FP38、5FP39、6EP9、SE910、SE2050、3G3、SE911、SK210、SK97、SK90、SK938、SK5、SK93、2G14、3F11・12、3F13Ⅳ、4E2Ⅳ・7Ⅳ、4区、5F14Ⅲ、5F21Ⅳ、5F21、5F13Ⅳ、5F4Ⅳ、5F20Ⅳ、5F5、5F14、5F3Ⅳ、5F18Ⅳ、5F24Ⅳ、5G2Ⅳ、5G13Ⅳ、5G19、5E4Ⅳ、5F22Ⅳ、5G8Ⅳ、5G5Ⅳ、5F25Ⅰ、6F5Ⅳ、6E11Ⅳ、5E5Ⅳ、6D16Ⅰ、6F12Ⅳ、6E23Ⅳ、6E13Ⅳ、7G15、7E20Ⅳ、7G13Ⅳ、7F1Ⅳ、7E19Ⅳ、7G5、7G15、7G8、7G6Ⅳ、8G11、8E14Ⅳ、8F24、8D25Ⅳ、8E16Ⅳ、8E5Ⅳ、9G20、9G5Ⅳ
163	SE910			29.8					5		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ	少ない櫛目、海綿骨針	灰	6F14Ⅳ、4区、5FP48フク土、5F24Ⅳ、6E23Ⅳ
164	SE1005				17.0					4	珠洲焼	壺T		？	平行叩き、海綿骨針、砂底	灰	SD6012-10C7フク土、SD1057、5E24Ⅳ、8E4、2区Ⅳ、SD5001、SD2005、4E7Ⅳ、
165	SE2049			7.0	5.2	1.4		0.19	1	10	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
166	SE2049				7.4					6	土師質土器	Ⅲ	AⅡa			にぶい橙	
167	SE2050			8.4	7.4	1.5		0.18	4	4	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内面炭化物付着	にぶい橙	
168	SE3131				3.5	1.5				36	古瀬戸	Ⅲ	入子	前2～中	糸切り、見込み指ナデ（コロシ）	灰白	
169	SE5005				5.0					36	青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前？		灰	
170	SK5				6.8					27	珠洲焼	壺R	b	Ⅰ	長石、海綿骨針、回転糸切り	灰	表土、7G8Ⅳ、8F15Ⅳ
171	SK5			29.4					5		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ	浅い櫛目	暗灰	SD2103
172	SK5			8.0	6.2	1.3		0.16	11	8	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		口縁内面タール付着	にぶい黄橙	SK5-98
173	SK5			12.0	8.2	2.7		0.23	4	6	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			にぶい黄橙	
174	SK5			12.7	7.0	3.4		0.27	23	24	土師質土器	Ⅲ	CⅡb		内面および周辺炭化物付着	にぶい橙	
175	SK5			11.0					4		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
176	SK5			11.0	2.3	4.2			5	9	青白磁	小椀	12c	？		灰白	
177	SK6			12.0					8		土師質土器	Ⅲ	不明		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
178	SK56			7.8	7.8	1.7		0.21	11	14	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
179	SK133			7.0		1.9		0.27	6	8	土師質土器	Ⅲ	CⅠb			にぶい橙	
180	SK173			14.0					3		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
181	SK235			8.5	7.4	1.6		0.19	3	5	土師質土器	Ⅲ	BⅠa			明褐	
182	SK518			8.0	6.6	1.1		0.14	8	8	土師質土器	Ⅲ	AⅠb			橙	
183	SK518			11.6	9.0	2.3		0.20	5	5	土師質土器	Ⅲ	AⅡb			浅黄橙	
184	SK763										珠洲焼	水瓶・水注？		Ⅰ？	波状文	灰	SK763-44、SD2005、地点不明、表土
185	SK938			15.2					12		土師質土器	Ⅲ	CⅡb		内面タール付着	橙	
186	SK1030			7.9	6.0	1.8		0.23	4	10	土師質土器	Ⅲ	BⅠa			にぶい橙	
187	SK1030		1	17.6					4		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	彫刻連弁	灰	6C13Ⅰ
188	SE2022										珠洲焼	甕	C		平行叩き、海綿骨針、内面墨痕	灰	

別表2　遺物観察表（7）

土器・陶磁器（7）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
189	SE2022			7.4	6.1	1.1		0.15	6	5	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内外面炭化物付着	にぶい橙	
190	SE2022			6.7	5.5	1.4		0.20	3	3	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
191	SE2022				8.0					8	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内面タール付着	にぶい黄橙	
192	SK1035			9.4	9.1	1.3		0.13	6	3	土師質土器	Ⅲ	AⅠb			にぶい橙	
193	SK1073			10.0					3		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
194	SK2077			10.9	6.7	2.5		0.23	28	27	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			にぶい黄橙	
195	SK2077				4.4					36	青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前？		灰	
196	SK2077				6.4					9	白磁	Ⅲ	Ⅸ1	13後～14前	全面釉	灰白	
197	SK2015			10.4	8.7	2.4		0.23	15	25	土師質土器	Ⅲ	AⅡa			橙	
198	SK2015			9.0	6.6	2.4		0.27	3	9	土師質土器	Ⅲ	AⅡb			浅黄橙	
199	SK308			26.2					14		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅲ	浅い櫛目5本	灰	SD62-135、6F17Ⅳ
200	SK308			11.7	7.5	3.2		0.27	12	36	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		内面炭化物付着	にぶい黄橙	
201	SK636			18.3			38.0		4		珠洲焼	壺T	d	Ⅳ	平行叩き、海綿骨針、山形面取叩き	灰	P942-1、2G24、3F14、P975-5、SD1016、SK636、2E10・18、3D24Ⅳ、3F2Ⅳ・5Ⅳ、4E13Ⅳ・20Ⅳ、4G21Ⅳ、5E11Ⅳ、7E2Ⅳ、8D19Ⅳ、8E1
202	SK636			36.0	11.3	14.1			1	20	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅳ	櫛目9本、静止糸切り	暗灰	3E21、3F7、2F3、2F24、3G2、2F5、5E24、6E13Ⅳ、SE378、3F1、4E23Ⅳ、1E5、2G14、2E25、6G7Ⅳ
203	SK636										青白磁	梅瓶			刻花唐草文、被熱	灰白	SD2005
204	SK16			45.0					8		珠洲焼	甕	C	Ⅲ	平行叩き、海綿骨針	灰	SK17-1、SK278-3
205	SK2025				5.0					36	青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	
206	SK2032				5.3					30	古瀬戸（東濃明和窯）		椀	13	糸切り、高台モミガラ、見込みタテ卸目、指ナデ（コロシ）	灰白	SK37、8F17、8F18、8F21、8GⅣ、表土
207	SK2038			12.4	8.0	2.8		0.23	8	8	土師質土器	Ⅲ	AⅡa		内面炭化物付着	にぶい橙	
208	SK2039			11.5	9.7	2.4		0.21	5	3	土師質土器	Ⅲ	AⅡb		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
209	SK2039			11.0	9.7	2.4		0.22	7	14	土師質土器	Ⅲ	AⅡb		内外面炭化物付着	にぶい橙	
210	SK2039			12.4	7.8	3.3		0.27	4	16	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		口縁部タール付着	にぶい黄褐	
211	SK2040			7.0	6.3	1.9		0.27	16	16	土師質土器	Ⅲ	BⅠa			にぶい黄橙	
212	SK2042			5.6	4.2	0.9		0.16	5	6	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内面炭化物付着	にぶい橙	
213	SK2042			6.6	5.7	1.0		0.15	5	5	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内面炭化物付着	にぶい黄橙	
214	SK2042			7.7	7.0	1.2		0.16	20	20	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
215	SK2042			14.0	10.5	2.7		0.19	9	9	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			浅黄橙	SK2042-17、SK2042-19
216	SK2042			10.8	7.7	3.3		0.31	3	11	土師質土器	Ⅲ	BⅡc			にぶい橙	SK2042-27、SK2042-25
217	SK2042			13.0	8.2	3.7		0.28	4	9	土師質土器	Ⅲ	BⅡc		廃棄後内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
218	SK2042			11.4	4.7	2.8		0.25	4	4	土師質土器	Ⅲ	CⅡb			にぶい橙	SK2042-24
219	SK2042			15.0	3.8	6.0			19	4	青磁（龍）	椀	Ⅲ1Aa	13中～14初	無文	灰白	SK280-3、SD71-1
220	SK2042				5.6					15	青磁（龍泉窯系）	杯	Ⅲ5	13中～14初？	見込みヘラ彫花文	灰白	SK2052フク土、6E22Ⅳ、7E22Ⅳ
221	SK2042			16.0					4		白磁	椀	Ⅸ	13後～14前	口禿	灰	
222	SK2043				6.4		14.5			18	珠洲焼	水瓶・水注		Ⅱ	注口、把手、海綿骨針	暗灰	SK51、P440、2区EWベルトⅣ、7E11Ⅳ、7E12Ⅳ、8F3Ⅳ、8F15Ⅳ、SD1203
223	SK2043			12.4	7.3	3.3		0.27	5	6	土師質土器	Ⅲ	CⅡb		見込み炭化物薄く付着	にぶい黄橙	
224	SK2044			16.9	6.2	1.4		0.08	1	8	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			浅黄橙	
225	SK2044			11.6	7.7	2.6		0.22	8	10	土師質土器	Ⅲ	BⅡa		廃棄後内外面炭化物付着	浅黄橙	
226	SK2044			11.7	8.0	2.6		0.22	12	20	土師質土器	Ⅲ	BⅡa			灰白	6E13Ⅳ
227	SK2055				9.0					15	土師質土器	Ⅲ	AⅡb			にぶい橙	
228	SK2059			12.3	8.2	2.8		0.23	22	22	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		一部黒色、砂質	にぶい黄橙	
229	SK2061			12.2	8.0	3.0		0.25	30	30	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		内面炭化物付着	にぶい橙	SK2061フク土、8E23 Ⅳ
230	SK2101			34.4	9.6				1	5	権兵衛沢	甕		13中	N字口縁、押印	暗赤褐	SD2051、SD2005、SD465、8F12Ⅳ、5F20Ⅳ、7F2Ⅳ、9G7、8E1、6E20、7F23、表土、SK72

別表2　遺物観察表（8）

土器・陶磁器（8）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
231	SK2101			7.5	7.1	1.1		0.15	6	6	土師質土器	Ⅲ	AⅡc			明褐	
232	SK5027			7.0	6.0	1.6		0.23	8	15	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
233	SK6005			12.0					3		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
234	SK6023			13.0	9.0	3.2		0.25	14	11	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		内外面炭化物付着	浅黄橙	
235	SK6040				8.2					6	土師質土器	Ⅲ	AⅠb			褐灰	
236	5EP101			9.8	5.8	2.7		0.28	10	13	土師質土器	Ⅲ	AⅡc		内外面炭化物付着	黒褐	
237	5EP24			10.0	6.0	2.0		0.20	2	8	土師質土器	Ⅲ	AⅡc		口縁部タール付着	にぶい橙	
238	6EP115			10.6	6.8	2.2		0.21	6	8	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内面タール付着	にぶい黄橙	
239	P231				5.0					10	青磁（龍泉窯系）	椀	Ⅱa			灰	
240	P573			11.0	7.5	3.0		0.27	6	12	土師質土器	Ⅲ	AⅠa			にぶい橙	
241	P291			24.3	11.0	11.0			15	27	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅲ	卸目なし、海綿骨針、静止糸切り	灰	SD1203-8-2、3F20、4E1Ⅳ、3F21、5F7Ⅳ、6F21Ⅳ
242			表土	48.0					2		珠洲焼	甕	a	Ⅰ	浅い平行叩き、海綿骨針	灰	
243		10B7			11.6					16	珠洲焼	甕		？	静止糸切り	灰	4区地点不明、表土、4区
244		6F21	Ⅳ	27.6			36.2		5		珠洲焼	壺T	b	Ⅱ	細い平行叩き、長石粒 北沢窯？	灰白	5F3Ⅳ、5E16Ⅳ、3F25Ⅳ、3G2、SK4271、1E15、3F21、3F24Ⅳ、4E25Ⅳ、4区、5F17Ⅳ、5G2Ⅳ、5G8Ⅳ、5F19Ⅳ、5E2Ⅳ、5E24Ⅳ、2・3区、5F25、5G14Ⅳ、5FP40、6CP40、6C16Ⅳ、6F9Ⅳ、6F19Ⅳ、7D1Ⅳ、7G10Ⅳ、8F4Ⅳ、8E13Ⅳ、10B17、表土、P935、SD233、SK37
245		5E25	Ⅳ	10.6					21		珠洲焼	壺R	a	Ⅱ	長石粒多、肩波状文、北沢窯？	灰	4E24Ⅳ、SK2002-4E23、4E25Ⅳ、4E24Ⅳ
246		5D21	Ⅰ								珠洲焼	壺R	a	Ⅳ？	海面骨針	灰	2F20、3F1、5E19Ⅳ、5E24、5F7、5E21、10C2、表土、2F16、4F18Ⅳ、SK618
247		2G15		8.4					3		珠洲焼	壺R	b	Ⅱ？	長石、海綿骨針	灰	5F14Ⅳ、SK2034、5F7、5F17、5F22Ⅳ、5G8Ⅳ、ハイド
248		3G7		10.5					7		珠洲焼	水瓶・水注		？		暗灰	5G3Ⅳ
249		6E12	Ⅳ								珠洲焼	水瓶・水注		Ⅰ	四耳？	灰	6G20、8F17、SK2047フク土、表土、4E4Ⅳ、4F18Ⅳ、5F10Ⅳ、7F10Ⅳ、8F22Ⅳ、11D15
250		5F15	Ⅳ	33.3	12.0	12.1			8	13	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅳ	櫛目9本、ロクロ目強く櫛は下半のみ、静止糸切り	暗灰	5F20Ⅳ、6G14Ⅳ、2E4、5D21Ⅱ、7F11Ⅳ、SK94、6F16Ⅳ、SD62、5EP18、5F24Ⅳ
251		2F4		19.4					3		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ	海面骨針	灰	
252		8E19	Ⅳ								珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅲ	櫛目14本	灰白	8E24Ⅳ、8F14Ⅳ
253		2E19		30.0					3		珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅱ～Ⅲ		灰白	3F17、4E24Ⅳ
254		5F24	Ⅳ		13.0					12	珠洲焼	鉢・片口鉢	－	Ⅳ古	櫛目14本、静止糸切り	灰	
255		不明		44.6					1	1	常滑	甕	Ⅲ型式	12後		暗灰	
256		8A17Ⅳ		7.4	6.0	1.2		0.16	17	18	土師質土器	Ⅲ	AⅠa			にぶい黄橙	
257		7D25			7.0					35	土師質土器	Ⅲ	AⅠa			にぶい黄橙	
258		6F15Ⅳ		8.2	7.0	1.5		0.18	26	27	土師質土器	Ⅲ	AⅠa			にぶい橙	
259		5F14Ⅳ		8.0	6.4	1.5		0.19	12	20	土師質土器	Ⅲ	AⅠa			にぶい橙	
260		5F15Ⅳ		7.4	7.0	1.5		0.20	20	23	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		口縁～内面タール付着	橙	
261		5E20Ⅳ		7.9	6.8	1.5		0.19	7	10	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい黄橙	
262		5E		8.0	7.1	1.5		0.19	1	14	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内外面全体タール付着	にぶい橙	
263		5E20Ⅳ		7.4	7.0	1.4		0.19	15	18	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
264		8D11Ⅳ		7.6	6.6	1.5		0.20	23	28	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
265		8E5Ⅳ		7.2	6.2	1.3		0.18	20	20	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			にぶい橙	
266		8F3Ⅳ		7.0	6.0	1.5		0.21	5	11	土師質土器	Ⅲ	AⅠc		内面炭化物付着	橙	
267		8G16Ⅳ		7.6	7.0	1.5		0.20	7	7	土師質土器	Ⅲ	AⅠc			浅黄橙	
268		7F11Ⅳ		11.0	7.6	2.4		0.22	3	9	土師質土器	Ⅲ	AⅡa		口縁部タール付着	にぶい橙	
269		7F11Ⅳ		11.0	8.6	2.4		0.22	4	6	土師質土器	Ⅲ	AⅡa			浅黄橙	
270		7E1Ⅳ		11.8	8.0	2.8		0.24	4	13	土師質土器	Ⅲ	AⅡc			にぶい黄橙	7C1Ⅳ
271		2区北		13.0	7.0	3.1		0.24	2	36	土師質土器	Ⅲ	AⅡc			にぶい橙	

別表2　遺物観察表（9）

土器・陶磁器（9）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
272		5G14Ⅳ		12.8	6.8	3.6		0.28	16	18	土師質土器	Ⅲ	AⅡd		内面炭化物付着	浅黄橙	
273		不明			7.4					20	土師質土器	Ⅲ	AⅡe			灰白	
274		不明			8.0					36	土師質土器	Ⅲ	AⅡe			浅黄橙	
275		7F17Ⅳ		11.8	8.0	3.7		0.31	2	6	土師質土器	Ⅲ	AⅡe		内外面炭化物付着	灰黄褐	
276		表土		11.8	8.0	2.9		0.25	1	19	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
277		6E23Ⅳ		12.0	8.0	2.8		0.23	1	8	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内面全体黒色炭化物	にぶい黄橙	
278		5G8Ⅳ		12.4	7.5	3.0		0.24	2	11	土師質土器	Ⅲ	AⅡf			浅黄橙	
279		8F17Ⅳ		12.2	9.0	2.9		0.24	6	12	土師質土器	Ⅲ	AⅡf		内面タール付着	浅黄橙	
280		7G15		8.4	6.1	1.9		0.23	7	9	土師質土器	Ⅲ	BⅠa		金雲母目立つ	にぶい黄橙	
281		8F12Ⅳ		8.6	7.0	1.5		0.17	8	12	土師質土器	Ⅲ	BⅠa			灰黄褐	8F7
282		7G15		12.4	8.4	2.5		0.20	23	24	土師質土器	Ⅲ	BⅡa			にぶい黄橙	
283		8F6Ⅳ		12.0	8.0	2.0		0.17	2	4	土師質土器	Ⅲ	BⅡa			にぶい黄橙	
284		8G1Ⅳ		13.2	9.8	2.5		0.19	8	6	土師質土器	Ⅲ	BⅡa		内外面タール付着	にぶい橙	8F22
285		5F18Ⅳ		11.8	6.0	3.1		0.26	21	26	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		内面口縁から見込みにかけて帯状に炭化物	橙	
286		9C10		11.6	8.0	2.7		0.23	12	17	土師質土器	Ⅲ	BⅡb		内外面炭化物付着	にぶい黄橙	
287		8E14Ⅳ		11.4	7.0	3.0		0.26	2	7	土師質土器	Ⅲ	BⅡb			にぶい橙	
288		4C25Ⅰ		12.4	8.6	3.0		0.24	7	9	土師質土器	Ⅲ	BⅡc			橙	
289		8F23		11.4	8.0	3.3		0.29	8	14	土師質土器	Ⅲ	BⅡc		内面炭化物付着	橙	
290		8E5Ⅳ		13.0	10.0	3.3		0.25	5	7	土師質土器	Ⅲ	BⅡc		内面炭化物付着	にぶい橙	
291		7E22Ⅳ		9.2	6.0	1.5		0.16	9	9	土師質土器	Ⅲ	CⅠa			褐灰	
292		5F20Ⅳ		8.0	6.0	1.9		0.24	9	9	土師質土器	Ⅲ	CⅠb			明褐灰	
293		7G22Ⅳ		7.6	6.0	1.4		0.18	11	12	土師質土器	Ⅲ	C1c			明褐灰	
294		5G17		7.0	5.0	1.3		0.19	13	13	土師質土器	Ⅲ	CⅠc			褐灰	
295		3F4		11.6	7.5	2.8		0.24	20	22	土師質土器	Ⅲ	CⅡa			にぶい橙	7G8Ⅳ
296		6F17Ⅳ		13.4	8.0	3.0		0.22	16	22	土師質土器	Ⅲ	CⅡa		内面タール付着	橙	6E23Ⅳ
297		8F25Ⅳ		14.2	9.0	2.9		0.20	7	10	土師質土器	Ⅲ	CⅡa		内面タール付着	にぶい橙	
298		6F2Ⅳ		13.2	7.4	3.4		0.26	4	7	土師質土器	Ⅲ	CⅡb			にぶい橙	
299		7E20Ⅳ		5.8	4.0	1.6		0.28	16	19	土師質土器	？	不明			にぶい黄橙	合算
300		2E1		（摘み径）	4.1	2.3			18		土師質土器	蓋	－			にぶい黄橙	蓋
301		5F7	Ⅳ	7.8					17		古瀬戸	Ⅲ	入子	前2～中			SE2049、6E23Ⅳ、6EP48フク土、Tr3
302		8F23		17.6					4		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	5FP51、11C10
303		7F7	Ⅳ	16.7					3		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
304		6E12	Ⅳ	16.5					5		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	4区9B9C-EWベルト
305		6FP29		17.0					3		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
306			表土						1		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	6F12Ⅳ
307		6E23	Ⅳ						1		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
308		8D15	Ⅳ								青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
309		4E19	Ⅳ						1		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
310		8E21	Ⅳ						1		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
311		6G	Ⅳ	16.0					4		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	7E23Ⅳ、7F2Ⅳ、SK5-115
312		7F23	Ⅳ	17.0					4		青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰白	
313		7F22	Ⅳ		5.4					7	青磁（龍）	椀	Ⅱb	13前	鎬蓮弁	灰	SK2042-18、SD2005フク土、SD24-4、SK5、6D18Ⅰ、7G11Ⅳ、8C19Ⅳ、9C排水路、EWベルト6E4・5
314		6E25	Ⅳ	16.0					5		青磁（龍）	椀	Ⅰ1		被熱	灰黄褐	
315		7D17			3.7					8	青磁（龍）	小椀	Ⅲ2c	13中～14初	？	灰白	
316		10B1		23.0					2		青磁（龍）	盤	ⅢorⅣ	13中～14初		灰白	
317		6F3	Ⅳ	14.0					3		青磁（龍）	杯	Ⅲ3b	13中～14初	見込蓮弁	灰白	

別表2　遺物観察表（10）

土器・陶磁器（10）

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	最大径（cm）	高さ／口径	口縁部残存（/36）	底部残存（/36）	種別	器種	分類	時期	調整・文様等	色調（外）	同一個体
318		7E24	Ⅳ	19.6					1		青磁（龍）	杯	Ⅲ3borⅣ	13中～14初	見込蓮弁	灰白	
319		7F6	Ⅳ	12.2	5.8	4.7			15	14	青磁（龍）	杯	Ⅲ3b	13中～14初	見込蓮弁	灰白	6E11Ⅳ、6E18Ⅳ、8C19Ⅳ、6E1Ⅳ、表土
320		8F13	Ⅳ		4.5					9	青磁（龍）	杯？	Ⅲ4？	13中～14初？		灰白	
321		不明		9.4		1.7			24		青白磁	壺蓋	12c			灰白	
322	5EP6			14.4					12		白磁	椀	X-2	13後～14初	型文浮文	灰白	5E19Ⅳ、SD16Ⅳ、5E、5E2Ⅳ、5E16Ⅳ、5F1Ⅳ、5F7Ⅳ
323		8D16	Ⅳ								白磁	椀	X	13後～14初	型文浮文	灰白	
324		7F22		15.0					2		白磁	椀	Ⅴ4orⅧ1orⅧ3	？		灰白	
325		8E21	Ⅳ		6.2					12	白磁	椀	Ⅴ	？		灰白	7E4Ⅳ
326		8E14	Ⅳ		4.0					10	白磁	小椀	X		型文浮文	灰白	
327		6E23	Ⅳ		5.6					26	白磁	Ⅲ	Ⅸ1	13後～14前	全面釉	灰白	6E17Ⅳ、7E20Ⅳ
328		8G6			5.6					5	白磁	Ⅲ	Ⅸ1	13後～14前	全面釉	灰白	
329			表土		5.8					15	白磁	Ⅲ	Ⅸ1	13後～14前	全面釉	灰白	
330		5E24	Ⅳ	10.4					8		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉、口禿げ	灰白	
331		8D13	Ⅳ	11.0					5		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
332		8F20		12.0					3		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
333		6E22	Ⅳ	11.0					3		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
334			表土	11.2	6.0	2.7			8	7	白磁	Ⅲ	Ⅸ1c	12後～14前	口禿	灰白	
335			表土	15.5					3		白磁	椀	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
336		4区		10.6					3		白磁	Ⅲ	Ⅸ	13後～14前	全面釉	灰白	
337		9C3									白磁	？	X？		型文浮文	灰白	
338		9B4									白磁	小水注	X？		型文浮文	浅黄	
339		8D5	Ⅳ	7.6					5		白磁	合子蓋	X		型文浮文	灰白	9C18
340			表土		3.4					17	白磁	小壺	X？		型文浮文	灰白	
341		4区		5.0					7		白磁	合子	X？		型文浮文	灰白	

別表2　遺物観察表（11）

土製品

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	種別	縦（cm）	横（cm）	穴径（cm）	最大径（cm）
342	SD6012	11C		土錘	7.0	5.0	1.0	
343		排水路		土錘	7.5	4.5	1.2	
344		5E13	Ⅳ	土錘	2.8	3.5	2.2	
345	SK39	5G25 6G21		羽口	16.0			9.2
346		6F7	Ⅳ	羽口	10.5			
347		2G21		羽口	10.8			
348		6F6	Ⅳ	羽口	10.7			
349	SE174-4	6F19		羽口	5.4			
350	SD977-8			羽口	7.7			

金属製品

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	種別	素材	縦（cm）	横（cm）	厚さ（cm）	重量（g）
351		3G11		椀形滓		7.8	7.4	4.5	208.38
352			表土	鉄塊		8.4	6.7	2.3	301.43
353				板状	鉄	5.3	3.2	1	39.89
354		6G5		双鳥鏡	銅	8.8	8.8		74.6
355	SK623			斧	鉄	8.2	5.0	0.8	92.8
356		2E20		鎌	鉄	7.8	12.9		26.8
357	SD2006	10C2		和釘	鉄	21.9	2.2	1.1	97
358	SD1165	7B4	1	和釘	鉄	19.3	1.8	1.0	91.8
359	9BP65		フク土	和釘	鉄	8.2	0.8	0.6	6.2
360		6F12	Ⅳ	和釘	鉄	5.8	1.0	0.8	14.9
361				和釘	鉄	3.8	0.7	0.7	3.7
362	SE241		2	和釘	鉄	7	0.7	0.4	4.6
363	SD1213			刀子	鉄	10.8	2.6	0.6	21.3
364		2F14		刀子	鉄	8.1	2.3	0.3	10.2
365		2E20		飾り金具	鉄	14.5	3.5	0.3	63.6
366	SD348			把手	銅？	円環径（2.75）	太さ（0.4）	全長（5.2）	12.8
367	SD1165			円管	鉄	10.5	3.0	0.7	64.5
368		7F18	Ⅳ	不明	鉄	3.4	4.5	0.9	19.4
369		7F1	Ⅳ	不明	鉄	2.6	3.6	0.5	12.9
370	SK2042			不明	鉄	7	2.1	0.6	25.8
371		6F12	Ⅳ	不明	鉄	6.6	4.2	0.7	38.7
372	SD2005	10C21	フク土	不明	銅？	4.2	3.6	0.5	2.4
373			表土	不明	銅？	4.6	1.8	0.7	20.2
374				不明	銅？	3.1	4.2	0.5	22.2
375		5F6	Ⅳ	不明	銅？	3.8	3.9	0.5	20.1
376		5F3	Ⅳ	不明	銅？	2.3	1.8	0.3	5.3
377		3G1		不明	？	2.3	3.5	0.1	4.4

石製品

報告No.	遺構No.	グリッド	層位	種別	素材産地	縦（cm）	横（cm）	厚さ（cm）	重量（g）
378			表土	石鍋	西彼杵	口径（17.6）			
379	SK5012			硯	鳴滝	2.5	4.9	1.2	22.9
380		5F4		温石	？	8.3	4.4	1.7	132.2
381	SK2040	5E2	フク土	砥石	天草	6.9	5.3	5.1	208.4
382	SK97			砥石	天草	5.4	8.0	5.7	276.3
383		6D21	Ⅰ	砥石	天草	12.6	4.9	2.9	132.6
384			表土	砥石	？	15.7	5.2	5.7	451.4
385	SD2006			砥石	？	11.4	5.9	4.2	316.7
386				砥石	？	8.9	5.1	2.7	171.0
387		10B9		砥石	？	8.0	4.9	3.1	133.4
388		10C8EW トレンチ		砥石	？	5.9	6.0	4.8	211.8
389		11C5		砥石	？	6.6	4.9	4.6	189.4
390			撹乱	砥石	？	11.0	4.4	3.6	124.8
391		5F14		砥石	？	6.7	2.9	1.6	43.6
392	不明	不明		砥石	？	5.9	3.8	2.2	44.2
393		排水路		砥石	？	6.3	6.4	2.6	138.0
394	SD2007	8F	フク土	砥石	伊予？	9.0	5.2	3.9	242.2
395	SD2006			砥石	？	6.3	5.3	2.3	93.8
396		排水路		砥石	？	6.1	4.0	2.0	54.1
397	SD2005			砥石	？	7.5	3.7	3.6	124.4
398	SK2096	5D24	フク土	砥石	？	4.6	3.1	1.9	35.5
399	SD348- 139			砥石	？	5.9	3.9	1.9	58.2
400		9D排水路		砥石	？	5.0	5.8	2.0	87.6
401	SD2007			砥石	？	6.2	3.5	1.6	37.6
402	SK5-2	7G18		砥石	？	4.2	3.4	1.1	22.8
403	9CP200	9C7	フク土	砥石	鳴滝	8.2	3.2	0.6	24.1
404			表土	砥石	鳴滝	6.3	3.5	1.2	28.9
405		9C24	Ⅳ	砥石	鳴滝	10.0	3.2	1.2	66.1
406	SD37-1			砥石	鳴滝	8.1	3.9	1.1	57.6
407		6G25		砥石	？	14.4	9.4	2.7	498.2
408	5EP108	5E24	フク土	砥石	？	12.1	9.8	7.1	1,103.3
409			表土	砥石	？	20.9	9.4	6.8	1,742.9
410	6EP13	6E11		砥石	？	17.3	13.1	9.3	2,480.0
411	SE2022	6F15		軽石	？	4.2	4.0	4.0	12.7

別表2　遺物観察表（12）

木製品（1）

報告No.	グリッド	建物No.	遺　構	層位	品　名	樹　種	長(口径)(cm)	幅(底径)(cm)	厚(器高)(cm)	径(cm)	木取り	備　　考
412		SB1	P804-1		礎板	ヒノキ科	23.20	6.70	3.35		板目	
413		SB1	P804-4		柱根？	未採取	20.40	11.70	9.80		分割材	全面炭化。柱根のような形
414		SB1	P807		礎板	ヒノキ科	23.90	15.50	5.55		板目	
415		SB1	P801-2		礎板	クリ	27.80	13.60	7.30		柾目	
416		SB1	P801-3		礎板	未採取	28.30	12.10	6.40		柾目	表面柱根のような比較的丁寧な加工
417		SB1	P805-1		礎板	未採取	37.40	14.60	7.00		板目	表面柱根のような比較的丁寧な加工
418		SB1	P806-1		礎板	スギ	36.75	14.30	5.50		板目	
419		SB1	P806-3		礎板	クリ	29.50	14.00	7.70		柾目	表面側面柱根のような比較的丁寧な加工
420		SB1	P806-4		礎板	クリ	30.80	12.60	6.10		柾目	
421		SB1	P821		礎板	スギ	23.90	14.20	6.30		板目	下端炭化
422		SB1	P821-1		礎板	ヒノキ科	26.30	11.75	5.10		板目	下端炭化
423		SB1	P1130①		礎板	スギ	36.05	16.10	8.00		板目	表面削り痕有り
424		SB2	P1108-1		礎板？	モクレン属	34.45	8.80	4.90		分割材	
425		SB2	P1109-2		柱根		43.00	8.30	9.70		芯外分割材	端部平らでない、加工は2方向から。方形
426		SB2	P1109-2		柱根		41.00	12.20	4.90		芯外分割材	
427		SB2	P1112		柱根	クリ	48.15	13.85	14.80		芯外分割材	平底、加工は1方向から。方形
428		SB2	P1134		柱根	クリ	32.00	13.80	13.40		芯外分割材	端部加工は3方向からで平らでない。方形、四隅を削る
429		SB2	P1122		礎板	未採取	28.45	14.20	6.20		柾目	
430		SB2	P1122-1		礎板	クリ	26.80	12.90	6.60		柾目	
431		SB2	P1148		柱根	クリ	44.60	13.60	13.30		芯外分割材	端部の加工は2方向から。平らでない
432		SB3	P1101-2		礎板	クリ	28.05	12.10	7.00		柾目	
433		SB3	P1102-3		礎板	スギ	30.00	15.20	6.70		板目	
434		SB3	P1102-4		柱根	スギ	47.30	13.40	13.60		芯外分割材	端部平らでなくやや斜め。方形、四隅を削る
435		SB3	P1102		礎板2	クリ	28.20	11.90	6.60		柾目	一部炭化
436		SB3	P1103-1		礎板	クリ	28.20	8.50	5.50		柾目	
437		SB3	P1103-3		柱根	スギ	41.20	13.00	13.30		芯外分割材	端部平らで加工は1方向から
438		SB3	P1101		柱根	スギ	31.70	14.30	13.50		芯外分割材	端部平らで加工は1方向から
439		SB3	P1087		礎板	未採取	32.70	12.20	6.40		板目	
440		SB4	P1128		礎板	スギ	29.00	12.60	4.80		板目	
441		SB4	P1129-1		礎板	クリ	28.00	13.60	5.80		柾目	
442		SB4	P1131②	下	礎板	クリ	31.50	15.25	7.50		柾目	平らでなく、凹凸著しい
443		SB4	P1126-1		礎板	未採取	27.70	8.90	4.50		板目	
444		SB4	P1124		礎板	未採取	30.20	7.80	5.60		板目	
445		SB5	7EP55	1	礎板	未採取	27.50	15.50	7.60		板目	下端炭化
446		SB5	6EP47		礎板	スギ	25.80	19.35	6.00		柾目	
447		SB5	6EP75		礎板	スギ	29.00	10.90	3.50		柾目	
448		SB5	6EP75		礎板	スギ	28.10	14.90	7.40		柾目	風化著しい、一部炭化
449		SB5	6EP82		礎板	スギ	32.50	20.70	5.40		柾目	
450		SB5	7EP75	①	礎板	ヒノキ属	23.25	14.40	6.80		柾目	
451		SB5	7EP75	②	礎板	クリ	14.10	9.56	5.30		板目	風化著しい。柱根片か？
452		SB5	6FP32		礎板	スギ	33.20	20.60	5.90		柾目	左右側面にも加工痕有り。表面刃物痕多数有り
453		SB5	SK2017-1	接合	礎板	未採取	28.10	12.85	5.95		柾目	左側面にも加工痕有り。一部炭化
454		SB5	SK2017-2		礎板	スギ	24.50	7.85	4.70		柾目	下端炭化
455		SB5	SK2033		礎板	スギ	25.30	9.00	5.00		板目	刃物痕若干有り
456		SB5・7	SK2075①		礎板	スギ	27.30	21.60	7.80		柾目	
457		SB5・7	SK2075②		柱根	クリ	14.00	15.50	17.20		芯外分割材	端部3方向から加工。平底。方形
458		SB5・7	SK2075③		礎板	スギ	25.10	13.60	6.40		柾目	刃物痕若干有り
459		SB6	6EP99		礎板	クリ	32.20	12.90	8.40		柾目	右側面に 枘穴有り、部材の転用
460		SB6	6EP120		柱根	ケヤキ	50.40	18.20	13.90		芯外分割材	全面に加工痕有り。断面方形に近い。端部ほぼ平ら
461		SB7	6EP41		礎板	スギ	27.80	12.35	4.70		柾目	上下端の切断は鋸か
462		SB7	6EP41	①	礎板	未採取	31.30	13.10	7.00		板目	
463		SB7	6EP93	3	礎板	クリ	24.10	12.20	4.60		板目	
464		SB7	6EP15	③	礎板	スギ	19.10	11.30	5.90		板目	
465		SB7	6EP15	①	礎板	未採取	14.50	13.95	8.00		柾目	
466		SB7	6EP93	②	礎板	クリ	27.30	12.30	4.80		板目	上端風化または欠損
467		SB7	6EP89	②	礎板	スギ	25.10	11.00	4.60		板目	風化著しい。表裏面細かい刃物痕若干有り
468		SB7	6EP89	③	礎板	スギ	27.00	14.60	4.80		板目	

別表2　遺物観察表（13）

木製品（2）

報告№	グリッド	建物№	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
469		SB7	6EP93		柱根	ブナ属	44.70	18.05	13.30	18.05	芯持丸太	風化著しい。一部炭化
470		SB9	P609-1		柱根	スギ	42.20	18.50	15.90		分割材	端部の加工は1方向から。四隅を落とす断面方形
471		SB10	SK98-1		礎板	クリ	33.50	22.70	4.80		板目	
472		SB10	5FP55-2		礎板	クリ	34.95	14.80	6.50		柾目	
473		SB10	6FP40-1		柱根	クリ	24.00	15.70	15.10		芯外分割材	全面に加工痕有り。端部は加工は1方向から。平底。方形
474		SB11	4EP20		礎板	ブナ属	24.50	13.70	5.70		分割材	
475		SB11	4EP1		礎板	クリ	25.30	15.05	8.80		半割材	上端炭化
476		SB11	4EP20		礎板	クリ	23.40	15.00	10.40		半割材	上下端部以外に加工は見られない
477		SB11	4FP11		礎板①	スギ	28.30	18.40	4.90		柾目	上端左右方向からの切断、下端は上下方向から切断
478		SB11	5EP11		礎板	未採取	29.90	14.80	5.20		板目	裏面刃物疵若干有り
479		SB11	5EP18		礎板	スギ	28.70	15.10	6.80		板目	裏面風化著しい
480		SB11	5FP4		礎板②	クリ	25.70	13.50	3.90		板目	下端炭化
481		SB11	5FP4		礎板②	クリ	23.00	12.70	4.50		半割材	
482		SB11	5FP5		礎板	クリ	23.45	11.00	4.65		柾目	
483		SB11	4FP16		礎板	スギ	17.45	9.80	6.60		柾目	
484		SB11	4FP18		礎板②	スギ	15.15	10.85	5.40		柾目	
485		SB13	4EP39		礎板	ブナ属	24.30	17.80	6.40		板目	
486		SB16	P1009-1		礎板	マツ属複維管束亜属	18.65	9.70	4.30		半割材	加工痕は上下端部の切断のみ
487		SB18	P638		柱根	ヌルデ	26.60	16.60	断14.0		芯持丸太	平底
488		SB18	P949		柱根	キハダ	37.60	16.60	断17.0	18.00	芯持丸太	平底
489		SB18	P960		柱根	クリ	51.70	15.20	13.50		芯外分割材	端部は2方向から加工、平らでない
490		SB18	P954		礎板①	クリ	22.10	8.10	3.30		柾目	
491		SB18	P954		礎板②	クリ	20.30	9.40	3.00		柾目	
492		SB18	P959		礎板	ヒノキ	19.70	14.00	3.90		板目	表面にも加工痕有り
493		SB19	P7032		礎板	スギ	27.55	14.90	4.70		板目	表面細かい刃物疵多数有り
494		SB19	9AP5		柱根	スギ	42.30	12.80	14.20		芯外分割材	端部反時計回りに加工。平らでない。炭化
495		SB20	9BP1		礎板	スギ	15.50	9.40	5.50		板目	下端1段高く残して上部は切られている。部材等を再加工したものと思われる
496			P1121①		礎板		20.00	9.10	3.80		板目	下端の切断は鋸か？
497			不明		礎板	カツラ	21.50	15.60	9.30		分割材	上端 枘 出し、部材を転用したも
498			5EP4		柱根		34.25	13.60	12.00		芯持丸太	風化著しい。平底
499			5EP7		礎板№2		15.10	11.70	5.00		半割材	
500			5EP7		柱根№1		19.60	10.30	7.95		芯持丸太	風化著しい
501			7FP74		柱根		23.90	15.00	18.50		芯持丸太	端部は4方向から加工。尖底
502			6EP89	①	礎板		23.40	20.65	11.80		芯持材	
503			6EP115		礎板		27.70	20.20	3.90		柾目	
504			6EP129		礎板		25.50	18.70	5.80		柾目	風化著しい
505			6EP14		礎板		41.50	18.00	9.20		板目	表、左右側面に加工痕有り
506			9BP204	①	柱根		46.10	14.50	12.35		芯外分割材	端部の加工は5方向から反時計回りに。尖底
507			9BP204	②	柱根？礎板？		20.50	10.90	10.55		芯外分割材	上端は乱雑に切断されている柱か部材を礎板に転用か
508			9BP204		礎板		27.80	10.35	4.40		板目	
509			9BP204		礎板		22.70	15.05	9.40		分割材	
510			9BP105		柱根		40.70	18.00	10.80		芯外分割材	端部の加工は2方向から。平底。断面長方形
511			9BP38-4		礎板		19.70	3.20	5.30		板目	
512			9BP38-6		礎板		20.50	10.00	2.60		板目	
513			9BP38		柱根？		36.50	9.90	8.10		芯持丸太	下端断面方形に削り出す
514			9BP201	③	礎板		21.50	16.70	1.60		柾目	表面細かい刃物疵多数有り
515			P130		礎板		28.00	19.60	5.20		柾目	
516			P430-1		礎板		19.10	16.90	6.50		柾目	刃物疵若干有り
517			P430-1		柱根		50.80	13.70	13.30		芯外分割材	断面方形。端部やや斜め
518			P585		柱根		57.50	18.30	12.20		芯外分割材	端部の加工は1方向から。平底。断面方形
519			P979		柱根		47.00	18.80	15.80	18.80	芯持丸太	平底
520			P7054		柱根		49.10	17.20	16.20	17.20	芯持丸太	尖底
521			4FP6		柱根		48.50	16.70	16.30	16.30	芯持丸太	平底
522			5EP92-2		礎板		33.70	15.90	7.40		板目	中央に大きな方形孔（8×6cm）有り。部材を転用

別表2　遺物観察表（14）

木製品（3）

報告№	グリッド	建物№	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
523			7DP15		柱根		30.90	15.90	12.00		芯外分割材	端部は左右2方向から加工。平底。四隅を落とすもの。方形
524			9BP44-1		柱根		38.10	16.50	14.80		芯外分割材	端部3方向から加工。尖底。
525			9BP61		柱根		55.20	13.10	14.10		芯持丸太	樹皮残る。端部ほぼ平ら
526			9BP105		礎板		25.20	16.40	2.30		柾目	刃物疵若干有り
527			SE17-28		井戸側・部材	スギ	78.60	3.60	3.80		板目	上端合欠き状に加工、下端杭状に削る。左側面風化著しい
528			SE17-31		井戸側・部材		42.00	3.50	3.50		板目	上端合欠き状に加工、下端は杭状に削る。左側面炭化しており風化著しい。刃物疵多数有り
529			SE17-32		井戸側・部材		35.60	4.15	3.60		板目	上端合欠き状に加工、下端は杭状に削る。左側面風化著しい
530			SE17-39		井戸側・板材		68.50	9.90	断0.4		板目	
531			SE17-60		井戸側・板材	スギ	42.00	9.15	0.55		板目	
532			SE17-65		井戸側・部材		36.50	3.50	3.50		柾目	上端合欠き状に加工、下端は杭状に削る。正面風化著しい
533			SE17-96		井戸側・部材		81.60	5.30	4.00		柾目	上下端互いに反対側をL字に切り欠く
534			SE17-97		井戸側・部材		67.90	5.00	2.40		板目	中央方形孔（2×2㎝）有り、下端杭状に削る。隅柱？
535			SE17-70		井戸側・板材		47.60	18.00	断1.5		板目	
536			SE17-74		井戸側・横桟		80.20	7.80	断3.4		板目	上下端合欠き状に加工。風化著しく曲がる。刃物疵若干有り
537			SE17-74		板材		38.70	3.05	0.50		柾目	上、下部に穿孔。下の孔には木釘が残る
538			SE17-48		杭		71.80	4.75	断3.2		板目	下端削り
539			SE17-78		杭		72.85	4.80	2.50		板目	下端削り
540			SE147-3		大型曲物・水溜	スギ			35.00	66.80		
541			SE168-1		大型曲物・水溜	スギ			61.40	67.10		
542			SE168	2	井戸側・板材	スギ	72.70	43.90	断2.4		柾目	刃物疵若干有り
543			SE168-2		井戸側・板材		59.50	20.70	断0.6		柾目	右端部両面削り。右、下側縁に3か所穿孔
544			SE168-14		井戸側・部材	スギ	40.00	2.75	1.80		板目	上端合欠き状に加工、下端削り。地面に刺して桟などを固定するものか
545			SE168		箸状木製品	スギ	22.60	0.70	0.60			
546			SE168-18		箸状木製品	サクラ	21.80	0.60	0.50			
547			SE168		箸状木製品	スギ	18.20	0.60	0.50			
548			SE168		箸状木製品	スギ	19.70	0.70	0.50			
549			SE168		箸状木製品	スギ	18.40	0.60	0.60			
550			SE168		棒状木製品		12.40	1.95	1.60		板目	上端切れ込みを入れ折り取ったか。用途不明
551			SE168		下駄歯	スギ	9.10	5.05	1.80		柾目	差歯下駄
552			SE169		木錘	コナラ属	12.90	4.15	3.40		芯持丸太	中央に抉り
553			SE174-2		大型曲物・水溜	スギ			46.40	57.60		
554			SE174-3		大型曲物・水溜	スギ			41.50	46.50		内側の側板内面は上下方向のケビキが一周し、外面にも部分的に幅の広い上下方向のケビキと斜格子状のケビキが見られる。下端は割れているが、上端に巻かれた側板には5か所の孔が見られる。その孔は木釘のものよりも大きく、まっすぐ反対側に抜けるようにあけられており、壊れていなければ最低6か所は穿孔してあったものと思われる。棒状のものを刺しこんで使っていたようで、蒸篭の可能性がある
555			SE174-29		井戸側・板材		72.10	7.00	断0.7		板目	上部左右抉り、下端左右削り
556			SE174-？		井戸側・板材		56.45	7.10	断0.5		板目	下端左右削り
557			SE174		井戸側・板材	スギ	27.80	6.70	断0.6		板目	上部左右抉り
558			SE174		杭		37.50	2.00	断1.6		板目	
559			SE174-4		礎板		28.35	14.35	5.00		板目	
560			SE174		曲物底板？	スギ	23.50	3.60	0.70		板目	円形曲物なら直径40㎝ほどになる
561			SE174		箸状木製品	スギ	21.90	0.60	0.60		板目	
562			SE174		箸状木製品	スギ	22.90	0.80	0.40		板目	
563			SE174		箸状木製品	スギ	25.65	0.70	0.40			

別表2　遺物観察表（15）

木製品（4）

報告No.	グリッド	建物No.	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
564			SE174-17		箸状木製品	スギ	19.35	0.70	0.40			
565			SE174-17		箸状木製品	スギ	17.30	0.80	0.55			
566			SE174		箸状木製品	スギ	20.35	0.70	0.55			
567			SE174		箸状木製品	スギ	21.55	0.70	0.50			
568			不明		大型曲物・水溜	スギ			28.40	38.70		
569			SE227-1		大型曲物・水溜	スギ			41.30	54.40		
570			SE229-4		井戸側・横桟	スギ	71.20	4.90	3.30		板目	上下端 枘出し
571			SE229-28		井戸側・板材	スギ	42.60	11.00	断1.0		板目	
572			SE229-30		井戸側・隅柱	スギ	89.90	5.60	5.90		板目	上部に正面からと右からの部材のための 枘穴2つ有り。下端削り
573			SE229-31		井戸側・隅柱	スギ	88.60	7.25	7.10		板目	上端欠損、 枘穴があった可能性有り。中央下側に 枘穴有り。下端削り
574			SE229-34		井戸側・隅柱	スギ	90.50	6.35	5.70		板目	上端欠損、 枘穴があった可能性有り。下端削り
575			SE229-35		井戸側・隅柱	スギ	95.90	6.65	断4.5		柾目	上端欠損、上部に2方向の 枘穴（3×2㎝）有り。下端は四隅を削る。右側面部分的に炭化
576			SE229		箸状木製品	スギ	13.40	0.60	0.50			
577			SE241-6		井戸側・板材	スギ	62.00	6.40	断0.6		板目	
578			SE241-2		井戸側部材か	スギ	68.70	2.90	1.80		柾目	上端欠損、下端切断。桟か
579			SE241-3		指物・板材（折敷？）	スギ	28.40	12.10	0.65		柾目	焼印有り。上半は再加工して剥ぎ取っていると思われる。右側縁中央に2か所穿孔。刃物疵多数有り
580			SE241		箸状木製品	スギ	16.10	0.60	0.70			
581			SE280-57		棒状木製品		28.80	1.40	1.10			
582			SE280-56		棒状木製品		11.60	1.30	1.00			上端削り、下端欠損
583			SE280-45		箸状木製品	スギ	11.10	0.70	0.60			
584			SE280-45		箸状木製品	スギ	12.90	0.50	0.30			
585			SE280-45		箸状木製品	スギ	7.80	0.60	0.40			
586			SE313-1		井戸側・横桟	スギ	73.20	4.70	2.65		柾目	上端凸、下端凹に加工
587			SE313-2		井戸側・横桟		73.45	4.90	3.70		柾目	上端凸、下端凹に加工
588			SE313-4		井戸側・横桟		73.40	4.30	断2.7		板目	上端凸、下端凹に加工
589			SE313-5		井戸側・横桟		48.15	3.80	2.60		柾目	上端は壊れているが凸と思われる。下端凹に加工
590			SE313-？		井戸側・横桟		74.20	4.40	2.80		柾目	上端凸、下端凹に加工
591			SE313-？		井戸側・横桟		73.35	4.95	3.90		板目	上端凸、下端凹に加工
592			SE313-？		井戸側・横桟	スギ	26.00	3.80	断2.2		柾目	上端凸、下端は壊れているが凹と思われる
593			SE376-22		指物・部材	スギ	36.10	4.80	1.80		柾目	板材の厚みは0.9㎝。上部に穿孔、差し込んだ材を木釘で固定している。左側縁の上部、下部にも穿孔
594			SE376		箸状木製品	スギ	23.30	0.55	0.50			
595			SE376		箸状木製品	スギ	21.30	0.55	0.40			
596			SE376		箸状木製品	スギ	22.60	0.50	0.40			
597			SE378		棒状木製品		26.20	1.40	断0.8			断面楕円形、下端削り。下端炭化
598			SE378-33		棒状木製品		31.30	1.60	断1.1			断面円形、下端やや細く削る。柄か
599			SE378		箸状木製品	スギ	23.00	0.60	0.50			
600			SE378		箸状木製品	スギ	21.65	0.95	0.50			
601			SE378		箸状木製品	スギ	23.10	0.55	0.45			
602			SE378		箸状木製品	スギ	18.10	0.65	0.55			
603			SE378		箸状木製品	スギ	23.00	0.70	0.50			
604			SE378		箸状木製品	スギ	23.90	0.70	0.55			
605			SE384		板材		10.30	5.10	0.30		柾目	表裏とも若干刃物疵有り
606			SE384		箸状木製品	スギ	22.30	0.80	0.45			
607			SE384		箸状木製品	スギ	20.50	0.70	0.70			
608			SE384		箸状木製品	スギ	23.20	0.80	0.70			
609			SE384		箸状木製品	スギ	22.50	0.70	0.70			
610			SE421-1		大型曲物・水溜	スギ			55.10	53.50		
611			SE421		大型曲物・水溜	スギ			46.50	59.40		
612			SE421-42		井戸側・横桟	スギ	37.60	4.15	断1.8		柾目	上端欠損、下端を凸 枘出し
613			SE421-44		井戸側・横桟	スギ	45.20	4.30	断1.9		柾目	上下端とも欠損

別表2　遺物観察表（16）

木製品（5）

報告No.	グリッド	建物No.	遺　構	層位	品　名	樹　種	長(口径)(cm)	幅(底径)(cm)	厚(器高)(cm)	径(cm)	木取り	備　　考
614			SE421-52		井戸側・横桟		83.20	5.10	断3.6		板目	上端凹、下端欠損しているが凹に加工と思われる
615			SE421-53		井戸側・横桟	スギ	48.35	4.65	断2.1		柾目	上端凸に加工、下端欠損。若干刃物痕有り
616			SE421-55		井戸側・横桟	スギ	37.35	4.65	断2.0		柾目	上端凸、下端欠損。刃物痕若干有り
617			SE421-56		井戸側・横桟	スギ	42.25	4.75	断2.3		柾目	上端欠損、下端凹に加工
618			SE421-84		井戸側・横桟		79.50	6.20	断5.1		板目	上下端合欠き状に加工。下端切り欠いた部分には木釘が残る
619			SE421-90		井戸側・横桟		84.30	5.75	断3.3		板目	上下端とも凹に加工、他の材の圧痕残る
620			SE421-99		井戸側・横桟	スギ	41.50	4.00	断3.2		柾目	上端凸、下端欠損
621			SE421-107		井戸側・横桟	スギ	47.60	4.05	断3.4		柾目	上端凸、下端欠損
622			SE421-127		井戸側・横桟		84.20	4.10	3.50		板目	上下端とも凸に加工。両端の正面側 枘 に他の材の圧痕有り
623			SE421-128		井戸側・横桟		83.40	6.10	断3.5		板目	上下端とも凹に加工
624			SE421		井戸側・横桟		82.00	6.70	断3.4		板目	上下端凹に加工
625			SE421		井戸側・横桟		81.80	5.10	断4.0		板目	上下端凸に加工。刃物痕多数有り
626			SE421		井戸側・横桟		81.30	4.70	断3.7		板目	上下端とも凸。裏面 枘 部に圧痕有り。刃物痕多数有り。一部炭化
627			SE421		井戸側・横桟		82.00	6.75	断4.0		板目	上下端凹に加工。刃物痕多数有り。一部炭化
628			SE421-71		井戸側・板材		97.40	28.15	断1.3		柾目	右、下端部は薄く削る。左右、下側縁に9か所穿孔有り。左側縁には孔に伴う抉り有り
629			SE421-82		井戸側・板材		85.50	5.25	断0.7		板目	上端欠損。下端は折り取りか。板の上部、中央付近と下部の3か所に穿孔
630			SE421-86		井戸側・板材		76.40	25.60	断2.2		板目	
631			SE421-133		井戸側・板材		107.30	28.30	断1.5		柾目	左右、下側縁に11か所穿孔。左側縁の穿孔には抉りが伴い、右、下端部は薄く削られている
632			SE421-134		井戸側・板材		85.50	12.10	断0.8		柾目	左右側縁に8か所穿孔。右、下端部を薄く削る
633			SE421-135		井戸側・板材		94.60	31.70	断1.2		柾目	左右端部を薄く削る。左右、下側縁に7か所穿孔。左、下端部は孔に伴う抉り有り
634			SE421-138		井戸側・板材		89.10	29.40	断1.2		柾目	左右、下側縁に12か所の穿孔有り。左、下端部には孔に伴う抉り有り。右、下端部は薄く削る
635			SE421-142		井戸側・板材		105.60	29.20	断0.8		柾目	左右、下側縁に13か所穿孔。左、下端部には穴に伴う抉り有り。右側縁は薄く削る
636			SE421-9		板材		39.80	17.20	1.20		柾目	表面粗い削り痕有り。井戸側に使用された板材か
637			SE421		板材		17.50	4.50	0.65		板目	6か所に穿孔
638			SE421-120		曲物底板	スギ	47.80	13.80	断0.8		板目	側縁2か所穿孔。3か所樹皮による綴じ穴有り。内外面刃物痕多数有り
639			SE421		折敷か	スギ	21.40	11.35	0.65		柾目	右側縁下部に2か所穿孔
640			SE421-19		箸状木製品		19.90	0.70	0.60			
641			SE421		箸状木製品		23.40	0.60	0.50		板目	
642			SE476		円形板	スギ	9.90	10.15	0.55	10.00	柾目	側縁に1～2か所ずつ穿孔有り。刃物痕表面のみ有り
643			SE476		箸状木製品		14.70	0.60	0.40		板目	
644			SE755-46		井戸側・板材		74.40	6.50	1.50		板目	下端左右削り
645			SE755-46		井戸側・板材		77.10	6.60	1.50		板目	下端左右削り
646			SE755-1		板材		50.75	22.10	0.55		柾目	左側縁2か所と上側縁1か所に穿孔。左端部は丸く加工
647			SE755-9		杭		23.40	2.30	断1.4		板目	下端削り
648			SE755-2		杓子形木製品	スギ	18.90	6.50	1.60		柾目	一部炭化
649			SE755-6		柄振	スギ	14.40	60.20	3.00		柾目	一部炭化。使用による摩耗見られる
650			SE755-13		箸状木製品	スギ	19.30	0.55	0.40			
651			SE755-13		箸状木製品	スギ	20.50	0.45	0.30			
652			SE755-13		箸状木製品	スギ	20.00	0.50	0.40			
653			SE755-13		箸状木製品	スギ	20.65	0.50	0.28			
654			SE755-13		箸状木製品	スギ	18.90	0.60	0.35			
655			SE755-21		箸状木製品	スギ	22.00	0.55	0.55			
656			SE755-21		箸状木製品	スギ	21.40	0.80	0.45			
657			SE755-21		箸状木製品	スギ	22.35	0.65	0.45			
658			SE755-21		箸状木製品	スギ	21.00	0.70	0.30			

別表2　遺物観察表（17）

木製品（6）

報告No.	グリッド	建物No.	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
659			SE755-21		箸状木製品	スギ	15.10	0.45	0.30			
660			SE910-35		丸木舟・井戸側	スギ	105.50	77.70	6.00		板目	木の周縁部を使用
661			SE910-10		用途不明品		12.40	3.90	2.05		板目	
662			SE910-7		箸状木製品		21.20	0.70	0.40			
663			SE910-29		箸状木製品		18.20	0.60	0.40			
664			SE911-146		大型曲物・水溜	スギ			42.30	58.90		側板上端は斜めに削り取られる。下端には底板のための削りと木釘穴（方形木釘残る）有り。側板間には隙間を占めるための薄い割り板材を2枚つめる。内面に漆付着
665			SE911		板材		25.45	8.50	0.60		柾目	右側縁下部に2か所穿孔、折敷か
666			SE911-101		井戸側・横桟	スギ	74.85	5.10	断4.7		柾目	上下端凸に加工
667			SE911-103		井戸側・横桟		80.50	5.90	断3.7		板目	上下端凸に加工
668			SE911-104		井戸側・横桟		81.40	5.30	断5.4		柾目	上下端凸に加工
669			SE911-106		井戸側・横桟		81.60	8.30	断4.9		板目	上下端凸に加工
670			SE911-108		井戸側・横桟		83.00	6.60	断4.2		柾目	上下端凸に加工
671			SE911-59		井戸側・板材	スギ	58.90	18.60	断0.7		柾目	左右側縁に6か所穿孔。下部の孔は割れ目の両側にあけられている。右端部薄く削る
672			SE911-62		井戸側・板材		75.30	28.00	断0.6		柾目	右、下側縁には少なくとも4か所穿孔。右側縁下の孔には木釘が残っており、抉りが伴う。左端部は割れているため孔か抉りか不明
673			SE911-64		井戸側・板材		79.90	35.20	断1.4		柾目	左右、下側縁に2つずつ、5か所穿孔有り
674			SE911-87		井戸側・板材		77.60	21.10	断2.2		柾目	比較的厚い板材。一部炭化
675			SE911-88		井戸側・板材		80.00	20.50	断1.9		柾目	表面下部を粗く削り、薄く仕上げる。刃物疵有り
676			SE911-99		井戸側・板材		67.00	31.65	断1.5		板目	表裏面刃物疵多数有り
677			SE911-99		井戸側・板材		65.20	36.50	断1.3		柾目	左右、下側縁に2つずつ4か所に穿孔されており、孔に木釘残る
678			SE911-100		井戸側・板材		60.10	16.50	断1.0		柾目	左右、下側縁に10か所穿孔。右側縁以外の孔は2つずつあける
679			SE911-113		井戸側・板材		76.40	21.30	断1.0		板目	上端炭化
680			SE911		井戸側・板材		70.70	41.45	断1.3		柾目	
681			SE911-107		井戸側・隅柱	スギ	73.00	7.70	断5.7		板目	2方向からの横桟を受ける方形孔有り。上（3.5×2.8）下（3.5×2.5）
682			SE911-108		井戸側・隅柱		70.80	6.40	断5.8		板目	2方向からの横桟を受ける方形孔有り。上（3.5×2.5）下（3×2.5）。一部炭化
683			SE911-109		井戸側・隅柱		70.80	7.40	断7.9		柾目	2方向からの横桟を受ける方形孔有り。上（4×2.5）下（3.5×2.5）
684			SE911-110		井戸側・隅柱		73.50	7.50	断5.9		板目	2方向からの横桟を受けるための方形孔有り。上（3×2.5）下（3×2）。刃物疵若干有り
685			SE911-111		板材		46.70	10.50	断0.8		柾目	比較的丁寧な削り。井戸側に使用されたものか？　形は曲物の側板間に差し込むゆるみ解消のための板材と似ている
686			SE911-136		部材		12.15	5.65	1.70		柾目	上端欠損、下端凹に加工。横桟か？
687			SE911		曲物底板	スギ	14.40	14.30	0.90	14.40	柾目	木釘穴は見られない
688			SE911		漆塗皿	ケヤキ	8.40	5.70	1.50		横木柾目	内外面黒漆塗り。円盤高台
689			SE911		漆塗皿	未採取	9.00	6.60	1.50		横木柾目	内外面黒漆塗。総高台。内面と底部外面に刃物疵有り
690			SE930-8		井戸側・横桟	スギ	80.00	6.85	断4.7		板目	上下端合欠き状に加工。上端の枘には木釘が残る
691			SE930-9		井戸側・横桟		78.50	6.50	断4.4		板目	上下端合欠き状に加工。上端の枘には木釘が残る
692			SE930-1		曲物側板	スギ	5.70	19.60	0.40		柾目	ケビキ有り
693			SE930-6		用途不明品		20.15	3.00	1.90		柾目	
694			SE947		大型曲物・水溜	スギ			19.60	44.10		
695			SE1005-47		井戸側・横桟	スギ	78.50	6.00	断5.0		板目	上下端部凸状に加工
696			SE1005-48		井戸側・横桟		79.75	8.55	断3.8		柾目	上下端部左右を削る
697			SE1005-20		井戸側・板材	スギ	86.50	18.50	断2.4		板目	
698			SE1005		曲物底板	スギ	13.80	5.30	断0.7	約13.5	柾目	No.4
699			SE1005-11		用途不明品		29.70	8.10	断1.6		板目	
700			SE2022-1		丸木舟・井戸側	スギ	98.80	11.60	36.00			

別表2　遺物観察表（18）

木製品（7）

報告№	グリッド	建物№	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
701			SE2022-2		丸木舟・井戸側	スギ	109.20	64.80	48.40			
702			SE2022-4		丸木舟・井戸側	スギ	142.00	62.40	45.20			
703			SE2022		井戸側・横桟	スギ	64.20	5.70	断4.4		柾目	上下端凸に加工。下端に向け薄く削る
704			SE2022		井戸側・横桟		65.00	6.05	断3.6		柾目	上下端凹に加工
705			SE2022		井戸側・横桟		64.40	7.30	断4.9		柾目	上下端凹に加工
706			SE2022		井戸側・横桟		61.20	6.70	断4.1		柾目	上下端凹に加工
707			SE2022-6		井戸側・板材	スギ	112.00	30.60	断1.7		柾目	刃物疵有り
708			SE2022（中）	覆土	箸状木製品	スギ	20.50	0.80	0.50			
709			SE2022		栓か	スギ	7.00	3.00	2.60		板目	正、裏面に細い切れ込み有り。断面円形、下端ややすぼまる
710			SE2002（中）		用途不明品		14.05	1.50	0.65		柾目	丁寧に加工されている。下端薄い
711			SE2002（中）		用途不明品		12.50	2.10	2.10		芯持丸太	上端切断、再加工？下端削り。樹皮残る
712			SE2022		下駄	スギ	13.50	8.60	2.80		板目	連歯下駄。刃物疵有り
713			SE2022	覆土	漆塗稜椀	スギ	32.60	18.80	不明		横木柾目	大型
714			SE2022		箸状木製品	スギ	20.00	0.60	0.55			
715			SE2022		箸状木製品	スギ	14.80	0.80	0.50			
716			SE2022		箸状木製品	スギ	11.90	0.55	0.60			
717			SE2022		箸状木製品	スギ	14.60	0.65	0.65			
718			SE2022		箸状木製品	スギ	10.50	0.80	0.55			
719			SE2026		曲物底板	スギ	6.55	6.30	0.50	6.55	柾目	木釘孔は見られない
720			SE2026		曲物底板	スギ	6.20	4.40	0.35	6.20	柾目	木釘孔は見られない
721			SE2044	砂層	曲物	未採取	22.80	23.80	残11.8		底・側ともに柾目	歪んでいる。側板は4か所綴じている。底板とは木釘で接着
722			SE2049		大型曲物・水溜	スギ			78.30	75.50		
723			SE2049-4		井戸側・板材		47.50	17.25	断6.5		板目	下端左右削り
724			SE2049		井戸側・板材		109.60	14.80	断1.1		板目	下端左右削り
725			SE2049		井戸側・板材		99.50	16.20	断1.1		板目	下端左右削り
726			SE2049		角材		60.60	4.25	2.00		板目	横桟か
727			SE2049	覆土	棒状木製品		25.30	1.10	0.70			下端削り
728			SE2049		棒状木製品		17.70	1.30	1.50		板目	断面円形、下端削り。杭か
729			SE2049		板材		16.30	2.60	0.50		柾目	左側縁に2か所穿孔、折敷か
730			SE2049		斎串？	スギ	14.30	2.60	0.30		柾目	
731			SE2049		杓子形木製品	スギ	24.10	5.70	0.45		板目	
732			SE2049		箸状木製品		24.40	0.70	0.55			
733			SE2049		箸状木製品		22.00	0.55	0.45			
734			SE2049		箸状木製品		23.20	0.60	0.45			
735			SE2050		大型曲物・水溜	スギ			17.30	54.70		
736			SE2044		漆塗皿	スギ	8.40	6.50	1.60		横木柾目	内外面黒漆塗り。総高台
737			SE2044		舟形	スギ	21.7	5.40	3.20		板目	全部で18か所に穿孔、うち4か所には組み合わせ材が残る。表面の加工は丁寧でない
738			SE2044		箸状木製品		10.00	0.70	0.60			
739			SE2044		箸状木製品		9.90	0.45	0.45			
740			SE2066		箸状木製品	スギ	11.60	0.60	0.60			
741			SE2066		箸状木製品	スギ	9.60	0.50	0.40			
742			SE2066		箸状木製品	スギ	7.30	0.75	0.40			
743			SE2066		箸状木製品	スギ	5.50	0.55	0.30			
744			SE2080		大型曲物・水溜	スギ			19.20	48.20		
745			SE5005		大型曲物・水溜	スギ			47.20	55.30		
746			SE5005		井戸側・板材		25.90	7.50	断0.7		板目	刃物疵若干有り
747			SE5005		漆塗皿	ケヤキ	欠	7.00			横木柾目	輪高台。内外面黒漆塗り
748			SE5035		大型曲物・水溜	スギ			29.30	40.10		
749			SE5055		箸状木製品		11.70	0.65	0.35			
750			SE6036		大型曲物・水溜	スギ			53.90	56.60		
751			SE6036		井戸側・板材		30.60	17.30	1.15		板目	下端は1段低く切られている
752			SE6036-1		杭		86.70	8.70	5.50	5.50	柾目	折れて曲がっているために幅は大きくなっている
753			SE6036-2		杭		71.90	6.80	5.00	5.80	芯持丸太	樹皮残る。上端生き
754			SE6036		板材		12.10	12.30	0.75		板目	ケビキ状の刃物疵有り

別表2　遺物観察表（19）

木製品（8）

報告No.	グリッド	建物No.	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
755			不明		大型曲物・水溜	スギ			31.30	63.60		
756			SK6039		板草履	スギ	24.40		0.30		板目	
757			SK6039		箸状木製品		10.10	6.00	5.00			
758			SK6039		箸状木製品		7.80	6.00	6.00			
759			SK5-358		杭		92.40			7.00	芯持丸太	風化のため曲がっている。加工は下端のみ
760			SK5		杭		85.65	7.20	9.80	6.50	芯持丸太	
761			SK5		曲物	スギ			残4.0	10.70	底・側柾目	
762			SK5		曲物底板	スギ	26.40	9.20	1.10	28.50	板目	木釘穴有り。細かい刃物痕有り
763			SK5		曲物底板か	ヒノキ	11.70	8.00	0.30	11.70	板目	木釘孔は見られない。平滑でかなり薄い、底板？
764			SK5-1003		曲物底板	スギ	27.30	13.70	0.60	28.00	柾目	木釘穴は見られない
765			SK5		板材		18.10	2.20	0.70		柾目	下端を削り中央に穿孔する
766			SK5		部材		15.00	1.20	1.20		柾目	下端に向け細くなる。中央に樺皮残り、圧痕有り。折敷の桟を再加工？
767			SK5-85		板材		12.60	1.60	1.20		板目	下部中央に穿孔
768			SK5		板材		17.90	2.35	0.50		柾目	左側面に加工痕
769			SK5		板材		23.70	1.70	0.40		板目	下端削り
770			SK5		燃えさし		14.10	1.60	0.90		柾目	下端炭化
771			SK5-490		漆塗稜椀	ケヤキ	14.00	欠	残3.2		横木柾目	内外面黒漆塗り。口縁端部やや外反
772			SK5		漆塗皿	ケヤキ	8.20	5.70	2.10		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り
773			SK5-991		漆塗皿	ケヤキ	8.50	6.00	1.60		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り
774			SK5		糸巻	スギ	15.10	3.80	1.80		板目	横木
775			SK5		火鑽棒		32.90	1.40	1.30			下端炭化
776			SK5-183		杓子形木製品	スギ	16.00	4.00	0.50		板目	風化著しい
777			SK5-195		杓子形木製品か	スギ	13.30	2.50	0.90		柾目	
778			SK5-200		櫛	イスノキ	2.80	10.30	0.80			梳櫛
779			SK5		櫛	イスノキ	4.50	6.50	0.90		板目	梳櫛
780			SK5		棒状木製品		32.80	1.10	1.30			上下端は細く削る。断面円形
781			SK5		棒状木製品		17.60	2.30	1.80		板目	上端に折り取りか。下端は切断。断面円形。用途不明
782			SK5		箸状木製品	スギ	23.2	0.85	0.66			
783			SK5		箸状木製品	スギ	21.90	0.70	0.50			
784			SK5		箸状木製品	スギ	23.20	0.70	0.30			
785			SK5		箸状木製品	スギ	20.40	0.50	0.40			
786			SK5		箸状木製品	スギ	17.40	0.80	0.30			
787			SK5-264		箸状木製品	スギ	22.00	0.60	0.40			
788			SK5-274		箸状木製品	スギ	20.00	0.65	0.45			
789			SK5-276		箸状木製品	スギ	24.00	0.70	0.45			
790			SK5		箸状木製品	スギ	18.80	0.55	0.40			
791			SK5-278		箸状木製品	スギ	23.80	0.60	0.60			
792			SK5-279		箸状木製品	スギ	23.80	0.60	0.40			
793			SK5-284		箸状木製品	スギ	22.50	0.60	0.40			
794			SK5-301		箸状木製品	スギ	22.50	0.80	0.35			
795			SK5-332		箸状木製品	スギ	20.45	0.60	0.50			
796			SK5-348		箸状木製品	スギ	22.50	0.80	0.40			
797			SK5-385		箸状木製品	スギ	21.80	0.70	0.60			
798			SK5-908		鳥形	スギ	3.10	10.45	0.50		板目	
799			SK5-211		人形？		23.00	2.90	0.49		板目	上端カット、下端に抉り
800			SK5-249		刀子形	スギ	32.00	1.25	0.60		板目	
801			SK5-412		用途不明品		15.20	3.00	0.80		板目	上端欠損。上端に抉り、または穿孔
802			SK5		用途不明品		18.50	3.00	0.90		柾目	上端欠損。上端に抉り、または穿孔
803			SK5-1091		用途不明品		9.80	2.20	0.80		板目	上端欠損。上端に抉り、または穿孔
804			SK5-1100		用途不明品		10.30	1.90	0.65		板目	左端部欠損、右下端棒状に加工
805			SK22-2		棒状木製品		31.90	1.80	1.30			
806			SK22		箸状木製品		18.80	0.50	0.40			
807			SK22		箸状木製品		20.40	0.80	0.50			
808			SK97		箸状木製品		22.60	0.70	0.60			
809			SK210		箸状木製品		23.20	0.60	0.50			
810			SK263		漆塗椀	ケヤキ	欠	7.00	残1.5		横木柾目	（輪）高台剥落。内外面黒漆塗り。内面に赤漆で鳥、外面には赤漆で植物の文様

別表2　遺物観察表（20）

木製品（9）

報告No.	グリッド	建物No.	遺　構	層位	品　名	樹　種	長(口径)(cm)	幅(底径)(cm)	厚(器高)(cm)	径(cm)	木取り	備　　考
811			SK278		曲物	スギ		25.10	9.30		底・側柾目	底板に多数の刃物痕有り。底板の側板と接する部分は削りが見られる。ケビキは部分的で綴じの部分は上下方向にまっすぐ、他の部分は斜めに入れる
812			SK608		棒状木製品		34.60	1.90	1.05		柾目	上下端とも細く削る。断面楕円形
813			SK608		板材		33.40	6.50	0.40		板目	削りは表面のみ、下端左右削り
814			SK608-20		箸状木製品	スギ	24.50	7.50	0.60			
815			SK608-21		箸状木製品	スギ	22.20	1.05	0.60			
816			SK608-25		箸状木製品	スギ	20.10	0.85	0.50			
817			SK608-54		箸状木製品	スギ	23.90	0.80	0.50			
818			SK608		箸状木製品	スギ	22.50	0.85	0.40			
819			SK608-57		箸状木製品	スギ	21.90	0.80	0.40			
820			SK763	6	白木皿	ケヤキ	9.20	6.80	1.90		横木柾目	総高台
821			SK763-3		漆塗皿	ケヤキ	9.50	7.60	1.35		横木柾目	内外面黒漆塗り
822			SK763-1	5	漆塗皿	ケヤキ	15.00	欠	残3.7		横木柾目	内外面黒漆塗り
823			SK763-6	6	箸状木製品		23.10	0.50	0.40			
824			SK763-8		箸状木製品		23.70	0.55	0.50			
825			SK763-8		箸状木製品		20.90	0.60	0.40			
826			SK763-6		棒状木製品		30.10	1.00	0.40			断面半円形、先端を細く削る
827			SK1072	3	箸状木製品		10.40	0.40	3.70			
828			SD2005		箸状木製品		22.90	0.60	0.40			
829			SD2005		箸状木製品		23.00	0.50	0.40			
830			SD2005		箸状木製品		22.20	0.55	0.50			
831			SK2047		漆塗椀	ケヤキ	欠	6.70	残1.5		横木柾目	輪高台。内外面黒漆塗り
832			SK2049		井戸側・板材	スギ	41.10	14.70	断0.9		板目	
833			SK2049		板材		30.90	8.40	0.80		板目	穿孔有り。井戸側内
834			SK2049		棒状木製品		14.70	0.70	0.60			
835			SK2050		板材		14.50	3.00	0.80		板目	左右端部に抉り
836			SK2050		箸？		14.90	0.55	0.30			上半部は断面平らで端部は水平にカット。下半は箸状
837			SK2066	覆土	箸状木製品		23.30	0.40	0.40			
838			SK2066	覆土	箸状木製品		21.30	0.60	0.30			
839			SK2066	覆土	箸状木製品		22.10	0.70	0.60			
840			SK2077		箸状木製品		21.00	0.60	0.40			
841			SK2077		箸状木製品		24.20	0.60	0.40			
842			SK2101		折敷	スギ	20.20	4.40	0.30		柾目	左側縁2か所穿孔
843			SK2101		板材		22.90	2.00	0.50		板目	上下端部に抉り、中央に切れ込み、または穿孔
844			SK2122⑪		漆塗皿	ケヤキ	9.10	6.20	2.20		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り
845			SK2122	覆土	漆塗皿	トチノキ	9.50	6.20	2.15		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り
846			SK6021		部材		10.90	1.10	1.00		柾目	上端折り取り、下端細く削る。下部に穿孔
847			SK6021		板材		20.40	1.80	0.50		板目	上下端部に穿孔有り、中央部やや薄く溝状に削る
848			SK6021		箸状木製品		18.00	0.40	0.60			
849			SK6021		箸状木製品		20.90	0.60	0.45			
850			SK6021		箸状木製品		18.90	0.70	0.25			
851			SK6021		用途不明品		13.00	3.10	2.90		柾目	断面半円形。表、左右側面に削り
852			SK6024		折敷	スギ	27.70	13.30	0.40		柾目	上、右側縁に2か所ずつ穿孔。表裏面刃物痕多数有り
853			SK6024		板材		27.90	4.10	7.00		柾目	上部中央に穿孔。表裏面に多数の刃物痕有り
854			SK6024	覆土	箸状木製品		22.20	0.50	0.50			
855			SK6037		箸状木製品		19.30	0.70	0.50			
856			SD2		部材		179.60	25.10	2.50			
857			SD2		部材		179.10	22.20	2.50			
858			SD2		部材		60.60	5.60	1.30			
859			SD2		部材		60.80	5.30	1.70			
860			SD2		部材		51.90	2.10	2.30			
861			SD2		部材		51.70	2.40	1.60			
862			SD2		部材		52.20	2.60	2.50			
863			SD2		部材		52.10	3.20	2.70			
864			SD2		漆塗稜椀	ケヤキ	欠	7.20	残4.7		横木柾目	内外面黒漆塗り
865			SD2		漆塗稜椀	ケヤキ	12.80	欠	残4.2		横木柾目	内外面黒漆塗り。底部（高台）片有り、底径は7㎝
866			SD2		漆塗皿	ケヤキ	欠	6.00	残1.6		横木柾目	内外面黒漆塗り
867			SD2		漆塗皿			6.60	残1.5		横木柾目	内外面黒漆塗り。円盤高台

別表2　遺物観察表（21）

木製品（10）

報告No.	グリッド	建物No.	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
868			SD2-3		膳	スギ	31.60	25.75	1.20		柾目	脚を木釘で接着。内外黒漆
869			SD977-13		下駄	スギ	14.70	6.65	4.10		板目	連歯下駄。鼻緒孔の内面と表面の一部炭化。風化著しい
870			SD1103	5	折敷？	スギ	19.20	3.70	0.25		柾目	左側縁に2か所穿孔
871			SD1103	5	板材		19.20	3.65	0.30		柾目	風化著しい
872	7B21		SD1203（SD5001）		曲物底板	スギ	9.00	2.50	0.55	5.50	板目	木釘穴は見られない
873			SD1203（SD1165）	3	漆塗椀	ケヤキ	欠	7.00	残4.7		横木柾目	輪高台。内外面黒漆塗り。内外面赤漆で草の文様
874			SD1203（SD1165）	5	漆塗椀	ケヤキ	欠	6.70	残3.3		横木柾目	輪高台。ロクロ止め具痕残る。内外黒漆塗り
875			SD1203	6	漆塗皿	ケヤキ		7.20	2.20		横木柾目	内外面黒漆塗り
876			SD1203		漆塗皿	ケヤキ	8.30	5.90	1.50		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り。つくりは粗く、底部の凹凸を平らに削ることなく漆を塗布
877			SD1203		漆塗皿	ケヤキ	8.30	7.40	1.00		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り。体部の一部や底部には粗い削り痕が残り、そのまま漆塗布
878			SD1203		漆塗皿	ケヤキ	欠	7.00	残0.8		横木柾目	遺構の名称に注意。内外面黒漆塗り
879			SD1203	6	用途不明漆塗製品	ケヤキ	9.80	3.50	3.7／2.3			脚、または把手か？この部分はもとの製品から抜け落ちたものか。全面黒漆塗り
880			SD1203-132		板草履	スギ	24.35	片方4.9	0.22		板目	上部に穿孔
881			SD1203-157		板草履	スギ	24.10	片方5.1	0.40		板目	上部の穿孔は左側だけにあり、右側にはない。削りも左右対称にはならない
882	7C21		SD1203（SD5001）		楔？		12.75	3.50	2.60		板目	
883			SD1203（SD5001）		柄？	スギ	28.80	1.45	1.40			断面円形
884			SD1203-25		棒状木製品		42.50	2.70	2.10		板目	断面方形。上端折り取り
885			SD1203-228	5	棒状木製品		25.30	1.00	0.60			上端炭化
886			SD1203-248	2	棒状木製品		46.80	2.70	2.50			断面方形
887			SD1203（SD1165）		箸状木製品		19.20	0.60	0.40			
888			SD1203（SD1165）	5	箸状木製品		20.70	0.70	0.55			
889			SD1203-200	2	箸状木製品		19.65	0.75	0.50			
890			SD1203-334	5	箸状木製品		16.00	0.85	0.55			
891			SD1203（SD5001）		箸状木製品		18.80	0.60	0.40			
892			SD1203		用途不明品		19.30	2.45	0.80		柾目	類似品数点有り。上端欠損、中央に抉りまたは穿孔
893			SD1203	4～7	部材		23.10	1.60	1.50		柾目	下部薄く削ったところに穿孔。下端炭化
894			SD1203	7	部材		13.00	4.95	4.10		板目	上端 柄出
895			SD1203		板材		32.90	6.60	0.55		板目	
896	7C7		SD1203（SD5001）		板材		13.35	5.70	0.60		板目	下端削り
897			SD1203（SD5001）	覆土	板材		9.30	4.00	0.75		板目	右、下側縁に穿孔。1か所木釘残る
898			SD2005		曲物底板	スギ	24.85	5.55	0.75	34.00	柾目	刃物疵有り
899			SD2005	覆土	曲物底板	スギ	13.40	7.10	0.60	14.50	板目	
900			SD2005（SD348）		漆塗皿	ケヤキ	9.50	6.80	1.30		横木柾目	内外面黒漆塗り。内外面にわずかに赤漆が付着、文様は不明。輪高台
901			SD 2005（SD348）		柄	スギ	28.20	2.85	2.15			断面楕円形。全面に削り痕有り。農具等の柄か
902			SD 2005（SD348-42）		柄	スギ	26.80	2.15	2.80			下端に切れ込み有り。工具柄
903			SD2005（SD348-101）		栓	スギ	8.10	1.70	1.50			下端凸状に削り出す。突出部の先端は若干つぶれる
904			SD2005	覆土	浮子	スギ	14.00	1.20	1.05		板目	断面半円形。上下端に抉り
905			SD2005（SD348-73）		下駄	ケヤキ	5.40	7.00	4.30		柾目	連歯下駄
906			SD2005（SD348-39）		棒状木製品		46.50	2.05	1.90			下端削り。杭か
907			SD 2005（SD348-39）		棒状木製品		16.80	1.05	0.60		板目	下端削り
908			SD 2005（SD348-98）		棒状木製品		30.25	2.00	1.75			断面円形、下端に向けやや細くなる。柄か
909			SD2005	覆土	棒状木製品		50.05	1.70	2.05			下端削り

別表2　遺物観察表（22）

木製品（11）

報告№	グリッド	建物№	遺　構	層位	品　名	樹　種	長（口径）（cm）	幅（底径）（cm）	厚（器高）（cm）	径（cm）	木取り	備　　考
910			SD2005	覆土	箸状木製品		18.50	0.80	0.75			
911			SD2005	覆土	箸状木製品		13.00	0.70	0.60			
912			SD2005	覆土	箸状木製品		12.90	0.75	0.55			
913			SD2005		部材		25.50	2.05	2.05		柾目	上端一段低く加工。下端炭化
914			SD2005（SD348-103）		素材？		11.00	7.00	5.10		心持材	表、左右側面は粗加工
915			SD2005	覆土	板材		25.70	4.90	0.55		柾目	
916			SD2005	覆土	部材		7.85	3.10	3.10		柾目	下端断面方形の凸状に加工
917			SD2006	覆土	曲物底板	スギ	14.50	15.10	1.00	15.00	柾目	木釘穴は見られない
918			SD2006	覆土（砂）	下駄	スギ	18.70	9.55	2.05		柾目	露卯下駄。鼻緒孔は内側炭化
919	8E		SD2006		板材		46.70	8.00	1.30		板目	
920			SD2006		曲物底板	ネズコ	8.10	5.05	0.45	9.00	柾目	木釘穴有り
921			SD2006	覆土	曲物底板	スギ	17.75	3.70	0.55		柾目	円形曲物なら直径約25㎝
922			SD2006	覆土	棒状木製品		23.10	2.00	1.20			柄か。断面方形、下端に向けやや細くなる。右側面炭化。
923			SD2006		箸状木製品		16.50	0.70	0.40			刃物疵有り
924			SD2006		箸状木製品		12.10	0.65	0.45			
925			SD2007		漆塗皿	ケヤキ	8.40	7.30	1.05		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り。底部炭化
926			SD2007		板草履	スギ	10.40	1.90	0.30		柾目	
927			SD2007	覆土	箸状木製品	スギ	17.60	0.40	0.45			
928			SD2007	覆土	用途不明品		10.10	1.70	1.10		柾目	断面半円形
929			SD2007		部材？		14.30	3.70	2.35		板目	右中央部に切り込み。風化著しい
930			SD2007	覆土	板材		27.50	2.95	0.50		柾目	刃物疵有り
931					曲物	未採取	19.70	20.00	高15.7		底・側柾目	内面下半黒色、炭化？木釘穴は見られない
932					曲物	スギ			35.70	44.00		
933	5C3				漆塗皿	ケヤキ	7.70	6.00	1.05		横木柾目	総高台。内外面黒漆塗り
934	7C16				漆塗皿	ケヤキ	8.00	6.60	0.95		横木柾目	内外面黒漆塗り
935			不明		用途不明品		10.70	3.30	5.00			有頭状に加工。柱？

別表2　遺物観察表（23）

銭貨

報告No.	銭　名	国名	初鋳年	出土遺構		グリッド	層位	備考
				種別	No.			
936	開元通寶	南唐	960			2E13		
937	開元通寶	南唐	960			6D15		
	開元通寶	南唐	960			5E16	Ⅳ	
	開元通寶	南唐	960			2E14		SK4付近
	開元通寶	南唐	960			5EP17	フク土	
938	開元通寶	南唐	960			5EP17	フク土	
	開元通寶？	南唐	960			5EP23		
	開元通寶	南唐	960	P	256	5E23	Ⅰ	
	開元通寶	南唐	960	SE	2049			
	開元通寶	南唐	960			5G8	Ⅳ	
	開元通寶	南唐	960			4F1	Ⅳ	
	開元通寶	南唐	960			5F7	Ⅳ	
939	宋通元寶	北宋	960	P	256	5E23	Ⅰ	
940	淳化元寶	北宋	990			5E16		
941	淳化元寶	北宋	990			5EP86	フク土	
942	景德元寶	北宋	1004			7E18		
943	景德元寶	北宋	1004					
944	景德元寶	北宋	1004			5F11		
945	祥符通寶	北宋	1008			4D8	Ⅰ	
	祥符通寶	北宋	1008	SD	？			
	祥符通寶	北宋	1008			—		
946	天禧通寶	北宋	1017			9B13		2枚
	天聖元寶	北宋	1023			5EP6-1		4枚張り付き
947	天聖元寶	北宋	1023			5EP6-6		
948	天聖元寶	北宋	1023			5EP86	フク土	
	天聖元寶	北宋	1023	SD	2005		フク土	
	天聖元寶	北宋	1023	SE	2049			
949	天聖元寶	北宋	1023			7F7		4枚張り付き
950	明道元寶	北宋	1032	SE	2049			
951	景祐元寶	北宋	1034	P	525		1	
952	皇宋通寶	北宋	1038			3E21		
953	皇宋通寶	北宋	1038			4E24	Ⅳ	
954	皇宋通寶？	北宋	1038			2E25		
	皇宋通寶	北宋	1038			5EP23		
	皇宋通寶	北宋	1038				表土	
955	皇宋通寶	北宋	1038			9C10		
	皇宋通寶	北宋	1038			5E17	Ⅳ	
956	皇宋通寶	北宋	1038			—		
957	嘉祐元寶	北宋	1056			5EP6-6		
958	嘉祐元寶	北宋	1056			7G11	Ⅳ	
959	治平元寶	北宋	1064	SD	2007		フク土	
960	治平元寶	北宋	1064			5E17	Ⅳ	
961	熙寧元寶	北宋	1068			5EP6-3		
	熙寧元寶	北宋	1068			5EP6-7		
962	熙寧元寶	北宋	1068			5EP23		
	熙寧元寶	北宋	1068			7G14		
963	熙寧元寶	北宋	1068			8G3	Ⅳ	
	熙寧元寶	北宋	1068			9B7		

報告No.	銭　名	国名	初鋳年	出土遺構		グリッド	層位	備考
				種別	No.			
964	熙寧重寶	北宋	1071			5EP23		
965	元豊通寶	北宋	1078			6E20		
	元豊通寶	北宋	1078			5E20		
	元豊通寶	北宋	1078			2E14		
	元豊通寶	北宋	1078			5EP6-1		SK4付近
	元豊通寶	北宋	1078			5EP6-2		
	元豊通寶	北宋	1078			5EP23		
	元豊通寶	北宋	1078	SK	132			
967	元豊通寶	北宋	1078	SD	1165	5層最下部		
966	元豊通寶	北宋	1078	SK	2003		フク土	
	元豊通寶	北宋	1078			7F9		
968	元豊通寶	北宋	1078			9B7		
	元豊通寶	北宋	1078			8B12	Ⅳ	
969	元豊通寶	北宋	1078			7C6		
	元豊通寶	北宋	1078			—		南北ベルト包含層
970	元祐通寶	北宋	1086			2E14		
971	元祐通寶	北宋	1086			5EP6-1		SK4付近
972	元祐通寶	北宋	1086	P	474		1	
973	元祐通寶	北宋	1086	P	966			
974	元祐通寶	北宋	1086	SK	2003		フク土	
975	元祐通寶	北宋	1086	SK	2003		フク土	
980	元祐通寶	北宋	1086			9B13		
976	元祐通寶	北宋	1086			4区		
977	元祐通寶	北宋	1086	SD	？			
979	元祐通寶	北宋	1086	SE	2049			
978	元祐通寶	北宋	1086	SE	2049			
981	紹聖元寶	北宋	1094			8D13		
982	元符通寶	北宋	1098	SE	2049			
983	元符通寶	北宋	1098			7F9	Ⅳ	
984	聖宋元寶	北宋	1101					
	聖宋元寶	北宋	1101	SE	2049			
985	大観通寶	北宋	1107			7F12		
986	政和通寶	北宋	1111			5EP23		
	政和通寶	北宋	1111	P	256	5E23	1	
987	正隆元寶	金	1157	SE	2049			
988	淳熙元寶他	南宋	1174			5E21		
989	嘉定通寶	南宋	1208			2E15		13枚張り付き
990	紹定通寶	南宋	1228			5EP6-6		
	不明	-	-			7E19	Ⅳ	
	不明	-	-			5EP6-1		
	不明	-	-			5EP23	フク土	
	○和通寶	-	-					4枚張り付き
	不明	-	-	SE	2022			
	不明	-	-	SK	2042		フク土	
	不明	-	-			7F12		4枚張り付き
	不明	-	-			10C7	Ⅳ	

別表3　木製品集計表（1）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
SB1	14	2		2																																					18
SB2	3	5		2																																					10
SB3	7	6																																							13
SB4	5																																								5
SB5	18			3																																					21
SB6	12	2		3																																					17
SB7	14	1		2																																					17
SB8	5	3		3																																					11
SB9	17	1		12																																					30
SB10	6	3		2																																					11
SB11	5	2																																							7
SB12	8			8																																					16
SB13	2	1		1																																					4
SB14	9			4																																					13
SB16	2																																								2
SB17	1	1																																							2
SB18	2	6																																							8
SB19	1	1																																							2
SB20	1			1																																					2
SB21	1			6																																					7
SB22	9			5																																	1						15
SAア	1			1																																						2
SAイ	1																																									1
SAウ	2																																									2
SAエ	4																																									4
SE3				1																				1																		2
SE5				1																																						1
SE43				1																																						1
SE124				1																																						1
SE147				1						1														1																		3
SE166				3																																						3
SE168		1	2	19		1				1	1			1	2									13		1										1						43
SE169																1																										1
SE174				21						3	1	1		2	1		1							12						1						1					2	46
SE221				1																																						1
SE227										2																																	2

別表3　木製品集計表（2）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
SE229				27				5			2													2																		36
SE241				12						1				1			1							2																		17
SE313				2				7																1																		10
SE364																																										0
SE376				13							2													12																		27
SE378				17		1				1				3	1				1	1				33																		58
SE379				1							1			1		1			1					7																		12
SE421		1		113				32		2	2		3	1	2						1			6					1？											2	166
SE462				1																																					1
SE476				4							1	1								1				2																		9
SE620				2																																					2
SE621				2																																					2
SEP622				2																																					2
SE738				1																																					1
SE755			2	15		1				1	2		1	3	2									33	1			1														62
SE910				11				1			1			2					2					6																	1	24
SE911				129						1	8	2								2																					1	143
SE930				5							2																		1？												8
SE947										1																																1
SE1005				29								1		1										3																		34
SE1252				1							3																															4
SE2022				21				3			1			2					1		1			9		1	1		1							1						42
SE2026				4									2	1					1					1																		9
SE2049				20						1				2			1							8				1			1？		1？									35
SE2044				2							1			1			1			1				4										1								11
SE2050				1						1																																2
SE2066				4							2			1		1								9												1						18
SE4217				1																																					1
SE5005				5						2		5								1				2																		15
SE5035				1						1																																2
SE6036				5						1																																6
SE10										1																																1
不明										5																																5
P954	1																																								1
P1121	2																																								2
P807	1																																								1

別表3　木製品集計表（3）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
P821	1																																								1
P1	1																																								1
5EP4	2																																								2
4EP5				1																																				1
4EP16				1																																				1
4EP18				1																																				1
5EP4		1																																						1
5EP7		2																																						2
SK2038				1																																				1
7EP55	1																																							1
7FP74		1																																						1
7EP45		1																																						1
6EP93				1																																				1
6EP89				2																																				2
6FP44	1																																							1
6EP75	1																																							1
6EP94				1																																				1
6EP115	1																																							1
6EP129	1																																							1
5FP55	1			1																																				2
6EP14	2																																							2
9BP204	1	2																																							3
SK6039				3																				1																	4
9BP91	1																																								1
9BP109		1																																							1
SK6032				2																																					2
SK6027				1																																					1
9BP38	1	1		5																																					7
9BP201	4																																								4
9BP37				1																																					1
5FP29	1																																								1
SFP 35																																									0
P30	1																																								1
P118				1																																					1
P124	1																																								1
P130		1																																							1

別表3　木製品集計表（4）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
P142	1																																								1
P143		1																																							1
P212	1																																							1
P222				1																																				1
P273																											1								1						2
P275																																									0
P286	1																																								1
P315		1																																							1
P316				1																																				1
P319		1																																						1
P354		1																																						1
P400	1																																							1
P430	2	1		2																																				5
P437	1																																							1
P489		2																																						2
P529		1																																						1
P522	3																																							3
P557		1																																						1
P559		2																																						2
P583				1																																				1
P585		1																																						1
P609	1	1																																						2
P623	1	1																																						2
P624	5																																							5
P630	2																																							2
P631	1			2																																				3
P730	2	1																																						3
P762				1																																				1
P801				1																																				1
P804				2																																				2
P806				1																																				1
P808	2																																							2
P809				1																																				1
P919	3			3																																				6
P921	1																																							1
P938	1																																							1

別表3　木製品集計表（5）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
P934	1																																								1
P940	1																																								1
P944		1																																							1
P950	1																																								1
P979		1																																							1
P1019							1																																		1
P1086	1																																								1
P1103				1																																					1
P1119				1																																					1
P1117	1																																								1
P1150		1																																							1
P1232		1																																							1
P1161		1																																							1
P1166	1																																								1
P1241		1																																							1
P1686				1																																					1
P7031	1																																								1
P7054		1																																							1
4EP3	1																																								1
4EP22				5										1										1																		7
4EP31	1			1																																						2
5EP8				1																																						1
5EP22				3																																						3
5EP33	2																																									2
5EP34	1																																									1
5EP39		1																																								1
5EP47				4																																						4
5EP51				1																																						1
5EP64		1																																								1
5EP90				1																																						1
5EP92	1	1																																								2
5EP93	1																																									1
5EP96	1																																									1
5EP105	1																																									1
5EP109	1	2																																								3
5EP112	2			1																																						3

別表3　木製品集計表（6）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
5EP118				1																																					1
5EP120				2																																					2
5EP125	4																																								4
5EP141	1																																								1
5EP142	1																																								1
5EP15	4																																								4
5FP30	2			3																																					5
5FP37	1																																								1
5FP40	3																																								3
5FP58		1																																							1
5FP99	2																																								2
5FP405				1																																					1
6EP7				1																																					1
6EP16	1																																								1
6EP21				3																																					3
6EP34	1																																								1
6EP39		1																																							1
6EP15																																								1	1
6EP51	2																																								2
6EP54	1			1																																					2
6EP55	1																																								1
6EP67	2			1																																					3
6EP123	3																																								3
6EP133	1																																								1
6EP140				1																																					1
6EP49																								1																	1
6FP21				1																																					1
6FP29	1																																								1
6FP31	1																																								1
6FP39	1			1																																					2
6FP48		1																																							1
6FP59				1																																					1
7EP6				1																																					1
7EP10		1																																							1
7EP32		1																																							1
7EP54				1																																					1

別表3　木製品集計表（7）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
7EP79	1																																								1
7EP86	1																																								1
7DP10				1																																				1
7DP15		1																																						1
7DP31		1																																						1
7FP11	1																																							1
7FP21				1																																				1
7FP24				4																																				4
7FP26				1																																				1
7FP44	1																																							1
7FP71	1																																							1
8BP2	1																																							1
8BP16		1																																						1
8BP30	2																																							2
8BP35	1																						1																	2
8BP36	1																																							1
8CP1		1																																						1
8DP19				1																																				1
9AP4		1																																						1
9AP13	1																																							1
9BP12		1		1																																				2
9BP13				1																																				1
9BP23				1																																				1
9BP26				1																																				1
9BP49		1																																						1
9BP44	1	1		1																																				3
9BP61		1																																						1
9BP80				1																																				1
9BP94	1																																							1
9BP105	1																																							1
9CP207				1																																				1
SK5			5	198					1		8	5		1					2	3			1	255							1	1？		2		1	2			12	498
SK6				2																				1																	2
SK7				3							1			1										1																	6
SE17				96																																					96
SK22				5										2										5													12				24

別表3　木製品集計表（8）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
SD37				2																				1																		3
SK40				1																																						1
SK72			1																																						1
SK73	1																																								1
SK87	6			1																																					7
SK88	2	1																																							3
SK93	1			1																				3																	5
SK110	2			1																																					3
SK113			1	1																																					2
SK114	2																																								2
SK117	1			2																																					3
SE210				1																				2																	3
SK227				1																				1																	2
SK263				1																1																					2
SK278				2					1		1			1						1																					6
SE280			1	49							7			1										6																	64
SK284				1																																					1
SK311				1																																					1
SK330														1										1																	2
SK386	2																																								2
SK420		1		4																																					5
SK423	6																																								6
SK513				1										1										1																	3
SK518				8																																					8
SK538	1																																								1
SK603				1																																					1
SK607	1																																								1
SK608	3			6							1			1										48																	1	60
SK763	1			3										1						2		1		6																		14
SK813				1																																					1
SK815	1			2										1																												4
SK1073				1																																					1
SK1072																								2																	2
SK1256	1																																								1
SK2001		1		2																																					3
SK2011				1																				1																	2

別表3　木製品集計表（9）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
SK2015																					2			1																		3
6FP18	1																																									1
SK2012				1																																					1
SK2034	1																																									1
SK2035	3	2		4																																						9
SK2039															2																											2
SK2040				1																																					1
SK2042	1			2										1																												4
SK2041	1																																									1
SK2047				2															1																							3
SK2029	1			2																				1																		4
SK2025				3																				2																		5
SK2059				1																																						1
SK2064				1																																			1			2
SK2077	1			1																				3																		5
SK2101				6													1				1			1																		9
SK2114	2			3							1			1										1																		8
SK2121				2							1			1										1																		5
SK2122				4																2				1																		7
SK5003				2																																						2
SK5006				1																	1																					2
SK5009				4					1															1																		6
SK6021				8							2			1							1			6																2	20
SK6023				1																				1																		2
SK6024				2										1			1							2																		6
SK6026				1																																						1
SK6037				1													2							1																		4
6EP93		1																																								1
8EP19	1																																									1
SK5027				2																				1																		3
SD2		1		7														1	2	2				1																		14
SD348		1	2	23	1						1									1	1			4		2										1		1			4	42
SD516				4																				1																		5
SD811				4																				1																	1	6
SD977																																				1						1
SD980																																								1	1

別表3　木製品集計表（10）

	礎板	柱根	杭	部材	竹材	丸木材	板杭	井戸枠部材	曲物	大型曲物	曲物側板	曲物底板	円形板	棒状	炭化材	こもずち	折敷	漆塗盆	漆塗椀	漆塗皿	漆器片	白木皿	白木椀	箸	エブリ	柄	栓	しゃもじ状	ヘラ状	形代	斎串	鳥形	人形	舟形	櫛	下駄	糸巻	火鑽棒	網針	おもり	不明	合計
SD1013				1							1																														2
SD1016				2																																					2
SD1103																	3																								3
SD1156				1							1																														2
SD1165				2							1									2				4																	9
SD1203				43							1		1	2	1				2	6				29														1？		2	88
SD1264	1																																								1
SD内																																								1	1
SD2005			1	15							1	1	3						1					9															1	1	33
SD2006				5					1			1	1										1	3		1										1					14
SD2007				11								1							1	1				3		2															19
SD2065																					1																				1
SD2105																																								1	1
SD5001	1		3	26									1		1						1			7		1													1	42
SD5016			1	1																																				2
SD5017																								1																	1
SD5037																					1																				1
SD	1			7																	1			1																	10
SD71																					1																				1
P1102				1																																				1
SK17				1																																				1
P438				9																																				9
包含層	15	6	5	37					1		1				1	1			1	2				3												1				1	75
合　計	332	101	24	1301	1	3	1	48	5	26	22	18	12	41	13	4	11	1	16	29	13	1	2	592	1	8	1	3	1	3	1	1	2	1	3	8	1	16	1	1	35	2704

図　　版

凡　例

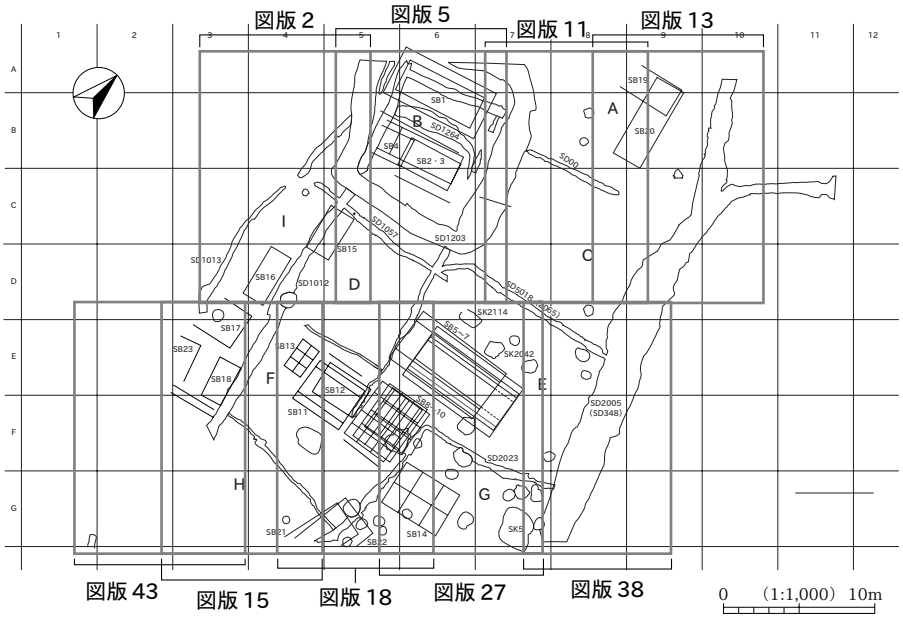
1　遺構個別図はすべて全体図および分割図と同一方位である。

2　遺物のトーン種別は各図版に示した。

3　土器破片の拓本は左側に内面、右側に外面とした。

4　遺物写真の縮尺は219を除き、実測図とほぼ同一である。

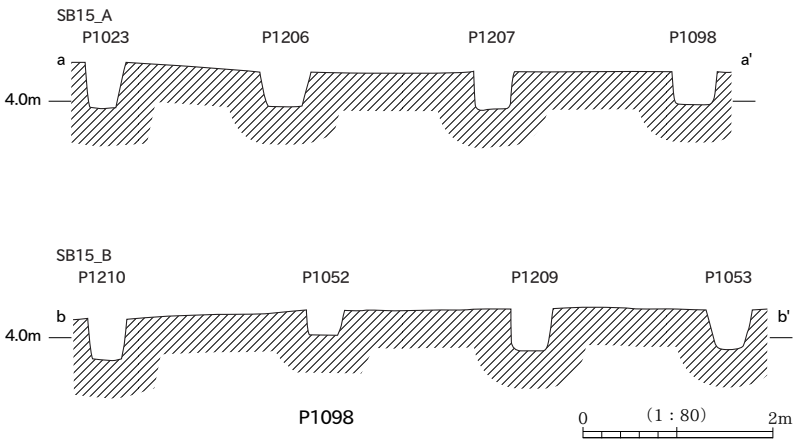
5　遺構分割図配置は下図の通りである。

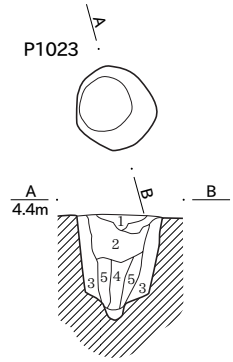


遺構分割図配置模式図

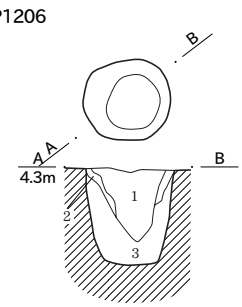
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
A
B
C
D
E
F
G
0
(1 : 240)
10m

3
4
5
B
C
D
SD814
SK815
SD811
SD1251
SD1246
SD1245
SE1252
SD1013
SD1203
P1053
SK1058
P1209
P1232
P1098
SK1054
P1045
P1052
SB15
P1207
SD1016
P1015
P1210
P1206
P1008
SX1208
P1009
P1023
SD1015
P1006
P1010
SD1014
SB16
P1002
P1003
SK1030
P1001
SK1035
P1004
SK1037
P978
SX1021
SE1005
0
(1 : 120)
6m

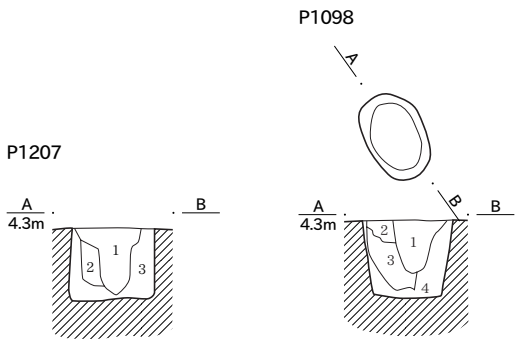




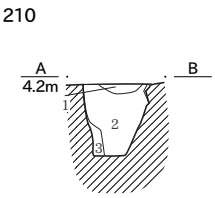
1　オリーブ黒。シルト。
　腐植炭化物を含む。
2　オリーブ黒。シルト。
3　灰。シルト。
4　オリーブ黒。シルト。
5　灰オリーブ。
　3層土と地山砂を含む。



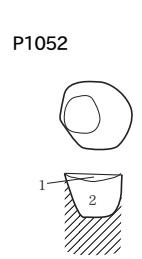
1　オリーブ黒。灰色を斑状に含む。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
　粘性少。
2　オリーブ黒と灰色の砂質シルトを含む。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
3　基本層序③。
　炭化物・腐植物を少量含む。



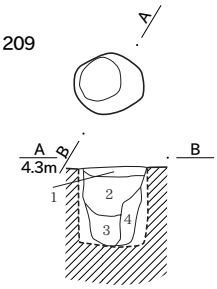
1　黒褐。シルト。
　炭化物を少量含む。
2　灰。シルト。
　1層土を含む。
3　灰。シルト。



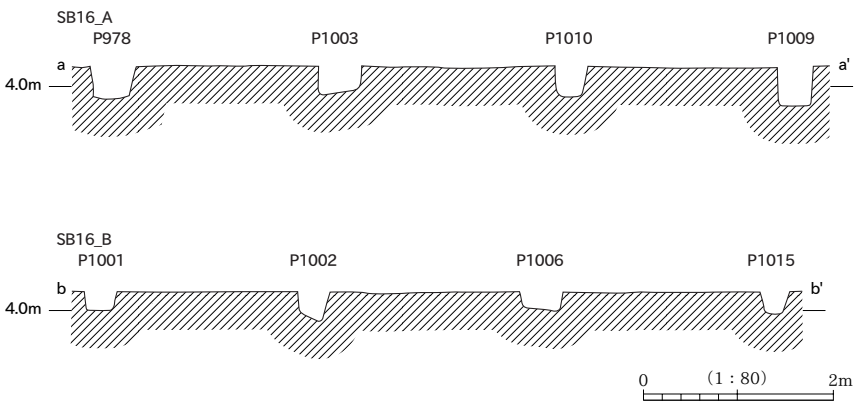
1　オリーブ黒。
　基本層序③を斑状に含む。
　炭化物・腐植物を含む。粘性少。
2　オリーブ黒。
　炭化物・腐植物を含む。粘性あり。
3　オリーブ黒。炭化物を極少量含む。
　腐植物を含む。

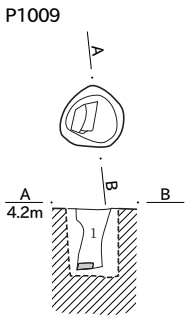


1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物・腐植物を
　まばらに含む。
　粘性少。
2　灰。シルト。
　炭化物・腐植物を
　まばらに含む。

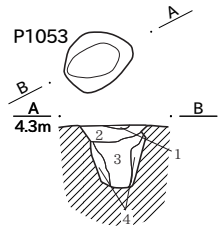


1　オリーブ黒。
　基本層序③を斑状に含む。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
　粘性少。
2　オリーブ黒。炭化物を多く含む。
　腐植物を少量含む。粘性少。
3　オリーブ黒。炭化物を少量含む。
　腐植物を含む。粘性あり。
4　オリーブ黒。灰色の砂質シルトを含む。
　炭化物を極少量含む。腐植物を含む。
　粘性少。

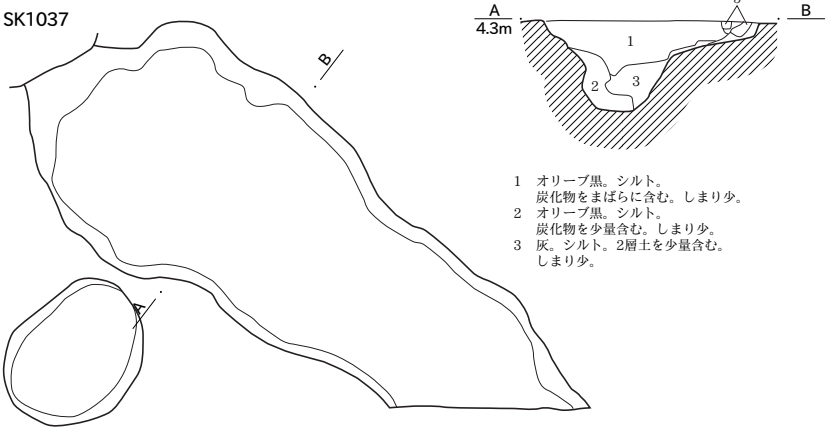




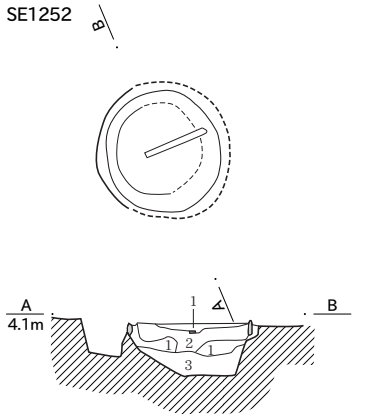
1　オリーブ黒。
　炭化物を含む。
　腐植物を少量含む。
　しまり中。



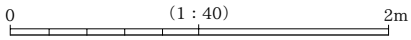
1　灰オリーブ。シルト。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
　しまりあり。粘性少。
2　オリーブ黒と灰オリーブを斑状に含む。
　シルト。炭化物。
　腐植物をまばらに含む。
3　オリーブ黒。灰色を少量含む。シルト。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
4　灰。オリーブ黒を斑状に含む。シルト。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。



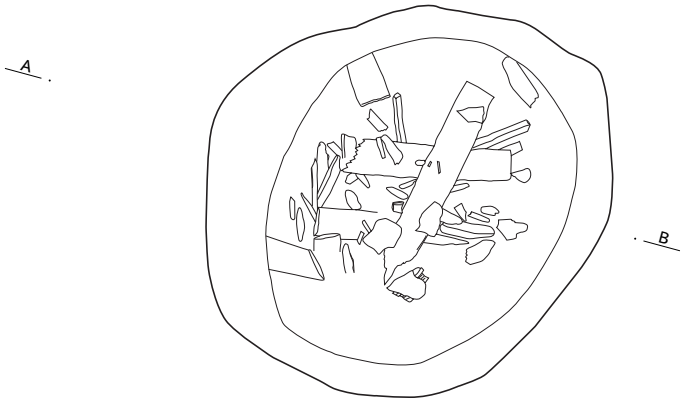
1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物をまばらに含む。しまり少。
2　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を少量含む。しまり少。
3　灰。シルト。2層土を少量含む。
　しまり少。



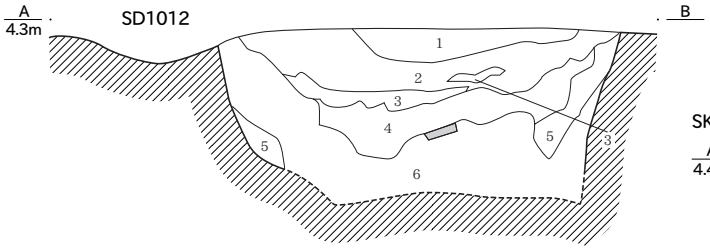
1　灰褐。シルト。腐植物を含む。しまり少。
2　褐。シルト。全体が褐色の腐植物層。しまり少。
3　灰。シルト。しまり少。



SE1005

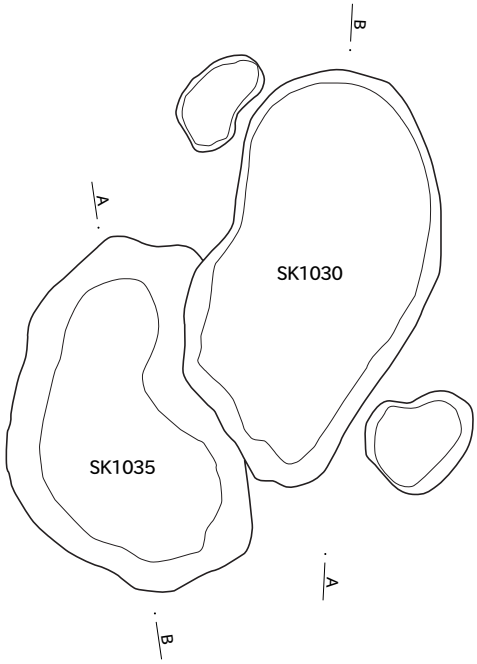


SD1012

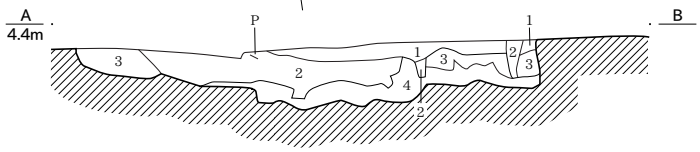


1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。しまり中。
2　灰オリーブ。シルト。灰色土を少量含む。しまり中。
3　オリーブ黒。シルト。全体が黒い腐植炭化物層。しまり少。
4　灰。シルト。しまり少。
5　灰。シルト。灰オリーブ色土を斑状に含む。しまり中。
6　灰オリーブ。シルト。4層土と地山土を含む。しまり少。

SK1030・1035

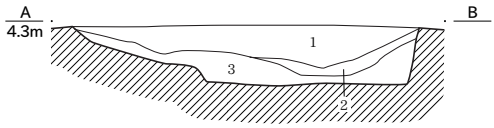


SK1030



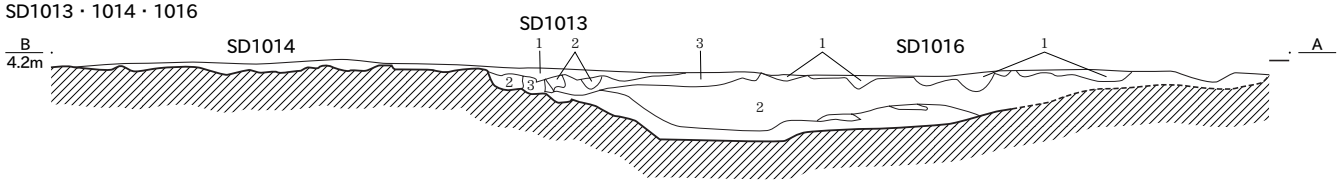
1　黒。全体が黒い腐植炭化物層。しまり少。
2　オリーブ黒。シルト。1層土・炭化物を少量含む。しまり少。
3　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。しまり少。
4　灰。シルト。3層土を少量含む。しまり少。

SK1035



1　オリーブ黒。シルト。2層土・炭化物を少量含む。しまり少。
2　黒。全体が黒い腐植炭化物層。湿り気あり。しまり少。
3　灰。シルト。オリーブ黒色土を少量含む。しまり少。

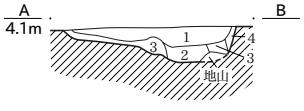
SD1013・1014・1016



SD1013
1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。しまり中。
2　灰オリーブ。シルト。灰色土を少量含む。しまり中。
3　灰。シルト。2層土を斑状に含む。しまり中。

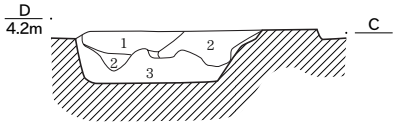
SD1014
1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。しまり中。
SD1016
1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。しまり中。
2　灰。シルト。シマ模様。しまり中。

SD1251

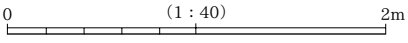


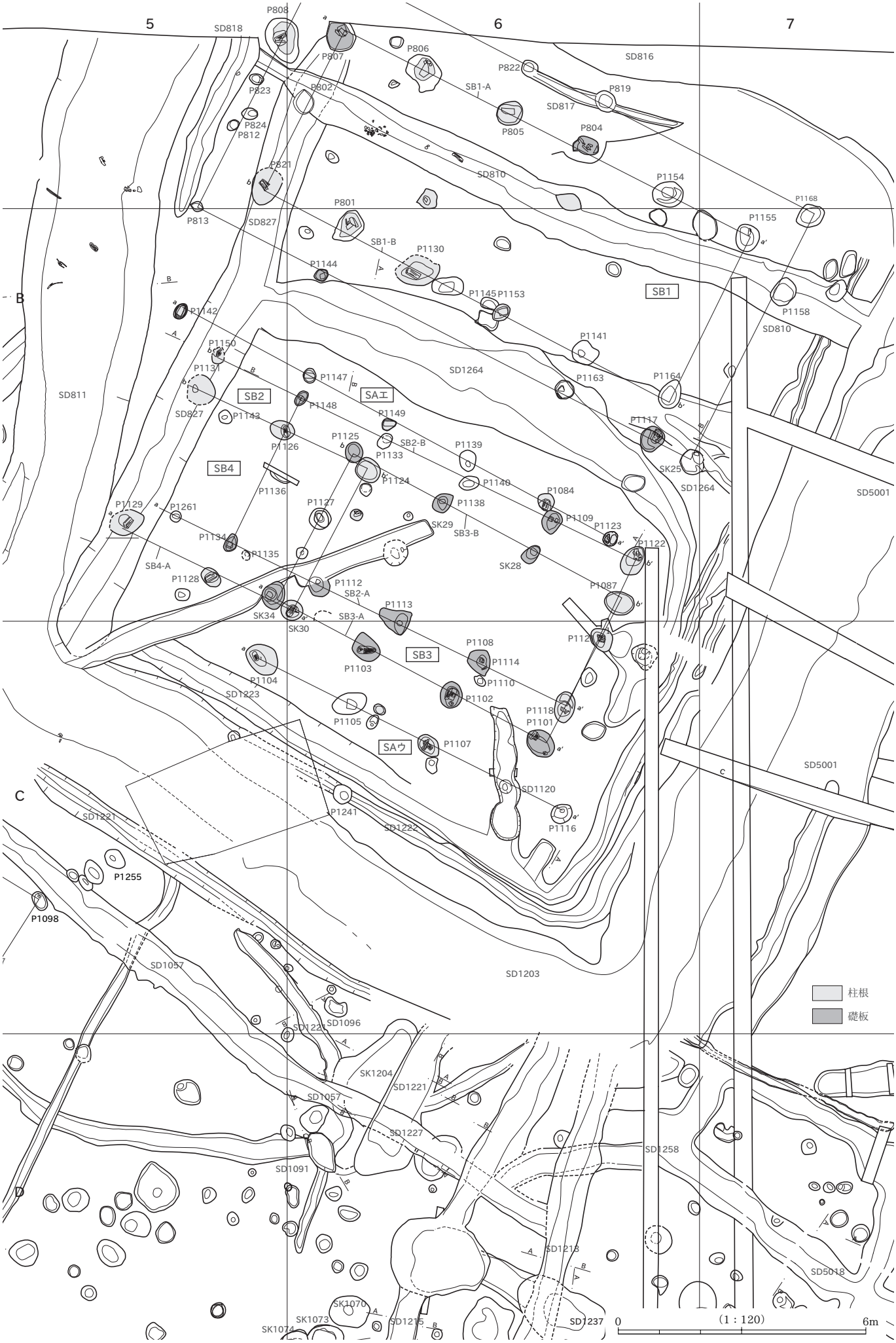
1　オリーブ黒。シルト。しまり少。
2　オリーブ黒。シルト。灰を少量含む。しまり少。
3　オリーブ黒。シルト。しまり少。
4　灰。シルト。しまり少。

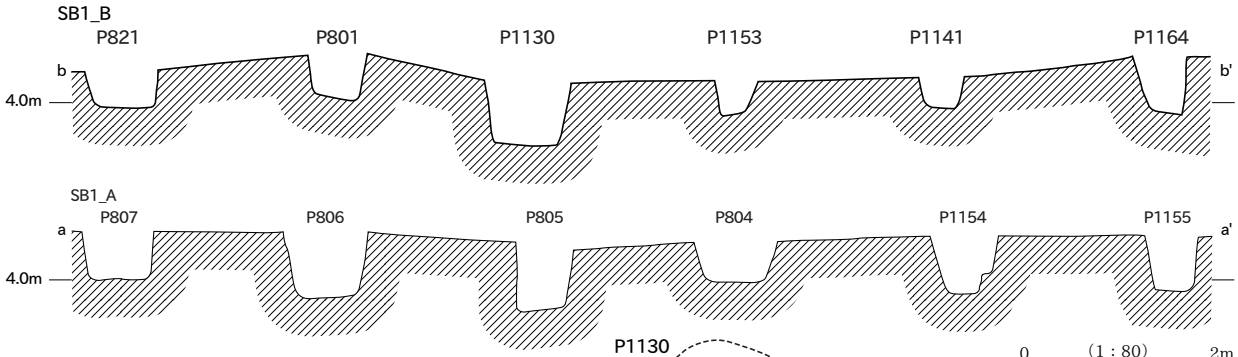
SD1013

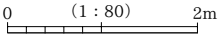


1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。しまり中。
2　灰オリーブ。シルト。灰色土を少量含む。しまり中。
3　灰。シルト。2層土を斑状に含む。しまり中。

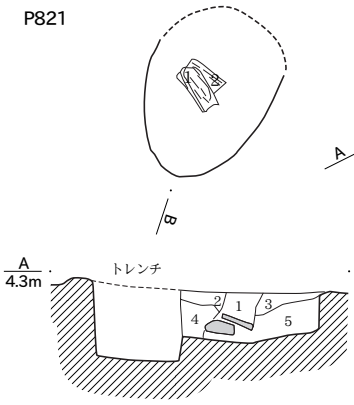



5
6
7
B
C
D
SD818
P808
P807
P806
P822
SD816
P823
P802
SB1-A
P819
SD817
P824
P812
P805
P804
P821
SD810
P1154
P1168
P801
P813
SD827
P1155
SB1-B
P1130
P1144
SB1
P1145
P1153
P1158
P1142
SD810
P1141
P1150
P1131
P1147
SD1264
P1163
P1164
SD811
SB2
SAエ
P1148
P1149
P1143
SD827
P1117
P1125
SB2-B
P1139
P1126
P1133
SK25
SB4
P1124
P1140
SD1264
SD5001
P1136
P1084
P1129
P1261
P1127
P1138
P1109
SK29
SB3-B
P1123
P1134
P1135
P1122
SB4-A
SK28
P1128
P1112
P1087
SB2-A
P1113
SK34
SB3-A
SK30
P1112
P1108
SB3
P1114
P1103
P1110
P1104
SD1223
P1102
P1105
P1118
P1101
SAウ
P1107
SD5001
SD1120
SD1221
P1241
P1116
SD1222
P1255
P1098
SD1057
SD1203
柱根
礎板
SD1096
SD1225
SK1204
SD1221
SD1057
SD1227
SD1258
SD1091
SD1213
SD5018
SK1070
SK1073
SD1215
SK1074
SD1237
0
(1 : 120)
6m



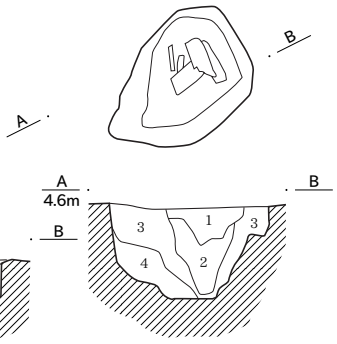


P821



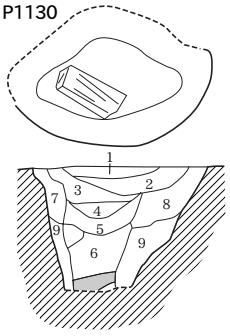
1　オリーブ黒。シルト。礫を含む。粘性少。
2　オリーブ黒。シルト。粘性少。
3　オリーブ黒。
4　オリーブ黒。粘質シルト。粘性あり。
5　オリーブ黒。粘性あり。

P801



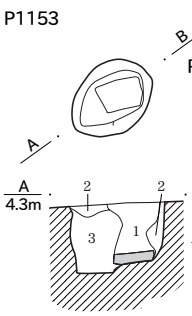
1　オリーブ黒。粘質シルト。
　黒色腐植炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。粘質シルト。
　上部に黒色腐植炭化物を少量含む。
3　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を少量含む。
4　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を少量含む。

P1130



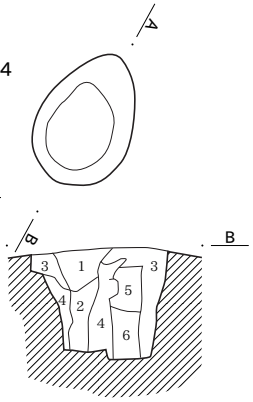
1　オリーブ黒。基本層序③を含む。
　炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。基本層序③を含む。
3　2層土とほぼ同じ。
　炭化物を2層土より多く含む。
4　基本層序③。
5　2層土とほぼ同じ。
　上部に炭化物をまばらに含む。
　下部に帯状に炭化物を多く含む。
6　オリーブ黒。
7　基本層序③。炭化物・腐植物をまばらに含む。
8　オリーブ黒。下部を中心に基本層序③を含む。
9　基本層序③。炭化物・腐植物を極少量含む。
10　灰。砂質土。炭化物を少量含む。

P1153



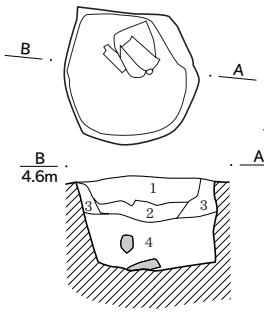
1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を含む。
2　オリーブ黒。
　1層土と同質。
3　灰。砂質シルト。
　炭化物を少量含む。

P1164



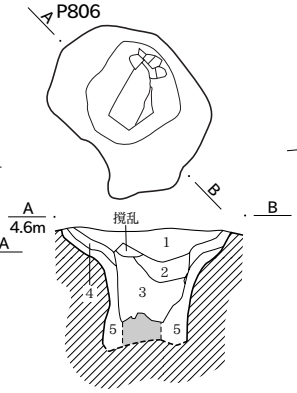
1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を多く含む。
3　オリーブ黒。シルト。
4　オリーブ黒。シルト。
　3層より粘性あり。
5　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を少量含む。
6　オリーブ黒。砂質シルト。

P807



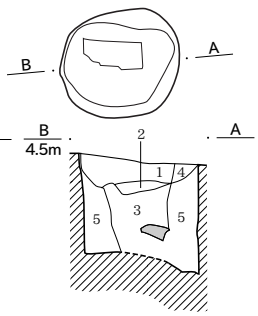
1　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を含む。
2　オリーブ黒。粘質シルト。
　黒色腐植炭化物を多く含む。
3　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を少量含む。
4　オリーブ黒。粘質シルト。
　上部に腐植炭化物を少量含む

P806



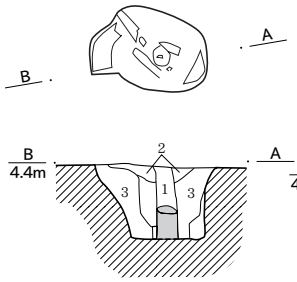
1　オリーブ黒。粘質シルト。
　黒色腐植炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。粘質シルト。
　上部に腐植炭化物を少量含む。
3　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を含む。
4　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を少量含む。
5　オリーブ黒。シルト。

P805



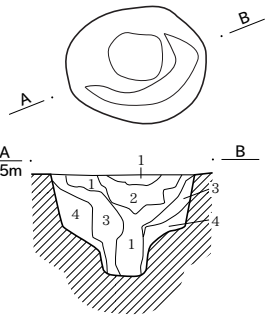
1　オリーブ黒。粘質シルト。
　黒色腐植炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。粘質シルト。
　上部に腐植炭化物を少量含む。
3　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を含む。
4　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を少量含む。
5　オリーブ黒。シルト。

P804



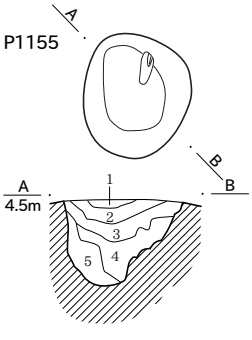
1　オリーブ黒。木が土化した物。
2　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を少量含む。
3　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を少量含む。

P1154



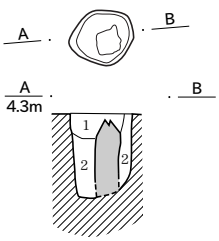
1　オリーブ黒。シルト。
　腐植炭化物を含む。
2　オリーブ黒。シルト。
3　オリーブ黒。シルト。
　2層土より黒味を帯びる。
　しまり中。
4　灰。シルト。砂っぽい。

P1155



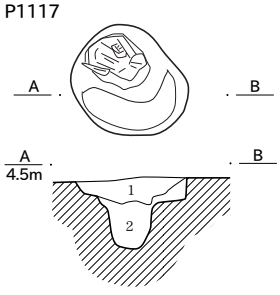
1　オリーブ黒。シルト。
　腐植炭化物を含む。
2　オリーブ黒。シルト。
3　オリーブ黒。シルト。
　2層土より黒味を帯びる。
4　灰。シルト。
5　灰。炭化物を少量含む。
　4層土より粘性あり。

P1144



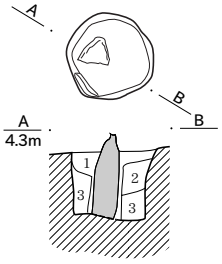
1　オリーブ黒。シルト。
　腐植炭化物を含む。
2　オリーブ黒。シルト。

P1117



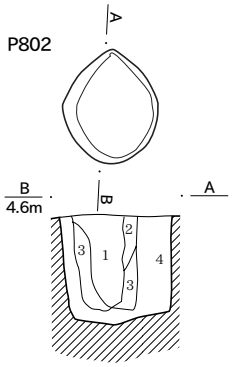
1　オリーブ黒。基本層序③を斑状に含む。
　黒色土をまばらに含む。
　腐植物を含む。粘性少。
2　オリーブ黒。基本層序③を斑状に含む。
　炭化物・腐植物をまばらに少量含む。
　しまり少。粘性あり。

P1163

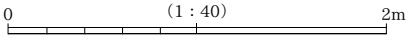


1　オリーブ黒。
　炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。シルト。
3　オリーブ黒。シルト。
　2層土より粘性あり。

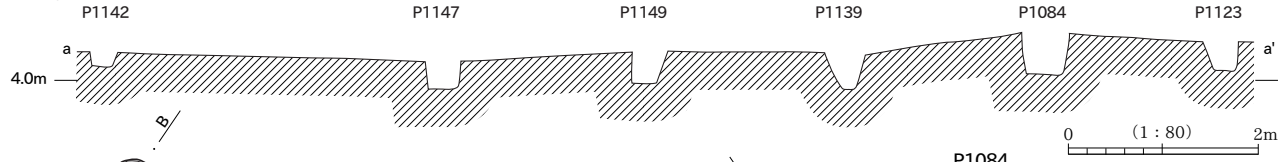
P802



1　オリーブ黒。シルト。炭化物を含む。
2　オリーブ黒。シルト。
3　オリーブ黒。粘質シルト。炭化物を含む。
4　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。

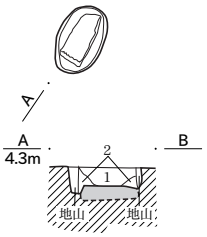


SAエ



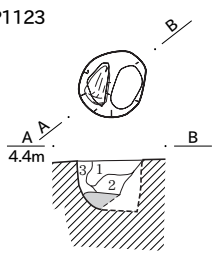
0　(1：80)　2m

P1142

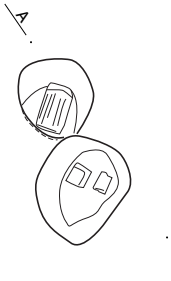


1　オリーブ黒。シルト。炭化物を含む。しまり少。
2　オリーブ黒。1層土と同質。

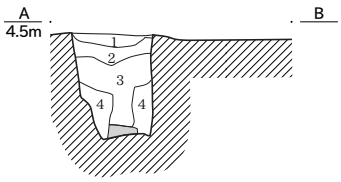
P1123



1　灰。砂質シルト。
　腐植物を多く含む。しまり少。
2　オリーブ黒。炭化物を少量含む。
しまり少。粘性あり。
3　オリーブ黒。しまり少。

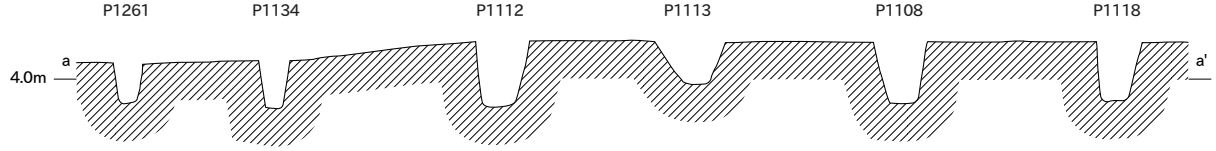


P1084

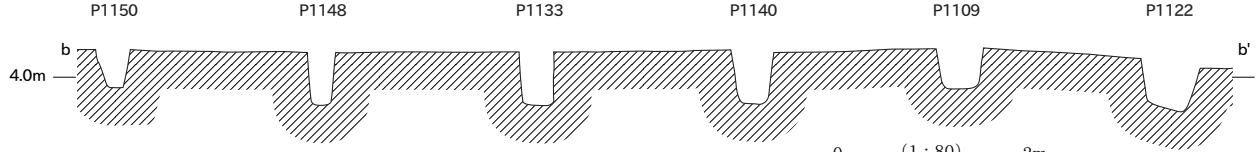


1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。
2　灰。シルト。炭化物を少量含む。
3　灰オリーブ。シルト。炭化物をまばらに含む。
4　灰。シルト。

SB2_A

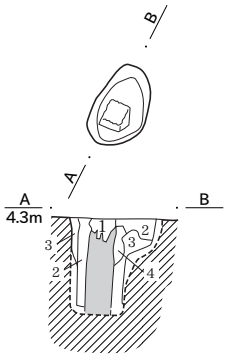


SB2_B



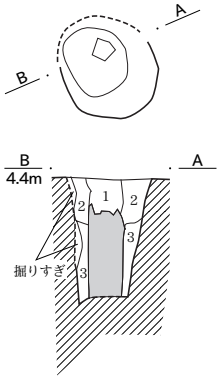
0　(1：80)　2m

P1134



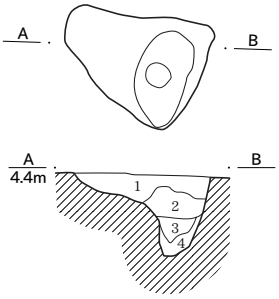
1　オリーブ黒。
　腐植物を多く含む。
　粘性あり。
2　オリーブ黒。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
　粘性あり。
3　基本層序③。
　腐植物をまばらに含む。
4　オリーブ黒。褐色を帯びる。

P1112



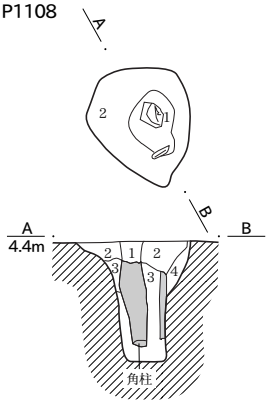
1　オリーブ黒。
　炭化物・腐植物を含む。
　粘性あり。
2　オリーブ黒。
　炭化物を少量含む。
　腐植物を含む。粘性少。
3　灰。砂質土。
　炭化物を極少量含む。
　腐植物を含む。

P1113



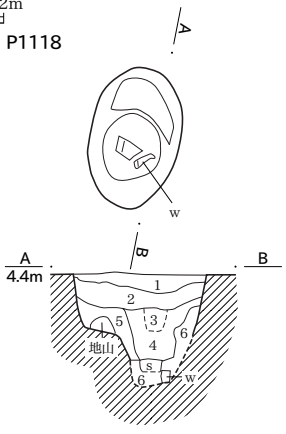
1　オリーブ黒。
　炭化物をまばらに含む。
　腐植物を含む。粘性少。
2　黒褐。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
3　オリーブ黒。炭化物を極少量含む。
　粘性あり。
4　灰。砂質土。

P1108



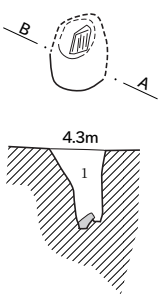
1　暗オリーブ褐。
2　オリーブ黒。シルト。
　炭化物・腐植物を多く含む。
　粘性あり。
3　オリーブ黒。シルト。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。
　粘性あり。
4　灰。砂質シルト。

P1118



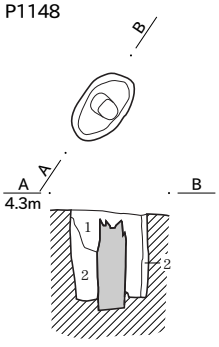
1　オリーブ黒。基本層序③を含む。
　炭化物をまばらに含む。
　腐植物を多く含む。しまり・粘性あり
2　オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。
　腐植物を多く含む。粘性あり。
3　基本層序③。粘性あり。
4　オリーブ黒。炭化物を多く含む。
　粘性あり。
5　灰。砂質シルト。炭化物を少量含む。
　粘性あり。
6　オリーブ黒。

P1150



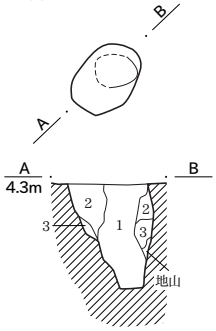
1　オリーブ黒。シルト。

P1148



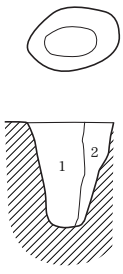
1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を含む。
2　オリーブ黒。1層土と同質。

P1133



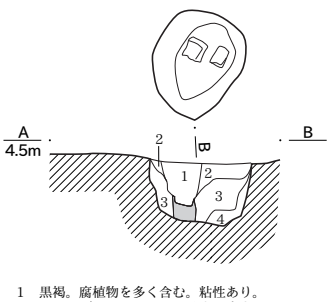
1　オリーブ黒。シルト。炭化物を含む。
2　オリーブ黒。1層土と同質。
3　灰。砂質シルト。炭化物を少量含む。

P1140



1　オリーブ黒。
　シルト。
2　オリーブ黒。
　1層土と同質。

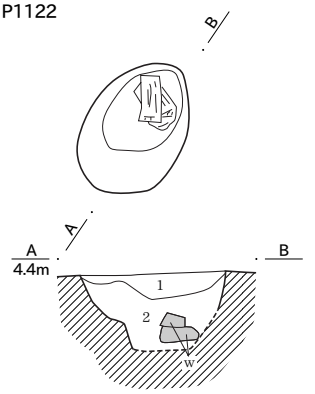
P1109



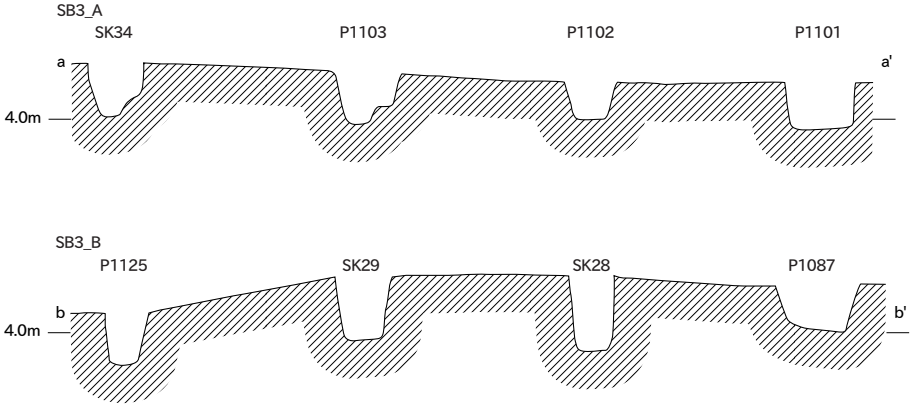
1　黒褐。腐植物を多く含む。粘性あり。
2　オリーブ黒。灰シルトと基本層序③を含む。
　炭化物・腐植物を含む。粘性少。
3　灰。砂質シルト。腐植物を少量含む。
4　灰。砂質シルト。腐植物を少量含む。

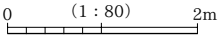
0　(1：40)　2m

P1122

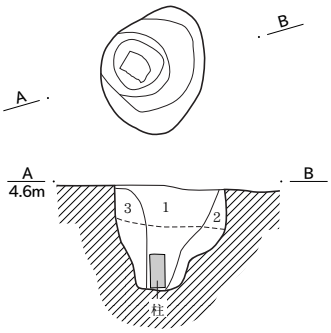


1　オリーブ黒。腐植物を多く含む。粘性少。
2　オリーブ黒。炭化物・腐植物をまばらに含む。



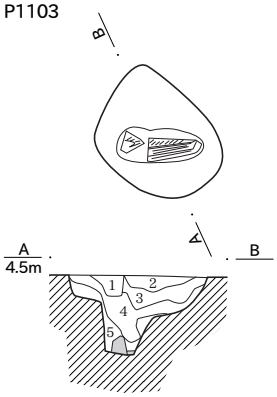


SK34



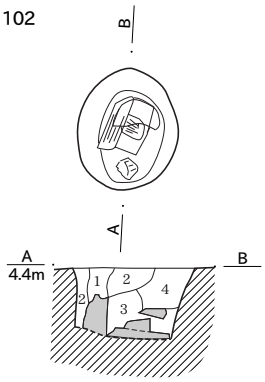
1　オリーブ黒。砂質シルト。
　炭化米・炭化物を多く含む。
2　灰オリーブ。粘質シルト。
　炭化粒・腐植物を極少量含む。
3　暗灰黄。粘質シルト。
　炭化粒を少量含む。
　腐植物を極少量含む

P1103



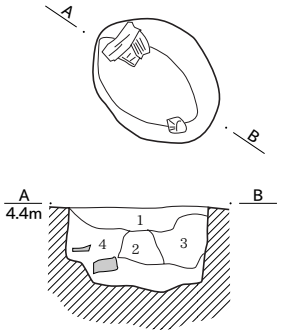
1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物をまばらに含む。
2　灰。シルト。腐植炭化物を含む。
　炭化物を少量含む。
3　灰。シルト。腐植炭化物を多く含む。
　炭化物を少量含む。
4　灰。シルト。炭化物を少量含む。
5　灰。細砂に近いシルト。
　4層土を少量含む。

P1102



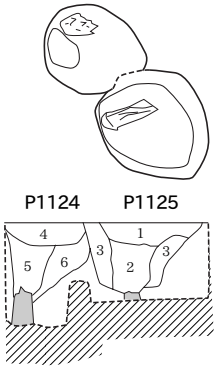
1　灰。シルト。灰色土ブロックを含む。
　炭化物を多く含む。しまり中。
2　灰。シルト。炭化物を少量含む。
3　灰。砂質シルト。炭化物を少量含む。
4　灰。シルト。粘性少。

P1101



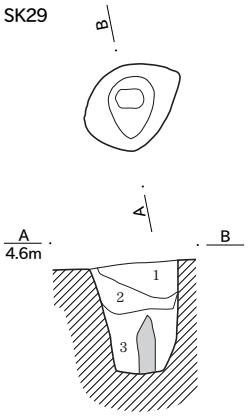
1　オリーブ黒。シルト。炭化物をまばらに含む。
　腐植物を多く含む。粘性少。
2　灰。しまり・粘性少。
3　オリーブ黒。シルト。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。粘性少。
4　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を多く含む。腐植物をまばらに含む。
　粘性あり。

P1124・P1125



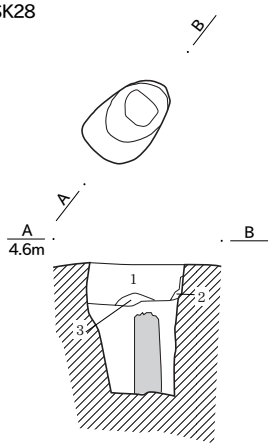
1　オリーブ黒。炭化物まばらに含む。粘性あり。
2　オリーブ黒。炭化物まばらに含む。粘性あり。
3　オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。粘性あり。
4　オリーブ黒。炭化物を多く含む。粘性あり。
5　オリーブ黒。基本層序③を含む。炭化物・粘性あり。
6　オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。粘性あり

SK29



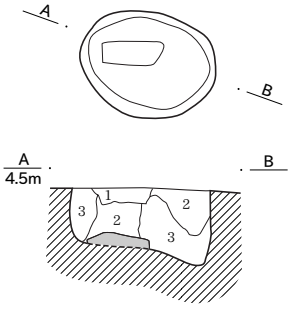
1　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化米を多く含む。粘性少。
2　灰。粘質シルト。炭化物を少量含む。
　炭化物をまばらに含む。粘性あり。
3　灰。粘質シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性中。

SK28

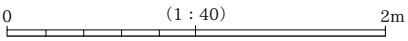


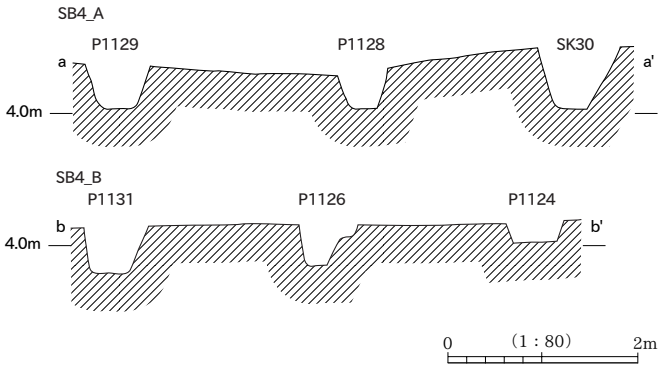
1　暗灰黄。砂質シルト。
　炭化米を全体的に多く含む。
　炭化物を多く含む。
2　灰。粘質シルト。
　炭化粒・炭化物を極少量含む。
3　灰。粘質シルト。炭化米を少量含む。

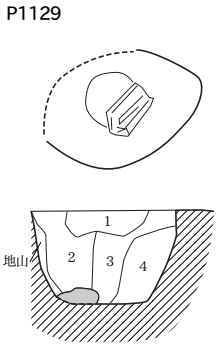
P1087



1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物を少量含む。
2　灰。シルト。炭化物を少量含む。
3　灰オリーブ。シルト。

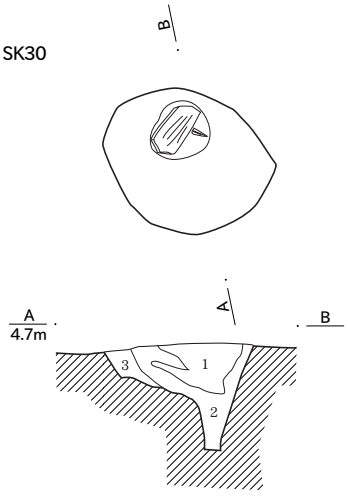






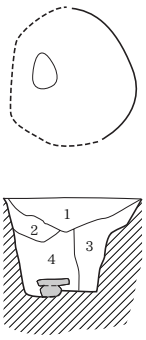
1　オリーブ黒。粘質シルト。
2　オリーブ黒。粘質シルト。
3　灰。粘質シルト。
4　灰。粘質シルト。3層より砂っぽい。

SK30



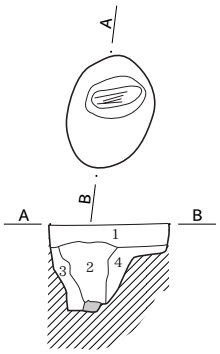
1　黒褐。砂質シルト。炭化物をまばらに含む。
　炭化米を多く含む。粘性少。
2　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒を少量含む。
　腐植物を極少量含む。粘性少。
3　灰。砂質シルト。炭化粒を極少量含む。粘性少。

P1131



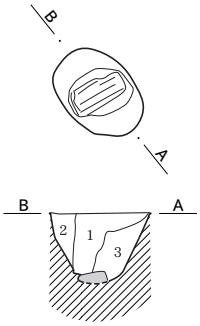
1　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を極少量含む。
2　オリーブ黒。粘質シルト。
　炭化物を少量含む。
3　灰。粘質シルト。
　炭化物を極少量含む。
4　灰。粘質シルト。
　炭化物・腐植物を極少量含む。

P1126



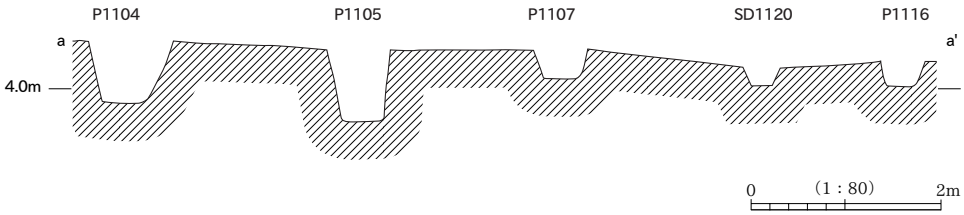
1　オリーブ黒。
　炭化粒をまばらに含む。粘性あり。
2　オリーブ黒を主体に基本層序③を含む。
　炭化物をまばらに含む。
3　灰。砂質土。炭化物をまばらに含む。
　粘性少。
4　灰。砂質土。炭化物・腐植物を少量含む。
　粘性少。

P1128

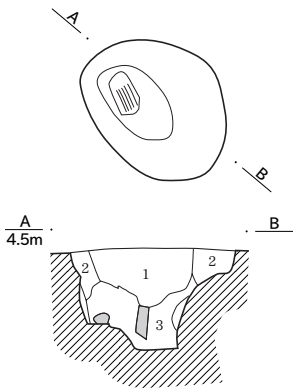


1　基本層序③。炭化物を含む。
　粘性あり。
2　基本層序③。粘性あり。
3　基本層序②。オリーブ黒。
　炭化物を含む。粘性あり。

SAウ

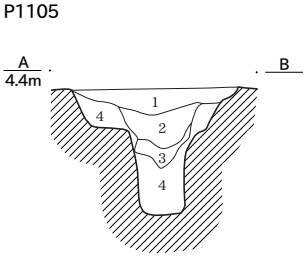


P1104



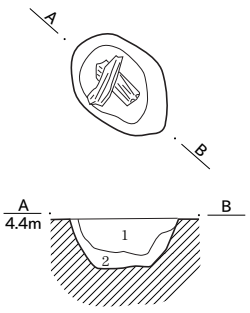
1　灰。シルト。炭化物を少量含む。
　しまり中。灰。シルト。
2　オリーブ黒。粘質シルト。

P1105



1　灰。シルト。
2　灰。シルト。炭化物を少量含む。
3　灰。シルト。炭化物を少量含む。
4　灰。砂質シルト。炭化物を含む。

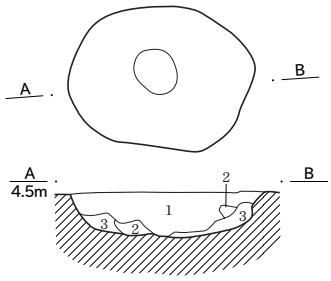
P1107



1　灰。シルト。炭化物を少量含む。
2　灰。砂質シルト。炭化物を少量含む。

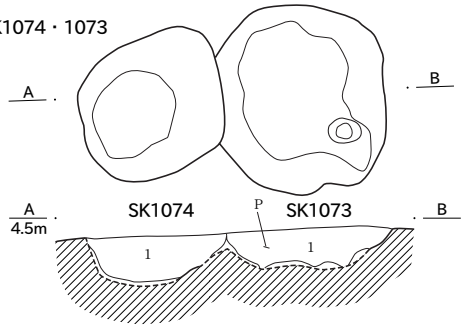
0　(1：40)　2m

SK1070



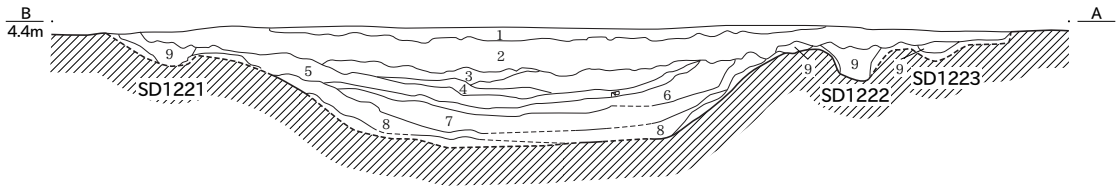
1　灰。シルト。灰色土ブロックを含む。炭化物まばらに含む。しまり中。
2　オリーブ黒。シルト。炭化物まばらに含む。しまり少。
3　灰。シルト。1層土を少量含む。しまり少。

SK1074・1073



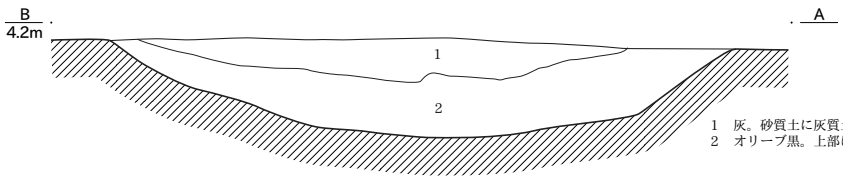
1　灰。シルト。灰色土ブロックを含む。炭化物をまばらに含む。しまり中。

SD1203



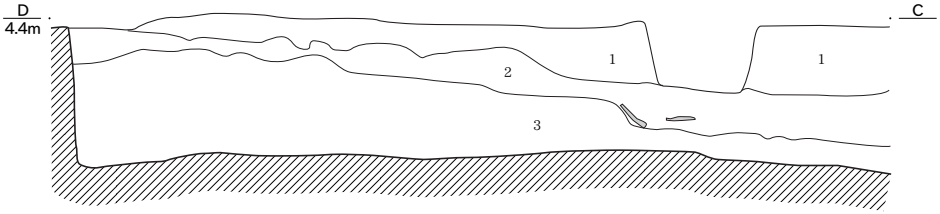
1　灰黄褐。基本層序①。暗褐色の未分解植物層を多く含む。しまり・粘性あり。
2　灰。基本層序②に近いがシルト分を多く含む。炭化物を極少量含む。しまりあり。粘性なし。
3　灰。基本層序②に近い。黒色シルトをブロック状に含む。しまりあり。粘性なし。
4　黒。黒灰色の粘質土。基本層序②に近いが極めて粘性が強い。しまり・粘性あり。
5　黒。植物の未分解層。4層に近いがシルト分を多く含む。遺物を多く含む。しまり少。粘性あり。
6　灰。基本層序②に近い。5層よりシルト分が弱い。しまり・粘性少。
7　灰。6層に近いがシルト分が弱い。しまり・粘性あり。
8　灰。本溝の第一堆積土。5層に近く未分解植物をブロック状に含む。基本層序②に近い。しまりあり。粘性少。
9　灰。付属する溝の覆土。2層に地山(灰色シルト)をブロック状に含む。しまりあり。粘性少。

SD811



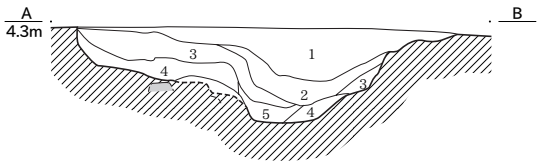
1　灰。砂質土に灰質土をブロック状に含む。腐植炭化物を含む。しまりあり。
2　オリーブ黒。上部に褐色の腐植物を多く含む。全体的に腐植炭化物をまばらに含む。

SD5001

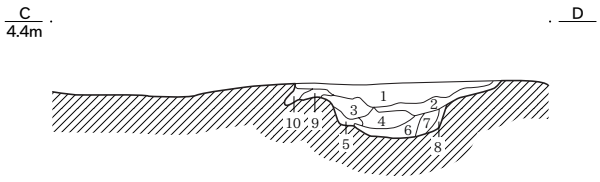


1　オリーブ黒粘質土。炭化物を少量含む。
　しまりなし。粘性あり。（基本①）
2　オリーブ黒粘質土。炭化物を少量含む。
　しまりなし。粘性あり。（基本②）
3　灰オリーブ砂質土。砂と粘土混じる。
　植物根多く含む。しまりなし。粘性少。（基本③）

SD1264

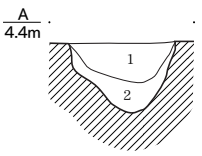


SD1264



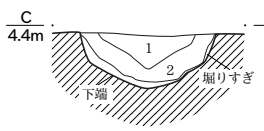
1　灰。シルト。径1～2mmの炭化粒を少量含む。湿り気あり。しまり少。
2　灰オリーブ。シルト。腐植物を含む。湿り気あり。しまり少。
3　灰オリーブ。シルト。砂質シルトを少量含む。湿り気あり。しまり少。
4　灰。砂質シルト。湿り気あり。しまり少。
5　灰。砂質シルト。湿り気あり。しまり少。

SD1213



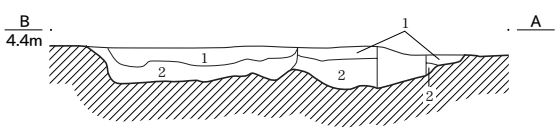
1　基本層序②。黒を多く含む。炭化物を多く含む。
　腐植物をまばらに含む。全体が黒を含む。しまり少。粘性あり。
2　灰。砂質土。基本層序②層をブロック状に含む。
　炭化物を多く含む。腐植物をまばらに含む。
　全体的に黒を含む。しまり・粘性少。

SD1213



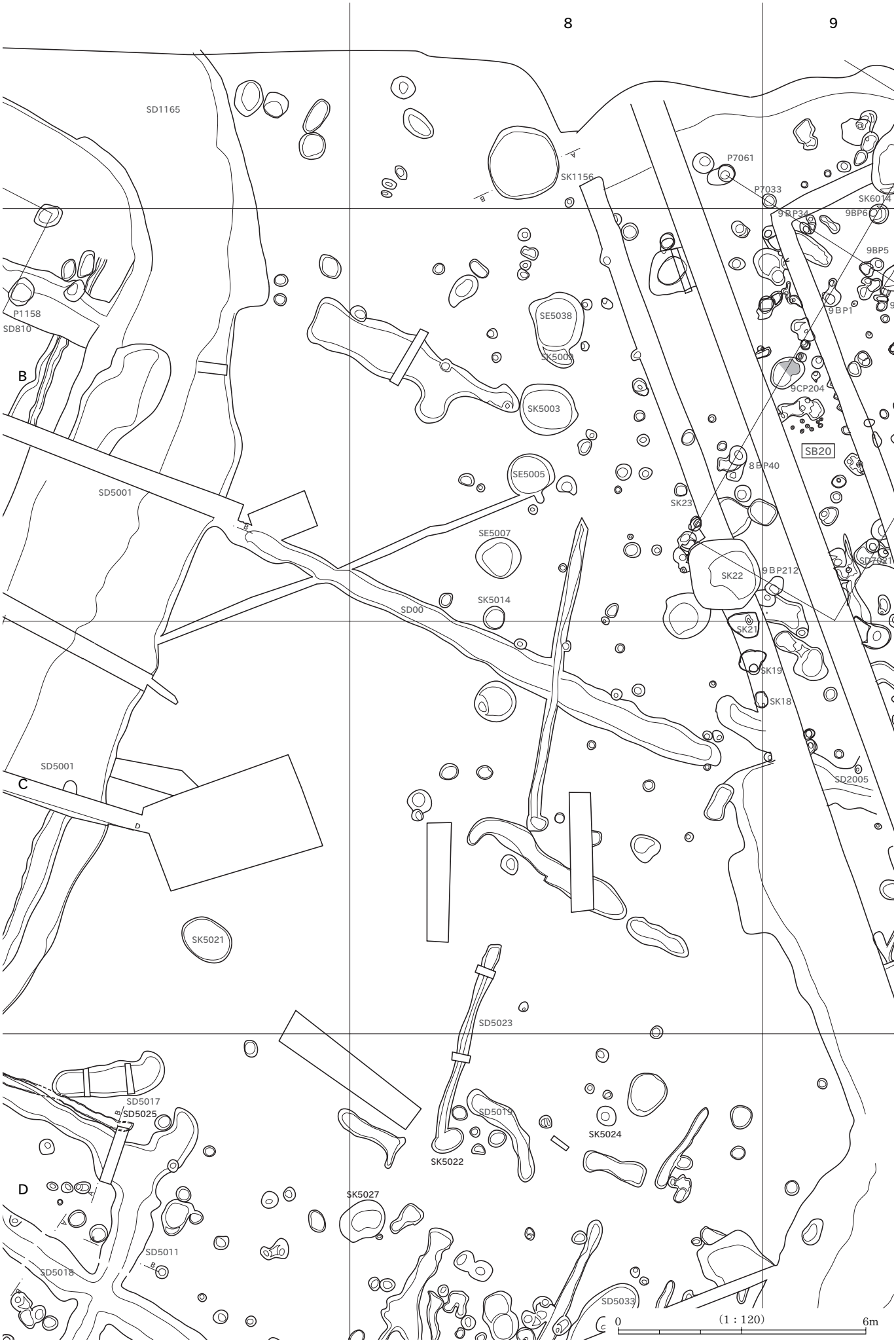
1　基本層序②。
　灰の砂質シルト・黒色土ブロックをまばらに含む。
　径1～5mmの炭化物・腐植物をまばらに含む。
　しまりあり。粘性少。
2　灰。砂質土。基本層序②層を含む。炭化物少量含む。

SD1227

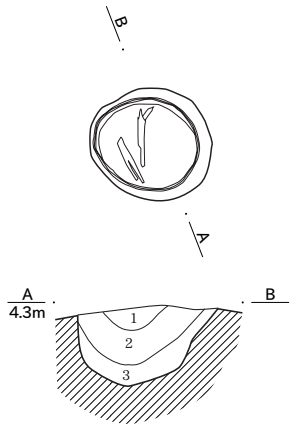


1　オリーブ黒。シルト。炭化物を含む。しまり中。
2　灰。シルト。1層土ブロックを少量含む。炭化物を含む。しまり中。

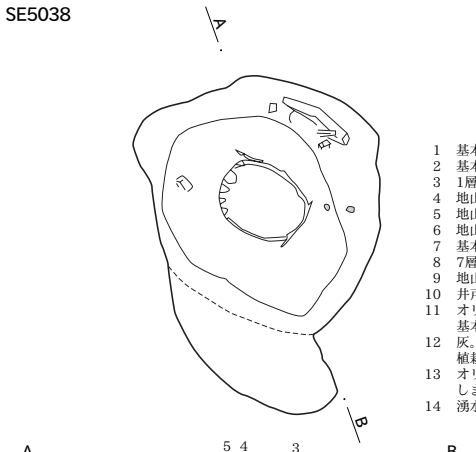
0　(1：40)　2m


8
9
SD1165
P7061
SK1156
P7033
SK6014
9BP34
9BP6
9BP5
9BP1
P1158
SD810
SE5038
SK5009
SK5003
9CP204
SB20
8BP40
SE5005
SD5001
SK23
SE5007
SD7091
9BP212
SK22
SK5014
SD00
SK21
SK19
SK18
SD5001
SD2005
SK5021
SD5023
SD5017
SD5025
SD5019
SK5024
SK5022
SK5027
SD5011
SD5018
SD5033
0
(1 : 120)
6m

SE5005

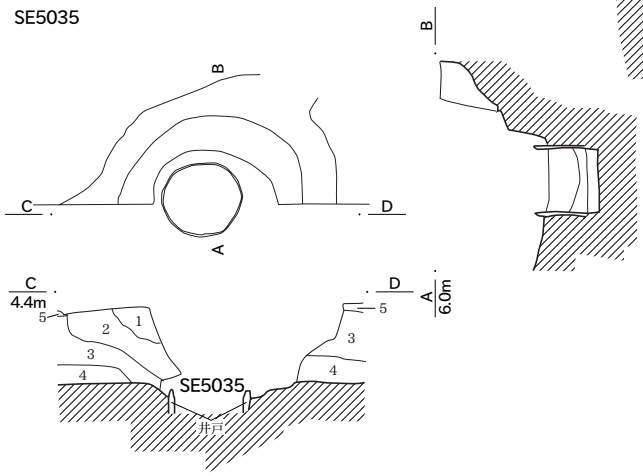


SE5038



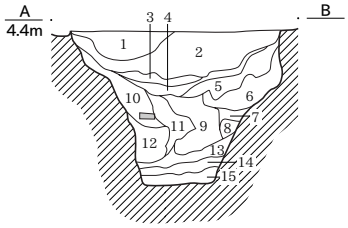
1　基本②に青灰地山ブロックを少量含む。粘性なし。
2　基本①に近い黄褐色砂。地山ブロックと基本②を微量含む。
3　1層に近い土層。1層よりも黄褐色砂を多く含む。
4　地山青灰ブロックと基本④に近い黒色土ブロックが入り混じる。
5　地山青灰ブロック。炭化粒子微量。
6　地山青灰ブロックと基本②が入り混じる。
7　基本②に地山ブロックが少量入る。炭化物粒子微量含む。
8　7層に近く地山青灰ブロックと基本②が入り混じる。
9　地山
10　井戸覆土。炭化粒子少量含む。
11　オリーブ黒。地山青灰ブロックを少量含む。
　基本④に近い黒色土ブロックを少量含む。炭化物・植栽根含む。
12　灰。地山に近い青灰シルトとこげ茶の土が縞状に入る。
　植栽根・細かい砂を微量に含む。炭化物なし。
13　オリーブ黒。腐植土に地山に近いシルトが微量に入る。
　しまり少。粘性少。
14　湧水点に達したと思われる粗砂層。

SE5035



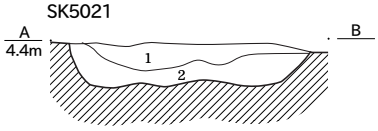
1　オリーブ黒。SD5033の覆土。基本②に対応する暗褐色土。
　地山シルトブロックを少量含む。
　炭化物・植物痕を少量含む。しまりあり。粘性あり。
2　オリーブ黒。SE5035の埋没土。3と思われる地山シルトブロックを中心に、
　基本②と思われるブロックを少量含む。
　植物痕を少量含む。炭化物なし。しまり1層より弱く。粘性1層よりややあり。
3　灰、地山シルト。砂微量に含む。しまりは1層と同じ位。粘性は1層よりなし。
4　灰。地山シルトと黒褐色の縞状堆積がある土層。粒子のやや粗い砂を微量に含む。
　しまりは3層より弱く。粘性なし。
5　茶褐色。（基本①）

SK5027



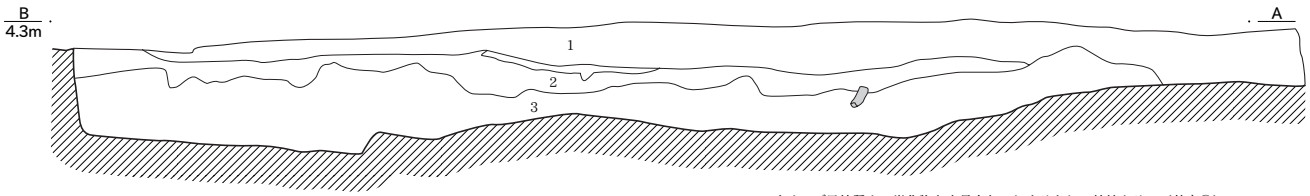
1　オリーブ黒。包含層土。地山ブロックを少量含む。しまりあり。粘性少。（基本②）
2　灰。地山の青灰色砂の中に1層土が、平行に堆積する。しまり少。粘性少。
3　灰。粒子の粗い砂層。1層土が少量堆積する。しまり少。粘性少。
4　オリーブ黒。基本④に近い暗褐色土。しまり少。粘性あり
5　灰。1層に近い色調の土がブロック状に多く入る。他に地山砂と3層に近い。
　粗砂少量含む。しまり少。粘性少。
6　灰オリーブ。地山砂。
7　灰。3層より粒子の細かい砂の層。しまりあり。粘性なし。
8　灰。地山砂の中に7層に近い砂が混じる。木片含む。しまり少。粘性少。
9　灰。地山砂の中に基本②に近い色のブロックが垂直に近い方向に入る。しまり少。粘性少。
10　オリーブ黒。地山砂の中に基本②に近い色のブロックを少量含む。
　粗砂も少量含む。しまり少。粘性少。
11　灰オリーブ。地山砂。
12　オリーブ黒。地山砂の中に黒褐色に近い基本②の砂が入る。しまり少。粘性少。
13　灰。粒子やや細かく、砂を多く含む。しまり少。粘性なし。
14　灰。15層の砂と暗褐色土が平行に縞模様となって堆積する。
15　灰。粗い川砂に近い砂層。

SK5021



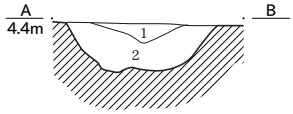
1　灰。粒子細かい。炭化物を少量含む。しまり少。粘性少。主にⅣ層土と思われる。
2　灰シルト。オリーブ黒ブロックが混じる。粒子やや粗い。しまり少。粘性少。地山と思われる。

SD5001



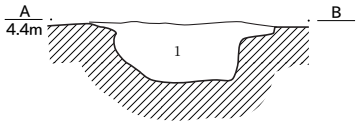
1　オリーブ黒粘質土。炭化物を少量含む。しまりなし。粘性あり。（基本①）
2　オリーブ黒粘質土。炭化物を少量含む。しまりなし。粘性あり。（基本②）
3　灰オリーブ砂質土。砂と粘土混じる。植物根多く含む。しまりなし。粘性少。（基本③）

SD5011



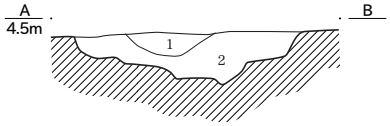
1　黒。炭化物やや多量に含む。しまりあり。粘性あり。遺物の包含層の覆土。
2　暗オリーブ灰。しまりあり。粘性あり。遺物の包含層の覆土。

SD5018



1　暗オリーブ灰。炭化物をまばらに含む。

SD5017



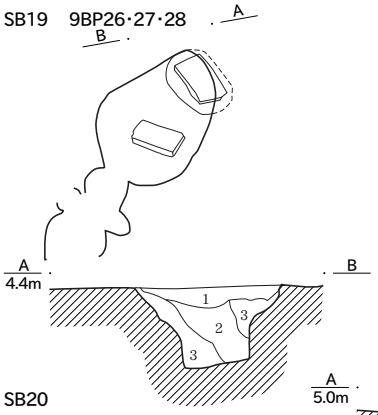
1　暗オリーブ灰。炭化物を少量含む。しまりあり。粘性あり。
2　暗オリーブ灰。植物遺体含む。しまりあり。粘性あり。

0　（1：40）　2m

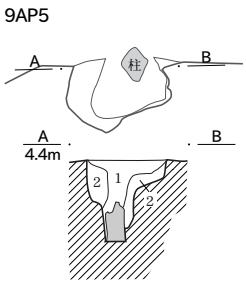
遺構分割図4

8
9
10
B
C
D
P7061
P7032
P7033
SB19
P7042
9AP5
9AP14
9AP15
SK6014
9BP34
9BP6
9BP4
9BP10
SK6024
SK6021
SK6022
SK6023
SK6019
9BP1
SD6015
SK36
SK35
9BP24
SK6039A
SD6016
SD2005
SK24
9CP204
SB20
9BP42
8BP40
SK6032
SK23
SK6033
9CP208
SK22
9BP212
SD6042
P7022
SK21
SK6040
SK6037
SK6036
SK19
SD6003
SK6004
SK18
SK6001
SK6002
SD6012
SK6005
SD6007
SK6006
SD2007
SD6038
SK5024
SD5036
SD5033
SD5034
柱根
礎板
0
(1 : 120)
6m

SB19　9BP26・27・28

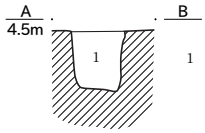


9AP5



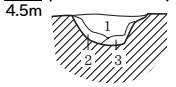
1　炭化物を含む。
　腐植物痕を多く含む。（基本①）
2　青灰色土。炭化物を含む。（基本③）

P7033



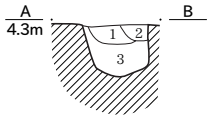
1　炭化物を少量含む。
　粘性なし。（基本③）

P7032

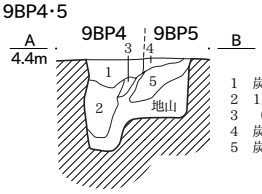


1　炭化物を少量含む。
　粘性少。（基本②）
2　オリーブ黒シルトを少量含む。
　粘性なし。（基本③）
3　オリーブ黒シルトを少量含む。
　粘性なし。（基本③）

9BP24

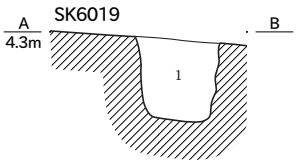


9BP4・5

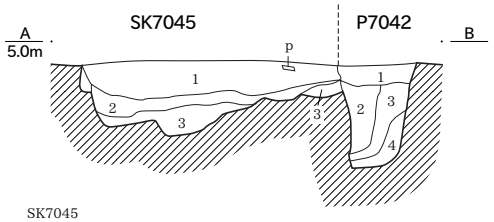


1　炭化物をまばらに含む。（基本②）
2　1層に比べ全体的に薄い色。（基本②）
3　（基本③）
4　炭化物をまばらに含む。（基本③）
5　炭化物をまばらに含む。（基本③）

SB20

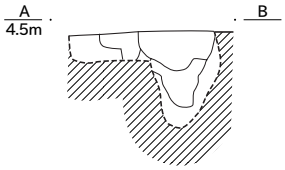


SK7045　P7042

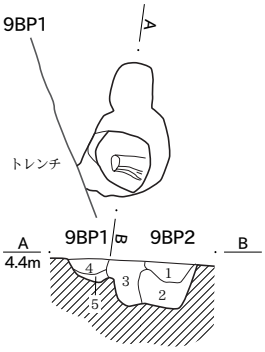


SK7045
1　炭化物を少量含む。粘性少。（基本②）
2　しまり少・粘性少。（基本②+③6：4）
3　オリーブ黒10%混じる。粘性なし。（基本③）
P7042
1　炭化物を少量含む。粘性なし。（基本②）
2　炭化物を少量含む。粘性なし。（基本②+③5：5）
3　灰シルトと炭化物を少量含む。粘性なし。（基本②）
4　オリーブ黒を少量含む。粘性なし。（基本③）

8BP40・41

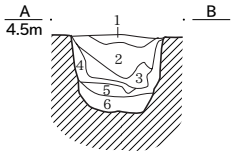


9BP1

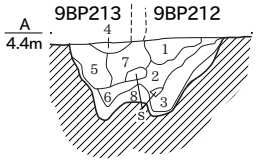


1　炭化物を含む。（基本②）
2　炭化粒を含む。（基本②）
3　地山土をブロック状に含む。炭化粒を含む。（基本②）
4　地山土を3より更に多く含む。（基本②）

9BP208

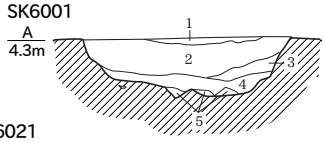


9BP212



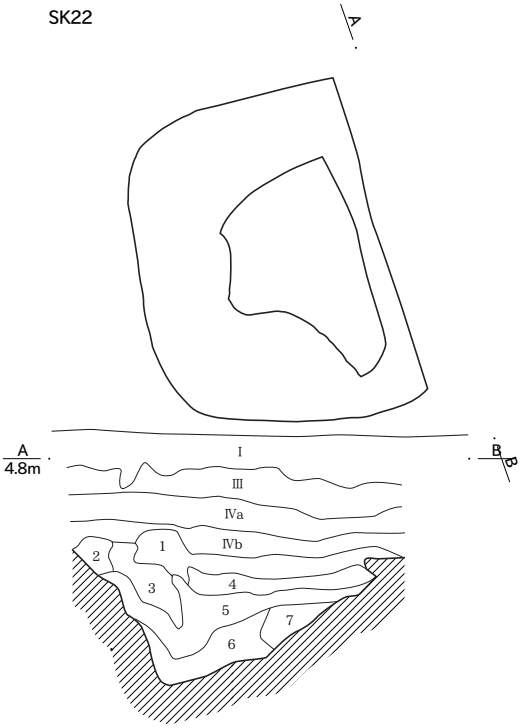
1　炭化物をまばらに含む。粘性あり。（基本②）
2　1層に比べ、地山ブロックを多く含む。粘性少。（基本②）
3　1層と同じ。粘性あり。
4　1層と同じ。全体に黒っぽい覆土。粘性あり。（基本②）
5　炭化物を含む。粘性あり。（基本③）
6　地山土とオリーブ黒色土を斑状に含む。粘性あり。（基本③）
7　地山。粘性あり。
8　地山。

SK6001



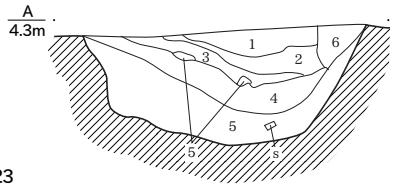
1　黄灰シルト。
2　オリーブ黒シルト。（基本②）
3　灰オリーブ粘土。
4　暗褐粘土。
5　灰褐シルト。（基本③）

SK22



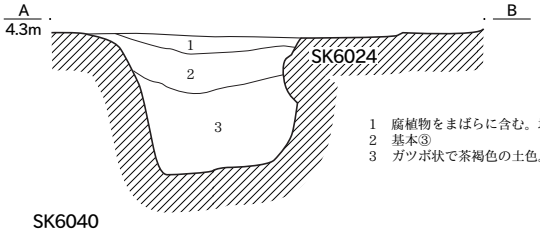
I　暗灰黄。耕作土。しまりあり。
III　黒褐。砂質シルト。炭化粒・腐植物を少量含む。しまりあり。
IVa　黒褐。砂質シルト。炭化粒・腐植物を少量含む。しまりあり。
IVb　黒。砂質シルト。炭化粒を多く含む。腐植物を少量含む。しまり少。
1　黒。砂質シルト。炭化粒を多く含む。腐植物を少量含む。
　灰色土ブロックを斑状に含む。褐を局所的に含む。しまり少。
2　灰。砂質土。炭化粒・腐食物を極少量含む。しまり少。
3　暗青灰。粘質シルト。炭化粒を多く含む。腐植物を少量含む。
　灰色土ブロックを斑状に含む。しまり少。
4　黒。砂質シルト。炭化粒を多く含む。腐植物を少量含む。
　灰色土ブロックを局所的に含む。しまり少。
5　黒。炭化物層(腐植炭化した植物遺層)。
　灰色土ブロックを局所的に含む。しまり少。
6　黒。炭化物層(腐植炭化した植物遺層)。灰
　色土ブロックをまばらに含む。しまり少。
7　黒褐。粘質シルト。炭化粒を少量含む。しまり少。

SK6021



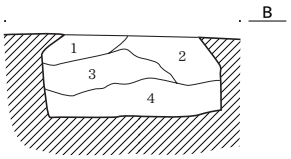
1　基本②
2　1層に比べ色はやや濃い。炭化物まばらに含む。
　植物の炭化層が上部にある。（基本②）
3　ガツボのような茶褐色の植物層。
4　植物が炭化したものが、一面を占める。
5　地山。炭化物まばらに含む。
6　撹乱。1層と2層が混じる。

SK6023



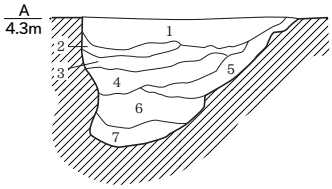
1　腐植物をまばらに含む。地表面に黒色炭化物あり。
2　基本③
3　ガツボ状で茶褐色の土色。地山からの地下水の湧き水が著しく多い。

SK6040



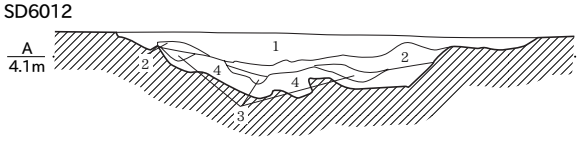
1　炭化物を少量含む。しまり少。粘性なし。（基本④）
2　炭化物を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本③）
3　オリーブ黒がブロック状に広がる。しまり少。粘性なし。（基本③）
4　オリーブ黒がブロック状に広がる。しまり少。粘性なし。（基本③）

SK6037



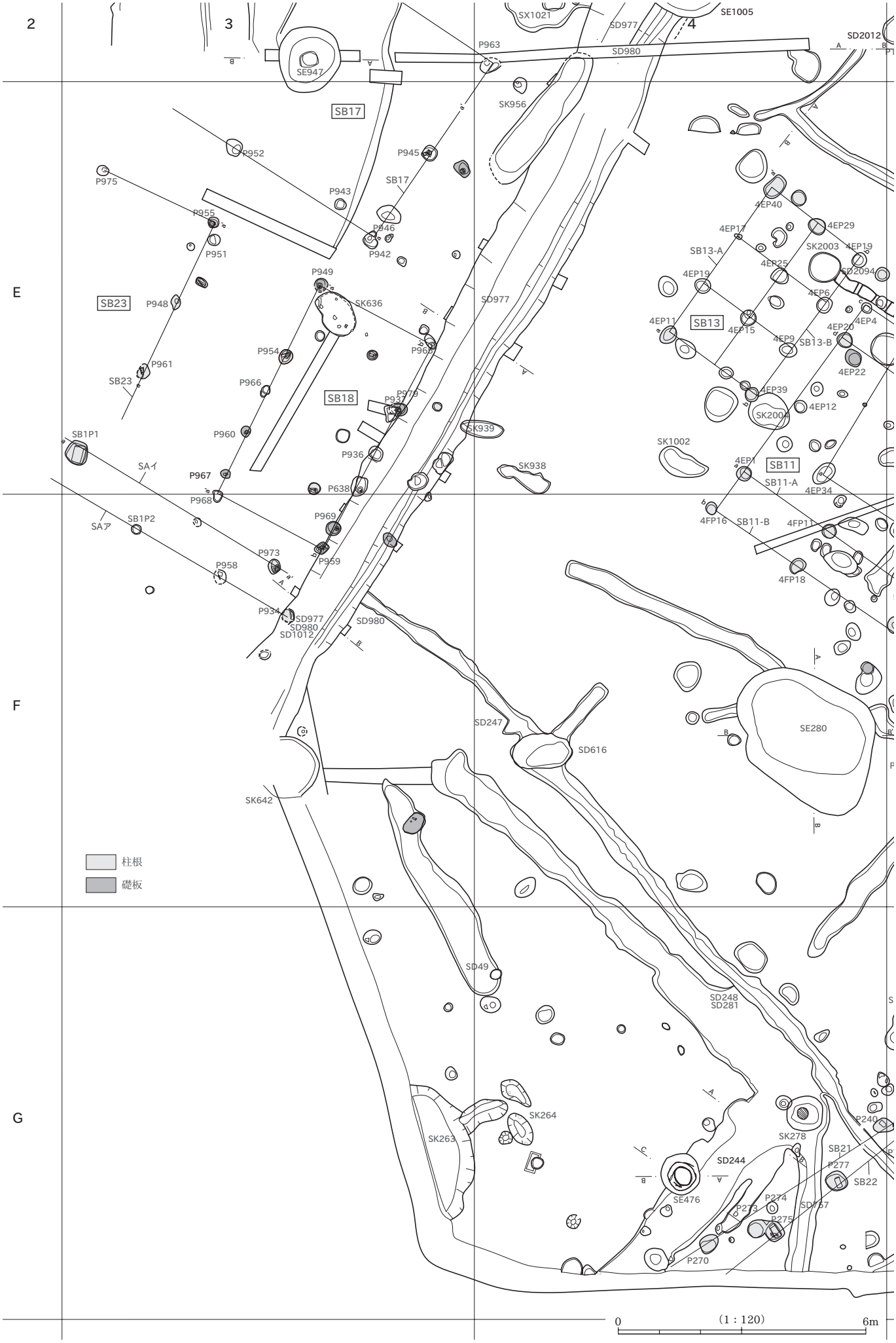
1　オリーブ黒粘質土。灰色シルトブロック含む。細砂粒・炭化粒含む。
　しまりあり。粘性あり。
2　灰シルト。オリーブ黒粘質土含む。しまりなし。粘性少。
3　オリーブ黒粘質土。灰シルトブロック含む。炭化粒含む。
　しまりなし。粘性あり。
4　オリーブ黒粘質土。灰シルトブロック含む。しまりなし。粘性あり。
5　オリーブ黒粘質土。箸状木製品あり。
6　灰シルト。しまりなし。粘性あり。
7　黒シルト。しまりなし。粘性あり。

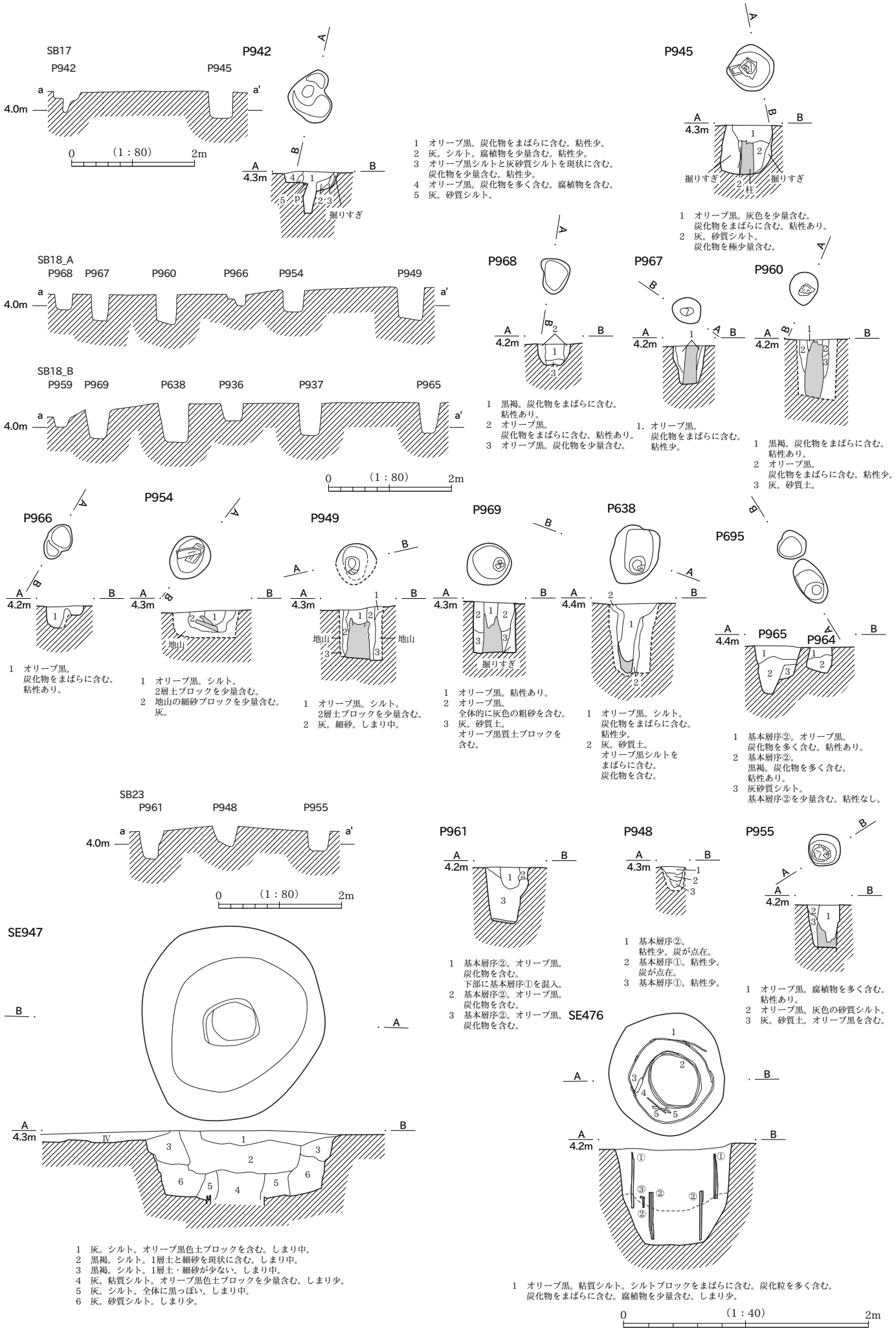
SD6012



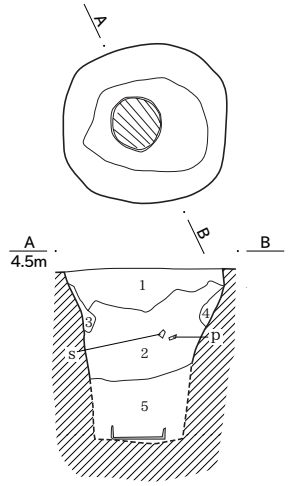
1　しまりあり。粘性なし。（基本①）
2　オリーブ黒を含む。しまり少。
　粘性なし。（基本②）
3　腐植物まばらに含む。しまり少。
　粘性少。（基本②）
4　腐植物まばらに少量含む。しまり少。
　粘性少。（基本③）
5　粘土質。砂一箇所混じる。（基本③）

0　(1：40)　2m


2
3
4
E
F
G
SX1021
SD977
SE1005
SD2012
P963
SD980
SE947
SK956
SB17
P952
P945
P975
P943
SB17
P955
P946
P951
P942
P949
SK636
SD977
SB23
P948
P954
P961
SB23
P966
SB18
P937
P979
SK939
SB1P1
P960
P936
SAイ
P967
P638
P968
SK938
SAア
SB1P2
P969
P973
P959
P958
P934
SD977
SD980
SD1012
SD980
4EP40
4EP29
4EP17
SK2003
4EP19
SB13-A
4EP25
SD2094
4EP19
4EP6
4EP11
SB13
4EP15
4EP20
4EP4
4EP9
SB13-B
4EP22
4EP39
4EP12
SK2004
SK1002
4EP1
SB11
SB11-A
4EP34
4FP16
SB11-B
4FP11
4FP18
SE280
SD247
SD616
SK642
柱根
礎板
SD49
SD248
SD281
SK264
SK263
SK278
P240
SB21
SD244
P277
SB22
SE476
P274
P273
SD757
P275
P270
0
(1：120)
6m

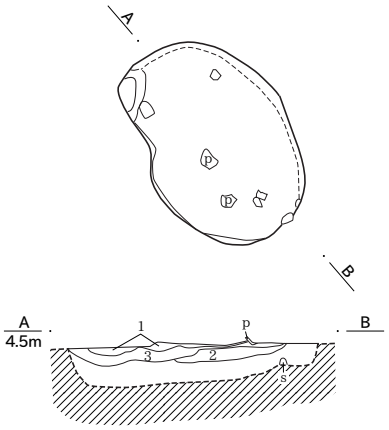

SB17
P942
P945
4.0m
0 (1：80) 2m
P942
A 4.3m B
掘りすぎ
1 オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。粘性少。
2 灰。シルト。腐植物を少量含む。粘性少。
3 オリーブ黒シルトと灰砂質シルトを斑状に含む。炭化物を少量含む。粘性少。
4 オリーブ黒。炭化物を多く含む。腐植物を含む。
5 灰。砂質シルト。
P945
A 4.3m B
掘りすぎ
柱
掘りすぎ
1 オリーブ黒。灰色を少量含む。炭化物をまばらに含む。粘性あり。
2 灰。砂質シルト。炭化物を極少量含む。
SB18_A
P968 P967 P960 P966 P954 P949
4.0m
SB18_B
P959 P969 P638 P936 P937 P965
4.0m
0 (1：80) 2m
P968
A 4.2m B
1 黒褐。炭化物をまばらに含む。粘性あり。
2 オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。粘性あり。
3 オリーブ黒。炭化物を少量含む。
P967
A 4.2m B
1. オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。粘性少。
P960
A 4.2m B
1 黒褐。炭化物をまばらに含む。粘性あり。
2 オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。粘性少。
3 灰。砂質土。
P966
A 4.2m B
1 オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。粘性あり。
P954
A 4.3m B
地山
1 オリーブ黒。シルト。2層土ブロックを少量含む。
2 地山の細砂ブロックを少量含む。灰。
P949
A 4.3m B
地山
地山
1 オリーブ黒。シルト。2層土ブロックを少量含む。
2 灰。細砂。しまり中。
P969
A 4.3m B
掘りすぎ
1 オリーブ黒。粘性あり。
2 オリーブ黒。全体的に灰色の粗砂を含む。
3 灰。砂質土。オリーブ黒質土ブロックを含む。
P638
A 4.4m B
1 オリーブ黒。シルト。炭化物をまばらに含む。粘性少。
2 灰。砂質土。オリーブ黒シルトをまばらに含む。炭化物を含む。
P695
A 4.4m B
P965 P964
1 基本層序②。オリーブ黒。炭化物を多く含む。粘性あり。
2 基本層序②。黒褐。炭化物を多く含む。粘性あり。
3 灰砂質シルト。基本層序②を少量含む。粘性なし。
SB23
P961 P948 P955
4.0m
0 (1：80) 2m
SE947
A 4.3m B
Ⅳ
1 灰。シルト。オリーブ黒色土ブロックを含む。しまり中。
2 黒褐。シルト。1層土と細砂を斑状に含む。しまり中。
3 黒褐。シルト。1層土・細砂が少ない。しまり中。
4 灰。粘質シルト。オリーブ黒色土ブロックを少量含む。しまり少。
5 灰。シルト。全体に黒っぽい。しまり中。
6 灰。砂質シルト。しまり少。
P961
A 4.2m B
1 基本層序②。オリーブ黒。炭化物を含む。下部に基本層序①を混入。
2 基本層序②。オリーブ黒。炭化物を含む。
3 基本層序②。オリーブ黒。炭化物を含む。
P948
A 4.3m B
1 基本層序②。粘性少。炭が点在。
2 基本層序①。粘性少。炭が点在。
3 基本層序①。粘性少。
P955
A 4.2m B
1 オリーブ黒。腐植物を多く含む。粘性あり。
2 オリーブ黒。灰色の砂質シルト。
3 灰。砂質土。オリーブ黒を含む。
SE476
A 4.2m B
1 オリーブ黒。粘質シルト。シルトブロックをまばらに含む。炭化粒を多く含む。炭化物をまばらに含む。腐植物を少量含む。しまり少。
0 (1：40) 2m

SK278



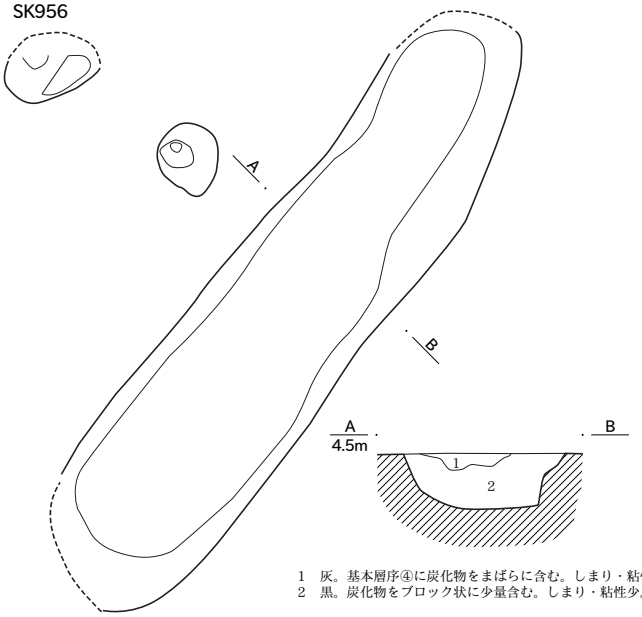
1　オリーブ黒。シルト。灰色土ブロックを多く含む。炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。粘質シルト。黒色土ブロックを含む。炭化物を多く含む。
3　オリーブ黒。粘質シルト。灰色土ブロックを含む。炭化物を少量含む。
　灰。粘質シルト。炭化物を少量含む。

SK636



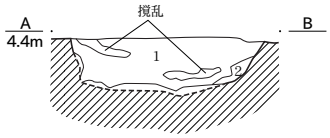
1　黒褐。シルト。オリーブ黒と灰を細かく斑状に含む。黒色土ブロックをまばらに含む。
　炭化物・腐植物を多く含む。しまりあり。粘性なし。
2　オリーブ黒。シルト。灰を斑状に含む。炭化物・腐植物を多く含む。しまりあり。粘性少。
3　オリーブ黒。シルト。灰を斑状に含む。オリーブ黒をまばらに含む。炭化物・腐植物を含む。
　しまり・粘性少。

SK956



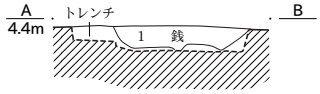
1　灰。基本層序④に炭化物をまばらに含む。しまり・粘性少。
2　黒。炭化物をブロック状に少量含む。しまり・粘性少。

SK2004



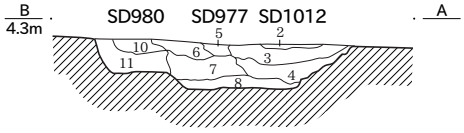
1　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックを全体に含む。
　炭化物を多く含む。腐植物を少量含む。
　しまり・粘性少。（基本②）
2　灰シルト。オリーブ黒ブロック・腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。
　（基本②）攪乱シルト。オリーブ黒シルトブロックをまばらに含む。
　腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。

SK2003



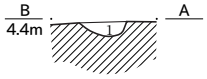
1　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックを含む。
　炭化粒・腐植物を少量含む。しまりあり。粘性少。
　（基本②）

SD980・977・1012



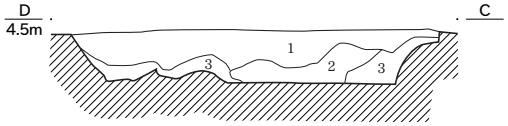
SD980・977・1012
2　灰。炭化物を極少量含む。
3　褐灰。炭化物を極少量含む。
4　褐灰。褐色粘質土を中心に含む。
　青灰シルトを極少量含む。
5　灰。炭化物をまばらに含む。
6　灰。粘性あり。
7　灰オリーブ。
8　青灰。しまりあり。
10　暗オリーブ灰。粘性あり。
11　暗オリーブ灰。粘性あり。

SD2012



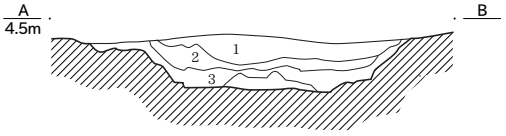
SD2012［北側］
1　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックをまばらに含む。
　炭化粒を少量含む。しまり少。粘性なし。（基本②）
SD2012［南側］
1　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックをまばらに含む。
炭化粒）を少量含む。炭化物をまばらに含む。しまり少。
粘性なし。（基本②）

SD244



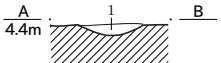
1　灰。シルト質土。炭化物を少量含む。しまり中。
2　オリーブ黒。シルト質。炭化物を少量含む。しまり中。
3　灰オリーブ。粘質シルト。1層土と地山土を半々程含む。しまり中。

SD244

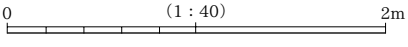


1　灰。シルト質土。炭化物を少量含む。しまり中。
2　オリーブ黒。シルト質。炭化物を少量含む。しまり中。
3　灰オリーブ。粘質シルト。1層土と地山土を半々程含む。しまり中。

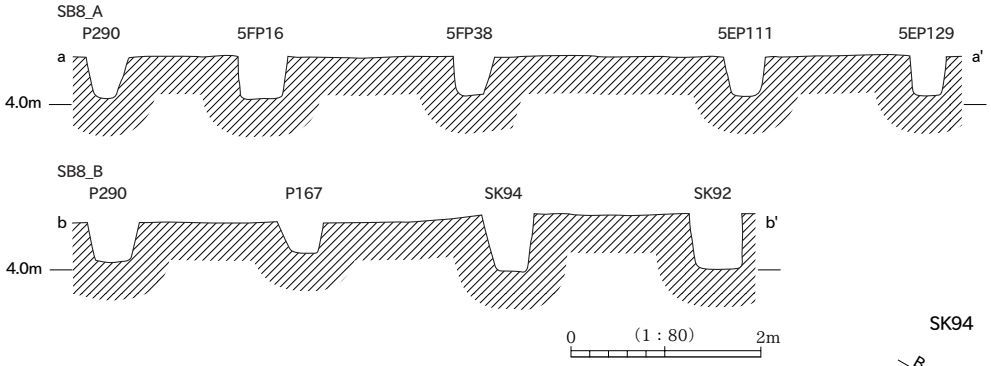
SD2024

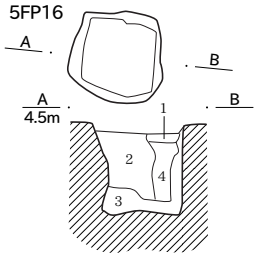


SD2024[東北側]
1　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを含む。
炭化粒・腐植物を極少量含む。しまりあり。粘性なし。
（基本③）
SD2024[西北側]
1　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを少量含む。
　炭化粒を極少量含む。腐植物を少量含む。しまりあり。
　粘性なし。（基本③）

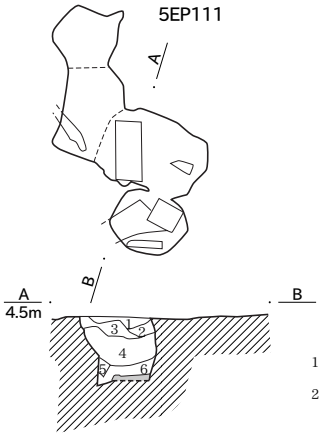


5
6
E
F
G
柱根
礎板
0
(1：120)
6m
SD980
SD2012
SD2024
SK2040
SK1072
SD1095
SK1075
SK2093
SK2097
SK2091
SD2090
SK2016
SK2038
SK2039
SK2017
SD2094
SD2095
SK2015
SK2033
SK2032
SK2035
SB13
SB13-A
SB13-B
SB12
SB12-B
SB11
SB11-A
SB11-B
SB11-C
SB8
SB8-A
SB8-B
SB9
SB9-A
SB9-B
SB10
SB10-A
SB10-B
SB5-B
SB6-A
SB6-B
SK2004
SK1002
SE2026
SD2027
SE280
SD2087
SK2020
SK2025
SK2030
SK2029
SK2019
SD2023
SE755
SK358
SE910
SE911
SD282
SK235
SK608
SK105
SK104
SK106
SD465
SK121
SK110
SB14
SK763
SD516
SD516・234
SD233
SK295
SD248
SD281
P245
SE421
SE476
SD244
SK278
SB21
SB22
SD757
SE223
SK15
SE43
SK607
SD14
SK16
SK39
SK42
SK44
SE17
SD745
SE241
SK122
SK74
SD584
SE227

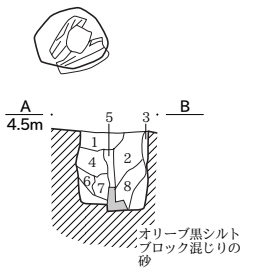




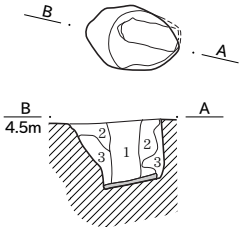
1　オリーブ黒色シルト。粘性あり。
2　灰色。粘性あり。
3　灰色。粘性あり。
4　オリーブ黒色。炭化物を含む。粘性あり。



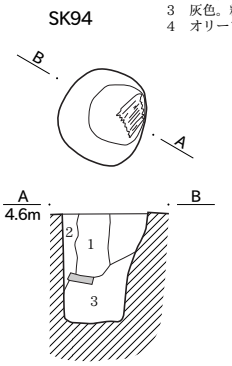
1　茶褐色シルト。（基本①）
2　灰褐色シルト。
3　褐灰シルト。
4　オリーブ黒色シルト。（基本②）
5　黒色シルト。
6　灰色シルト。（基本③）礎板あり。

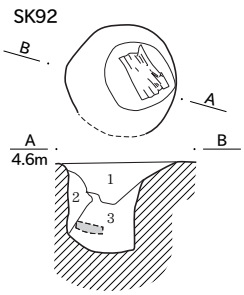


1　灰シルト。炭化粒を少量含む。
　粘性なし。（基本③）
2　オリーブ黒シルト。
　炭化物をまばらに含む。
　粘性少。（基本②）
3　灰シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）
4　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。
　粘性少。2層に近似している。（基本②）
5　オリーブ黒シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性少。（基本②）
6　灰シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）
7　灰シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）
8　灰シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。7層土に近似している。（基本③）

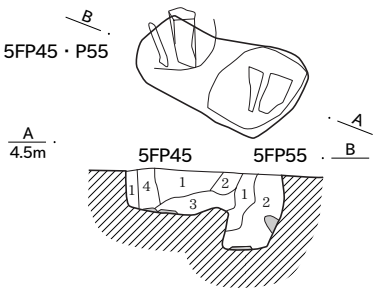


1　オリーブ黒。シルト。
　灰色ブロック・炭化物を含む。
　しまり中。
2　オリーブ黒。シルト。
　灰色ブロック・炭化物を含む。
　しまり中。
3　灰。砂質シルト。
　2層土が混じる。しまり少。

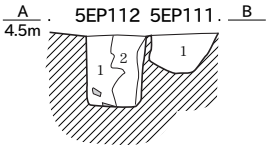




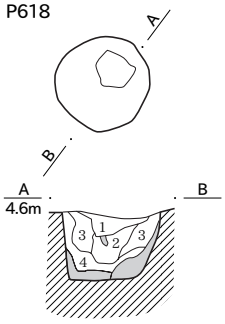
1　オリーブ黒。砂質シルト。暗灰黄と黒を斑状に含む。
　炭化物・腐植物を多く含む。しまり少。粘性あり。
2　灰。シルト。オリーブ黒を斑状に含む。
　炭化物・腐植物を含む。しまり少。粘性あり。
3　灰。砂質土。オリーブ黒を極少量含む。
　しまり・粘性少。



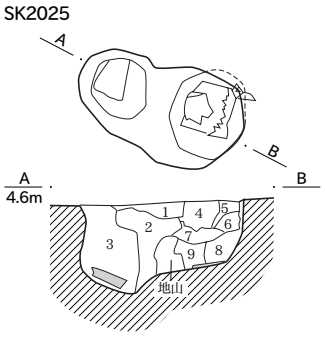
5FP45
1　灰褐色粘質土。炭化粒を含む。粘性あり。
2　オリーブ黒色シルト。炭化粒を含む。粘性あり。
3　灰色シルト。炭化物を少量含む。粘性あり。
4　黒色シルト。炭化粒を含む。粘性あり。
5FP55
1　オリーブ黒色シルト。粘性あり。
2　灰色シルト。炭化物を少量含む。
　粘性あり。礎板あり。



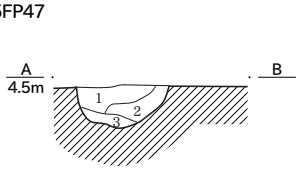
1　灰褐色シルト。粘性あり。
2　オリーブ黒色粘質土。
　炭化粒を含む。粘性あり。



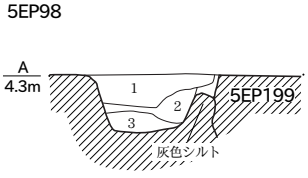
1　暗褐。細粒。
2　オリーブ黒。シルト。
　炭化物まばらに含む。
3　灰。シルト。
4　灰。シルト。
　2層土を少量含む。



1　灰黄シルト。粘性あり。
2　灰褐色シルト。炭化物ブロックあり。粘性あり。
3　オリーブ黒色シルト。炭化物混じる。（礎板あり）粘性あり。
4　灰褐シルト。炭化物を含む。粘性あり。
5　灰白シルト。粘性あり。
6　灰褐シルト。炭化物を含む。粘性あり。
7　灰白シルト。炭化物を含む。粘性あり。
8　黄白シルト。粘性あり。
9　褐灰シルト。炭化物を含む。（礎板あり）粘性あり。

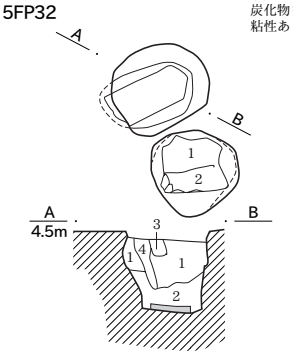


1　灰褐色シルト。
2　灰褐色粘土質。炭化物を含む。
　粘性あり。
3　黒色粘土質。粘性あり。

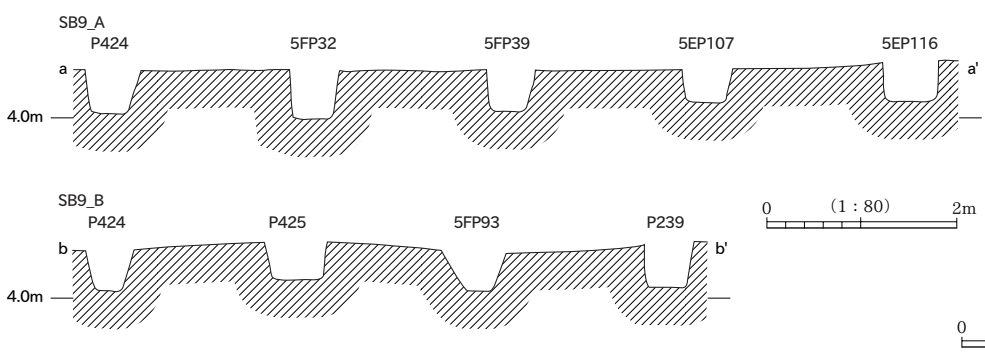


1　褐色シルト。
2　灰褐色シルト。
3　灰色シルト。

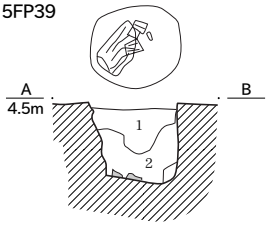
1　オリーブ黒。
　砂質シルト。
　炭化物を含む。
　粘性あり。



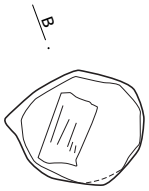
1　灰褐色シルト。
　灰色シルト・炭化物を含む。粘性あり。
2　灰色シルト。粘性あり。礎板あり。（基本③）
3　褐色シルト。炭化物含む。粘性あり。



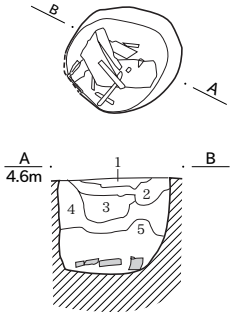
5FP39



1　灰褐シルト。（基本②）
　炭化物を含む。粘性あり。
2　灰色シルト。（基本③）
　礎板あり。粘性あり。

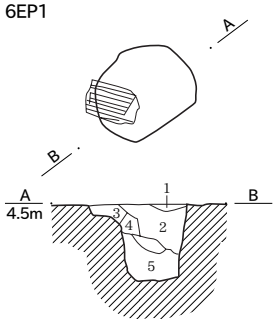


P425



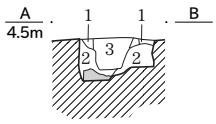
1　オリーブ黒。砂質シルト。炭化物を極少量含む。
2　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒を多く含む。
　炭化物を少量含む。粘性少。
3　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒を多く含む。
　炭化物をまばらに含む。粘性少。
4　灰オリーブ。砂質シルト。炭化粒を少量含む。
5　灰オリーブ。砂質シルト。炭化粒を極少量含む。

6EP1



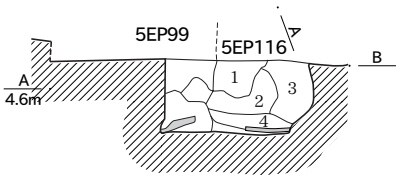
1　黒色シルト。
　炭化粒を多く含む。粘性あり。
2　灰褐色シルト。
　炭化粒を多く含む。粘性あり。
3　黒色シルト。
　炭化物を含む。粘性あり。
4　灰色シルト。粘性少。
5　オリーブ黒色粘質土。
　炭化粒を含む。粘性あり。

5EP107



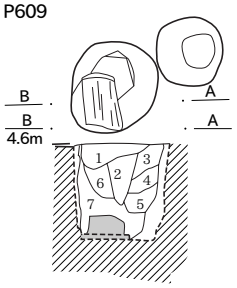
1　灰褐色シルト。粘性あり。
2　灰色シルト。しまりなし。
　粘性あり。礎板あり。

5EP99　5EP116



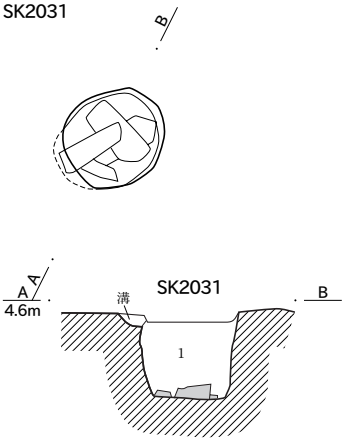
1　褐色シルト。
2　オリーブ黒色シルト。
3　褐色シルト。
4　オリーブ黒色シルト。（礎板あり）

P609



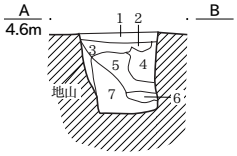
1　オリーブ黒。炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。炭化物を含む。
3　オリーブ黒と灰色シルトが斑状に混じる。
　炭化物を含む。
4　黒褐色を基本に、炭化物を含む。
5　オリーブ黒シルト。腐植物・炭化物を含む。
6　灰色。炭化物を含む。
7　灰色の砂質シルト。炭化物を含む。

SK2031



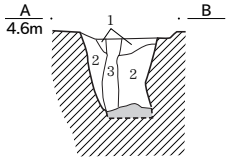
1　灰褐シルト。（基本①）

6FP15



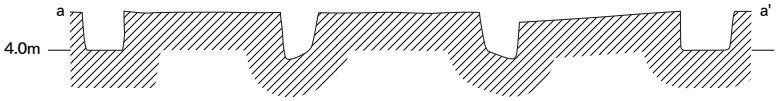
1　黒褐色シルト。
2　オリーブ黒色シルト。（基本②）
3　褐灰色シルト。
4　黄灰色シルト。（基本③）黒色シルト。
5　茶褐色シルト。（基本①）
6　黒色シルト。
7　オリーブ黒色シルト。（基本②）

SK2030

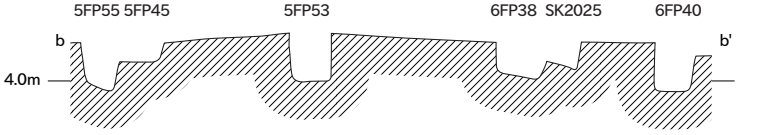


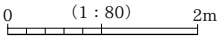
1　オリーブ黒シルト。
　炭化物多く含む。粘性あり。
2　灰褐シルト。炭化物を少量含む。
　粘性あり。
3　黒シルト。炭化物を少量含む。
　粘性あり。（柱根部分）

SB10_A

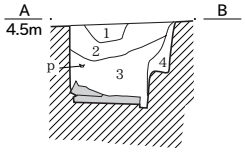


SB10_B



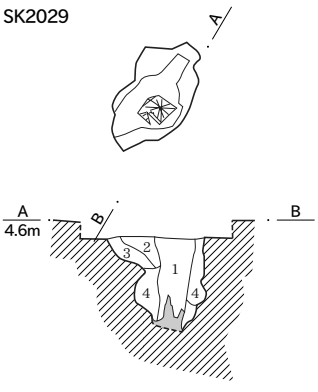


P424



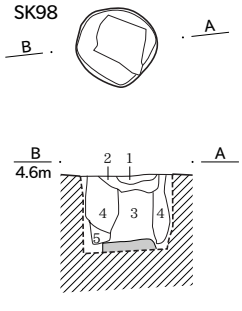
1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物をまばらに含む。
2　オリーブ黒。シルト。全体に黒い腐植物層。
3　オリーブ黒。
　2層と同じ層であるが、2層より粘性が増す。
4　灰色。シルト。
　1層土中に地山土粒を多く含む。炭化物を含む。

SK2029

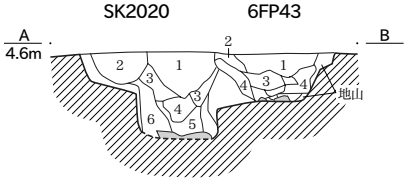


1　暗褐色シルト。（柱根部分）
2　暗褐色シルト。
3　灰色シルト。（基本③）
5　暗褐色シルト。（基本②）

SK98



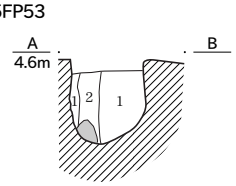
SK2020　6FP43



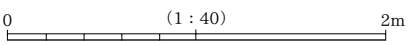
1　オリーブ黒。（基本②）
2　黒シルト。（基本②）
3　灰褐シルト。
4　灰褐シルト。
5　茶褐シルト。（基本①）
6　黒シルト。（基本②）
　礎板あり。

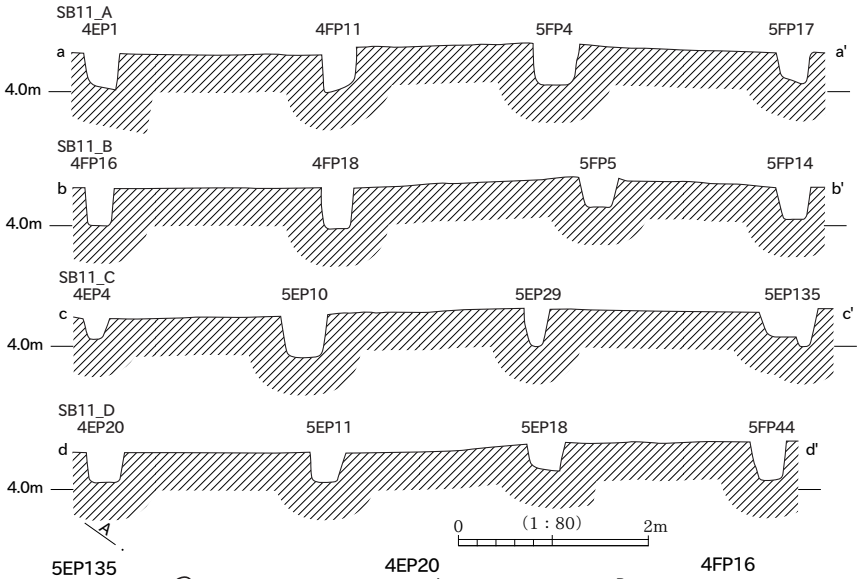
1　茶褐色シルト。（基本①）
2　黒色シルト。（基本②）
3　オリーブ黒色。（基本②）
4　灰色シルト。（基本③）
5　オリーブ黒色。（基本②）
6　灰色シルト。（礎板あり）

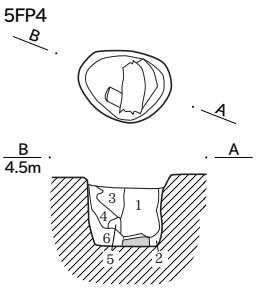
5FP53

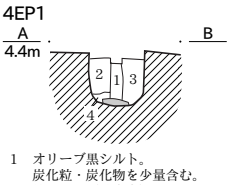


1　灰色シルト。
　オリーブ黒色粘質土ブロック状に含む。
　粘性あり。
2　オリーブ黒色粘質土。柱・礎板を含む。
　粘性あり。



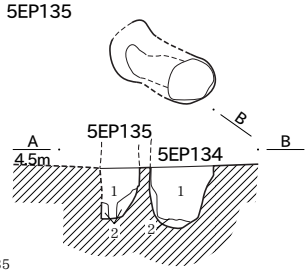




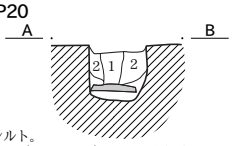


1　オリーブ黒シルト。
　炭化粒・炭化物を少量含む。
　粘性少。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。
　炭化物を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
3　灰シルト。
　炭化粒・炭化物を少量含む。
　粘性なし。（基本③）
4　灰シルト。
　粘性なし。（基本③）

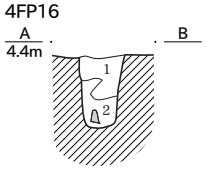
1　オリーブ黒。炭化物を多く含む。
　粘性あり。（基本②）
2　灰シルト。粘性なし。（基本③）
3　オリーブ黒シルト。炭化物を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
4　灰シルト。炭化粒を少量含む。
　粘性なし。（基本③）
5　灰シルト。粘性なし。（基本③）
6　灰シルト。粘性なし。2層土に近似。
　（基本③）



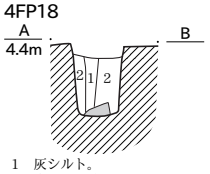
5EP135
1　オリーブ黒シルト。炭化物を多く含む。
　粘性なし（基本②）
2　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
5EP134
1　オリーブ黒。炭化物を多く含む。粘性なし。（基本②）
2　灰シルト。炭化粒をまばらに含む。



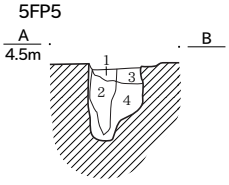
1　灰シルト。
　オリーブ黒シルトブロックを全体的に含む。
　炭化粒を少量含む。腐植物をやや多く含む。
　しまり少。粘性なし。（基本③）
2　灰シルト。
　オリーブ黒シルトブロック・炭化粒・腐植物を
　少量含む。しまり少。粘性なし。（基本③）
3　灰細砂シルト。
　オリーブ黒シルトブロックを少量含む。
　腐植物を極少量含む。しまりあり。
　粘性なし。（基本③）



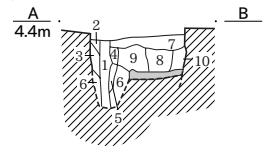
1　灰シルト+オリーブ黒シルト。
　炭化物を少量含む。粘性少。
　（基本②+③）
2　灰シルト。
　炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）



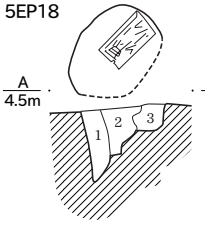
1　灰シルト。
　炭化粒・粘性少。
　（基本③）
2　オリーブ黒シルト。
　炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本②）



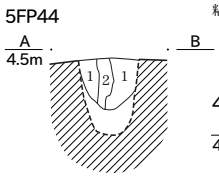
1　オリーブ黒シルト。
　炭化物をまばらに含む。
　粘性なし。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。
　炭化物をまばらに含む。
　粘性少。（基本②）
3　オリーブ黒シルト。
　炭化物を極少量含む。
　粘性なし。（基本2）
4　灰シルト。
　炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）



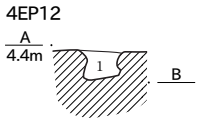
1　オリーブ黒シルト。
　炭化物を少量含む。
　粘性あり。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。
　炭化物を極少量含む。
　粘性なし。（基本②）
3　灰シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性少。（基本③）
4　灰シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性あり。（基本③）
5　3層土に近似している。
6　灰砂。粘性なし。
7　オリーブ黒シルト。炭化物を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
8　オリーブ黒シルト+灰シルト。
　炭化粒を少量含む。
　粘性少。（基本②+③）



1　オリーブ黒色シルト。
　（基本②）
2　灰褐色シルト。（基本③）
3　オリーブ黒色シルト。
　（基本②）

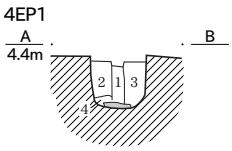


1　灰褐色シルト。
　炭化物を含む。
　粘性あり。
2　黒色粘質土。
　炭化物を含む。
　粘性あり。

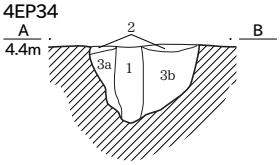


1　オリーブ黒。
　炭化物を少量含む。
　粘性なし。

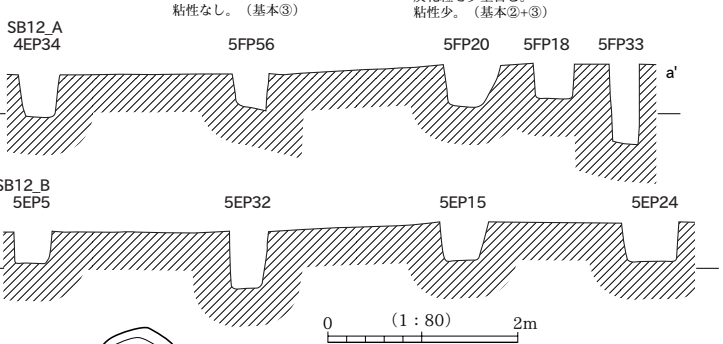
1　オリーブ黒シルト。
　炭化物を極少量含む。
　粘性少。（基本②）
2　灰シルト。
　炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）

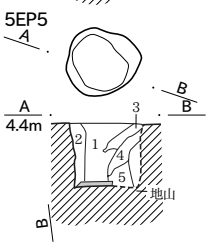


1　オリーブ黒シルト。
　炭化粒・炭化物を少量含む。
　粘性少。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。
　炭化物を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
3　灰シルト。
　炭化粒・炭化物を少量含む。
　しまりあり。
　粘性なし。（基本③）
4　灰シルト。腐植物を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）

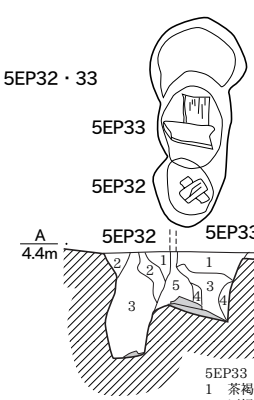


1　オリーブ黒シルト。炭化物を少量含む。
　粘性あり。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
3a　灰シルト。炭化粒を極少量含む。
　粘性なし。（基本③）
3b　灰シルト。3a層土に近似している。



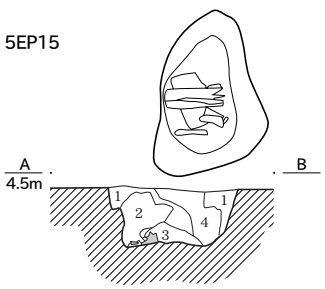


1　オリーブ黒シルト。灰色シルトブロックを全体に含む。
　炭化物・腐植物をやや多く含む。
　しまり少。粘性あり。（基本②）
2　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを全体に含む。
　炭化粒を極少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本③）
3　2層土と近似している。
　ただし、炭化粒を少量含む。（基本③）
4　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを全体に含む。
　炭化粒・腐植物を少量含む。しまり・粘性少。（基本③）
5　灰シルト。
　オリーブ黒シルトブロック・腐植物を極少量含む。
　しまりあり。粘性なし。（基本③）

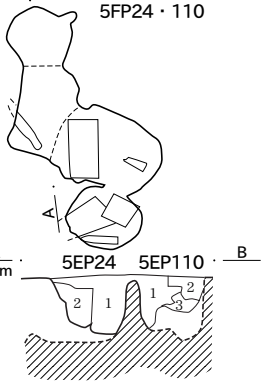


5EP32
1　茶褐色シルト。（基本①）
2　灰色シルト。
3　褐色シルト。（礎板あり）

5EP33
1　茶褐色シルト。
2　灰褐色シルト。
3　オリーブ黒色シルト。（基本②）
4　灰色シルト。
5　灰黄色シルト。（礎板あり）

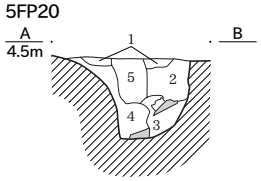


1　灰褐色シルト。炭化物ブロックを含む。粘性あり。
2　オリーブ黒色シルト。炭化物を多く含む。粘性あり。
3　灰色シルト。しまりなし。粘性あり。
4　オリーブ黒色シルト。炭化物を含む。



5EP24
1　茶褐色シルト。（基本①）
2　灰色シルト。（基本③）

5EP110
1　茶褐色シルト。（基本①）
2　灰褐色シルト。（基本③）
3　褐灰色シルト。（基本②）



1　オリーブ黒色。炭化粒を含む。
　粘性あり。
2　灰色シルト。粘性あり。
3　オリーブ黒色粘質土。粘性あり。
4　灰色シルト。粘性あり。
5　オリーブ黒色。炭化物を含む。
　粘性あり。

0　(1：40)　2m

SB13_A
4EP11　4EP19　4EP17　4EP40
a　a'
4.0m

SB13_B
4EP39　4EP9　4EP6　4EP19
b　b'
4.0m

0　(1：80)　2m

4EP11
A　4.4m　B
1　2　3

1　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性少。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。炭化物をまばらに含む。粘性少。柱痕。
3　オリーブ黒シルト。腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。

4EP40
B　A　4.4m　B
1　5　3　2　4　6　6

1　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
2　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性少。（基本③）
3　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性少。（基本②に近い）
4　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
5　灰シルト。炭化粒を極少量含む。粘性なし。（基本③）

4EP98
1　B　B　4.4m　A　4EP39　4EP98　A
3　4　2　1

4EP15
A　4.4m　B
1　2　3　4

1　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性あり。（基本②）
2　灰シルト。炭化粒を少量含む。しまり・粘性少。（基本③）
3　灰シルト。炭化粒を極少量含む。粘性なし。（基本③）

4EP29
A　4.4m　B
2　1

1　オリーブ黒シルト。炭化物をまばらに含む。粘性なし。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本②）

P270
A　4.5m　B
1　2　3　4　4

1　オリーブ黒。粘質シルト。炭化物を少量含む。
2　灰。粘質シルト。
3　灰。シルト。炭化物を少量含む。
4　灰オリーブ。砂質シルト。

SB21
P270　P240　P231
a　a'
4.0m

0　(1：80)　2m

P240
A　A　4.5m　B　B
1　2

1　オリーブ黒シルト。
2　オリーブ黒粘質シルト。

P231
A　A　4.6m　B　B
3　1　4　2　2　5

1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。2層土ブロックを多く含む。
2　灰。砂質シルト。3層土ブロックを多く含む。
3　オリーブ黒。シルト。炭化物・2層土ブロックを少量含む。
4　灰。砂質シルト。2層土ブロックを少量含む。
5　黒。粘質シルト。

P714
A　4.5m　B
2　1　4　5　3　6

1　灰。シルト。炭化物を多く含む。粘性少。
2　オリーブ黒。シルト。炭化物を含む。粘性あり。
3　灰色土とオリーブ黒色土を斑状に含む。炭化物を含む。粘性あり。
4　灰オリーブ色土とオリーブ黒色土を斑状に含む。シルト。粘性あり。
5　オリーブ黒。炭化物を含む。粘性あり。
6　灰オリーブ。砂質土。

SB22_A
P275　P277　P250　P232
a　a'
4.0m

SB22_B
P438　P230　P232
b
4.0m

0　(1：80)　2m

P275
A　B　A　4.5m　B
1　2

1　灰。炭化物をまばらに含む。
2　灰。オリーブ黒色土を含む。

P277
A　B　A　4.5m　B
1　2

1　灰。シルト。炭化物を少量含む。砂を含む。
2　灰。1層よりオリーブ色土を多く含む。炭化物を少量含む。

P250
B　A　A　4.5m　B
1

1　オリーブ黒。シルト。灰色砂ブロックを多く含む。

P232
B　A　A　4.5m　B
p　1　2　3

1　オリーブ黒。シルト。炭化物・3層土ブロックを多く含む。
2　オリーブ黒。シルト。炭化物・3層土を多く含む。
3　炭化物を少量含む。2層土ブロックを多く含む。

P438・P439
A　4.5m　P439　P438　B
1　1　1'　2　3　地山

P438
1　オリーブ黒。シルト。炭化物をまばらに含む。灰シルト土粒を含む。しまり中。
1'　オリーブ黒。1層土に類似する。
2　灰。砂質シルト。1層土を少量含む。
3　灰。シルト。

P439
1　オリーブ黒。シルト。炭化物をまばらに含む。灰シルト土粒を含む。

P230
A　B　B　4.5m　1　A
2　3

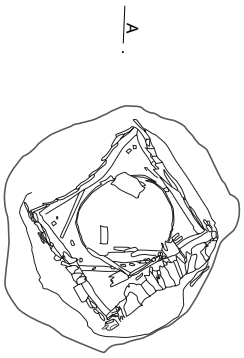
1　オリーブ黒。シルト。砂ブロックをまばらに含む。
2　オリーブ黒。
3　オリーブ黒。粘質シルト。

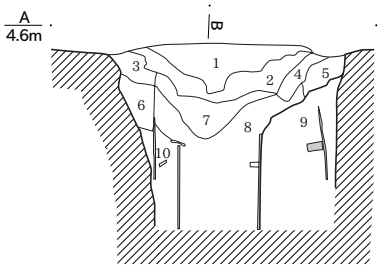
P228
B　A　4.5m　B
2　A　1

1　オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。灰シルト土粒を含む。シルト。

0　(1：40)　2m

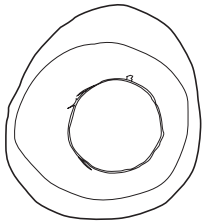
SE17

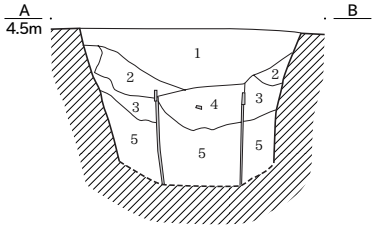




1　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒を多く含む。
　粗砂を少量含む。腐植物をまばらに含む。しまりあり。
2　黒。炭化物が全体的に混じる。粗砂・腐植物を少量含む。しまり少。
3　オリーブ褐。砂層。炭化粒・腐植物を極少量含む。しまりあり。
4　灰。砂質土。炭化粒をまばらに含む。腐植物を極少量含む。しまりあり。
5　灰。砂質土。炭化粒を極少量含む。粗砂・腐植物を少量含む。しまり中。
6　黒褐色。粘質シルト。炭化粒・腐植物を極少量含む。しまり中。
7　黒。粘質シルト。炭化粒を少量含む。炭化物を極少量含む。
　粗砂を少量含む。しまり少。
8　黒。粘質シルト。全体的に炭化物層。腐植物を極少量含む。しまり少。
9　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒を極少量含む。しまり少。粘性あり。
10　灰。砂質土。腐植物を極少量含む。しまり少。

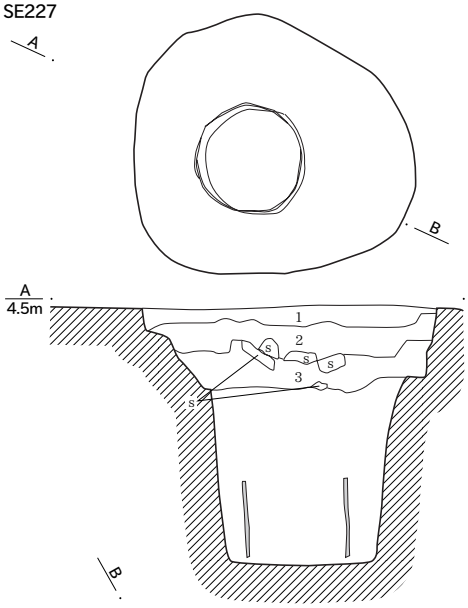
SE43





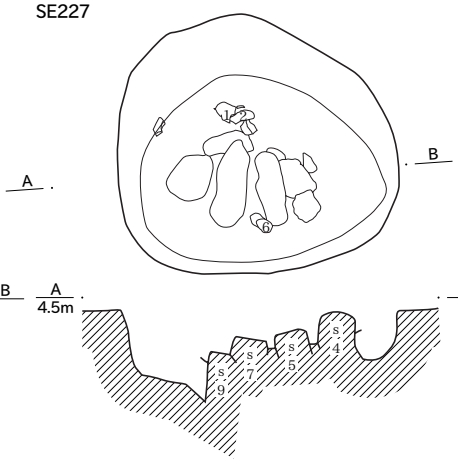
1　灰。砂質シルト。礫を少量含む。炭化粒・腐植物を含む。
2　オリーブ黒。粘質土。炭化物・腐植物を少量含む。粘性あり。
3　灰。砂質シルト。粘性あり。
4　オリーブ黒。シルト質土。灰のシルト質土斑状に含む。
　しまり少。粘性あり。
5　灰。腐植物を含む。

SE227

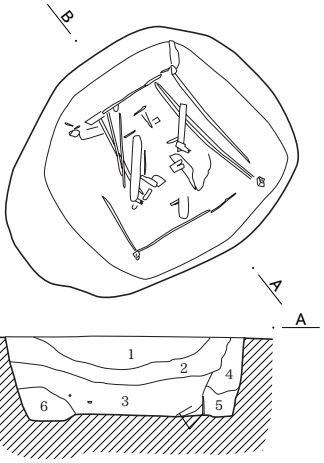


1　オリーブ黒。シルト。灰色土ブロック・炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。シルト。灰色土ブロック・炭化物を少量含む。
3　灰。砂質シルト。2層土ブロックを含む。炭化物を少量含む。

SE227

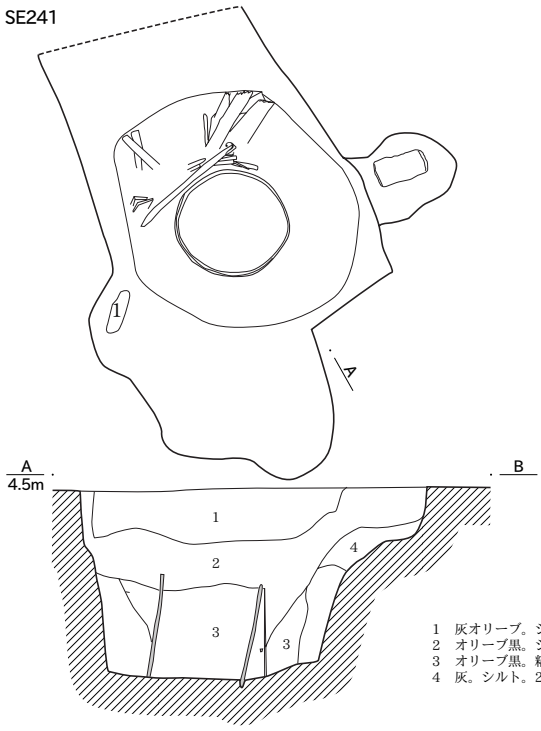


SE229



1　オリーブ黒。シルト。灰オリーブ砂質ブロックを多く含む。
　炭化物を多く含む。黒。シルト。
　灰色土ブロックを多く含む。炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。粘質シルト。灰と黒色土ブロックを含む。
3　オリーブ黒。粘質シルト。
　灰と灰オリーブの砂質ブロックを多く含む。
　炭化物を少量含む。
4　灰。砂質シルト。炭化粒を少量含む。
5　灰。砂質シルト。オリーブ黒色土ブロックを含む。
　炭化物を少量含む。湿り気あり。

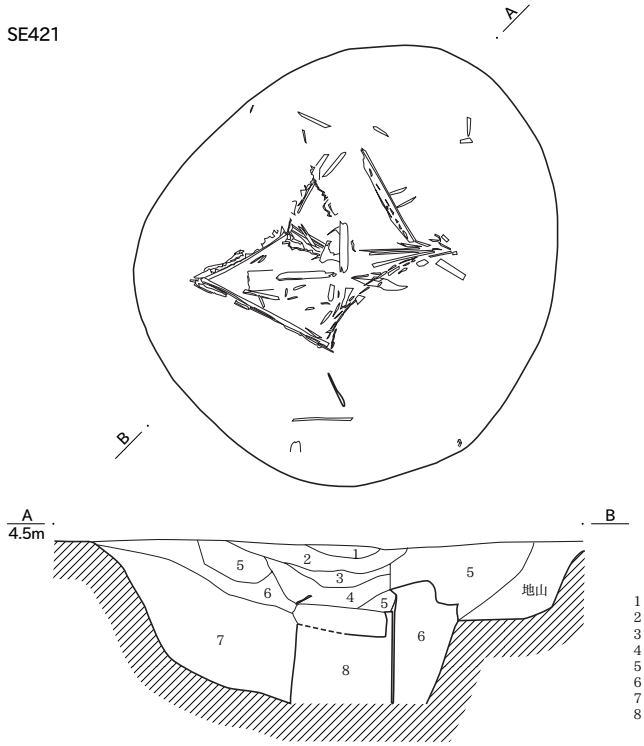
SE241



1　灰オリーブ。シルト。灰シルトブロックを斑状に含む。炭化物を含む。しまり中。
2　オリーブ黒。シルト。灰シルトブロックを斑状に含む。炭化粒・炭化物を含む。しまり中。
3　オリーブ黒。粘質シルト。炭化物を少量含む。しまり中。
4　灰。シルト。2層土を斑状に含む。しまり少。

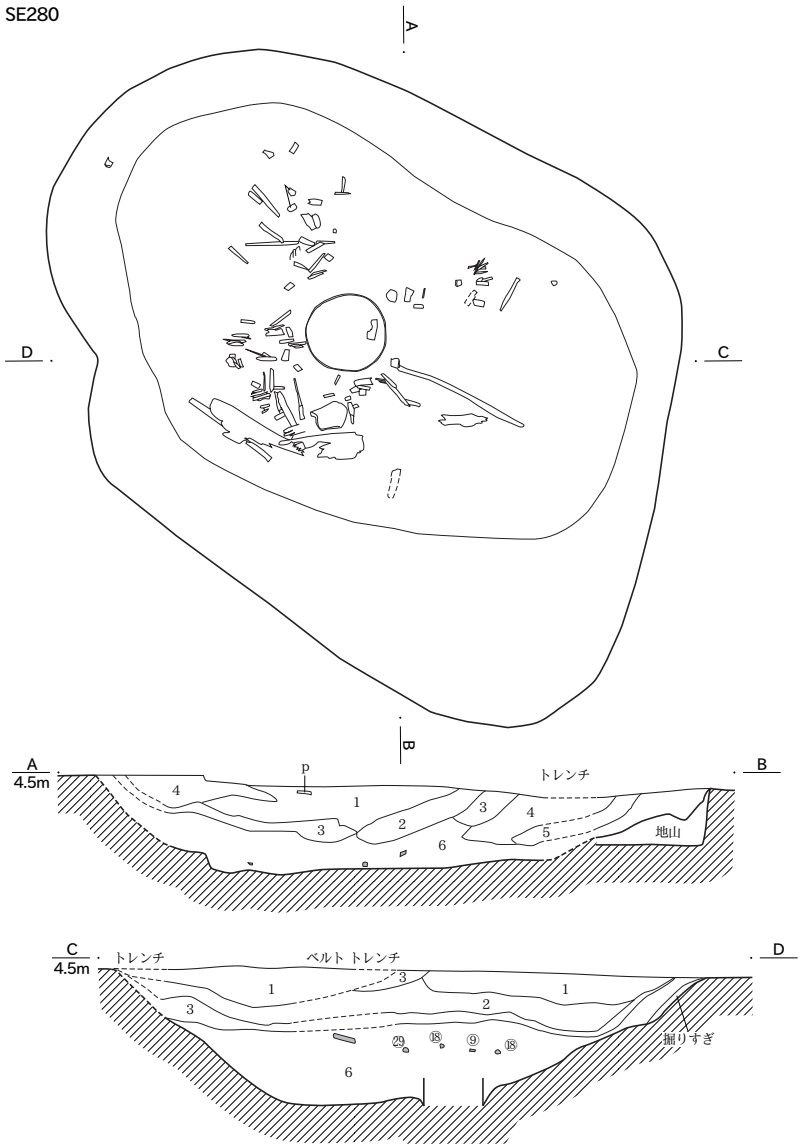
0　(1：40)　2m

SE421



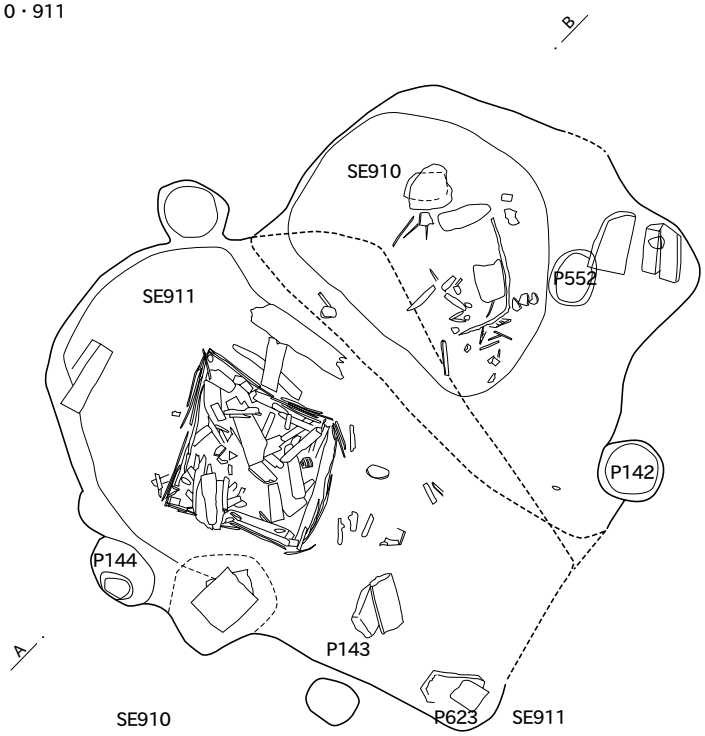
1　暗オリーブ。シルト。炭化物を含む。しまり中。
2　灰。シルト。炭化物を含む。しまり中。
3　灰。シルト。2層土より粘性あり。炭化物を含む。しまり少。
4　オリーブ黒。粘質シルト。全体に腐植炭化物を含む。しまり少。
5　灰オリーブ。シルト。炭化物を含む。しまり中。
6　灰。シルト。灰色土ブロックを含む。炭化物を含む。
7　オリーブ黒。粘質シルト。灰色土ブロックを含む。
8　オリーブ黒。粘質シルト。灰色土ブロックを含む。

SE280



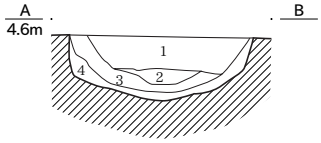
1　灰オリーブ。シルト。砂質シルトブロックを少量含む。
　炭化物をまばらに含む。湿り気あり。しまり中。
2　オリーブ黒。シルト。砂質シルトブロックを少量含む。
　炭化物をまばらに含む。しまり中。1層より粘性あり。
3　オリーブ黒。シルト。2層土と同じ。腐植炭化物を多く含む。
4　暗オリーブ。シルト。砂質シルトブロックを少量含む。
　炭化物をまばらに含む。しまり中。
5　オリーブ黒。シルト。砂質シルトブロックを少量含む。
　炭化物を少量含む。湿り気あり。しまり中。
6　オリーブ黒。砂質シルト
　砂質シルトブロックを少量含む。しまり少。

SE910・911



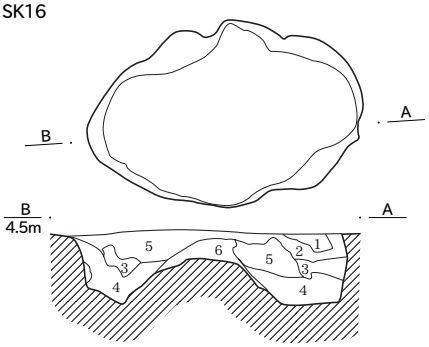
1　灰。シルト。灰オリーブ色土ブロックを斑状に含む。炭化物をまばらに含む。しまり中。
2　灰。シルト。灰オリーブ色土ブロックを少量含む。しまり中。
3　オリーブ黒。シルト。灰オリーブ色土ブロックを少量含む。炭化物をまばらに含む。しまり中。
4　灰オリーブ。シルト。灰オリーブ色土ブロックを斑状に含む。炭化物をまばらに含む。しまり中。
5　灰オリーブ。シルト。黒い腐植炭化物層を含む。砂質に近い。
6　オリーブ黒。砂質シルト。黒い腐植炭化物層を含む。しまり少。
7　オリーブ黒。シルト。灰オリーブ色土ブロックを少量含む。上部に腐植炭化物層を斑状に含む。

SK235



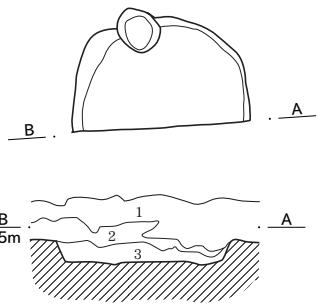
1　オリーブ黒。シルト。2層土ブロックを多く含む。
　灰オリーブと黒の砂ブロックを含む。
　炭化物を多く含む。湿り気あり。
2　灰。粘質シルト。オリーブ黒色土ブロックを含む。
　炭化物を少量含む。
3　黒。粘質シルト。4層土ブロックを多く含む。
　炭化物を少量含む。
4　灰オリーブ。砂質シルト。1層土のブロックを少量含む。
　炭化物を少量含む。湿り気あり。

SK16

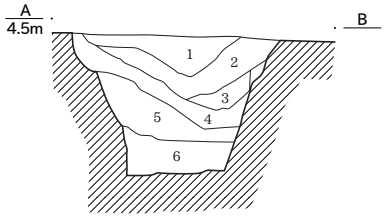


1　褐灰。砂質シルト。細砂の流れ込みの塊を含む。しまり少。
2　褐灰。砂質シルト。灰細砂の塊を少量含む。
3　褐灰。砂質シルト。灰細砂の塊を少量含む。
4　黒褐。砂質シルト。底部にシマ模様の細砂の堆積。しまり少。
5　黒褐。シルト。全体に径3～7mmの炭化物をまばらに含む。しまり少。
6　褐灰。砂質シルト。部分的に流れ込み堆積のシマ模様がある。

SK39

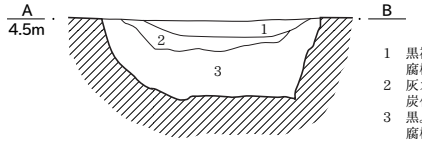


SE2026



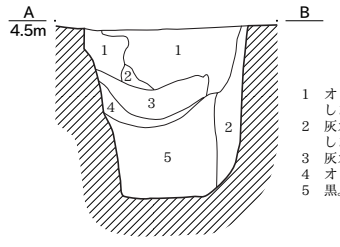
1　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックをまばらに含む。
　褐を極少量、腐植物を少量含む。粘性なし
2　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックをまばらに含む。
　腐植物を少量含む。粘性なし。
3　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックをまばらに含む。
　炭化物を少量含む。粘性なし。
4　黒シルト。灰シルトブロックをまばらに含む。粘性なし。
5　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックをまばらに含む。
　腐植物を極少量含む。遺物（木片）を含む。粘性なし。
7　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックをまばらに含む。
　粘性なし。

SK104



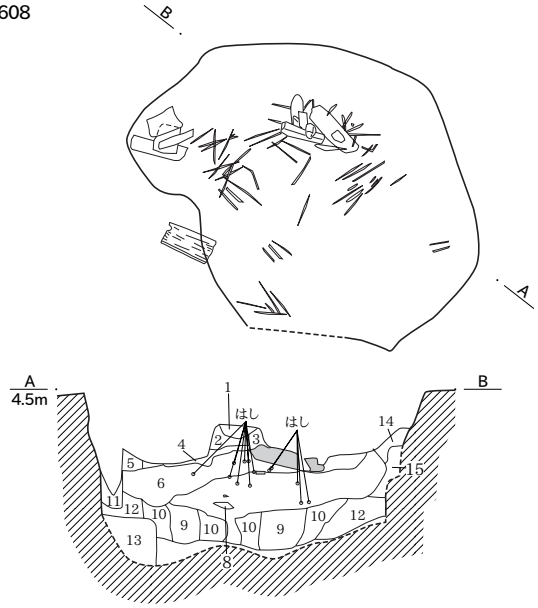
1　黒褐。シルト。灰オリーブを含む。炭化物を含む。
　腐植物をまばらに含む。しまり・粘性少。
2　灰オリーブ。黒を斑状に含む。
　炭化物・腐植物をまばらに含む。しまり・粘性少。
3　黒。灰オリーブ・黒を含む。炭化物を含む。
　腐植物をまばらに含む。しまりなし。粘性あり。

SK106



1　オリーブ黒。シルト。炭化物・灰色土粒をまばらに含む。
　しまり中。
2　灰オリーブ。シルト。炭化物・灰色土粒をまばらに含む。
　しまり中。
3　灰オリーブ。シルト。4層土を少量含む。しまり中。
4　オリーブ黒。1層土と5層土を含む。炭化物をまばらに含む。
5　黒。シルト。全体が黒い腐植炭化物層。しまり少。

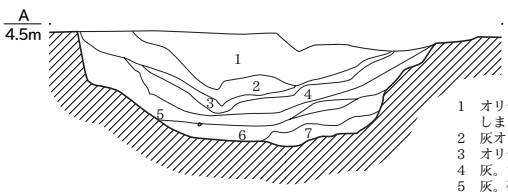
SK608



1　オリーブ黒。シルト。黒をまばらに含む。炭化物・腐植物を含む。しまりあり。粘性少。
2　オリーブ黒。シルト。径5mm程の炭化物を多く含む。腐植物少量含む。しまり少。粘性あり。
3　オリーブ黒。シルト。炭化物・腐植物を含む。しまり・粘性少。
4　オリーブ黒。腐植物を含む。しまり少。
5　3層と同じ。
6　黒褐。シルト。炭化物・腐植物を含む。上部に箸出土。しまりなし。粘性あり。
7　オリーブ黒。シルト。炭化物を多く含む。腐植物を含む。箸出土。しまり・粘性少。
8　黒。シルト。炭化物の塊？しまり・粘性なし。
9　灰。炭化粒を含む。腐植物を少量含む。
10　灰。砂質シルト。炭化物を少量含む。腐植物を含む。しまり少。粘性なし。
11　黒褐。シルト。炭化物をまばらに含む。しまりなし。粘性あり。
12　灰。砂質土。しまりあり。粘性なし。
13　オリーブ黒と灰のシマ模様。砂質シルト。しまり少。粘性なし。
14　灰。砂質シルト。炭化物・腐植物を含む。しまり・粘性少。
15　暗灰黄。砂質土。炭化物を極少量含む。腐植物を含む。しまり少。粘性なし。

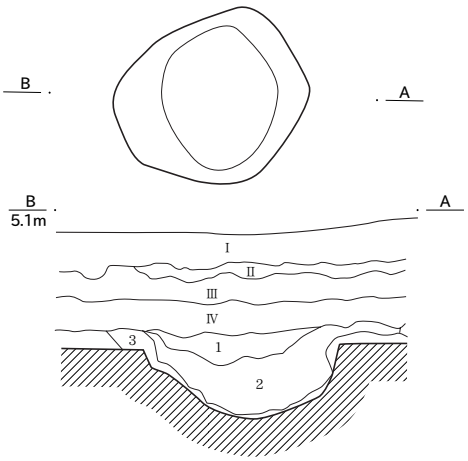
0　（1：40）　2m

SK763



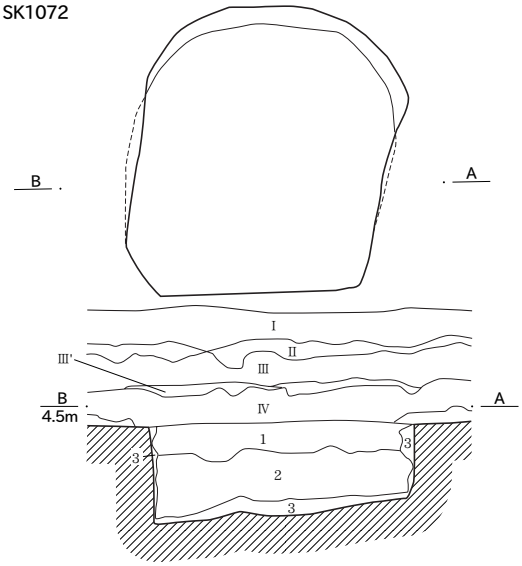
1　オリーブ黒。シルト。灰を斑状に含む。しまり中。
2　灰オリーブ。シルト。しまり中。
3　オリーブ黒。腐植物堆積層。しまり少。
4　灰。シルト。しまり少。
5　灰。砂質シルト。しまり少。
6　オリーブ黒。腐植物堆積層。しまり少。
7　灰。砂質シルト。しまり少。

SK1075



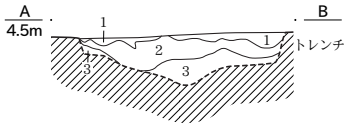
1　灰。シルト。灰色土ブロックを含む。炭化物をまばらに含む。しまり中。
2　黒。シルト。灰色土ブロックを含む。全体が黒い腐植炭化物を多く含む。しまり少。

SK1072



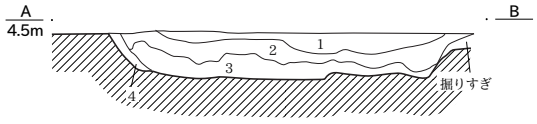
1　灰。シルト。3層土ブロックを含む。炭化物をまばらに含む。しまり中。
2　黒。シルト。3層土ブロックを含む。全体が黒色の腐植炭化物を多く含む。しまり少。
3　灰。シルト。2層土を少量含む。しまり少。

SK2091



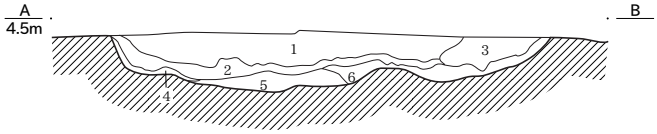
1　黒。灰色シルトブロック・炭化粒を少量含む。炭化物をまばらに含む。
腐植物を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本④）
2　オリーブ黒シルト。灰色シルトブロックを含む。炭化物をまばらに含む。
腐植物を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）
3　オリーブ黒シルト。灰色シルトブロックを含む。腐植物を少量含む。
しまりあり。粘性なし。（基本②）

SK2039



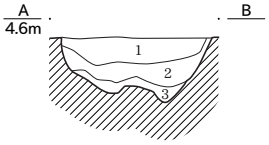
1　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックを全体に含む。炭化粒を多く含む。
炭化物を少量含む。腐植物を極少量含む。礫を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2　黒シルト。灰シルトブロックを全体に含む。炭化粒・炭化物を多く含む。
腐植物を少量含む。礫を少量含む。しまりあり。粘性なし。
3　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを斑に含む。炭化物をまばらに含む。
腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。（基本③）
4　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを極少量含む。しまり少。粘性なし。（基本③）

SK2040



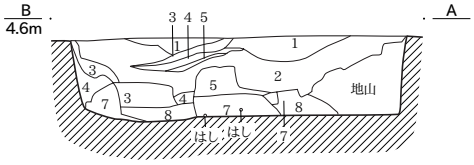
1　黒シルト。オリーブ黒シルトブロック・灰シルトブロックを多く含む。炭化物を多く含む。
腐植物を少量含む。しまりあり。粘性なし。
2　黒シルト。灰シルトブロックを少量含む。炭化物を多く含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。
3　オリーブ黒シルト。灰シルトブロックを少量含む。炭化粒を多く含む。炭化物・腐植物を少量含む。
礫を全体に含む。しまりあり。粘性なし。
4　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを少量含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。
5　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。礫を全体に含む。腐植物をやや多く含む。しまり少。粘性なし。
6　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックを含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。

SD233

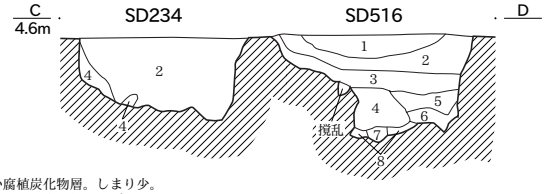


1　オリーブ黒。シルト。炭化物を多く含む。
しまり・粘性あり。
2　オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。
しまりなし。粘性あり。
3　灰。しまりなし。粘性あり。

SD516・234

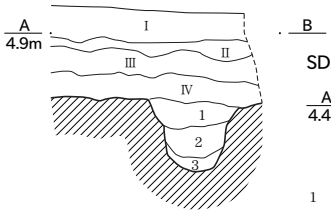


SD516・234



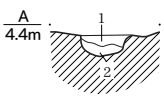
1　黒。シルト質土。全体が黒い腐植炭化物層。しまり少。
2　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒・炭化物をまばらに含む。しまり少。
3　オリーブ黒。砂質シルト。炭化物をまばらに含む。しまり少。
4　灰。シルト。3層土をブロック状に含む。炭化物をまばらに含む。
5　オリーブ黒。砂質シルト。炭化物をまばらに含む。しまり少。
6　暗褐。腐植物層。しまり少。
7　黒。全体が黒い腐植炭化物層。しまり少。
8　オリーブ黒。7層に3層を均一に含む。しまり少。

SD1095



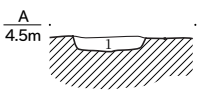
1　黒褐。シルト。
炭化物を多く含む。しまり中。
2　黒。1層土と同質。炭化物を多く含む。
3　灰。砂質シルト。2層土を斑状に含む。
しまり少。

SD2027



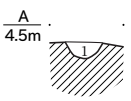
1　灰シルト。
オリーブ黒シルトブロックを
多く含む。
炭化粒をやや多く含む。
腐植物を少量含む。
しまりあり。
粘性なし。（基本③）
2　灰シルト。
オリーブ黒シルトブロック・
炭化粒を極少量含む。
腐植物を少量含む。
しまり少。粘性なし。
（基本③）

SD2087



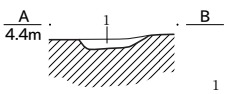
1　オリーブ黒シルト。
灰色シルトブロック・炭化粒を
少量含む。
炭化物を極まばらに含む。
腐植物を少量含む。しまりなし。
粘性なし。一部に灰。
オリーブ黒シルトブロックを
少量含む。（基本②+③）

SD2090



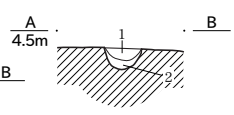
1　オリーブ黒シルト。
灰色シルトブロック・
炭化粒・腐植物を
少量含む。しまりあり。
粘性少。（基本②）

SD2094

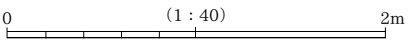


1　灰シルトブロック。
オリーブ黒シルトブロックを
斑状に少量含む。
炭化粒を極少量含む。
腐植物を少量含む。
しまりあり。粘性なし。
（基本③）

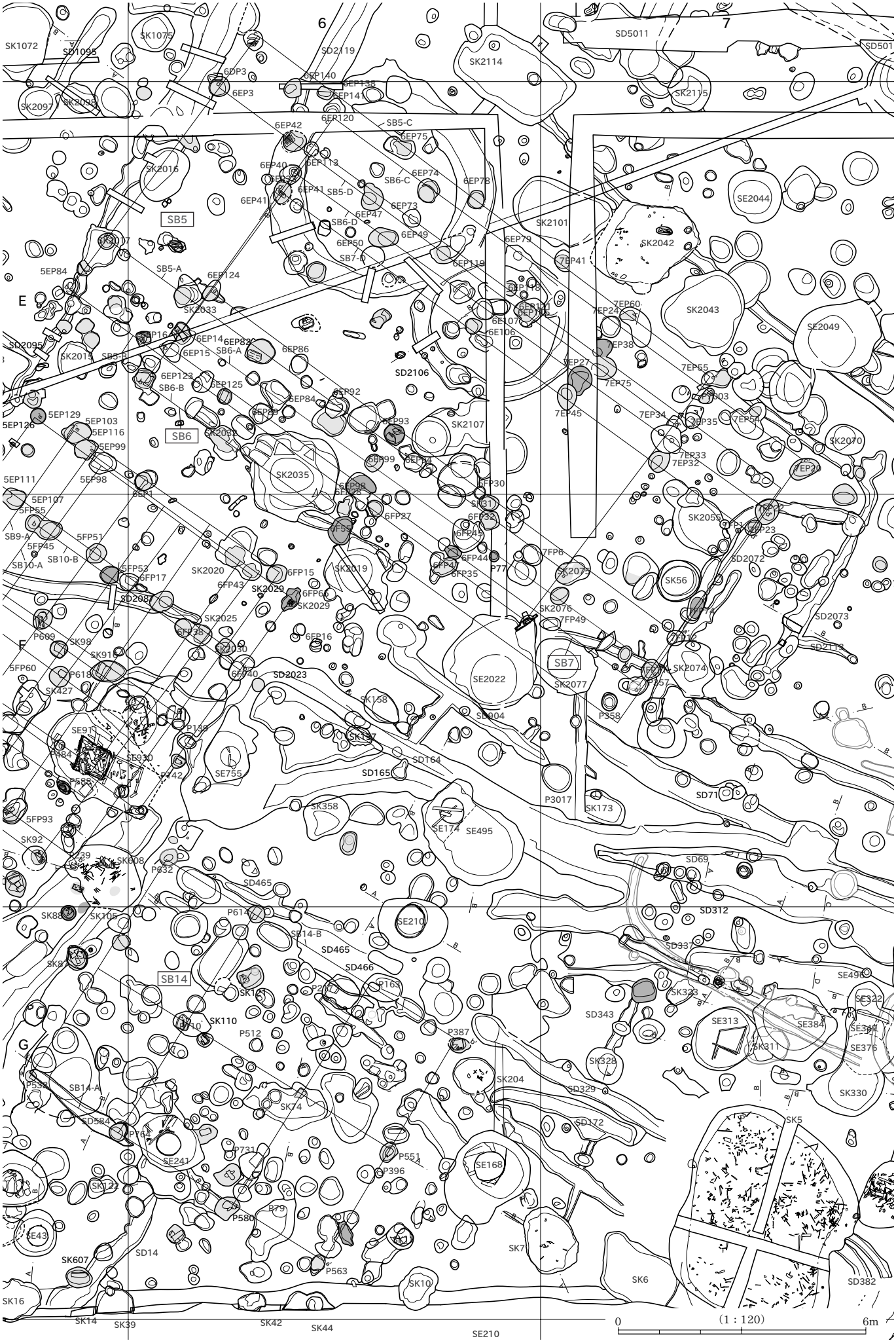
SD2095

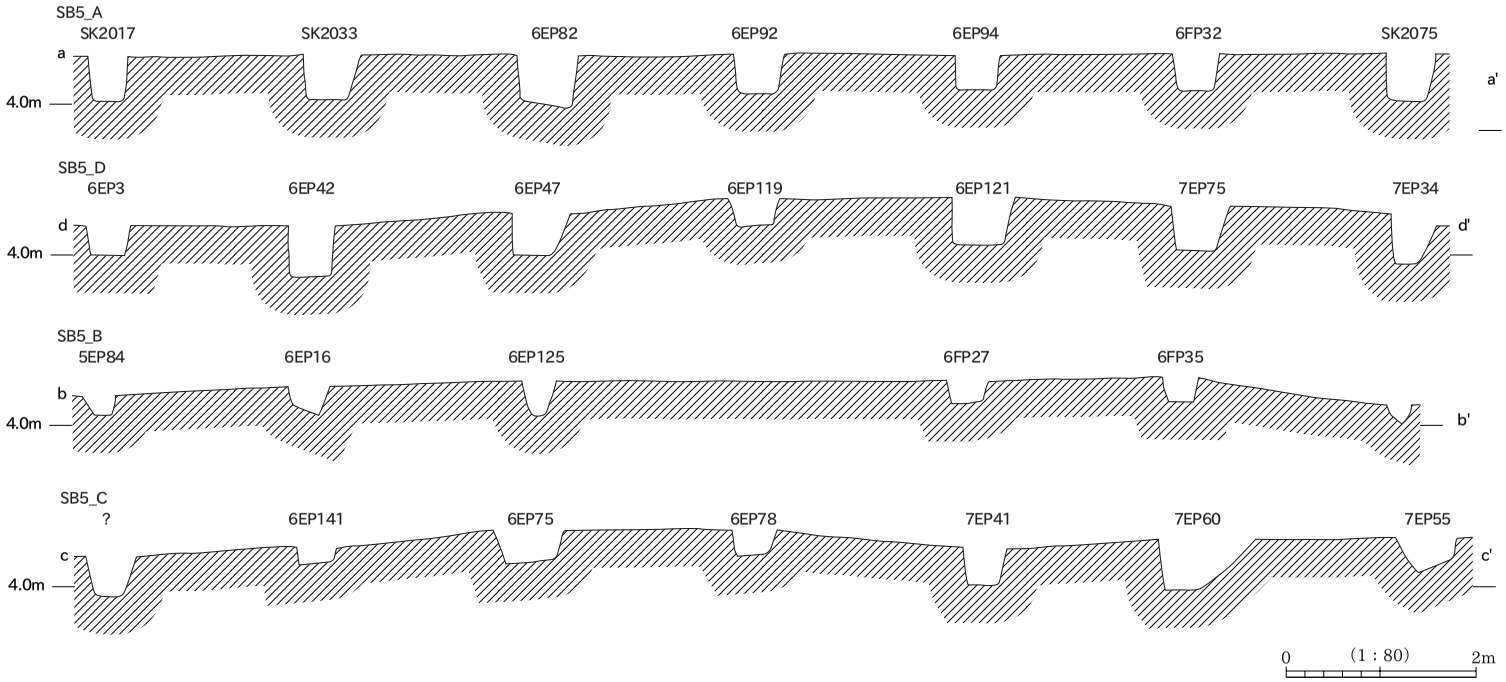


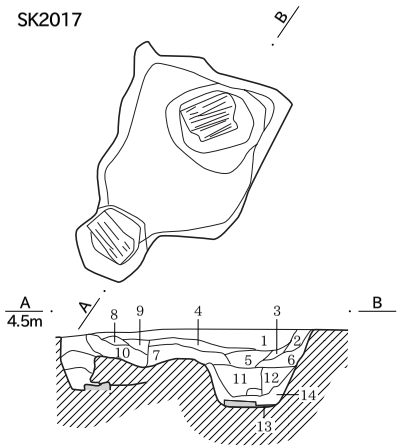
1　オリーブ黒シルト。
灰色シルトブロックを少量含む。
炭化粒を極少量含む。
腐植物を少量含む。しまりあり。
粘性なし。（基本②）
2　灰シルト。
オリーブ黒シルトブロック・
炭化粒・腐植物を極少量含む。
しまり少。粘性なし。（基本③）



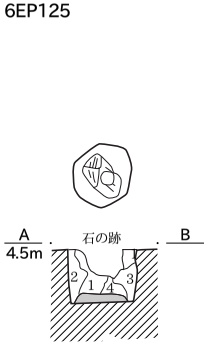
遺構分割図 7


6
7
SK1072
SK1075
SD1095
SD2119
SK2114
SD5011
SD501
SK2115
SK2097
SK2098
6DP3
6EP3
6EP140
6EP141
6EP138
6EP120
SB5-C
6EP75
6EP42
6EP40
6EP113
6EP41
SB5-D
SB6-C
6EP74
6EP78
SK2016
SE2044
SB5
6EP47
6EP73
SB6-D
SK2101
SK2027
6EP49
6EP50
6EP79
SK2042
SB7-D
7EP41
6EP119
5EP84
SB5-A
6EP124
6EP78
SK2033
7EP60
SK2043
SE2049
SD2095
SK2015
SB5-B
6EP16
6EP14
6EP82
6EP15
SB6-A
6EP86
SD2106
7EP38
7EP27
7EP55
SB6-B
6EP123
6EP125
7EP75
5EP129
5EP126
5EP103
5EP116
5EP84
6EP92
SB6
SK2013
SK2107
7EP45
7EP34
7EP35
7EP54
SK2070
5EP99
7EP33
7EP32
5EP111
5EP98
SK2035
6EP30
5EP107
5EP55
6EP27
SK2055
SB9-A
5FP51
5FP45
SB10-A
SB10-B
SK2020
6FP15
SK2019
6FP47
6FP35
7FP6
SD2072
SK56
5FP52
6FP17
6FP43
SK2029
6FP66
SK2029
SD2087
SK2076
7FP49
SD2073
SK2025
P699
SK98
SK2050
6FP40
SD2023
SK2077
SK2074
SD2113
5FP60
P618
SK427
SE2022
SB7
SK158
SK2004
P358
SE911
P138
SK134
SD164
SD165
SE755
P3017
SK173
SD71
5FP93
SK92
SK608
P632
SE174
SE495
SD69
SD465
SD312
SK88
SK105
P614
SE210
SD14-B
SD465
SD331
SD466
SB14
SK163
SE496
SK110
SK323
SE322
SD343
SE313
SE384
SE376
P512
P387
SK328
SK204
SD329
SK330
SB14-A
SK74
SD564
SD172
SK5
SE241
P731
P551
SE168
P396
SK122
P79
P580
SE43
SK7
SD14
SK607
SK6
SD382
SK16
SK14
SK39
SK42
SK44
SE210
SK10
0
(1 : 120)
6m

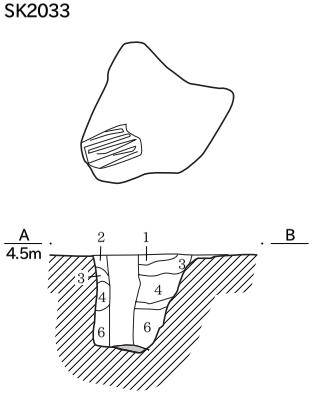




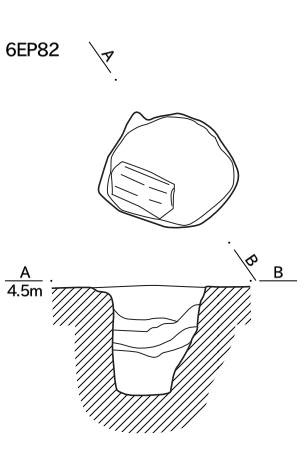
1 オリーブ黒シルト。炭化物を多く含む。粘性なし。（基本②）
2 灰オリーブ砂質シルト。粘性なし。
3 オリーブ黒シルト。
炭化物をまばらに含む。粘性なし。（基本②）
4 オリーブ黒シルト。炭化物をやや多く含む。粘性なし。（基本②）
5 オリーブ黒シルト。炭化粒を多く含む。
炭化物を少量含む。粘性なし。（基本②）
6 オリーブ黒シルト。炭化物をまばらに含む。
粘性少しあり。（基本②）
7 オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本②）
8 灰シルト。炭化粒を極少量含む。粘性なし。
9 オリーブ黒シルト。炭化物をまばらに含む。
粘性なし。（基本②）
10 黒シルト。炭化粒・炭化物を多く含む。粘性少。
11 黒シルト。炭化物をやや多く含む。粘性あり。
12 灰シルト。炭化物をまばらに含む。粘性少。
13 灰シルト。炭化粒をまばらに含む。粘性少。
14 灰シルト。粘性少。

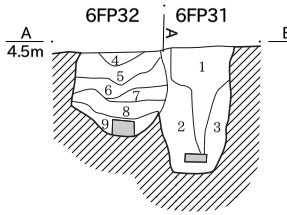


1 黒シルト。
炭化物を多く含む。
粘性少。
2 灰シルト。
炭化粒を少量含む。
粘性なし。（基本③）
3 灰シルト。
炭化粒をまばらに含む。
粘性なし。（基本③）
4 オリーブ黒シルト。
炭化粒を少量含む。
粘性あり。（基本②）

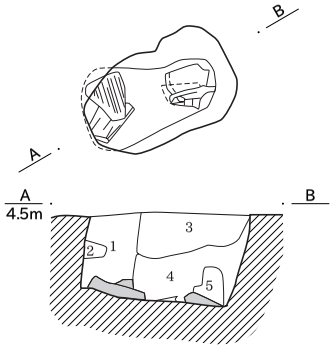


1 暗褐シルト。灰色シルトブロック混じる。
2 茶褐シルト（基本①）
3 褐灰。
4 灰褐シルト。
5 灰色シルト（基本③）
6 灰褐シルト。（礎板あり）
7 暗褐シルト。（柱根部分）

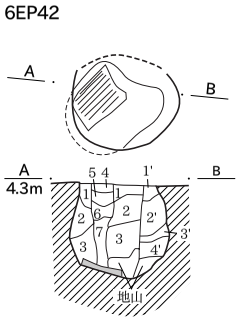




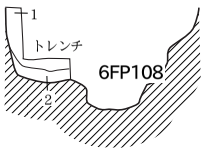
1 炭化物を含む。粘性なし。（基本②）
2 腐植物を含む。粘性なし。（基本③）
3 2層に比べ、オリーブ黒を含む。（基本③）
4 炭化物を含む。粘性なし。（基本②）
5 オリーブ黒。上部に砂層を含む。
粘性なし。（基本③）
6 オリーブ黒ブロックを含む。（基本③）
7 地山。
8 註記なし。
9 地山。



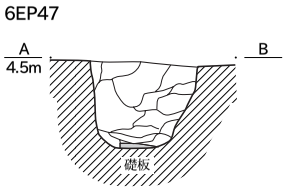
1 オリーブ黒シルト。炭化粒を多く含む。
炭化物を少量含む。粘性なし。（基本②+③）
2 灰シルト。炭化物をまばらに含む。
粘性なし。（基本③）
3 灰シルト。炭化物を少量含む。粘性なし。
4 灰シルト。炭化物をまばらに含む。
粘性なし。（基本③）
5 黒。炭化粒を少量含む。粘性あり。
6 灰シルト。粘性なし。（基本③）

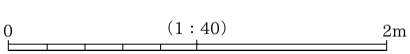


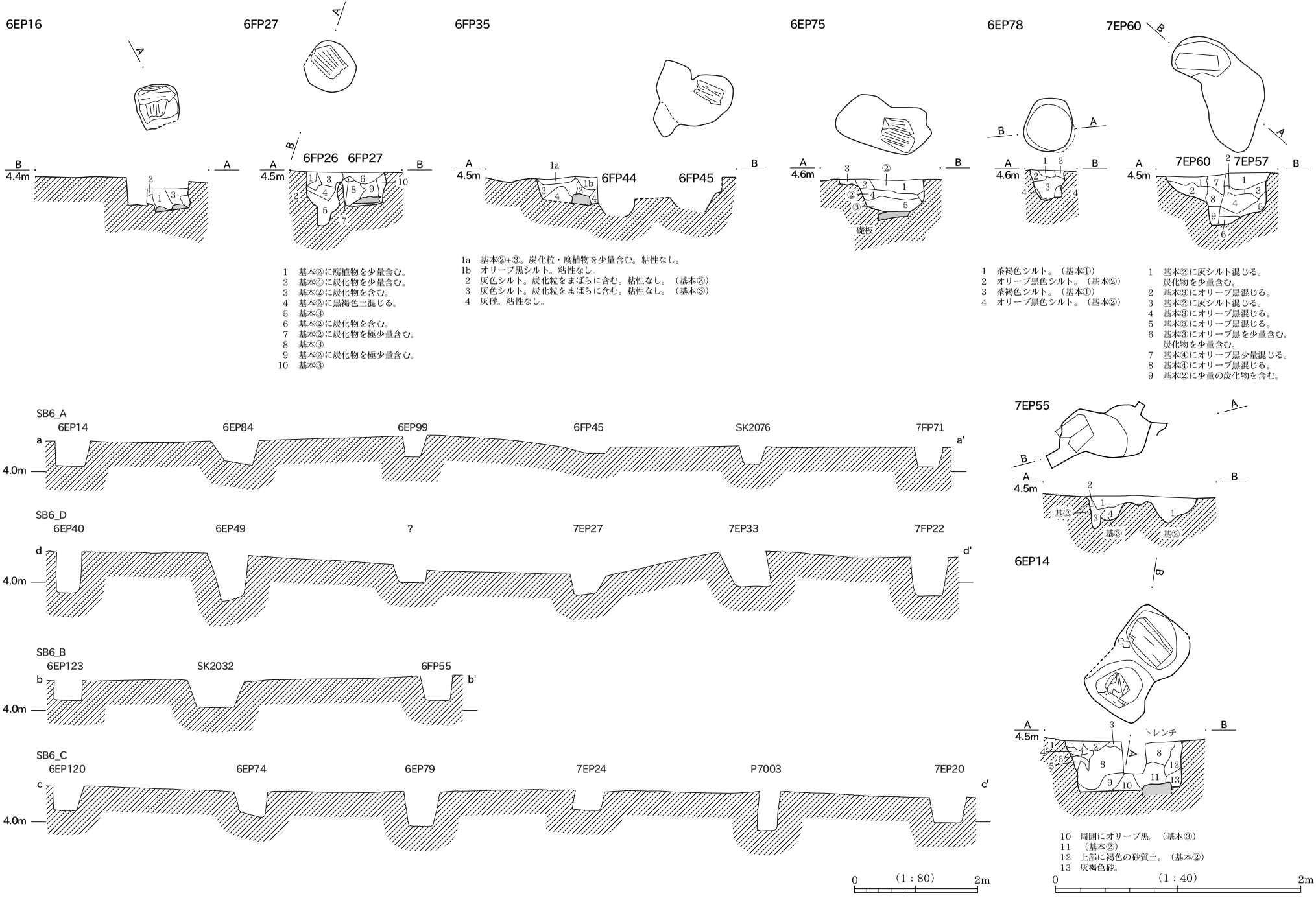
1 オリーブ黒シルト。
（基本②）
2 灰褐色シルト。
3 灰色シルト。（基本③）
4～7（柱痕部分）1～3層が埋没。
混じる。しまりあり。
（基本③）



1 オリーブ黒シルト。
炭化物を少量含む。
粘性少。（基本②）
2 灰。細砂。粘性なし。







1 基本②に腐植物を少量含む。
2 基本④に炭化物を少量含む。
3 基本②に炭化物を含む。
4 基本②に黒褐色土混じる。
5 基本③
6 基本②に炭化物を含む。
7 基本②に炭化物を極少量含む。
8 基本③
9 基本②に炭化物を極少量含む。
10 基本③

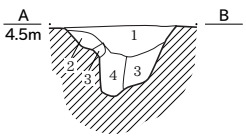
1a 基本②+③。炭化粒・腐植物を少量含む。粘性なし。
1b オリーブ黒シルト。粘性なし。
2 灰色シルト。炭化粒をまばらに含む。粘性なし。（基本③）
3 灰色シルト。炭化粒をまばらに含む。粘性なし。（基本③）
4 灰砂。粘性なし。

1 茶褐色シルト。（基本①）
2 オリーブ黒色シルト。（基本②）
3 茶褐色シルト。（基本①）
4 オリーブ黒色シルト。（基本②）

1 基本②に灰シルト混じる。
炭化物を少量含む。
2 基本③にオリーブ黒混じる。
3 基本②に灰シルト混じる。
4 基本③にオリーブ黒混じる。
5 基本③にオリーブ黒混じる。
6 基本③にオリーブ黒を少量含む。
炭化物を少量含む。
7 基本④にオリーブ黒少量混じる。
8 基本④にオリーブ黒混じる。
9 基本②に少量の炭化物を含む。

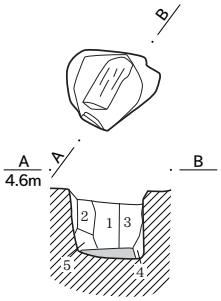
10 周囲にオリーブ黒。（基本③）
11 （基本②）
12 上部に褐色の砂質土。（基本②）
13 灰褐色砂。

6EP84



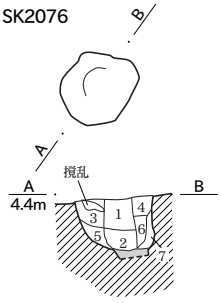
1　茶褐色シルト。
2　褐灰シルト。（基本②）
3　褐灰シルト。（基本②）
4　褐色土。

6EP99



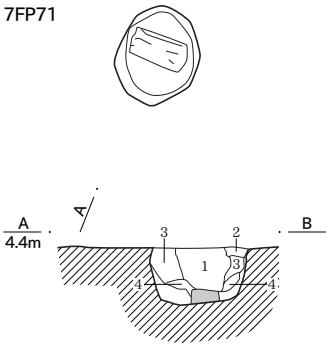
1　腐植物を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
2　腐植物を少量含む。
　粘性あり。（基本③）
3　腐植物を少量含む。
　粘性あり。（基本③）
4　灰色シルト。

SK2076



1　オリーブ黒シルト。
　炭化物を多く含む。粘性なし。
2　灰シルト。
　炭化物をまばらに含む。粘性なし。
3　オリーブ黒シルト。
　粘性なし。（基本②）
4　灰シルト。炭化粒を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
5　オリーブ黒シルト。
6　灰シルト。炭化粒をまばらに含む。
　腐植物を少量含む。粘性なし。（基本③）
7　灰シルト。炭化物を極まれに含む。粘性なし。（基本③）

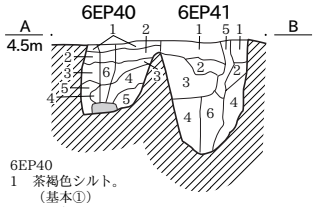
7FP71



1　註記なし。
2　しまりあり。（基本②）
3　しまりあり。（基本②+③）
4　しまりなし。粘性少。（基本③）

6EP40

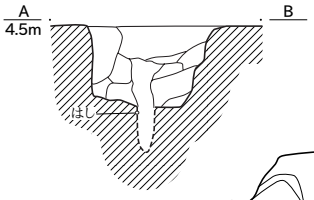
6EP40　6EP41



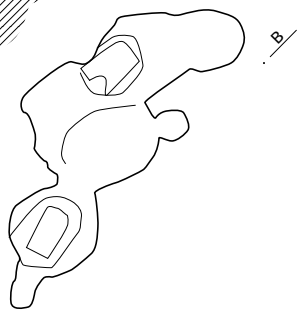
6EP40
1　茶褐色シルト。
　（基本①）
2　黄灰色シルト。
　（基本③）
3　オリーブ黒色。
　（基本②）
4　灰褐色シルト。
5　灰色シルト。
　（礎板あり）
6　暗褐色土。

6EP41
1　茶褐色シルト。（基本①）
2　黄灰シルト。（基本③）
3　オリーブ黒色。（基本②）
4　灰褐色シルト。
5　褐色シルト。
6　暗褐色シルト。

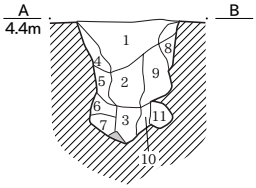
6EP49



7EP32・33・34

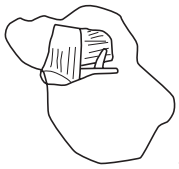


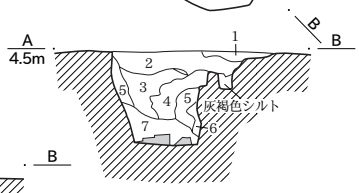
7FP22



1　灰シルト。炭化物を少量含む。
　粘性なし。（基本②）
2　灰シルト。炭化物を多く含む。
　植物繊維を少量含む。
　粘性少。（基本2）
3　粘性なし。（基本③）
4　灰シルトを含む。（基本②）
5　粘性少。（基本②）
6　粘性なし。（基本②+③）
7　粘性なし。（基本③）
8　オリーブ黒を少量含む。
　（基本③）
9　オリーブ黒を少量含む。
　（基本③）
10　砂質シルト。（基本③）
11　シルト。粘性少。（基本②）

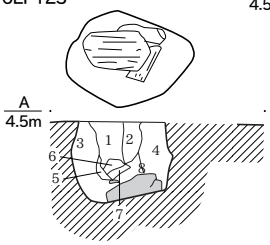
SK2032



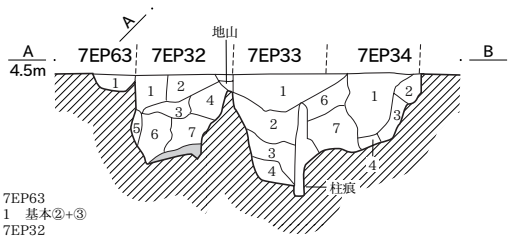


1　褐シルト。
2　茶褐シルト。（基本①）
3　褐シルト。
4　オリーブ黒。（基本②）
5　灰シルト。（基本③）
6　灰褐シルト。（礎板あり）

6EP123



1　黒褐シルト。炭化粒をやや多く含む。
　（基本①に近い）
2　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
3　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
4　灰シルト。炭化粒をやや多く含む。粘性なし。（基本③）
5　灰シルト。炭化粒をまばらに含む。
　粘性なし。（基本③）
6　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
7　灰砂。炭化粒を極少量含む。粘性なし。
8　灰シルト。粘性なし。



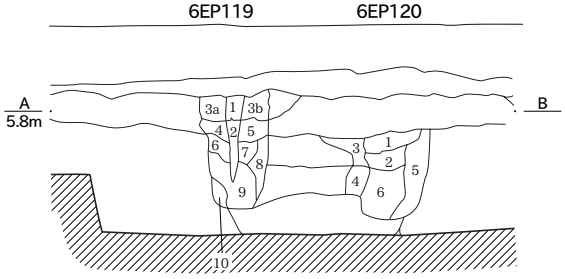
7EP63
1　基本②+③

7EP32
1　灰シルトを含む。炭化物を少量含む。
　（基本②+③）
2　オリーブ黒を含む。しまりあり。（基本③）
4　灰シルトブロックを少量含む。（基本②）
5　灰シルトブロックを含む。
　炭化物を少量含む。（基本②）
6　シルト。（基本②+③）
7　灰シルト。（基本②）
8　灰シルトブロックを含む。（基本②）

7EP33
1　炭化物を少量含む。（基本②+③）
2　基本②+③
3　オリーブ黒を少量含む。（基本③）
4　基本②+③
5　灰シルトを含む。（基本②）
6　オリーブ黒を少量含む。（基本③）
7　オリーブ黒を少量含む。（基本③）

7EP34
1　炭化物を多く含む。粘性なし。（基本②+③）
2　オリーブ黒を含む。炭化物を少量含む。粘性なし。（基本③）
3　オリーブ黒を含む。炭化物を少量含む。粘性なし。（基本③）
4　炭化物を少量含む。粘性少。（基本②+③）

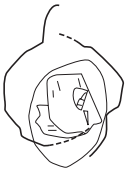
6EP119　6EP120

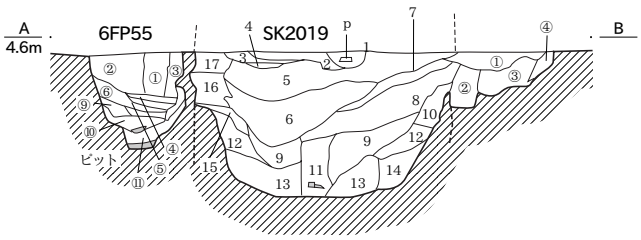


6EP119
1　黒褐。炭化粒をまばらに含む。粘性なし。
2　オリーブ黒。炭化物を少量含む。粘性あり。
3a　黒褐。粘性なし。（基本①）
3b　黒褐。炭化物をやや多く含む。粘性なし。（基本①）
4　黒褐。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本①）
5　黒褐。炭化粒をやや多く含む。粘性なし。（基本①）
6　オリーブ黒シルト。炭化物を少量含む。粘性なし。（基本②）
7　灰シルト。炭化物を少量含む。粘性なし。（基本③+①+②）
8　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
9　オリーブ黒シルト。炭化物を少量含む。粘性あり。（基本②）
10　灰。細砂。
11　黒褐。炭化粒を少量含む。粘性なし。

6EP120
1　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
2　灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性少。（基本③）
3　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性少。（基本②）
4　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性あり。（基本②）
5　黒褐。全体的に炭化物層。粘性なし。（基本①）
6　灰シルト。炭化物をまばらに含む。粘性少。

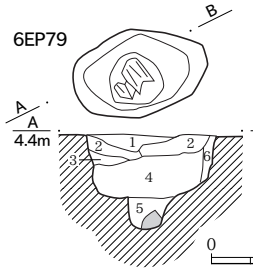
6FP55





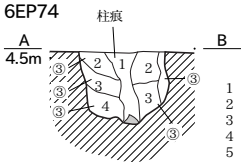
1　炭化物を多く含む。柱痕。（基本②）
2　オリーブ黒。炭化物を含む。
3　2層と同じ。
4　オリーブ黒。（基本②）
5　黒色ブロックと灰色ブロックが混じる。粘性少。（基本②）
6　黒色ブロックを少量含む。（基本③）
7　5層と同じ。
8　5層と同じ。
9　5層と同じ。
10　5層と同じ。しまりあり。
11　5層と同じ。しまり少。

6EP79



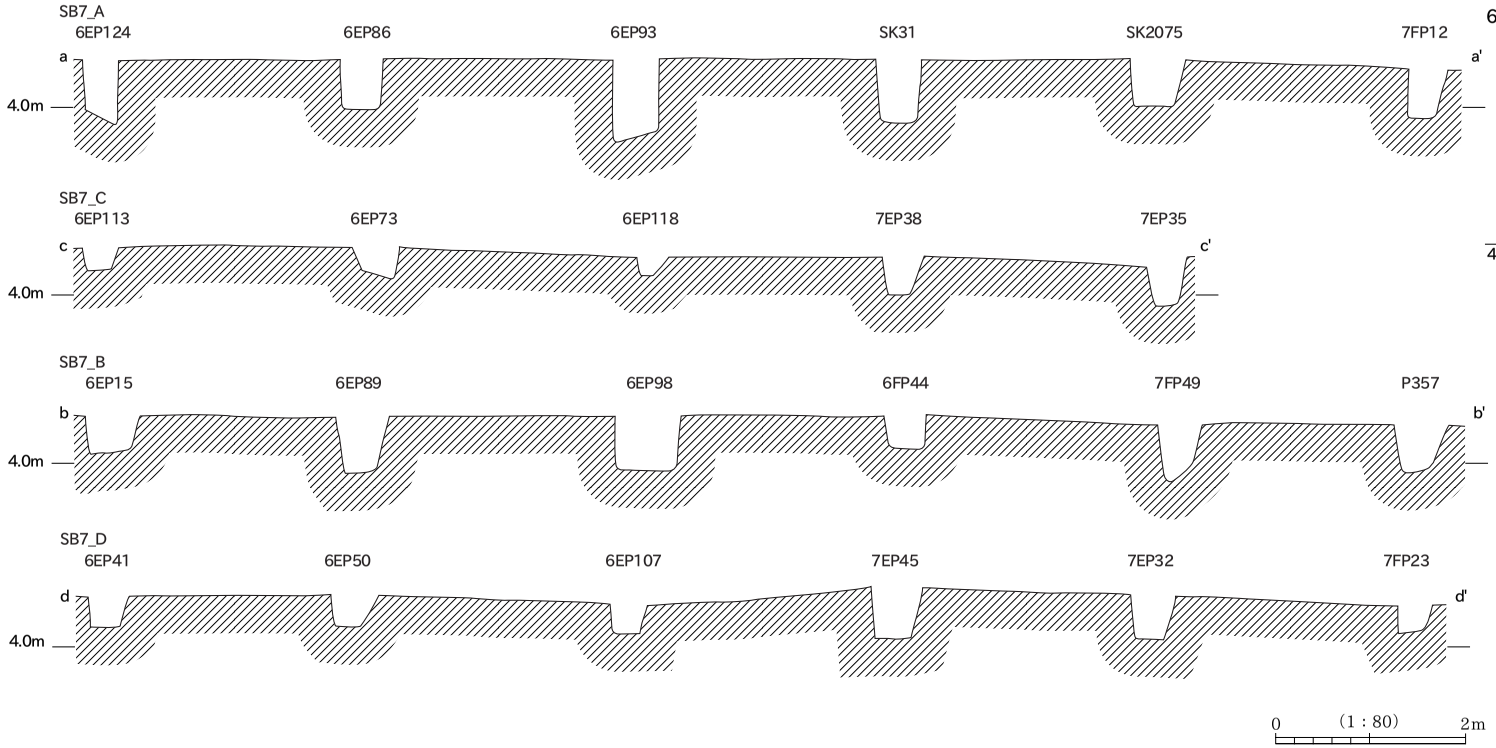
1　基本②に灰色シルト・炭化物を少量含む。
2　基本②+③に炭化物を少量含む。
3　基本②に灰色シルト・炭化物を少量含む。
4　基本②に灰色シルトを含む。
5　基本③にオリーブ黒少量含む。
6　基本③にオリーブ黒少量含む。

6EP74

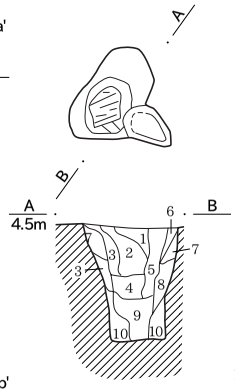


1　オリーブ黒。炭化物を含む。しまり・粘性少。柱痕（基本②）
2　炭化物（径10㎜程度）を含む。しまり・粘性あり。（基本②）
3　オリーブ黒シルトブロック。（基本③）
4　オリーブ黒シルトブロック。（基本③）
5　オリーブ黒シルトブロック。（基本③）崩落土。

0　（1：40）　2m

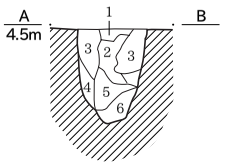


6EP37・124



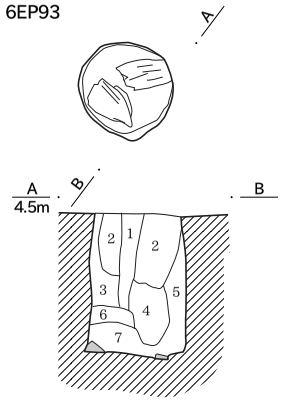
1 オリーブ黒シルト。
炭化物をまばらに含む。粘性なし。（基本②）
2 灰シルト。炭化物をまばらに含む。粘性なし。
（基本③）
3 黒色。層の上部は炭化物層。粘性なし。
4 オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。粘性あり。
（基本②）
5 黒色。炭化物をまばらに含む。粘性あり。
6 灰シルト。粘性なし。
7 灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性なし。（基本③）
8 灰シルト。炭化粒を少量含む。粘性少。
9 灰シルト。粘性なし。（基本③）
10 灰砂。

6EP86



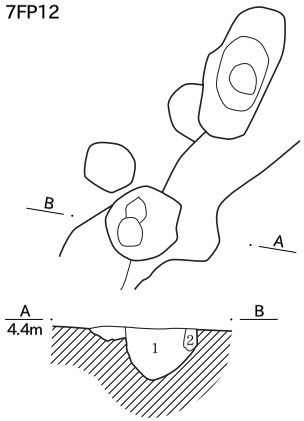
1 茶褐色シルト。（基本①）
2 オリーブ黒シルト。（基本②）
3 灰褐色シルト。
4 灰色シルト。（基本③）
5 黒色シルト。（基本②）

6EP93



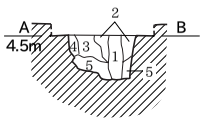
1 基本層序③。腐植物を多く含む。粘性あり。
2 基本層序③。
腐植物を多く含む。粘性あり。
3 基本層序②。粘性あり。
4 基本層序②。粘性あり。
5 基本層序②。粘性あり。
6 基本層序③。
7 砂地。しまりあり。粘性なし。

7FP12



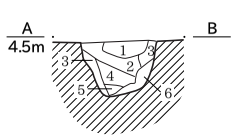
1 灰シルトを含む。炭化物を含む。
粘性少。（基本②）
2 オリーブ黒を少量含む。
（基本③）

6EP113



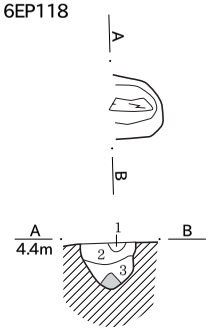
1 暗褐色粘質土。（柱痕部分）
2 灰色シルト。（基本②）
3 オリーブ黒色シルト。（基本②）
4 灰色シルト。（基本③）
5 褐灰シルト。（基本③）

6EP73



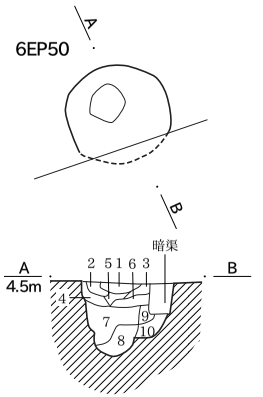
1 オリーブ灰シルトブロック。（基本④）
2 基本④。
3 灰シルト。（基本③）
4 炭化物を含む。（基本②）
5 オリーブ黒。植物繊維を含む。
粘性あり。
6 地山。

6EP118



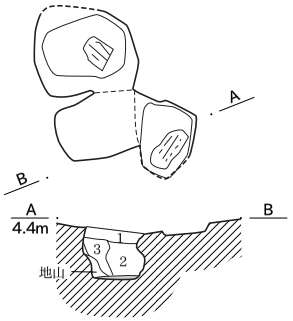
1 炭化物層。オリーブ黒。粘性なし。
2 灰シルト。炭化粒を少量含む。
粘性なし。（基本③に近い）
3 炭化物層。粘性少。

6EP50



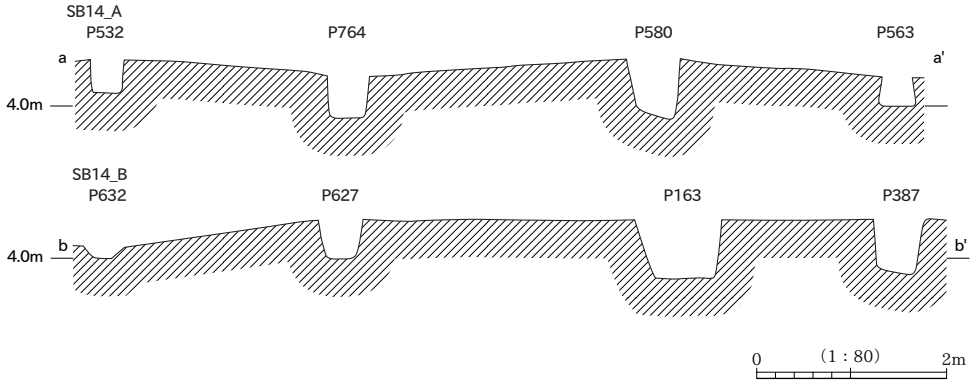
1 黒色粘質土。しまりなし。
粘性あり。
2 灰褐色シルト。
3 黒色。（基本④）
4 灰色シルト。
5 灰褐色シルト。
6 褐灰色シルト。（基本②）
7 灰色シルト。
8 オリーブ黒色。（基本③）
9 灰色シルト。（基本③）
10 オリーブ黒色。（基本②）

7FP23

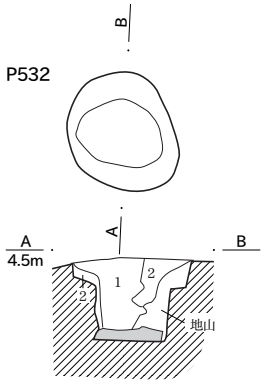


1 粘性少。（基本②+③）
2 粘性少。（基本②+③）
3 オリーブ黒を少量含む。
粘性少。（基本③）

0 (1：40) 2m

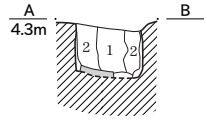


P532



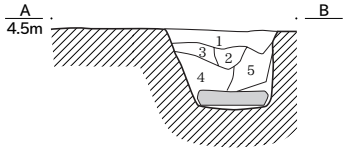
1　灰オリーブ。シルト。
　炭化物を少量含む。
　2層土を斑状に含む
2　灰。シルト。1層土を斑状に含む。

P764



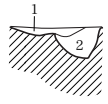
1　オリーブ黒。
　シルト。炭化物を多く含む。
　粘性あり。
2　灰。
　シルト。炭化物を含む。
　粘性あり。

P580



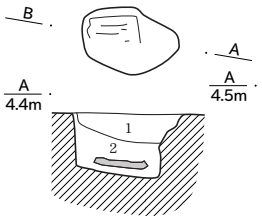
1　オリーブ黒。シルト。炭化物を多く含む。
　粘性あり。
2　灰。炭化物をまばらに含む。
3　灰。シルト。粘性少。

P563



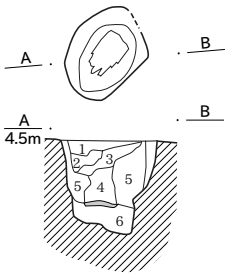
1　オリーブ黒。
　シルト。
　炭化物を含む。
　粘性あり。
2　オリーブ黒。
　シルト。
　炭化物を含む。
　粘性あり。

P387



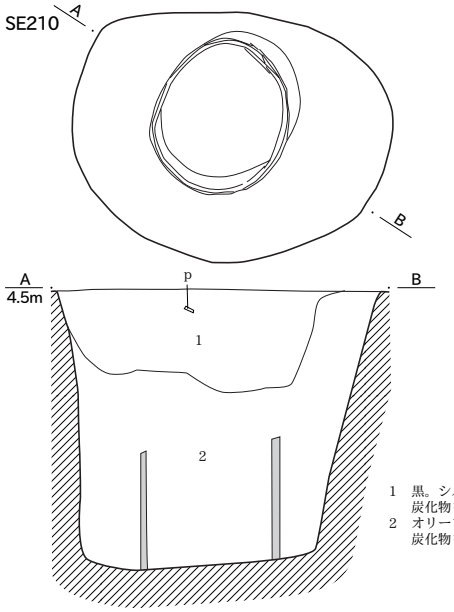
1　灰。
　基本層序②にシルトをブロック状に含む。
　炭化物を少量含む。
2　灰。1層より基本層序②が少ない。
　炭化物を極少量含む。粘性あり。

P551



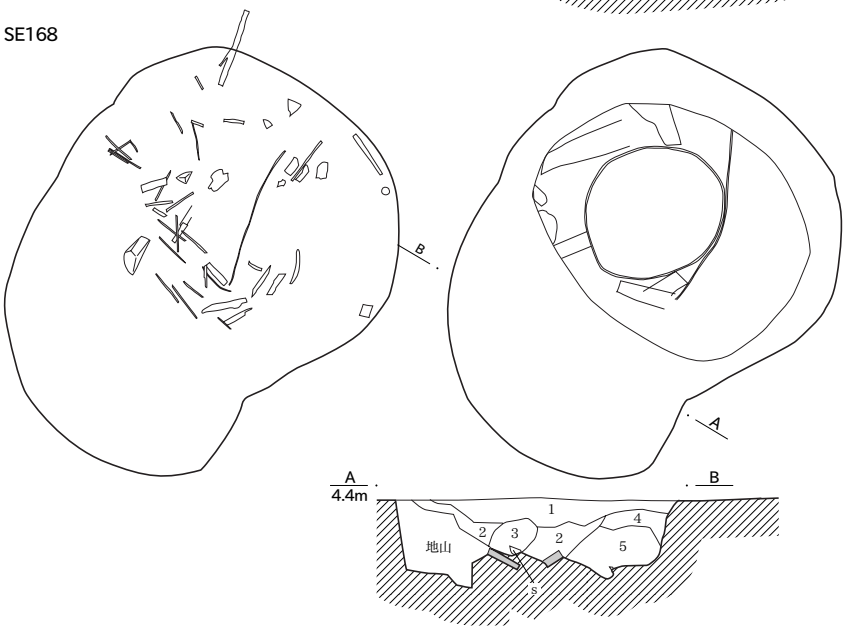
1　オリーブ黒。炭化物・腐植物を多量に含む。
2　オリーブ黒。シルト。腐植物を含む。粘性少。しまり少。
3　オリーブ黒。シルト。炭化物含む。粘性少。しまり少。
4　灰色。シルト。しまりあり。粘性少。
5　灰色。シルト。腐植物を含む。粘性少。しまり少。
6　黒褐。シルト。粘性あり。しまりなし。

SE210



1　黒。シルト。黄灰色土ブロックを多く含む。
　炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。シルト。砂ブロックを含む。
　炭化物を少量含む。しまり少。

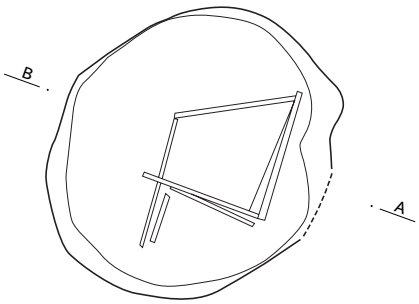
SE168

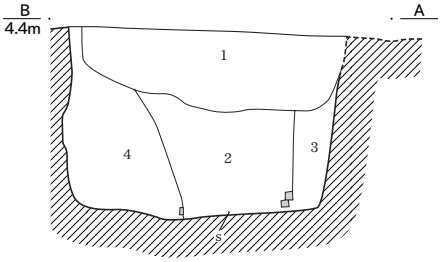


1　オリーブ黒。シルト。炭化物をまばらに含む。
　腐植物を少量含む。しまり中。
2　灰オリーブ。シルト。
　炭化物・黒い腐植炭化物を含む。しまりあり。
3　灰。砂層。腐植炭化物をまばらに含む。しまり少。
4　オリーブ黒。シルト。
　腐植炭化物層の中に2層土を含む。しまり少。
5　黒。シルト。腐植炭化物層。しまり少。

0　(1 : 40)　2m

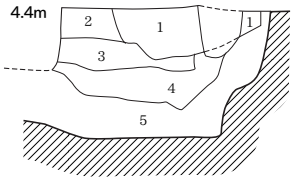
SE313





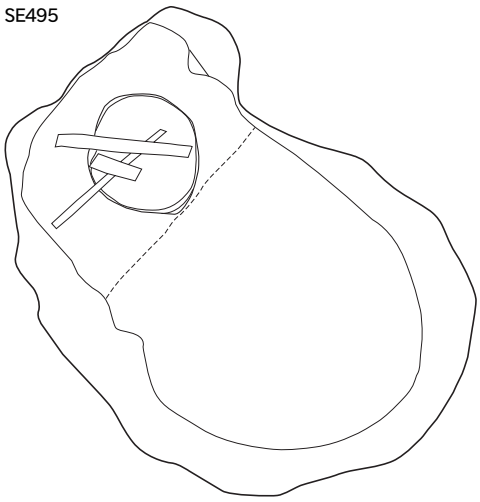
1　暗灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトを少量含む。炭化物を少量含む。
　腐植物を含む。しまりあり。粘性少。
2　灰。基本層序③(Ⅳ)を含む。
　基本層序②(Ⅳ)にシルトをブロック状に含む。しまり少。粘性あり。
3　明青灰。基本層序③(Ⅳ)を含む。
　基本層序②(Ⅳ)にシルトをブロック状に含む。しまり・粘性少。
4　青灰。基本層序③(Ⅳ)を含む。
　基本層序②(Ⅳ)にシルトをブロック状に含む。しまり・粘性少。

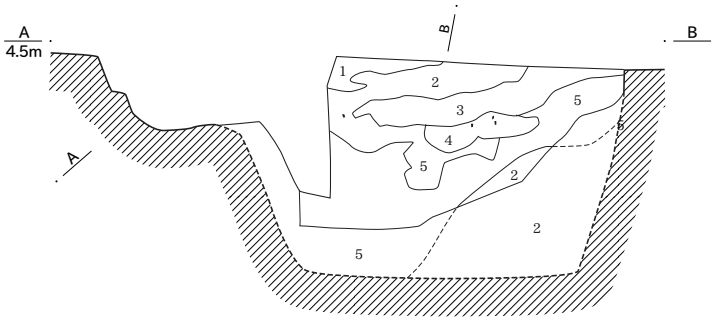
SE384



1　灰。基本層序②(Ⅳ)とシルトをブロック状に含む。炭化物を少量含む。
2　灰。基本層序②(Ⅳ)中心にシルトをまばらに含む。炭化物をまばらに含む。
3　暗灰。基本層序②(Ⅳ)にガツボを含む。炭化物を少量含む。粘性あり。
4　青灰。シルトに基本層序②(Ⅳ)を少量含む。粘性少。
5　青灰。シルトと粘質土を含む。粘性少。

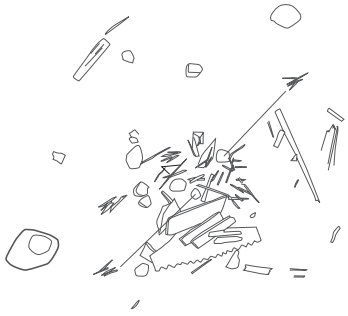
SE495

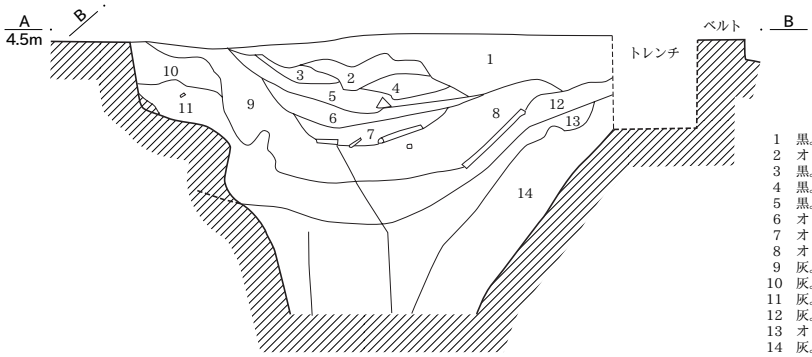




1　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。湿り気あり。しまり少。
2　暗オリーブ。シルト。砂ブロックを多く含む。炭化物・腐植物を少量含む。湿り気あり。しまり少。
3　オリーブ黒。シルト。炭化物を少量含む。しまり少。
4　オリーブ黒。粘質シルト。炭化物を少量含む。しまり少。
5　オリーブ黒。シルト。砂ブロックを含む。炭化物を少量含む。しまり少。

SE755

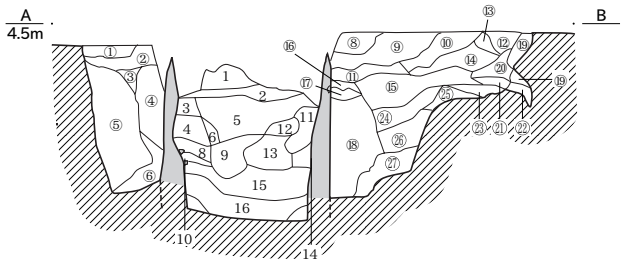




1　黒。砂質シルト。炭化物・腐植物を多く含む。しまりあり。
2　オリーブ黒。シルト質土。炭化物を含む。腐植物を少量含む。しまり少。
3　黒。砂質シルト。黒い腐植炭化物を層状に含む。粘性少。
4　黒。砂質シルト。黒い腐植炭化物を層状に含む。粘性少。
5　黒。砂質シルト。黒い腐植物と褐色土を層状に含む。粘性少。
6　オリーブ黒。シルト質土。腐植炭化物をまばらに含む。
7　オリーブ黒。砂質土。腐植物層。粘性あり。
8　オリーブ黒。砂質土。灰をブロック状に含む。炭化物を含む。しまりあり。
9　灰。砂質シルト。炭化物を含む。腐植物を少量含む。粘性あり。
10　灰。砂質シルト。炭化物・腐植物を含む。しまりあり。
11　灰。砂質土。全体にシルトに近い砂を含む。腐植物を少量含む。
12　灰。シルト質土。腐植物を少量含む。
13　オリーブ黒。砂質シルト。炭化物を少量含む。
14　灰。砂質シルト。粘性あり。

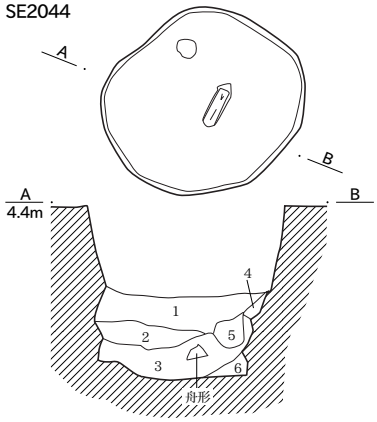
0　(1：40)　2m

SE2022



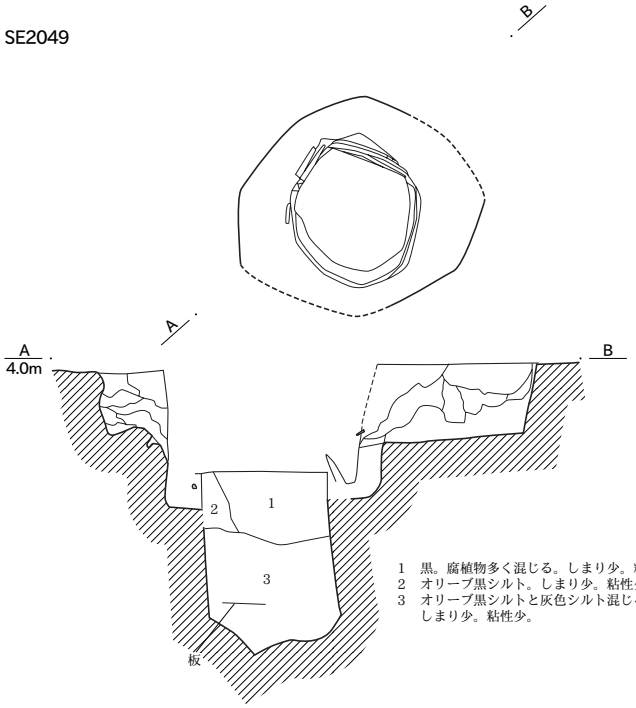
1　オリーブ黒。粒子粗い。炭化物を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本①）
2　オリーブ黒。オリーブ灰斑に含む。シルト。しまり少。粘性少。（基本②）
3　オリーブ黒。粒子細かい。炭化物を少量含む。やや柔らかい。粘性少。
4　オリーブ黒。灰が6：4で斑に混じる。粒子細かい。しまりなし。粘性なし。（基本②）
5　オリーブ黒シルト。灰砂質土斑が混じる。粒子細かい。炭化物を含む。
　シルト。しまりなし。粘性なし。
6　黒。粒子細かい。ガツボが混じる。粘性少。
7　なし。
8　黒。灰が斑に混じる。4層と類似。ガツボ混じる。シルト。
9　オリーブ黒。灰が斑に混じる。粒子細かい。炭化物を少量含む。しまりなし。粘性なし。（基本②）
10　オリーブ黒。粒子細かい。シルト。ガツボ混じる。粘性なし。
11　黒。粒子細かい。シルト。粘性少。
12　オリーブ黒。灰が斑に混じるシルト層。（基本②）
13　8層に同じ。
14　10層に同じ。
15　オリーブ黒。粒子細かい。木屑やガツボ混じる。しまりなし。粘性少。
16　オリーブ黒。粒子細かい。粘質土。柔らかい。粘性少。

SE2044



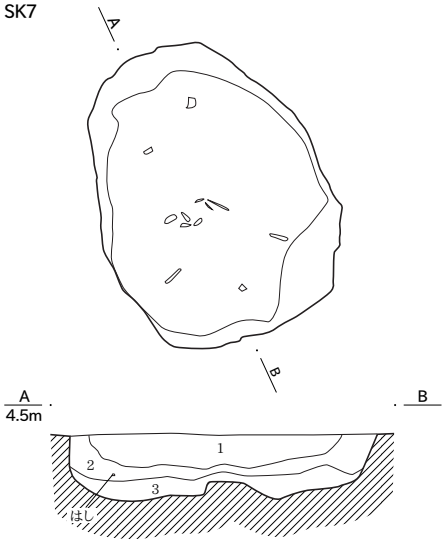
1　しまり少。粘性少。（基本②）
2　オリーブ黒シルトが層状に混じる。
　ややわらかい。粘性少。（基本③）
3　ややわらかく、褐色味を帯びている。（基本②）
4　ややわらかく、灰砂質シルト混じる。
5　大きいブロックが斑に混じる。
　やや砂っぽい。やや硬くしまる。
6　オリーブ黒少量混じる。やわらかい。シルトっぽい。

SE2049



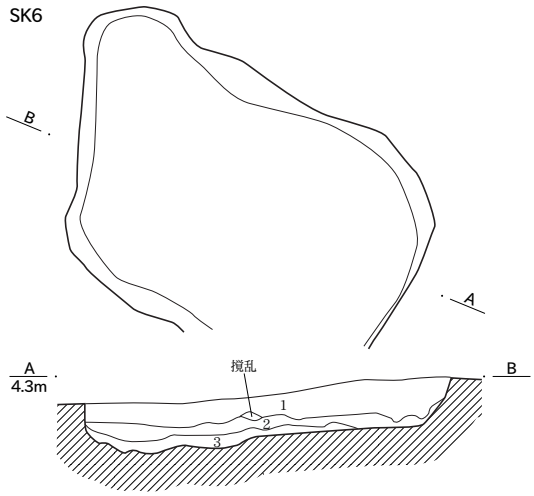
1　黒。腐植物多く混じる。しまり少。粘性少。
2　オリーブ黒シルト。しまり少。粘性少。
3　オリーブ黒シルトと灰色シルト混じる。
　しまり少。粘性少。

SK7



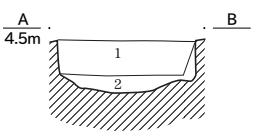
1　オリーブ黒。
　砂質シルト質土。炭化物・茶色に変色した腐植物を少量含む。しまり中。
2　灰。砂質シルト質土。
　炭化物を極少量含む。灰色の砂質土がまばらに含む。しまり中。
3　オリーブ黒。砂質シルト質。中央上部は腐植炭化物層。しまり中。

SK6



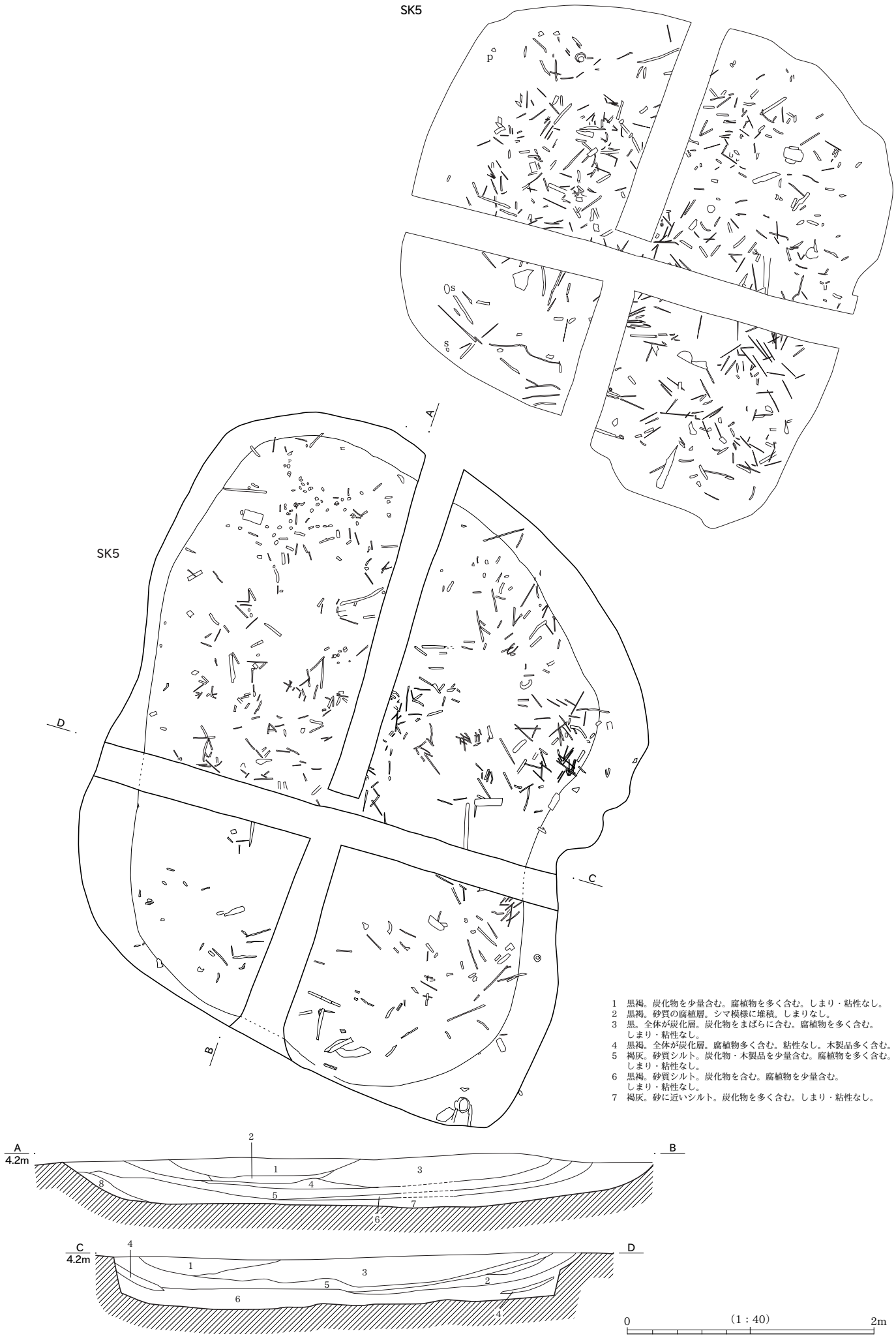
1　黒褐。シルト。炭化物をまばらに含む。
　腐植物を少量含む。しまり・粘性少。
2　黒褐。シルト。1と同様の土層であるが炭化物が減り、
　茶褐色の腐植物を多く含む。しまり・粘性少。
3　黒褐。
　シルト。茶褐色の腐植物を非常に多く含む。粘性あり。

SK328

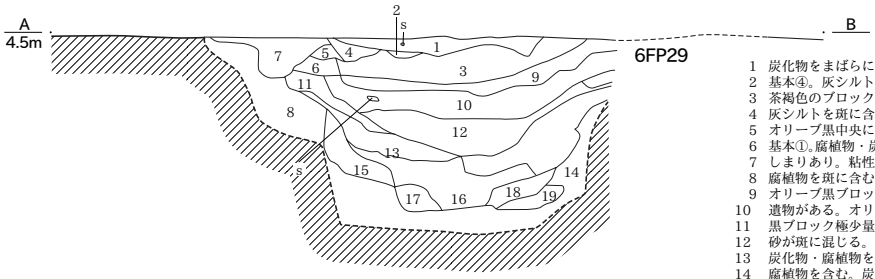


1　オリーブ黒。シルト。灰色土ブロックを多く含む。
　炭化物を少量含む。灰。シルト。
　オリーブ黒色土ブロックを含む。炭化物を多く含む。

0　（1：40）　2m

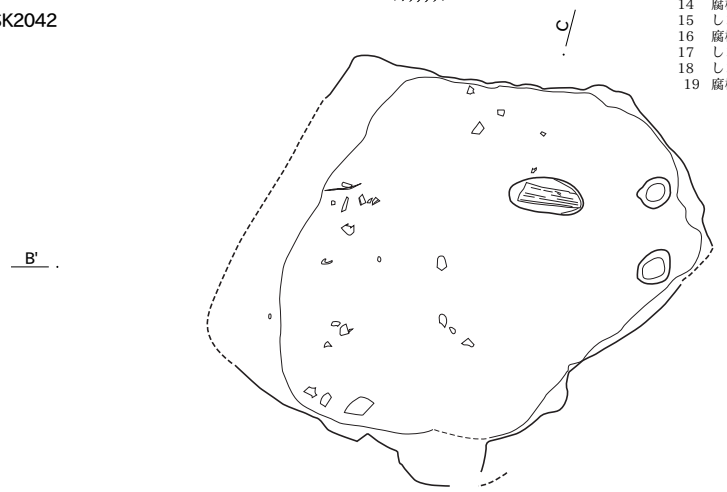

SK5
SK5
A
B
C
D
p
Os
s
1　黒褐。炭化物を少量含む。腐植物を多く含む。しまり・粘性なし。
2　黒褐。砂質の腐植層。シマ模様に堆積。しまりなし。
3　黒。全体が炭化層。炭化物をまばらに含む。腐植物を多く含む。
しまり・粘性なし。
4　黒褐。全体が炭化層。腐植物多く含む。粘性なし。木製品多く含む。
5　褐灰。砂質シルト。炭化物・木製品を少量含む。腐植物を多く含む。
しまり・粘性なし。
6　黒褐。砂質シルト。炭化物を含む。腐植物を少量含む。
しまり・粘性なし。
7　褐灰。砂に近いシルト。炭化物を多く含む。しまり・粘性なし。
A 4.2m
B
C 4.2m
D
0
(1：40)
2m

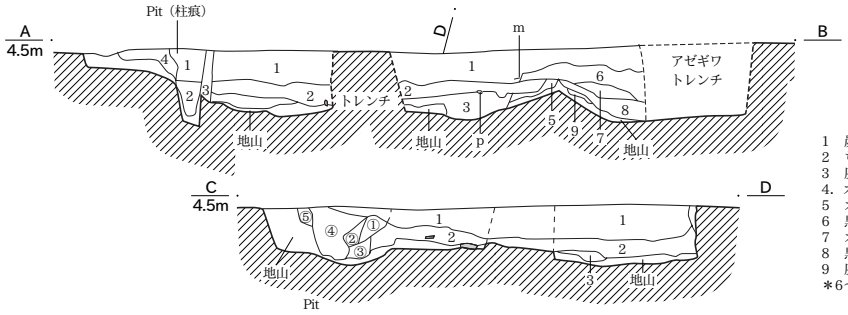
SK2035



1 炭化物をまばらに含む。腐植物を含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2 基本④。灰シルト混じる。しまり・粘性少。（基本④）
3 茶褐色のブロック1つあり。腐植物をまばらに含む。しまり・粘性少。（基本④）
4 灰シルトを斑に含む。黒ブロック少量含む。（基本①）
5 オリーブ黒中央に斑に含む。腐植物を少量含む。（基本①）
6 基本①。腐植物・炭化物を少量含む。
7 しまりあり。粘性少。（基本④）
8 腐植物を斑に含む。しまりあり。粘性少。（基本①）
9 オリーブ黒ブロックをまばらに含む。腐植物を少量含む。しまりあり。粘性少。（基本①）
10 遺物がある。オリーブ黒ブロック少量含む。炭化物を少量含む。（基本①）
11 黒ブロック極少量含む。炭化物・腐植物を少量含む。しまりあり。粘性少。（基本①）
12 砂が斑に混じる。炭化物を少量含む。（基本②）
13 炭化物・腐植物を含む。しまり少。粘性あり。（基本②）
14 腐植物を含む。炭化物少量含む。しまり少。粘性あり。（基本③）
15 しまり少。粘性あり。（基本②）
16 腐植物を含む。しまり少。粘性あり。（基本③）
17 しまり少。粘性あり。（基本②）
18 しまり少。粘性あり。（基本③）
19 腐植物を少量含む。しまりなし。粘性あり。（基本③）

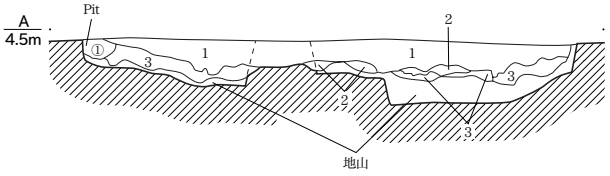
SK2042





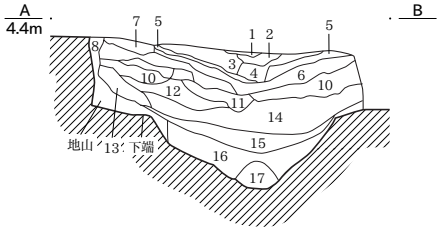
1 炭化物を含む。ちみつでしまりあり。粘性なし。（基本④）
2 ちみつでしまりなし。（基本②）
3 灰ブロック3%混じる。（基本③）
4. オリーブ灰ブロックが50%混じる。（基本③）
5 オリーブ灰ブロックの混じりが少ない。（基本③）
6 黒色ブロックを含む。ちみつでしまりあり。粘性少。（基本②）
7 オリーブ黒。黒色土が混じる。ちみつでやわらかい。（基本②）
8 黒。粒子細かい。しまり・粘性なし。
9 灰オリーブシルトが50%混じる。（基本③）
＊6～9は異なる遺構と思われる。（SK2101か？）

SK2043



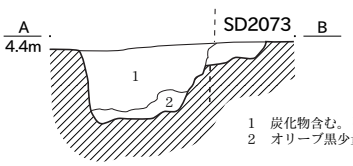
1 オリーブ黒。黒色味が強い。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2 オリーブ黒シルトブロックが50%程度混じる。（基本③）
3 オリーブ黒シルトブロックが少量混じる。（基本③）

SK2077



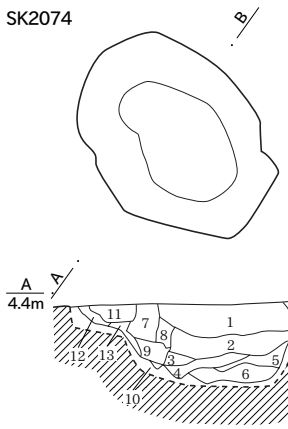
1 オリーブ黒。粒子細かい。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2 オリーブ黒と灰オリーブが斑に混じる。粒子細かい。炭化物を少量含む。しまり少。粘性なし。（基本②+③）
3 2層に類似する。灰オリーブ若干多く含む。やや柔らかい。（基本②+③）
4 オリーブ黒。粒子やや粗い。しまり少。粘性なし。（基本③）
5 黒。粒子やや粗い。しまりなし。粘性なし。
6 黒。灰オリーブ砂質ブロック少量混じる。炭化物を少量含む。粒子やや粗い。しまりなし。粘性なし。
7 1層に同じ。（基本②）
8 黒シルトと灰オリーブ砂質土がブロック状に混じる。炭化物を少量含む。粒子やや粗い。しまり少。粘性なし。（基本②+③）
9 灰オリーブ砂質土。粒子やや粗い。しまりあり。粘性なし。（基本③）
10 オリーブ黒シルトと灰砂質シルトが斑に混じる。粒子やや粗い。しまり少。粘性なし。
11 10層に同じ。オリーブ黒多く混じる。
12 9層に同じ。しまり少。
13 黒。粒子細かい。炭化物を少量含む。しまり少。粘性なし。（基本②）
14 オリーブ黒シルト。オリーブ灰シルト斑に混じる。粒子細かい。炭化物を少量含む。しまり少。粘性少。
15 オリーブ黒。粒子粗い。植物繊維を多く含む。しまりなし。粘性なし。
16 オリーブ黒砂質シルト。黒色シルトが少量ブロックで混じる。粒子細い。しまりなし。粘性少。
17 黒色シルト。粒子細かい。しまり少・粘性少。

SK2070



1 炭化物含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2 オリーブ黒少量含む。しまり少。粘性なし。（基本③）

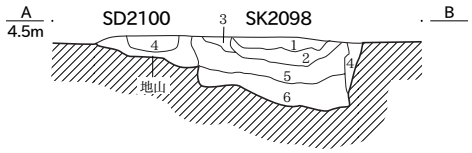
SK2074



1 灰シルト少量混じる。炭化物を多量に含む。しまりあり。粘性少。（基本②）
2 黒色ブロック混じる。しまり少。（基本②）
3 砂っぽい灰色。しまり少。（基本②）
4 黒色ブロック混じる。しまり少。（基本②）
5 オリーブ黒5%混じる。しまり少。粘性なし。（基本③）
6 オリーブ黒シルト。基本①がブロックで混じる。しまり少。粘性少。（基本②）
7 炭化物を少量含む。しまりあり。粘性少。（基本②）
8 灰シルト少量含む。しまり少。（基本②）
9 灰シルト少量含む。しまり少。（基本②+③⑥：④）
10 褐色砂質シルト。しまり少。粘性なし。（基本①）
11 7層に比べ灰色強い。灰シルトと炭化物が斑に少量混じる。しまりあり。（基本②）
12 オリーブ黒少量混じる。しまりあり。（基本③）
13 オリーブ黒と炭化物が少量混じる。しまりあり。（基本③）
14 灰シルトと炭化物を少量含む。しまり少。粘性少。

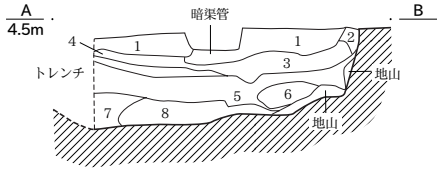
0　（1：40）　2m

SK2098



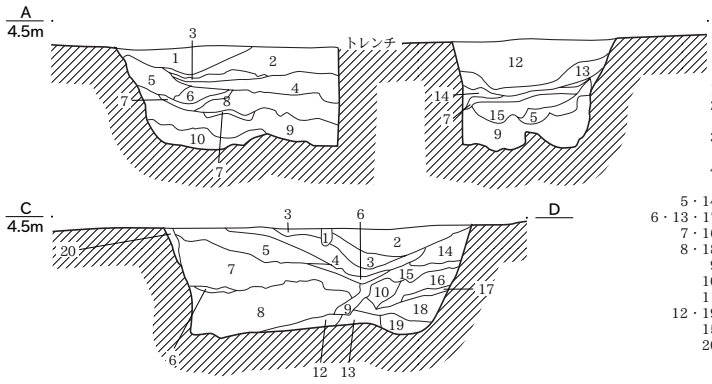
1　黒。灰色シルトブロック・炭化物・腐植物を少量含む。しまりあり。粘性なし。
2　黒。灰色シルトブロックを少量含む。炭化物層。腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。
3　オリーブ黒シルト。灰色シルトブロックを多く含む。炭化物を少量含む。
　しまりあり。粘性なし。（基本②）
4　オリーブ黒シルト。灰色シルトブロックを含む。（基本②）。炭化物を少量含む。
　腐植物を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本②+③）
5　黒。灰シルトブロック・炭化物・腐植物を少量含む。しまり少。粘性少。
6　黒。炭化物を全体に多く含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性少。

SK2101



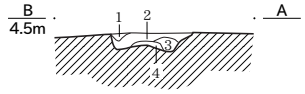
1　黒。シルトブロックを少量含む。炭化物層。腐植物を少量含む。しまりあり。粘性なし。
2　灰オリーブ砂。シルトブロックを斑に少量含む。炭化粒・腐植物を少量含む。しまりあり。粘性なし。
3　黒。シルトブロック・灰シルトブロックを少量含む。炭化物層。腐植物を少量含む。しまり少。粘性なし。
4　オリーブ黒シルト。灰色シルトブロックをまばらに含む。炭化粒を少量含む。腐植物を少量含む。
　しまり少。粘性なし。（基本③）
5　黒。シルトブロックを少量含む。炭化物層。腐植物堆積層。しまり少。粘性あり。
6　灰オリーブ砂。黒ブロックをまばらに含む。炭化物を少量含む。腐植物を極少量含む。しまり少。粘性なし。
7　黒褐。灰色シルトブロック・炭化物を少量含む。しまり少。粘性あり。
8　灰オリーブ砂。黒褐ブロックを多く含む。炭化粒をまばらに含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性あり。

SK2114



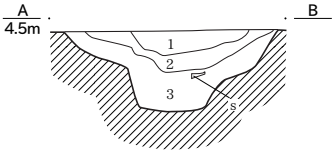
1　黒と灰オリーブが斑に混じる。粒子は細かい。しまりあり。粘性なし。シルト。
2　オリーブ黒シルトと灰オリーブ黒シルト砂質土が斑に混じる。粒子は細かい。
　炭化物を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本②+③）
3　オリーブ黒・灰オリーブシルト・灰オリーブ砂質土が混じる。粒子はやや細かい。
　炭化物を含む。しまり少。粘性なし。（基本②+③）
4　オリーブ黒・灰・灰オリーブ砂質土が混じる。粒子は細かい。炭化物を少量含む。
　シルト質強い。しまり少。粘性少。（基本②+③）
5・14　堆積土は4層に同じ。粒子は細かい。炭化物を少量含む。しまり少。粘性少。（基本②+③）
6・13・17　黒。粒子は粗い。植物繊維を含む。しまり少。粘性なし。
7・16　堆積土は5層に同じ。粒子はやや細かい。炭化物極少量含む。しまり少。粘性少。（基本②+③）
8・18　堆積土は4層に同じ。粒子はやや粗い。②層が大径ブロックで混じる。しまり少。粘性少。（基本②+③）
9　灰砂質シルト。粒子はやや粗い。しまり少。粘性なし。（基本③）
10　オリーブ黒シルト。粒子は細かい。しまり少。粘性少。（基本②）
11　註記なし
12・19　オリーブ黒シルトと灰シルトが混じる。粒子は細かい。しまり少。粘性少。
15　オリーブ黒と灰シルトが混じる。粒子は細かい。しまり少。粘性少。（基本②+③）
20　灰オリーブ。粒子は細かい。しまり強。粘性なし。（基本③）

SD14



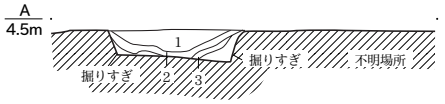
1　オリーブ黒。砂質シルト。炭化物を多く含む。
2　オリーブ黒。砂質シルト。炭化物を多く含む。
　しまり少。
3　灰。砂質シルト。炭化物を多く含む。
　しまり少。4層土を含む。
4　灰。細砂。2層土を少量含む。

SD37



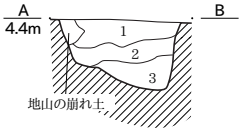
1　褐灰。砂質シルト。上層表面に黒い腐植炭化物を含む。
　灰色の砂質シルトの塊を多く含む。しまり少。
2　黒褐。砂質シルト。灰色の砂質シルトの塊を少量含む。
　しまり少。
3　黒。砂質シルト。珠洲焼き等の遺物を含む。

SD38



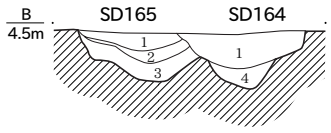
1　黒。砂質シルト。全体的に炭化物層。炭化粒を多く含み。
　炭化物を少量含む。局所的に集中する。粗砂・腐植物を少量含む。
　しまりあり。
2　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒を少量含む。腐植物を少量含む。
　灰を含む。しまりあり。
3　オリーブ黒。砂質シルト。炭化粒・腐植物を極少量含む。灰を含む。
　しまり中。

SD166



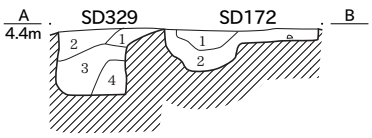
1　オリーブ黒。シルト。
　炭化物をまばらに含む。
　腐植物を少量含む。しまり中。
2　灰オリーブ。1層土と地山土を含む。
　しまり少。
3　灰。砂質シルト。2層土粒を少量含む。
　しまり少。

SD164・165



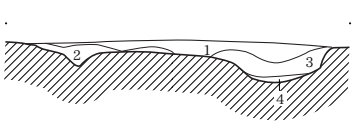
1　オリーブ黒。炭化物をまばらに含む。
　湿り気あり。しまり中。
2　オリーブ黒。シルト。全体が黒い炭化物層。しまり少。
3　灰。シルト。1層土の中に地山土粒を多く含む。
　炭化物を含む。
4　灰。砂層。黒い腐植物を含む。
　しまり少。ザクザクしている。

SD172・SD329

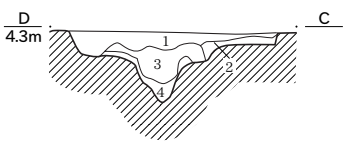


1　オリーブ黒。腐植炭化物を含む。しまり少。
2　オリーブ黒。シルト。腐植炭化物を含む。
3　オリーブ黒。シルト。腐植炭化物を含む。しまり少。
4　黒。全体が黒い腐植炭化物層。しまり少。

SD312

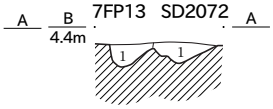


SD312



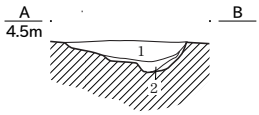
1　黒褐。シルト。暗灰黄・黄灰色土ブロックを多く含む。
　炭化粒・炭化物を含む。湿り気あり。
2　黄灰。砂質シルト。黒褐色土ブロックを多く含む。
　炭化物を少量含む。
3　黒褐。シルト。黄灰色土ブロックを多く含む。
　炭化物を少量含む。
3´　黒。粘質シルト。黄灰色土ブロックを多く含む。
　炭化物を多く含む。
4　黄灰。粘質シルト。

SD2072



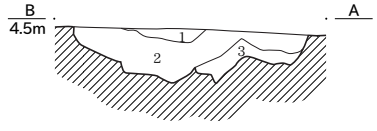
1　灰シルト少量混じる。
　炭化物を少量含む。
　しまりあり。（基本②）

SD2073

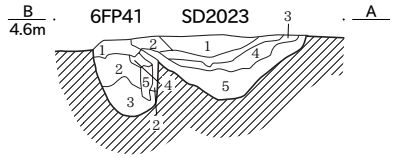


（1層及び5層）
1　砂質ブロックと炭化物を含む。
　しまりなし。粘性少。
5　オリーブ黒30%混じる。
　炭化物を少量含む。
　しまりあり。（基本③）

SD465・466

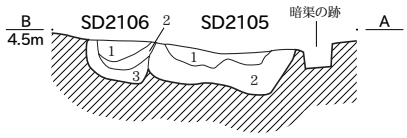


SD2023

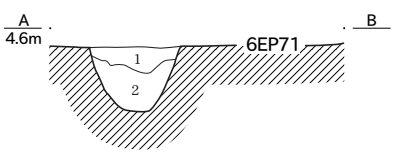


1　黒シルト。灰色シルトブロック混じる。炭化物ブロック含む。
　しまりなし。粘性あり。
2　褐灰シルト。炭化物含む。しまりなし。粘性あり。
3　灰褐シルト。炭化物含む。しまりなし。粘性あり。
4　灰白シルト。炭化物含む。しまりなし。粘性あり。
5　灰褐シルト。しまりなし。粘性あり。

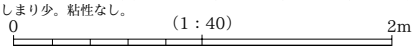
SD2105・2106



SD2106

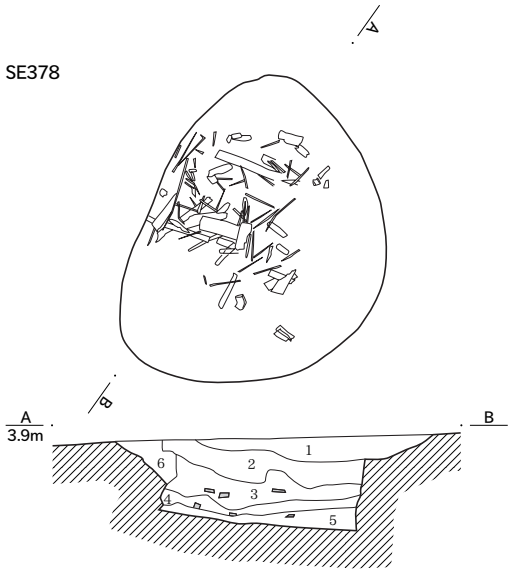


SD2105
1　オリーブ褐細砂+灰シルト+オリーブ黒シルト。炭化粒・腐植物を少量含む。しまりあり。粘性少。
2　オリーブ黒シルト。炭化粒を少量含む。炭化物をまばらに含む。腐植物やや多く含む。
　灰色シルトブロックを少量含む。しまり少。粘性あり。（基本②）
SD2106
1　オリーブ黒シルト。灰色オリーブシルトブロックを少量含む。炭化粒をまばらに含む。腐植物やや多く含む。しまり少。粘性少。（基本②）
2　オリーブ黒シルト。灰色シルトブロックを少量含む。灰細砂を含む。炭化粒をまばらに含む。腐植物を含む。しまり少。粘性あり。（基本②）
3　灰細砂。オリーブ黒シルトブロックを少量含む。オリーブ褐細砂含む。しまり少。粘性なし。



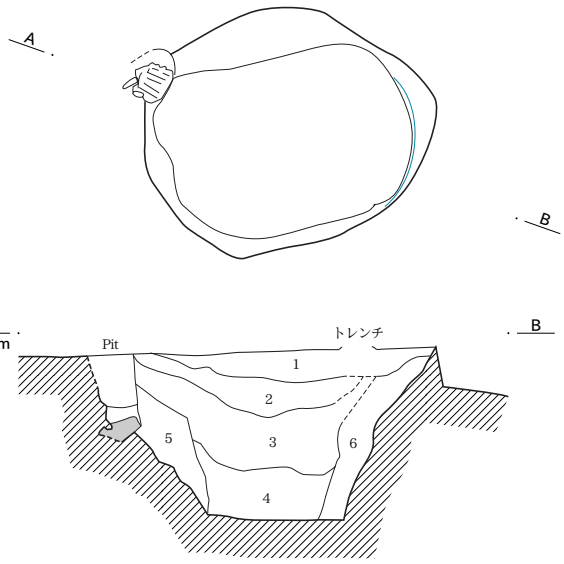
SE5035
8
9
SK2121
SD5018
SK2122
SD2120
SD2006
SD2007
SD2067
SD2065
SD2005
SK2082
SE2066
SK2063
SE2049
SK2047
SK2064
SE2050
SK2062
SK2048
SK2051
E
SK2061
SK2069
SK2060
SK2070
SD2084
SK2059
SD2056
SD2073
SD2113
F
SK60
SE2050
C
SD2110
A
B
SK126
SK48
SD70
SD63
D
SE385
SK55
A
SD61
SD62
SE379
SE490
SE322
SE348
SE359
SK59
SE376
SK58
SD67
SK330
G
SE378
B
SD348
SD381
SD382
SD37
0
(1 : 120)
6m

SE378



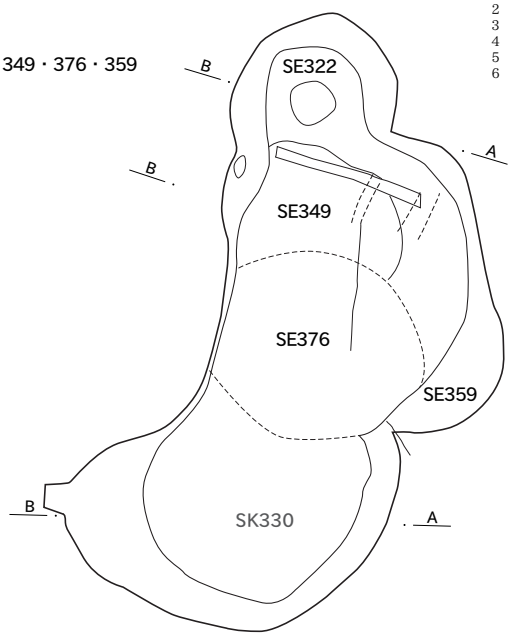
1　灰。砂質シルト。炭化物を少量含む。しまりあり。
2　オリーブ黒。シルト。炭化物を含む。腐植物を全体に含む。しまり中。
3　オリーブ黒。シルト。腐植物を多く含む。遺物を多く含む。
4　黒。腐植炭化物層。しまり少。
5　オリーブ黒。砂質シルト。しまり少。
6　灰オリーブ。シルト。炭化物を少量含む。しまりあり。

SE385

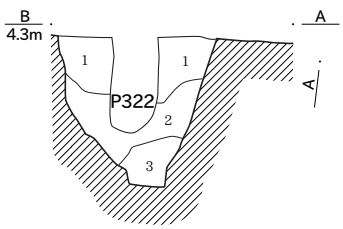


1　灰。基本層序②(Ⅳ)を中心に炭化物を多く含む。
2　暗灰。基本層序②(Ⅳ)を中心に炭化物を多く含む。
3　灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトがブロック状に含む。炭化物を少量含む。
4　青灰。シルトに粘質土を含む。ガツボを含む。
5　灰。シルトに褐色粘質土を含む。ガツボを含む。
6　青灰。5層と同じ。炭化物を少量含む。粘性少。

SK330
SE322・349・376・359

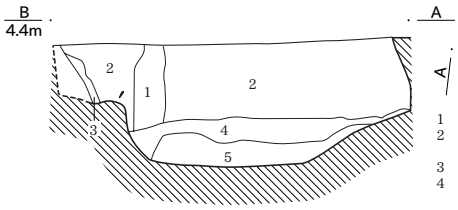


SE496



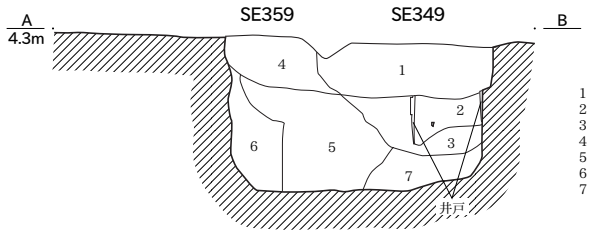
1　灰。シルトをブロック状に含む。炭化物をまばらに含む。
2　暗灰。1層より基本層序②(Ⅳ)とシルトを細かいブロック状で含む。
　炭化物をまばらに含む。
3　青灰。シルトに基本層序②(Ⅳ)をブロック状で含む。

SK330

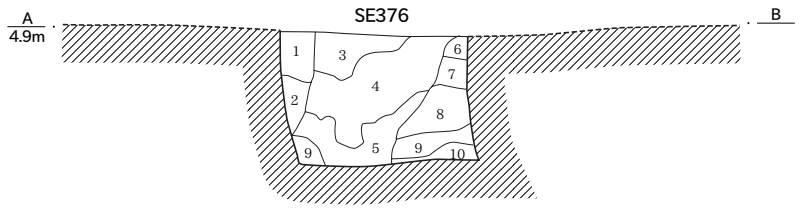


1　暗灰。包含層の土(暗灰色)。しまり・粘性少。
2　暗灰。包含層の土(灰色)。青灰シルトをブロック状に少量含む。
　炭化物を含む。しまり・粘性少。
3　黒。炭化物層。焼けた木片を含む。しまり・粘性少。
4　灰。暗灰色土と青灰シルトを半々含む。しまり・粘性少。

SE349・359



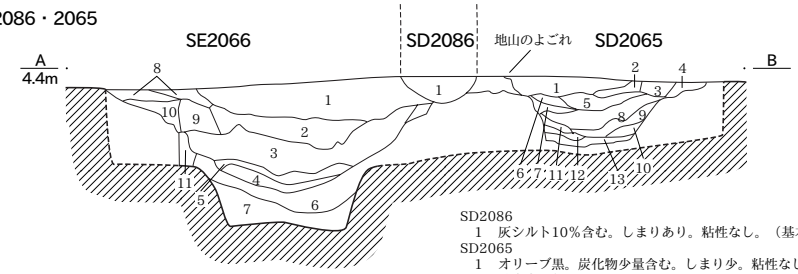
1　暗灰。基本層序Ⅳを中心にシルトをブロック状に含む。炭化物をまばらに含む。腐植物を含む。
2　灰。基本層序Ⅳを中心に1層よりシルト多い。炭化物を極少量含む。
3　灰。青灰シルトに基本層序Ⅳを含む。
4　灰。シルトと基本層序Ⅳを含む。炭化物をまばらに含む。粗砂を含む。
5　灰。基本層序Ⅳを中心にシルトを含む。炭化物をまばらに含む。
6　青灰。青灰シルトに基本層序Ⅳを含む。
7　青灰。



1　灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトを少量含む。炭化物を含む。
2　青灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトをブロック状に含む。
3　青灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトをブロック状に含む。
　2層よりブロックが細かい。炭化物・腐植物を含む。
4　青灰。シルトに基本層序②(Ⅳ)をブロック状に含む。
5　灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトをブロック状に含む。
6　暗灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトを少量含む。炭化物・腐植物を少量含む。
7　青灰。基本層序②(Ⅳ)とシルトが互層。
8　灰。基本層序②(Ⅳ)に砂とシルトをシマ状に含む。
9　青灰。シルト。ボツボツと基本層序②(Ⅳ)を含む。
10 灰。基本層序②(Ⅳ)にシルトを少量含む。ガツボを含む。

0　(1：40)　2m

SE2066・SD2086・2065

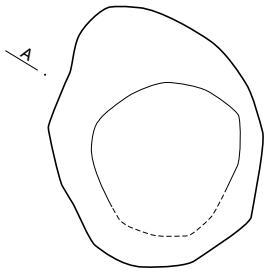


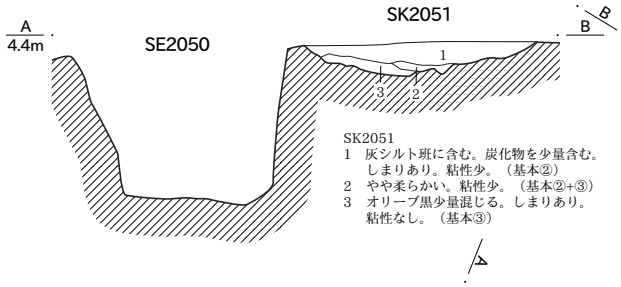
SE2066
1　灰オリーブ。粒子は細かい。炭化物含む。シルト。しまりあり。粘性少。（基本②）
2　オリーブ黒。粒子は細かい。炭化物含む。しまり少。粘性少。（基本②）
3　黒。粒子は粗い。腐植物含む。シルト。しまりなし。粘性少。
4　黒。粒子は粗い。腐植物含む。シルト。しまりなし。粘性少。
5　オリーブ黒。粒子は粗い。腐植物含む。しまりなし。粘性少。
6　灰。砂質シルト。粒子は細かい。しまり少。粘性なし。
7　オリーブ黒。粒子は粗い。腐植物多く含む。しまり・粘性なし。
8　灰シルト少量混じる。しまりあり。（基本②）
9　しまりあり。（基本②+③）
10　やや砂っぽい。しまりあり。（基本③）
11　シルト。しまり少。（基本③）

SD2086
1　灰シルト10％含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）

SD2065
1　オリーブ黒。炭化物少量含む。しまり少。粘性なし。（基本②）
2　基本②+砂層
3　オリーブ黒少量混じる。しまりあり。（基本③）
4　オリーブ黒少量混じる。しまりあり。（基本③）
5　オリーブ黒。炭化物少量含む。しまり少。粘性なし。（基本②）
6　オリーブ黒。炭化物少量含む。しまり少。粘性なし。（基本②）
7　灰。炭化物多い。しまり少。粘性少。（基本②）
8　灰。炭化物多い。しまり少。粘性少。（基本②）
9　粒子は細かい。炭化物少量含む。しまりあり。粘性少。（基本②）
10　オリーブ黒少量混じる。砂質強い。しまりなし。（基本③）
11　オリーブ黒ブロック状に少量混じる。砂質。しまり少。（基本③）
12　オリーブ黒ブロック状に少量混じる。砂質。しまり少。（基本③）
13　オリーブ黒ブロック状に少量混じる。砂質。しまり少。（基本③）

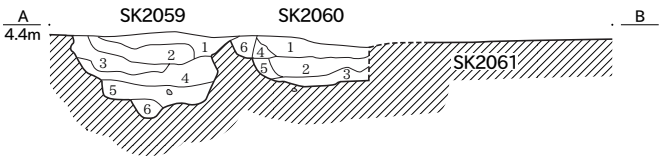
SE2050





SK2051
1　灰シルト斑に含む。炭化物を少量含む。しまりあり。粘性少。（基本②）
2　やや柔らかい。粘性少。（基本②+③）
3　オリーブ黒少量混じる。しまりあり。粘性なし。（基本③）

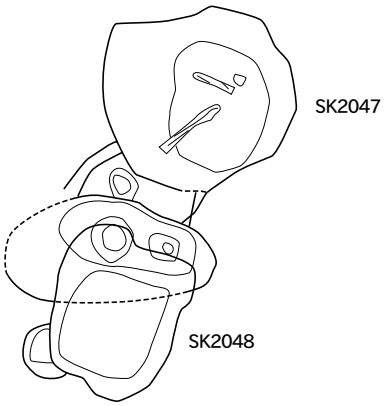
SK2059・2060

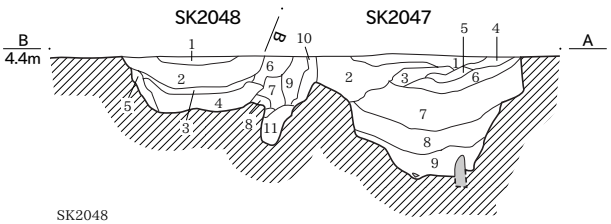


SK2059
1　炭化物多く含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2　しまりあり。粘性なし。（基本④）
3　炭化物を少量含む。しまり少。粘性少。（基本②）
4　黒色ブロック少量含む。しまり少。粘性少。（基本②+③）
5　黒色ブロック少量含む。しまり少。粘性少。（基本②+③）
6　オリーブ黒を少量含む。しまり少。粘性少。（基本③）

SK2060
1　炭化物を少量含む。砂を含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2　炭化物少量含む。しまり・粘性少。（基本②）
3　オリーブ黒まだらに含む。しまり少。粘性なし（基本③）
4　炭化物を少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本②+③）
5　しまり・粘性少。（基本②+③）
6　黒色ブロック含む。しまり少。粘性なし（基本③）

SK2048・2047

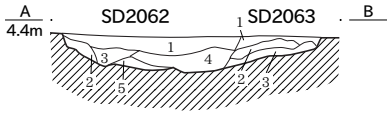




SK2048
1　炭化物を含む。しまりあり。粘性なし。（基本④）
2　オリーブ黒ブロックと炭化物が混じる。しまり少。粘性なし。（基本④）
3　オリーブ黒10％混じる。炭化物を含む。しまり少。（基本④）
4　オリーブ黒5％混じる。炭化物を含む。しまり少。粘性少。
5　基本④+基本③が混じる。

SK2047
1　灰シルトと炭化物が少量混じる。（基本②）
3　やや灰色味が強い。炭化物を少量含む。しまりあり。（基本②）
4　炭化物少量含む。しまりあり。（基本②+③）
5　炭化物少量含む。しまりあり。（基本②+③）
6　炭化物少量含む。しまり少。（基本②）
7　炭化物少量含む。しまり少。粘性少。（基本②）
8　灰シルトブロックを少量含む。しまりなし。粘性なし。（基本②）
9　灰シルトブロックを少量含む。しまりなし。粘性少。（基本②）

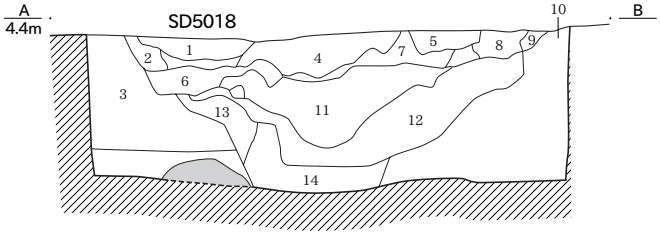
SK2062・2063



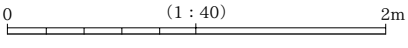
SD2062
1　黒土少量混じる。やや斑。しまりあり。（基本②）
2　（基本③）
3　黒土少量混じる。オリーブ黒30％混じる。（基本③）
4　オリーブ黒30％混じる。（基本③）
5　オリーブ黒少量混じる。（基本③）

SD2063
1　しまりあり。（基本②）
2　オリーブ黒20％混じる。（基本③）
3　オリーブ黒少量混じる。（基本③）

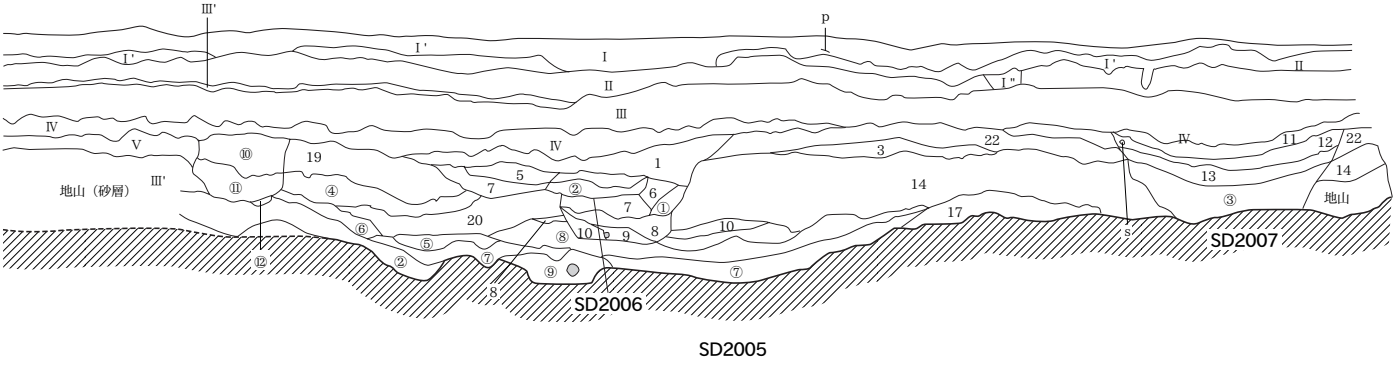
SK2121



1～2はSD5018で註記なし
3　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックをやや多く含む。炭化粒をまばらに含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性少。（基本③）
4　黒。暗オリーブ細砂と灰シルトブロックを少量含む。炭化粒をやや多く含む。腐植物を少量含む。しまりあり。粘性少。
5　黒。オリーブ褐細砂ブロックと灰シルトブロックを少量含む。炭化粒・腐植物を少量含む。しまりあり。粘性少。
6　オリーブ黒シルト。暗オリーブ細砂とオリーブ黒シルトブロックを少量含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性少。
7　灰シルトとオリーブ黒シルトブロックが混じる。暗オリーブ細砂を含む。炭化粒・腐植物を少量含む。しまり少。粘性少。
8　オリーブ褐細砂。腐植物を極少量含む。しまりあり。粘性なし。
9　黒褐。オリーブ褐細砂とシルトブロックを少量含む。炭化物を極まばらに含む。腐植物を少量含む。しまりあり。粘性少。
10　灰シルト。オリーブ黒シルトブロックをわずかに含む。炭化粒・腐植物をわずかに含む。しまりあり。粘性なし。
11　黒。灰色シルトブロックを少量含む。炭化物・腐植物を少量含む。しまり少。粘性あり。
12　灰シルト。灰細砂とオリーブ黒シルトブロックを少量含む。炭化粒・腐植物をわずかに含む。しまり少。粘性あり。
13　オリーブ黒。灰細砂・腐植物を少量含む。しまり少。粘性あり。
13　オリーブ黒シルト。腐植物を少量含む。しまり少。粘性あり。

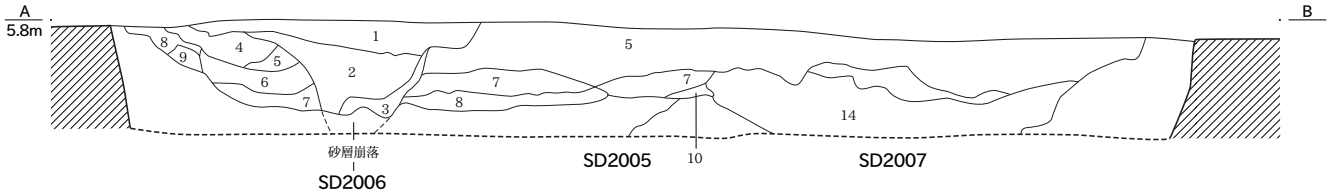


SD2005・2006・2007

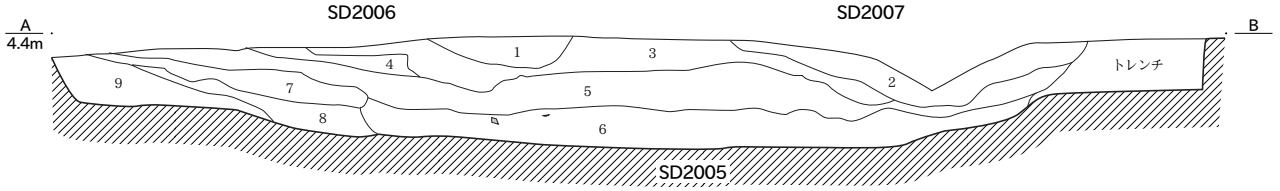


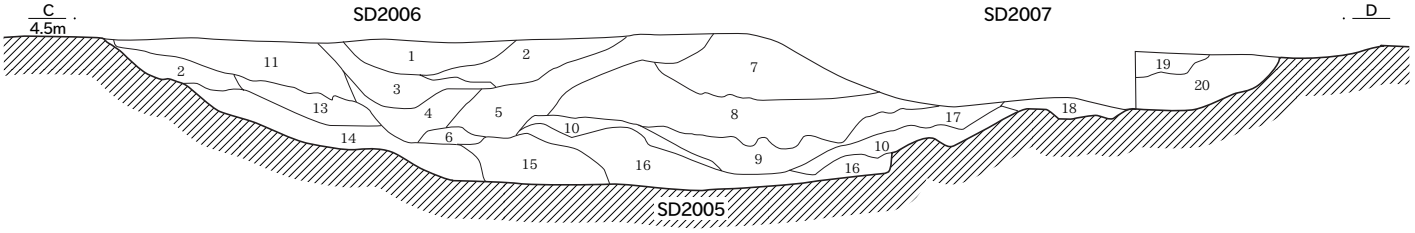
SD2006・2007［南側トレンチ］
1　黒。炭化物を多く含む。しまりあり。粘性なし。
2　オリーブ黒。灰シルトブロック含む。炭化物を含む。しまり少。粘性少。
3　灰オリーブ。しまり少。粘性少。
4　炭化物を多く含む。（基本③）
5　オリーブ黒。シルト。しまり少。
6　炭化物を多量に含む。しまり少。粘性少。（基本②+③）
7　3層に同じ。
8　灰。シルト。しまりあり。粘性なし。
9　オリーブ黒。少量混じる。（基本③）
10　灰。シルト。しまり少。

SD2005・2006・2007［北側トレンチ］
SD2006
1　緑黒。灰オリーブシルトブロックがまばらに混じる。炭化物含む。粘性なし。（基本④）
2　オリーブ黒。やや柔らかい砂質シルト。炭化物を少量含む。
3　黒。灰オリーブが少量混じる。しまりなし。粘性なし。
4　灰シルト。砂っぽい。炭化物を含む。しまり少。
5　オリーブ黒。炭化物を含む。粒子細かい。しまりあり。粘性少。（基本②）
6　オリーブ黒シルトと黒シルトが斑に混じる。炭化物を少量含む。しまりなし。粘性少。（SD2005？）
⑦　オリーブ灰砂質土。粒子大きい。炭化物少量含む。しまり少。粘性なし。
⑧　オリーブ黒シルト。炭化物少を量含む。しまり少。



1　黒シルト。炭化物を含む。腐植物を少量含む。しまり少。粘性少。
2　オリーブ黒。炭化物を極少量。腐植物を少量含む。シルト。しまり少。粘性なし。
3　オリーブ黒。腐植物をわずかに含む。シルト。しまりあり。粘性なし。
4　オリーブ黒。ところどころに砂が混じる。シルト。しまり少。粘性なし。
5　黒シルト。炭化物がわずかに混じる。しまり少。粘性なし。
6　黒シルト。灰オリーブシルトが斑に混じる。炭化物を少量含む。しまり少。粘性あり。

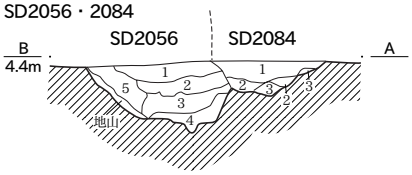




1　黒。炭化物層。粘質灰色土を含む。
2　青灰。青灰シルトに基本層序④を含む。炭化物をまばらに含む。
3　灰。炭化物と基本層序④をブロック状に含む。粘性あり。
4　黒褐。炭化物をまばらに含む。植物遺体を含む。褐色粘質土を含む。粘性あり。
5　灰。基本層序④に青灰シルトを含む。褐色粘質土を含む。炭化物をまばらに含む。
6　褐灰。シルトと褐色粘質土を含む。炭化物をまばらに含む。
7　褐灰。基本層序④に炭化物を含む。
8　灰。基本層序④に粗目状の砂を少量含む。褐色粘質土を含む。炭化物をまばらに含む。底部粘性あり。
9　灰黄褐。褐色粘質土。炭化物・植物遺体(木片)を含む。
10　青灰。青灰シルトと褐色粘質土を含む。
11　灰。基本層序④に炭化物をまばらに含む。
12　青灰。青灰シルトに基本層序④をまばらに含む。
13　オリーブ灰。褐色粘質土に青灰シルトを含む。炭化物をまばらに含む。
14　青灰。10層とほぼ同じ。部分的に炭化物を含む。
15　にぶい黄褐＋青灰。粗目状の砂と褐色粘質土の互層。植物遺体を含む。
16　にぶい黄褐。粗砂層。
17　褐灰。褐色粘質土に青灰シルトを部分的に含む。炭化物をまばらに含む。
18　褐灰。10層とほぼ同じ。炭化物を極少量含む。10層より褐色粘質土含む。
19　黒褐。基本層序④に炭化物を含む。粘性少。
20　灰。基本層序④に炭化物をまばらに含む。褐色粘質土を含む。粘性あり。

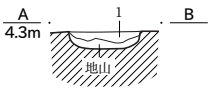
0　（1：40）　2m

SD2056・2084



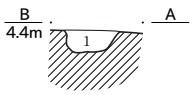
SD2056
1　オリーブ黒。炭化物を多量に含む。しまりあり。粘性少。
2　オリーブ黒。炭化物を少量含む。しまりあり。粘性なし。
3　オリーブ黒。灰砂質シルトを少量含む。粒子細かい。
　しまり少。粘性少。
4　オリーブ黒5％混じる。しまりなし。（基本③）
5　3層に同じ。炭化物を少量含む。しまり少。
SD2084
1　炭化物を含む。しまりあり。粘性なし。（基本②）
2　灰シルト10～15％含む。炭化物を少量含む。
　やや柔らかい。（基本②）
3　オリーブ黒少量含む。しまりあり。粘性なし。（基本③）

SD2110

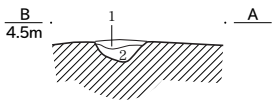


1　灰色砂質土が斑に少量混じる。
　粒子細かい。しまりあり。粘性少。

SD2084

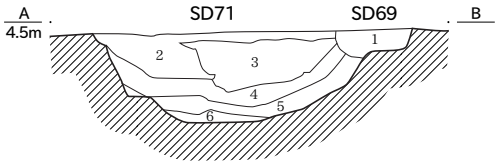


SD2120



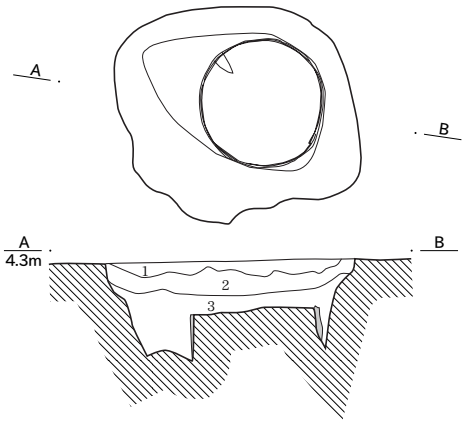
1　黒褐シルト。灰シルトブロック（径2～5㎜）を
　極少量含む。炭化粒（径1㎜以下）を少量含む。
　腐植物をやや少量含む。しまりあり。
　粘性少。（基本①）
2　灰シルト。オリーブ黒シルトブロック
　（径2～5㎜）を少量含む。炭化粒（径1㎜以下）を
　まばらに含む。腐植物を少量含む。
　しまり少。粘性なし。（基本③）

SD71



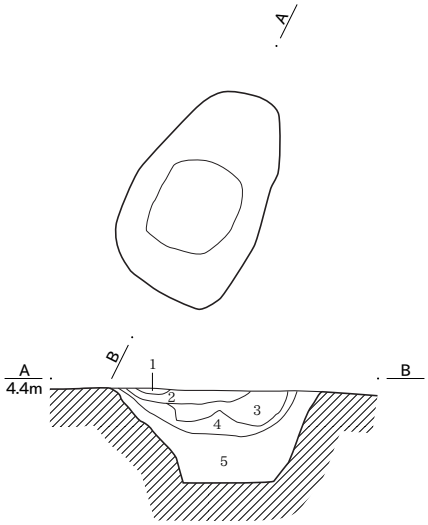
1　オリーブ黒。灰を全体に含む。炭化物を含む。しまりあり。粘性なし。
2　オリーブ黒。オリーブ黒と灰を斑状に含む。炭化物・腐植物を含む。
　しまりあり。粘性なし。
3　灰。灰とオリーブ黒を含む。しまりあり。粘性なし。
4　灰。灰とオリーブ黒をブロック状に含む。
5　黒。炭化物層。灰を含む。腐植物を含む。
6　灰。腐植物を極少量含む。しまり少。粘性あり。

SE3



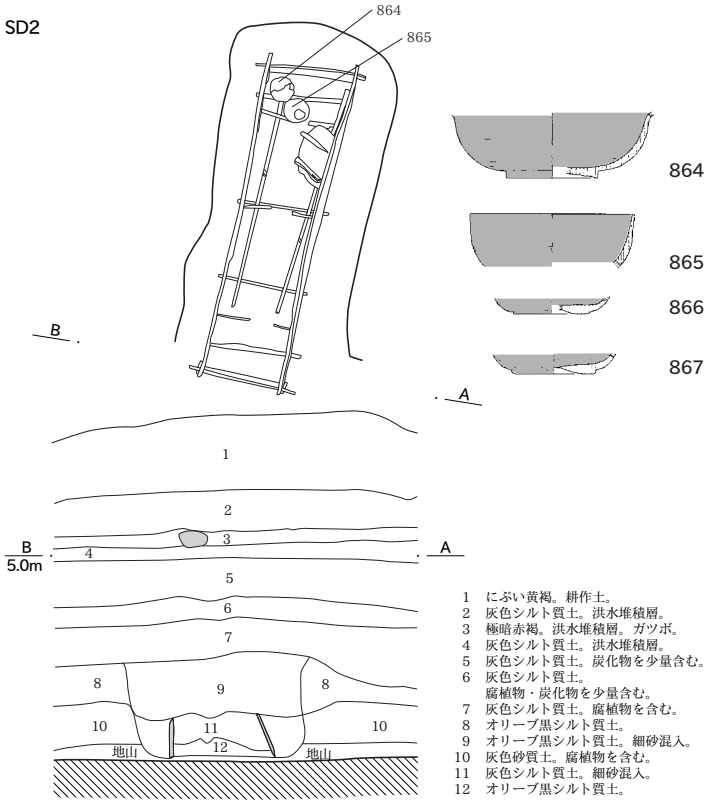
1　暗灰黄。シルト質。腐植物少。しまり中。粘性あり。
2　灰。シルト質。腐植物少。しまり中。粘性あり。
3　黄灰。シルト質。上部に腐植物を少量含む。しまり中。粘性あり。

SK4



1　オリーブ黒。シルト質。炭化粒・腐植物を極少量含む。しまり・粘性少。
2　オリーブ黒。シルト質。炭化粒・腐植物を極少量含む。しまり・粘性少。
3　オリーブ黒。シルト質。炭化粒少。腐植物を多く含む。しまり少。粘性あり。
4　黒褐色。シルト質。炭化物粒少。腐植物を特に多く含む。しまり少。粘性あり。
5　黒褐色。シルト質。炭化粒・腐植物を少量含む。しまり少。粘性あり。

SD2

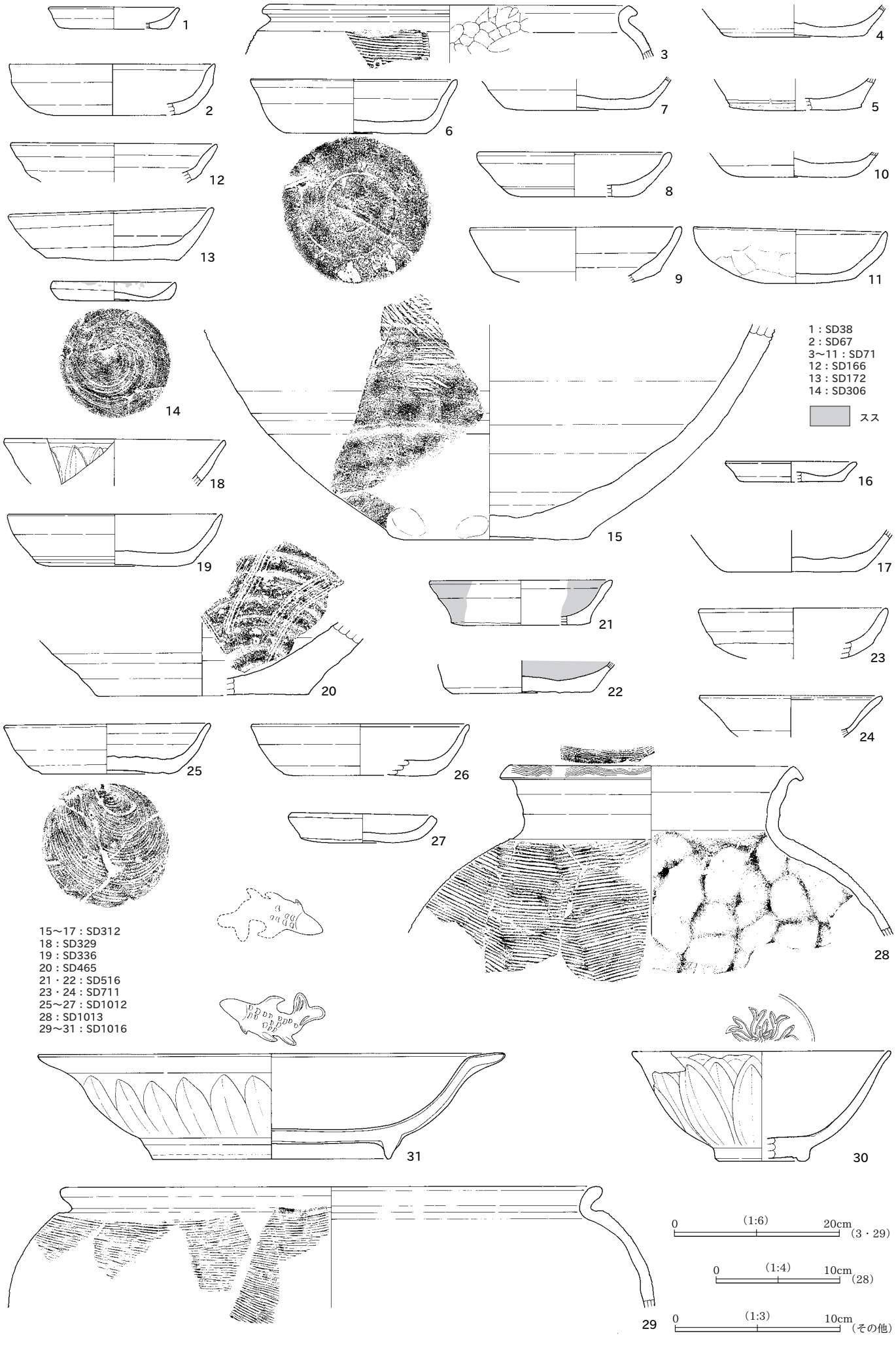


1　にぶい黄褐。耕作土。
2　灰色シルト質土。洪水堆積層。
3　極暗赤褐。洪水堆積層。ガツボ。
4　灰色シルト質土。洪水堆積層。
5　灰色シルト質土。炭化物を少量含む。
6　灰色シルト質土。
　腐植物・炭化物を少量含む。
7　灰色シルト質土。腐植物を含む。
8　オリーブ黒シルト質土。
9　オリーブ黒シルト質土。細砂混入。
10　灰色砂質土。腐植物を含む。
11　灰色シルト質土。細砂混入。
12　オリーブ黒シルト質土。

0　（1：40）　2m

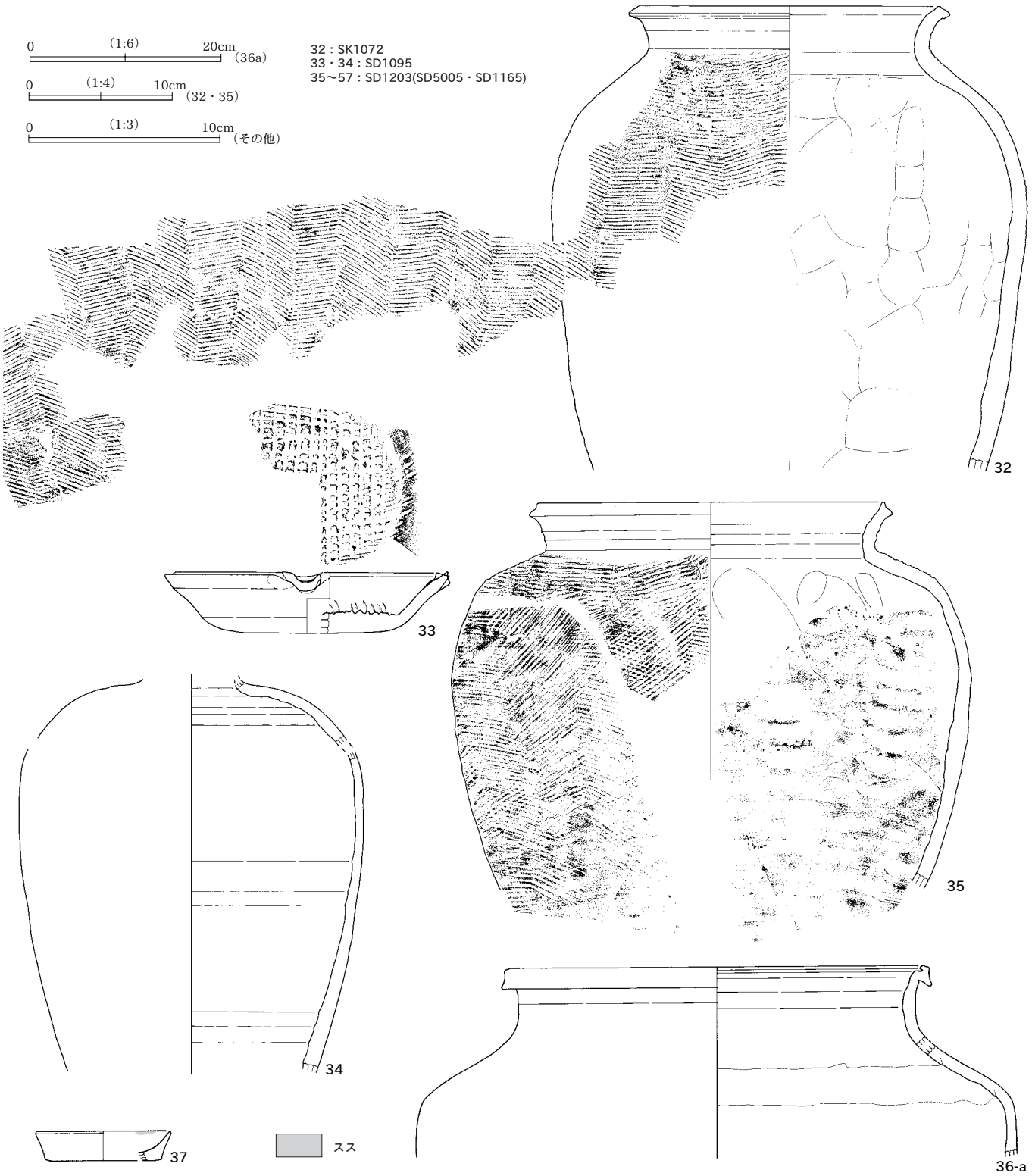
遺構分割図9

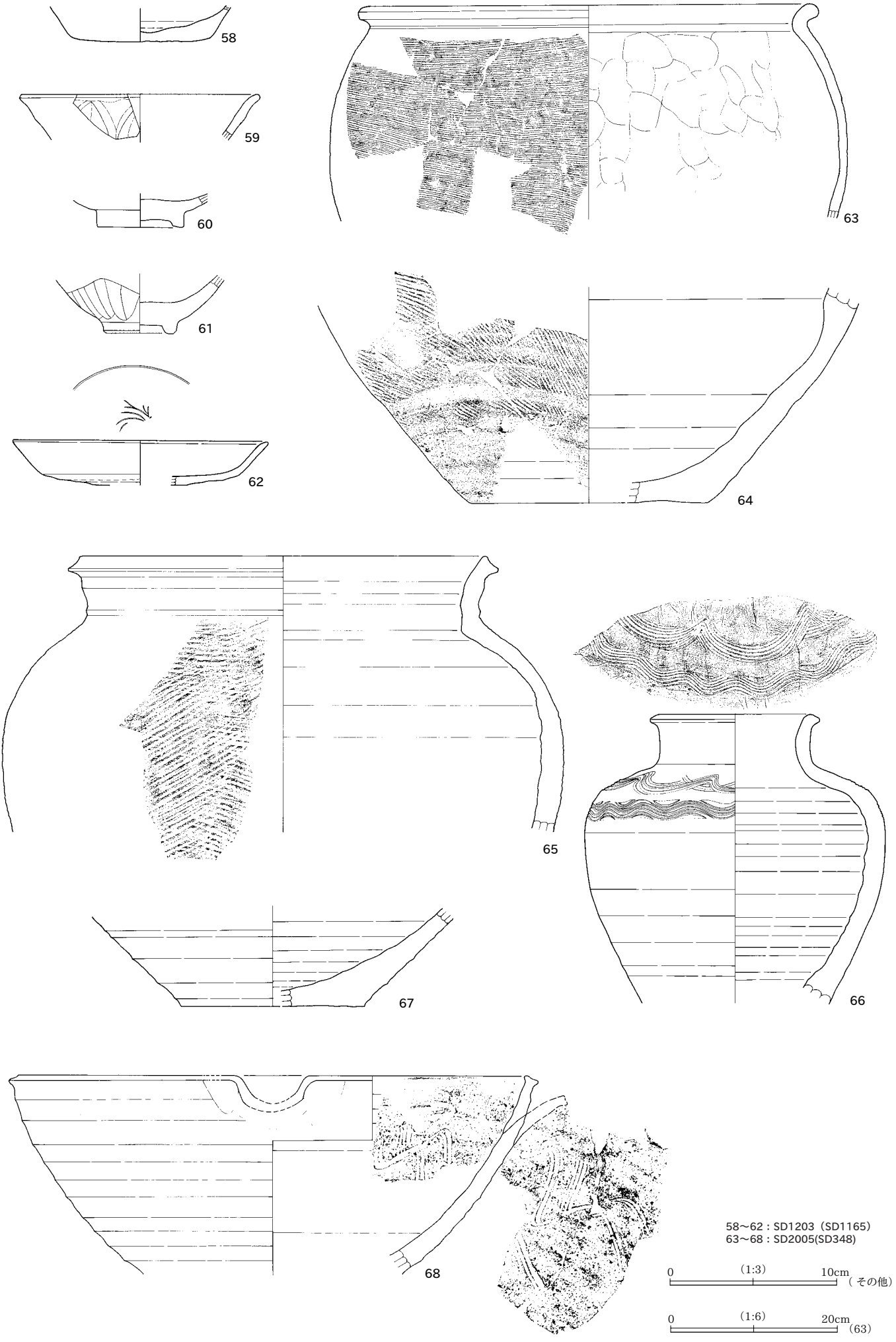
1
2
3
E
F
G
SE947
SB17
P952
P945
P975
P943
P955
P946
P942
SB23
P949
P948
SK636
SK4
P954
P965
P961
SB23
P966
P937
P979
SB18
SB18-A
SB1P1
P960
P936
SB18-B
SA1
SA1
P967
P968
P638
SB1P2
SAア
P969
P959
P973
SAア
P958
SB1P3
P934
SD977
SD980
SD1012
SE3
SK642
SK263
SD2
0
(1 : 120)
6m

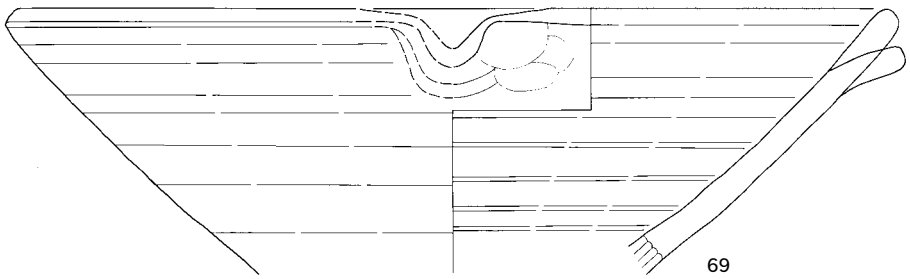

1
3
4
2
6
7
5
12
8
10
13
9
11
14
1：SD38
2：SD67
3〜11：SD71
12：SD166
13：SD172
14：SD306
スス
18
15
16
19
17
21
20
23
22
24
25
26
27
28
15〜17：SD312
18：SD329
19：SD336
20：SD465
21・22：SD516
23・24：SD711
25〜27：SD1012
28：SD1013
29〜31：SD1016
31
30
29
0 (1:6) 20cm (3・29)
0 (1:4) 10cm (28)
0 (1:3) 10cm (その他)

0 (1:6) 20cm (36a)
0 (1:4) 10cm (32・35)
0 (1:3) 10cm (その他)

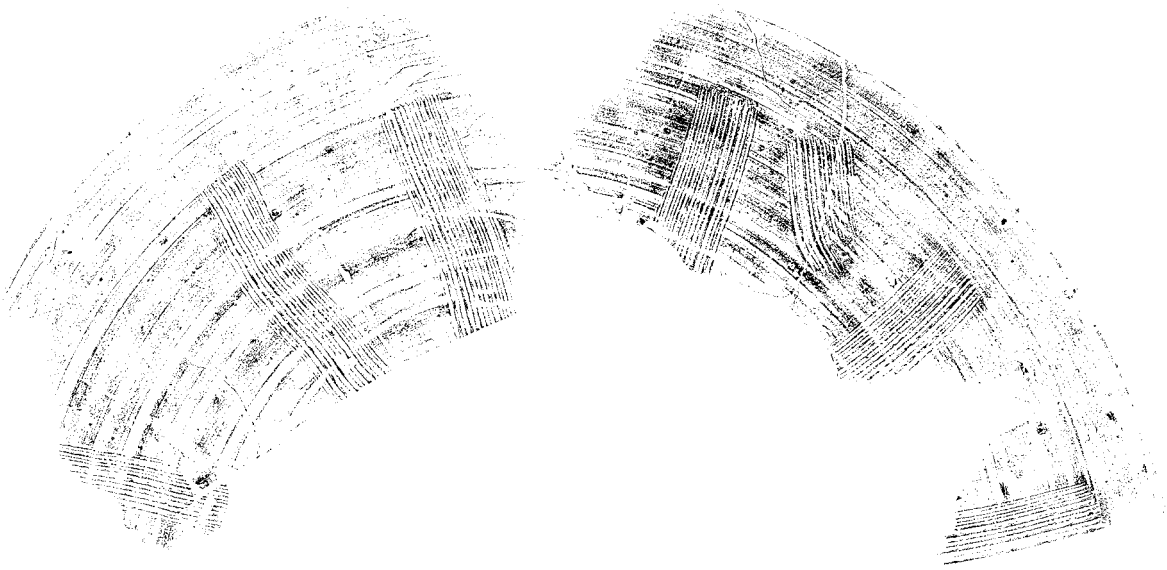
32：SK1072
33・34：SD1095
35～57：SD1203(SD5005・SD1165)

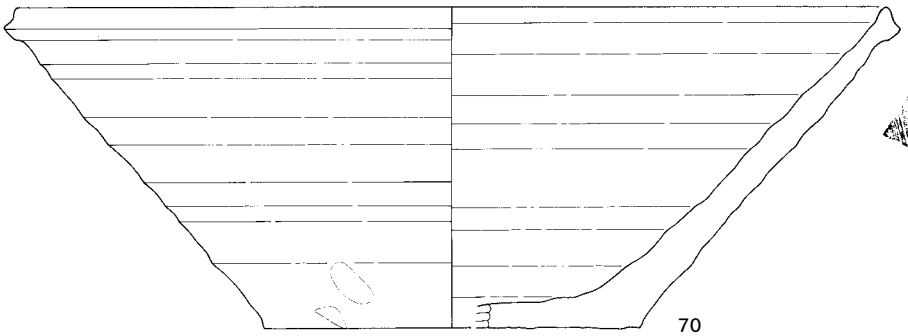



58
59
60
63
61
62
64
65
66
67
68
58～62：SD1203（SD1165）
63～68：SD2005(SD348)
0
(1:3)
10cm
（その他）
0
(1:6)
20cm
（63）

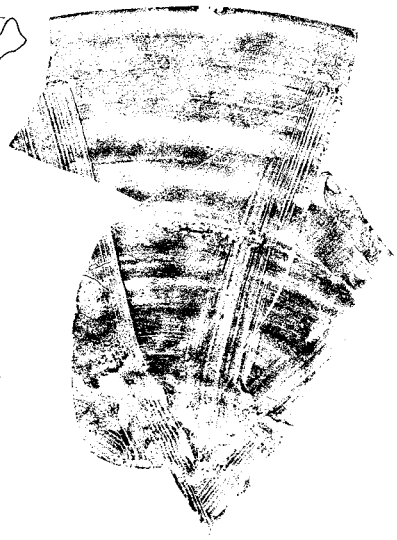


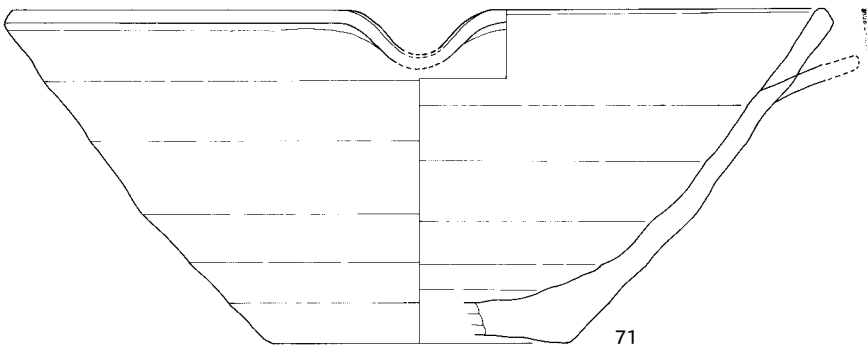
69



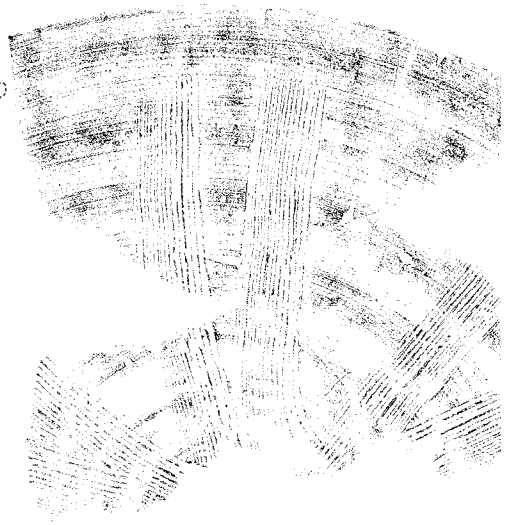


70



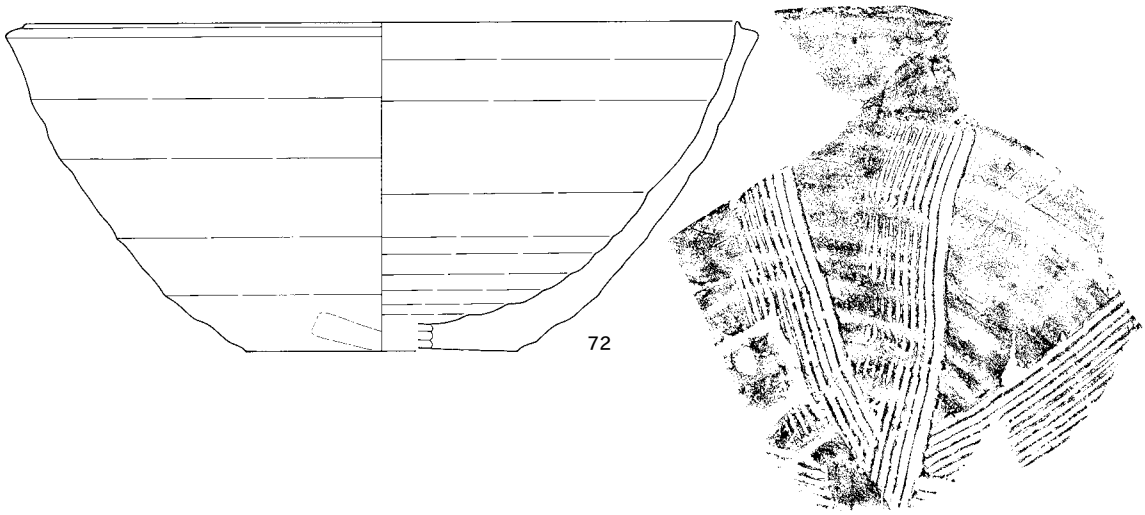


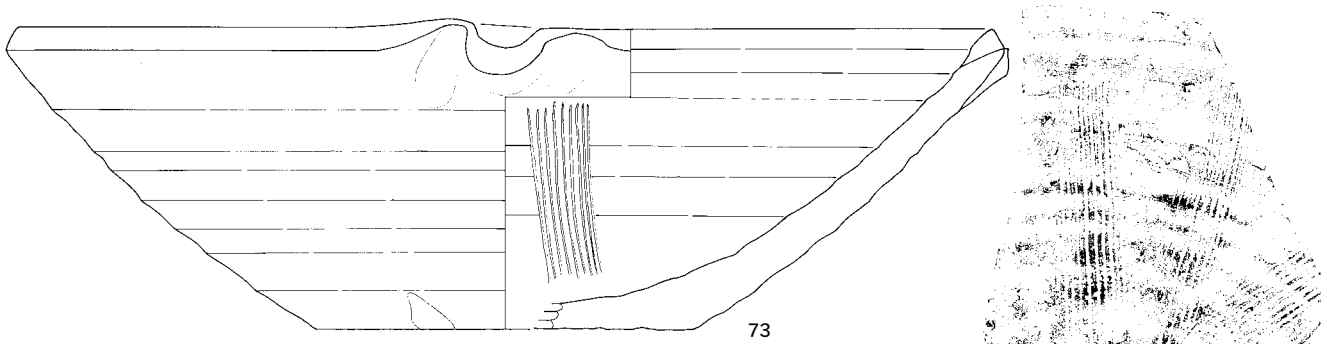
71

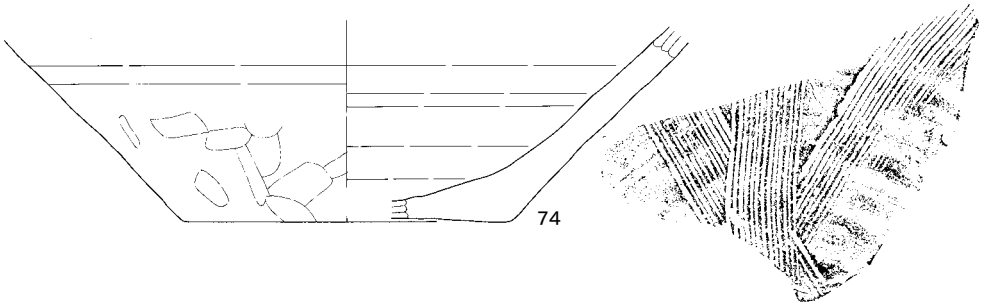


69～71：SD2005(SD348)

0　(1:3)　10cm


72

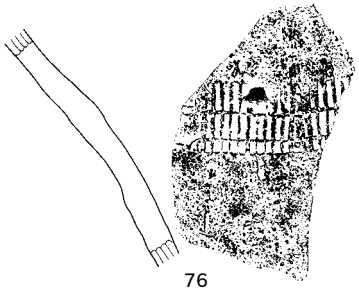

73

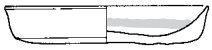

74

75

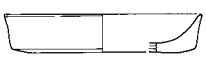
85

83

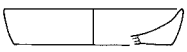

76

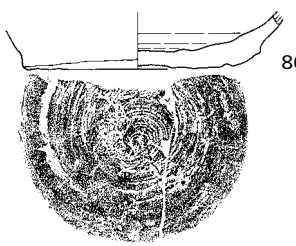

78

79

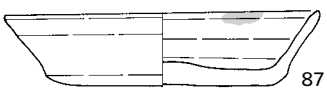

80

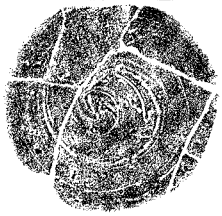
81


82


86

84


87

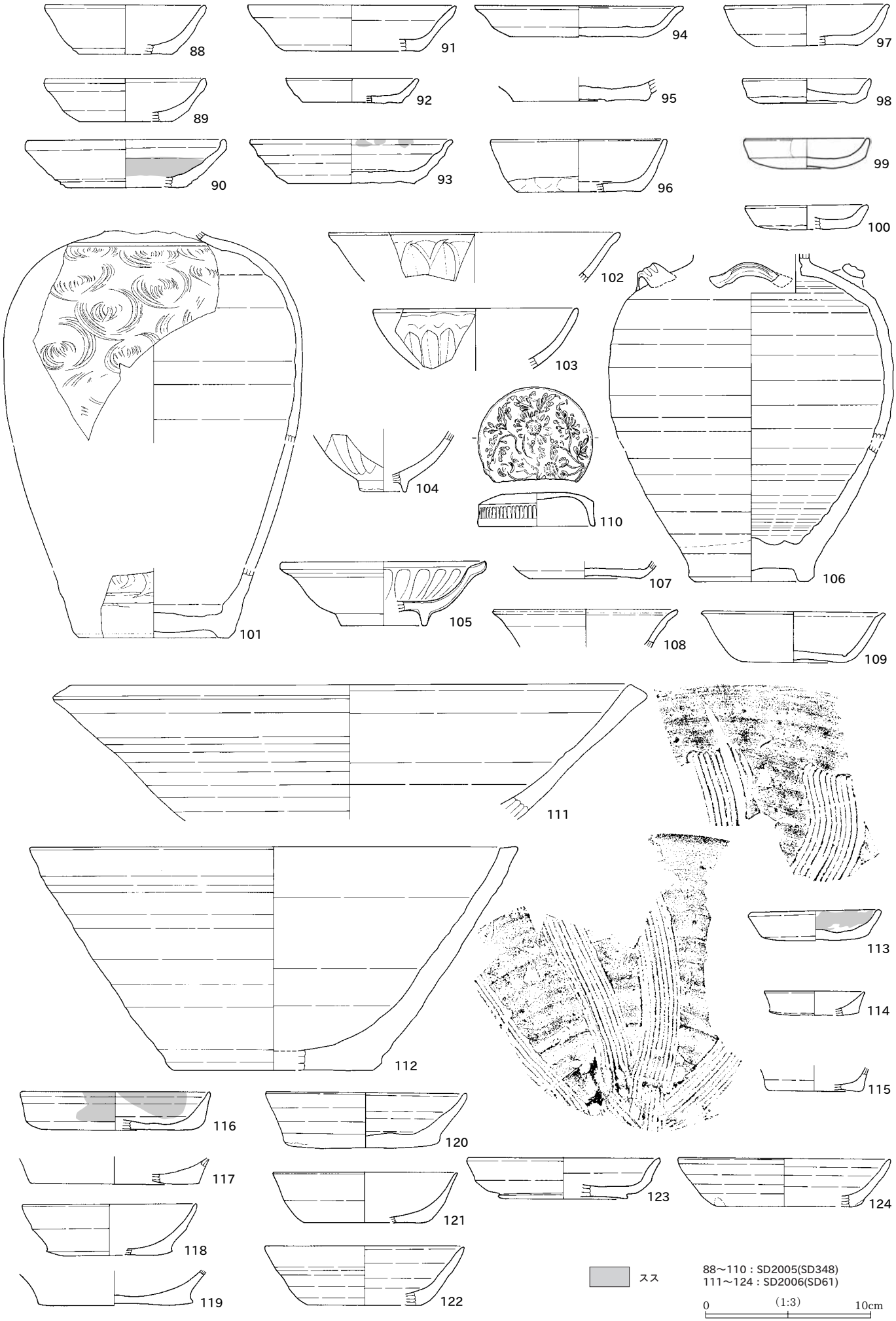


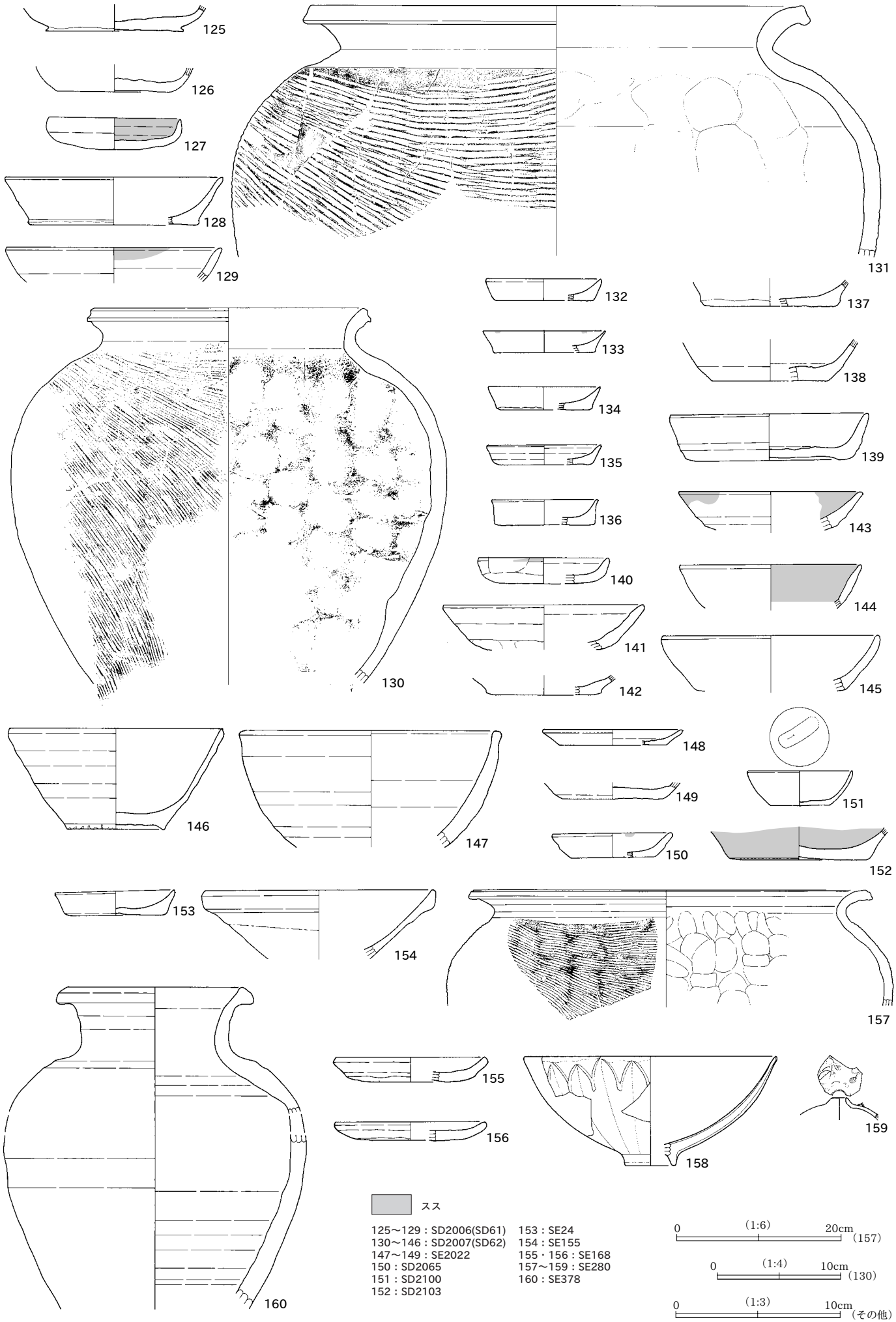
77

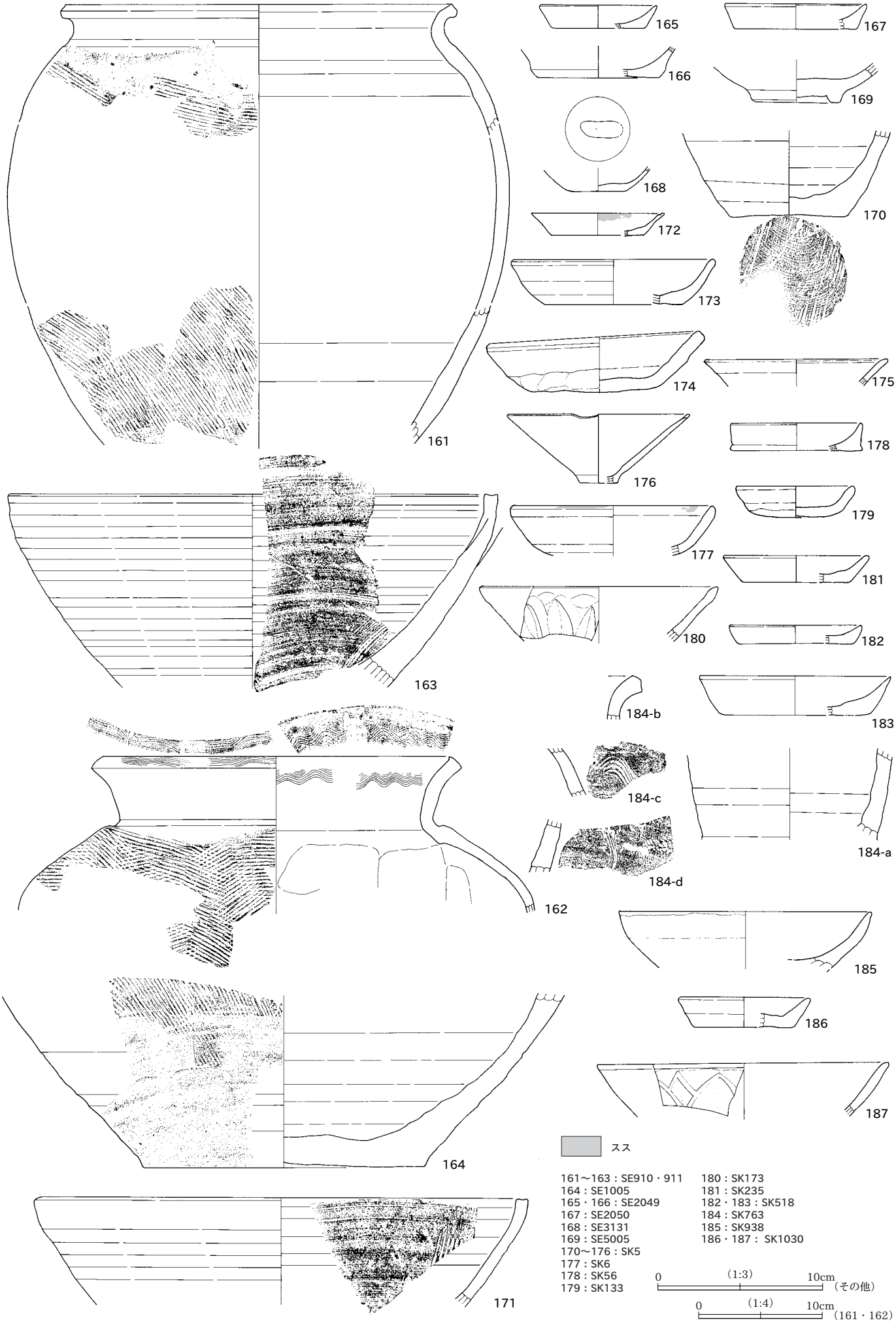
スス

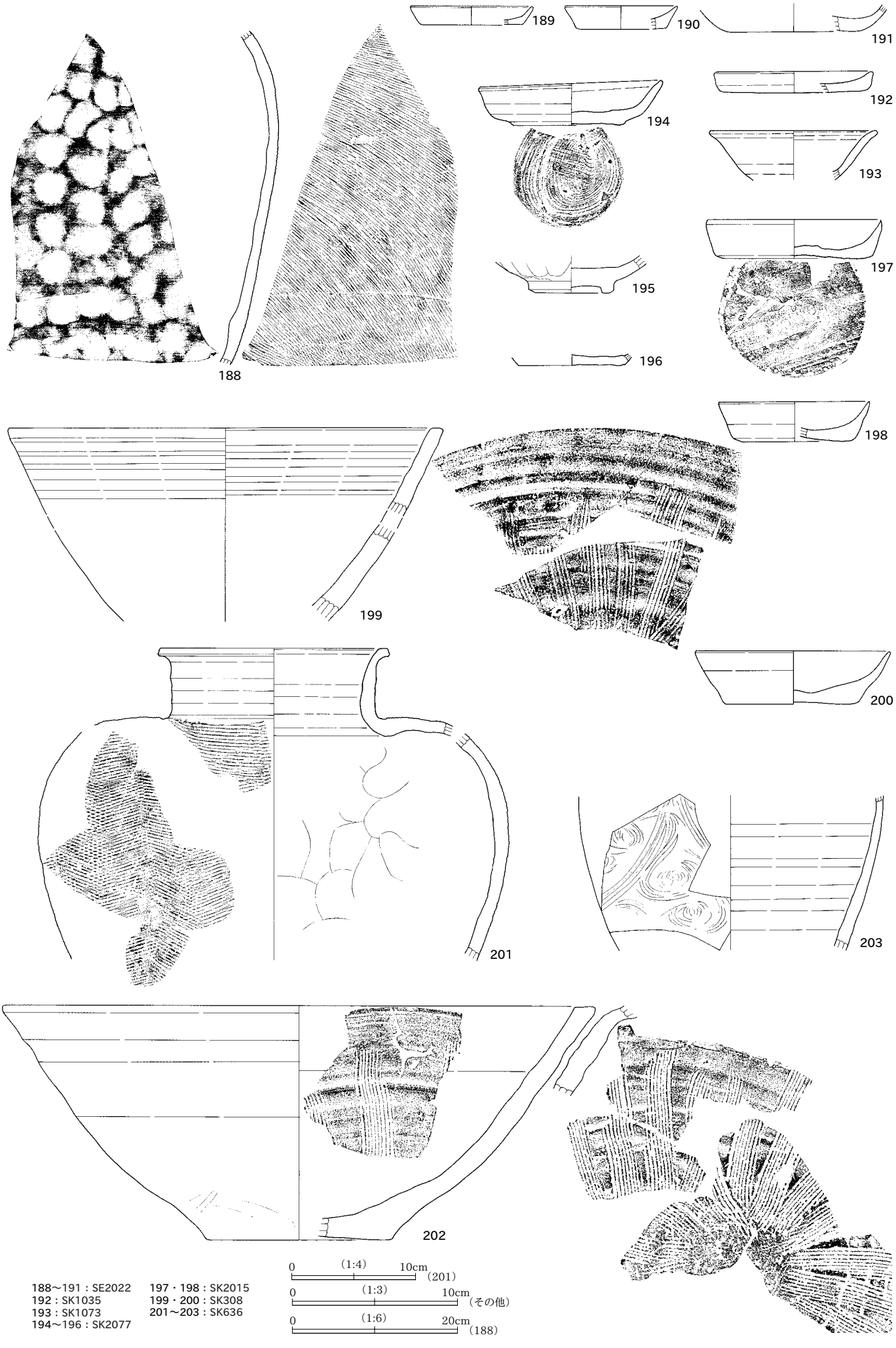
72～87：SD2005(SD348)

0　(1:3)　10cm

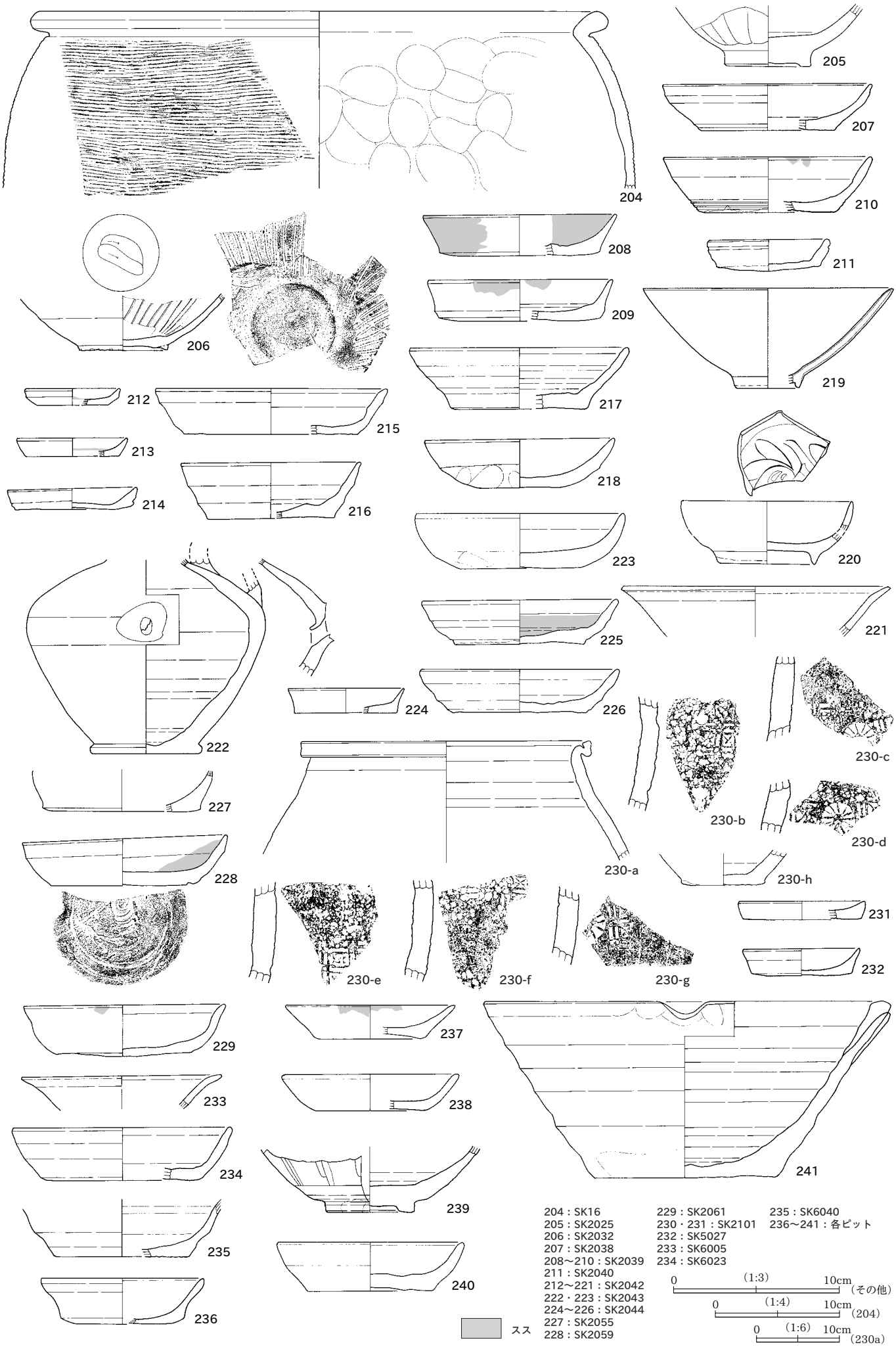

88
91
94
97
89
92
95
98
90
93
96
99
100
102
103
104
110
101
106
105
107
108
109
111
112
113
114
115
116
120
117
121
123
124
118
119
122
スス
88～110：SD2005(SD348)
111～124：SD2006(SD61)
0
(1:3)
10cm

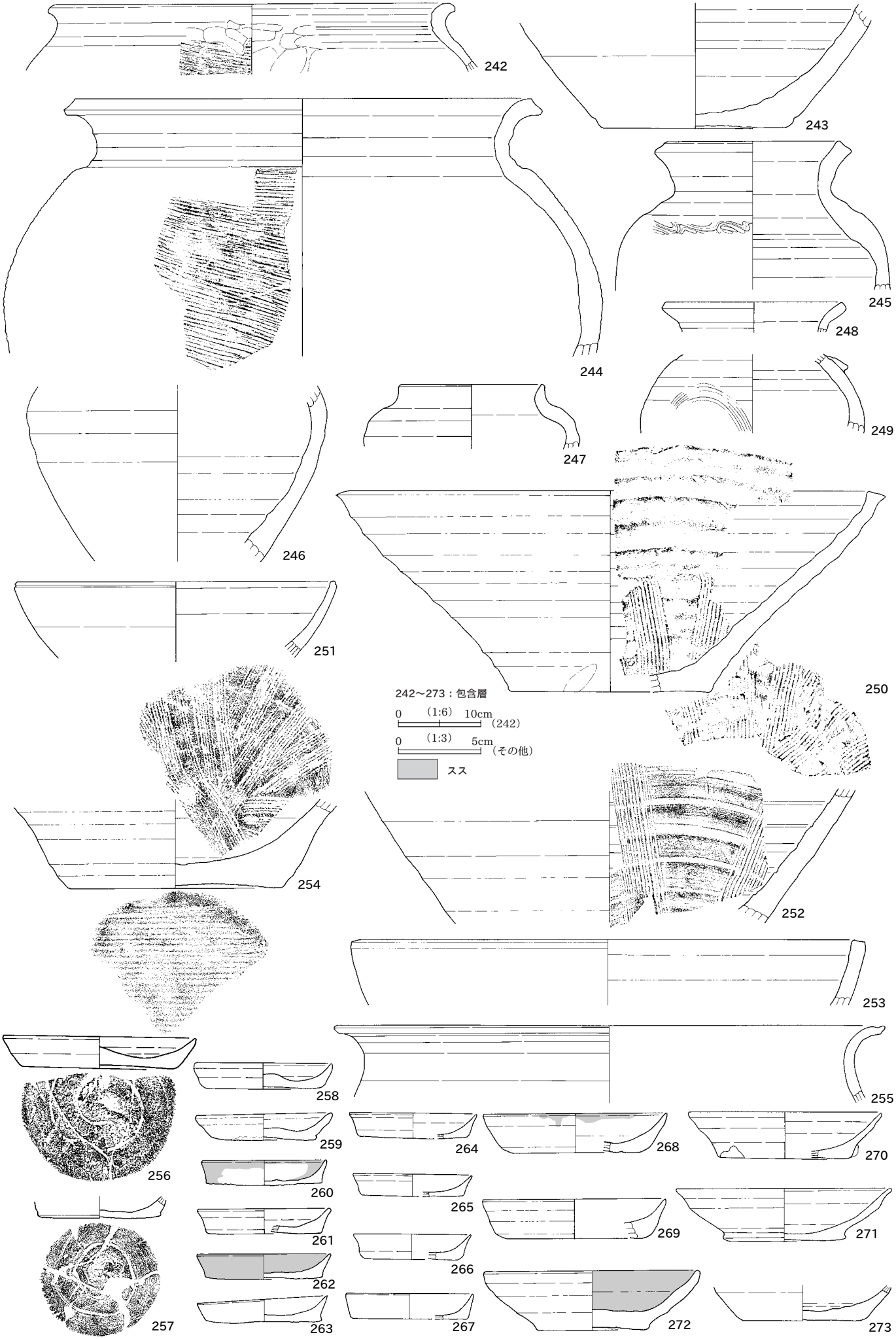

125
126
127
128
129
131
132
133
134
135
136
137
138
139
143
140
144
141
145
142
130
146
147
148
149
150
151
152
153
154
157
155
156
158
159
160
スス
125～129：SD2006(SD61)
130～146：SD2007(SD62)
147～149：SE2022
150：SD2065
151：SD2100
152：SD2103
153：SE24
154：SE155
155・156：SE168
157～159：SE280
160：SE378
0 (1:6) 20cm (157)
0 (1:4) 10cm (130)
0 (1:3) 10cm (その他)

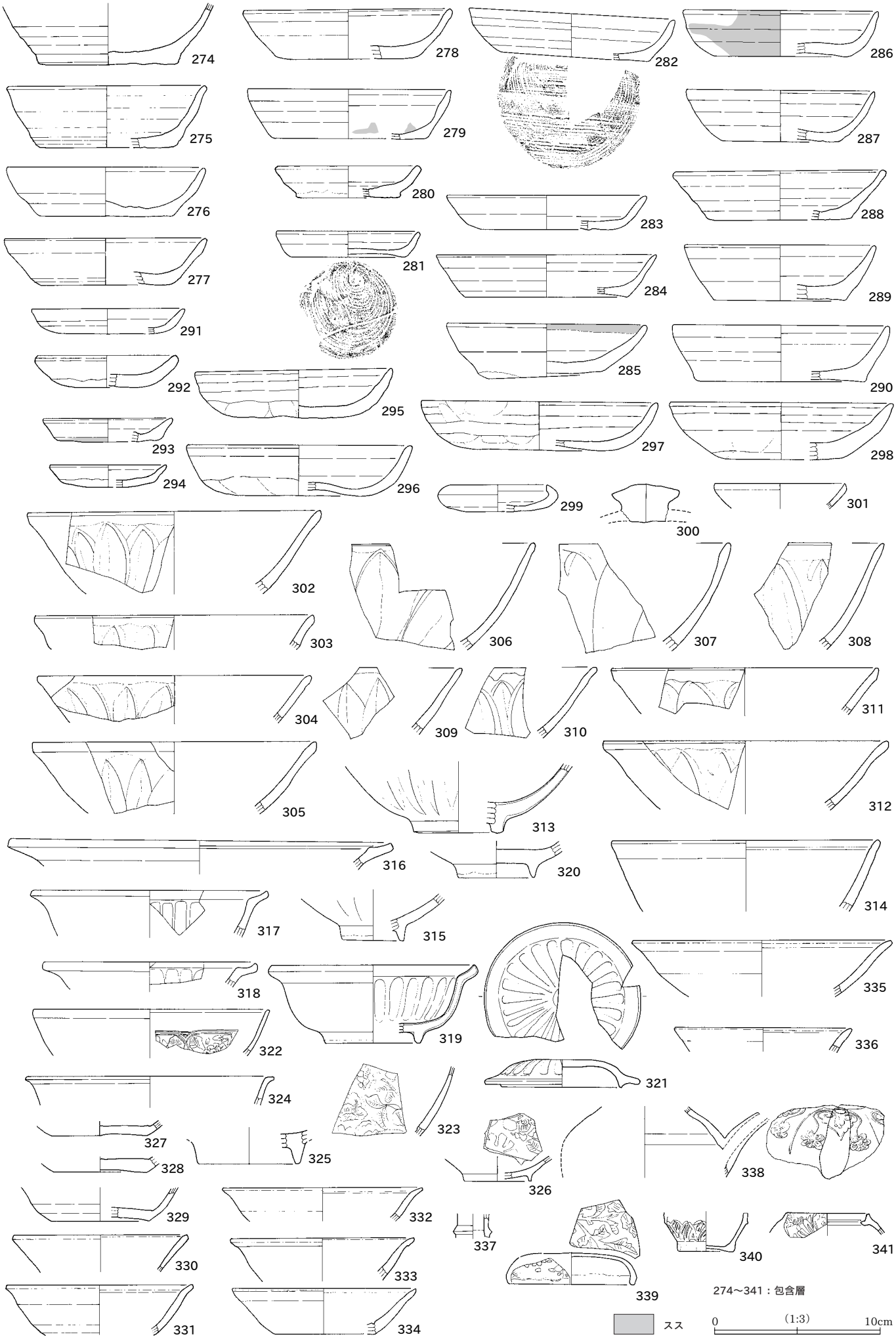

161
163
162
164
171
165
166
167
169
168
170
172
173
174
175
176
178
179
177
181
180
182
184-b
183
184-c
184-a
184-d
185
186
187
スス
161～163：SE910・911
164：SE1005
165・166：SE2049
167：SE2050
168：SE3131
169：SE5005
170～176：SK5
177：SK6
178：SK56
179：SK133
180：SK173
181：SK235
182・183：SK518
184：SK763
185：SK938
186・187： SK1030
0 (1:3) 10cm （その他）
0 (1:4) 10cm （161・162）

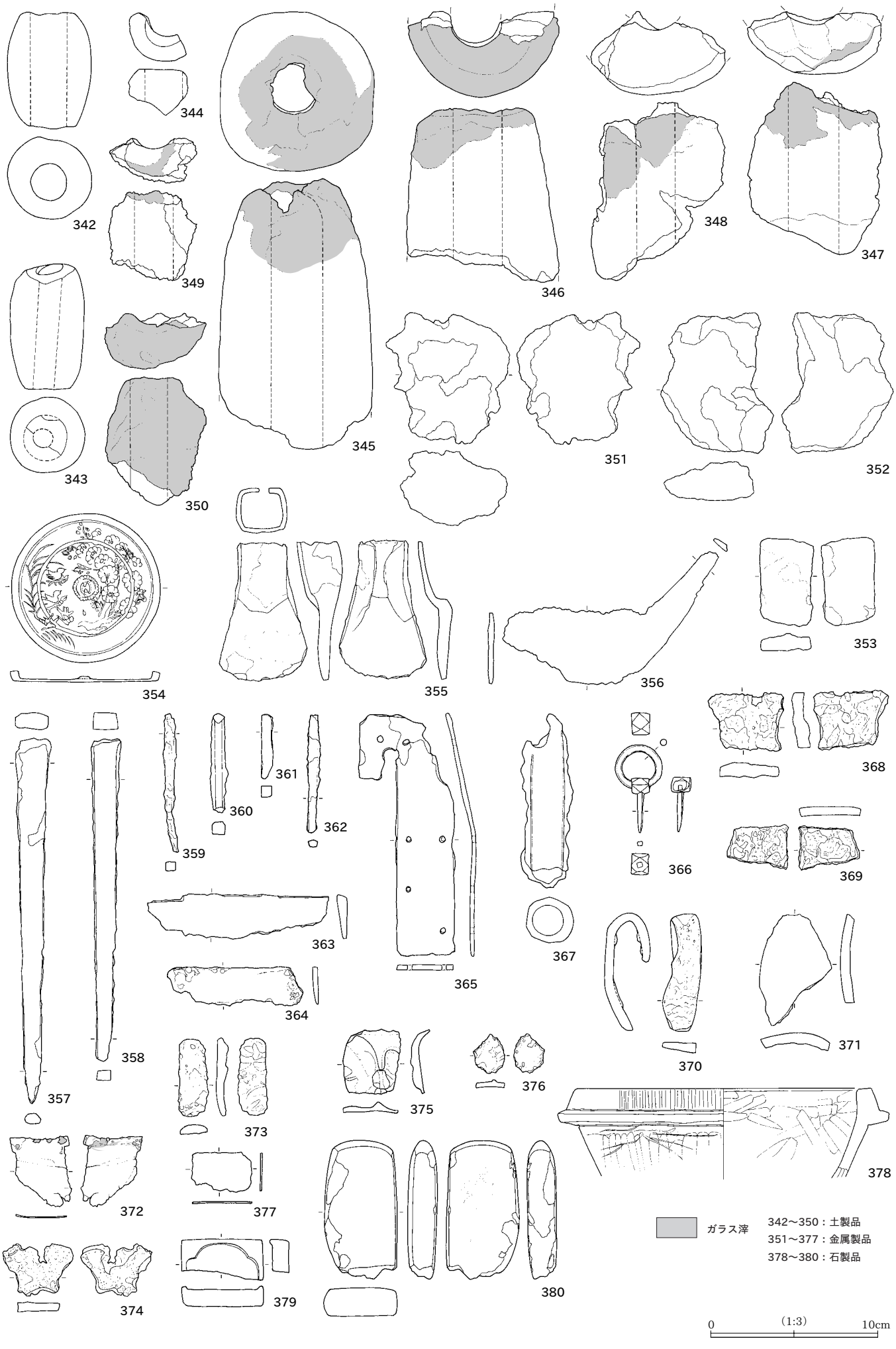


188～191：SE2022
192：SK1035
193：SK1073
194～196：SK2077
197・198：SK2015
199・200：SK308
201～203：SK636

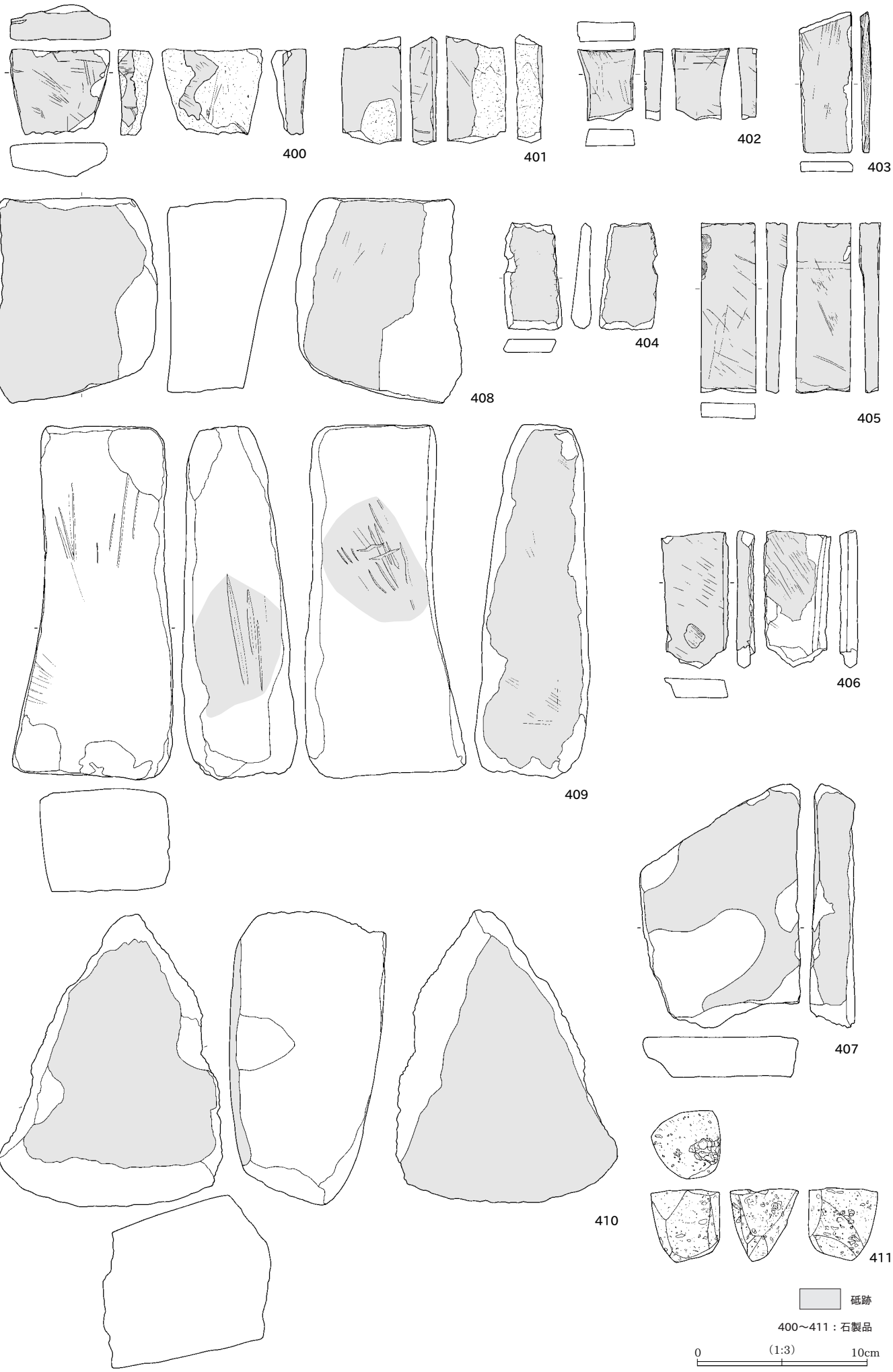

204
205
207
210
206
208
211
209
219
212
215
217
213
218
214
216
220
223
221
225
222
224
226
230-c
227
230-a
230-b
230-d
228
230-h
231
230-e
230-f
230-g
232
229
237
241
233
238
234
239
235
240
236
スス
204：SK16
205：SK2025
206：SK2032
207：SK2038
208～210：SK2039
211：SK2040
212～221：SK2042
222・223：SK2043
224～226：SK2044
227：SK2055
228：SK2059
229：SK2061
230・231：SK2101
232：SK5027
233：SK6005
234：SK6023
235：SK6040
236～241：各ピット
0 (1:3) 10cm (その他)
0 (1:4) 10cm (204)
0 (1:6) 10cm (230a)

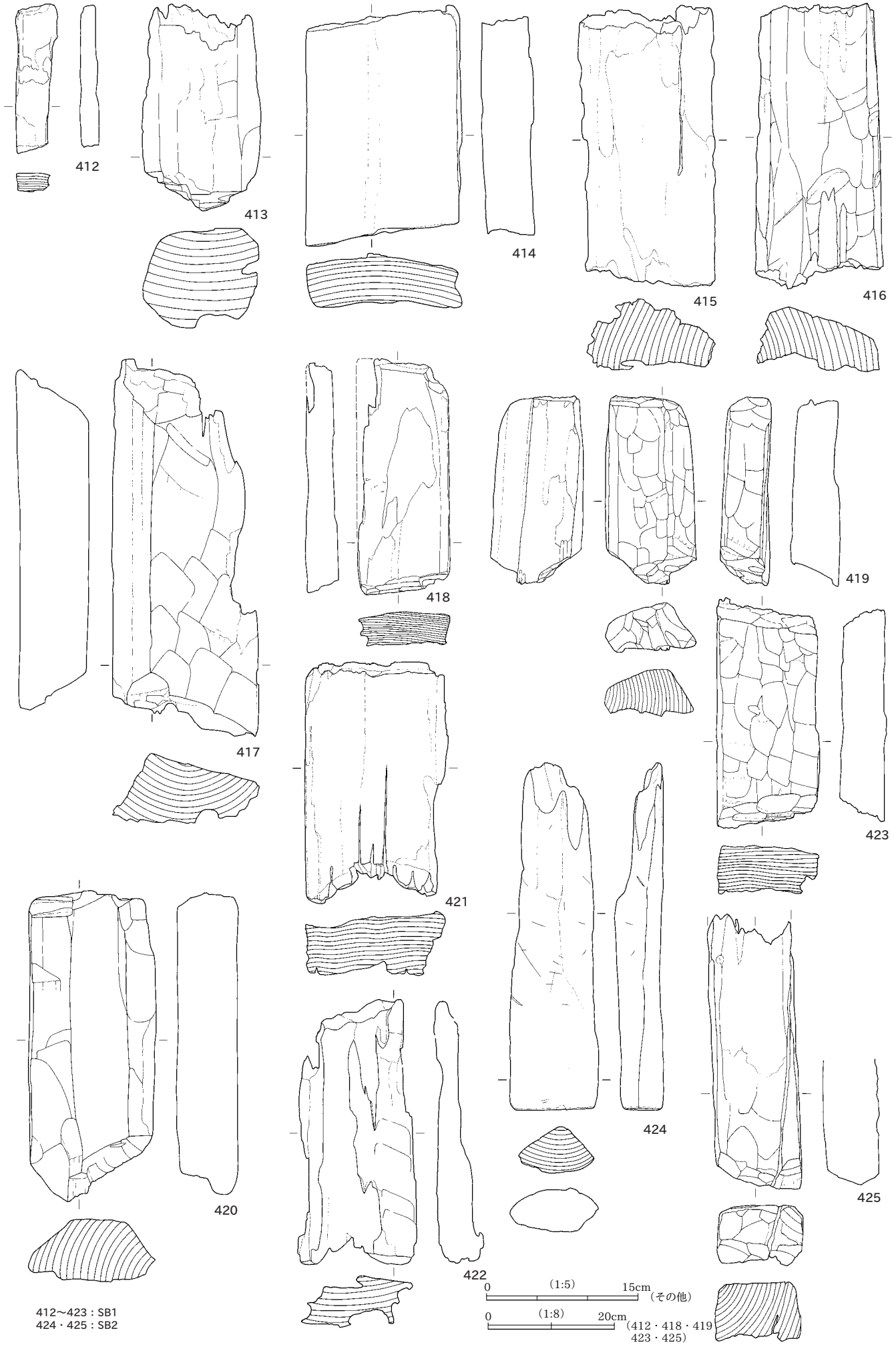

242
243
244
245
248
249
246
247
251
250
242～273：包含層
0 (1:6) 10cm (242)
0 (1:3) 5cm (その他)
スス
254
252
253
256
258
255
259
264
268
270
260
265
269
271
261
266
262
257
263
267
272
273


274
278
282
286
275
279
287
276
280
283
288
277
281
284
289
291
285
290
292
295
293
297
298
294
296
299
301
300
302
303
306
307
308
304
309
310
311
305
313
312
316
320
314
317
315
318
319
335
322
336
321
324
323
327
325
328
326
338
329
332
337
340
341
330
333
339
331
334
274～341：包含層
スス
0
(1:3)
10cm

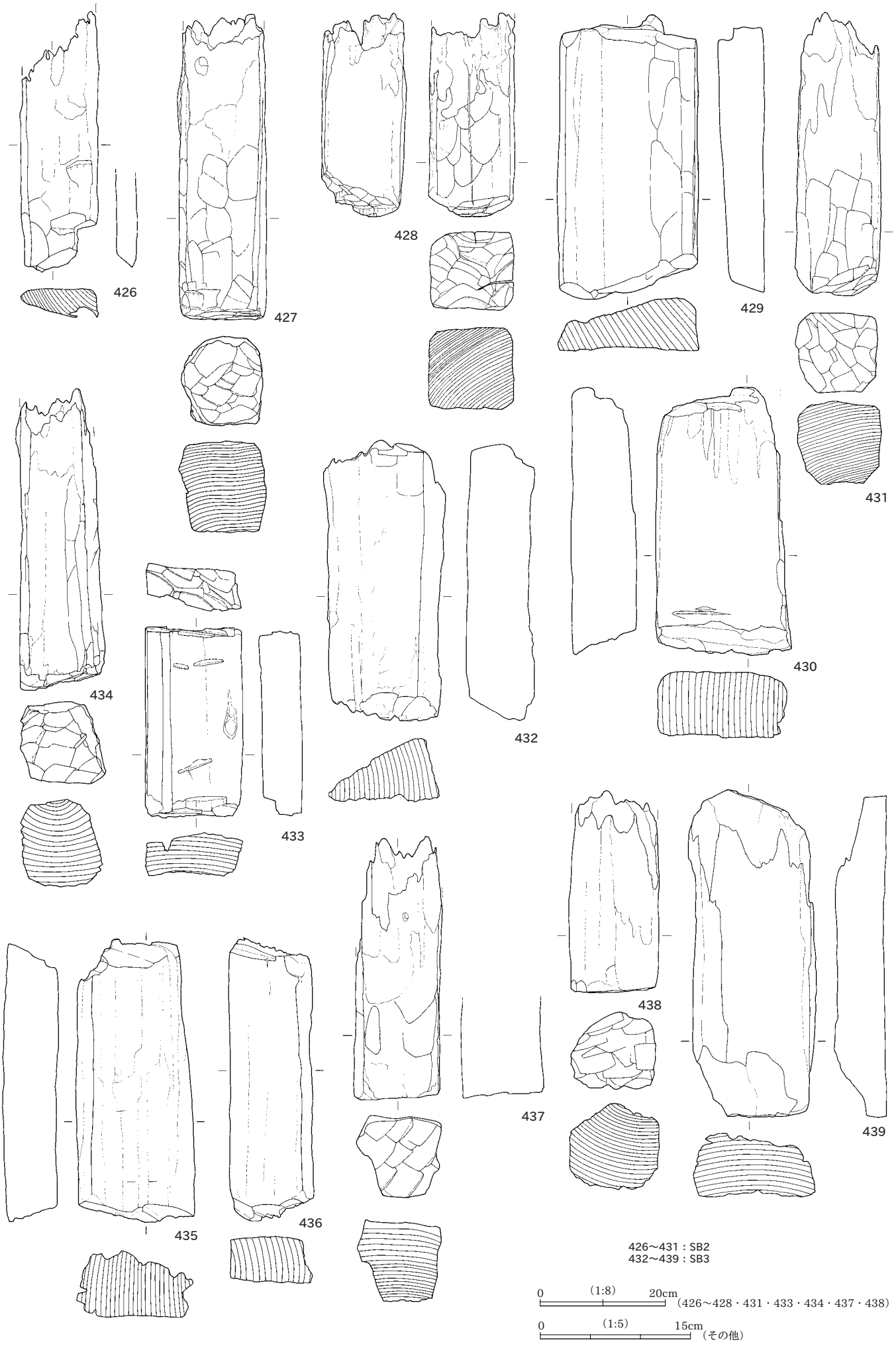

342
343
344
349
350
345
346
348
347
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
375
376
377
378
379
380
ガラス滓
342～350：土製品
351～377：金属製品
378～380：石製品
0
(1:3)
10cm

381
382
391
392
393
383
384
385
386
394
395
396
387
397
398
388
399
389
390
砥跡
381～399 ：石製品（砥石）
0
(1:3)
10cm


400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
砥跡
400～411：石製品
0
(1:3)
10cm



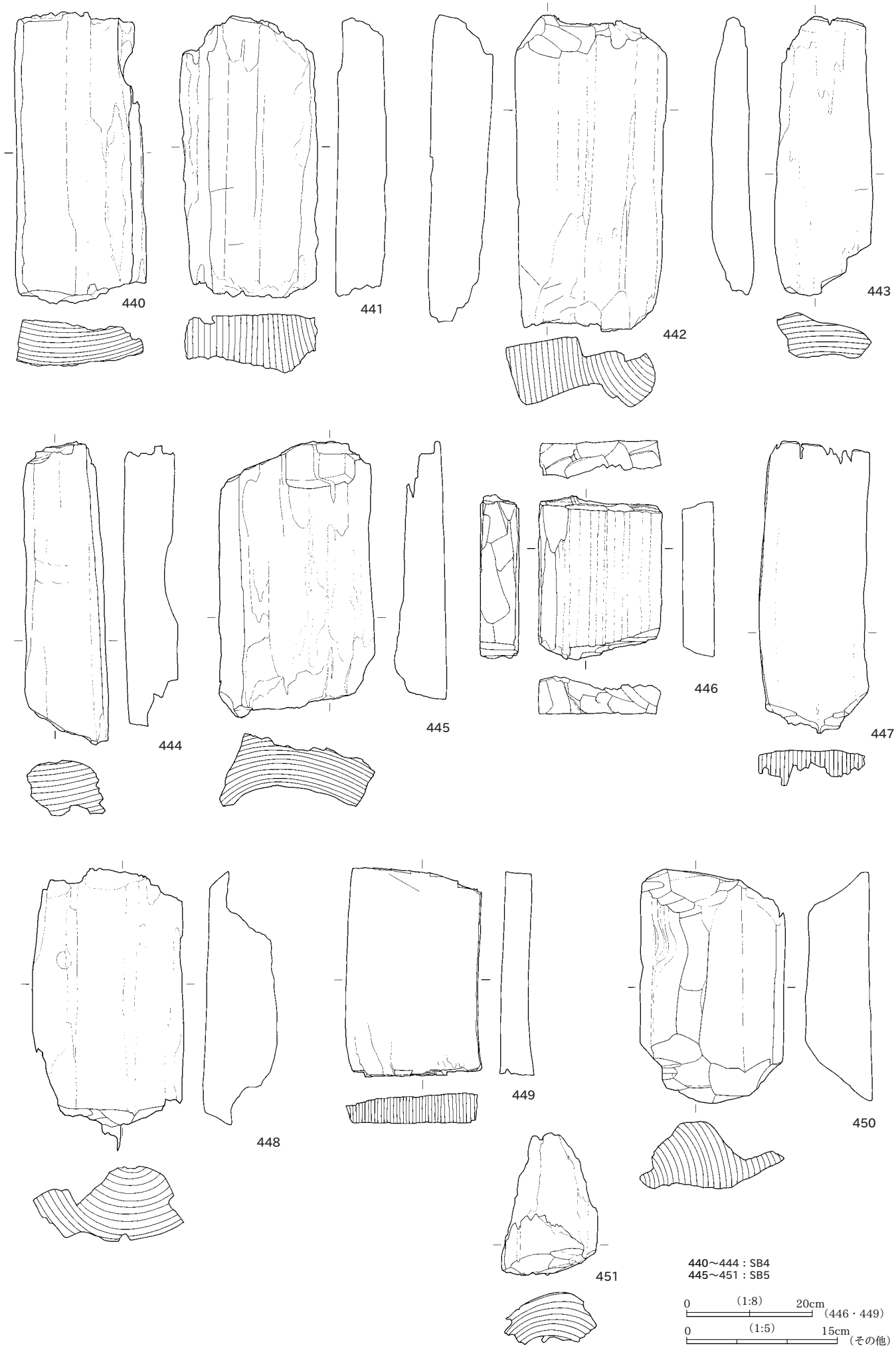
412〜423：SB1
424・425：SB2

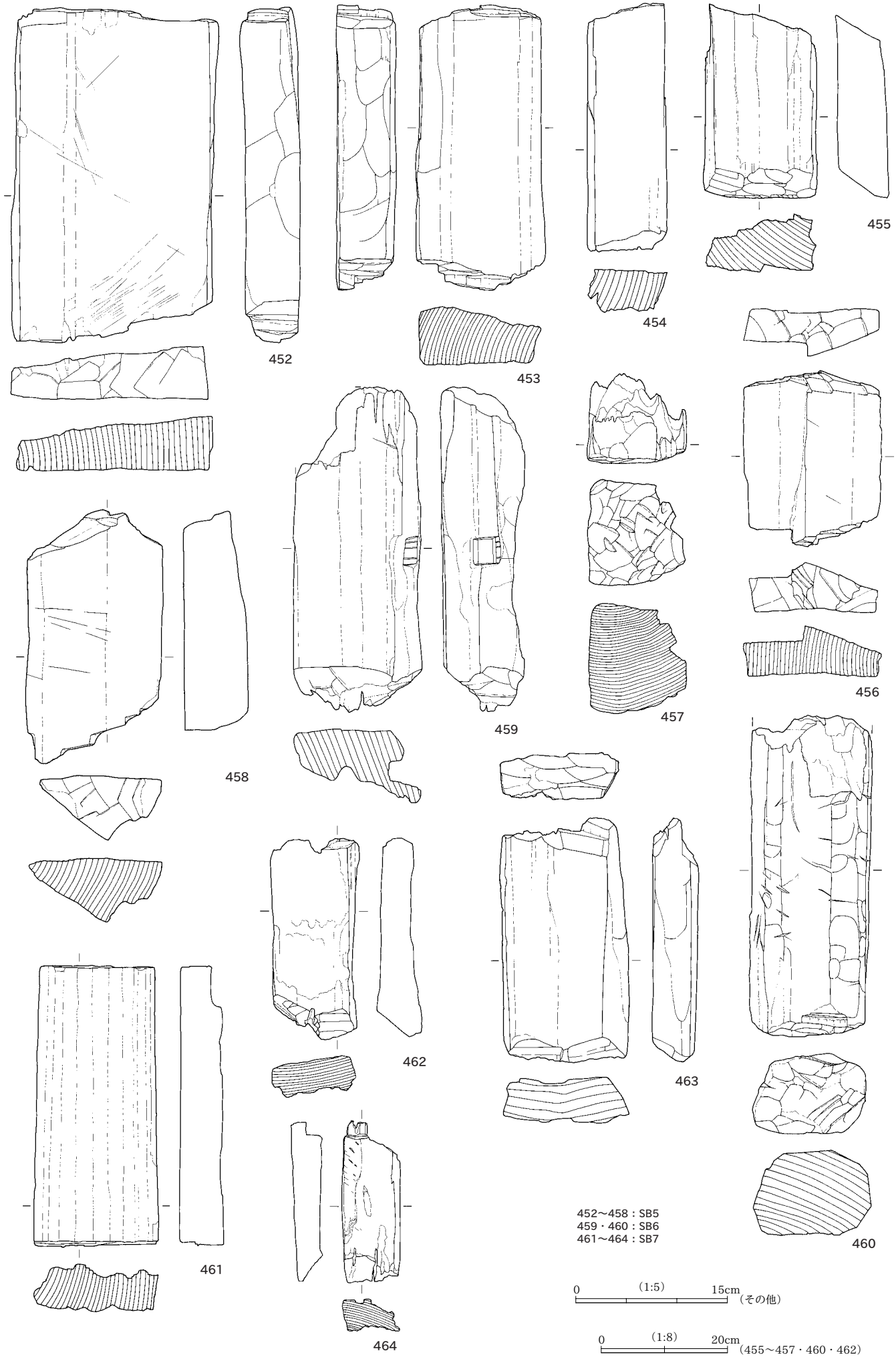


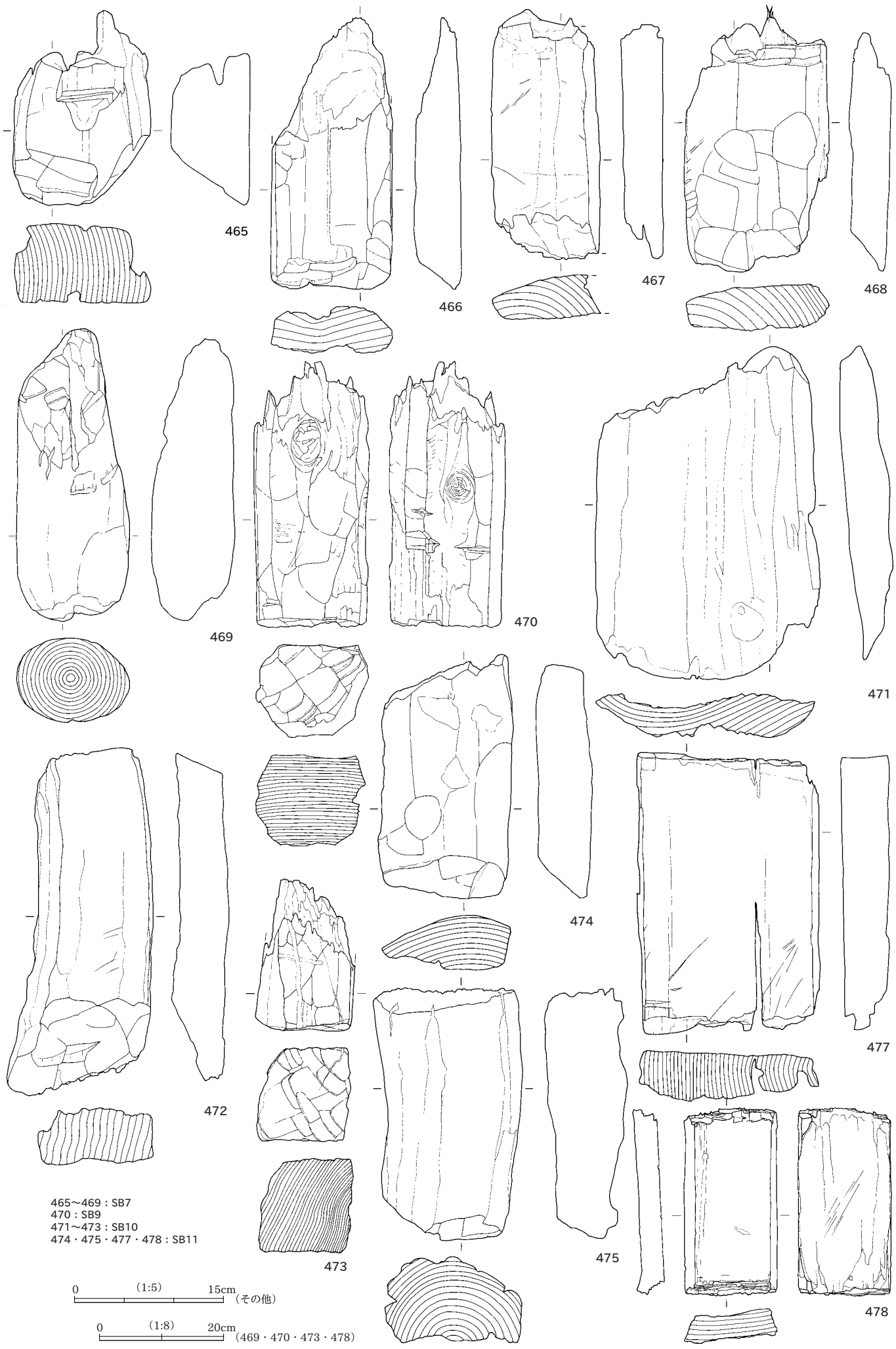
426～431：SB2
432～439：SB3

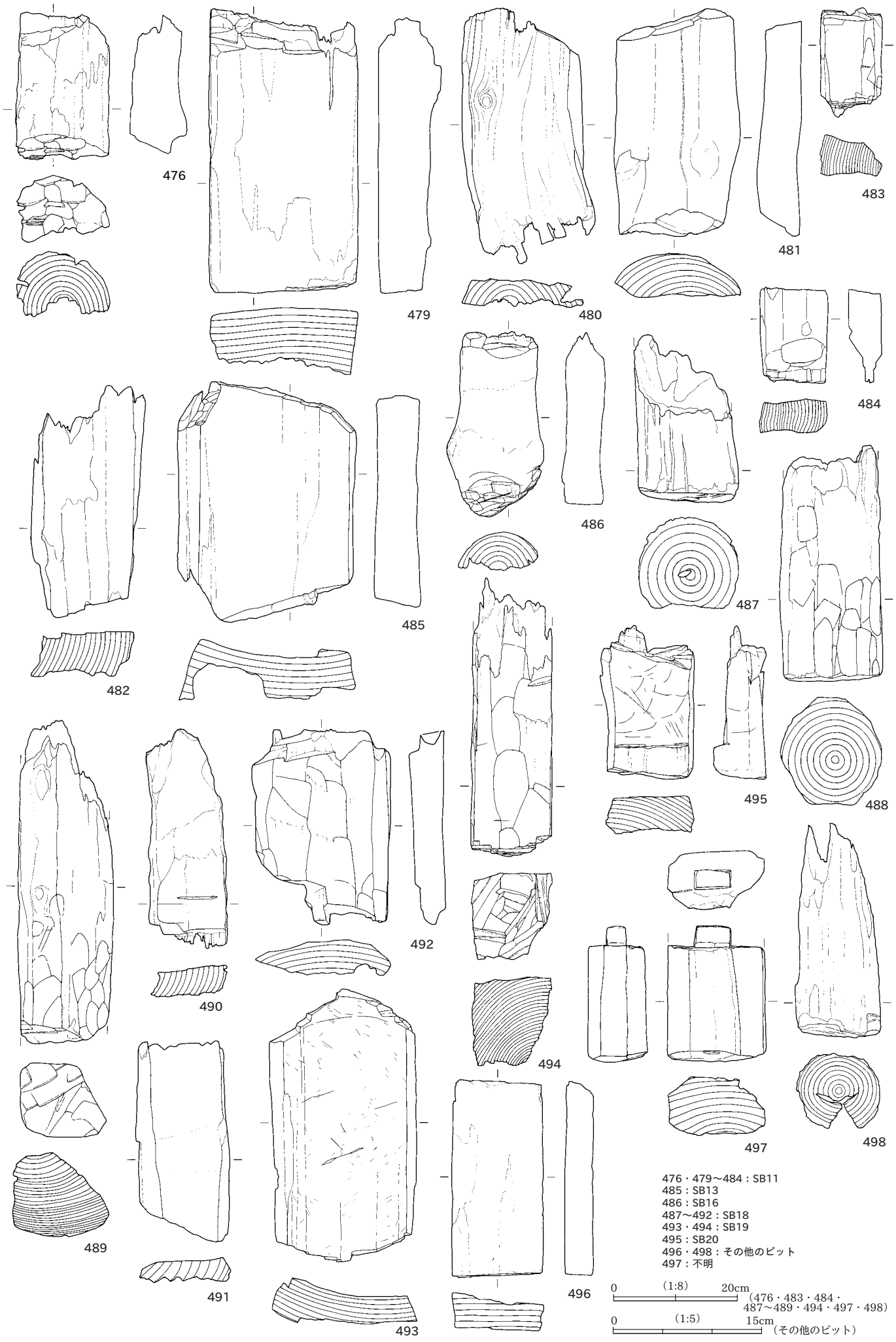
0 (1:8) 20cm (426～428・431・433・434・437・438)

0 (1:5) 15cm (その他)


440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
440～444：SB4
445～451：SB5
0 (1:8) 20cm (446・449)
0 (1:5) 15cm (その他)


452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
452～458：SB5
459・460：SB6
461～464：SB7
0 (1:5) 15cm (その他)
0 (1:8) 20cm (455～457・460・462)

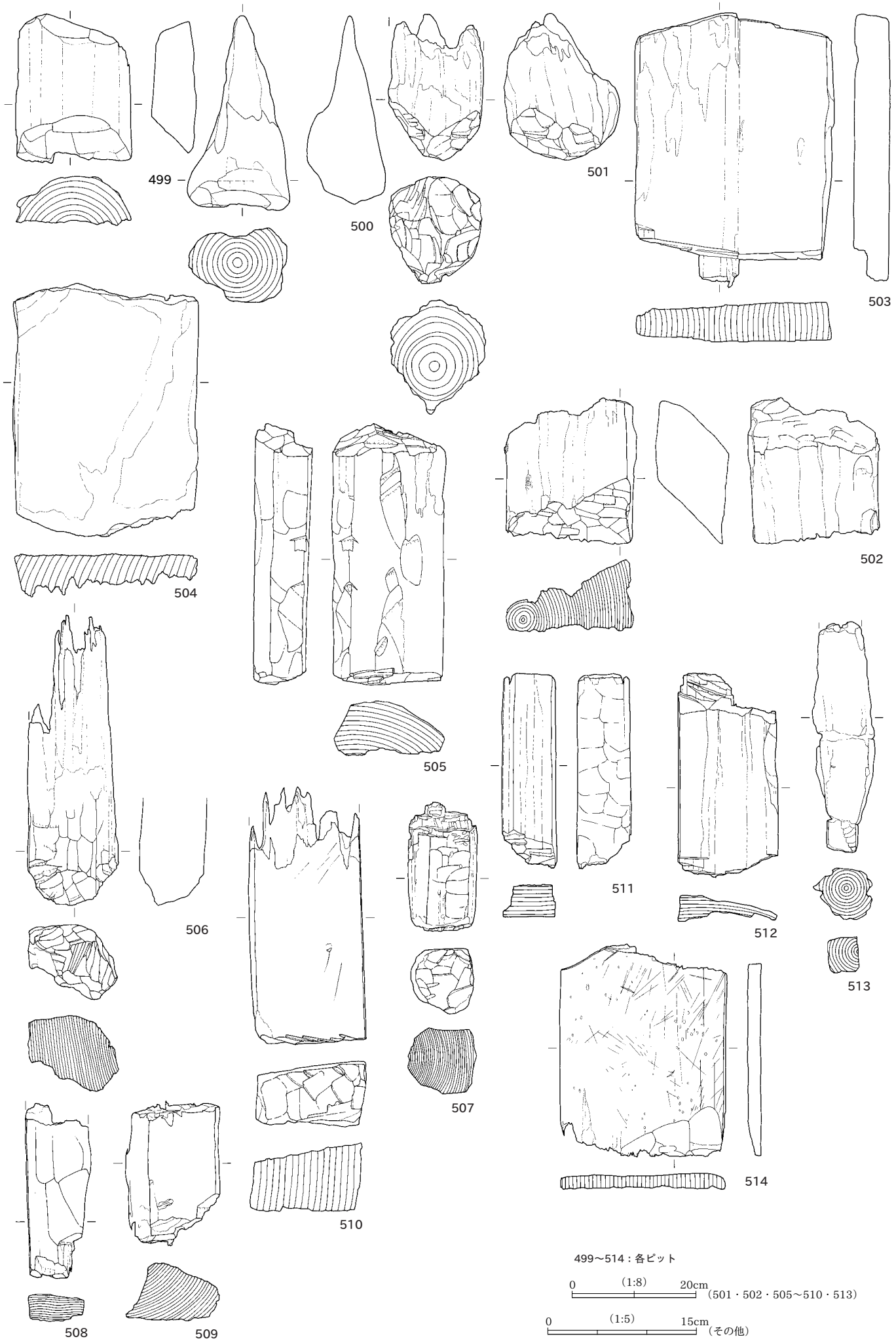

465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
477
478
465～469 : SB7
470 : SB9
471～473 : SB10
474・475・477・478 : SB11
0 (1:5) 15cm (その他)
0 (1:8) 20cm (469・470・473・478)



476・479～484：SB11
485：SB13
486：SB16
487～492：SB18
493・494：SB19
495：SB20
496・498：その他のピット
497：不明

0 (1:8) 20cm （476・483・484・487～489・494・497・498）

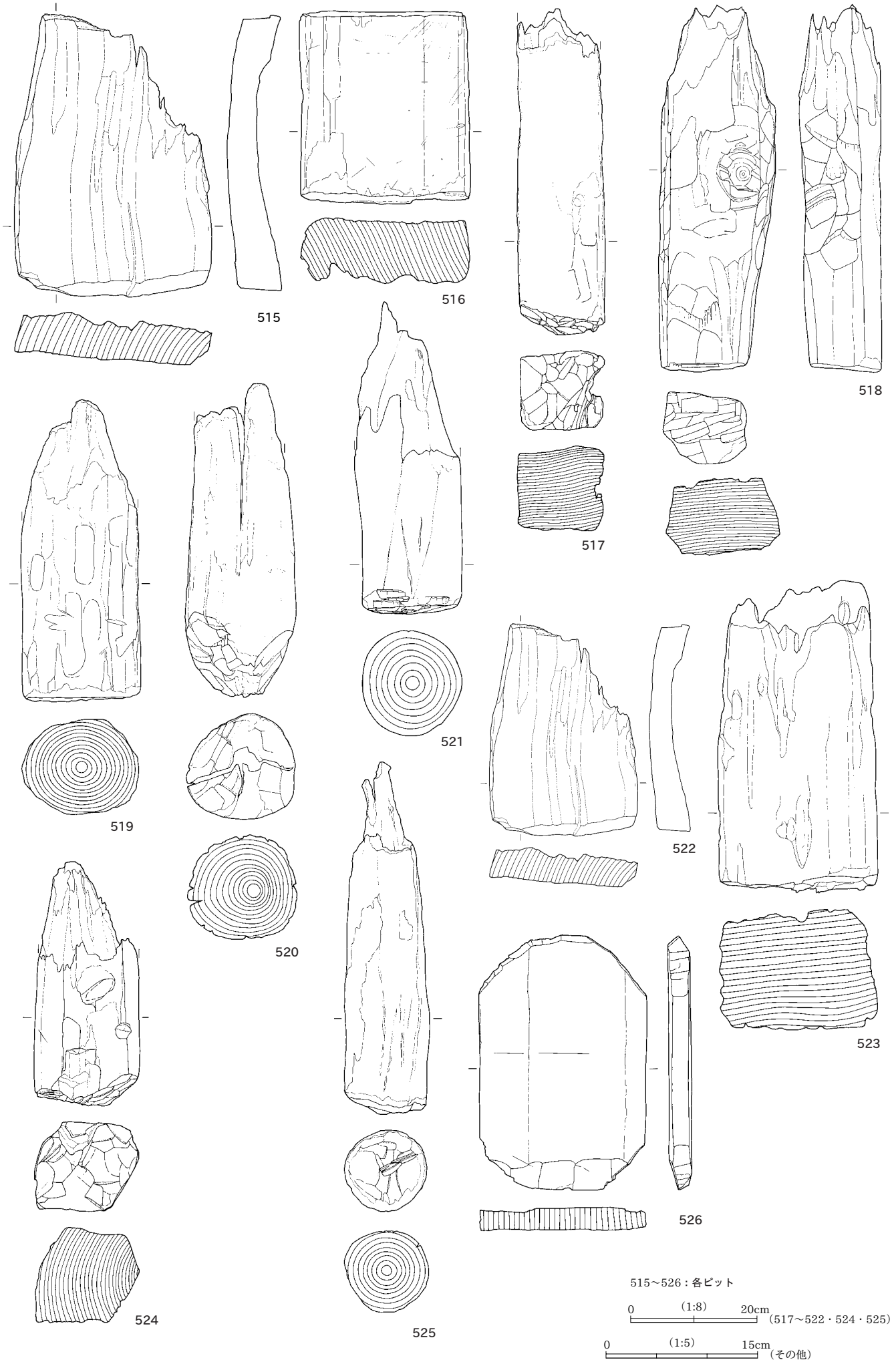
0 (1:5) 15cm （その他のピット）



499～514：各ピット

0　(1:8)　20cm　（501・502・505～510・513）

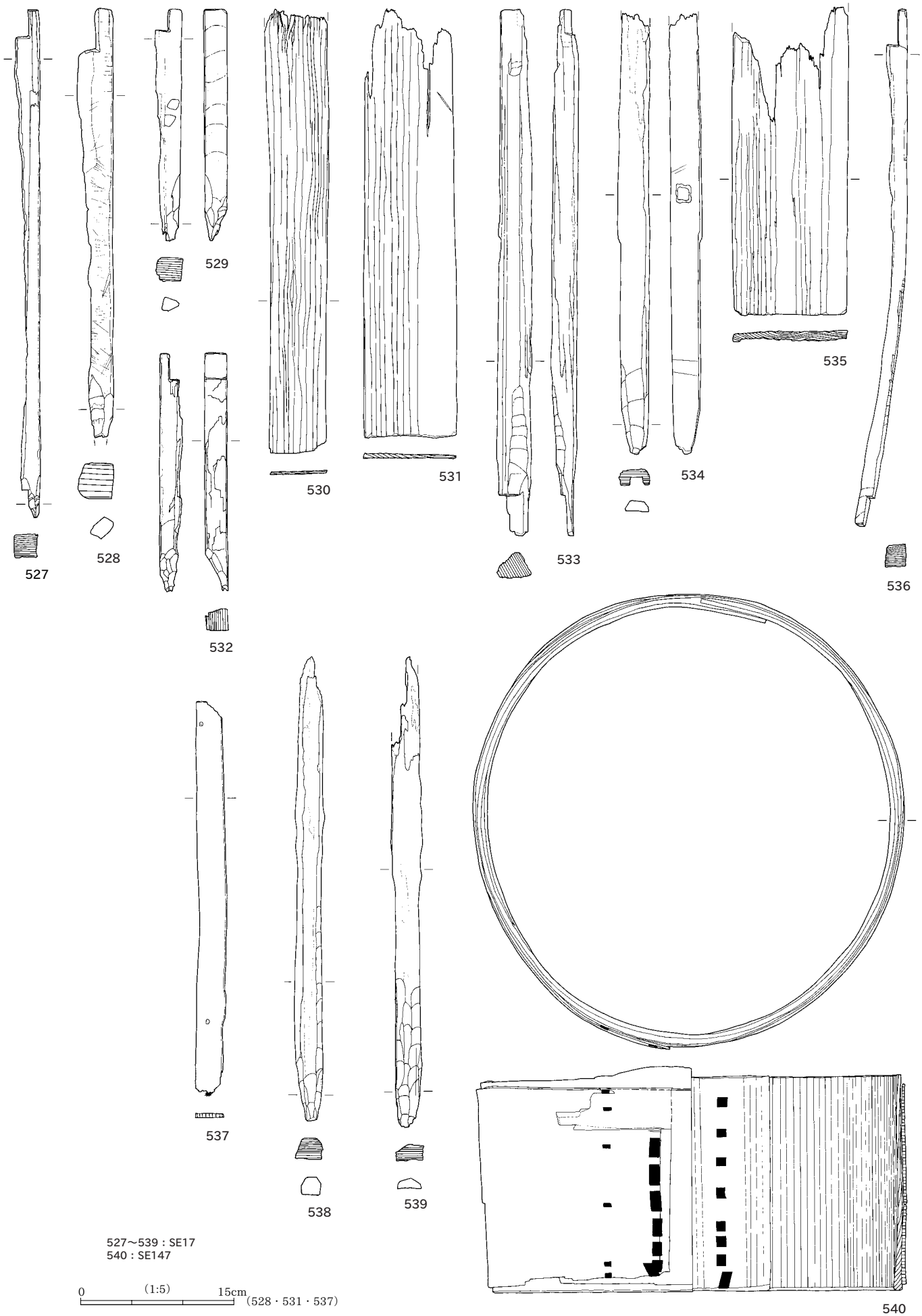
0　(1:5)　15cm　（その他）



515～526：各ピット

0 (1:8) 20cm（517～522・524・525）

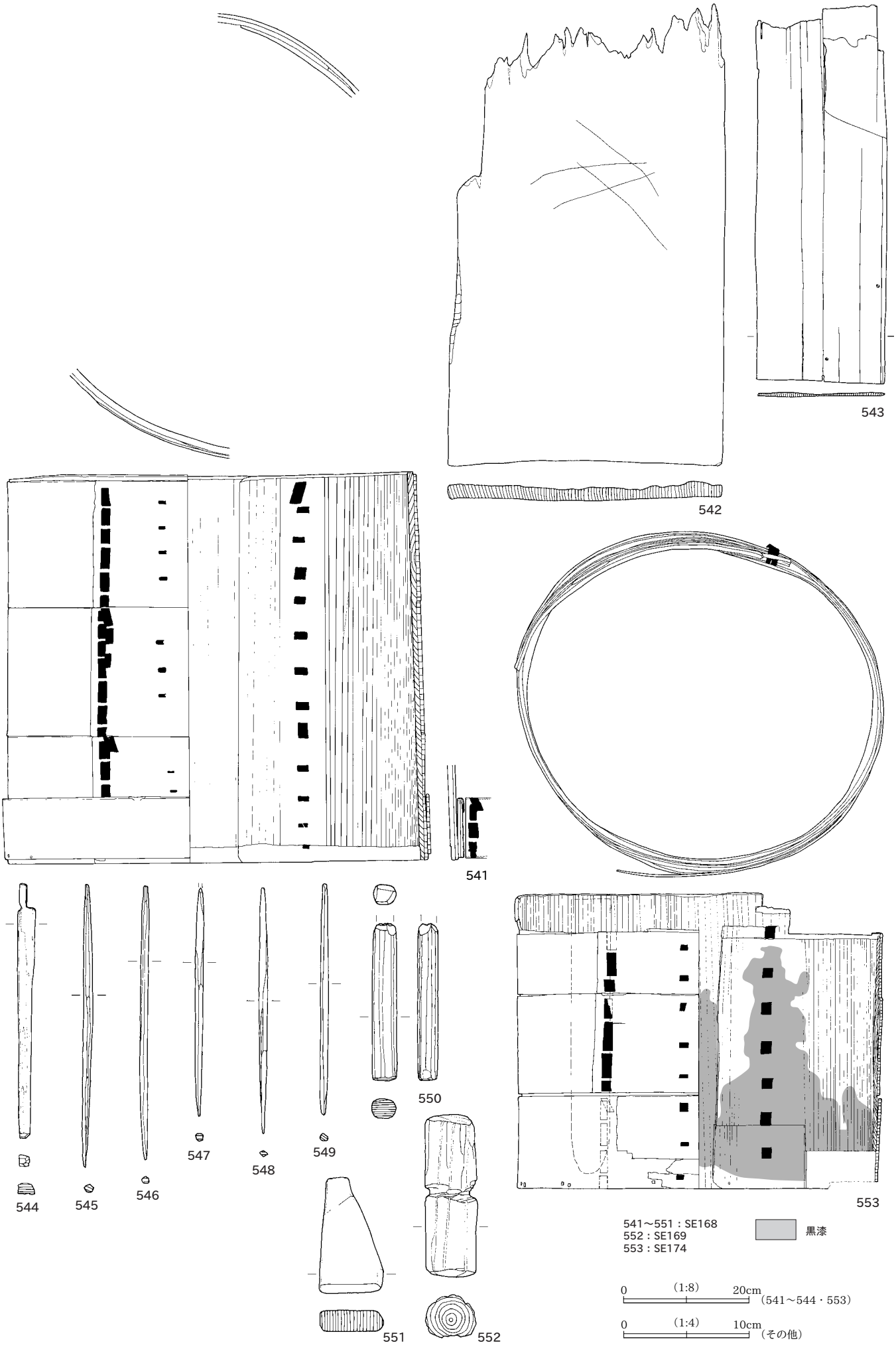
0 (1:5) 15cm（その他）

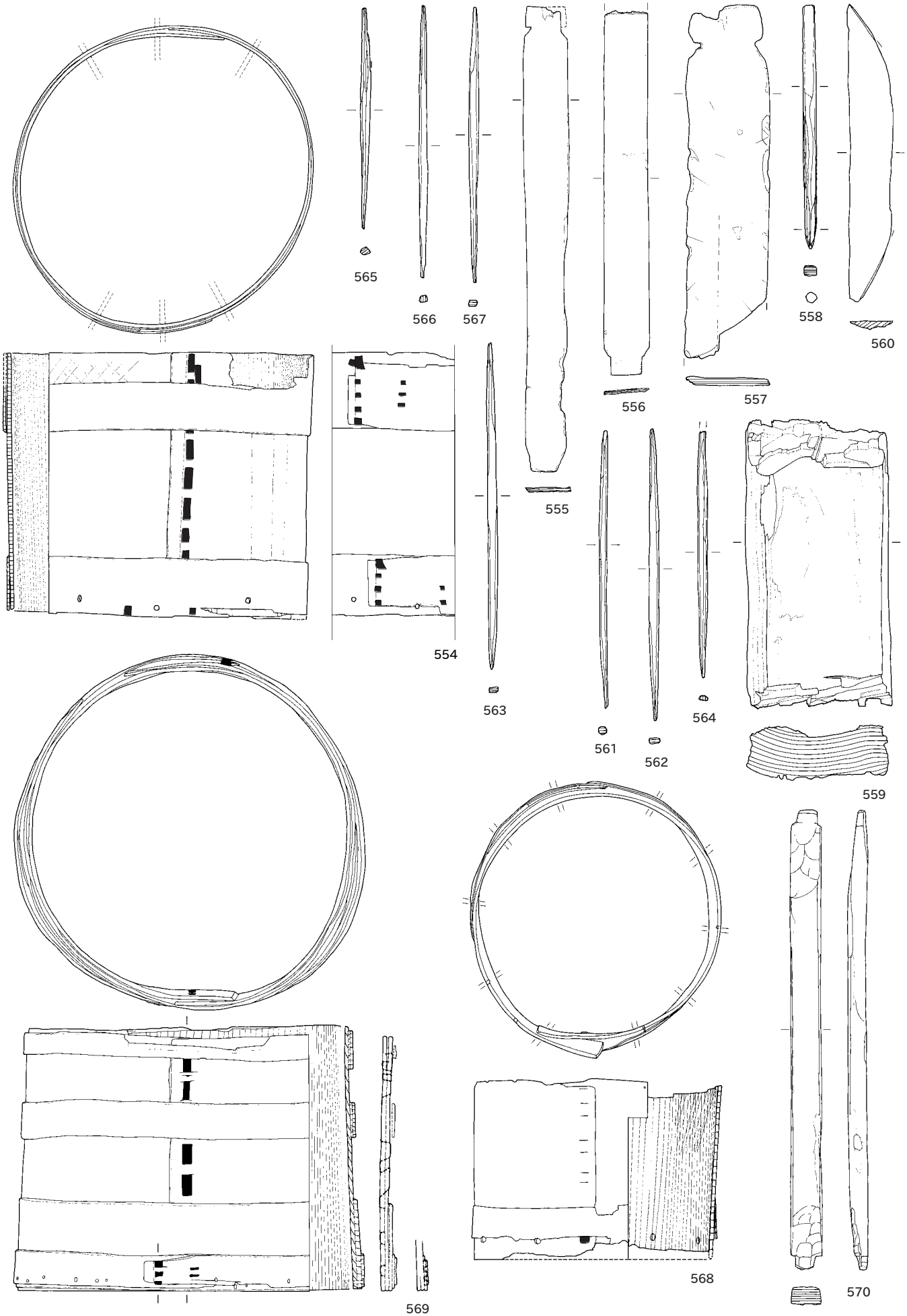


527～539：SE17
540：SE147

0　(1:5)　15cm（528・531・537）

0　(1:8)　20cm（その他）


543
542
541
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
541～551：SE168
552：SE169
553：SE174
黒漆
0 (1:8) 20cm (541～544・553)
0 (1:4) 10cm (その他)

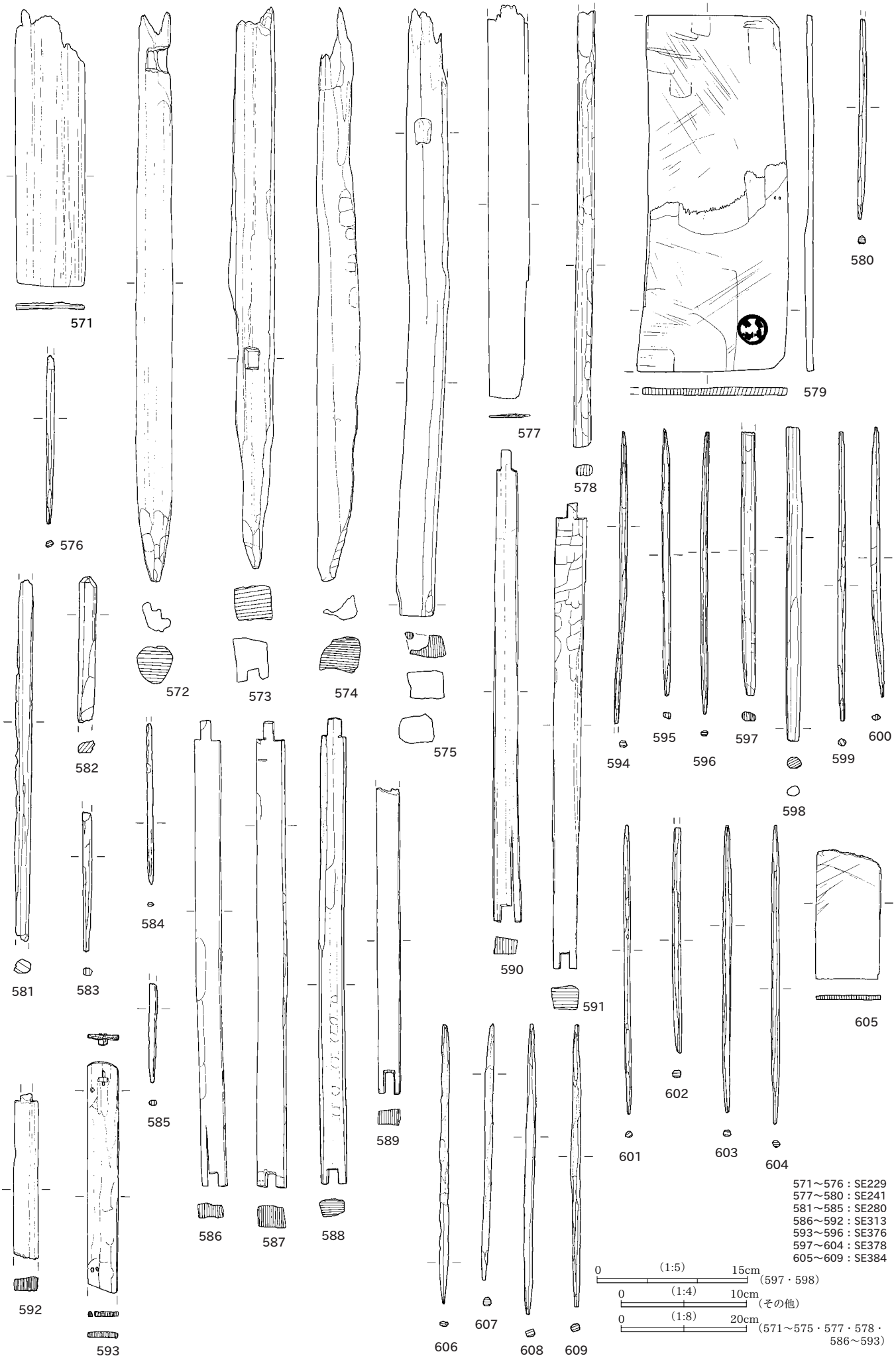


554～567：SE174
568：不明
569：SE227
570：SE229

0 (1:8) 20cm（554～556・558・568～570）

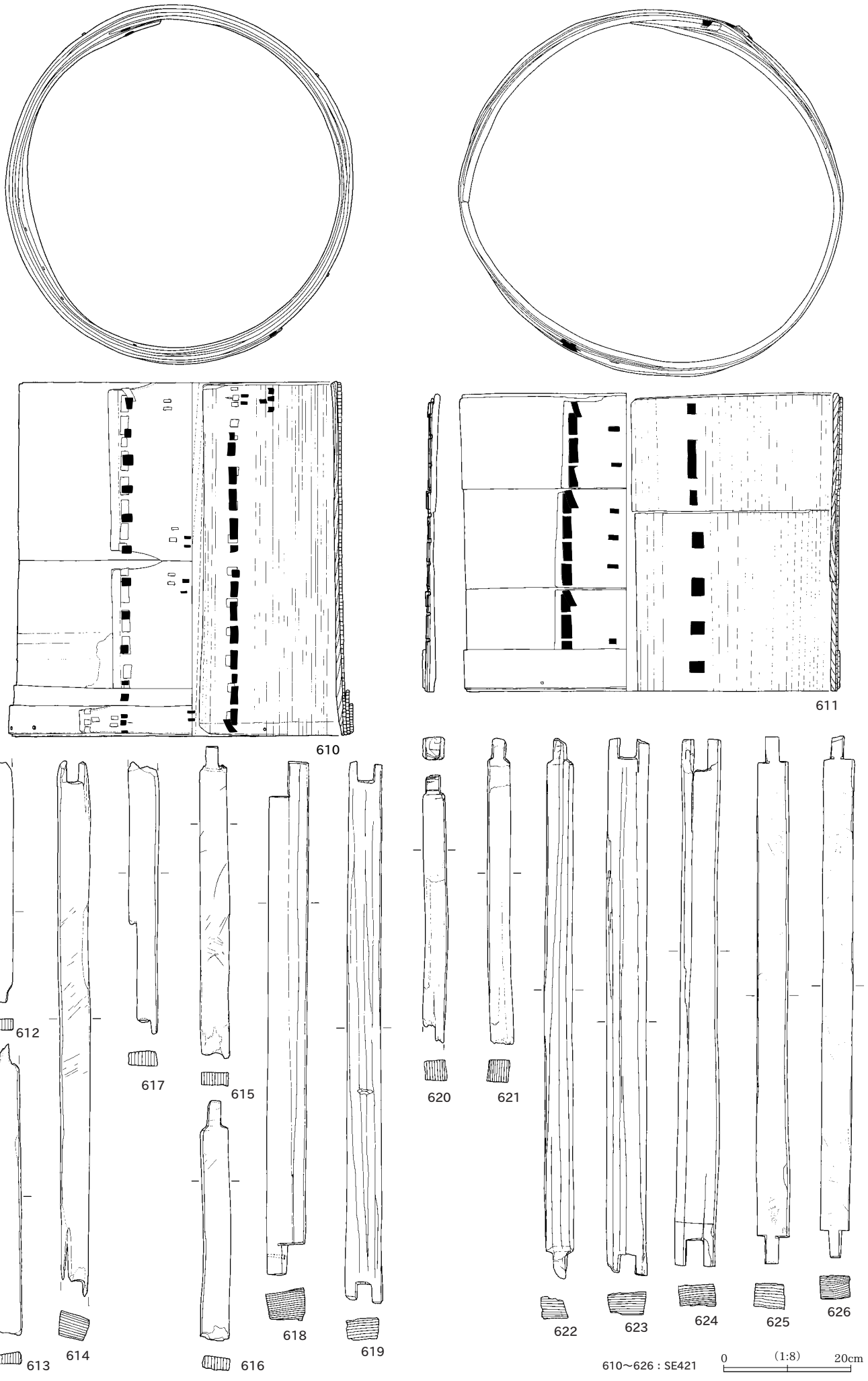
0 (1:5) 15cm（559）

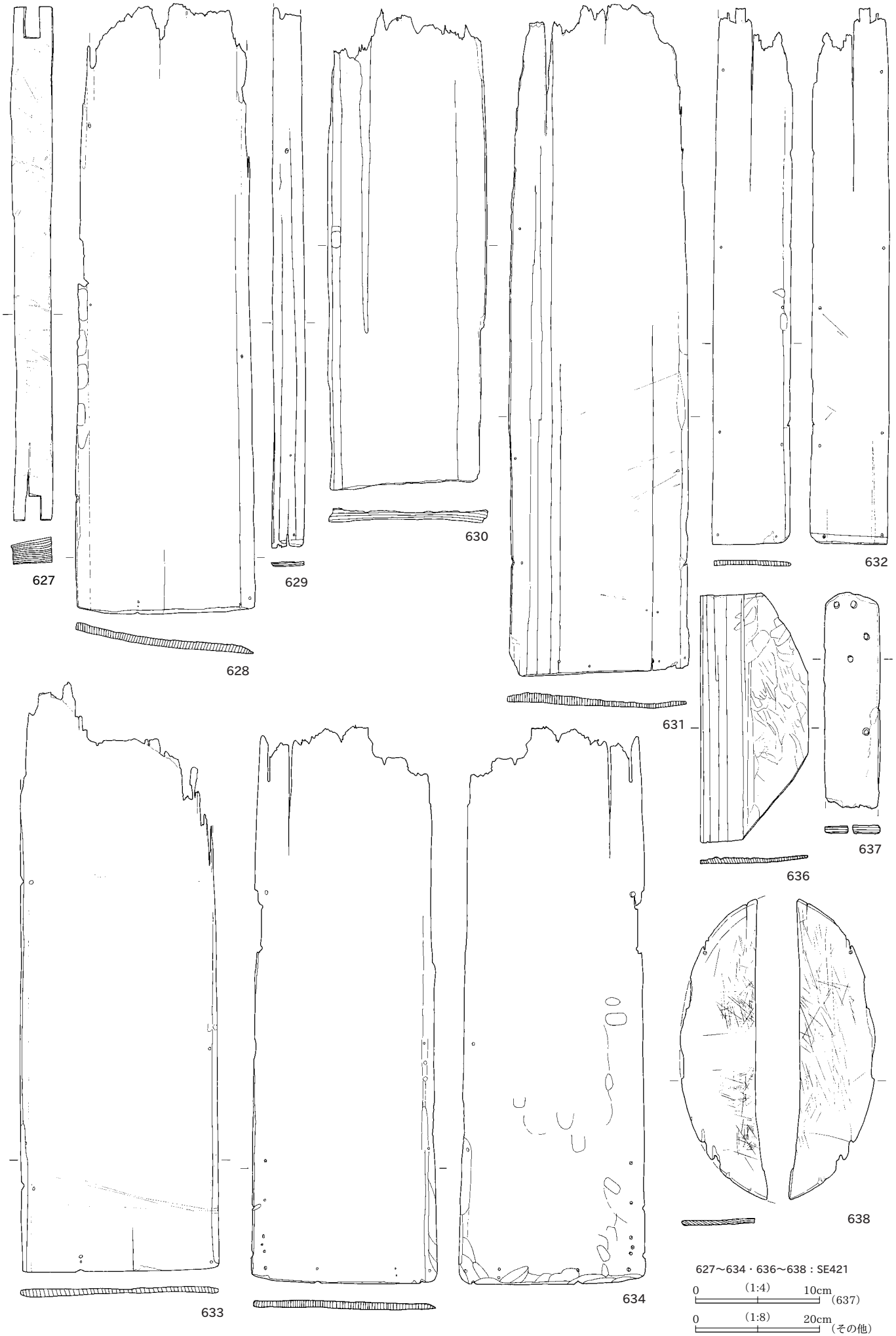
0 (1:4) 10cm（その他）

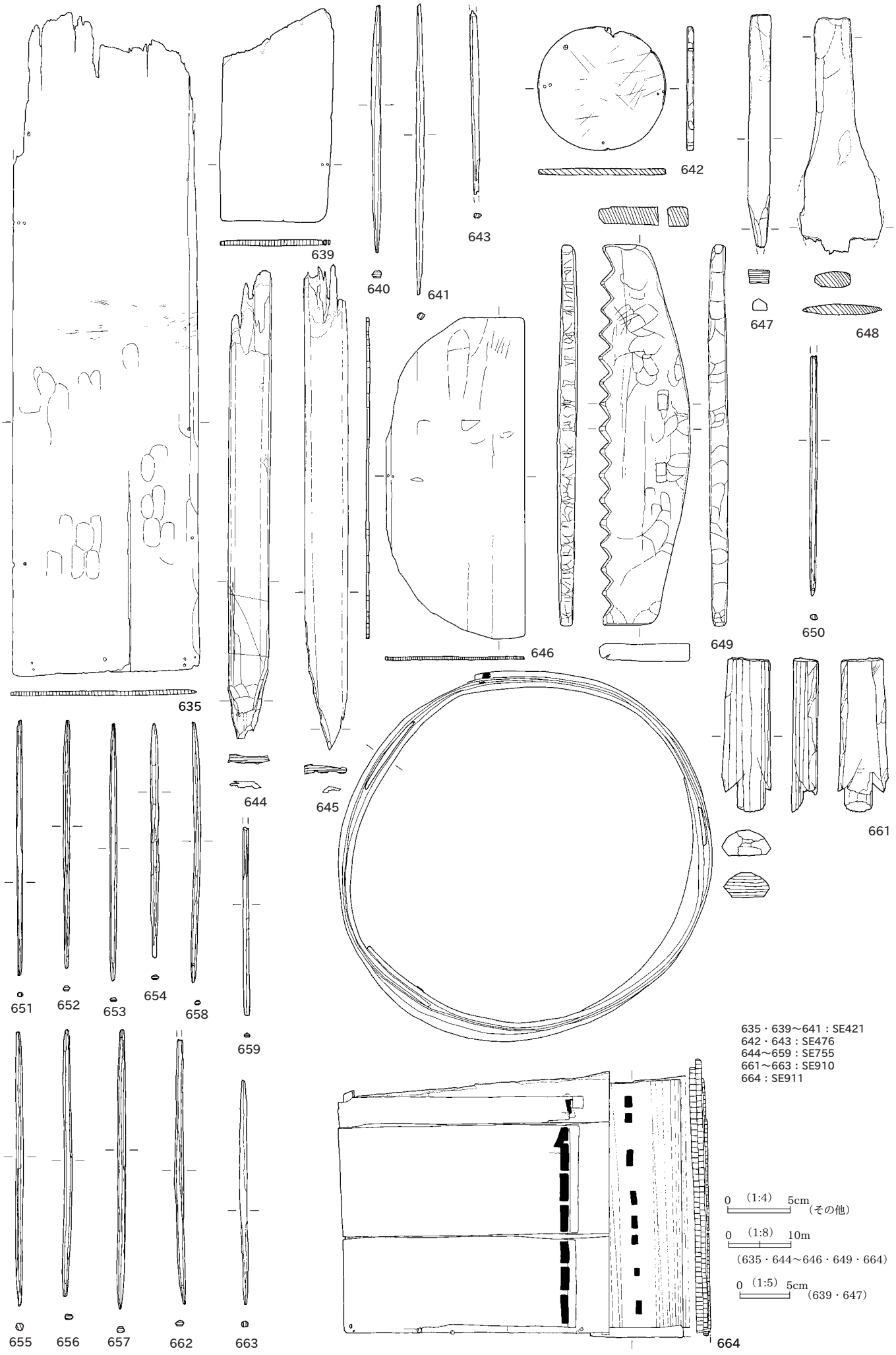


571～576：SE229
577～580：SE241
581～585：SE280
586～592：SE313
593～596：SE376
597～604：SE378
605～609：SE384

0 (1:5) 15cm（597・598）
0 (1:4) 10cm（その他）
0 (1:8) 20cm（571～575・577・578・586～593）

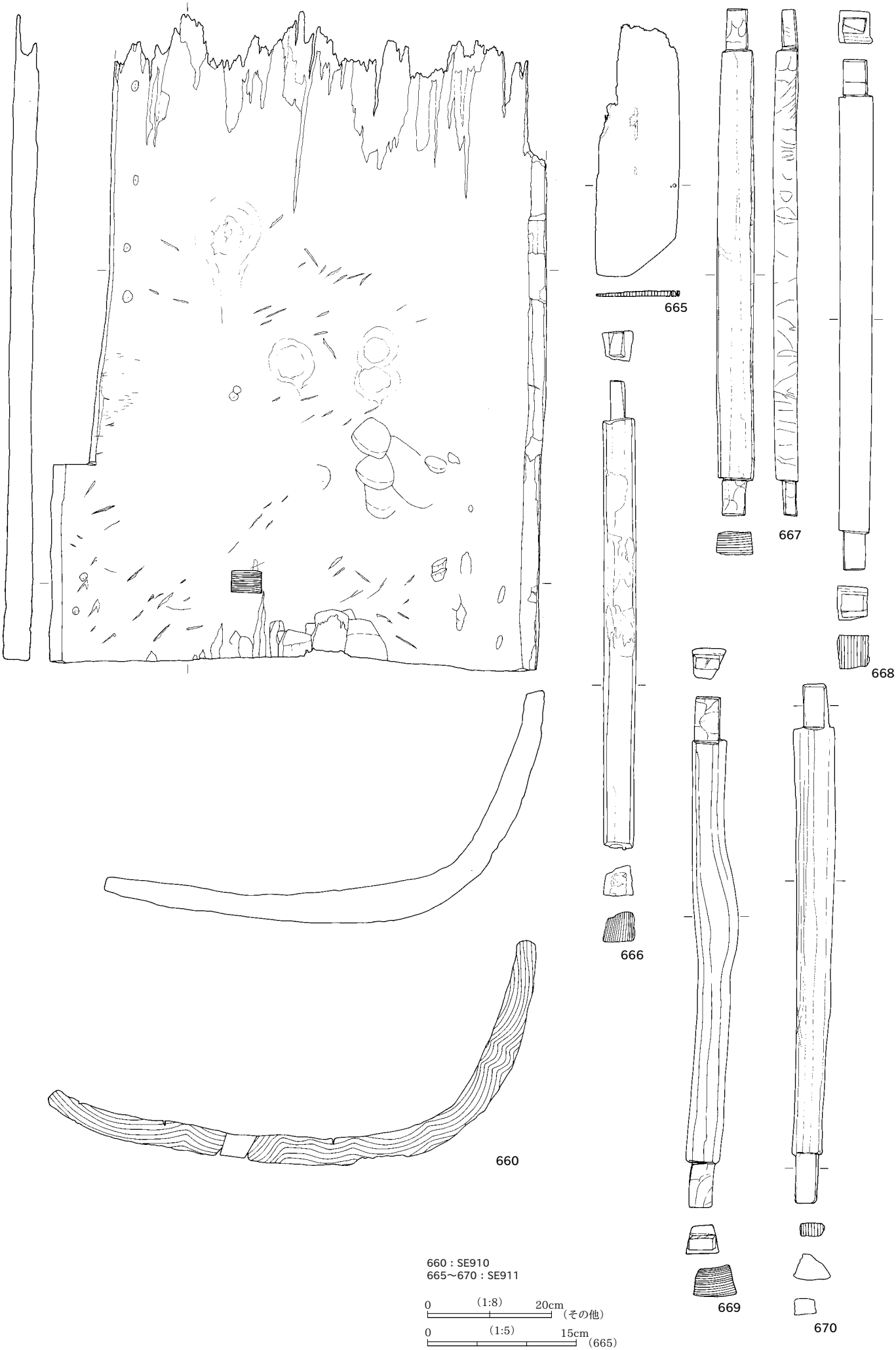

610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
610～626：SE421
0
(1:8)
20cm

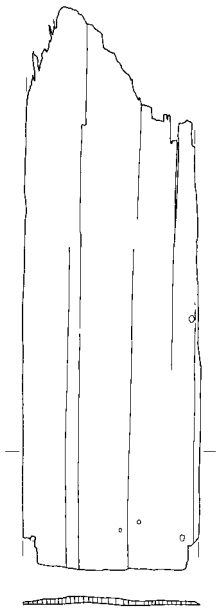

627
628
629
630
631
632
633
634
636
637
638
627～634・636～638：SE421
0 (1:4) 10cm (637)
0 (1:8) 20cm (その他)

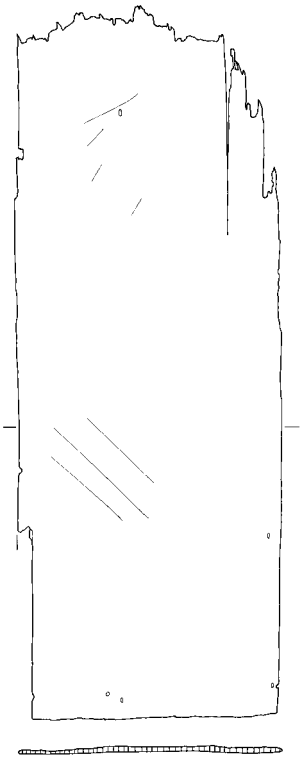


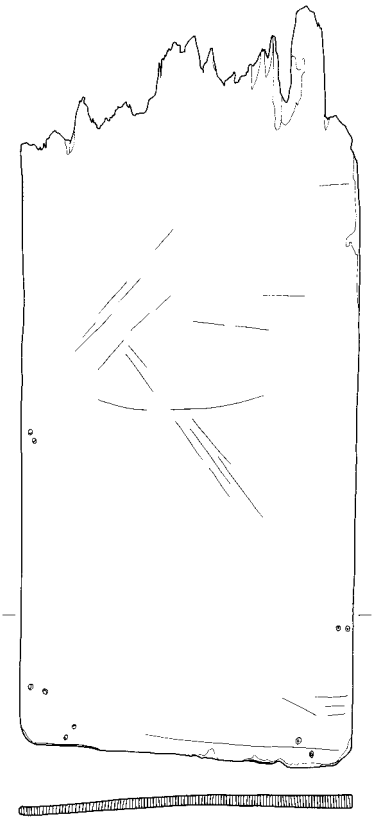
635・639～641：SE421
642・643：SE476
644～659：SE755
661～663：SE910
664：SE911

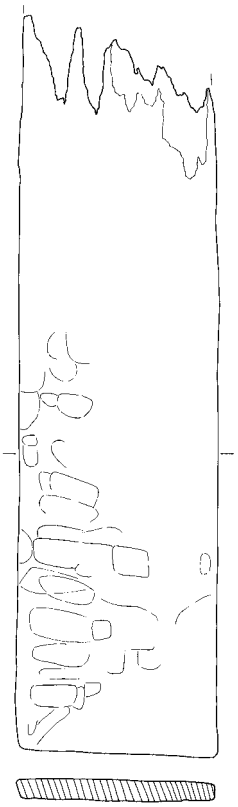
0 (1:4) 5cm (その他)
0 (1:8) 10m (635・644～646・649・664)
0 (1:5) 5cm (639・647)

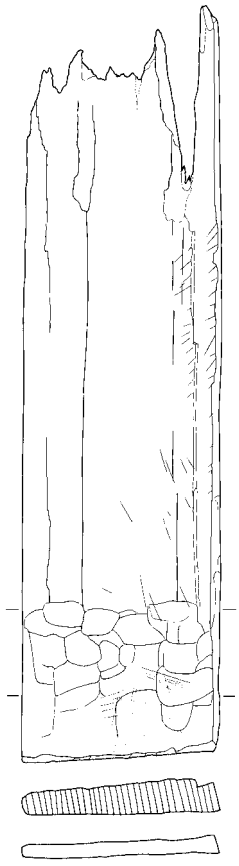

665
667
668
666
660
669
670
660 : SE910
665～670 : SE911
0 (1:8) 20cm (その他)
0 (1:5) 15cm (665)

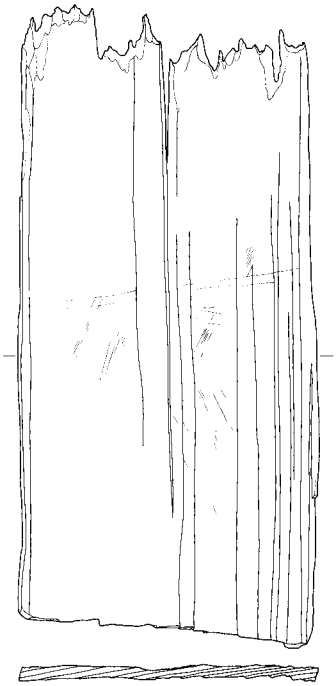

671

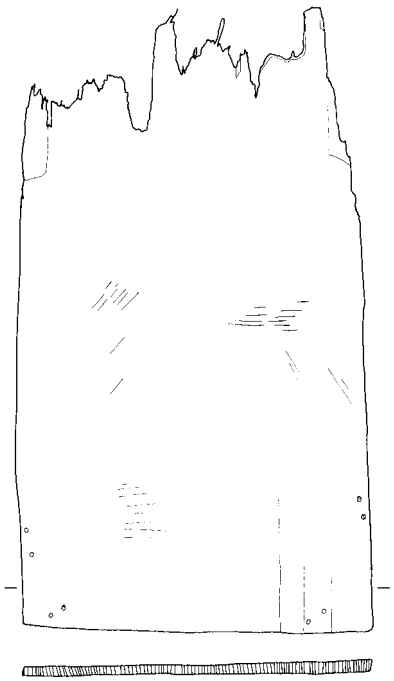

672

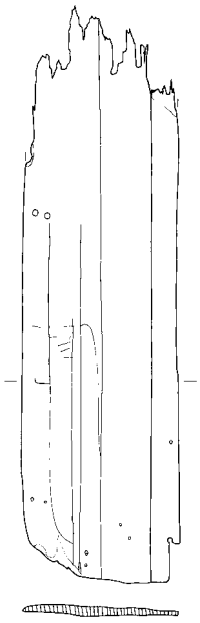

673


674


675

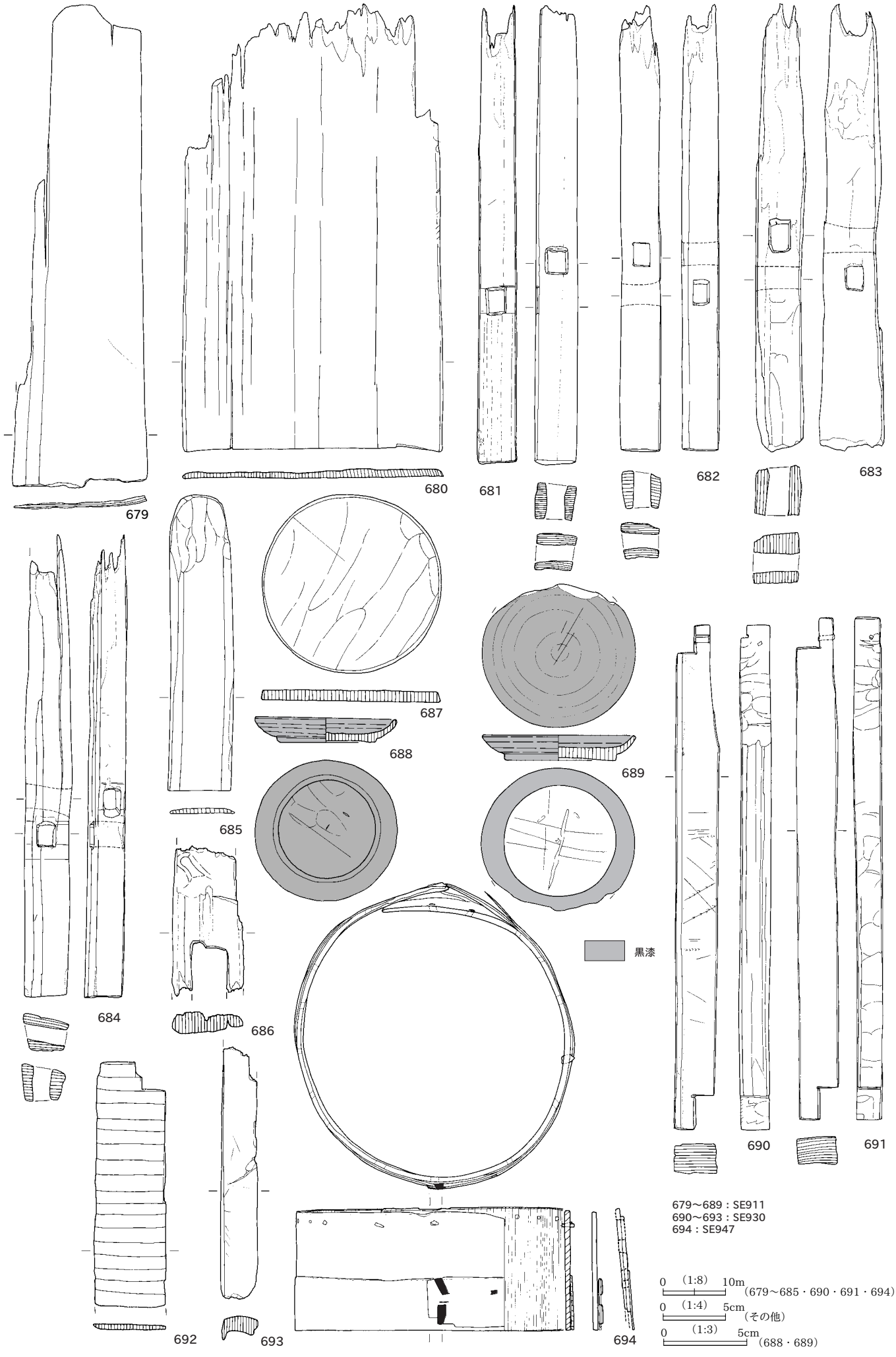

676

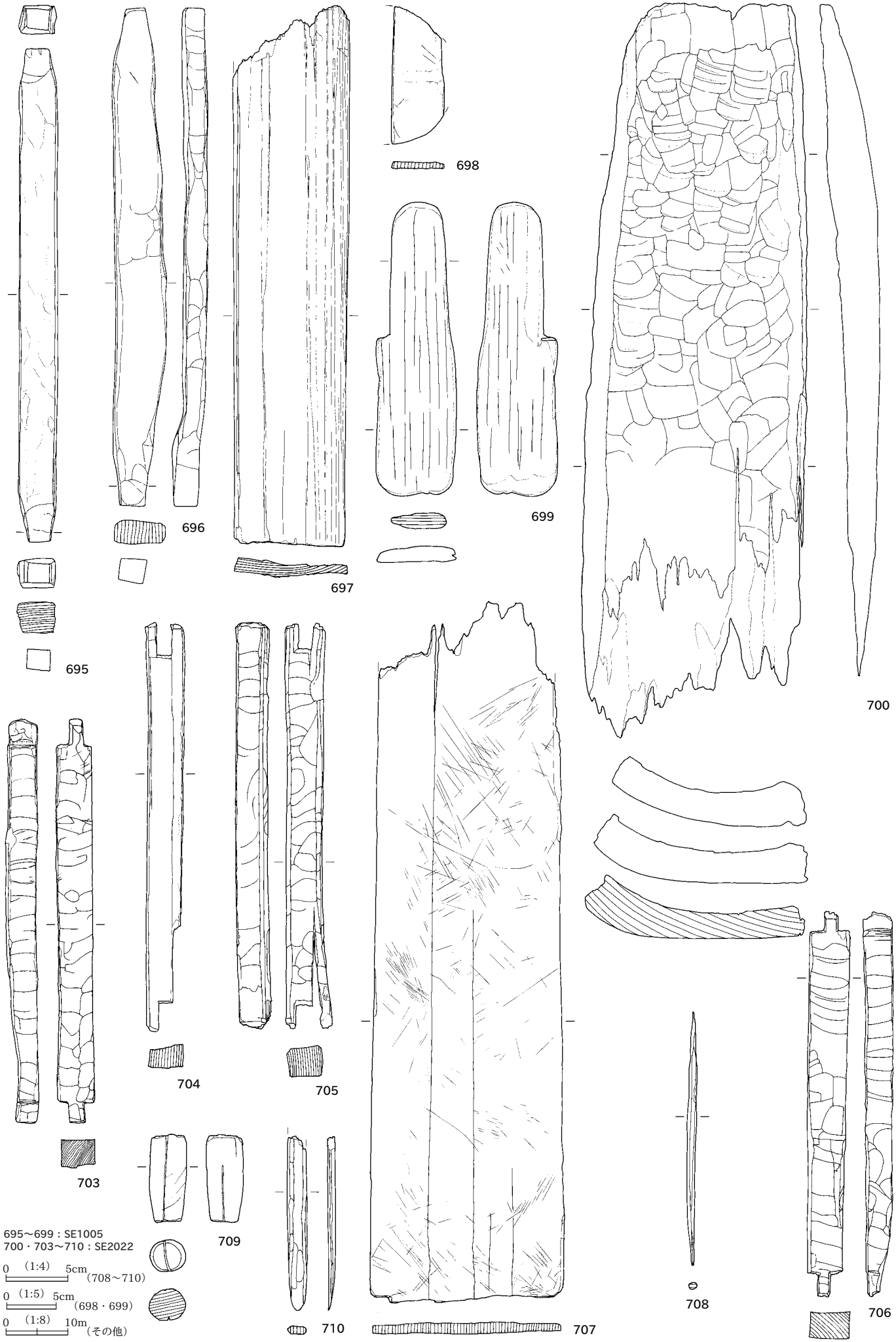

677


678

671～678 : SE911

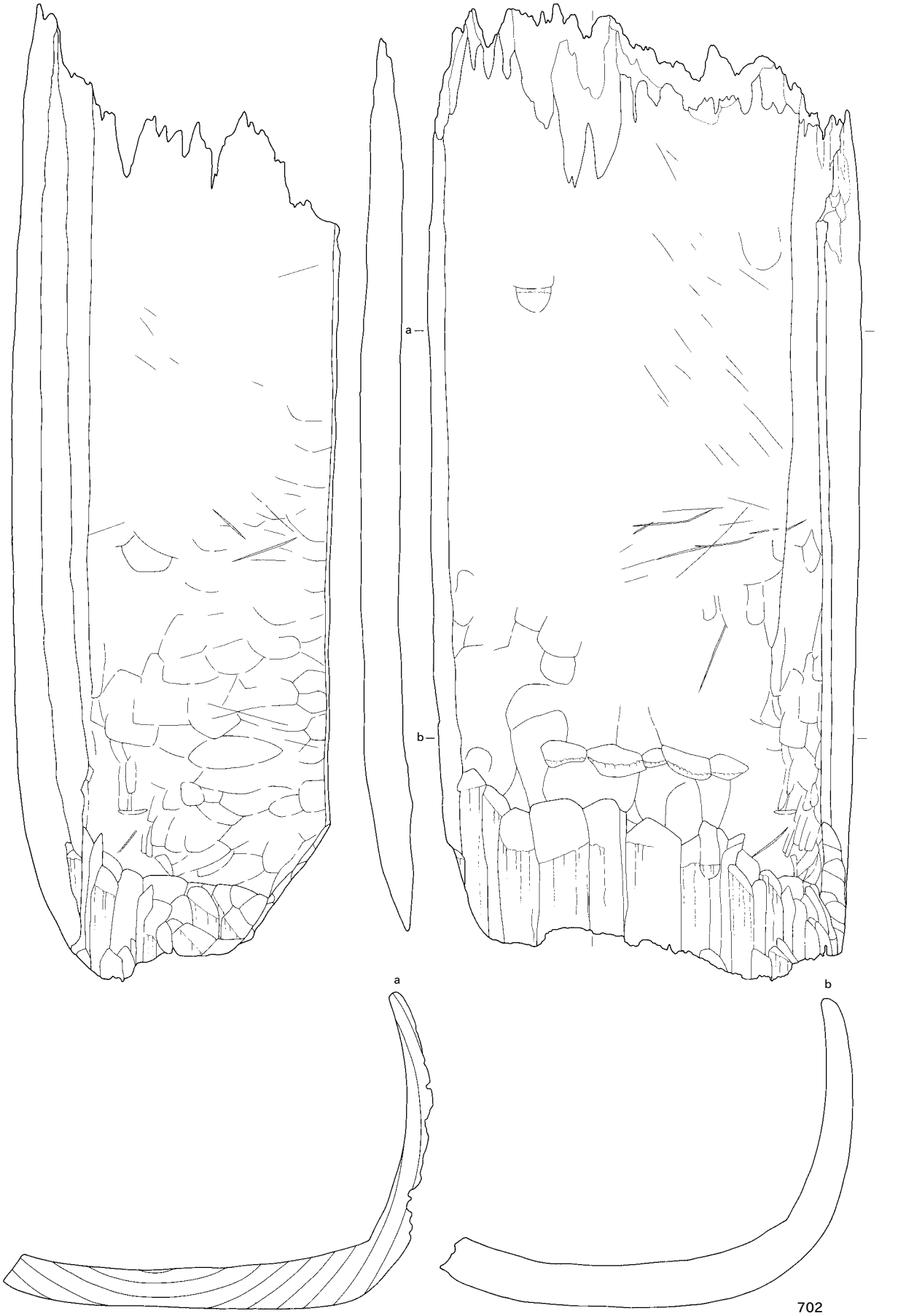
0　(1:8)　20cm

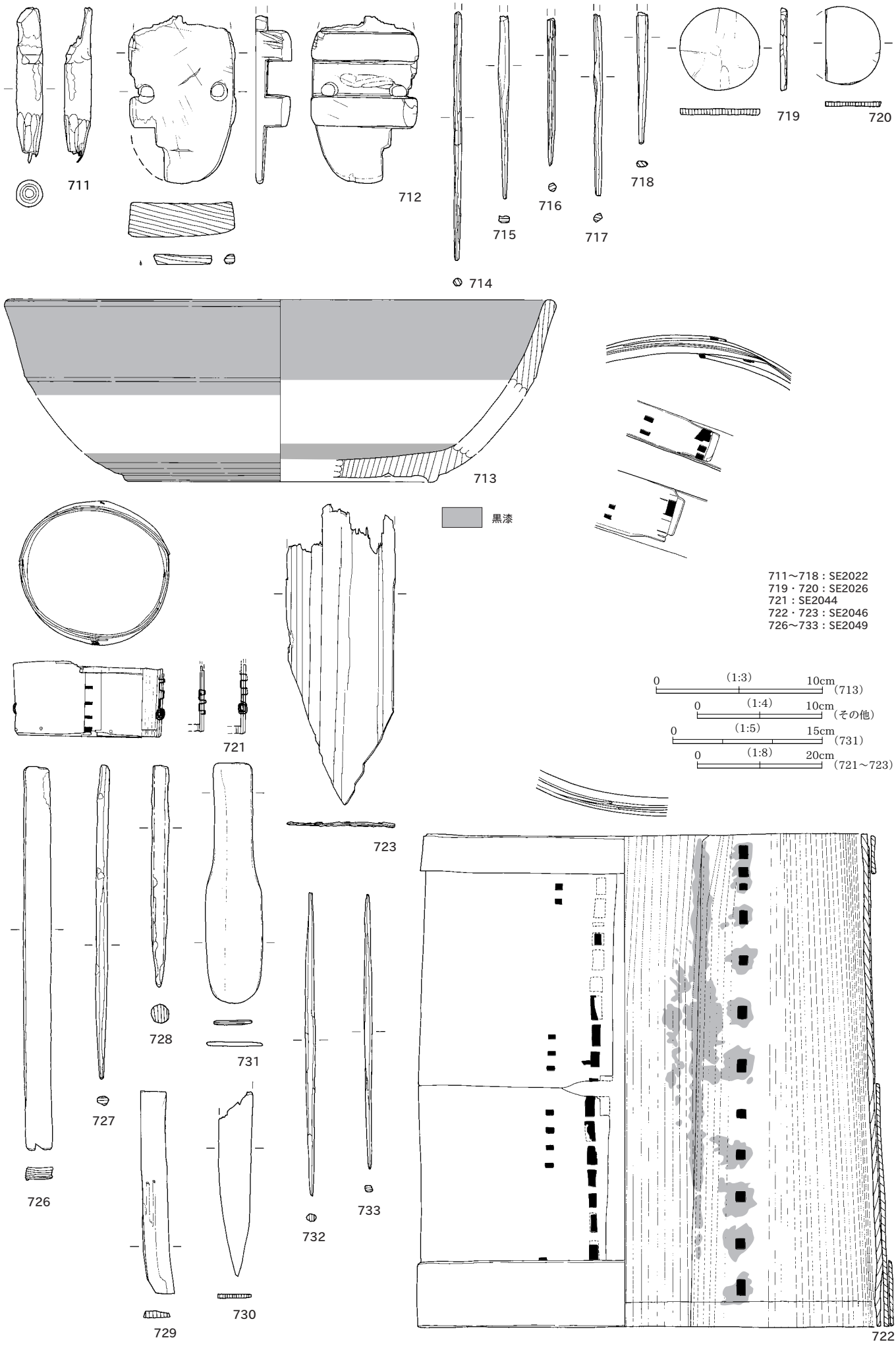

679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
黒漆
679～689：SE911
690～693：SE930
694：SE947
0 (1:8) 10m (679～685・690・691・694)
0 (1:4) 5cm (その他)
0 (1:3) 5cm (688・689)

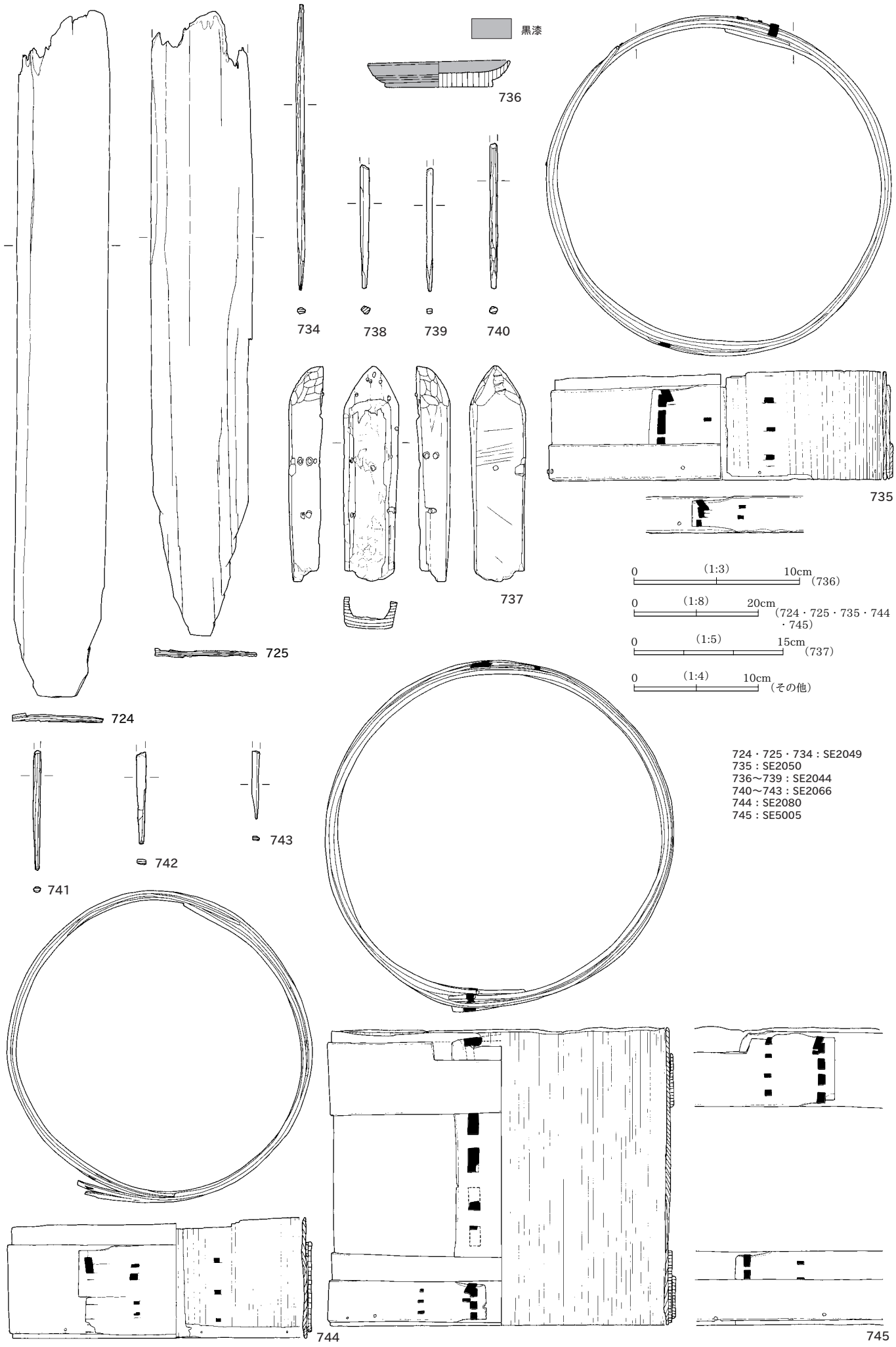

698
699
696
697
695
700
704
705
703
709
710
707
708
706
695～699：SE1005
700・703～710：SE2022
0 (1:4) 5cm (708～710)
0 (1:5) 5cm (698・699)
0 (1:8) 10m (その他)

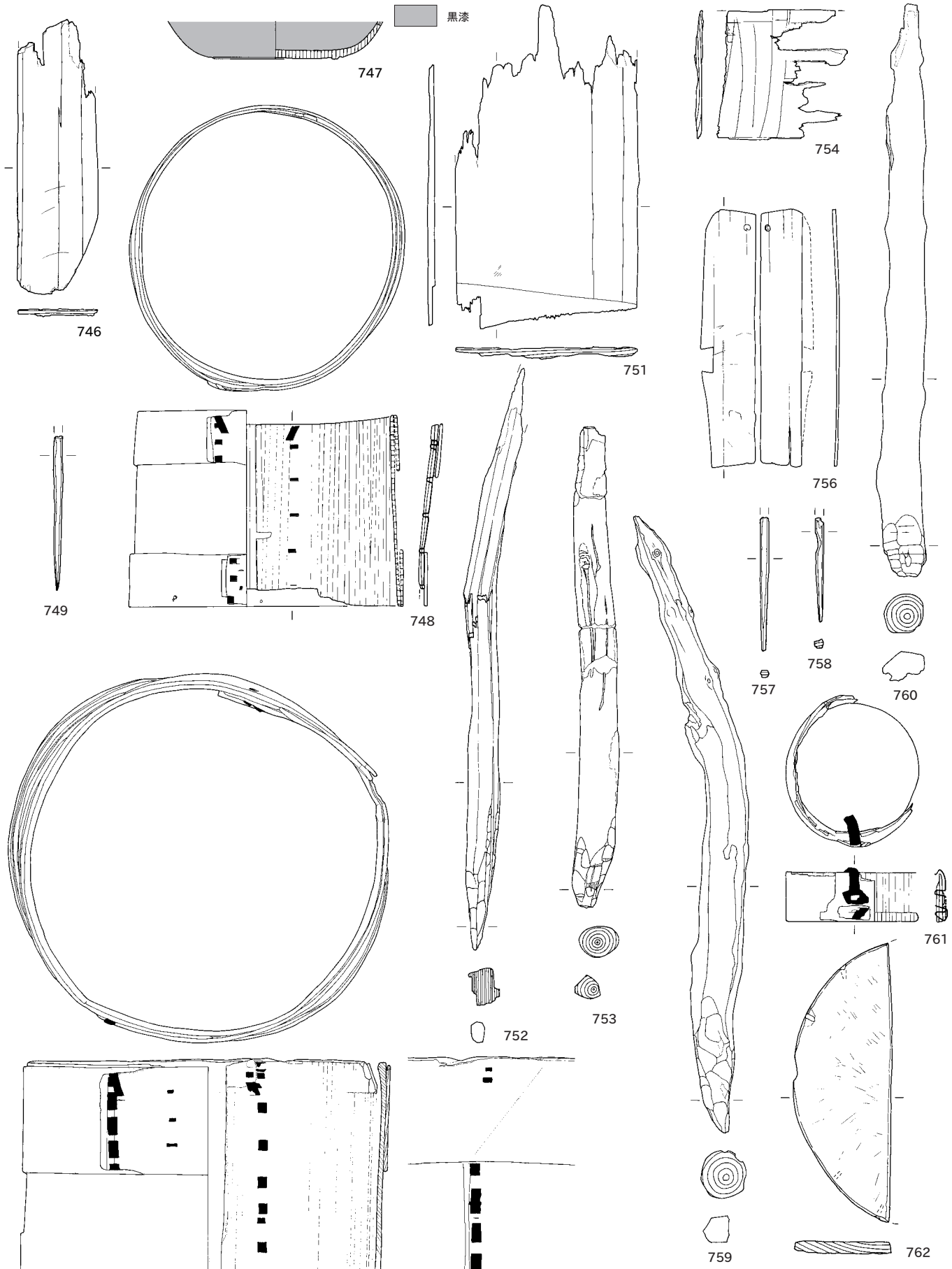
701：SE2022

0 (1:8) 20cm


a
b
a
b
702
702 : SE2022
0
(1:8)
20cm


711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
726
727
728
729
730
731
732
733
黒漆
711～718：SE2022
719・720：SE2026
721：SE2044
722・723：SE2046
726～733：SE2049
0 (1:3) 10cm (713)
0 (1:4) 10cm (その他)
0 (1:5) 15cm (731)
0 (1:8) 20cm (721～723)


黒漆
736
734
738
739
740
737
735
725
724
741
742
743
744
745
0 (1:3) 10cm (736)
0 (1:8) 20cm (724・725・735・744・745)
0 (1:5) 15cm (737)
0 (1:4) 10cm (その他)
724・725・734：SE2049
735：SE2050
736～739：SE2044
740～743：SE2066
744：SE2080
745：SE5005



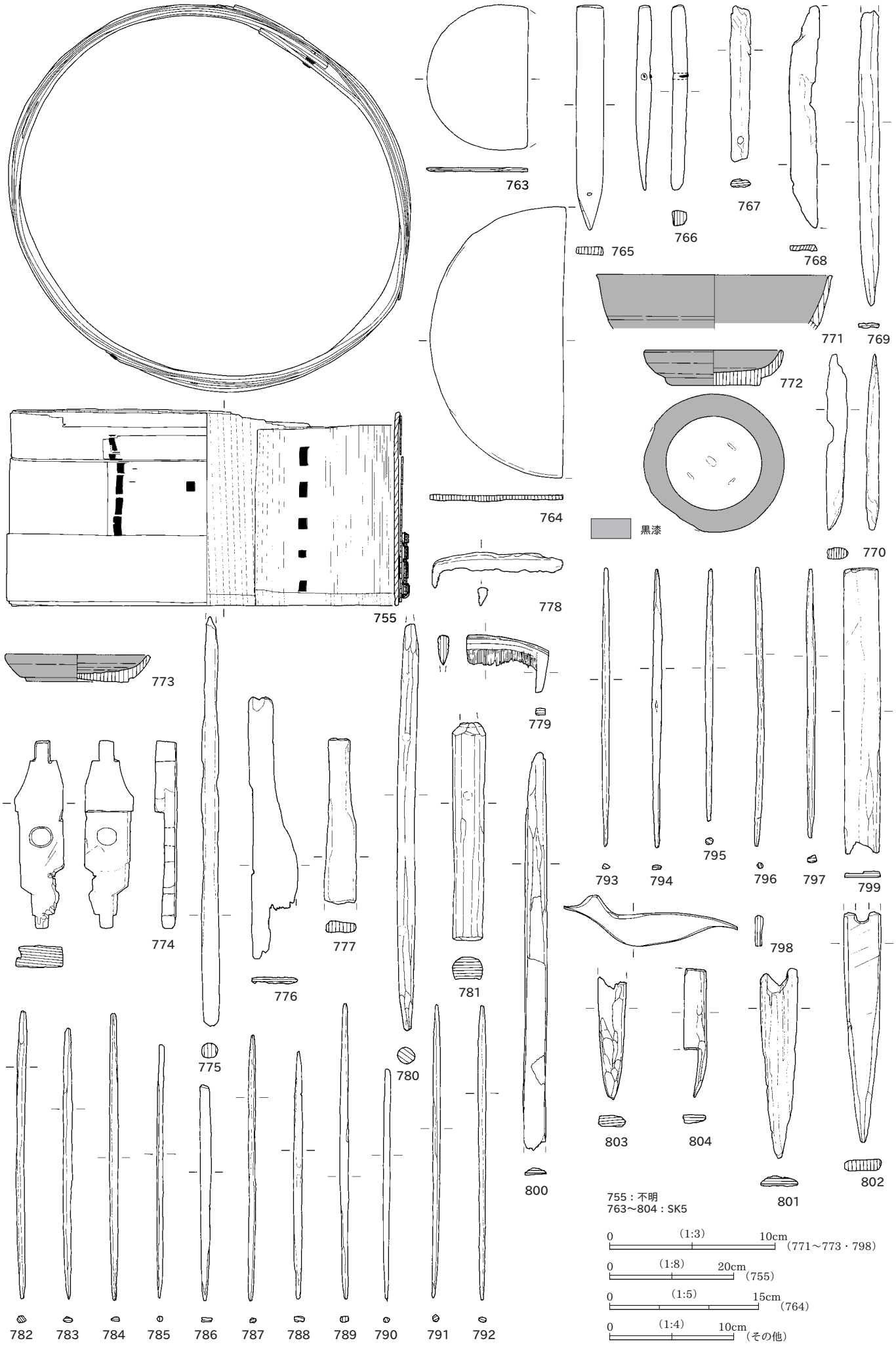
746・747：SE5005
748：SE5035
749：SE5055
750～754：SE6036
756～758：SE6039
759～762：SK5

0 (1:3) 5cm (747)

0 (1:4) 5cm (749・757・758・761)

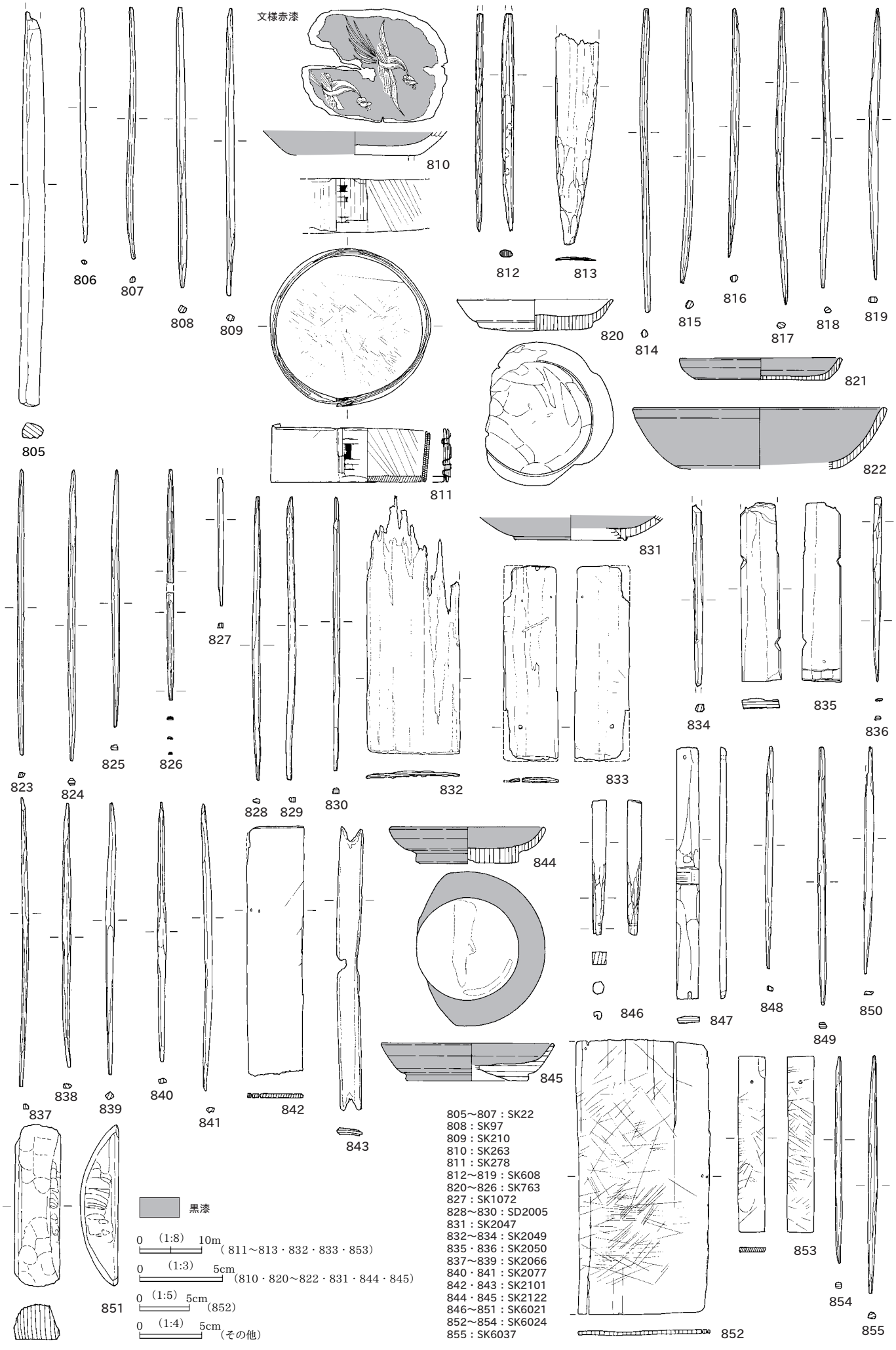
0 (1:5) 5cm (746・751・754・756・762)

0 (1:8) 10m (その他)

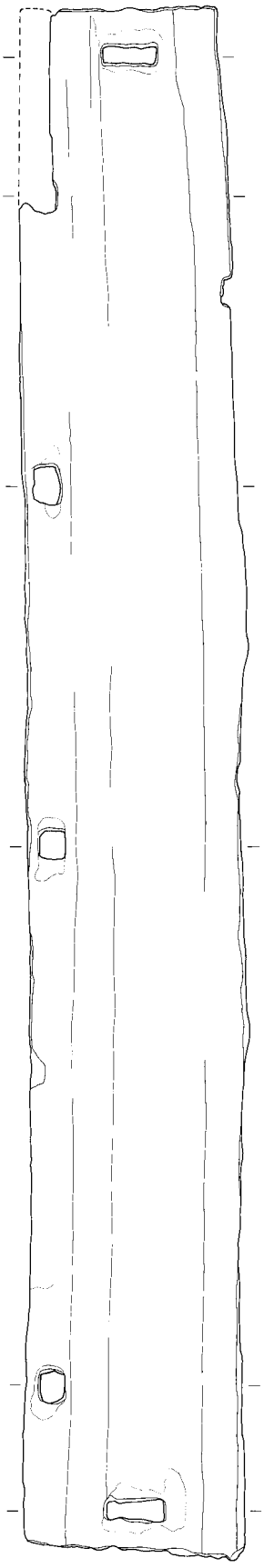


755：不明
763～804：SK5

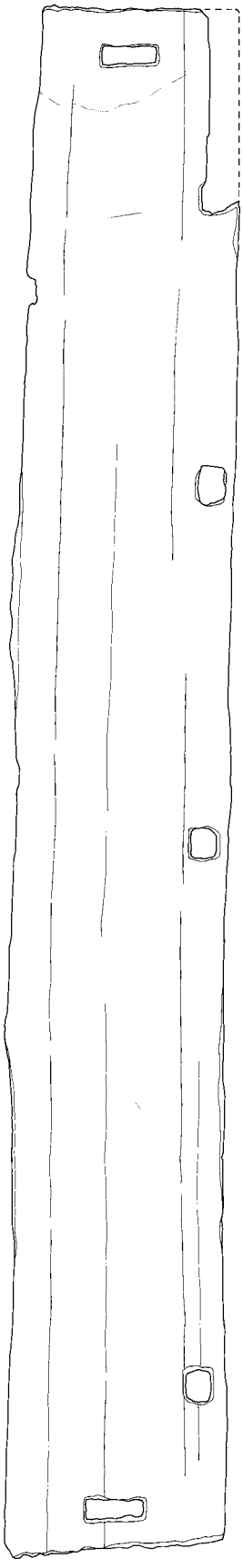
0 (1:3) 10cm (771～773・798)
0 (1:8) 20cm (755)
0 (1:5) 15cm (764)
0 (1:4) 10cm (その他)

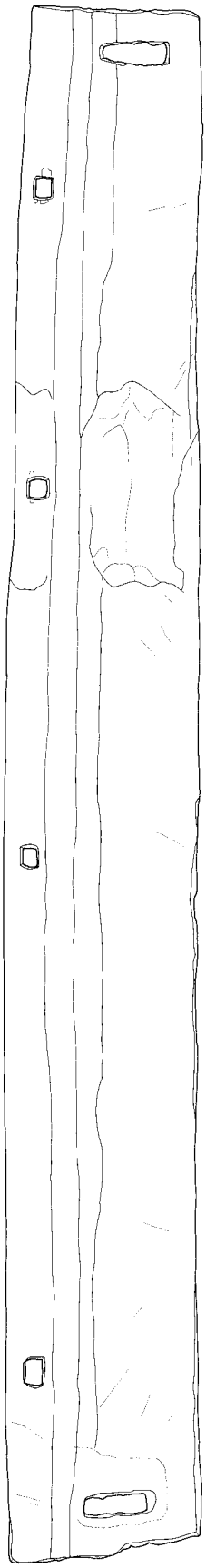


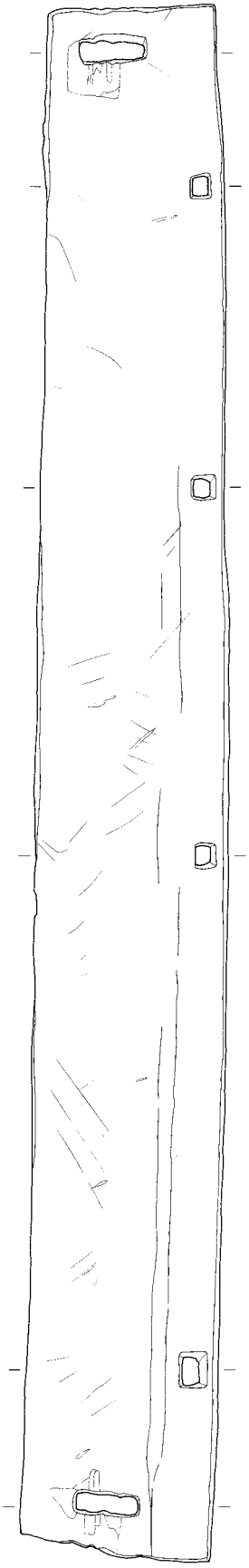
805～807：SK22
808：SK97
809：SK210
810：SK263
811：SK278
812～819：SK608
820～826：SK763
827：SK1072
828～830：SD2005
831：SK2047
832～834：SK2049
835・836：SK2050
837～839：SK2066
840・841：SK2077
842・843：SK2101
844・845：SK2122
846～851：SK6021
852～854：SK6024
855：SK6037



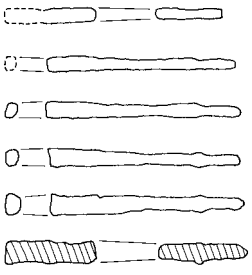
856



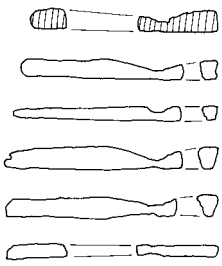




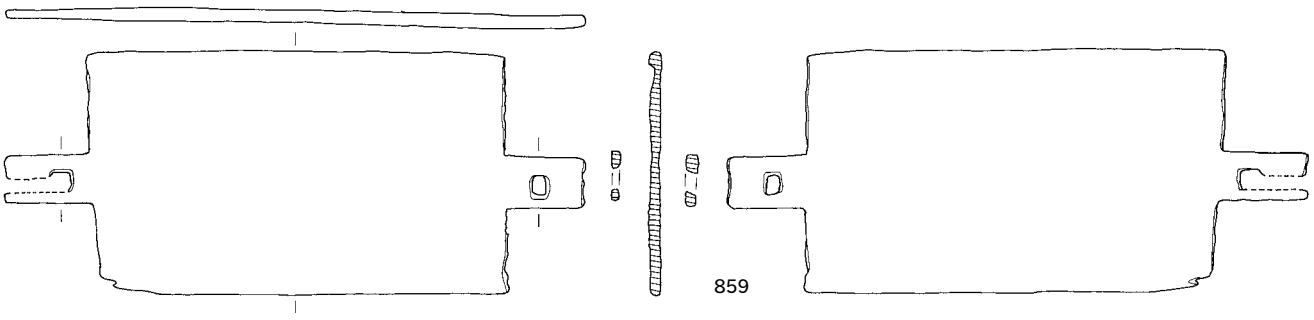
857

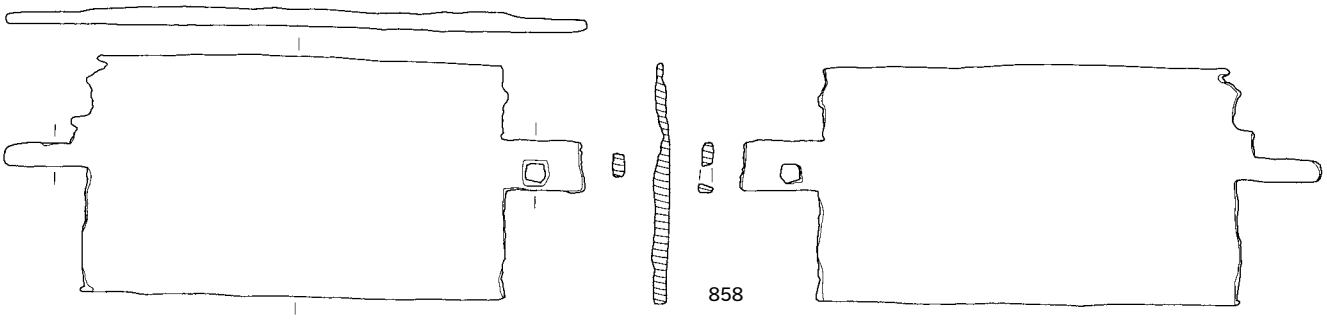


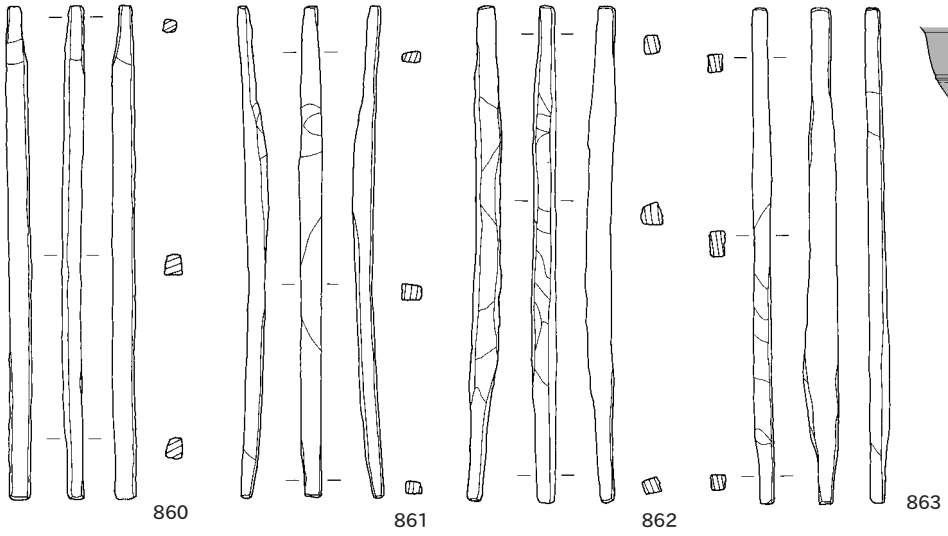
856・857：SD2

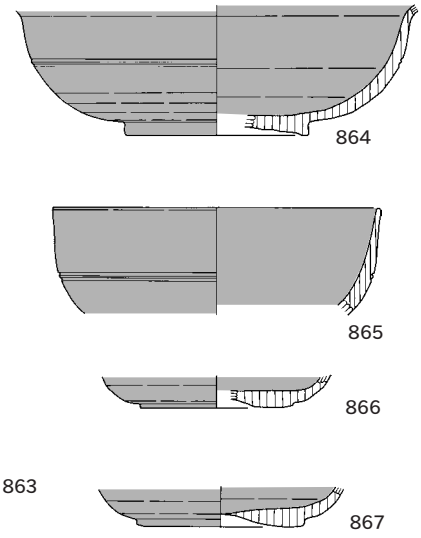


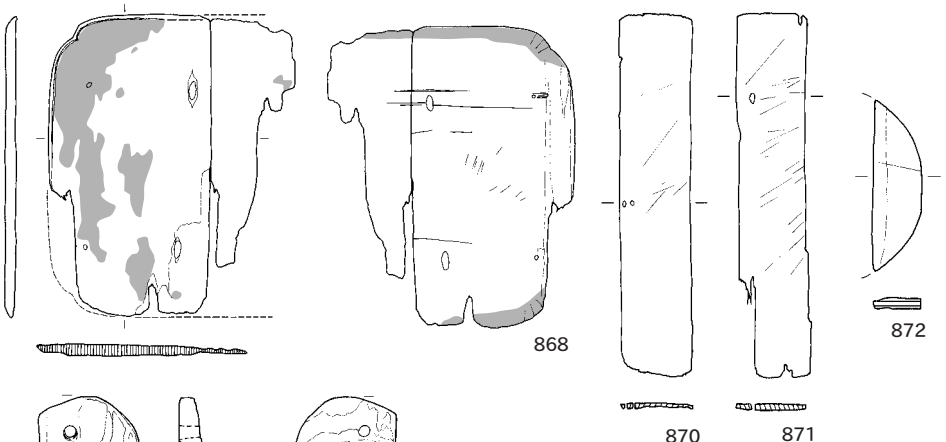
0 (1:8) 20cm

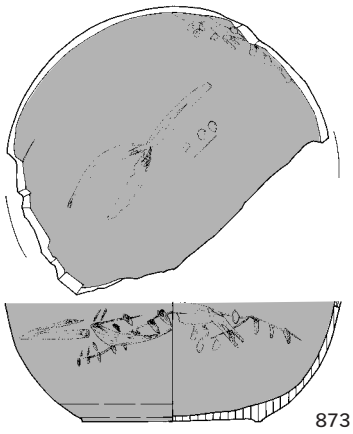


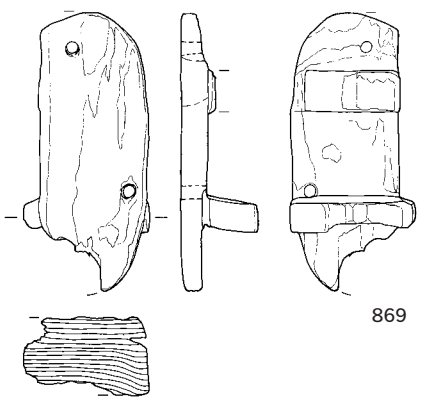


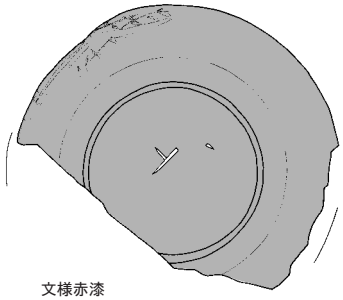












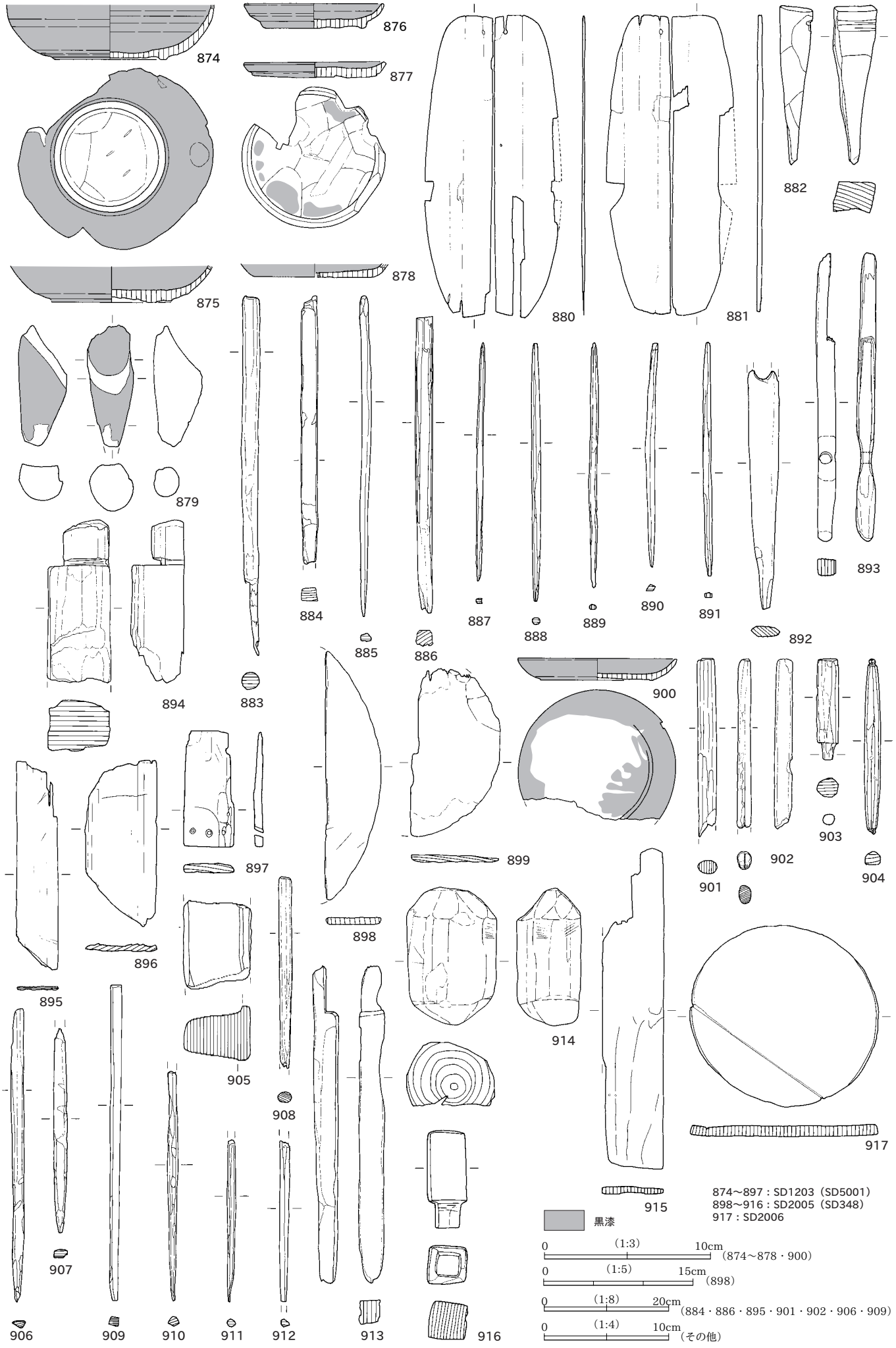
858～868：SD2
869：SD977
870・871：SD1103
872・873：SD1203

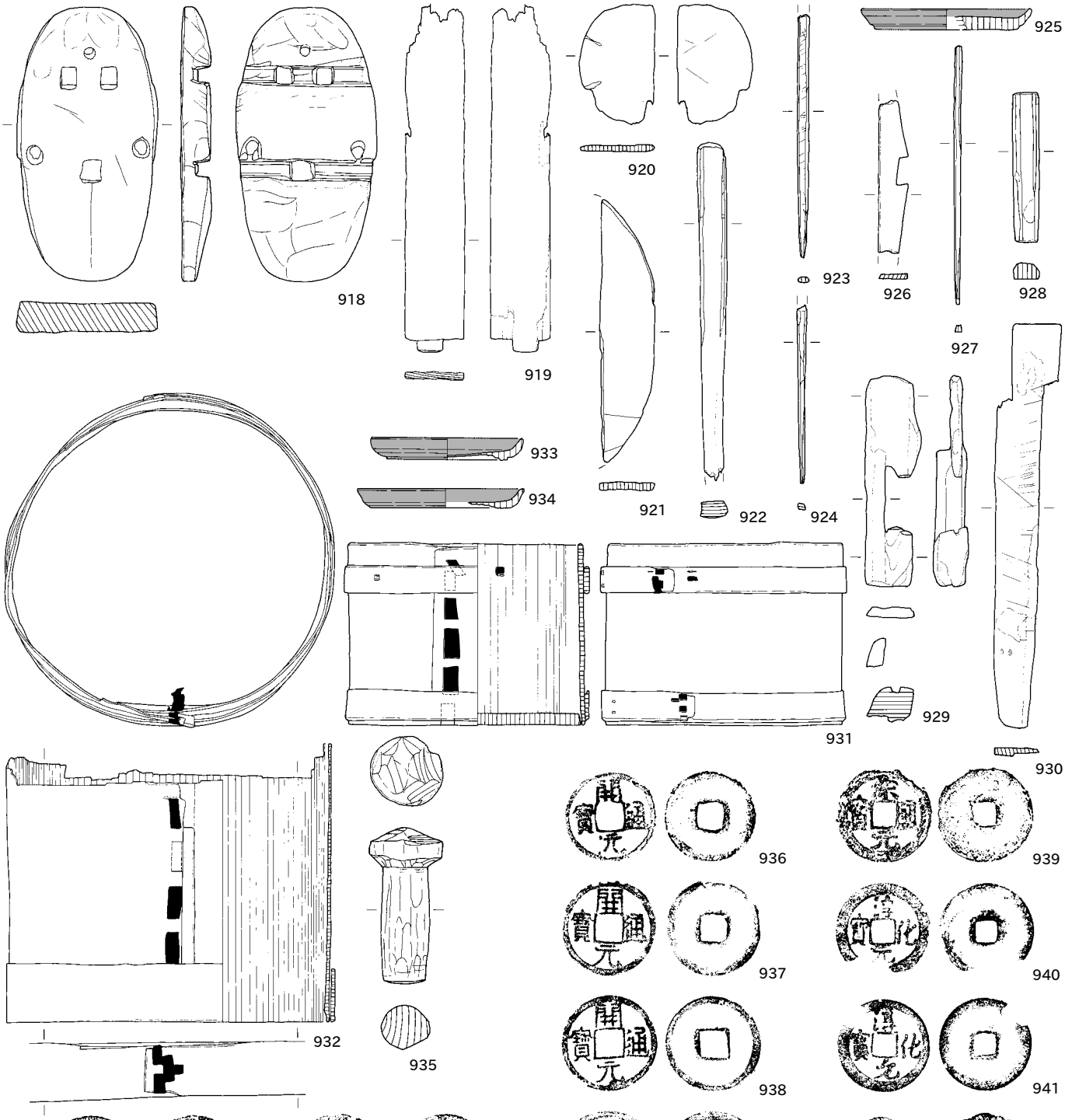
黒漆

0 (1:3) 10cm (864～867・873)

0 (1:4) 10cm (869～872)

0 (1:8) 20cm (その他)

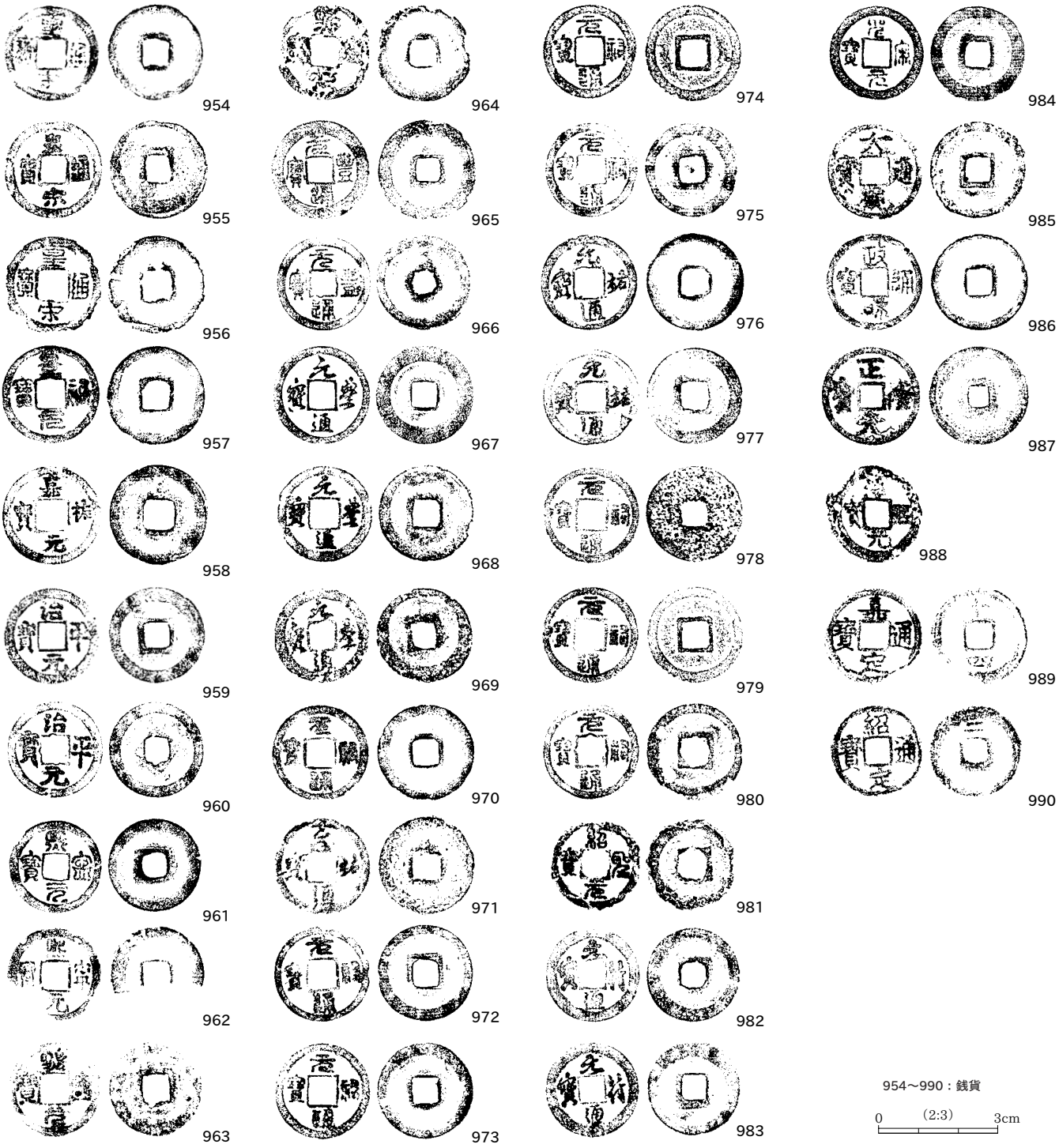

874
876
877
878
875
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
黒漆
874～897：SD1203（SD5001）
898～916：SD2005（SD348）
917：SD2006
0 (1:3) 10cm (874～878・900)
0 (1:5) 15cm (898)
0 (1:8) 20cm (884・886・895・901・902・906・909)
0 (1:4) 10cm (その他)



918～924：SD2006
925～930：SD2007
931～935：その他包含層等
936～953：銭貨

黒漆

0 (1:3) 10cm (925・933・934)
0 (1:5) 15cm (931)
0 (1:8) 20cm (919・932)
0 (2:3) 3cm (936～953)
0 (1:4) 10cm (その他)



954～990：銭貨

0　(2:3)　3cm

平成11年度調査区全景

平成10年度調査区

SB2・SB3

SB2～4およびSD1203

SD2

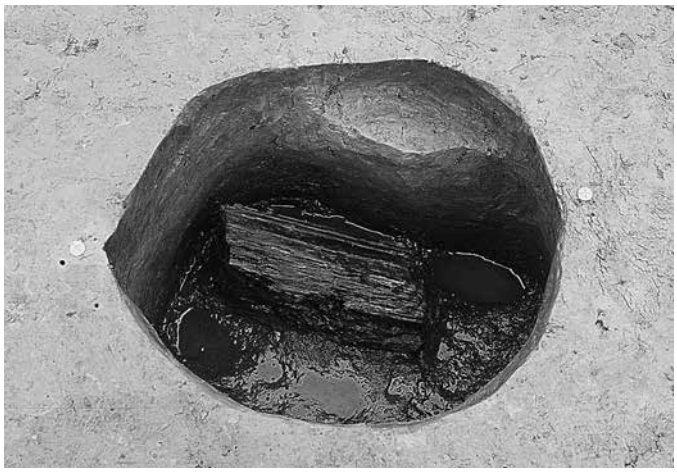
SB1-P807

SB1-P821

SB1-P801

SB1-P1153

SB1-P804



SB1-P805

SB1-P806

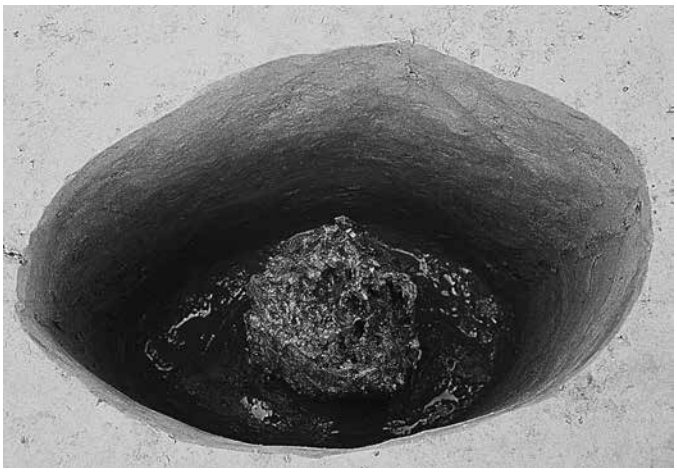
SB1-P1144

SA エ-P1142

SA エ-P1147

SA エ-P1084

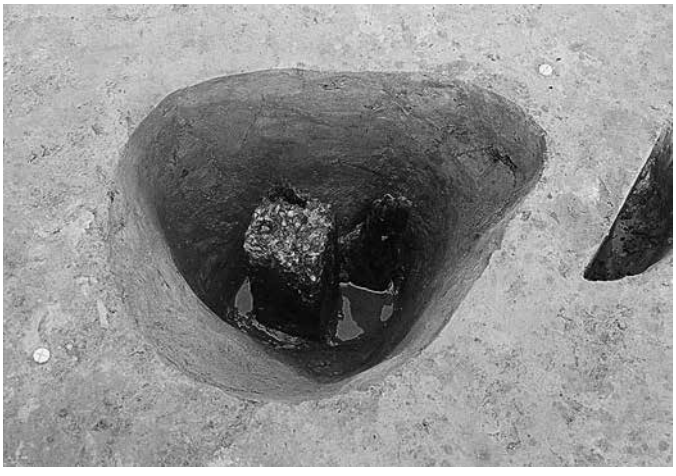
SA エ-P1123



SB2-P1148

SB2-P1134

SB2-P1112



SB2-P1108

SB2-P1109

SB3-SK34

SB3-P1103

SB3-P1102

SB3-P1101

SB3-P1087

SB3-SK28

SB3-SK29

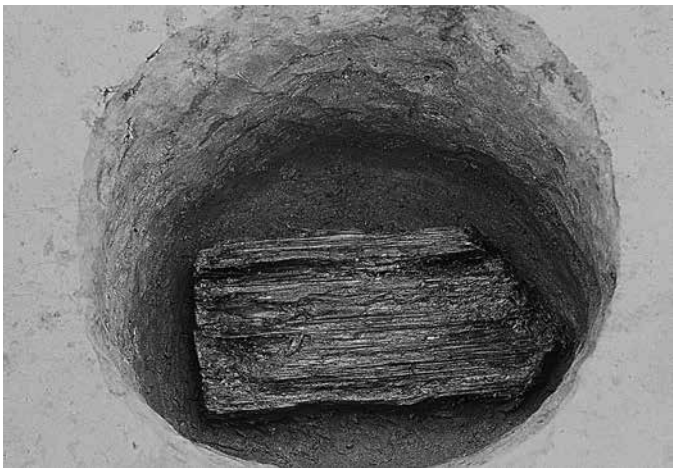
SA ウ-1107

SB4-SK30

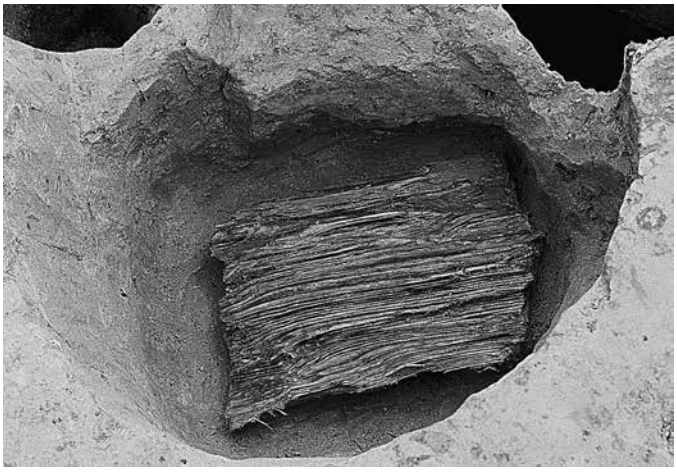
SB5-SK2017

SB5-6EP16

SB5-6EP125 上面



SB5-6EP125 下面

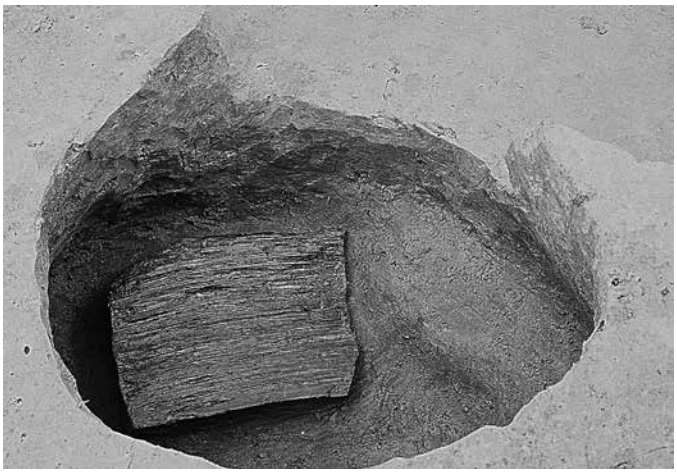


SB5-6FP27

SB5-6FP35

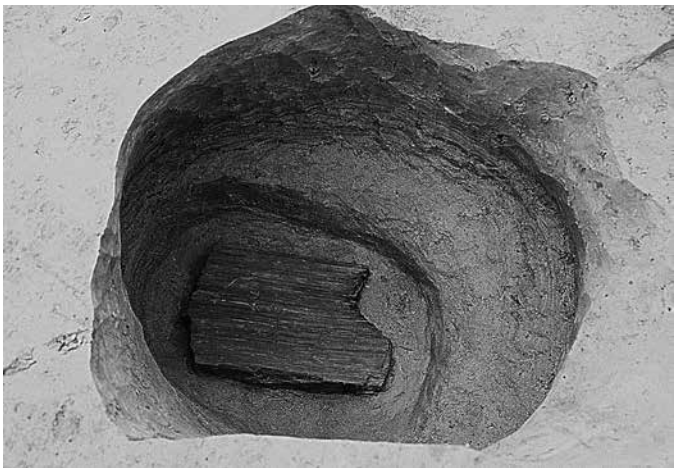
SB5-SK2075（右）、SB7-SK2075（左）

SB5-7EP55

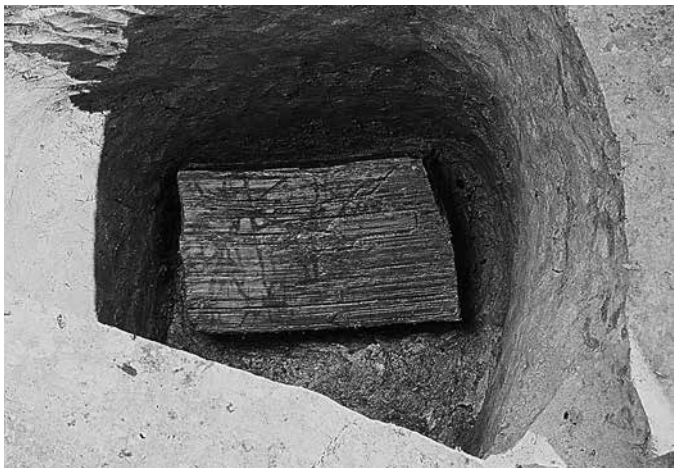


SB5-6EP42

SB5-6EP47



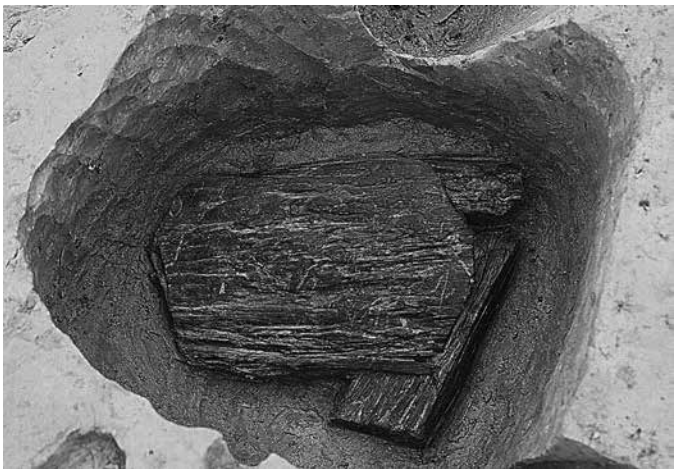
SB5-SK2033



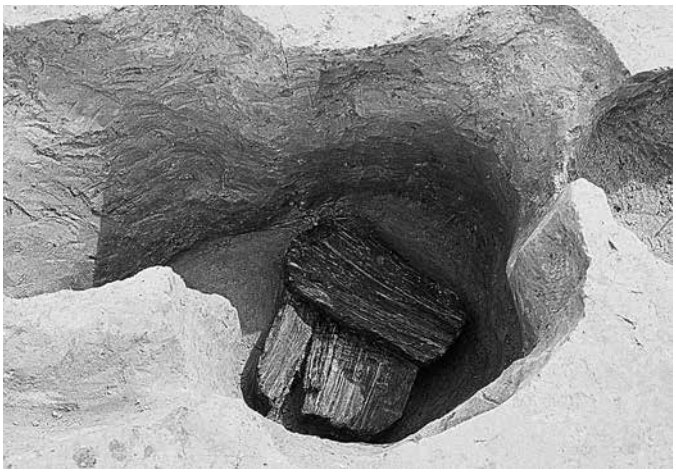
SB5-6EP82

SB6-6EP40

SB6-6EP14（右）、SB7-6EP15（左）

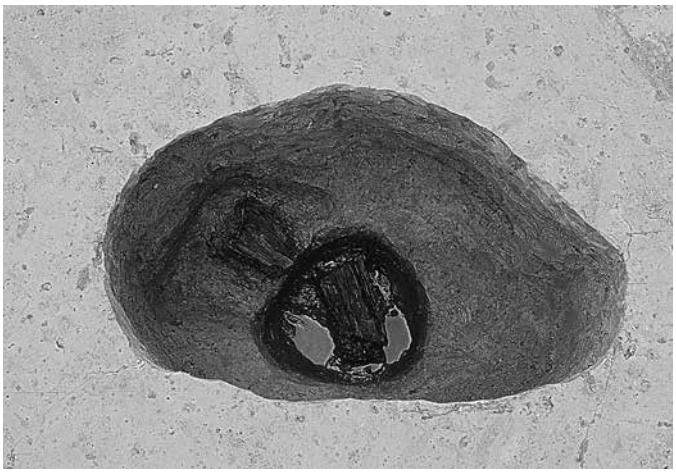


SB6-6EP123

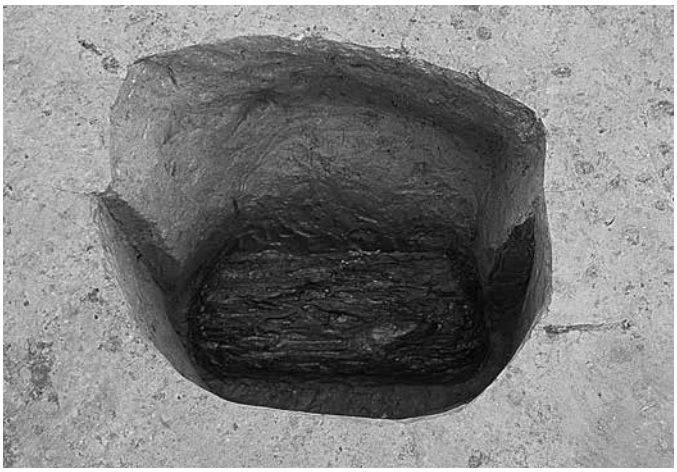


SB6-SK2032

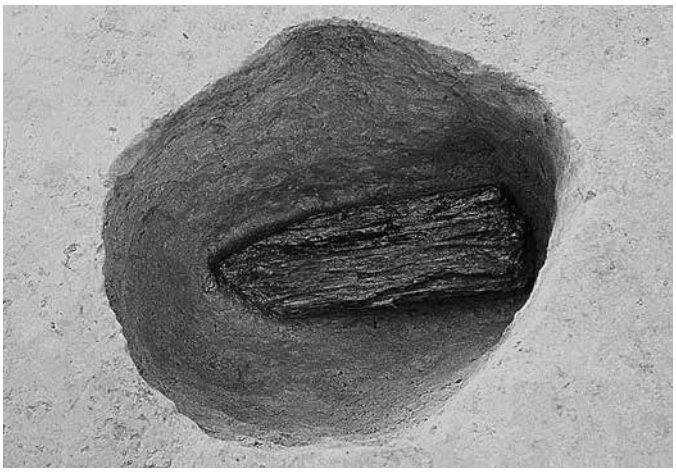
SB6-6FP55



SB6-7EP20



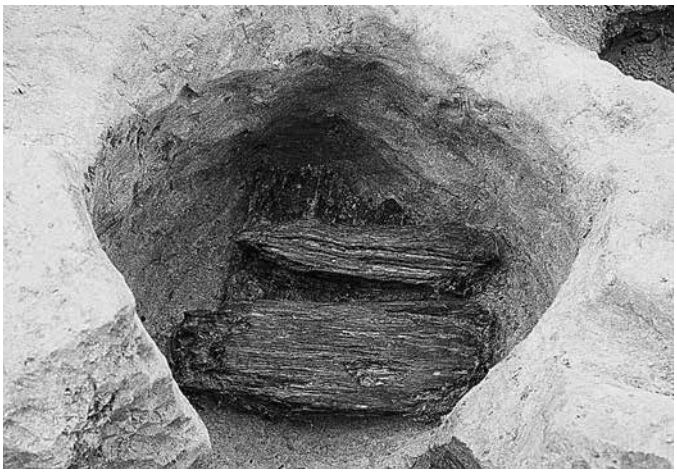
SB6-6EP99



SB6-SK2076

SB7-6EP124

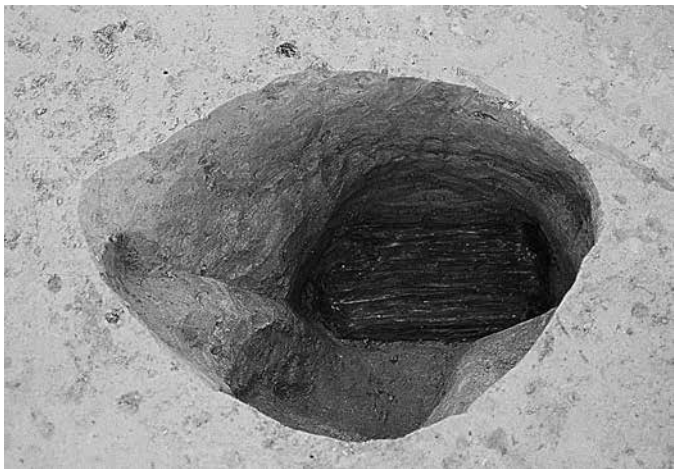
SB7-6EP98



SB7-6EP107

SB7-6EP93

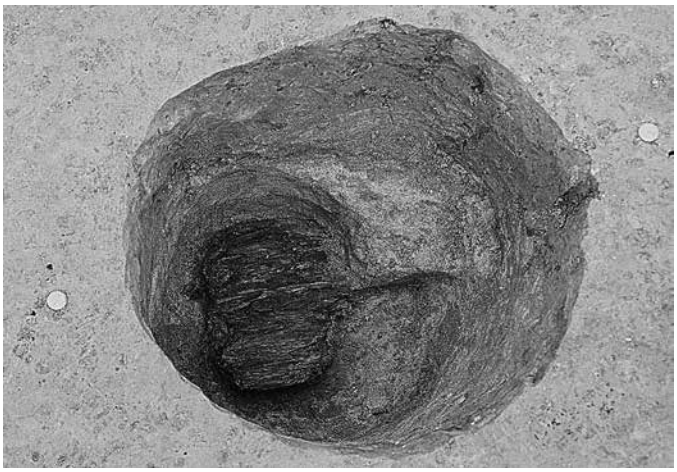
SB8-5EP129



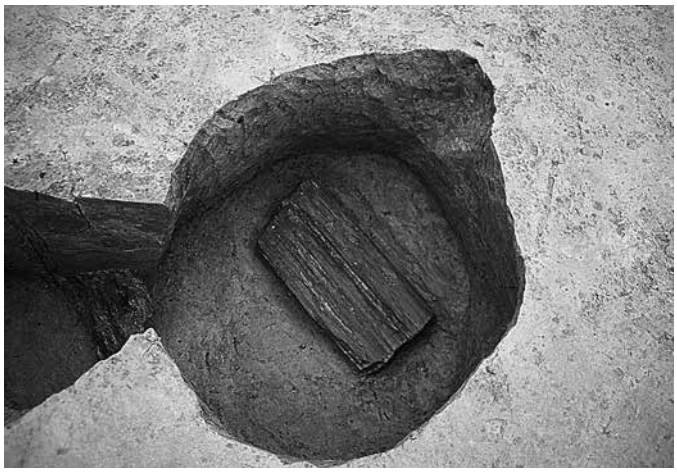
SB8-P167

SB8-SK2025

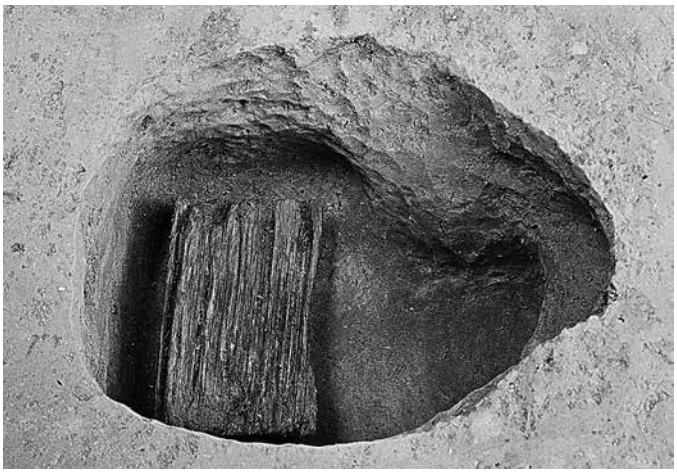
SB8-6FP43（右）・SB10-SK2020（左）



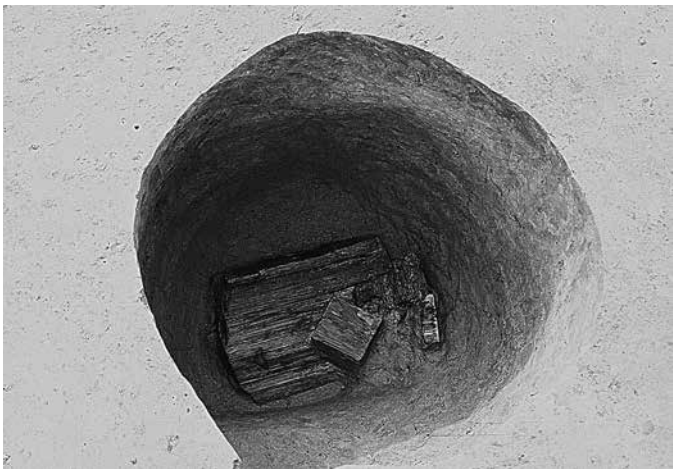
SB8-P618



SB9-5EP116



SB9-5EP107

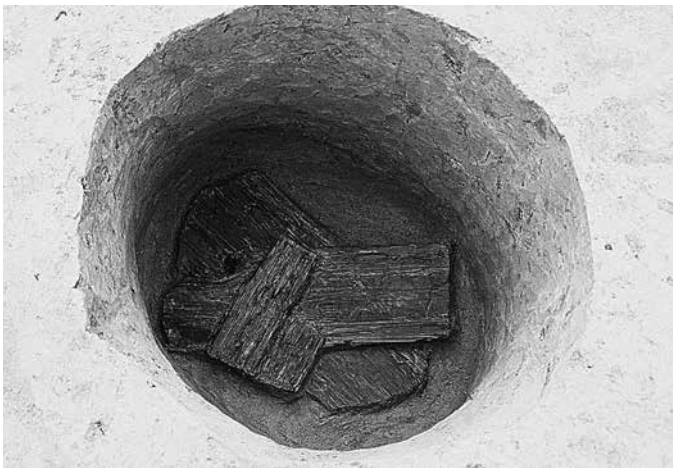


SB9-5FP39

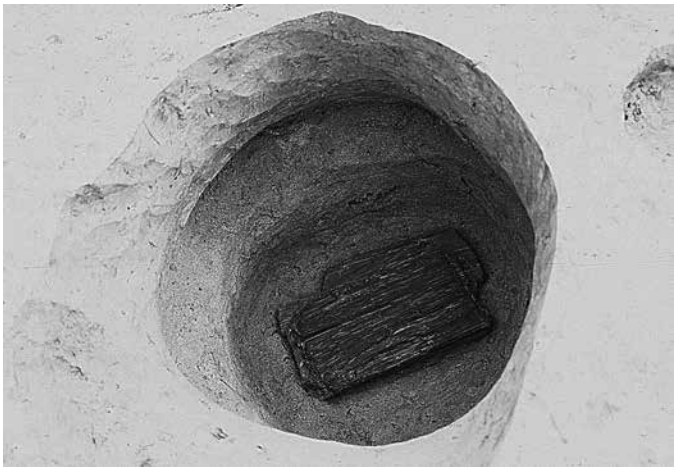
SB9-P424

SB9-P425

SB9-SK2030

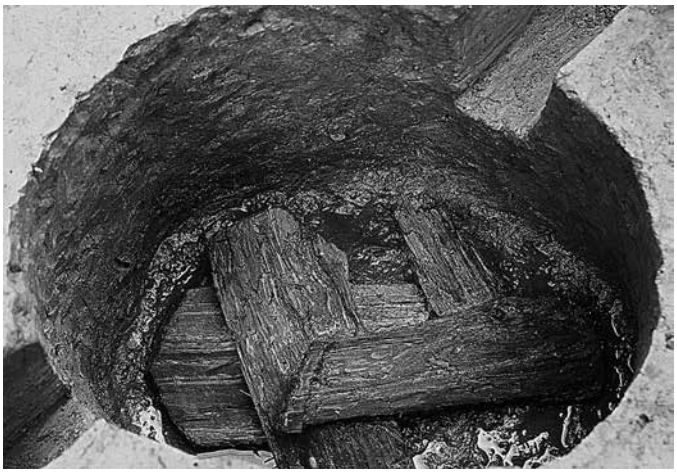


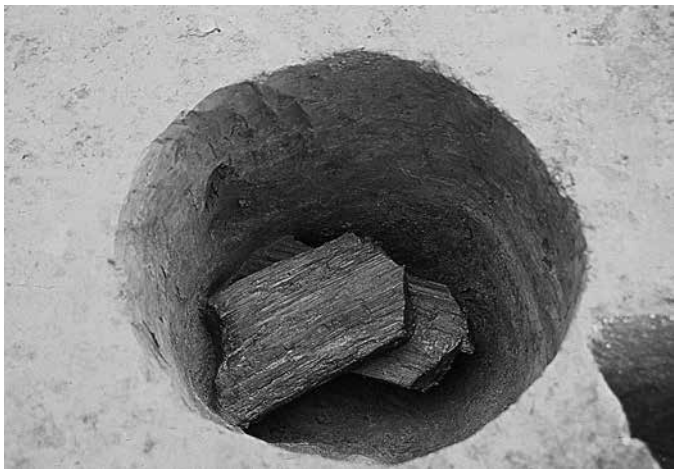
SB9-6FP15



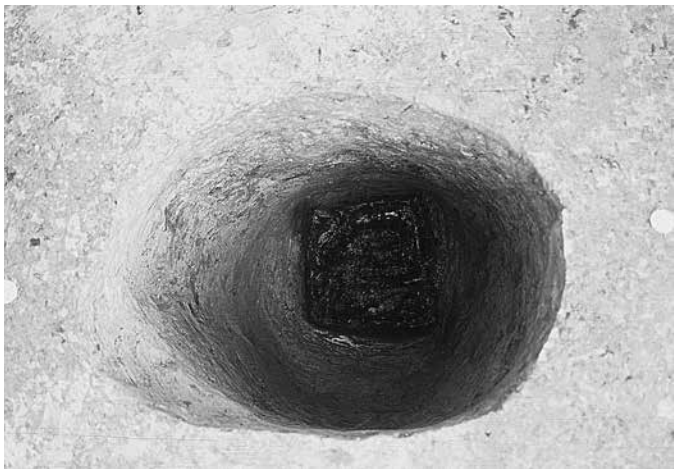
SB9-6EP1

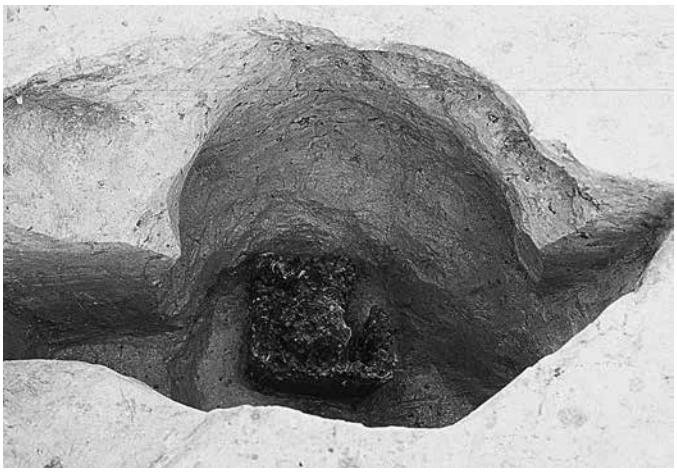
SB9-5FP51


SB9-SK2031

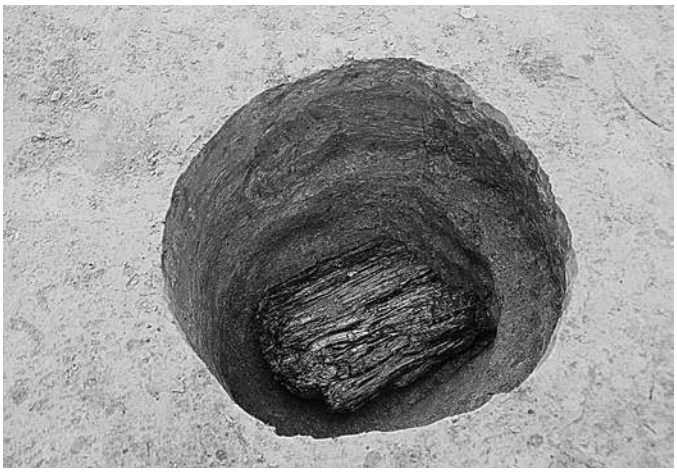

SB9-P609

SB9-SK916

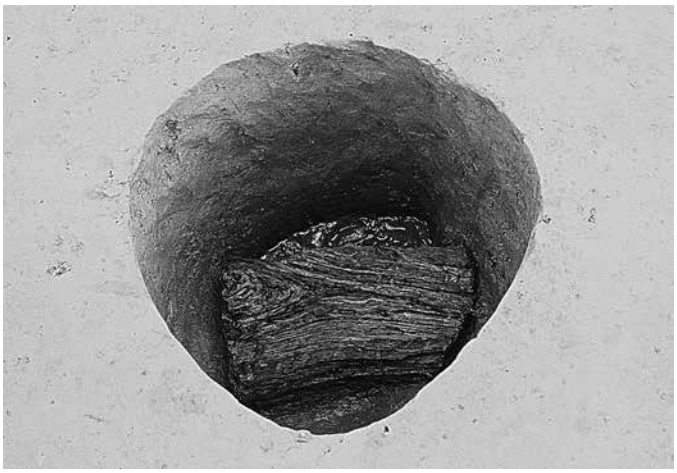

SB10-P139


SB10-SK2029

SB10-5FP53


SB10-SK98

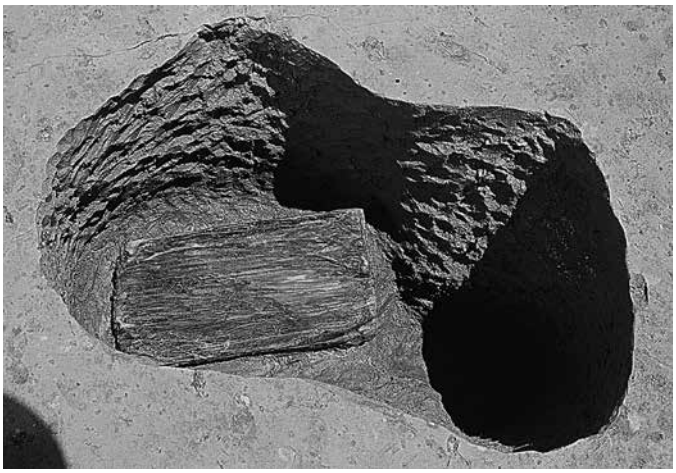
SB11-4EP20



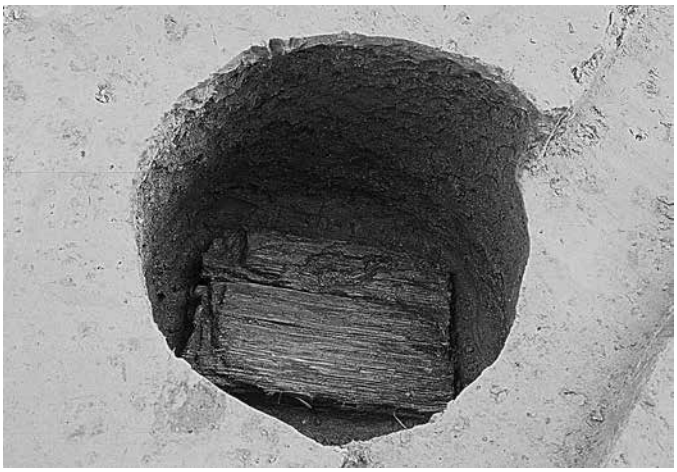
SB11-4EP1

SB11-4FP16

SB11-5EP18

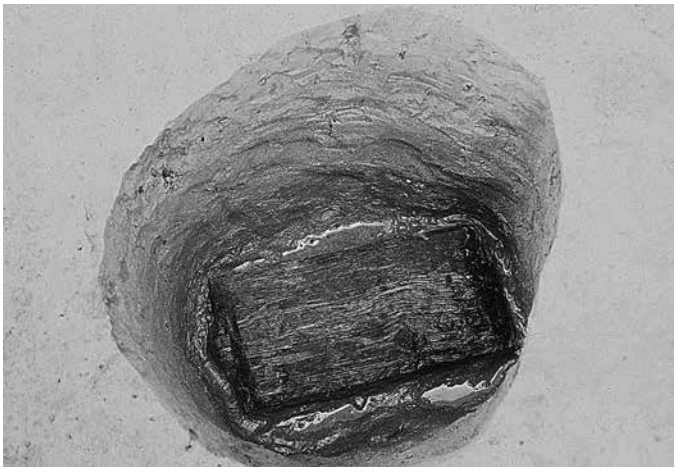


SB11-5EP11

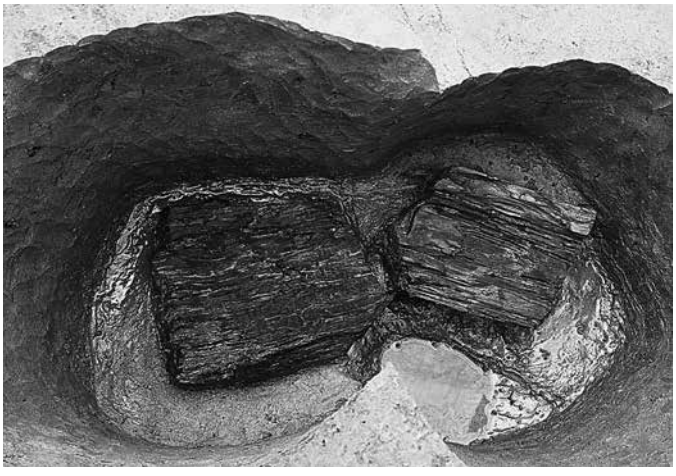


SB11-4FP11

SB11-5FP4

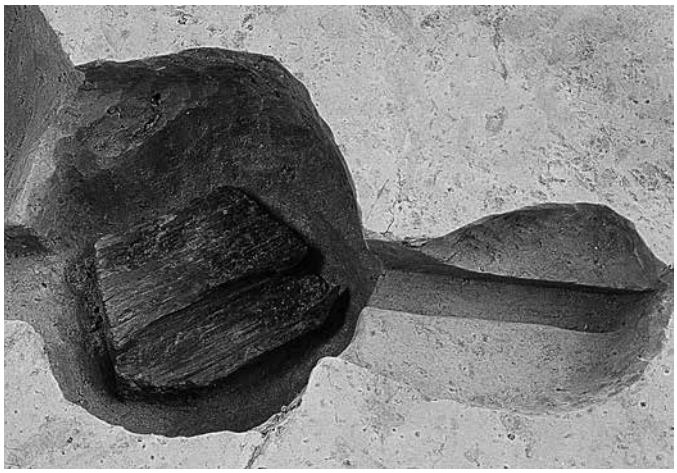


SB12-5EP5



SB12-5FP56

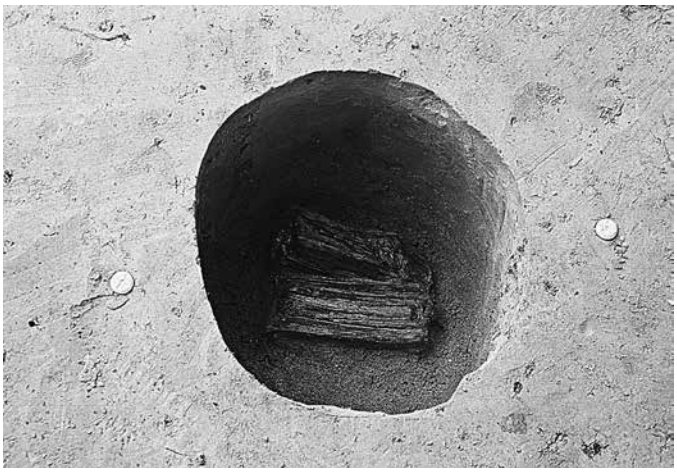
SB13-4EP40



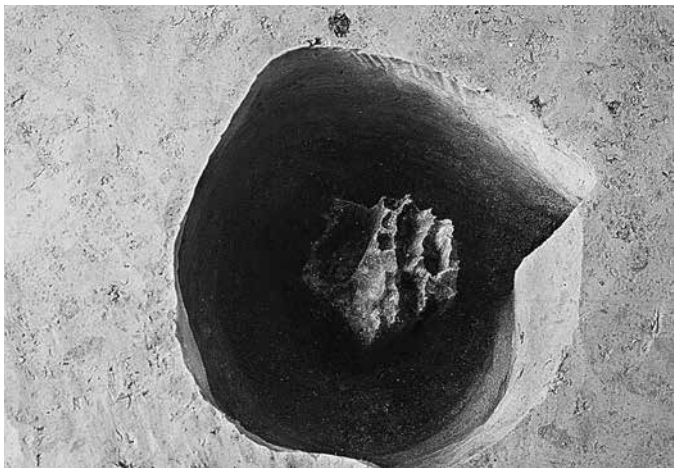
SB13-4EP39

SB14-P551

SB14-P387



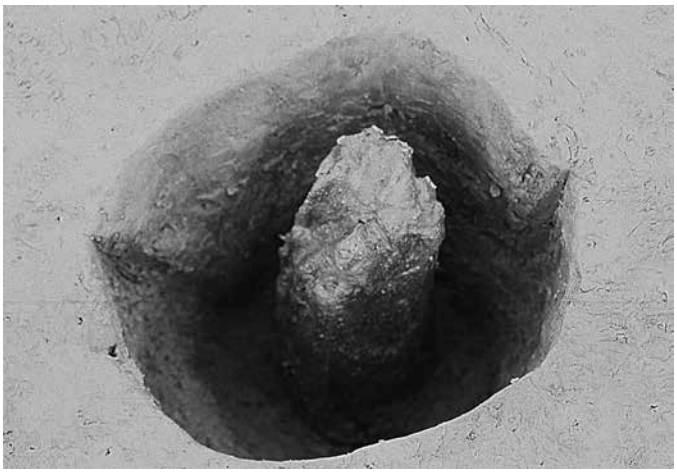
SB16-P1009



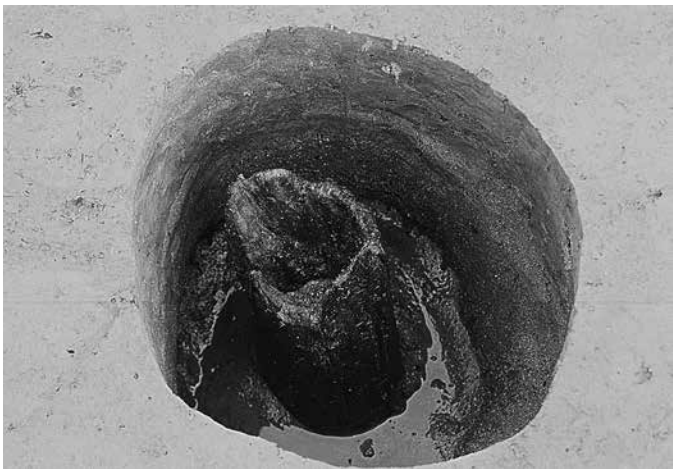
SB17-P945

SB18-P949

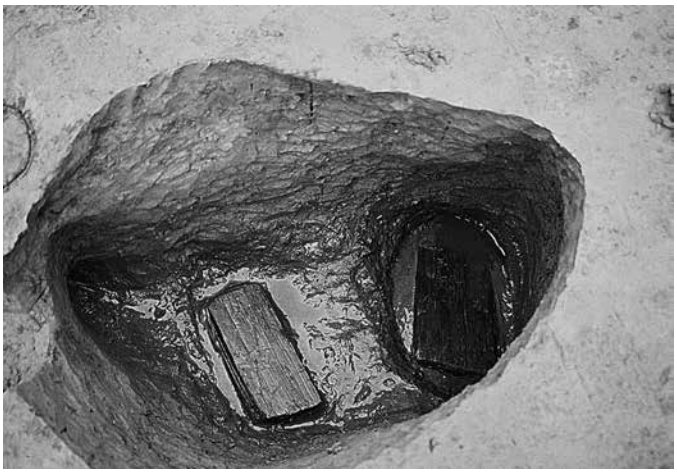
SB18-P960



SB18-P967



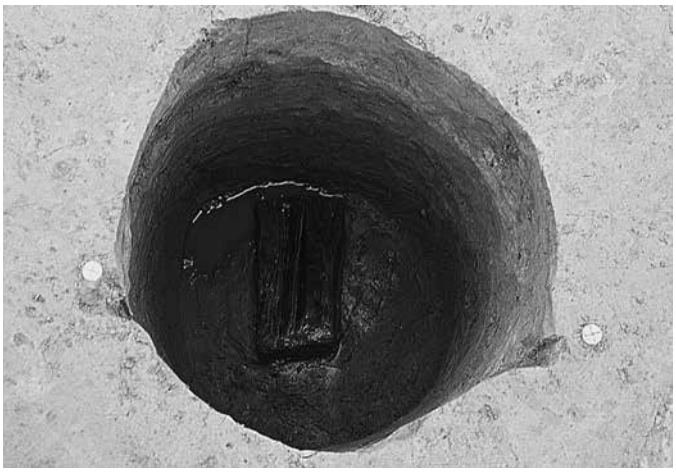
SB18-P969



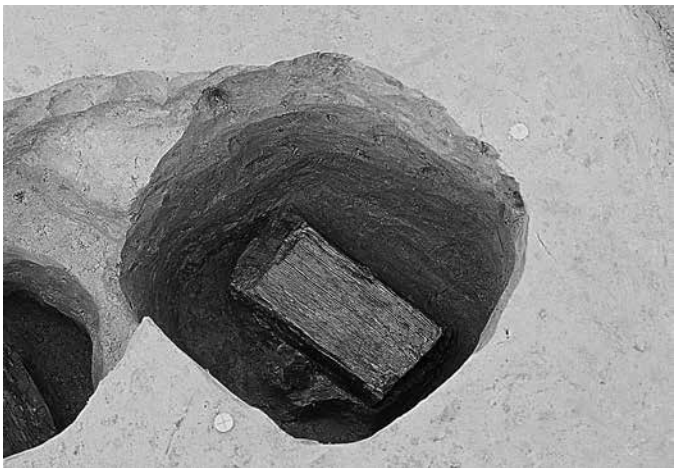
SB19-SK6022

SB20-9BP42

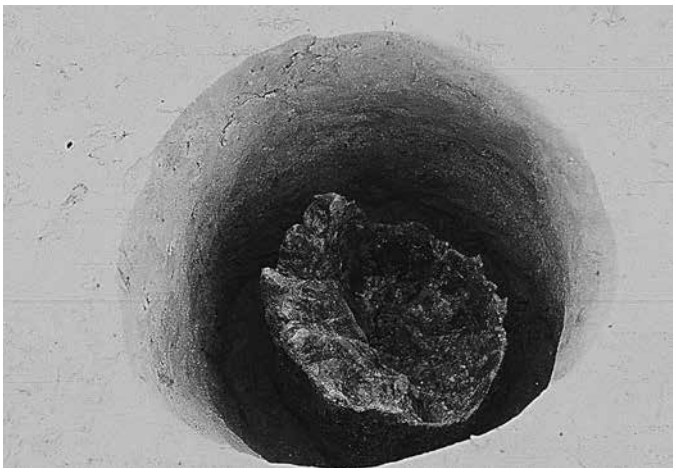
SB22-P250



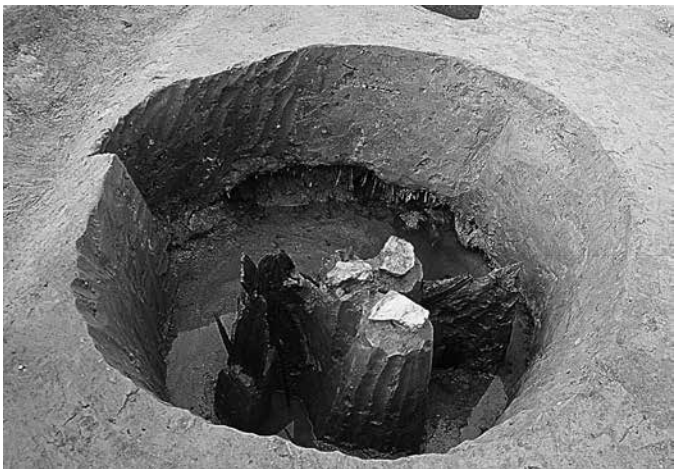
SB22-P277



SB22-P275



SB23-P955



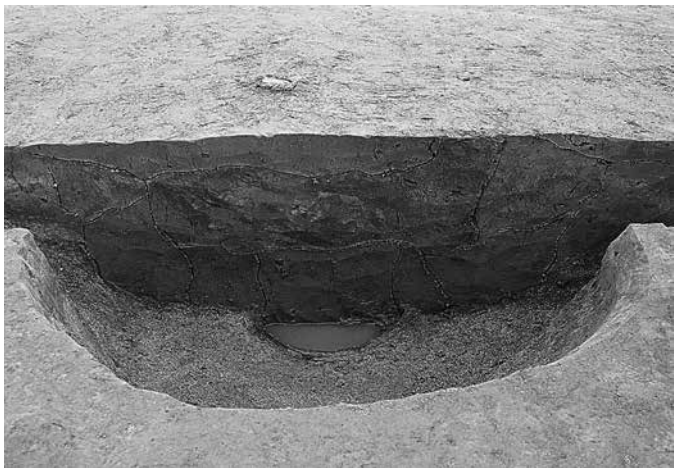
SE1005

SE1005

SE1252

SE5005

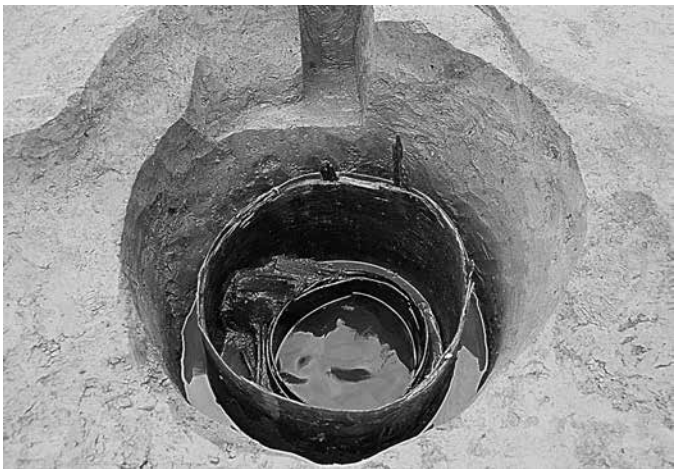
SE5035



SE947

SE947

SE476



SE476

SE17

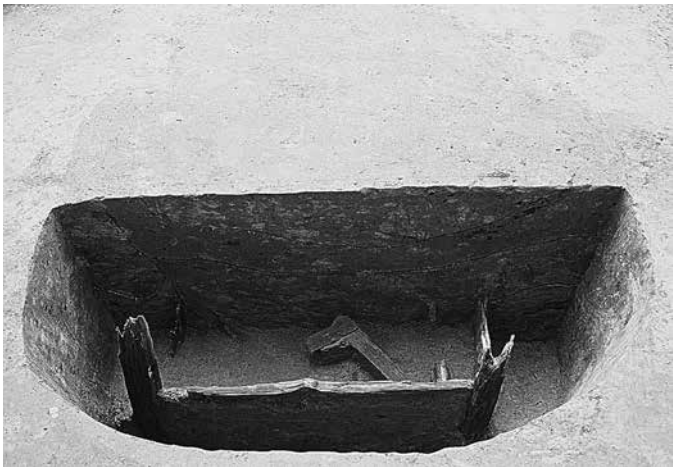
SE17

SE43

SE43

SE227

SE227

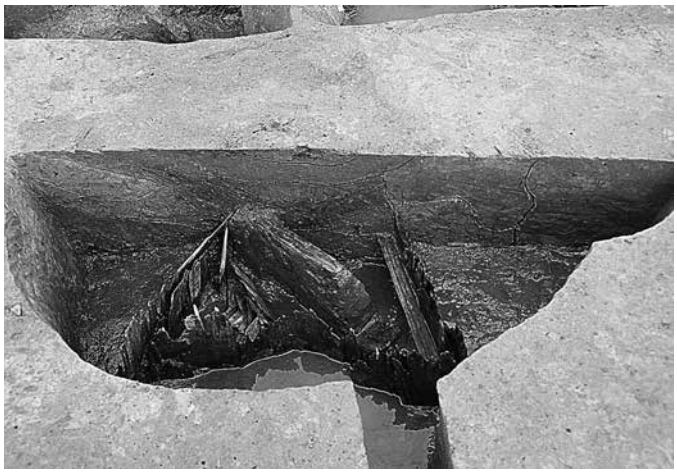


SE229

SE229

SE241

SE241



SE421

SE421

SE421

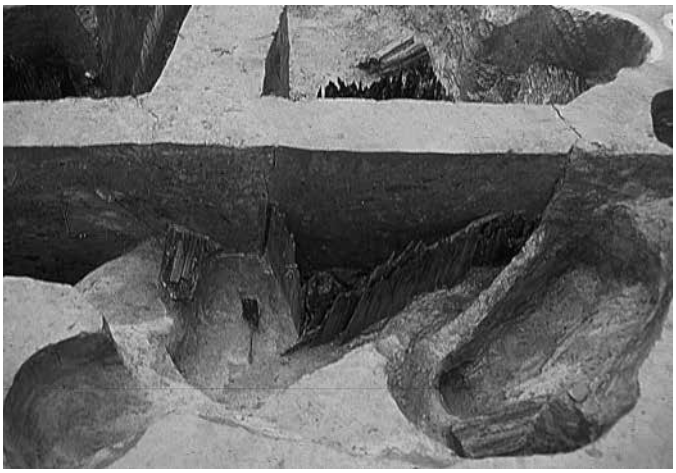
SE280

SE280

SE910

SE910（左上）・SE911（右下）

SE910（左）・SE911（右）



SE911

SE911

SE2026

SE2026

SE210

SE168

SE168

SE313

SE313

SE384

SE495

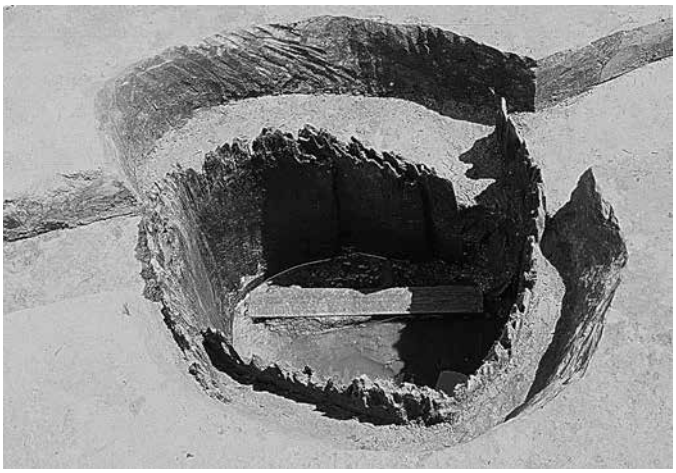
SE495

SE755

SE755

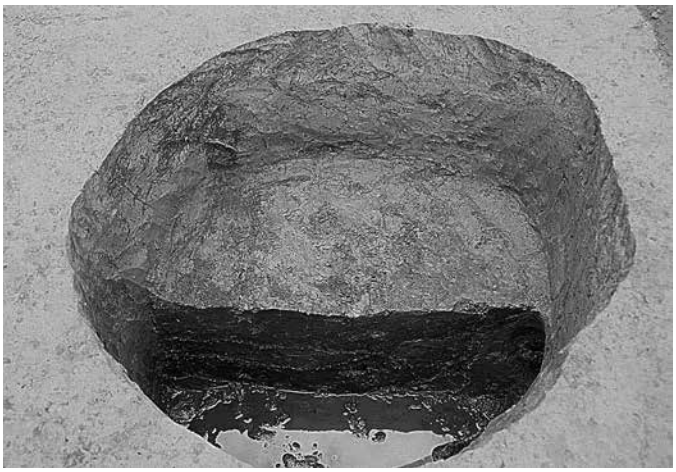
SE755

SE2022



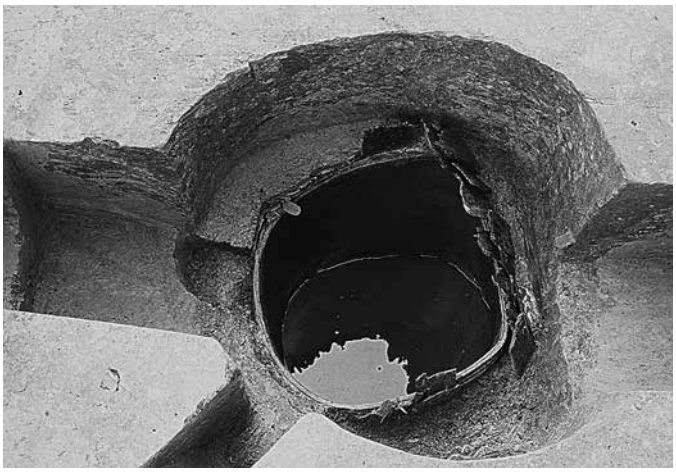
SE2022

SE2022



SE2044

SE2044



SE2049

SE378

SE385

SE385

SE349 · 359

SE2066

SE349 · 359 · 376 · 496

SE2050

SE3

SK1037

SK1030

SK1035

SK1073（左）・SK1074（右）

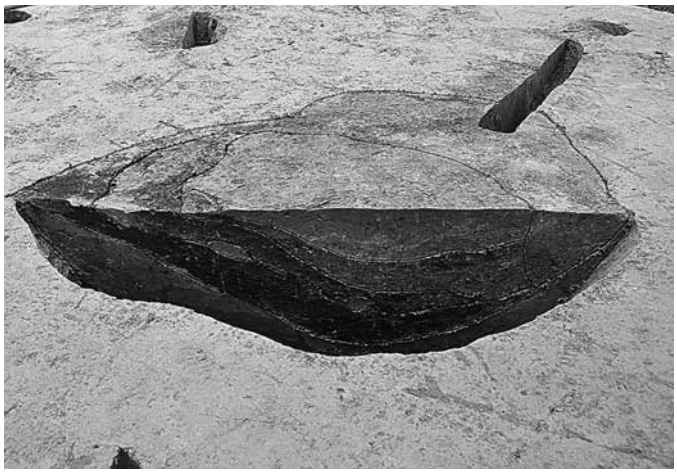
SK5027

SK5027

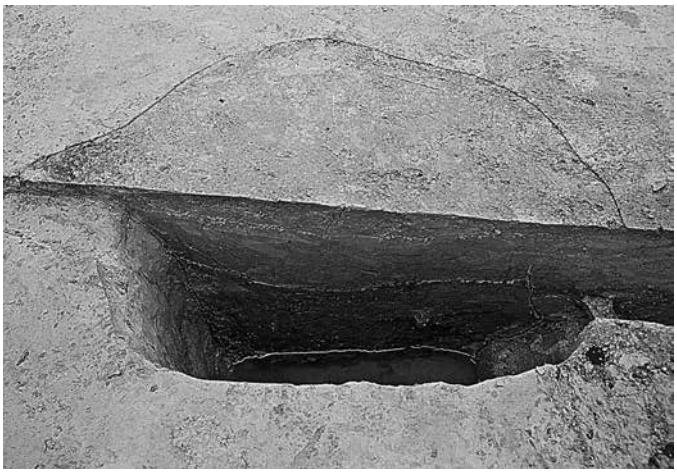
SK5021

SK22

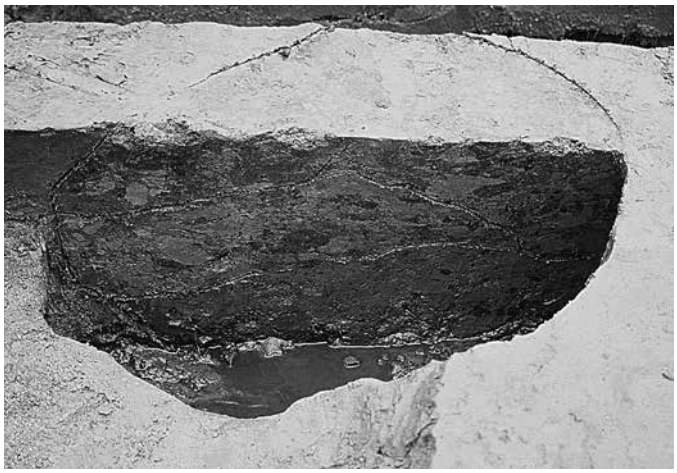
SK6001



SK6021



SK6023



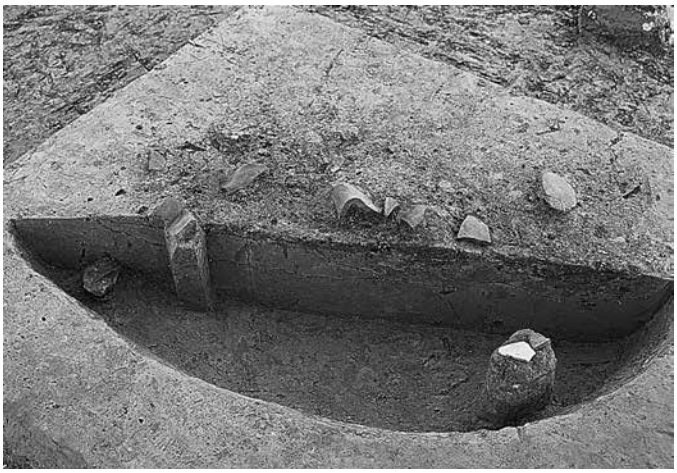
SK6040

SK6037

SK6037

SK278

SK278

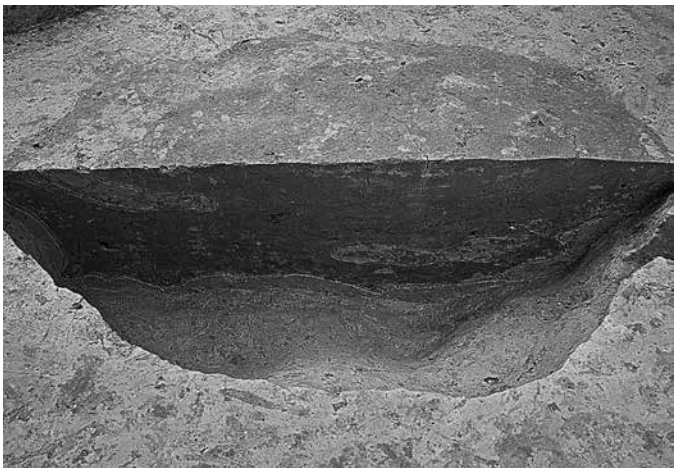


SK636

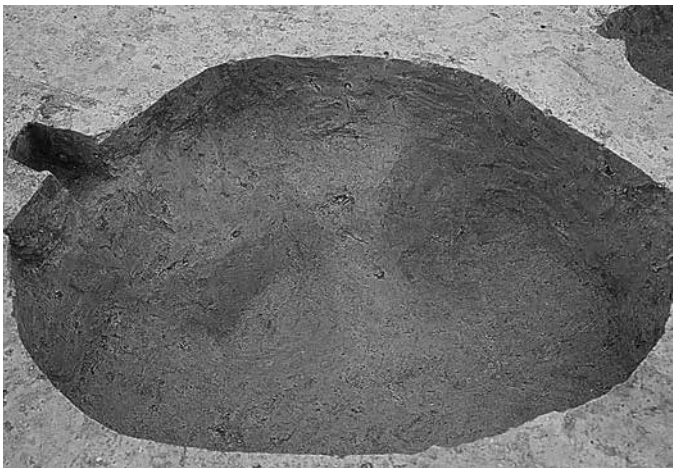
SK636

SK956

SK956



SK2004



SK2004

SK39

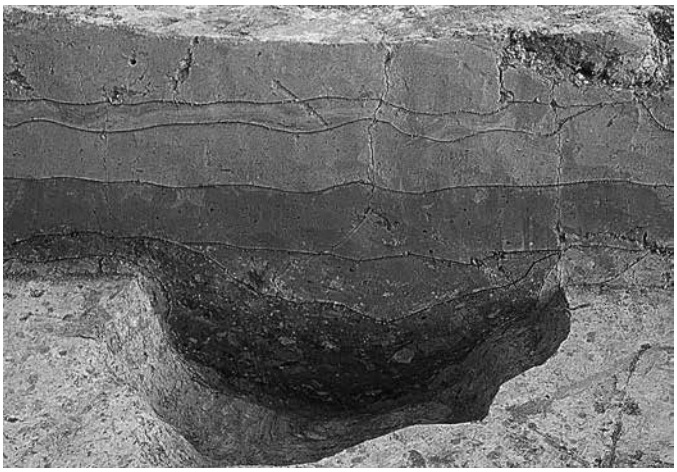
SK106

SK608

SK608

SK763

SK1072



SK1075

SK5

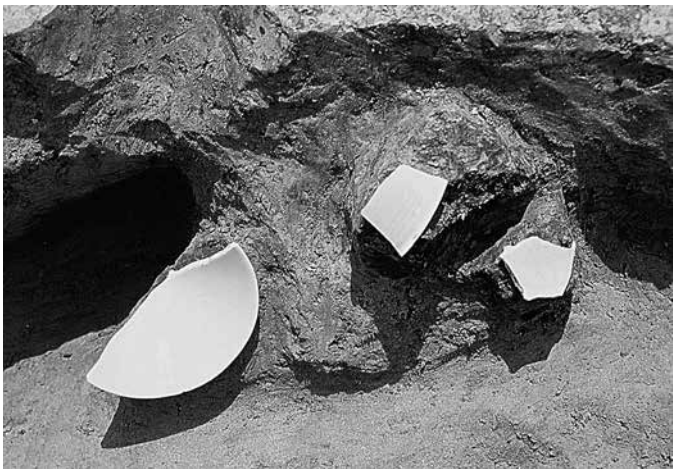
SK5

SK5

SK5

SK2042

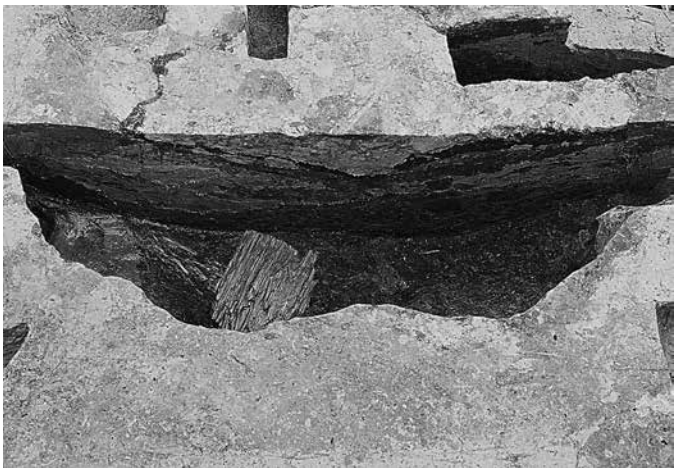
SK2042



SK2042

SK2043

SK2043



SK2077

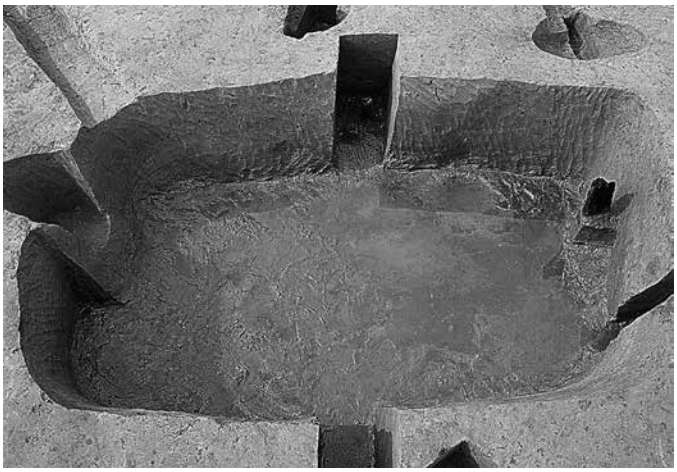
SK2077

SK2101

SK2101

SK2114

SK2114



SK2114

SK330

SK330

SK2059

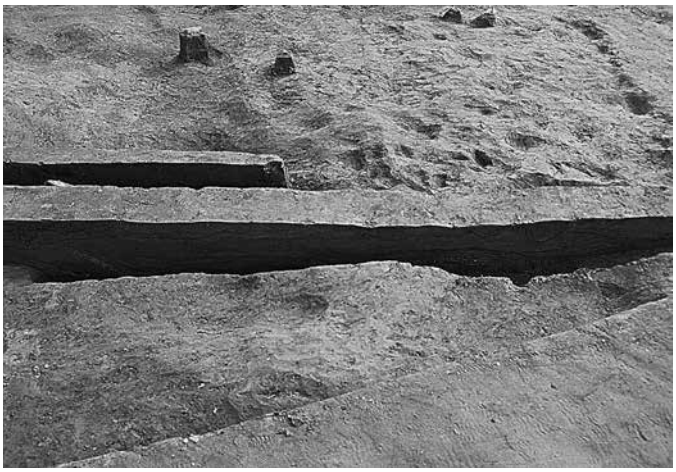
SK2059

SK2060

SK2060

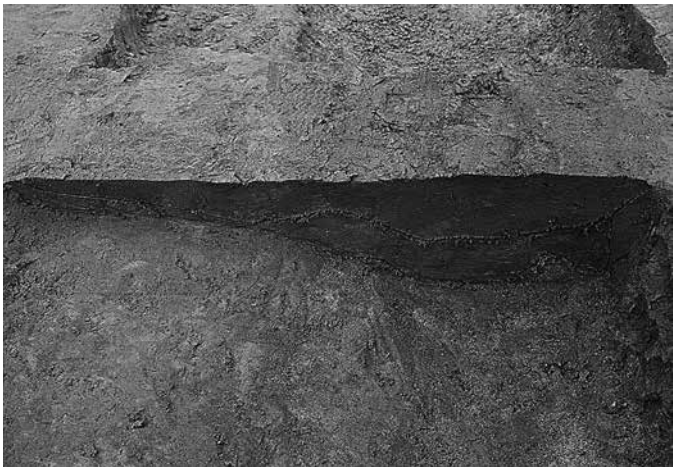
SK2047・2048

SK4



SD1016

SD1016



SD1251

SD1203

SD1203

SD1203

SD811

SD5001

SD5001

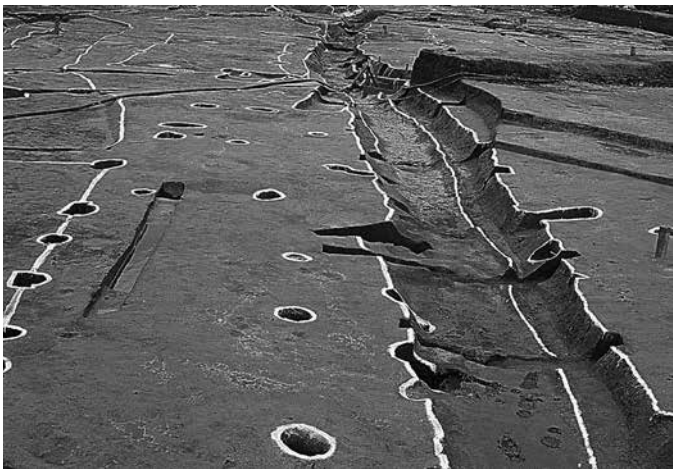
SD1264

SD1264

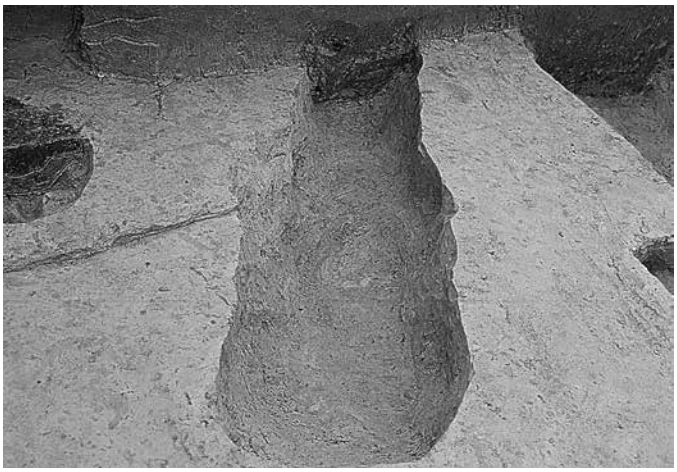
SD1213

SD1213

SD980・977



SD1012（SD980・977）



SD1095

SD14

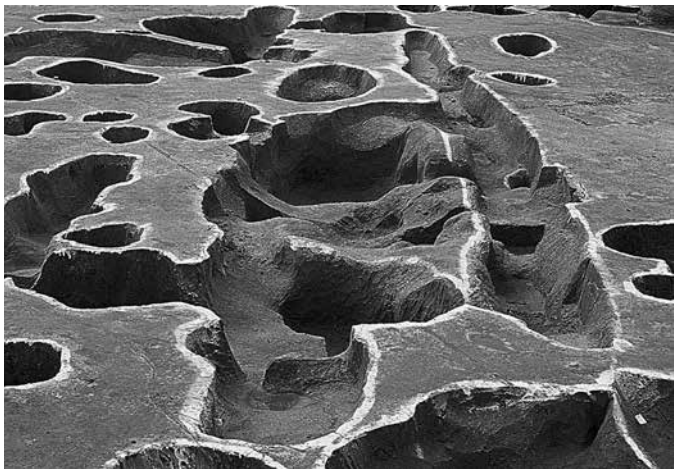
SD164・165

SD164・165

SD172

SD312

SD465・466



SD465・466

SD2023（SD234）

SD2105・2106

SD348（SD2005）

SD348（SD2005）

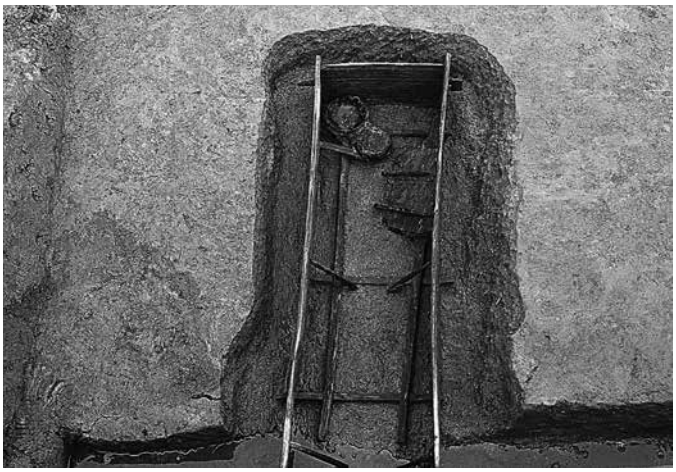
SD2005（SD348）

SD2005（348）

SD2006・2007

SD2

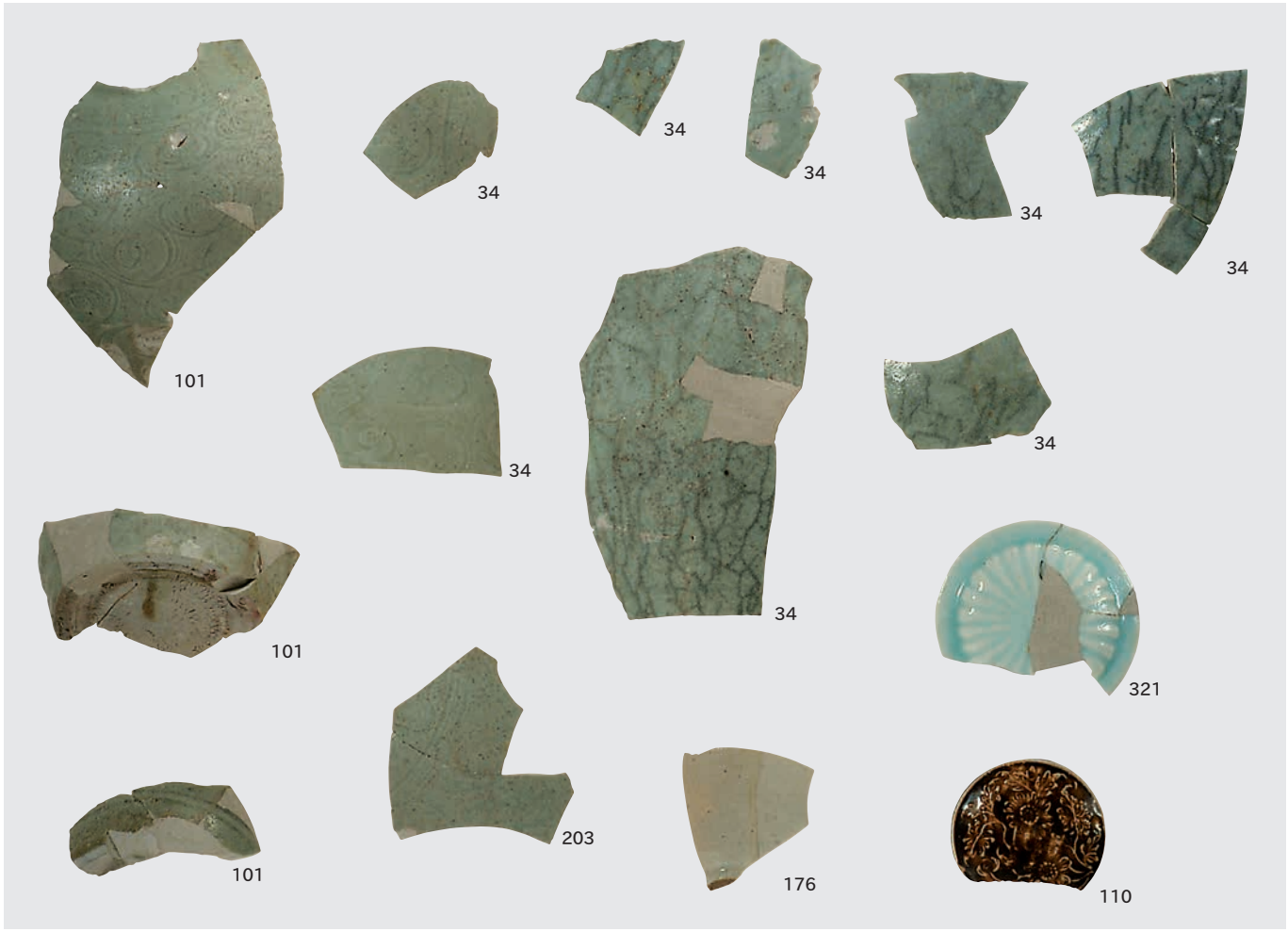
SD2



SD2

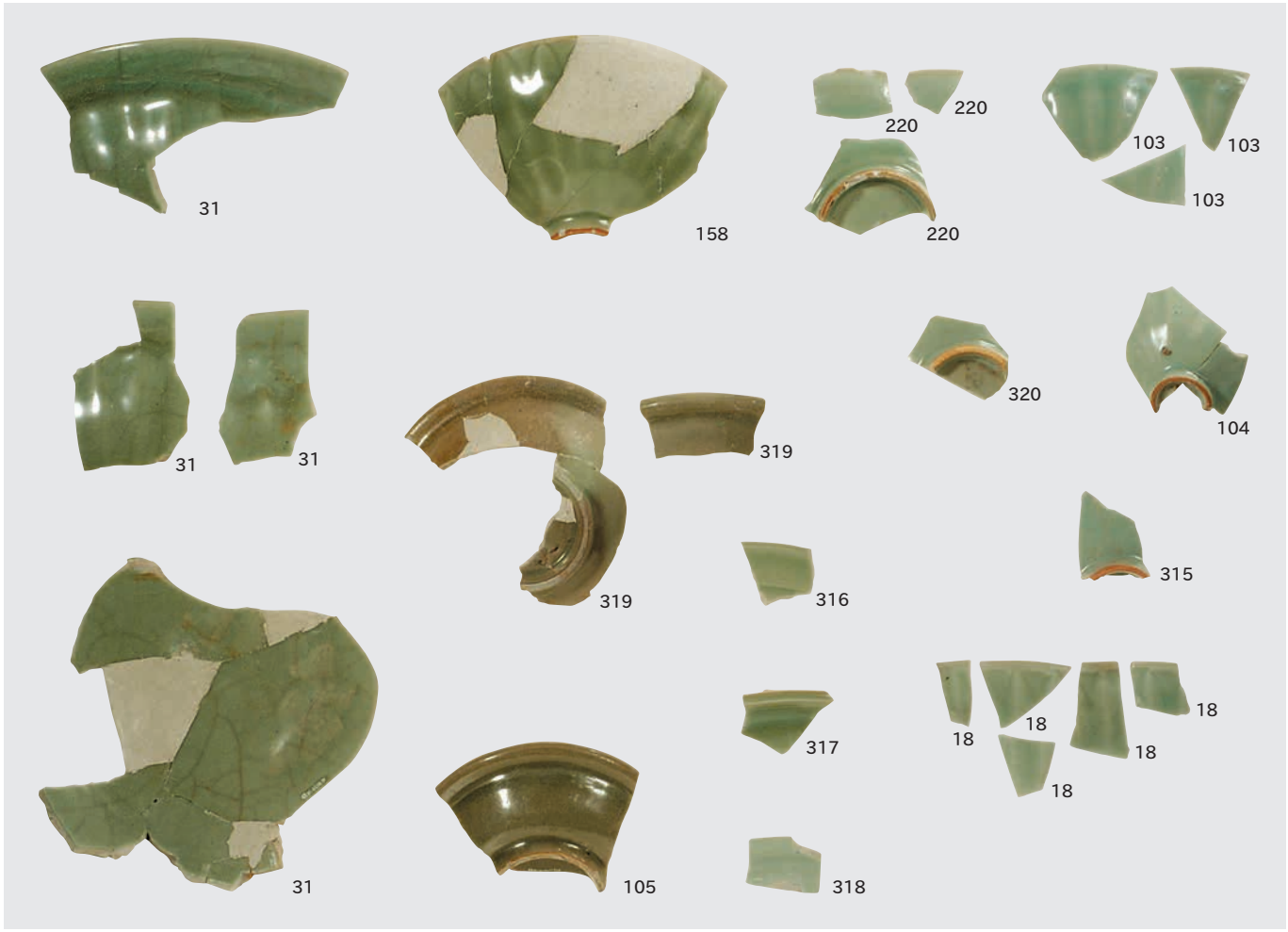
SD2

SD2

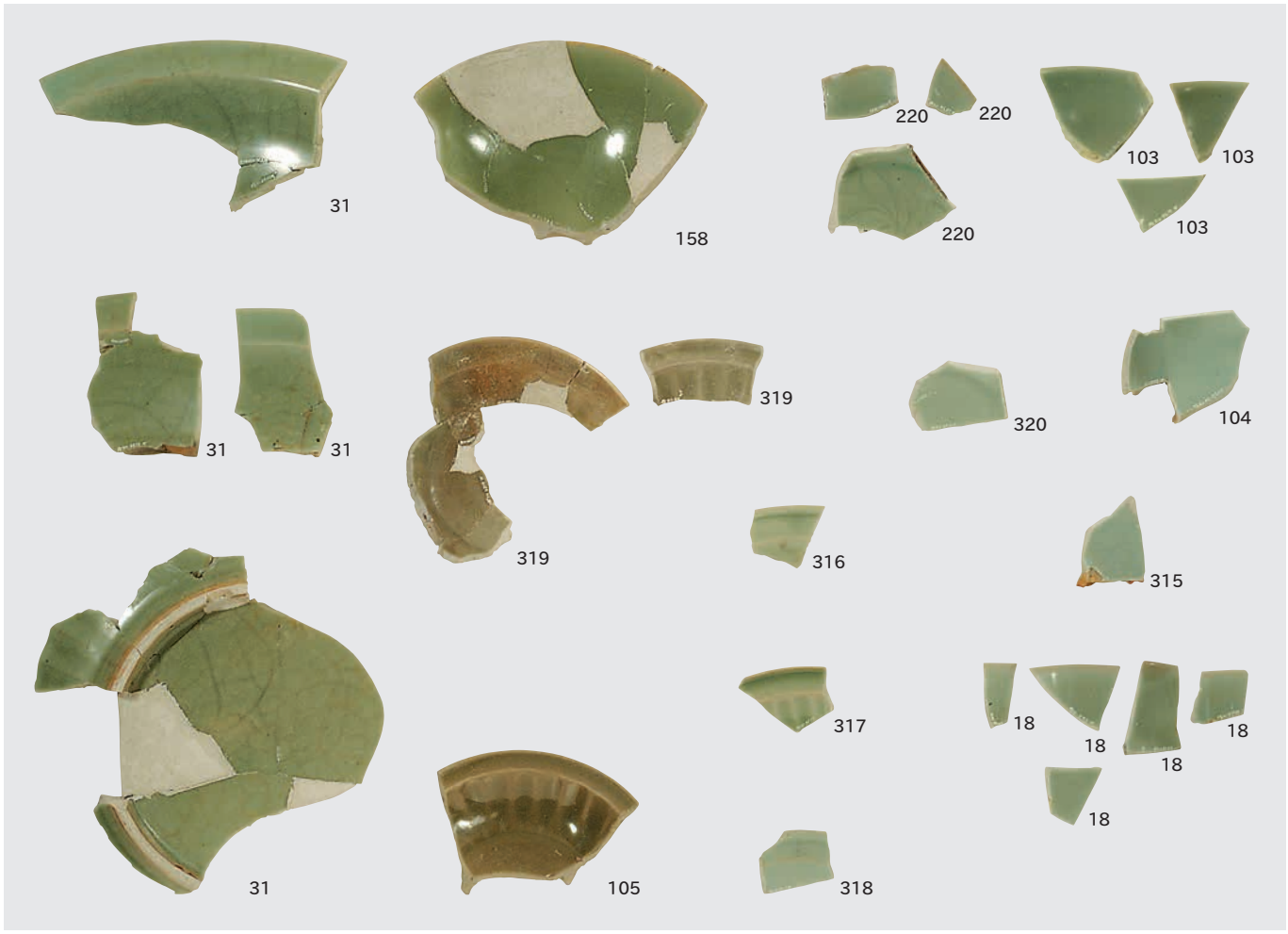


青白磁・梅瓶・小椀・蓋・褐釉蓋

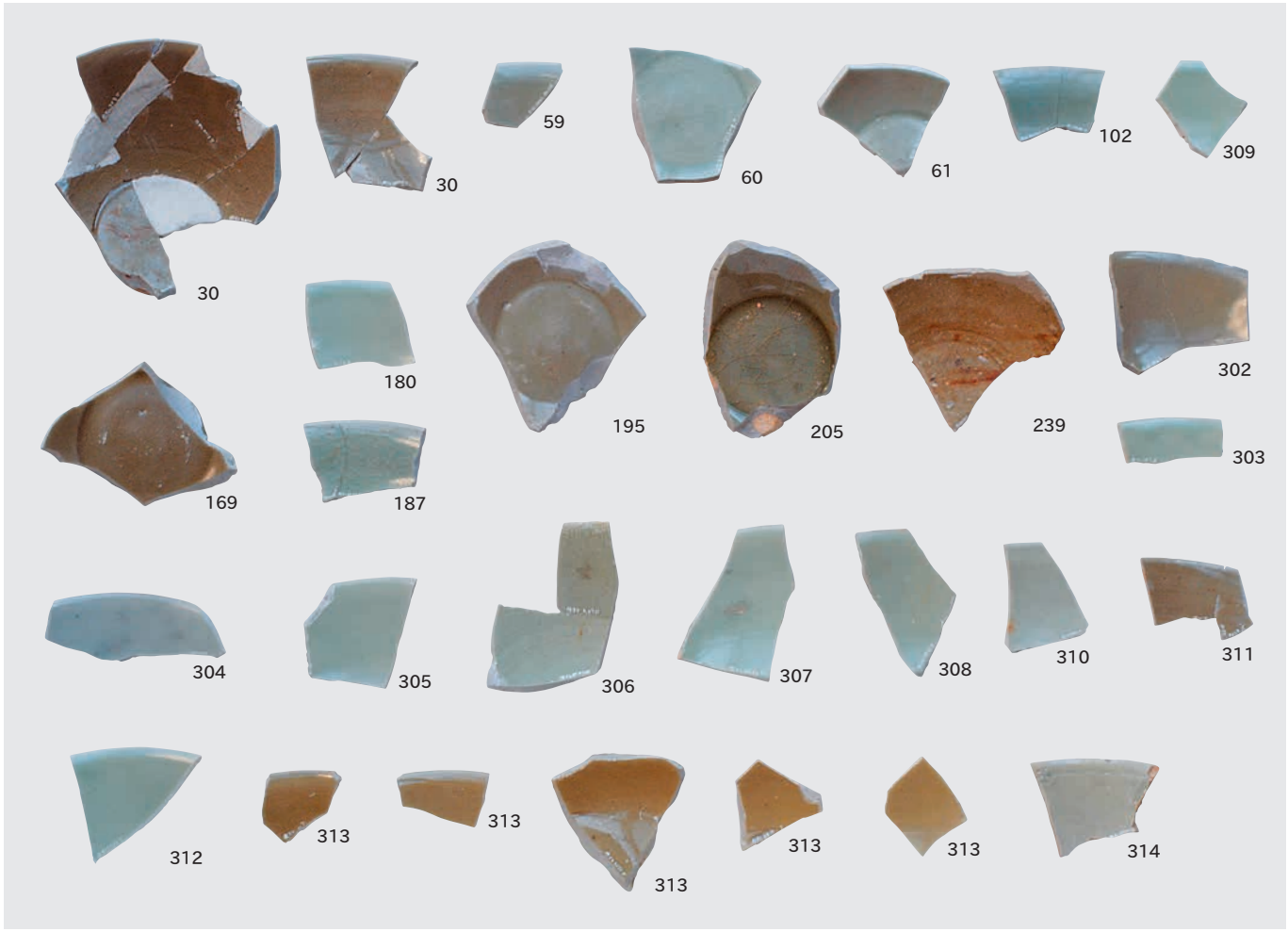
青磁椀


31
158
220
220
220
103
103
103
31
31
320
104
319
319
315
316
18
18
18
18
18
317
31
105
318

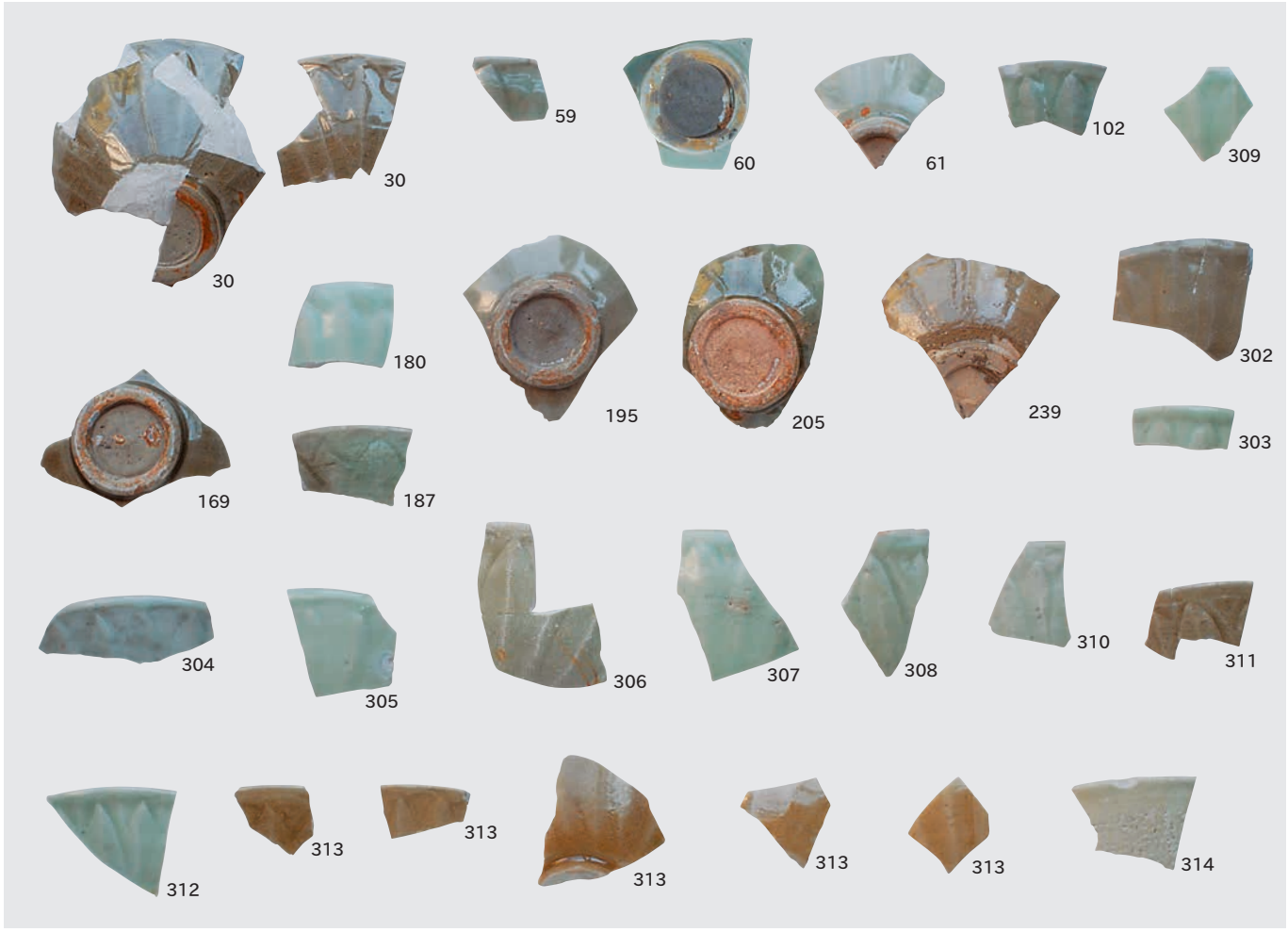
青磁盤・杯・椀


31
158
220
220
220
103
103
103
31
31
320
104
319
319
315
316
18
18
18
18
18
317
31
105
318

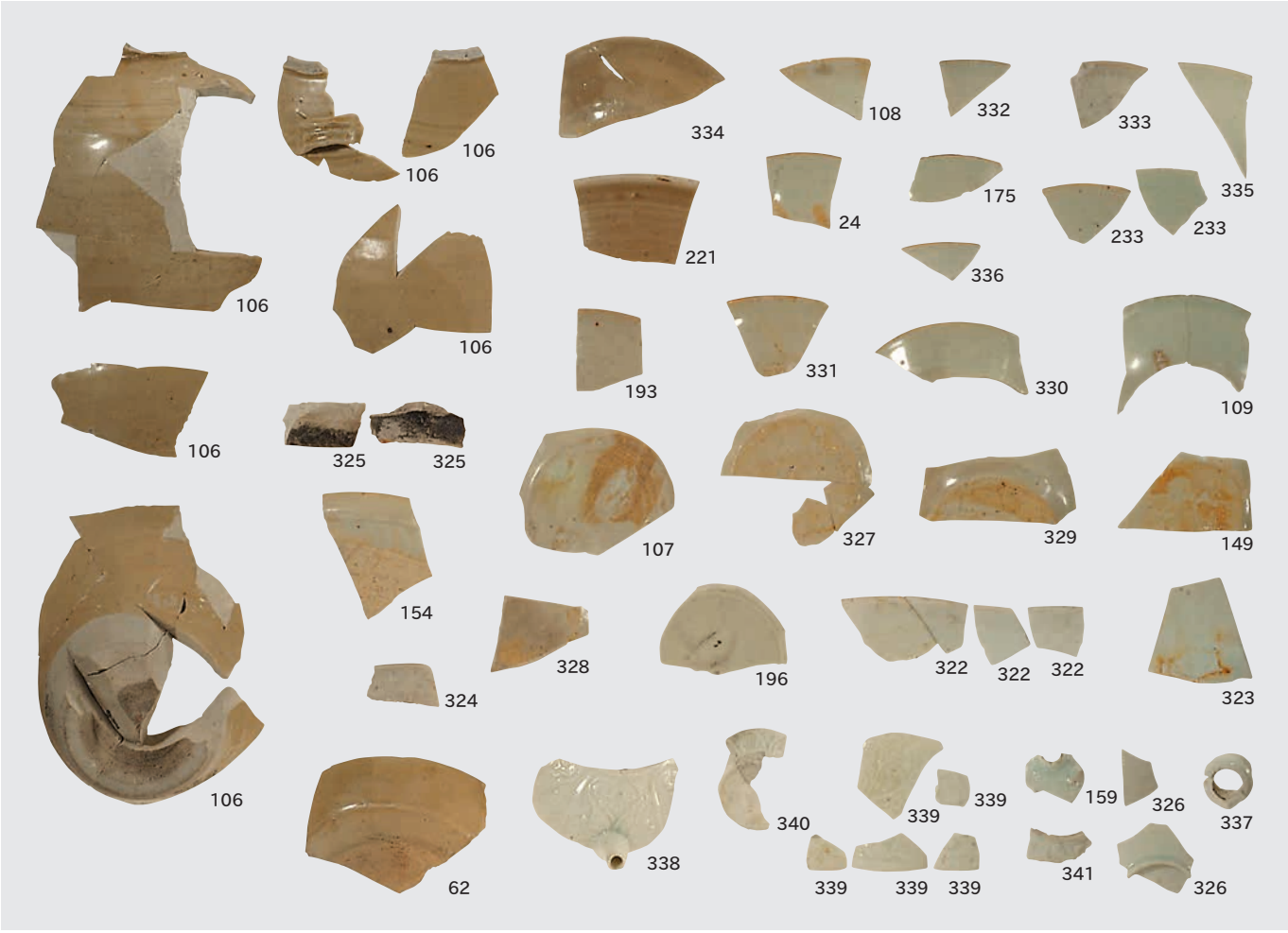
同上


30
30
59
60
61
102
309
180
195
205
239
302
169
187
303
304
305
306
307
308
310
311
312
313
313
313
313
313
314

青磁椀


30
30
59
60
61
102
309
180
195
205
239
302
169
187
303
304
305
306
307
308
310
311
312
313
313
313
313
313
314

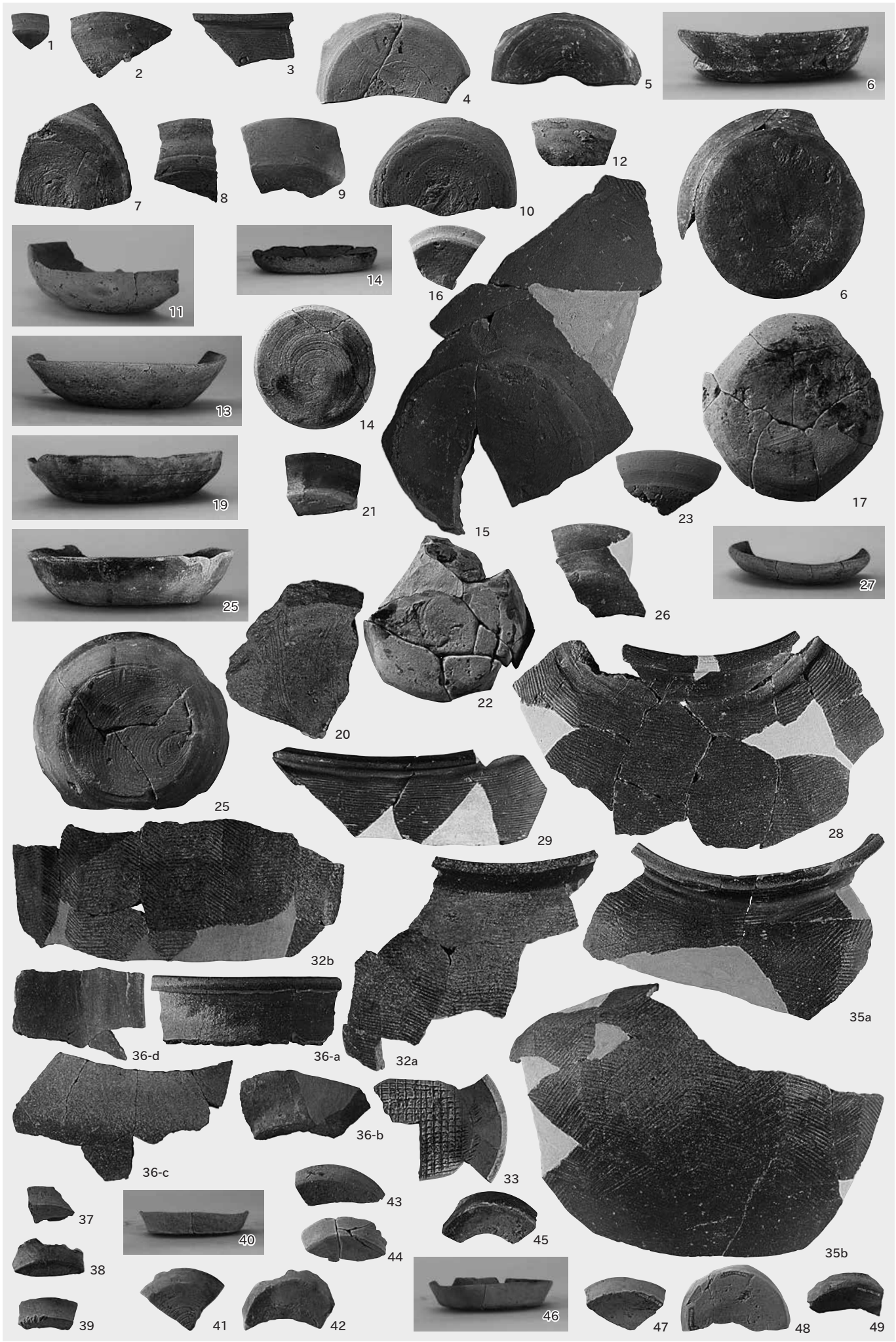
同上


106
106
106
106
106
334
108
332
333
335
24
175
233
233
221
336
193
331
330
109
325
325
107
327
329
149
154
328
196
322
322
322
323
324
106
340
339
339
159
326
337
62
338
339
339
339
341
326

白磁壺・皿・他

106
106
106
106
106
334
108
332
333
335
24
175
233
233
221
336
193
331
330
109
325
325
107
327
329
149
154
328
196
322
322
322
323
324
106
340
339
339
159
326
337
62
338
339
339
339
341
326

同上


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
12
11
14
16
6
13
14
15
17
19
21
23
25
26
27
20
22
25
29
28
32b
35a
36-d
36-a
32a
36-b
36-c
33
37
40
43
45
35b
38
44
39
41
42
46
47
48
49

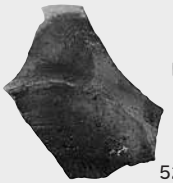
50

54

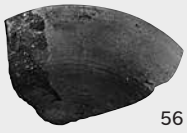
55

58

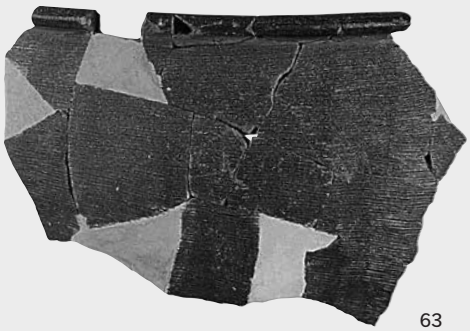
51

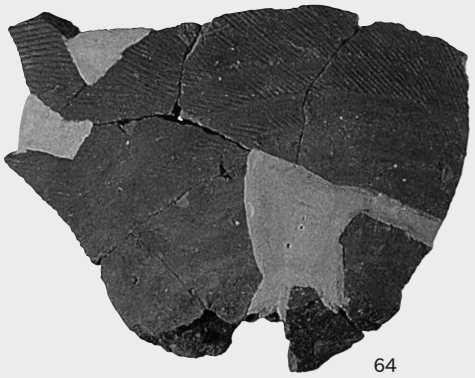

52

53

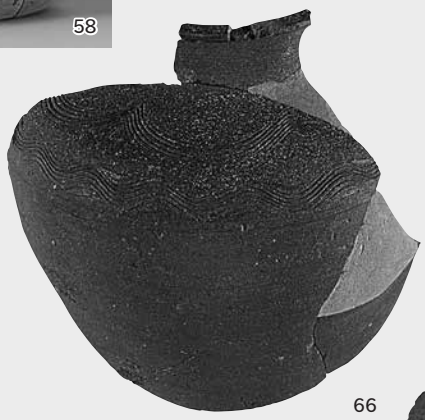

56

57

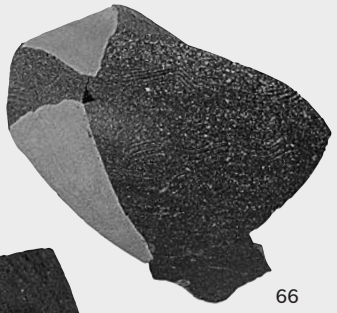

63


64

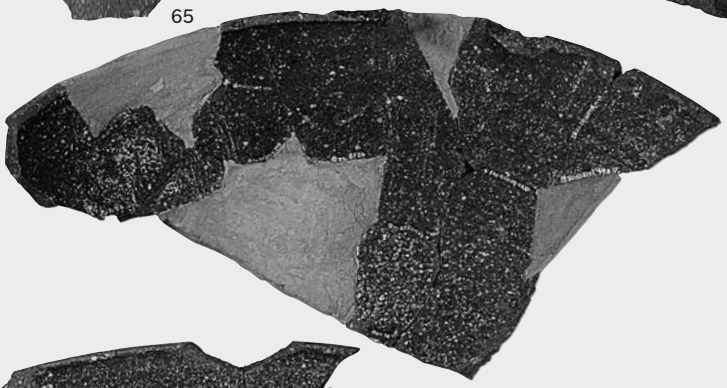
65


66

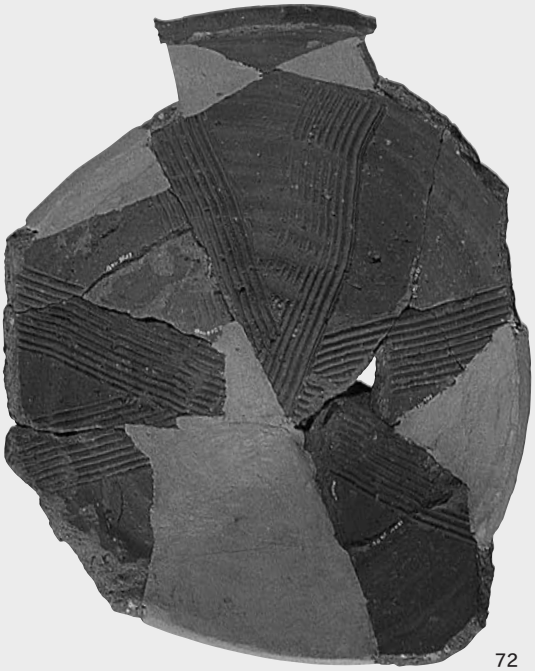
66

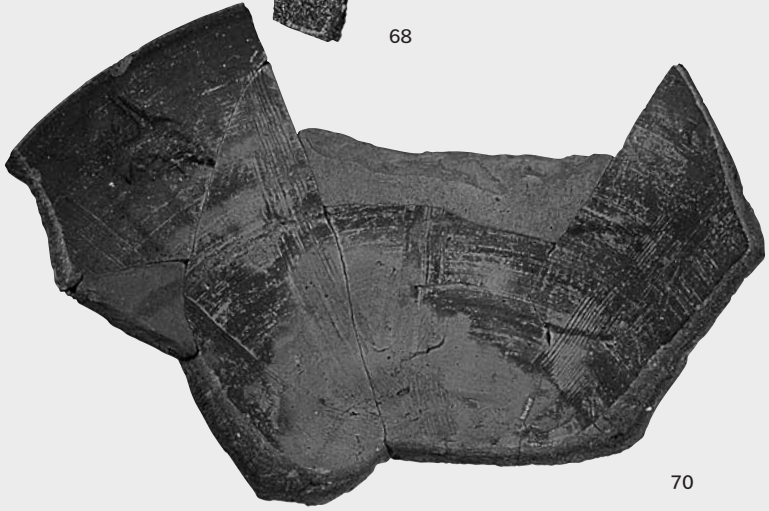

66

67



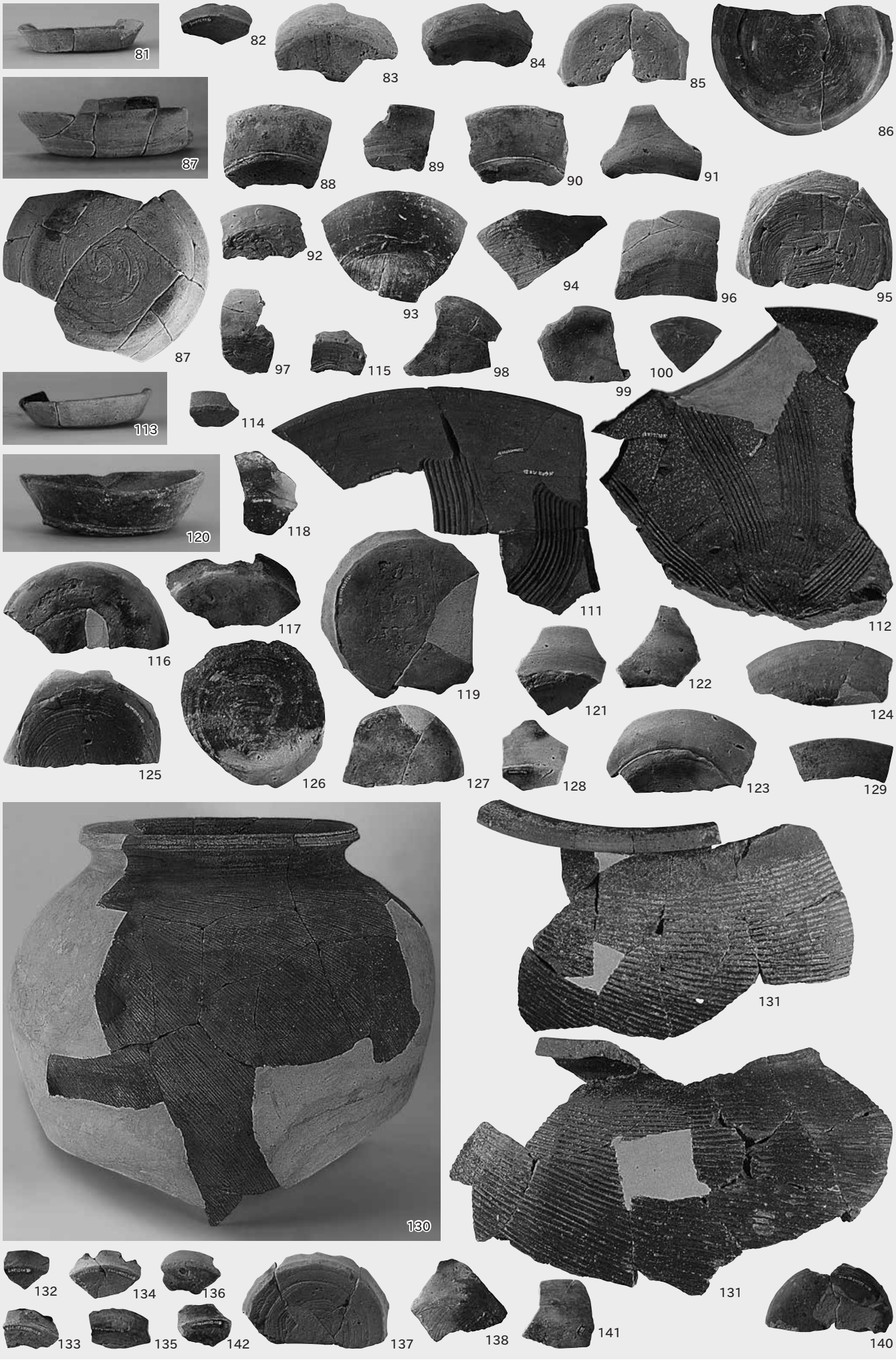
68

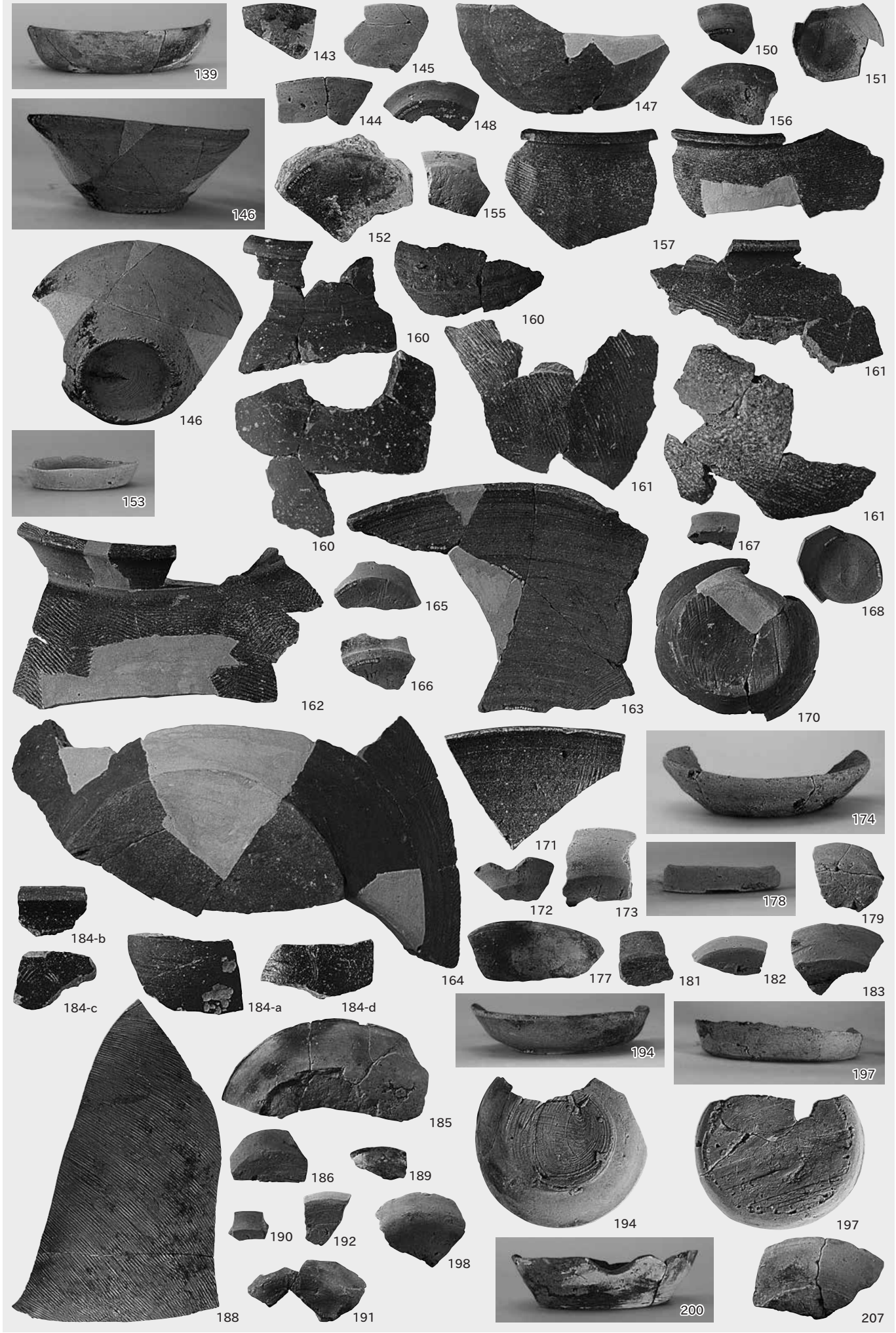

72

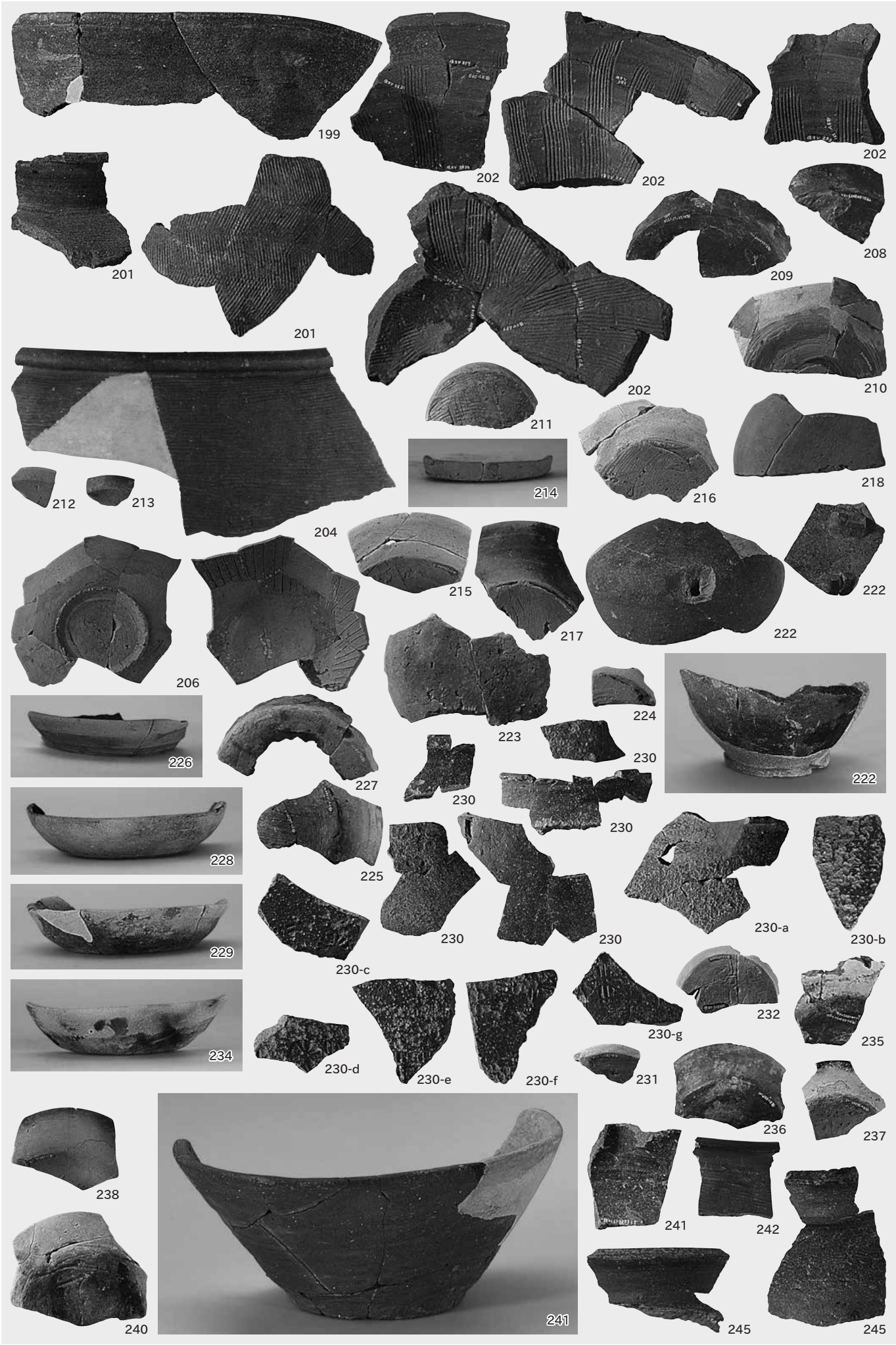

70

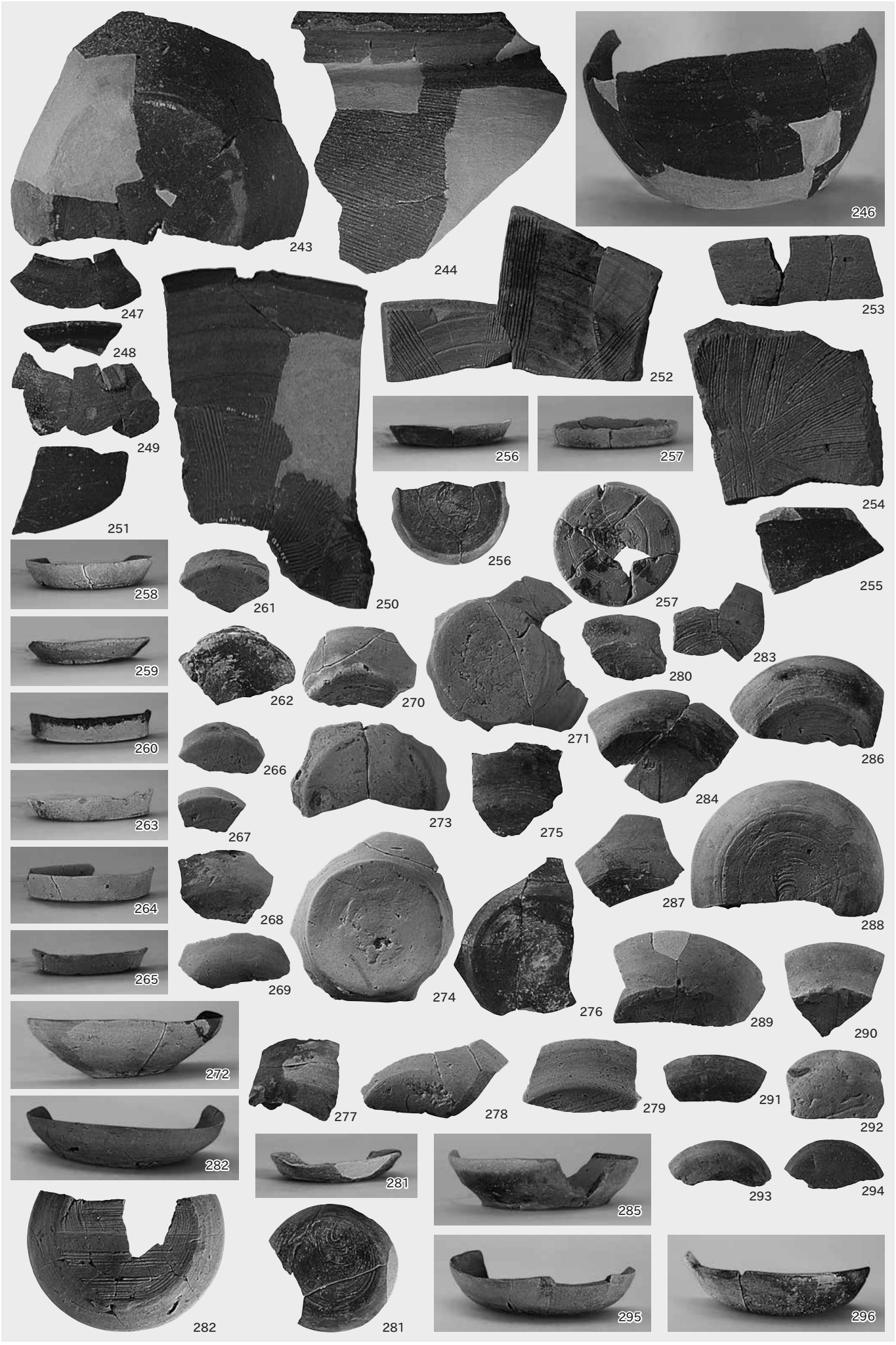
72

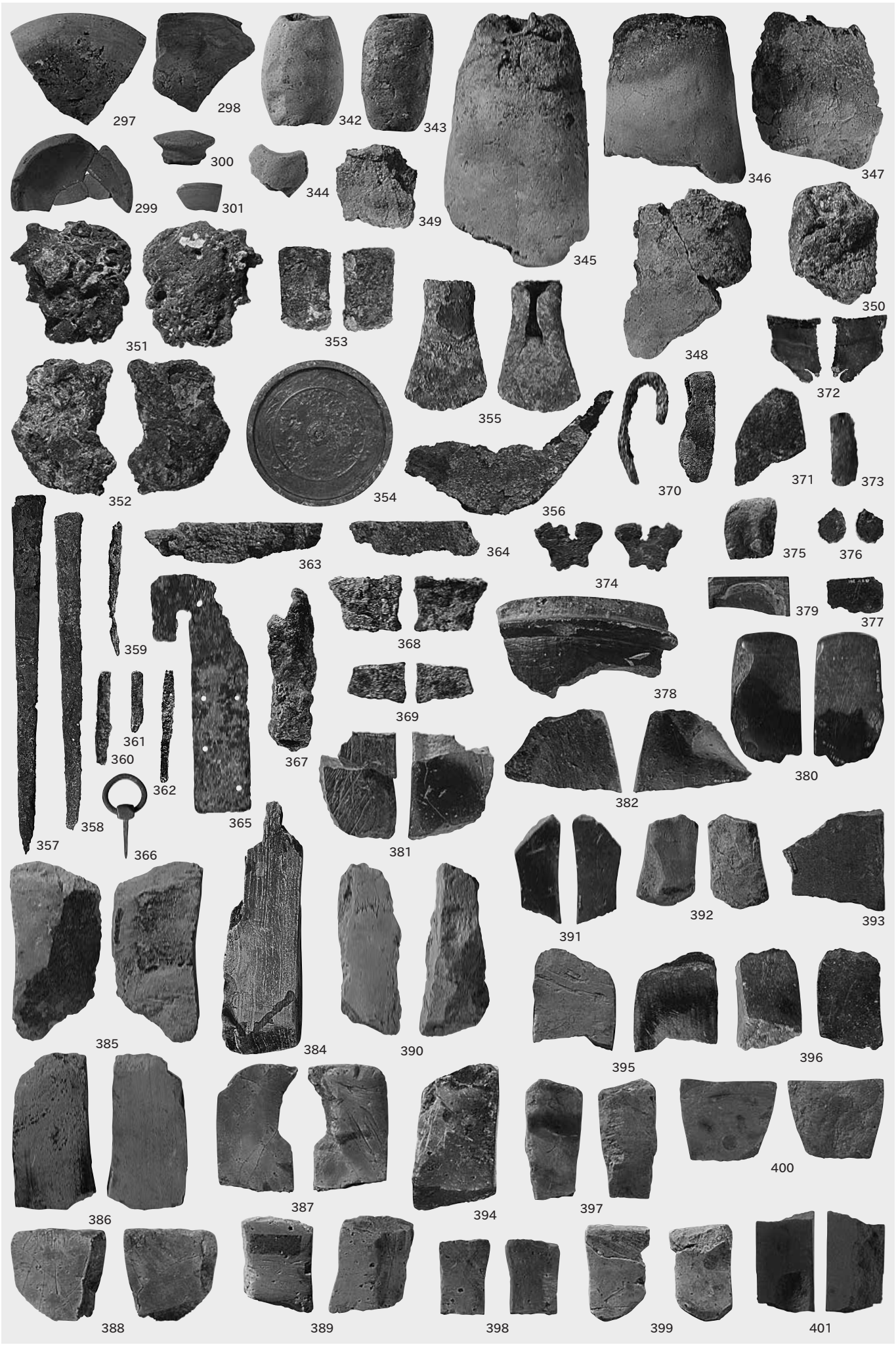
69
73
74
77
76
78
79
80
71
75
75

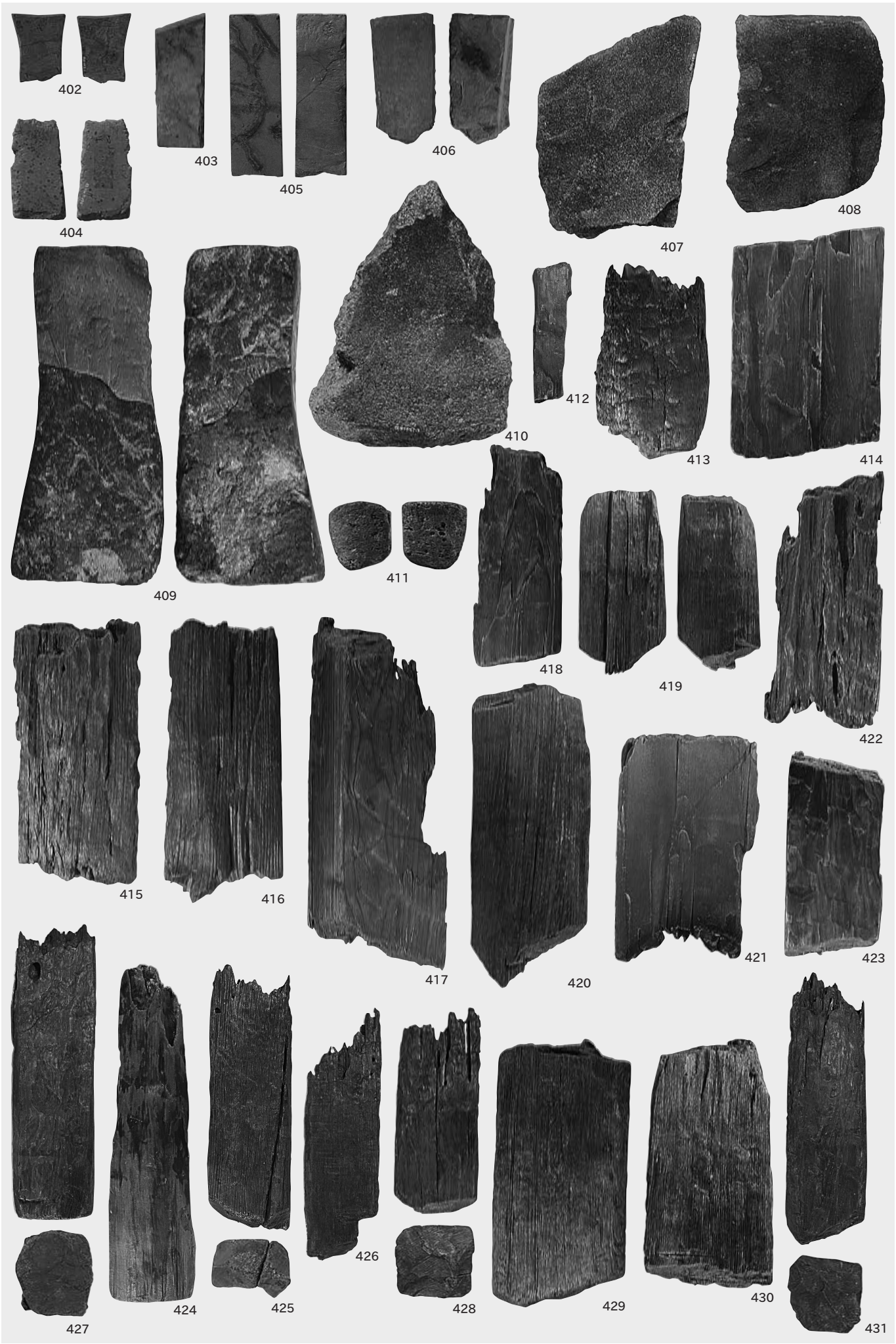

81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
96
95
87
97
115
98
99
100
113
114
118
120
111
112
116
117
119
121
122
124
125
126
127
128
123
129
130
131
131
132
134
136
133
135
142
137
138
141
140

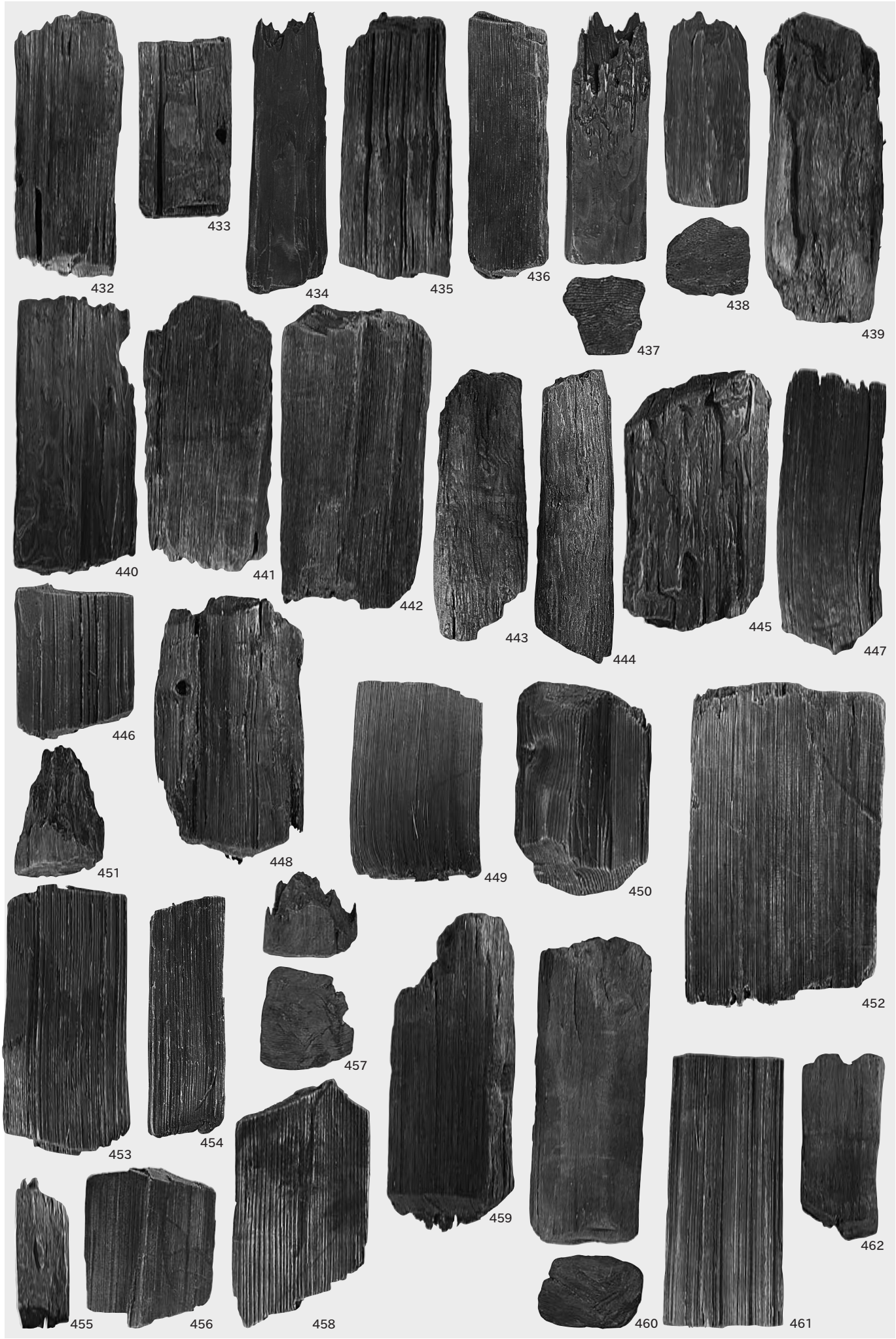

139
143
145
147
150
151
144
148
156
146
152
155
157
160
160
161
146
161
153
161
160
167
165
168
162
166
163
170
174
171
172
173
178
179
184-b
164
177
181
182
183
184-c
184-a
184-d
194
197
185
186
189
194
197
190
192
198
188
191
200
207

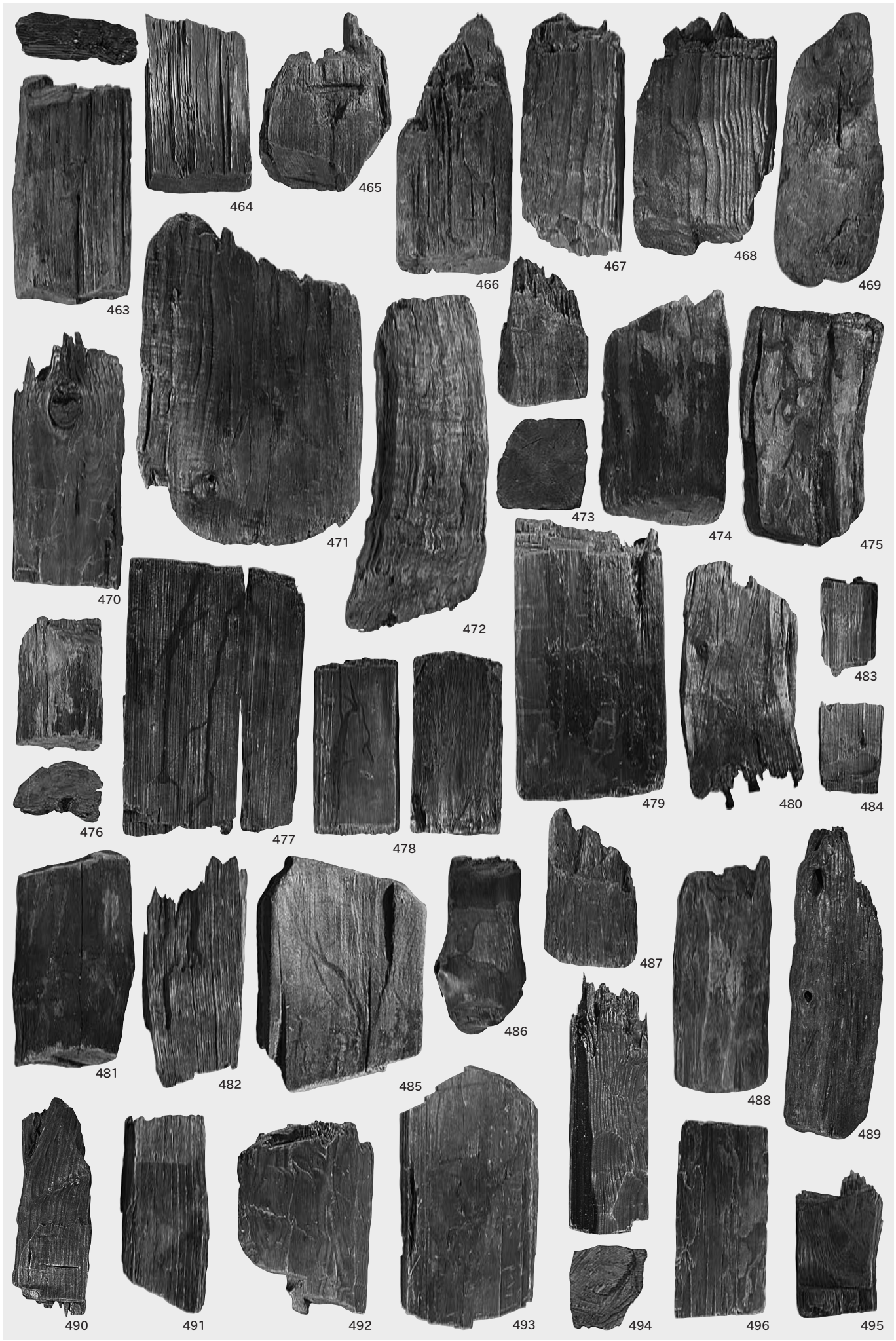

199
202
202
202
201
201
208
209
202
210
211
212
213
214
216
218
204
215
217
222
222
206
223
224
226
227
230
222
230
228
225
230
230
230-a
230-b
229
230-c
230
230
232
235
234
230-d
230-e
230-f
230-g
231
236
237
238
241
242
240
241
245
245

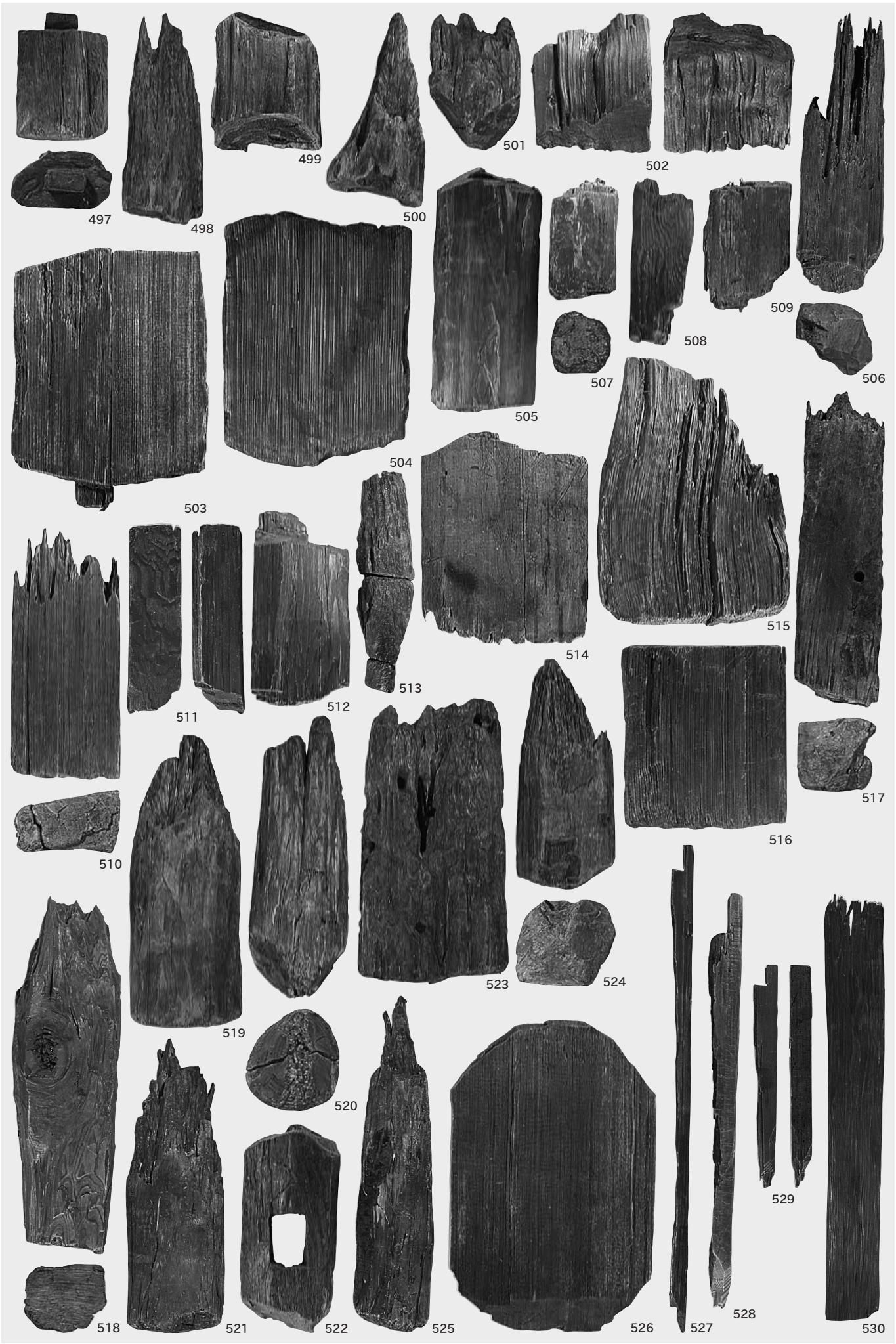

243
244
246
247
248
249
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296


297
298
342
343
346
347
299
300
301
344
349
345
348
350
351
353
355
372
352
354
356
370
371
373
363
364
374
375
376
359
368
379
377
378
369
361
360
362
367
380
382
358
357
366
365
381
391
392
393
385
384
390
395
396
386
387
394
397
400
388
389
398
399
401

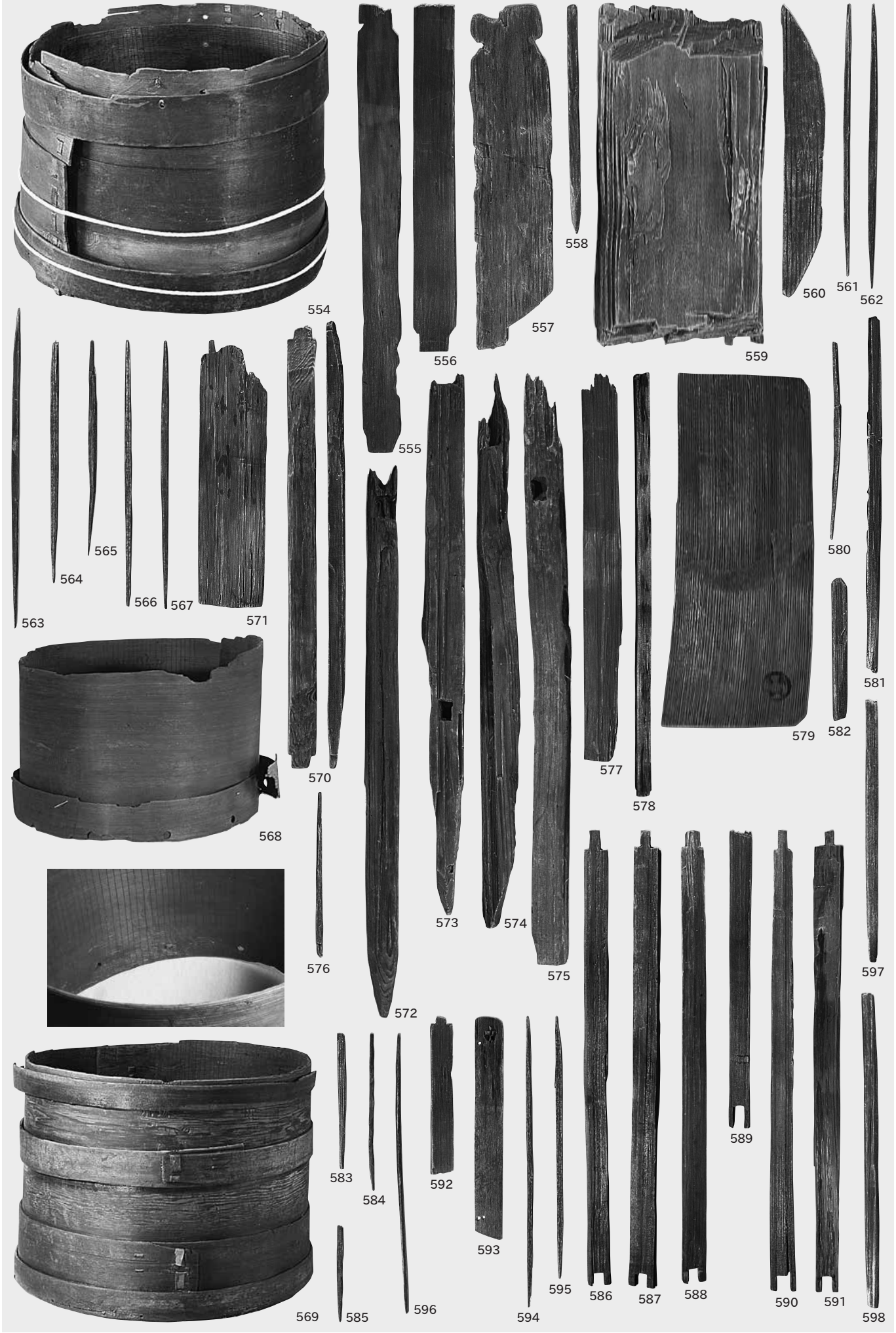

402
403
405
406
404
407
408
409
410
412
413
414
411
418
419
422
415
416
417
420
421
423
427
424
425
426
428
429
430
431

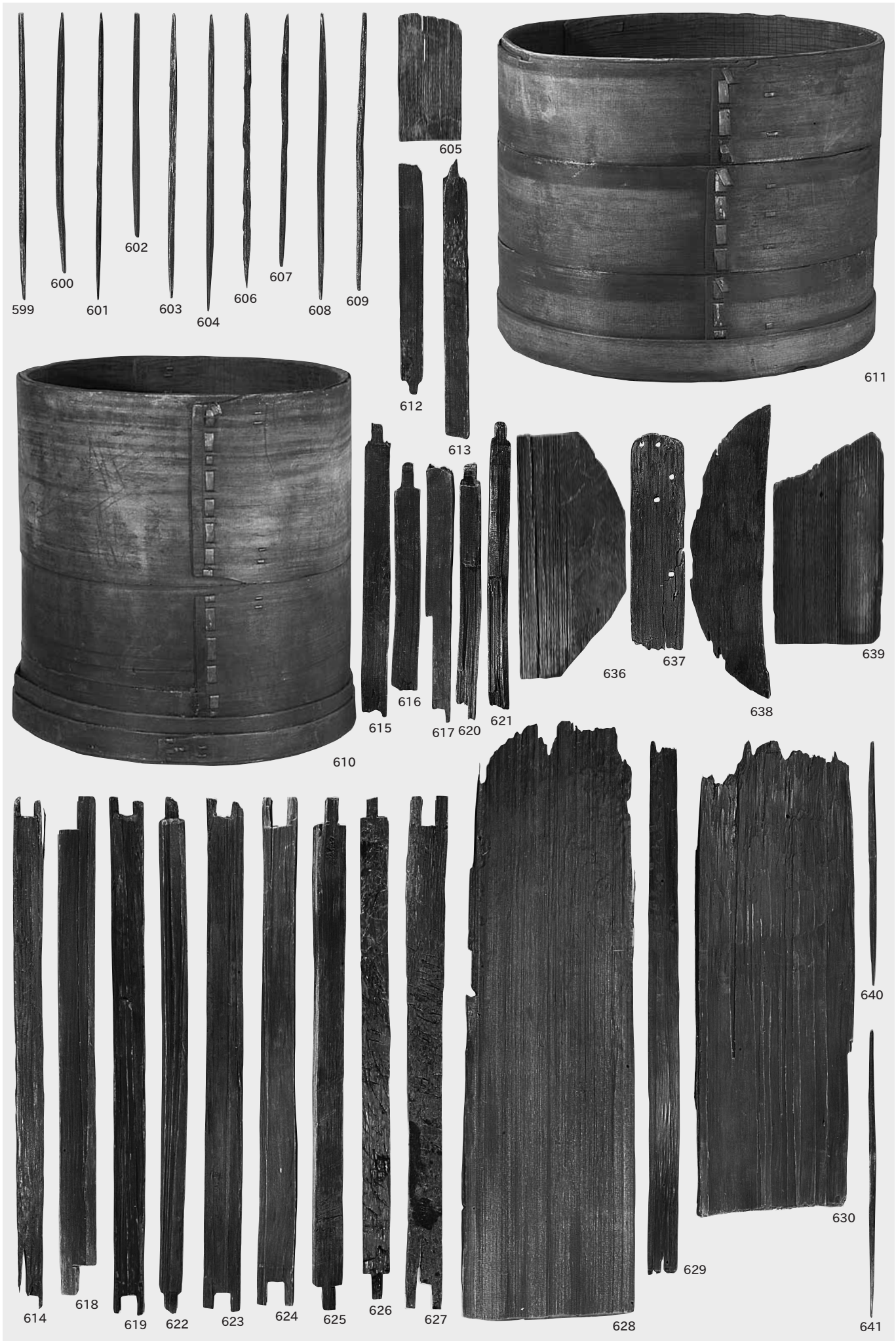

432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462

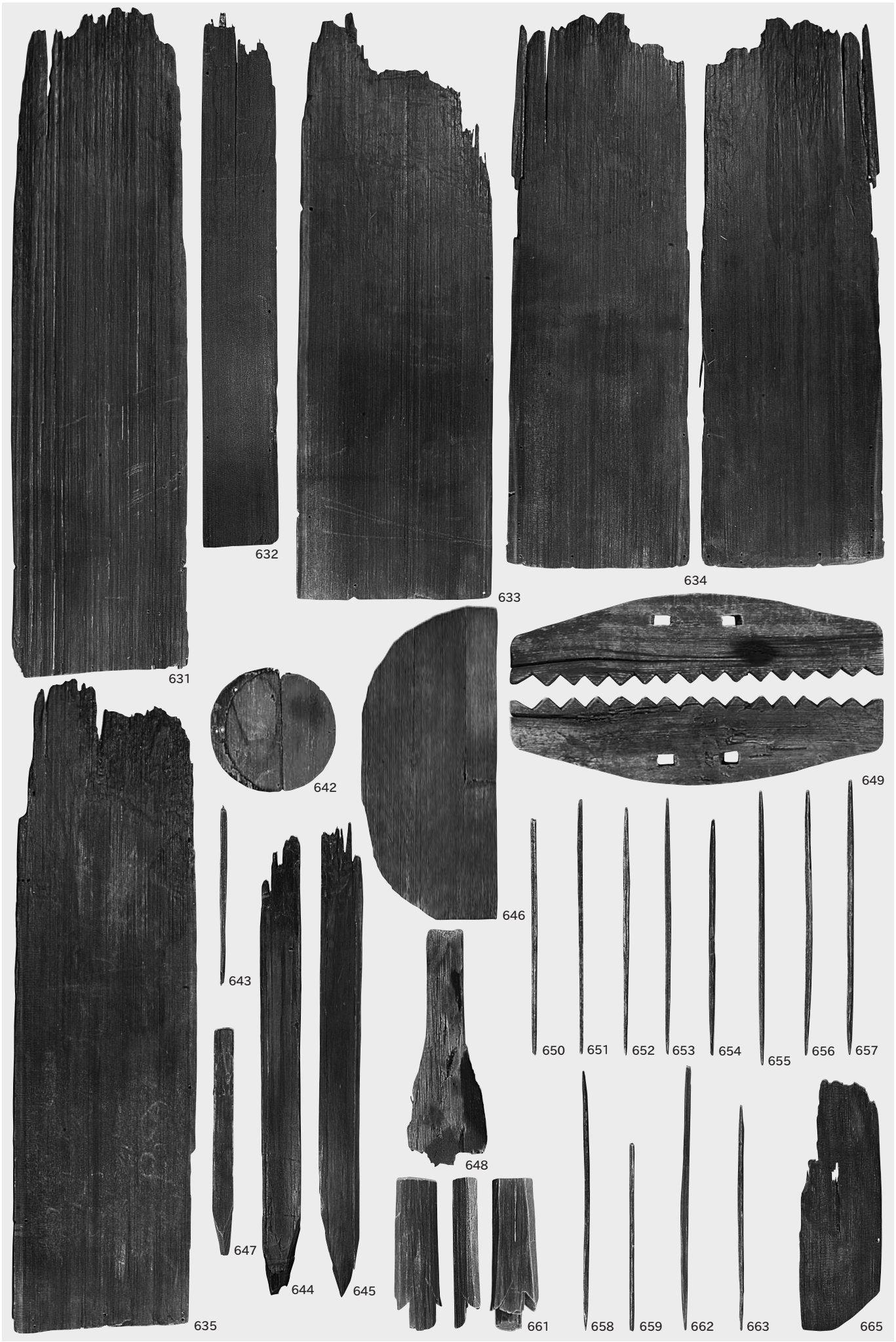

463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
483
484
481
482
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
496
495


497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530

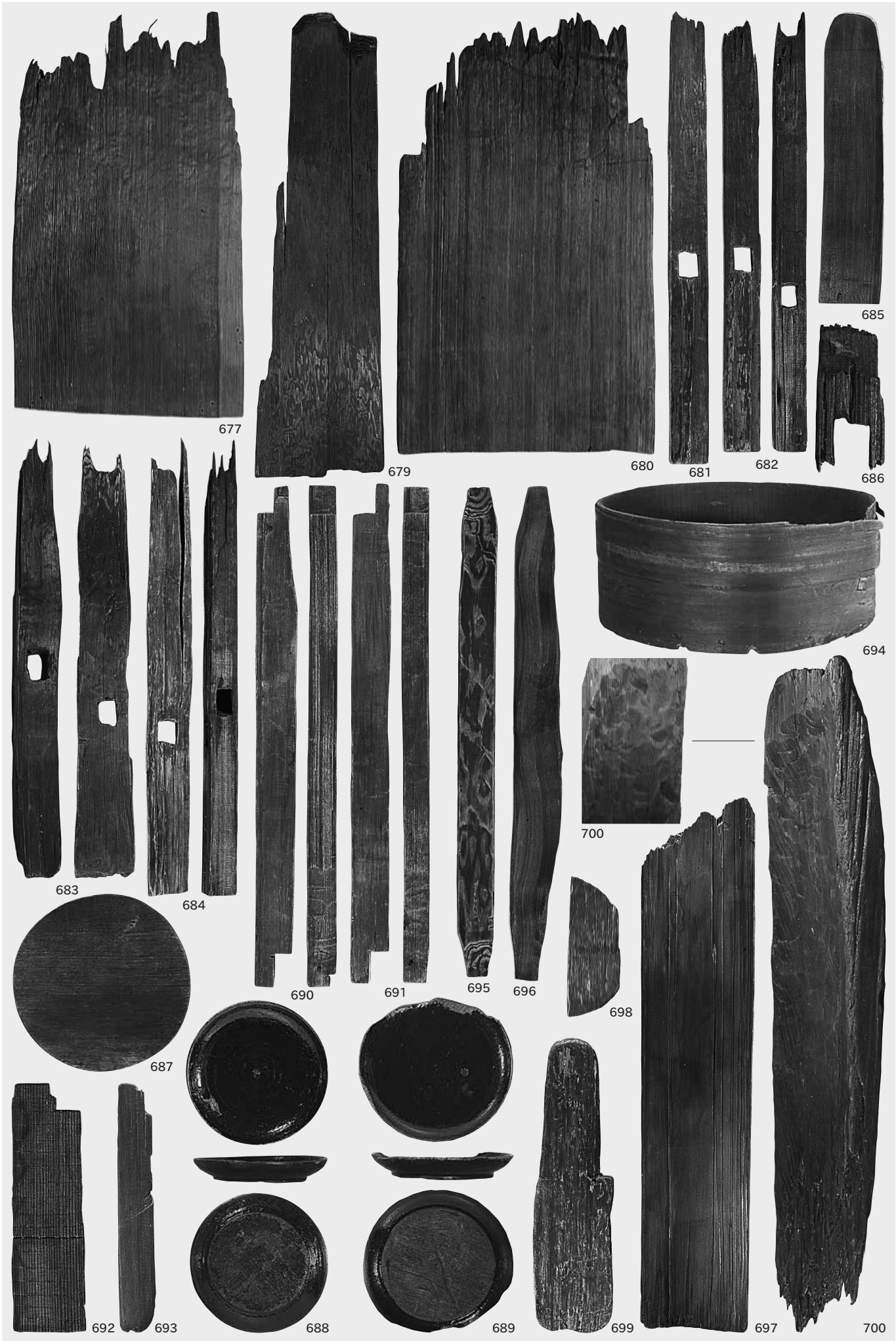
531
532
533
534
535
536
537
538
539
542
540
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
541
553


554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
571
570
568
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
597
583
584
592
593
594
595
586
587
588
589
590
591
598
569
585
596

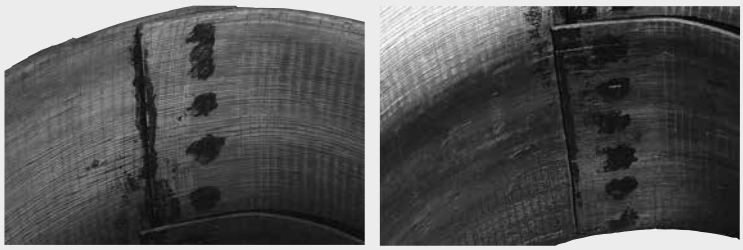

599
600
601
602
603
604
606
607
608
609
605
612
613
611
610
615
616
617
620
621
636
637
638
639
614
618
619
622
623
624
625
626
627
628
629
630
640
641


631
632
633
634
635
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
661
662
663
665

660
664
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
678


677
679
680
681
682
685
686
683
684
690
691
695
696
694
700
698
687
692
693
688
689
699
697
700

701
702
707
713
721
719
703
704
705
706
708
714
715
716
717
718
709
710
711
712
720
723
726
727
728
729
730



722

722

724

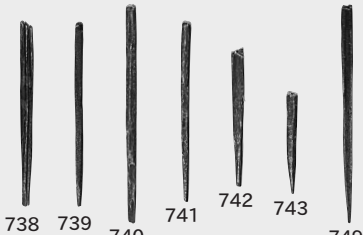
725

731

732 733 734

736

737



738 739 740 741 742 743 749

747

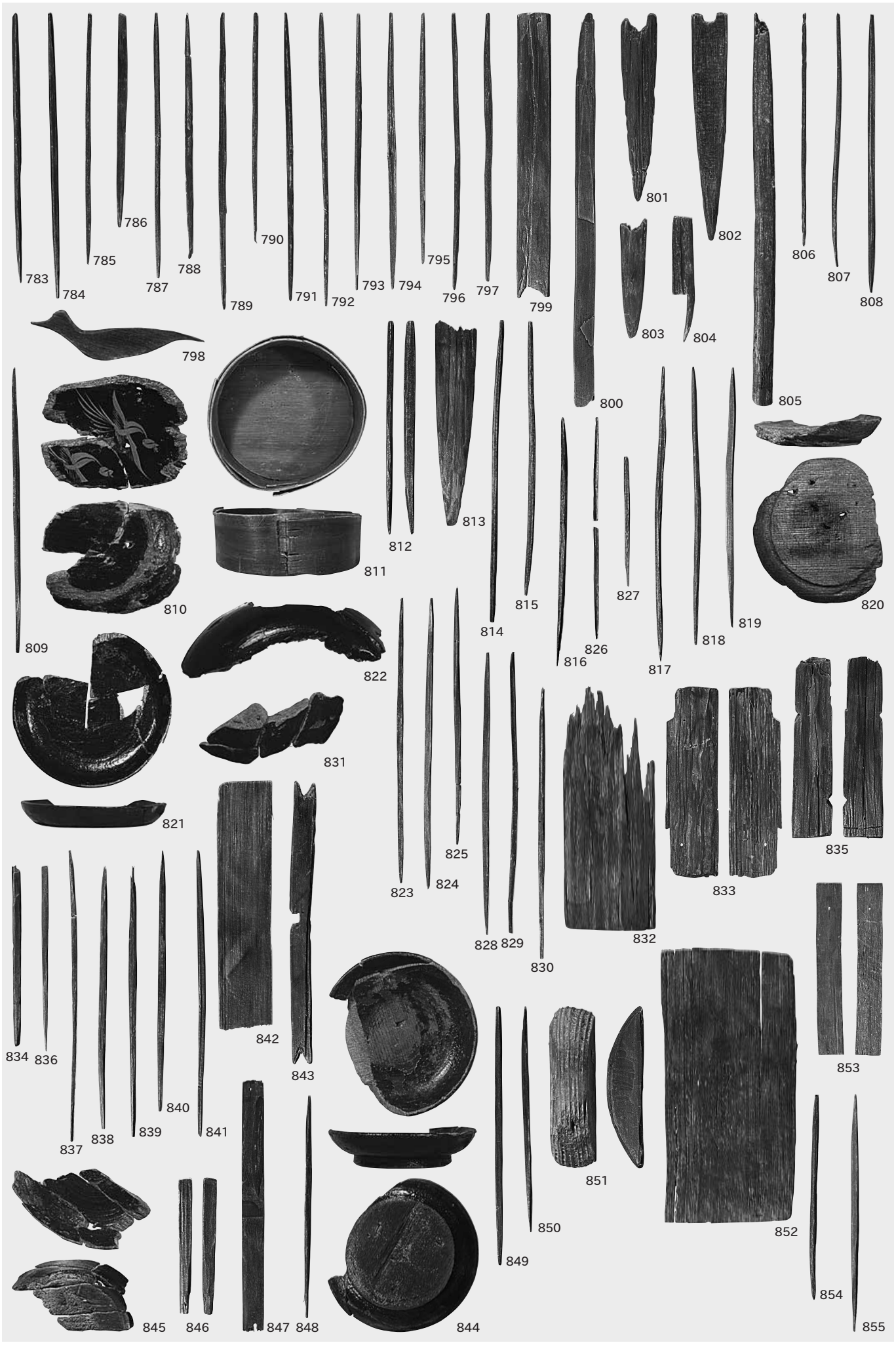
735

744

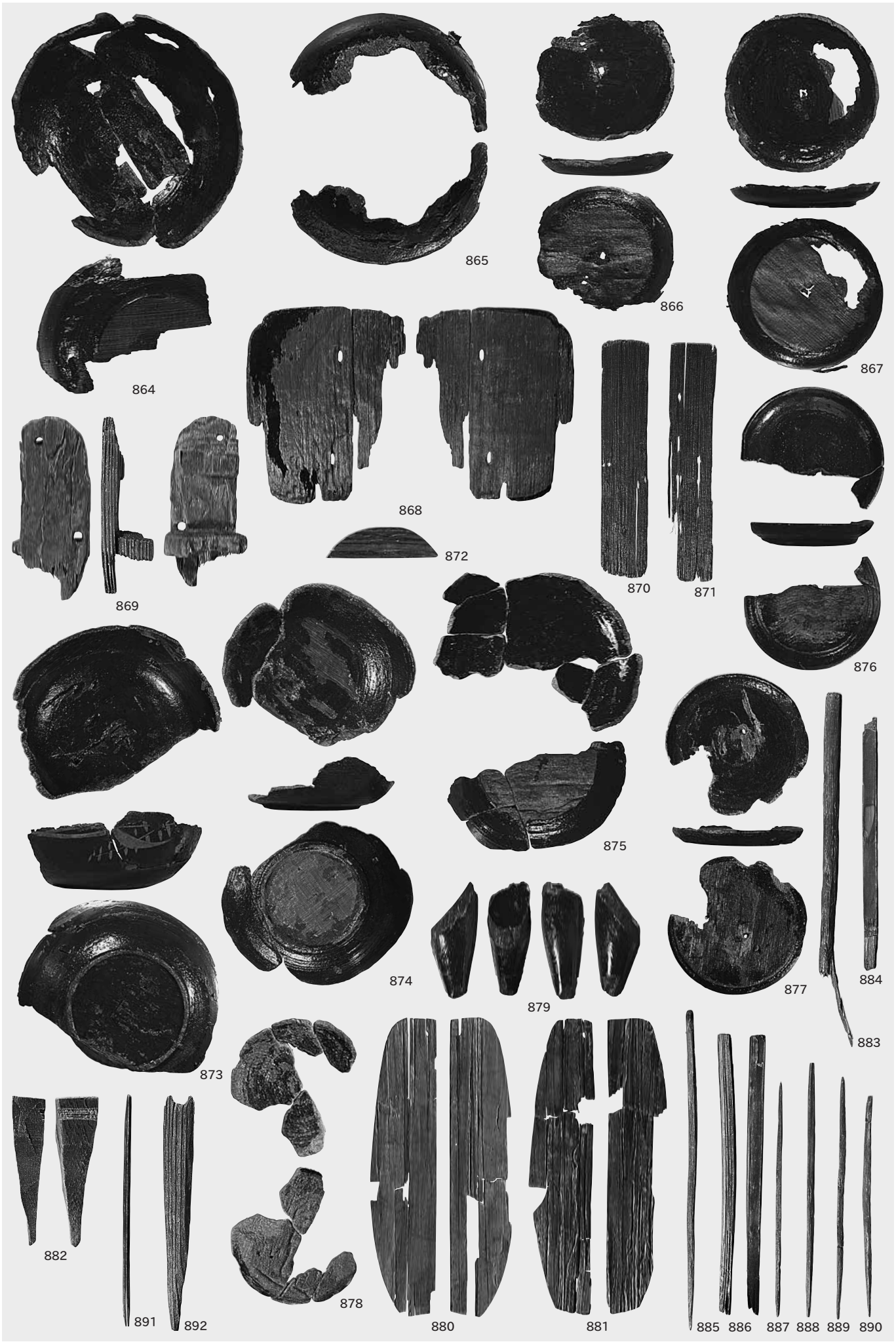
745

746

748
750
751
754
752
753
755
756
759
760
775
761
762
757
758
763
764
771
765
766
768
769
767
770
742
772
773
776
777
782
781
780
774
778
779


783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855

856
857
858
859
860
861
862
863


865
866
867
864
868
872
869
870
871
876
875
874
879
877
884
873
883
882
878
880
881
885
886
887
888
889
890
891
892

893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935

報 告 書 抄 録

ふ り が な	すみよしいせき
書　　名	住吉遺跡
副 書 名	日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書
巻　　次	Ⅻ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第157集
編 著 者 名	高橋　保（埋文事業団）　新山雅広・藤根　久・鈴木　茂・植田弥生（以上パレオ・ラボ） 大澤正己・鈴木瑞穂（以上九州テクノリサーチ）　光谷拓実（奈良文化財研究所）
編 集 機 関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所 在 地	〒956-0845　新潟県新潟市金津93番地1　　TEL 0250（25）3981
発行年月日	2006（平成18）年1月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
住吉遺跡（すみよしいせき）	新潟県新発田市中島字住吉81他（にいがたけんしばたしなかじまあざすみよしほか）	15206	580	38度 00分 04秒 （新座標）	139度 20分 20秒 （新座標）	19970408～ 19970411 19980416～ 19981211 19990412～ 19990831	8,150	日本海沿岸東北自動車道建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
住吉遺跡	集落跡	中世（13世紀～14世紀前半）	掘立柱建物23、井戸37、土坑55、溝40以上、墓1、ピット多数	珠州焼、中世土師器、輸入陶磁器（白磁・青磁・青白磁）、美濃瀬戸、常滑、在地瓷器系陶器、石製品（砥石・硯・温石・石鍋）、木製品（礎板・柱根・曲物・舟・舟形・鳥形・箸状木製品・漆椀皿ほか）、金属製品（和鏡・鉄斧・鎌・刀子・飾り金具ほか）、製鉄関連（鉄滓・羽口）、植物種実（炭化米、モモ、クリ、トチノキほか）	

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第157集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅻ

住 吉 遺 跡

平成18年1月29日印刷
平成18年1月30日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986
URL http://www.maibun.net

印刷・製本　新高速印刷 株式会社
〒950-0963 新潟市南出来島2丁目1番25号
電話　025（285）3311

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第157集　「住吉遺跡」の訂正について

P4　「C調査体制」　二次調査の調査体制を以下に訂正します。

二次調査

	平成10年度	平成11年度
調査期間	4月16日～12月11日	4月12日～8月31日
調査主体	新潟県教育委員会(教育長 野本憲雄)	同左
調査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　野本　憲雄）	同左
総括	須田　益輝（事務局長）	同左
管理	若槻　勝則（総務課長）	同左
庶務	椎谷　久雄（総務課主事）	同左
調査総括	本間　信昭（調査課長）	同左
調査指導	寺崎　裕助（調査第一係長）	同左
調査担当	杉田　健一（同主任調査員）	飯坂　盛泰（同文化財調査員）
調査職員	齋藤　和宏（同主任調査員） 鹿野　弘之（同文化財調査員）	佐藤　敦史（同主任調査員） 鈴木　勉（同主任調査員） 鹿野　弘之（同文化財調査員） 海津　知（同嘱託員） 6月～8月 鈴木　秀人（同主任調査員） 田中　一穂（同嘱託員） 6月～7月 河崎　昭一（同主任調査員） 轡田　克史（同嘱託員）